ATtiny3224/3226/3227

tinyAVR® 2系統

序説

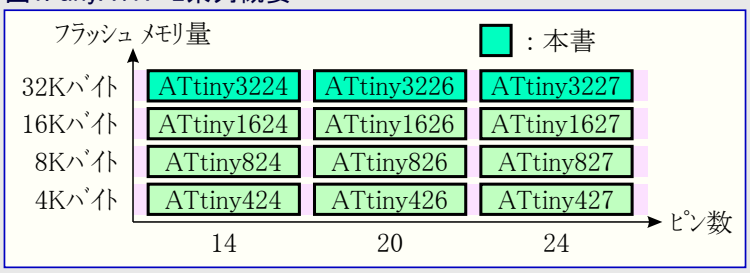
tinyAVR® 2系統のATtiny3224/3226/3227ﾏｲｸﾛ ｺﾝﾄﾛｰﾗは14、20、24ﾋﾟﾝ外囲器で利用可能な32Kﾊﾞｲﾄのﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ、3Kﾊﾞｲﾄの SRAM、256ﾊﾞｲﾄのEEPROMを持ち、20MHzまで動き、ﾊｰﾄﾞｳｪｱ乗算器を持つAVR® CPUを使っています。この系統はは事象ｼｽﾃﾑ、進化したﾃﾞｼﾞﾀﾙ周辺機能、設定可能な利得増幅器(PGA:Progtammable Gain Amplifier)を持つ12ﾋﾞｯﾄ差動ADCのような正確なｱﾅﾛｸﾞ機能を含む柔軟で低電力な基本設計を持つMicrochipの最新技術を使います。

tinyAVR® 2系概要

下図はﾋﾟﾝ数変種とﾒﾓﾘ量で並べてtinyAVR® 2系ﾃﾞﾊﾞｲｽを示します。

- これらのﾃﾞﾊﾞｲｽが完全なﾋﾟﾝと機能の互換のため、垂直方向移植はｺｰﾄﾞ変更なしで可能です。
- 左への水平方向移植はﾋﾟﾝ数、従って利用可能な機能を減らします。

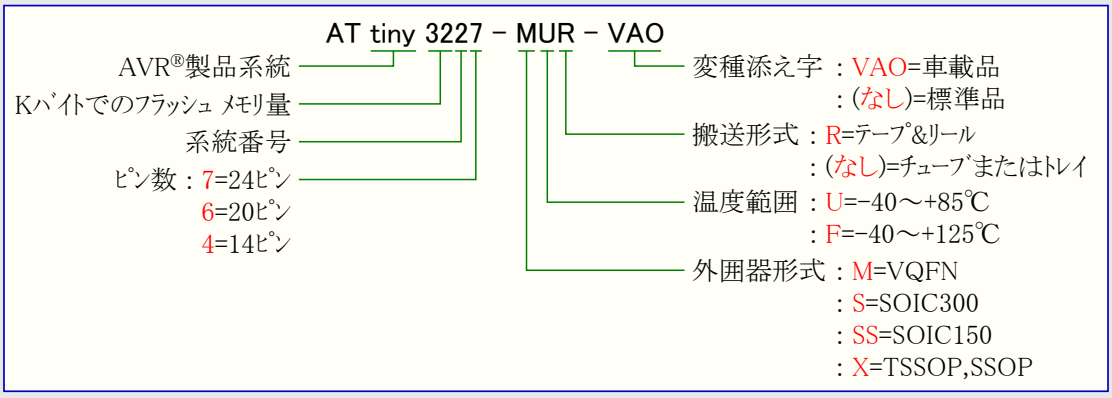
図1. tinyAVR® 2系列概要



異なるﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ量を持つﾃﾞﾊﾞｲｽは一般的に異なるSRAMとEEPROMの量も持ちます。

tinyAVR® 2系のﾃﾞﾊﾞｲｽの名前は次のように復号されます。

図2. tinyAVR® 2系ﾃﾞﾊﾞｲｽ呼称



注: ﾃｰﾌﾟとﾘｰﾙの識別子は目録部品番号記述でだけ現れます。注文目的にはこの識別子を使ってください。ﾃｰﾌﾟとﾘｰﾙ任意選択での外囲器入手可能性についてはMicrochip営業所で調べてください。

注: VAO変種は車載応用に対するAEC-Q100要件によって設計、製造、検査、認定されています。これらの製品は非VAO部品と違う外囲器を使うかもしれず、それらの電気的特性で追加仕様を持ちます。

(訳注) ・本書はATtiny3224/3226/3227ｼﾘｺﾝ障害とﾃﾞｰﾀｼｰﾄ説明(DS40002342B)の内容を含みます。
・原書に対して断りなく最新情報に更新している場合があります。

本書は一般の方々の便宜のため有志により作成されたもので、Microchip社とは無関係であることを御承知ください。しおりの[はじめに]での内容にご注意ください。

© 2021 Microchip Technology Inc.とその子会社

メモリ概要

下表は系統全体のメモリ概要を示しますが、この先の文書はATtiny3224/3226/3227デバイスだけを記述します。

表1. メモリ概要

メモリ形式	ATtiny424/426/427	ATtiny824/826/827	ATtiny1624/1626/1627	ATtiny3224/3226/3227
フラッシュ メモリ	4Kバイト	8Kバイト	16Kバイト	32Kバイト
SRAM	512バイト	1Kバイト	2Kバイト	3Kバイト
EEPROM	128バイト		256バイト	
使用者列	32バイト			

周辺機能概要

表2. 周辺機能概要

機能項目	ATtiny3224	ATtiny3226	ATtiny3227
ピン数	14	20	24
外囲器	SOIC,TSSOP	SOIC,SSOP,VQFN	VQFN
最大動作周波数 (MHz)	20		
汎用入出力数	12	18	20
ポート	PA7～0、PB3～0	PA7～0、PB5～0、PC3～0	PA7～0、PB7～0、PC5～0
外部割り込み	12	18	22
事象システム チャネル数	6		
構成設定可能な注文論理回路 (CCL) LUT数	4		
実時間計数器 (RTC)	1		
16ビット タイマ/カウンタA型 (TCA)	1		
16ビット タイマ/カウンタB型 (TCB)	2		
12ビット タイマ/カウンタD型 (TCD)	1		
USART/SPI主装置	2		
SPI	1		
TWI (I^2C)	1		
ADC (チャネル数)	1(9)	1(15)	
DAC	–		
アナログ比較器 (AC) (入力数)	1(2p/2n)	1(3p/3n)	1(4p/3n)
周辺機能接触制御器 (PTC) (自己容量/相互容量チャネル数)	–		
高電圧信号またはヒューズ上書きを使って共用ピンによって有効にされる統一プログラム/デバッグ インターフェース (UPDI)	1		

特徴

- 高性能低電力AVR® CPU
  - 最大20MHzで走行
  - 単一周期I/Oアクセス
  - ベクタ割り込みを持つ2段階の割り込み制御器
  - 2周期ハードウェア乗算器
  - 供給電圧: 1,8～5.5V
- メモリ
  - 実装自己書き換え可能な32Kバイト(16K語)のフラッシュ メモリ
  - 3KバイトのSRAM
  - 256バイトのEEPROM
  - チップ消去中にデータを保ち、デバイスが施錠されている間に書くことができる不揮発性メモリでの32バイトの使用者列
  - 書き込み/消去寿命
    - フラッシュ メモリ：10,000回
    - EEPROM：100,000回
  - データ保持力: 55℃で40年
- システム
  - 電源ONリセット(POR)
  - 低電圧検出器(BOD)
  - クロック任意選択
    - 施錠可能な20MHz低電力内部RC発振器
    - 32.768kHz超低電力(ULP)内部RC発振器
    - 32.768kHz外部クリスタル用発振器
    - 外部クロック入力
  - 単一ピンの統一プログラム/デバッグ インターフェース (UPDI)
  - 3つの休止動作形態
    - 全周辺機能走行と即時起き上がり時間を持つアイドル
    - 選んだ周辺機能の構成設定可能な動作を持つスタンバイ
    - 完全なデータ保持を持つパワーダウン
- 周辺機能
  - 専用の定期レジスタと3つのPWMチャネルを持つ1つの16ビット タイマ/カウンタA型 (TCA)
  - 捕獲入力と簡単なPWM機能を持つ2つの16ビット タイマ/カウンタB型 (TCB)
  - 外部32.768kHzクリスタルまたは32.768kHz ULP発振器から走行する1つの16ビット実時間計数器 (RTC)
  - 分数ボーレート生成器、自動ボーレート、フレーム開始検出を持つ2つの万能同期/非同期送受信器 (USART)
  - 主装置/従装置直列周辺インターフェース (SPI)
  - 2重アドレス一致を持つ主装置/従装置2線インターフェース (TWI)
    - 標準動作 (Sm, 100kHz)
    - 高速動作 (Fm, 400kHz)
    - 高速動作プラス (Fm+, 1MHz)
  - CPUから独立して予測可能な周辺機能相互合図のための事象システム (EVSYS)
  - 4つの設定可能な参照表(LUT)を持つ構成設定可能な注文論理回路 (CCL)
  - 大きさ変更可能な参照基準入力を持つ1つのアナログ比較器 (AC)
  - 設定可能な利得増幅器(PGA)と最大15の入力チャネルを持つ12ビット差動375kspsの1つのA/D変換器 (ADC)
  - 多数の参照基準電圧 (VREF)
    - 1.024V　・2.048V　・2.500V　・4.096V　・VDD
  - 自動化された巡回冗長検査(CRC)フラッシュ メモリ走査 (CRCSCAN)
  - 独立したチップ上の発振器を持ち、窓動作を持つウォッチドッグ タイマ (WDT)
  - 全ての汎用ピンでの外部割り込み
- I/Oと外囲器
  - 最大22本の設定可能なI/O線
  - 14リード
    - SOIC
    - TSSOP
  - 20リード/パッド
    - SOIC
    - SSOP
    - VQFN 3×3mm
  - 24パッド
    - VQFN 4×4mm

・温度範囲
  － -40～85℃ (工業)
  － -40～125℃ (拡張)
・速度評定 (-40～85℃)
  － 0～5MHz/1.8～5.5V
  － 0～10MHz/2.7～5.5V
  － 0～20MHz/4.5～5.5V
・速度評定 (-40～125℃)
  － 0～8MHz/2.7～5.5V
  － 8～16MHz/4.5～5.5V
・VAO変種利用可能：車載応用に対するAEC-Q100要件に従って設計、製造、検査、認定

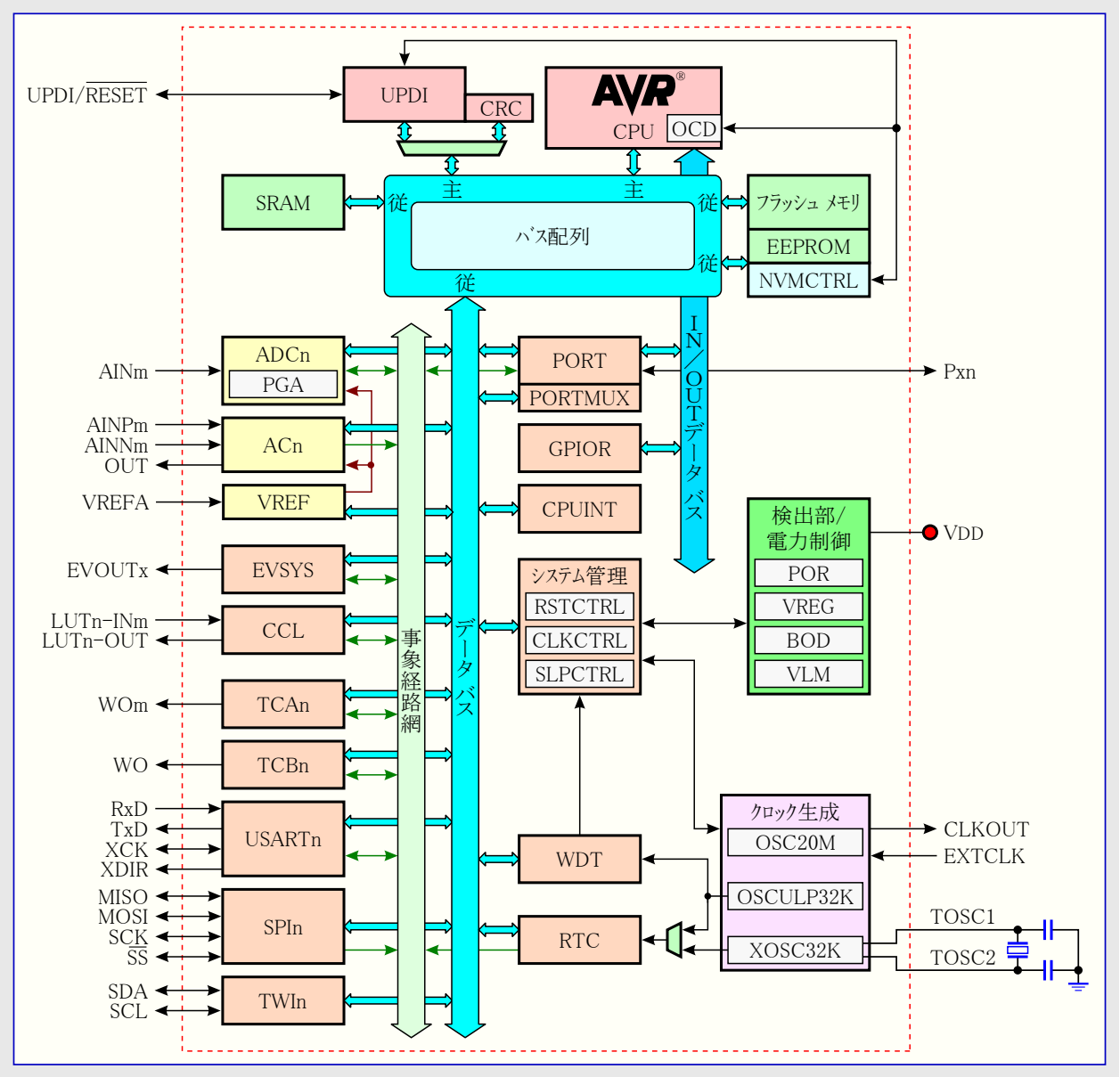
目次

序説 ・・・

20.2. 概要 ··· 114
20.3. 機能的な説明 ··· 114
20.4. ﾚｼﾞｽﾀ要約 ··· 117
20.5. ﾚｼﾞｽﾀ説明 ··· 118
21. TCA – 16ﾋﾞｯﾄ ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀA型 ··· 119
21.1. 特徴 ··· 119
21.2. 概要 ··· 119
21.3. 機能的な説明 ··· 121
21.4. ﾚｼﾞｽﾀ要約 – 標準動作 ··· 128
21.5. ﾚｼﾞｽﾀ説明 – 標準動作 ··· 129
21.6. ﾚｼﾞｽﾀ要約 – 分割動作 ··· 138
21.7. ﾚｼﾞｽﾀ説明 – 分割動作 ··· 139
22. TCB – 16ﾋﾞｯﾄ ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀB型 ··· 145
22.1. 特徴 ··· 145
22.2. 概要 ··· 145
22.3. 機能的な説明 ··· 146
22.4. ﾚｼﾞｽﾀ要約 ··· 151
22.5. ﾚｼﾞｽﾀ説明 ··· 152
23. RTC – 実時間計数器 ··· 157
23.1. 特徴 ··· 157
23.2. 概要 ··· 157
23.3. ｸﾛｯｸ ··· 157
23.4. RTCの機能的な説明 ··· 158
23.5. PITの機能的な説明 ··· 158
23.6. ｸﾘｽﾀﾙ誤差修正 ··· 159
23.7. 事象 ··· 159
23.8. 割り込み ··· 159
23.9. 休止形態動作 ··· 160
23.10. 同期 ··· 160
23.11. ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ操作 ··· 160
23.12. ﾚｼﾞｽﾀ要約 ··· 161
23.13. ﾚｼﾞｽﾀ説明 ··· 162
24. USART – 万能同期非同期送受信器 ··· 168
24.1. 特徴 ··· 168
24.2. 概要 ··· 168
24.3. 機能的な説明 ··· 169
24.4. ﾚｼﾞｽﾀ要約 ··· 178
24.5. ﾚｼﾞｽﾀ説明 ··· 179
25. SPI – 直列周辺ｲﾝﾀｰﾌｪｰｽ ··· 188
25.1. 特徴 ··· 188
25.2. 概要 ··· 188
25.3. 機能的な説明 ··· 189
25.4. ﾚｼﾞｽﾀ要約 ··· 195
25.5. ﾚｼﾞｽﾀ説明 ··· 196
26. TWI – 2線ｲﾝﾀｰﾌｪｰｽ ··· 200
26.1. 特徴 ··· 200
26.2. 概要 ··· 200
26.3. 機能的な説明 ··· 201
26.4. ﾚｼﾞｽﾀ要約 ··· 209
26.5. ﾚｼﾞｽﾀ説明 ··· 210
27. CRCSCAN – 巡回冗長検査ﾒﾓﾘ走査 ··· 219
27.1. 特徴 ··· 219
27.2. 概要 ··· 219
27.3. 機能的な説明 ··· 219
27.4. ﾚｼﾞｽﾀ要約 ··· 222
27.5. ﾚｼﾞｽﾀ説明 ··· 223
28. CCL – 構成設定可能な注文論理回路 ··· 225
28.1. 特徴 ··· 225
28.2. 概要 ··· 225
28.3. 機能的な説明 ··· 226
28.4. ﾚｼﾞｽﾀ要約 ··· 231
28.5. ﾚｼﾞｽﾀ説明 ··· 232
29. AC – ｱﾅﾛｸﾞ比較器 ··· 236
29.1. 特徴 ··· 236
29.2. 概要 ··· 236
29.3. 機能的な説明 ··· 237
29.4. ﾚｼﾞｽﾀ要約 ··· 239
29.5. ﾚｼﾞｽﾀ説明 ··· 240
30. ADC – A/D変換器 ··· 243
30.1. 特徴 ··· 243
30.2. 概要 ··· 243
30.3. 機能的な説明 ··· 245
30.4. ﾚｼﾞｽﾀ要約 ··· 254
30.5. ﾚｼﾞｽﾀ説明 ··· 255
31. UPDI – 統一ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ/ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ ｲﾝﾀｰﾌｪｰｽ ··· 265
31.1. 特徴 ··· 265
31.2. 概要 ··· 265
31.3. 機能的な説明 ··· 266
31.4. ﾚｼﾞｽﾀ要約 ··· 281
31.5. ﾚｼﾞｽﾀ説明 ··· 282
32. 命令一式要約 ··· 286
33. 電気的特性 ··· 287
33.1. お断り ··· 287
33.2. 絶対最大定格 ··· 287
33.3. 全般動作定格 ··· 287
33.4. 電力の考察 ··· 288
33.5. 消費電力 ··· 289
33.6. 起き上がり時間 ··· 290
33.7. 周辺機能消費電力 ··· 291
33.8. BODとPORの特性 ··· 291
33.9. 外部ﾘｾｯﾄ特性 ··· 292
33.10. 発振器とｸﾛｯｸ ··· 292
33.11. 入出力ﾋﾟﾝ特性 ··· 294
33.12. USART ··· 295
33.13. SPI ··· 296
33.14. TWI ··· 297
33.15. VREF ··· 298
33.16. ADC ··· 299
33.17. TEMPSENSE ··· 300
33.18. AC ··· 300
33.19. UPDI ··· 301
33.20. ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ時間 ··· 302
34. 代表特性 ··· 303
34.1. 消費電力 ··· 303
34.2. GPIO ··· 310
34.3. VREF特性 ··· 315
34.4. BOD特性 ··· 316
34.5. ADC特性 ··· 318
34.6. TEMPSENSE特性 ··· 326
34.7. AC特性 ··· 327
34.8. OSC20M特性 ··· 331
34.9. OSCULP32K特性 ··· 332
35. 注文情報 ··· 333
36. 外囲器図 ··· 335
36.1. ｵﾝﾗｲﾝ外囲器図 ··· 335
36.2. 外囲器表示情報 ··· 335
36.3. 14ﾘｰﾄﾞSOIC ··· 337
36.4. 14ﾘｰﾄﾞTSSOP ··· 338
36.5. 20ﾘｰﾄﾞSOIC ··· 339
36.6. 20ﾘｰﾄﾞSSOP ··· 340

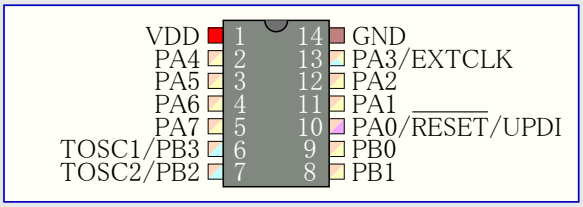
36.7. 20ﾊﾟｯﾄﾞVQFN ····· 341
36.8. 20ﾊﾟｯﾄﾞVQFN 濡れ性側面 ····· 342
36.9. 24ﾊﾟｯﾄﾞVQFN ····· 343
36.10. 24ﾊﾟｯﾄﾞVQFN 濡れ性側面 ····· 344
37. 障害情報 ····· 345
38. ﾃﾞｰﾀｼｰﾄ改訂履歴 ····· 349
38.1. 改訂A – 2021年9月 ····· 349
38.2. 改訂B – 2021年12月 ····· 349
Microchipｳｪﾌﾞ ｻｲﾄ ····· 350
製品変更通知ｻｰﾋﾞｽ ····· 350
お客様支援 ····· 350
製品識別ｼｽﾃﾑ ····· 350
Microchipﾃﾞﾊﾞｲｽ ｺｰﾄﾞ保護機能 ····· 350
法的通知 ····· 351
商標 ····· 351
品質管理ｼｽﾃﾑ ····· 351
世界的な販売とｻｰﾋﾞｽ ····· 352

1. 構成図


UPDI/RESET
UPDI
CRC
AVR
CPU
OCD
SRAM
主
従
バス配列
フラッシュ メモリ
EEPROM
NVMCTRL
IN/OUTデータ バス
AINm
ADCn
PGA
PORT
PORTMUX
Pxn
AINPm
AINNm
OUT
ACn
GPIOR
VREFA
VREF
CPUINT
検出部/
電力制御
POR
VREG
BOD
VLM
VDD
EVOUTx
EVSYS
システム管理
RSTCTRL
CLKCTRL
SLPCTRL
LUTn-INm
LUTn-OUT
CCL
事象経路網
データバス
WOm
TCAn
WO
TCBn
RxD
TxD
XCK
XDIR
USARTn
WDT
クロック生成
OSC20M
CLKOUT
EXTCLK
MISO
MOSI
SCK
SS
SPIn
OSCULP32K
RTC
XOSC32K
TOSC1
TOSC2
SDA
SCL
TWIn

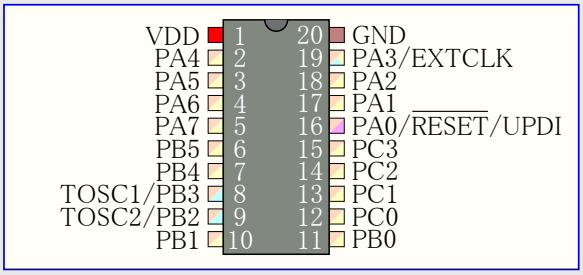
2. ピン配置

2.1. 14リードSOIC、TSSOP



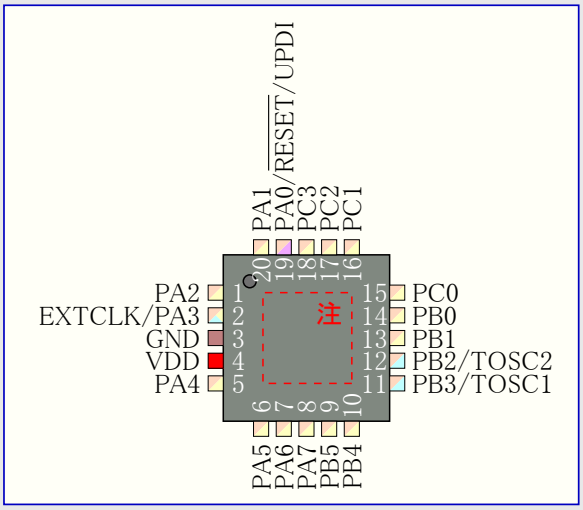
電力	機能
電源	アナログ機能
接地	プログラミング、デバッグ
VDD電力領域のピン	クロック、クリスタル

2.2. 20リードSOIC、SSOP



電力	機能
電源	アナログ機能
接地	プログラミング、デバッグ
VDD電力領域のピン	クロック、クリスタル

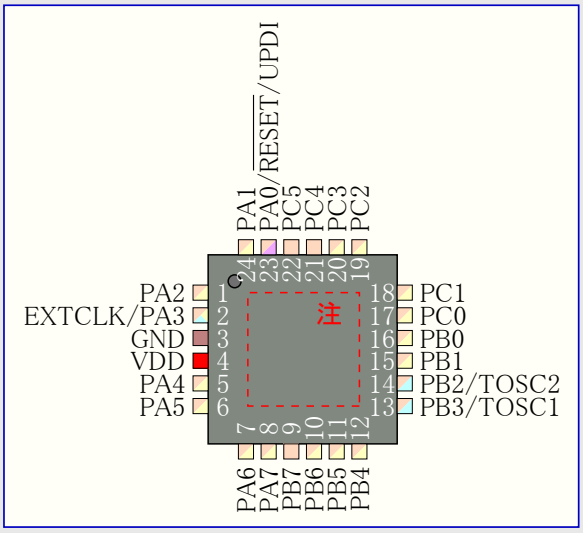
2.3. 20パッドVQFN



電力	機能
電源	アナログ機能
接地	プログラミング、デバッグ
VDD電力領域のピン	クロック、クリスタル

注: 機械的な安定性のために大きな中央パッドを接地に半田付けすることが推奨されます。

2.4. 24パッドVQFN



電力	機能
電源	アナログ機能
接地	プログラミング、デバッグ
VDD電力領域のピン	クロック、クリスタル
	デジタル機能のみ

注: 機械的な安定性のために大きな中央パッドを接地に半田付けすることが推奨されます。

3. 入出力多重化と考察

3.1. 入出力多重化

表3-1. ポート機能多重化

VQFN24	VQFN20	SOIC/SSOP20	SOIC/TSSOP14	ピン名(注1,2)	その他/特殊	ADC0(注3)	AC0	USART0	USART1	SPI0	TWI0	TCA0	TCB0	TCB1	CCL
23	19	16	10	PA0	$\overline{\text{RESET}}$ UPDI										LUT0-IN0
24	20	17	11	PA1		AIN1		TxD(注4)	TxD	MOSI					LUT0-IN1
1	1	18	12	PA2	EVOUTA	AIN2		RxD(注4)	RxD	MISO					LUT0-IN2
2	2	19	13	PA3	EXTCLK	AIN3		XCK(注4)	XCK	SCK		WO3		WO	
3	3	20	14	GND											
4	4	1	1	VDD											
5	5	2	2	PA4		AIN4		XDIR(注4)	XDIR	$\overline{\text{SS}}$		WO4			LUT0-OUT
6	6	3	3	PA5	VREFA	AIN5	OUT					WO5	WO		LUT3-OUT(注4)
7	7	4	4	PA6		AIN6	AINN0								
8	8	5	5	PA7	EVOUTA(注4)	AIN7	AINP0								LUT1-OUT
9	-	-	-	PB7	EVOUTB(注4)										
10	-	-	-	PB6			AINP3								LUT2-OUT(注4)
11	9	6	-	PB5	CLKOUT	AIN8	AINP1					WO2(注4)			
12	10	7	-	PB4	$\overline{\text{RESET}}$(注4)	AIN9	AINN1					WO1(注4)			LUT0-OUT(注4)
13	11	8	6	PB3	TOSC1			RxD				WO0(注4)			LUT2-OUT
14	12	9	7	PB2	TOSC2 EVOUTB			TxD				WO2			LUT2-IN2
15	13	10	8	PB1		AIN10	AINP2	XCK			SDA	WO1			LUT2-IN1
16	14	11	9	PB0		AIN11	AINN2	XDIR			SCL	WO0			LUT2-IN0
17	15	12	-	PC0		AIN12			XCK(注4)	SCK(注4)			WO(注4)		LUT3-IN0
18	16	13	-	PC1		AIN13			RxD(注4)	MISO(注4)					LUT1-OUT(注4) LUT3-IN1
19	17	14	-	PC2	EVOUTC	AIN14			TxD(注4)	MOSI(注4)					LUT3-IN2
20	18	15	-	PC3		AIN15			XDIR(注4)	$\overline{\text{SS}}$(注4)		WO3(注4)			LUT1-IN0
21	-	-	-	PC4								WO4(注4)		WO(注4)	LUT1-IN1 LUT3-OUT
22	-	-	-	PC5								WO5(注4)			LUT1-IN2

注1: ピン名はポートの実体(A,B,C)となるxとピン番号のnを持つPxn形式です。信号の表記法はPORTx_PINnです。

注2: 全てのピンは外部割り込みとして使うことができ、各ポートのPx2とPx6のピンは完全な非同期検出を持ちます。全てのピンを事象システムとして使うことができます。

注3: AIN15～1は差動測定に対して負のADC入力として使うことができません。

注4: 赤文字は代替ピン位置。代替位置選択については「PORTMUX - ポート多重器」章を参照してください。

4. ハードウェアの指針

本章はAVR 8ビット マイクロ コントローラを使って電気的な回路図を設計して再検討するための指針を含みます。ここで提示される情報は最も一般的な話題の簡単な概要です。より詳細な情報は本章の該当箇所で一覧にされる応用記述で見つけることができます。

本章は以下の話題を網羅します。

- 一般的な指針
- 電源用接続
- RESET用接続
- UPDI (統一プログラム/デバッグ インターフェース)用接続
- 外部クリスタル発振子接続
- VREF(外部基準電圧)接続

4.1. 一般的な指針

未使用ピンはそれら各々に半田付けパッドに半田付けされなければなりません。半田付けパッドは回路に接続されてはなりません。

ポート ピンはリセット後にそれらの既定状態です。消費電力を減らすには「PORT – I/Oピン構成設定」章の推奨に従ってください。

全ての値は代表値として与えられ、回路設定に対する開始点としてだけ扱います。

更なる情報については以下の応用記述を参照してください。

- AVR040 – 電磁適合性(EMC)設計の考察
- AVR042 – ハードウェア設計の考察

4.1.1. 中央パッド付き外囲器に対する特別な考慮

平板外囲器はしばしば裏に配置された露出パッドを備え、しばしば中央パッドまたは放熱パッドとして参照されます。このパッドは電気的にチップの内部回路に接続されませんが、機械的に内部基材に接合され、放熱材として扱うだけでなく、機械的な安定性の追加も提供します。このパッドは接地面が印刷回路基板(PCB)の最良の放熱基材(最大の銅箔領域)のため、GNDに接続されなければなりません。

4.2. 電源用接続

電源それ自身の設計に対する基本と詳細はこれらの指針の範囲の向こう側にあります。この題目についてより多くの詳細な情報に関してはこの章の始めで言及した応用記述をご覧ください。

雑音分離(デカップ)コンデンサは各供給ピン対(VDD、AVDDまたは他の電力供給ピンとそれに対応するGNDピン)に対してマイクロ コントローラの近くに配置されなければなりません。雑音分離コンデンサがマイクロ コントローラから遠すぎる場所に配置される場合、雑音の増加と放射妨害波の増加に帰着する高電流閉路を形成するかもしれません。

各供給ピン対(電力入力ピンと接地ピン)は独立した雑音分離コンデンサを持たなければなりません。

雑音分離コンデンサをマイクロ コントローラと同じPCBの側に配置することが推奨されます。空間がそれを許さない場合、ビアを通して他の側に雑音分離コンデンサを配置することができますが、供給ピンとの距離が可能な限り短く保たれることを確実にしてください。

基板が(数10MHz以上の)高周波数雑音を経験している場合、上で記述した雑音分離コンデンサと並列に第2のセラミック型コンデンサを追加してください。この第2のコンデンサを主雑音分離コンデンサの傍らに配置してください。

電源回路からの基板配置で、最初に雑音分離コンデンサへの電力と戻りの布線を、その後にデバイスのピンへ走らせてください。これは雑音分離コンデンサが電力連鎖で最初になることを保証します。同様にコンデンサと電力ピン間の布線長を最短に保ち、それによってPCB布線インダクタンスを減らすことが重要です。

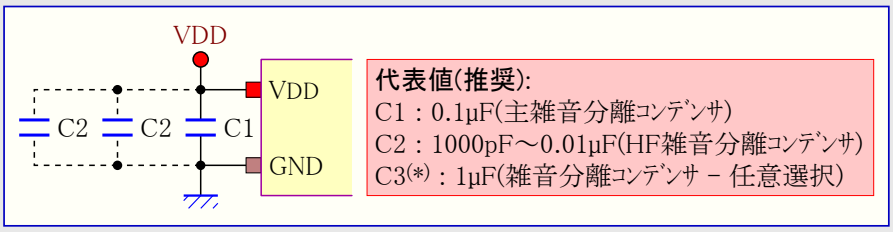
本章の始めで言及したように、例で使われる全ての値は代表値です。実際の設計は他の値を必要とするかもしれません。

4.2.1. デジタル電源

より大きなピン数の外囲器型について、いくつかのVDDピンと対応するGNDピンがあります。マイクロ コントローラの全てのVDDピンは内部的に接続されています。VDDピンの各々に同じ電圧が印加されなければなりません。

右図はデバイスのVDDピンに電源を接続するための推奨を示します。

図4-1. 推奨VDD接続回路図



重要: 頻繁にVDDをON/OFFする、または高速なVDD過渡応答を経験する系については電源のスリューレート(上昇/下降速度)がスリューレート限度を超える場合、付加的な雑音分離コンデンサ(C3)の追加が推奨されます。電源のスリューレート限度については「電気的特性」で供給電圧部分を参照してください。

4.3. $\overline{\text{RESET}}$用接続

ﾃﾞﾊﾞｲｽの$\overline{\text{RESET}}$ﾋﾟﾝはLow活性で、ﾋﾟﾝをLowへの外部的な設定はﾃﾞﾊﾞｲｽのﾘｾｯﾄに帰着します。

AVRﾃﾞﾊﾞｲｽは$\overline{\text{RESET}}$ﾋﾟﾝの内部ﾌﾟﾙｱｯﾌﾟ抵抗が特徴で、外部ﾌﾟﾙｱｯﾌﾟ抵抗は通常必要とされません。

右図はﾃﾞﾊﾞｲｽへの外部ﾘｾｯﾄ切替器接続の推奨を示します。

切替器と直列の抵抗は濾波ｺﾝﾃﾞﾝｻを安全に放電することができます。これは系を害し得て再び尖頭雑音を起こし得る濾波ｺﾝﾃﾞﾝｻ短絡時のｻｰｼﾞ(瞬間大)電流を防ぎます。

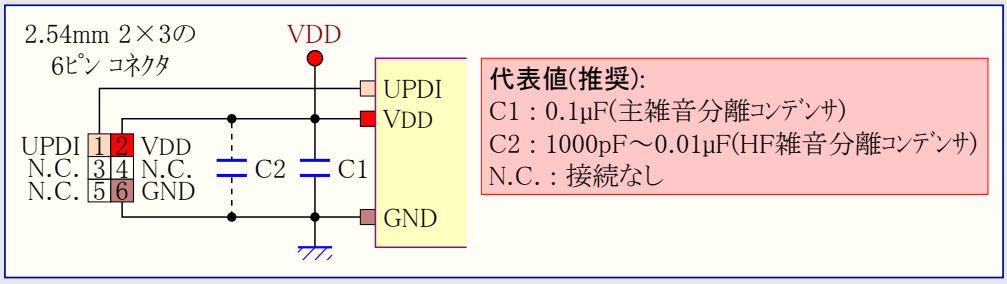
図4-2. 推奨外部ﾘｾｯﾄ回路の回路図

4.4. UPDIﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ用接続

UPDIﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ用の標準ｺﾈｸﾀは100mil(2.54mm)2×3の6ﾋﾟﾝ ﾍｯﾀﾞです。殆どのAVRﾃﾞﾊﾞｲｽをﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞするのに3つのﾋﾟﾝで充分でも、殆どの書き込みﾂｰﾙが100mil(2.54mm)2×3の6ﾋﾟﾝ ｺﾈｸﾀで引き渡されるため、2×3ﾍｯﾀﾞを使うことが推奨されます。

次図はﾃﾞﾊﾞｲｽにUPDIｺﾈｸﾀを接続する推奨を示します。

図4-3. 推奨UPDIﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ回路の回路図



VDDとGND間の雑音分離ｺﾝﾃﾞﾝｻは可能な限りﾋﾟﾝ対の近くに配置されなければなりません。例えUPDIｺﾈｸﾀが回路内に含められなくても、雑音分離ｺﾝﾃﾞﾝｻは含められなければなりません。

4.5. 外部ｸﾘｽﾀﾙ発振子接続

外部発振子の使用と発振器回路の設計は重要です。これは、VDD、動作温度範囲、ｸﾘｽﾀﾙ型式と製造業者、負荷容量、回路配置とPCB材料のような多くの変数があるためです。この部分では基本的な発振器回路設計を手助けするいくつかの代表的な指針が提示されます。

- 例え最良の性能の発振器回路と高品質のｸﾘｽﾀﾙでも、組立の間に使われる配置と材料が注意深く考慮されなければ、上手く行きません。
- ｸﾘｽﾀﾙ回路はﾃﾞﾊﾞｲｽと同じ基板の側に配置されなければなりません。ｸﾘｽﾀﾙ回路を可能な限り各々の発振器ﾋﾟﾝ近くに配置し、長い布線を避けてください。これは寄生容量を減らして雑音と漏話に対する耐性を増します。負荷容量を基板の同じ側でｸﾘｽﾀﾙの隣に配置してください。ｿｹｯﾄを使わないでください。
- 周辺回路から絶縁するためにｸﾘｽﾀﾙ回路の周りに接地した銅箔領域を配置してください。回路基板が両面を持つなら、裏面層の銅箔領域はｸﾘｽﾀﾙ回路を網羅するﾍﾞﾀ領域でなければなりません。表面層の銅箔領域はｸﾘｽﾀﾙ回路周辺でﾋﾞｱの使用によって裏面層に接続されなければなりません。
- 接地した銅箔領域の内側にどんな信号布線や電力布線も走らせないでください。ｸﾘｽﾀﾙ線の近くでのﾃﾞｼﾞﾀﾙ線、特にｸﾛｯｸ線の配線を避けてください。
- 両面PCBを使う場合、ｸﾘｽﾀﾙの下のどの配線も避けてください。多層PCBについてはｸﾘｽﾀﾙ線の下の信号配線を避けてください。
- 塵や湿度は寄生容量を増やして信号絶縁を減らします。保護皮膜が推奨されます。
- 望まれるような発振器性能を保証するため、成功する発振器設計は良い動作条件の仕様、初期試験での部品選択段階、実際の動作条件での試験が必要とされます。

発振器と発振器回路設計についてより多くの詳細情報に関しては以下の応用記述をご覧ください。

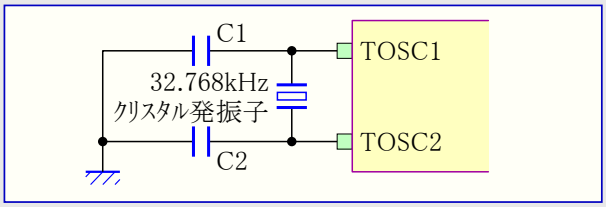
- AN2648 – AVR®ﾏｲｸﾛ ｺﾝﾄﾛｰﾗ用32kHzｸﾘｽﾀﾙの選択と試験
- AN949 – 発振器を動かす

4.5.1. XOSC32K(外部32.768kHzクリスタル発振子)接続

超低電力32.768kHz発振器は一般的に1µWを大幅に下回って消費し、従って回路を流れる電流は極端に小さいです。クリスタル周波数は容量性負荷に大きく依存します。

右図は外部32.768kHzクリスタル発振子を接続する方法を示します。

図4-4. 推奨外部32.768kHz発振子接続回路の回路図

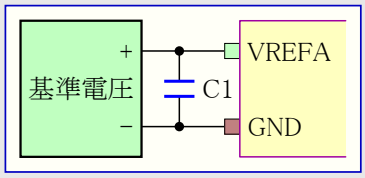


4.6. 外部基準電圧接続

設計が外部基準電圧の使用を含む場合、一般的な推奨は参照基準と並列に接続される適切なコンデンサを使うことです。コンデンサの値は参照基準の本質と濾波されるのが必要な電気的雑音の形式に依存します。

追加の濾波部品が必要とされるかもしれず、使われる外部参照基準電圧の形式に依存します。

図4-5. 推奨外部基準電圧接続



5. 規定

5.1. 数字表記法

表5-1. 数字表記法

ｼﾝﾎﾞﾙ	説明
165	10進数値
0b0101	2進数値（訳注:本書ではCｺｰﾄﾞ例内以外では不使用）
‘0101’	明白な場合に接頭辞で与えられる2進数値（訳注:本書では基本的に赤文字で表現）
0x3B24	16進数値（訳注:本書ではCｺｰﾄﾞ例内以外では不使用、代わりに$接頭辞で「$3B24」形式で表記）
x	未知またはどうでもよい値を表す。
Z	信号またはﾊﾞｽのどちらかに対して高ｲﾝﾋﾟｰﾀﾞﾝｽ(浮き)状態を表す。（訳注:本書では「Hi-Z」と表記）

5.2. ﾒﾓﾘの大きさと形式

表5-2. ﾒﾓﾘの大きさとﾋﾞｯﾄ速度

ｼﾝﾎﾞﾙ	説明
Kﾊﾞｲﾄ	ｷﾛ ﾊﾞｲﾄ（2^{10}=1024ﾊﾞｲﾄ）
Mﾊﾞｲﾄ	ﾒｶﾞ ﾊﾞｲﾄ（2^{20}=1024Kﾊﾞｲﾄ）
Gﾊﾞｲﾄ	ｷﾞｶﾞ ﾊﾞｲﾄ（2^{30}=1024Mﾊﾞｲﾄ）
b	ﾋﾞｯﾄ（2進数値の’0’または’1’）（訳注:本書では基本的に不使用、直接「ﾋﾞｯﾄ」と表記）
B	ﾊﾞｲﾄ（8ﾋﾞｯﾄ）（訳注:本書では基本的に不使用、直接「ﾊﾞｲﾄ」と表記）
1kﾋﾞｯﾄ/s	1,000ﾋﾞｯﾄ/s速度（1,024ﾋﾞｯﾄ/sではない）
1Mﾋﾞｯﾄ/s	1,000,000ﾋﾞｯﾄ/s速度
1Gﾋﾞｯﾄ/s	1,000,000,000ﾋﾞｯﾄ/s速度
word	16ﾋﾞｯﾄ（訳注:本書では「語」と表記）

5.3. 周波数と時間

表5-3. 周波数と時間

ｼﾝﾎﾞﾙ	説明
kHz	1kHz=10^3Hz=1,000Hz
MHz	1MHz=10^6Hz=1,000,000Hz
GHz	1GHz=10^9Hz=1,000,000,000Hz
ms	1ms=10^{-3}s=0.001秒
µs	1µs=10^{-6}s=0.000001秒
ns	1ns=10^{-9}s=0.000000001秒

5.4. レジスタとビット

表5-4. レジスタとビットの簡略記法

シンボル	説明
R/W	読み書きアクセス可能なレジスタ ビット。このビットに対して読み書きすることができます。
R	読み込み専用アクセス可能なレジスタ ビット。このビットを読むことだけできます。書き込みは無視されます。
W	書き込み専用アクセス可能なレジスタ ビット。このビットを書くことだけできます。このビットの読み込みは未定義の値を返します。
ビット領域	ビット名は大文字で支援されます(例:INTMODE)。
ビット領域[n:m]	ビットn～m(n>m)のビットの組。(訳注:本書では不使用、「FIELDn～m」形式で表記) (例:PINA[3:0](不使用)=PINA3～0(本書表記)={PINA3,PINA2,PINA1,PINA0}
予約	予約されたビット、ビット領域、ビット領域値は使われず、将来に使うために予約されます。将来のデバイスとの互換性のため、そのレジスタが書かれ時に予約ビットに常に'0'を書いてください。予約ビットは読む時に常に'0'を返します。
周辺機能n	少数の周辺機能の実体が存在する場合、周辺機能名は1つの実体を識別するために単一番号によって後続されます。例:USARTnはUSART単位部の全実体の集合で、一方でUSART3はUSART単位部の1つの特定実体を指定します。
周辺機能x	少数の周辺機能の実体が存在する場合、周辺機能名は1つの実体を識別するために単一大文字(A～Z)によって後続されます。例:PORTxはPORT単位部の全実体の集合で、一方でPORTBはOIRT単位部の1つの特定実体を指定します。
リセット	電源ONリセット後のレジスタの値。これはデバッグ制御レジスタを除き、周辺機能のソフトウェア リセットを実行した後の周辺機能のレジスタの値でもあります。
SET/CLR/TGL	SET/CLR/TGL接尾辞を持つレジスタは「読み-変更-書き」操作を行うことなく、レジスタ内のビットの設定(1)と解除(0)を使用者に許します。各SET/CLR/TGLレジスタはそれが影響を及ぼすレジスタと対にされます。レジスタ対の両レジスタは読む時に同じ値を返します。 例: PORT周辺機能に於いて、OUTとOUTSETのレジスタがこのようなレジスタ対を形成します。OUTの内容はOUTSETへの書き込みによって変更されます。OUTとOUTSETの読み込みは同じ値を返します。 CLRレジスタ内のビットへの'1'書き込みは両レジスタで対応するビットを解除(0)します。 SETレジスタ内のビットへの'1'書き込みは両レジスタで対応するビットを設定(1)します。 TGLレジスタ内のビットへの'1'書き込みは両レジスタで対応するビットを反転します。

5.4.1. ヘッダ ファイルからのレジスタ アクセス

供給されるCヘッダ ファイルでレジスタをアドレス指定するには以下の規則が適用されます。

1. レジスタは<周辺機能実体名>.<レジスタ名>、例えば、CPU.SREG、USART2.CTRLA、PORTB.DIRによって識別されます。
2. 周辺機能名は「周辺機能と基本構造」章の「周辺機能アドレス配置」で与えられます。
3. <周辺機能実体名>は周辺機能名の何れかのnまたはxを正しい実体識別子で置き換えることによって得られます。
4. 周辺機能レジスタに予め定義された値を割り当てる時に、その値は次のような規則に従って構築されます。
   <周辺機能名>_<ビット領域名>_<ビット領域値>_gc

<周辺機能名>は<周辺機能実体名>ですが、どの実体識別子も取り去られます。

<ビット領域値>は周辺機能レジスタのビット領域を記述する「レジスタ説明」章内の表の「名称」列で見つけることができます。

例5-1. レジスタ割り当て

```
// EVSYSチャネル0はTCB3のOVF事象によって駆動されます。
EVSYS.CHANNEL0 = EVSYS_CHANNEL0_TCB3_OVF_gc;

// USART0のRXMODEは2倍速伝送を使います。
USART0.CTRLB = USART_RXMODE_CLK2X_gc;
```

注: 違う動作形態に於いて異なるレジスタ一式を持つ周辺機能に対して、<周辺機能実体名>と<周辺機能名>は動作形態名が後続されなければならず、例えば以下です。

```
// 標準(SINGLE)動作のTCA0は周波数動作で波形生成器を使います。
TCA0.SINGLE.CTRL=TCA_SINGLE_WGMODE_FRQ_gc;
```

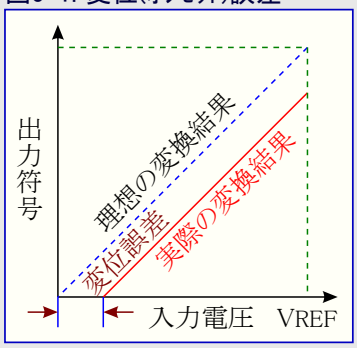
5.5. ADCﾊﾟﾗﾒｰﾀ定義

理想nﾋﾞｯﾄ ｼﾝｸﾞﾙ ｴﾝﾄﾞA/D変換はGNDとVREF間を2^n段階(LSB)で電圧を直線的に変換します。最低値符号は'0'として読まれ、最高値符号は2^n-1として読まれます。いくつかの項目は理想的な動きからの偏差を記述します。

変位(ｵﾌｾｯﾄ)誤差

理想遷移点(差0.5 LSB)と比べた最初の遷移($000から$001)の偏差です。理想値：0 LSB

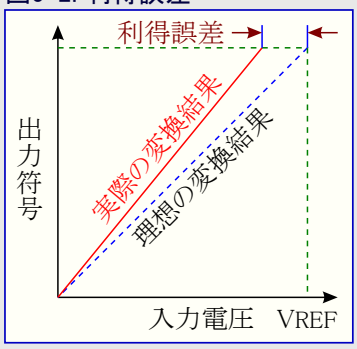
図5-1. 変位(ｵﾌｾｯﾄ)誤差



利得誤差

変位(ｵﾌｾｯﾄ)誤差補正後、利得誤差は理想遷移(最大1.5 LSB以下)と比べた最後の遷移(例えば、10ﾋﾞｯﾄADCについては$3FEから$3FF)の偏差として見出されます。理想値：0 LSB

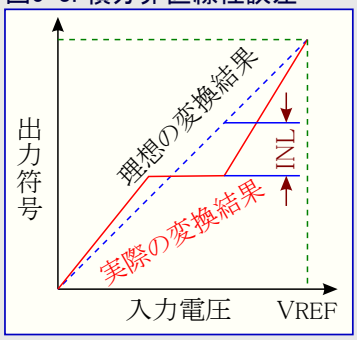
図5-2. 利得誤差



積分非直線性誤差 (INL)

変位(ｵﾌｾｯﾄ)誤差と利得誤差の補正後、INLは何れかの符号に対する理想遷移と比べた実際の遷移の最大偏差です。
理想値：0 LSB

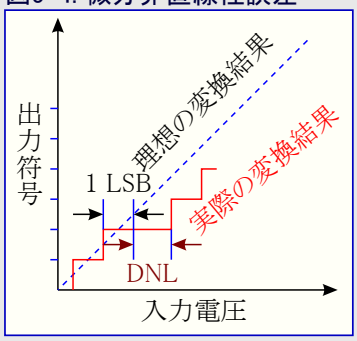
図5-3. 積分非直線性誤差



微分非直線性誤差 (DNL)

理想符号幅(1 LSB)から実際の符号幅(隣接する2つの遷移間の間隔)の最大偏差です。理想値：0 LSB

図5-4. 微分非直線性誤差



量子化誤差

有限数の符号への入力電圧の量子化のため、入力電圧範囲(1 LSB幅)は同じ値に符号化します。常に±0.5 LSB

絶対精度

何れかの符号に対して理想遷移点と比べた(非補正の)実際の遷移の最大偏差です。これは全ての前述の誤差の複合作用です。理想値：±0.5 LSB

6. AVR® CPU

6.1. 特徴

- 8ﾋﾞｯﾄ、高性能AVR RISC CPU
  - 135個の命令
  - ﾊｰﾄﾞｳｪｱ乗算器
- ALUに直接続される32個の8ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀ
- RAM内のｽﾀｯｸ
- I/Oﾒﾓﾘ空間でｱｸｾｽ可能なｽﾀｯｸ ﾎﾟｲﾝﾀ
- 64Kﾊﾞｲﾄまでの統一されたﾒﾓﾘの直接ｱﾄﾞﾚｽ指定
- 8,16,32ﾋﾞｯﾄ演算に対する効率的な支援
- ｼｽﾃﾑの危険に対する構成設定変更保護機能
- 生来のﾁｯﾌﾟ上ﾃﾞﾊﾞｯｶﾞ(OCD:On Chip Debugger)支援
  - 2つのﾊｰﾄﾞｳｪｱ中断点(ﾌﾞﾚｰｸﾎﾟｲﾝﾄ)
  - 流れ変更、割り込みとｿﾌﾄｳｪｱ中断点
  - ｽﾀｯｸ ﾎﾟｲﾝﾀ(SP)ﾚｼﾞｽﾀ、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ｶｳﾝﾀ(PC)、ｽﾃｰﾀｽ ﾚｼﾞｽﾀ(SREG)の走行時読み出し
  - 停止動作でﾚｼﾞｽﾀ ﾌｧｲﾙ読み書き可能

6.2. 概要

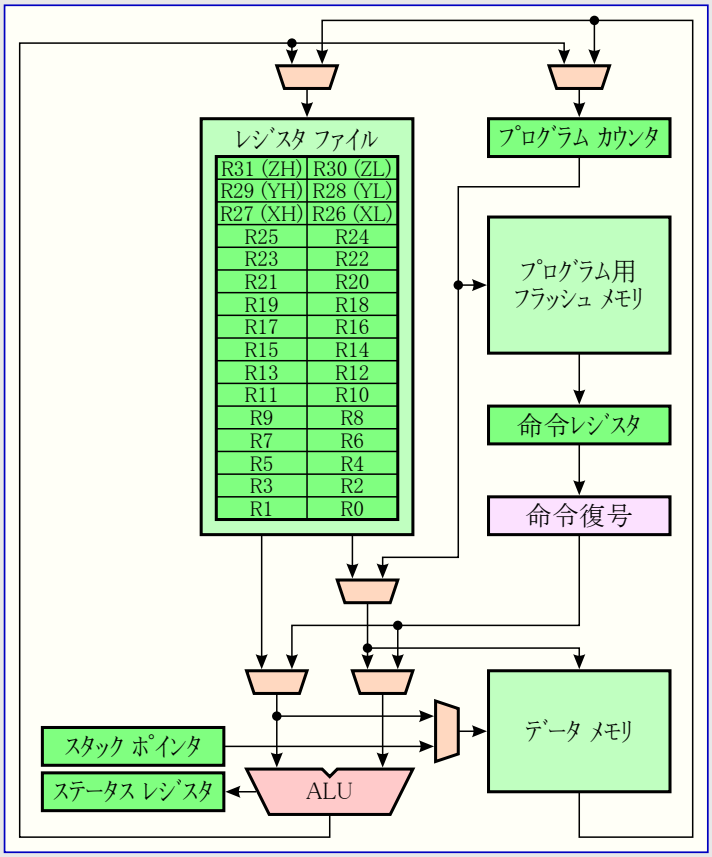
AVR CPUはﾒﾓﾘをｱｸｾｽし、計算を実行し、周辺機能を制御し、そしてﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ﾒﾓﾘから命令を実行し割り込みを処理することができます。

6.3. 基本構成

性能と並列処理を最大化するため、AVR CPUはﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑとﾃﾞｰﾀに対して独立したﾊﾞｽを持つﾊｰﾊﾞｰﾄﾞ基本設計を使います。ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ﾒﾓﾘ内の命令は単一段のﾊﾟｲﾌﾟﾗｲﾝで実行されます。1つの命令が実行されつつあるのと同時に、次の命令がﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ﾒﾓﾘから取得されます。これはｸﾛｯｸ周期毎に実行されることを命令に許します。

全てのAVR命令の要約については「命令一式要約」章を参照してください。

図6-1. AVR® CPU構造の構成図



6.4. 算術論理演算部 (ALU)

算術論理演算部(ALU)は作業ﾚｼﾞｽﾀ間または定数と作業ﾚｼﾞｽﾀ間の演算と論理の操作を支援します。また、単一ﾚｼﾞｽﾀ操作を実行することができます。

ALUはﾚｼﾞｽﾀ ﾌｧｲﾙ内の32個全ての汎用作業ﾚｼﾞｽﾀと直結で動きます。作業ﾚｼﾞｽﾀ間または、作業ﾚｼﾞｽﾀと即値被演算子間の算術操作が単一ｸﾛｯｸ周期で実行され、結果がﾚｼﾞｽﾀ ﾌｧｲﾙに格納されます。算術または論理の操作後、ｽﾃｰﾀｽ ﾚｼﾞｽﾀ(CPU.SREG)は操作の結果についての情報を反映するように更新されます。

ALU操作は算術、論理、ﾋﾞｯﾄ操作の3つの主な分野に分けられます。8ﾋﾞｯﾄと16ﾋﾞｯﾄの両方の算術演算が支援され、命令一式は効率的な32ﾋﾞｯﾄ算術演算の実装を許します。ﾊｰﾄﾞｳｪｱ乗算器は符号付きと符号なしの乗算そして固定小数点形式を支援します。

6.4.1. ハードウェア乗算器

乗算器は2つの8ビット数値を16ビットの結果に乗算する能力です。ハードウェア乗算器は符号付きと符号なしの整数と固定小数点数の種々の変種を支援します。

- 符号付き/符号なし整数の乗算
- 符号付き/符号なし固定小数点数の乗算
- 符号付きと符号なしの整数乗算
- 符号付きと符号なしの固定小数点数乗算

乗算は2 CPUクロック周期かかります。

6.5. 機能的な説明

6.5.1. プログラムの流れ

リセット後、CPUはフラッシュ プログラム メモリ内の最下位アドレスの$0000から命令を実行します。プログラム カウンタ(PC)は取得されるべき次の命令をアドレス指定します。

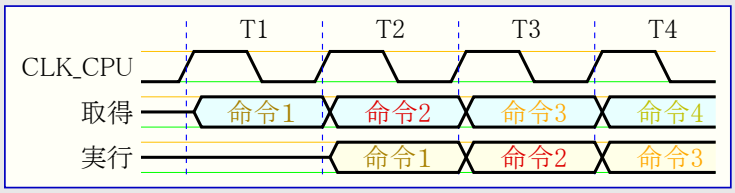
CPUは条件付きと条件なしでプログラムの流れを変更することができ、アドレス空間全体を直接位置指定できる命令を支援します。殆どのAVR命令は16ビット語形式を使い、限定数(の命令)は32ビット形式を使います。

割り込みとサブルーチン呼び出しの間、復帰アドレスのPC(値)が語ポインタとしてスタックに格納されます。スタックは一般的なデータSRAMに置かれ、必然的にスタック量は総SRAM量とSRAMの使い方によってのみ制限されます。スタック ポインタ(SP)がリセットされた後は内部SRAMの最上位アドレスを指し示します。SPはI/Oメモリ空間で読み書きアクセス可能で、多数のスタックまたはスタック領域の容易な実装を許します。データSRAMはAVR CPUで支援される5つの異なるアドレス指定形式を通して容易にアクセスすることができます。詳細については「命令一式概要」章をご覧ください。

6.5.2. 命令実行タイミング

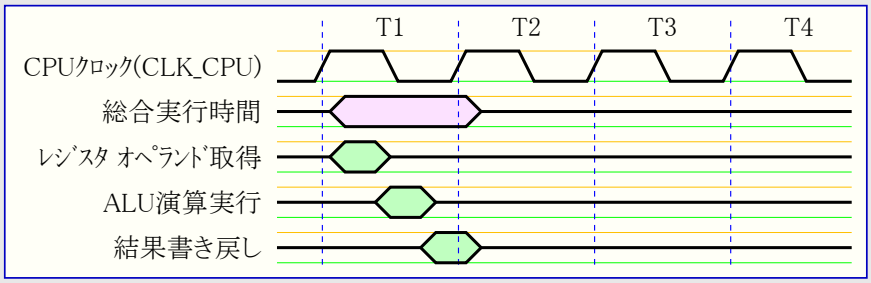
AVR CPUはCPUクロック(CLK_CPU)によってクロック駆動されます。内部クロック分周は全く適用されません。右図はハーバード基本構造と高速アクセス レジスタ ファイルの概念によって許される、並列での命令の取得と実行を示します。これは高い効率を持つ最大1 MIPS/MHzの性能を許す基本的なパイプラインの概念です。

図6-2. 並列の命令取得と命令実行



右図はレジスタ ファイルに対する内部タイミングの概念を示します。単一クロック周期で、2つのレジスタ オペランドを使うALU操作が実行され、その結果が転送先レジスタに格納されます。

図6-3. 単一周期ALU操作



6.5.3. ステータス レジスタ

ステータス レジスタ(CPU.SREG)は最も直前に実行した算術または論理の命令の結果についての情報を含みます。この情報は条件付き操作を実行するためプログラムの流れを変えるのに使うことができます。

CPU.SREGは「命令一式要約」章で詳述されるように、全てのALU操作後に更新され、多くの場合で専用比較命令を使う必要を取り去り、高速でもっと簡潔なコードに帰着します。CPU.SREGは割り込み処理ルーチン(ISR)への移行や復帰の時に自動的に保存や回復が行われません。従って、CPU(流れ)状態切り替え間でのステータス レジスタ維持は使用者定義ソフトウェアによって処理されなければなりません。CPU.SREGはI/Oメモリ空間でアクセス可能です。

6.5.4. スタックとスタック ポインタ

スタックは割り込みとサブルーチン呼び出し後の復帰アドレスの格納に使われます。一時データを格納するのにも使うことができます。スタック ポインタ(SP)は常にスタックの先頭(**訳注**:次に使われるべき位置)を指し示します。SPによって指定されるアドレスはスタック ポインタ(CPU.SP)レジスタに格納されます。CPU.SPはI/Oメモリ空間でアクセス可能な2つの8ビット レジスタとして実装されます。

データは**表6-1.**で与えられる命令を使って、または割り込みを実行することによってスタックに対して押し込みと取り出しが行われます。スタックは上位から下位のメモリ位置へ伸びます。これはスタックへのデータ押し込み時にSPが減り、スタックからのデータ取り出し時にSPが増すことを意味します。SPはリセット後に内部SRAMの最上位アドレスへ自動的に設定されます。スタックが変更される場合、SRAM開始アドレス以上を指し示すように設定されなければならず、何れかのサブルーチン呼び出しが実行される前と割り込みが許可される前に定義されなければなりません(SRAM開始アドレスについてはメモリ章のSRAMデータ メモリ部分をご覧ください)。SPの詳細については下表をご覧ください。

表6-1. スタック ポインタ命令

命令	スタック ポインタ	内容
PUSH	-1	データがスタック上に押し込まれます。
CALL,ICALL,RCALL	-2	サブルーチン呼び出しまたは割り込みでの戻りアドレスがスタック上に押し込まれます。
POP	+1	データがスタックから引き出されます。
RET,RETI	+2	サブルーチンまたは割り込みからの復帰での戻りアドレスがスタックから引き出されます。

割り込みまたはサブルーチン呼び出しの間、復帰アドレスが語として自動的にスタックへ格納され、SPは2減少されます。復帰アドレスは2バイトから成り、下位バイト(LSB)がスタック(の上位側番地)で最初に押し込まれます。例として、$0006のバイト ポインタ復帰アドレスはスタック上に(1ビット右移動した)$0003として保存され、プログラム メモリ内の4番目の16ビット命令を指し示します。復帰アドレスは(割り込みからの復帰時に)RETIと(サブルーチン呼び出しからの復帰時に)RETの命令でスタックから取り出され、SPは2増やされます。

データがPUSH命令でスタックに押し込まれる時にSPは1減らされ、POP命令を使ってスタックからデータが取り出される時に1増やされます。

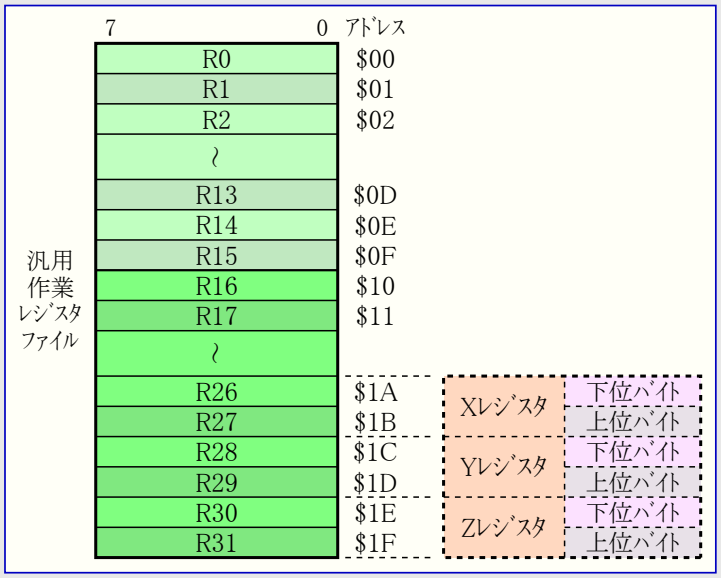
ソフトウェアからSPを更新する時の破損を防ぐため、SPL書き込みは最大4命令間または次のI/Oメモリ書き込みまでのどちらか速い方で自動的に割り込みを禁止します。

6.5.5. レジスタ ファイル

レジスタ ファイルはCPUによって使われる32個の8ビット汎用作業レジスタから成ります。レジスタ ファイルはデータ メモリから独立したアドレス空間に置かれます。

作業レジスタで動く全てのCPU命令はレジスタ ファイルに対して直接且つ単一のアクセスを持ちます。定数の算術と論理の演算命令(SBCI、SUBI、CPI、ANDI、ORI、LDI)のような命令によってアクセスすることができる作業レジスタにいくつかの制限が適用されます。これらの命令はレジスタ ファイルの後半の作業レジスタ(R16～R31)に適用します。更なる詳細についてはAVR命令一式手引書をご覧ください。

図6-4. AVR® CPU 汎用作業レジスタ



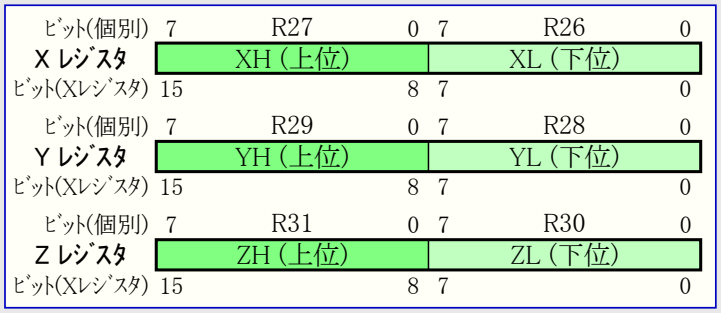
6.5.5.1. X,Y,Z レジスタ

R26～R31の作業レジスタはそれらの汎用の使い方に属する付加機能を持ちます。

これらのレジスタはデータ メモリの間接アドレス指定用の16ビット アドレス ポインタ形式にすることができます。これら3つのアドレス レジスタはXレジスタ、Yレジスタ、Zレジスタと呼ばれます。Zレジスタはプログラム メモリ用アドレス ポインタとして使うこともできます。

下位側レジスタのアドレスは最下位バイト(LSB)を保持し、上位側レジスタのアドレスは最上位バイト(MSB)を保持します。各種LD/ST系命令で、これらのアドレス レジスタは固定変位、自動増加、自動減少として機能することができます。詳細については「命令一式要約」章をご覧ください。

図6-5. X,Y,Zレジスタ



6.5.6. 構成設定変更保護 (CCP) (Configuration Change Protection)

ｼｽﾃﾑの重要なI/Oﾚｼﾞｽﾀ設定は予期せぬ変更から保護されます。ﾌﾗｯｼｭ自己ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞが予期せぬ実行から保護されます。これは構成設定変更保護(CCP)ﾚｼﾞｽﾀによって全体的に処理されます。

保護されたI/Oﾚｼﾞｽﾀまたはﾋﾞｯﾄへの変更や、保護された命令の実行は、CPUがCCPﾚｼﾞｽﾀへ識票を書いた後でだけ可能です。各種識票はCCP(CPU.CCP)ﾚｼﾞｽﾀの説明で一覧にされます。

I/Oﾚｼﾞｽﾀ保護に関する1つと自己ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ保護に関する1つで2つの動作形態があります。

6.5.6.1. 構成設定保護されたI/Oﾚｼﾞｽﾀへの書き込み操作手順

CCPによって保護されたI/Oﾚｼﾞｽﾀへ書くには以下の手順が必要とされます。

1. ｿﾌﾄｳｪｱはCPU.CCPﾚｼﾞｽﾀのCCPﾋﾞｯﾄ領域に保護されたI/Oﾚｼﾞｽﾀの変更を許可する識票を書きます。
2. 4命令内で、ｿﾌﾄｳｪｱは保護されたﾚｼﾞｽﾀに適切なﾃﾞｰﾀを書かなければなりません。

   注: 殆どの保護されたﾚｼﾞｽﾀは書き込み許可/変更許可/施錠のﾋﾞｯﾄも含みます。このﾋﾞｯﾄはﾃﾞｰﾀが書かれるのと同じ操作内で1を書かれなければなりません。

   保護された変更はCPUがI/Oﾚｼﾞｽﾀまたはﾃﾞｰﾀ ﾒﾓﾘに書き込み操作を実行する場合、ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ、NVM制御器(NVMCTRL)、EEPROMに対する取得または格納のｱｸｾｽが行われる場合、またはSLEEP命令が実行される場合、直ちに禁止されます。

6.5.6.2. 自己ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの実行手順

自己ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞを実行する(NVM制御器の指令ﾚｼﾞｽﾀへの書き込みの実行)には以下の手順が必要とされます。

1. ｿﾌﾄｳｪｱはCCP(CPU.CCP)ﾚｼﾞｽﾀにSPM識票を書くことによって自己ﾌﾟﾛｸﾞﾐﾝｸﾞを一時的に許可します。
2. 4命令内で、ｿﾌﾄｳｪｱは適切な命令を実行しなければなりません。保護された変更はCPUがﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ、NVMCTRL、EEPROMへのｱｸｾｽを実行する場合、またはSLEEP命令が実行される場合、直ちに禁止されます。

CPUによって一旦正しい識票が書かれると、割り込みは構成設定変更許可期間の間無視されます。CCP期間の間の(遮蔽不可割り込みを含む)どの割り込み要求も通常様に対応する割り込み要求ﾌﾗｸﾞを設定(1)し、その要求は保留に保たれます。CCP期間完了後、どの保留割り込みもそれらのﾚﾍﾞﾙと優先権に従って実行されます。

6.5.7. ﾁｯﾌﾟ上ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ能力

AVR CPUは生来のﾁｯﾌﾟ上ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ(OCD)支援を含みます。これはCPU状態についての特性分析と詳細な情報を許すためのいくつかの強力なﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ能力を含みます。CPU状態を変えてｺｰﾄﾞ実行を再開することが可能です。また、ﾊｰﾄﾞｳｪｱ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ｶｳﾝﾀ中断点、命令の流れ変更での中断点、割り込みでの中断点、ｿﾌﾄｳｪｱ中断点(BREAK命令)のような通常のﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ能力が存在します。OCDについての詳細に関しては「統一ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ/ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ ｲﾝﾀｰﾌｪｰｽ」章を参照してください。

6.6. レジスタ要約

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00 ～ +$03	予約									
+$04	CCP	7～0	CCP7~0							
+$05 ～ +$0C	予約									
+$0D	SP	7～0	SP7~0							
+$0E		15～8	SP15~8							
+$0F	SREG	7～0	I	T	H	S	V	N	Z	C

6.7. ﾚｼﾞｽﾀ説明

6.7.1. CCP – 構成設定変更保護ﾚｼﾞｽﾀ (Configuration Change Protection register)

名称 : CCP
変位 : +$04
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	CCP7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – CCP7~0 : 構成設定変更保護** (Configuration Change Protection)

このﾋﾞｯﾄ領域への正しい識票書き込みは次の4 CPU命令実行内での保護されたI/Oﾚｼﾞｽﾀの変更または保護された命令の実行を許します。

これらの周期の間は全ての割り込みが無視されます。これらの周期完了後、割り込みはCPUによって自動的に処理され、どの保留割り込みもそれらのﾚﾍﾞﾙと優先権に従って実行されます。

保護されたI/Oﾚｼﾞｽﾀの識票が書かれると、CCP0は保護機能が許可されている限り'1'を読みます。

保護された自己ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ識票が書かれると、CCP1は保護機能が許可されている限り'1'を読みます。

CCP7～2は常に'0'を読みます。

値	名称	説明
$9D	SPM	自己ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ許可
$D8	IOREG	保護されたI/Oﾚｼﾞｽﾀ解錠

6.7.2. SP – ｽﾀｯｸ ﾎﾟｲﾝﾀ (Stack Pointer)

名称 : SP (SPH,SPL)
変位 : +$0D
ﾘｾｯﾄ : $3FFF
特質 : –

CPU.SPﾚｼﾞｽﾀはｽﾀｯｸの先頭を指示するｽﾀｯｸ ﾎﾟｲﾝﾀを保持します。ﾘｾｯﾄ後、SPは内部SRAM最高ｱﾄﾞﾚｽを指示します。

各ﾃﾞﾊﾞｲｽに対して外部ﾒﾓﾘを含み(64Kﾊﾞｲﾄまでで)利用可能なﾃﾞｰﾀ ﾒﾓﾘをｱﾄﾞﾚｽ指定するのに必要とされるﾋﾞｯﾄ数だけが実装されます。未使用ﾋﾞｯﾄは常に'0'を読みます。

CPU.SPHとCPU.SPLのﾚｼﾞｽﾀ対は16ﾋﾞｯﾄ値のCPU.SPを表します。下位ﾊﾞｲﾄ[7～0](接尾辞L)は変位原点でｱｸｾｽ可能です。上位ﾊﾞｲﾄ[15～8](接尾辞H)は変位+1でｱｸｾｽすることができます。

ｿﾌﾄｳｪｱからSPを更新する時の破損を防ぐため、CPU.SPLへの書き込みは次の4命令間、または次のI/Oﾒﾓﾘ書き込みまでのどちらか速い方で割り込みを自動的に禁止します。

ﾋﾞｯﾄ	15	14	13	12	11	10	9	8
			SP13~8					
ｱｸｾｽ種別	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	1	1	1	1	1	1

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	SP7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	1	1	1	1	1	1	1	1

● **ﾋﾞｯﾄ14~8 – SP14~8 : ｽﾀｯｸ ﾎﾟｲﾝﾀ上位ﾊﾞｲﾄ** (Stack Pointer high byte)

これらのﾋﾞｯﾄは16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀの上位ﾊﾞｲﾄを保持します。

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – SP7~0 : ｽﾀｯｸ ﾎﾟｲﾝﾀ下位ﾊﾞｲﾄ** (Stack Pointer low byte)

これらのﾋﾞｯﾄは16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀの下位ﾊﾞｲﾄを保持します。

6.7.3. SREG – ｽﾃｰﾀｽ ﾚｼﾞｽﾀ (Status Register)

名称 ：SREG
変位 ：$0F
ﾘｾｯﾄ ：$00
特質 ：–

ｽﾃｰﾀｽ ﾚｼﾞｽﾀは最も直前に実行した算術または論理の命令の結果についての情報を含みます。このﾚｼﾞｽﾀ内のﾋﾞｯﾄとそれらが各種命令によってどう影響されるかについての詳細に関しては「命令一式要約」章をご覧ください。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	I	T	H	S	V	N	Z	C
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7 – I : 全体割り込み許可** (Global Interrupt Enable Bit)

このﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みはﾃﾞﾊﾞｲｽでの割り込みを許可します。

このﾋﾞｯﾄへの'0'書き込みは周辺機能の個別割り込み許可設定に関わらず、ﾃﾞﾊﾞｲｽでの割り込みを禁止します。

このﾋﾞｯﾄは割り込み処理ﾙｰﾁﾝ(ISR)移行中にﾊｰﾄﾞｳｪｱによって解除(0)されず、RETI命令が実行される時に設定(1)されません。

このﾋﾞｯﾄはSEIとCLIの命令でｿﾌﾄｳｪｱによって設定(1)と解除(0)を行うことができます。

I/Oﾚｼﾞｽﾀを通したIﾋﾞｯﾄの変更はそのｱｸｾｽでの1周期の待ち状態に帰着します。

● **ﾋﾞｯﾄ6 – T : 転送ﾋﾞｯﾄ** (Transfer Bit)

ﾋﾞｯﾄ複写命令のﾋﾞｯﾄ取得(BLD)とﾋﾞｯﾄ格納(BST)は操作するための転送元または転送先としてTﾋﾞｯﾄを使います。

● **ﾋﾞｯﾄ5 – H : ﾊｰﾌｷｬﾘｰ ﾌﾗｸﾞ** (Half Carry Flag)

このﾌﾗｸﾞはこれを支援する算術操作でﾊｰﾌｷｬﾘｰがある時に設定(1)されます。ﾊｰﾌｷｬﾘｰはBCD演算に有用です。

● **ﾋﾞｯﾄ4 – S : 符号ﾌﾗｸﾞ** (Sign Flag)

このﾌﾗｸﾞは常に負(N)ﾌﾗｸﾞと2の補数溢れ(V)ﾌﾗｸﾞ間の排他的論理和(XOR)です。

● **ﾋﾞｯﾄ3 – V : 2の補数溢れﾌﾗｸﾞ** (2's Complement Overflow Flag)

このﾌﾗｸﾞはこれを支援する算術操作で溢れがある時に設定(1)され、さもなければ解除(0)されます。

● **ﾋﾞｯﾄ2 – N : 負ﾌﾗｸﾞ** (Negative Flag)

このﾌﾗｸﾞは算術及び論理の操作で負の結果の時に設定(1)され、さもなければ解除(0)されます。

● **ﾋﾞｯﾄ1 – Z : ｾﾞﾛ ﾌﾗｸﾞ** (Zero Flag)

このﾌﾗｸﾞは算術及び論理の操作でｾﾞﾛ(0)の結果の時に設定(1)され、さもなければ解除(0)されます。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – C : ｷｬﾘｰ ﾌﾗｸﾞ** (Carry Flag)

このﾌﾗｸﾞは算術及び論理の操作でｷｬﾘｰ(またはﾎﾞﾛｰ)がある時に設定(1)され、さもなければ解除(0)されます。

7. メモリ

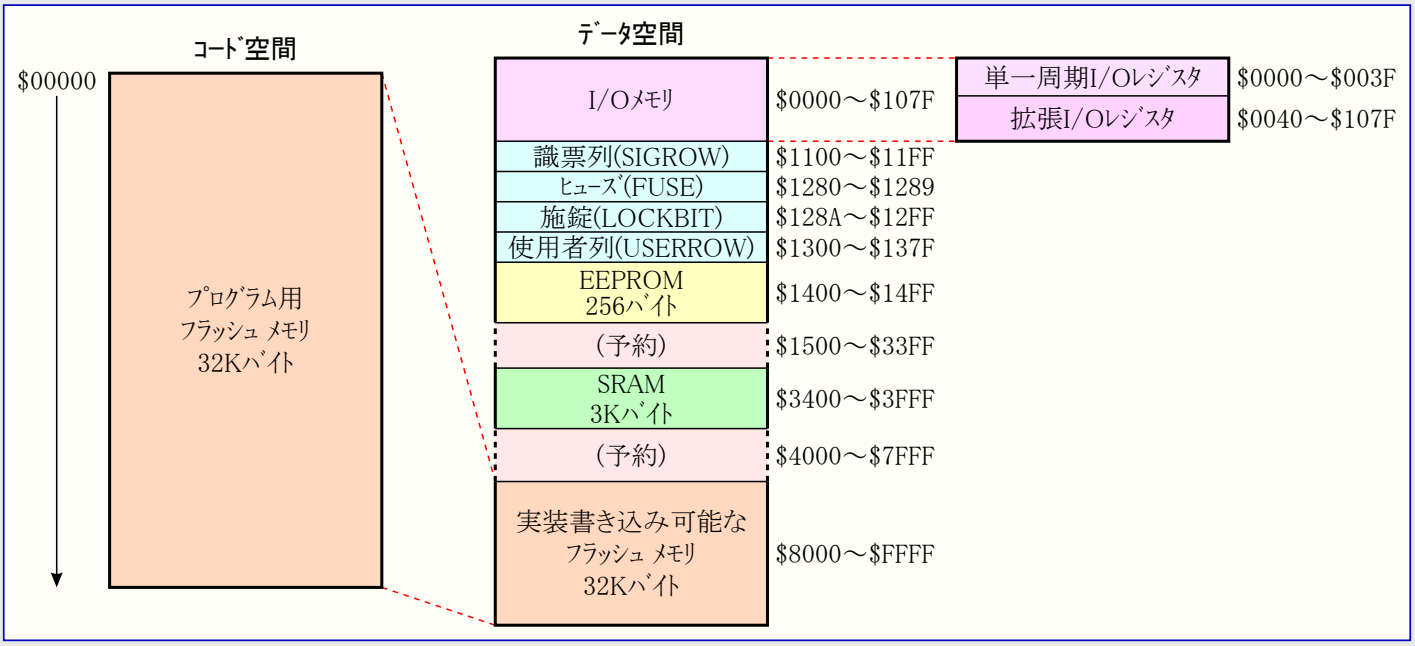
7.1. 概要

ATtiny3224/3226/3227ﾃﾞﾊﾞｲｽの主なﾒﾓﾘはSRAMﾃﾞｰﾀ ﾒﾓﾘ、EEPROMﾃﾞｰﾀ ﾒﾓﾘ、ﾌﾗｯｼｭ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ﾒﾓﾘです。また、周辺機能ﾚｼﾞｽﾀがI/Oﾒﾓﾘ空間に置かれます。

7.2. メモリ配置

下図はtinyAVR 2系統の最大ﾒﾓﾘに対するﾒﾓﾘ配置を示します。更なる詳細については後続する項と周辺機能ｱﾄﾞﾚｽ割り当て表を参照してください。

図7-1. ﾒﾓﾘ配置: ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ 32Kﾊﾞｲﾄ、内部SRAM 3Kﾊﾞｲﾄ、EEPROM 256ﾊﾞｲﾄ



7.3. 実装書き換え可能なﾌﾗｯｼｭ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ﾒﾓﾘ

ATtiny3224/3226/3227はﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ記憶用に実装書き換え可能なﾁｯﾌﾟ上の32Kﾊﾞｲﾄのﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘを含みます。全てのAVR命令が16または32のﾋﾞｯﾄ幅のため、このﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘは16K×16ﾋﾞｯﾄのﾍﾟｰｼﾞとして構成されます。書き込み保護のため、ﾌﾗｯｼｭ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ﾒﾓﾘ空間はﾌﾞｰﾄ ｺｰﾄﾞ領域、応用ｺｰﾄﾞ領域、応用ﾃﾞｰﾀ領域の3つの領域に分けることができます(図7-2.をご覧ください)。1つの領域に置かれたｺｰﾄﾞは別の領域のｱﾄﾞﾚｽへの書き込みを制限されるかもしれません。より多くの詳細については「NVMCTRL – 不揮発性ﾒﾓﾘ制御器」章をご覧ください。

ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ｶｳﾝﾀ(PC)はﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ﾒﾓﾘ全体をｱﾄﾞﾚｽ指定することができます。ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘを書くための手順はNVMCTRL章で詳細に記述されます。

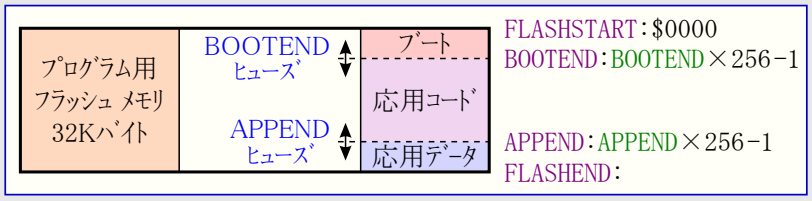
ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘはﾃﾞｰﾀ空間に割り当てられ、通常のLD/ST系命令でｱｸｾｽ可能です。LD/ST系命令について、ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘはｱﾄﾞﾚｽ$8000から割り当てられます。ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘはLPM命令で読むことができます。LPM命令について、ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ開始ｱﾄﾞﾚｽは$0000です。

ATtiny3224/3226/3227はﾊﾞｽの主権者であるCRC単位部を持ちます。

表7-1. ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘの物理的な特性

特性	ATtiny3224/3226/3227
量	32Kﾊﾞｲﾄ
ﾍﾟｰｼﾞ容量	128ﾊﾞｲﾄ
ﾍﾟｰｼﾞ数	256
ﾃﾞｰﾀ空間での開始ｱﾄﾞﾚｽ	$8000
ｺｰﾄﾞ空間での開始ｱﾄﾞﾚｽ	$0000

図7-2. ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘと3つの領域



(訳注) 本図は整合性のため修正しています。

(訳補) BOOTENDﾋｭｰｽﾞ×256が応用ｺｰﾄﾞ領域先頭を、APPENDﾋｭｰｽﾞ×256が応用ﾃﾞｰﾀ領域先頭を示します。

7.4. SRAMデータ メモリ

SRAMメモリの主な仕事は応用データを格納することです。SRAMからコードを実行することは不可能です。

リセット後、プログラム スタックはSRAMの最後に置かれます。

表7-2. SRAMの物理的な特性

特性	ATtiny3224/3226/3227
量	3Kバイト
開始アドレス	$3400

7.5. EEPROMデータ メモリ

EEPROMメモリの主な仕事は不揮発性応用データを格納することです。EEPROMメモリは単一と複数のバイト読み書きを支援します。EEPROMは不揮発性メモリ制御器(NVMCTRL)によって制御されます。

表7-3. EEPROMの物理的な特性

特性	ATtiny3224/3226/3227
量	256バイト
ページ容量	64バイト
ページ数	4
開始アドレス	$1400

7.6. USERROW – 使用者列

ATtiny3224/3226/3227はファームウェア設定に使うことができるEEPROMメモリの1つの付加ページである使用者列(USERROW)を持ちます。このメモリは標準EEPROMとして単一バイトの読み書きを支援します。CPUはこのメモリを標準EEPROMとして読み書きすることができ、UPDIはこの部分が解錠されていれば標準EEPROMメモリとして読み書きすることができます。使用者列はこの部分が施錠されている時にUPDIによって書くこともできます。USERROWはチップ消去によって影響を及ぼされません。

7.7. LOCKBIT – メモリ領域アクセス保護

デバイスはメモリがUPDIを用いて読むことができないように施錠することができます。この施錠はフラッシュ メモリ(ブート、応用コード、応用データの領域の全て)、SRAMとヒューズ(FUSE)データを含むEEEPROMの両方を保護します。これはデバッガ インターフェースを用いた応用のデータやコードの読み込み成功を防ぎます。応用内からの通常のメモリ アクセスは未だ許されます。

デバイスは施錠ビット ヒューズ(FUSE.LOCKBIT)の施錠ビット(LOCKBIT)ビット領域にどれかの非有効鍵を書くことによって施錠されます。

表7-4. 解錠動作/施錠動作でのメモリ アクセス (～/～は解錠時/施錠時、注1)

メモリ領域	CPUアクセス		UPDIアクセス	
	読み	書き	読み	書き
SRAM	○/○	○/○	○/×	○/×
レジスタ	○/○	○/○	○/×	○/×
フラッシュ メモリ	○/○	○/○	○/×	○/×
EEPROM	○/○	○/○	○/×	○/×
使用者列(USERROW)	○/○	○/○	○/×	○/○ (注2)
識票列(SIGROW)	○/○	×/×	○/×	×/×
施錠(LOCK)を含む他のヒューズ	○/○	×/×	○/×	○/×

注1: 表で×と記された読み込み操作が成功に見えるかもしれませんが、データは有効ではありません。故に、UPDIを通すどのコード確認の試みもこれらのメモリ領域で失敗します。

注2: 施錠動作でUSERROWはヒューズ書き込み指令を用いて書くことはできますが、現在のUSERROW値を読み出すことができません。

(訳注) 視認性から原書の表7-4.と表7-5.は表7-4.として纏めました。

重要: デバイスを解錠する唯一の方法はチップ消去(CHIPERASE)です。応用データは保持されません。

7.7.1. 施錠ビット要約

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00	LOCKBIT	7～0	LOCKBIT7~0							

7.7.2. 施錠ﾋﾞｯﾄ説明

7.7.2.1. LOCKBIT – 施錠ﾋﾞｯﾄ (Lock Bits)

名称 : LOCKBIT
変位 : +$00
既定 : $C5
特質 : –

このﾋｭｰｽﾞ説明で与えられる既定値は工場で書かれた値で、ﾘｾｯﾄ値と間違えてはいけません。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	LOCKBIT7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
既定値	1	1	0	0	0	1	0	1

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – LOCKBIT7~0 : 施錠ﾋﾞｯﾄ** (Lock Bits)

ﾃﾞﾊﾞｲｽ施錠時、UPDIはｼｽﾃﾑ ﾊﾞｽをｱｸｾｽできず、故にCS空間以外何も読み出すことができません。

値	$C5	その他
説明	有効な鍵 – ﾃﾞﾊﾞｲｽは開かれます。	無効 – ﾃﾞﾊﾞｲｽは施錠されます。

7.8. FUSE – 構成設定と使用者ﾋｭｰｽﾞ

ﾋｭｰｽﾞは不揮発性ﾒﾓﾘの一部でﾃﾞﾊﾞｲｽ構成設定を保持します。ﾋｭｰｽﾞはCPUまたはUPDIによって読むことができますが、UPDIによってだけ設定または解除を行うことができます。ﾋｭｰｽﾞに格納された構成設定値は始動手順の最後でそれら各々の目的対象ﾚｼﾞｽﾀに書かれ(転送され)ます。

周辺機能構成設定用ﾋｭｰｽﾞ(FUSE)は予め設定されますが、使用者によって変えることができます。構成設定ﾋｭｰｽﾞで変えられた値はﾘｾｯﾄ後にだけ有効です。

注: ﾋｭｰｽﾞを書く時に全ての予約ﾋﾞｯﾄは'1'を書かれなければなりません。

7.8.1. ﾋｭｰｽﾞ要約

変位	略称	ﾋﾞｯﾄ位置	ﾋﾞｯﾄ7	ﾋﾞｯﾄ6	ﾋﾞｯﾄ5	ﾋﾞｯﾄ4	ﾋﾞｯﾄ3	ﾋﾞｯﾄ2	ﾋﾞｯﾄ1	ﾋﾞｯﾄ0
+$00	WDTCFG	7～0	WINDOW3~0				PERIOD3~0			
+$01	BODCFG	7～0	LVL2~0			SAMPFREQ	ACTIVE1,0		SLEEP1,0	
+$02	OSCCFG	7～0	OSCLOCK						FREQSEL1,0	
+$03 ～ +$04	予約									
+$05	SYSCFG0	7～0	CRCSRC1,0			TOUTDIS	RSTPINCFG1,0			EESAVE
+$06	SYSCFG1	7～0						SUT2~0		
+$07	APPEND	7～0	APPEND7~0							
+$08	BOOTEND	7～0	BOOTEND7~0							

7.8.2. ヒューズ説明

7.8.2.1. WDTCFG – ウォッチドッグ構成設定 (Watchdog Configration)

名称 : WDTCFG
変位 : +$00
既定 : $00
特質 : –

このヒューズ記述で与えられる既定値は工場書き込み値で、リセット値と間違えてはいけません。

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
	WINDOW3~0				PERIOD3~0			
アクセス種別	R	R	R	R	R	R	R	R
既定値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット7~4 – WINDOW3~0 : ウォッチドッグ窓制限時間周期** (Watchdog Window Timeout Period)

この値はリセット中にウォッチドッグ制御A(WDT.CTRLA)レジスタの窓期間(WINDOW)ビット領域に設定されます。

● **ビット3~0 – PERIOD3~0 : ウォッチドッグ制限時間周期** (Watchdog Timeout Period)

この値はリセット中にウォッチドッグ制御A(WDT.CTRLA)レジスタの制限期間(PERIOD)ビット領域に設定されます。

7.8.2.2. BODCFG – 低電圧検出器構成設定 (Brown-out Detector Configration)

名称 : BODCFG
変位 : +$01
既定 : $00
特質 : –

BODの設定はリセット後にこのヒューズから(読まれて)設定されます。

このヒューズ記述で与えられる既定値は工場書き込み値で、リセット値と間違えてはいけません。

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
	LVL2~0			SAMPFREQ	ACTIVE1,0		SLEEP1,0	
アクセス種別	R	R	R	R	R	R	R	R
既定値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット7~5 – LVL2~0 : BOD基準** (BOD Level)

この値はリセット中にBOD制御B(BOD.CTRLB)レジスタのBOD基準(LVL)ビット領域に設定されます。

値	0 0 0	0 0 1	0 1 0	0 1 1	1 0 0	1 0 1	1 1 0	1 1 1
名称	BODLEVEL0	BODLEVEL1	BODLEVEL2	BODLEVEL3	BODLEVEL4	BODLEVEL5	BODLEVEL6	BODLEVEL7
説明	1.8V	2.15V	2.60V	2.95V	3.30V	3.70V	4.00V	4.30V

● **ビット4 – SAMPFREQ : BOD採取周波数** (BOD Sample Frequency)

この値はリセット中にBOD制御A(BOD.CTRLA)レジスタの採取周波数(SAMPFREQ)ビットに設定されます。

値	0	1
説明	採取周波数は1kHzです。	採取周波数は125Hzです。

● **ビット3,2 – ACTIVE1,0 : 活動とアイドルでのBOD動作形態** (BOD Operation Mode in Active and Idle)

この値はリセット中にBOD制御A(BOD.CTRLA)レジスタの活動/アイドル時動作(ACTIVE)ビット領域に設定されます。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
説明	禁止	許可	採取動作	BODの準備が整うまで停止され、起き上がりで許可

● **ビット1,0 – SLEEP1,0 : 休止でのBOD動作形態** (BOD Operation Mode in Sleep)

この値はリセット中にBOD制御A(BOD.CTRLA)レジスタのスタンバイ/パワーダウン時動作(SLEEP)ビット領域に設定されます。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
説明	禁止	許可	採取動作	(予約)

7.8.2.3. OSCCFG – 発振器構成設定 (Oscillator Configration)

名称 : OSCCFG
変位 : +$02
既定 : $7E
特質 : –

このヒューズ記述で与えられる既定値は工場書き込み値で、リセット値と間違えてはいけません。

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
	OSCLOCK						FREQSEL1,0	
アクセス種別	R	R	R	R	R	R	R	R
既定値	0	–	–	–	–	–	1	0

● **ビット7 – OSCLOCK : 発振器施錠** (Oscillator Lock)

このヒューズ ビットはリセット中にCLKCTRL.OSC20MCALIBBレジスタの施錠(LOCK)ビットに設定されます。

値	0	1
説明	20MHz発振器の校正レジスタはアクセス可能です。	20MHz発振器の校正レジスタは施錠されます。

● **ビット1,0 – FREQSEL1,0 : 周波数選択** (Frequency Select)

これらのビットは20MHz内部発振器(OSC20M)の動作周波数を選び、16/20MHz発振器校正A(CLKCTRL.OSC20MCALIBA)レジスタの校正(CAL20M)と16/20MHz発振器校正B(CLKCTRL.OSC20MCALIBB)レジスタの温度校正(TEMPCAL20M)に書かれるべき各々の工場校正値を決めます。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
説明	(予約)	16MHzで走行	20MHzで走行	(予約)

7.8.2.4. SYSCFG0 – システム構成設定0 (System Configration 0)

名称 : SYSCFG0
変位 : +$05
既定 : $F6
特質 : –

このヒューズ記述で与えられる既定値は工場書き込み値で、リセット値と間違えてはいけません。

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
	CRCSRC1,0			TOUTDIS	RSTPINCFG1,0			EESAVE
アクセス種別	R	R	R	R	R	R	R	R
既定値	1	1	0	1	0	1	0	0

● **ビット7,6 – CRCSRC1,0 : CRC供給元** (CRC Source)

機能についてのより多くの情報に関してはCRC記述をご覧ください。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	FLASH	BOOT	BOOTAPP	NOCRC
説明	全フラッシュ メモリ (ブート、応用コード、応用データ)のCRC	ブート領域のCRC	応用コードと ブートの領域のCRC	CRCなし

● **ビット4 – TOUTDIS : 制限時間禁止** (Time Out Disable)

このビットはPOR後のNVM書き込阻止を禁止することができます。FUSE.SYSCFG0のTOUTDISビットが'0'で、FUSE.SYSCFG0のリセットピン構成設定(RSTPINCFG)ビット領域がGPIOまたはRESETに構成設定される時に、NVM書き込みを阻止するPOR後の制限時間があります。NVM書き込み阻止はPOR後768 OSC32K周期間続きます。ページ緩衝部が満たされる、またはNVM指令が発行され得る前に、状態(NVMCTRL.STATUS)レジスタのEEPROM多忙(EEBUSY)とフラッシュ メモリ多忙(FBUSY)が'0'を読まなければなりません。

値	0	1
説明	NVM書き込み阻止許可	NVM書き込み阻止禁止

● **ビット3,2 – RSTPINCFG1,0 : リセット ピン構成設定** (Reset Pin Configuration)

このビット領域はリセット ピンに対するピン構成設定を選びます。

注: RESETピンをGPIOとして構成設定すると、活動的なGPIO出力駆動と高電圧UPDI許可手順初期化間で潜在的な衝突があります。これを避けるため、GPIO出力駆動部はシステム リセット後に768 OSC32K周期間禁止されます。このピンに対するどの割り込みもこの期間後にだけ許可してください。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
説明	汎用入出力(GPIO)	UPDI	RESET	(予約)

● **ﾋﾞｯﾄ0 – EESAVE : ﾁｯﾌﾟ消去中EEPROM保存** (EEPROM Save during chip erase)

このﾋﾞｯﾄはﾁｯﾌﾟ消去中にEEPROMが消去されるかどうかを制御します。許可('1')された場合、ﾁｯﾌﾟ消去によってﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘだけが消去されます。ﾃﾞﾊﾞｲｽが施錠されている場合、EEPROMはこのﾋﾞｯﾄに関わらずﾁｯﾌﾟ消去によって常に消去されます。

値	0	1
説明	ﾁｯﾌﾟ消去中にEEPROMが消去されます。	ﾁｯﾌﾟ消去中にEEPROMは消去されません。

7.8.2.5. SYSCFG1 – ｼｽﾃﾑ構成設定1 (System Configration 1)

名称 : SYSCFG1
変位 : +$06
既定 : $FF
特質 : –

このﾋｭｰｽﾞ記述で与えられる既定値は工場書き込み値で、ﾘｾｯﾄ値と間違えてはいけません。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
						SUT2~0		
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
既定値	–	–	–	–	–	1	1	1

● **ﾋﾞｯﾄ2~0 – SUT2~0 : 始動時間設定** (Start Up Time Setting)

これらのﾋﾞｯﾄは電源ONとｺｰﾄﾞ実行間の始動時間を選びます。

値	0 0 0	0 0 1	0 1 0	0 1 1	1 0 0	1 0 1	1 1 0	1 1 1
説明	0ms	1ms	2ms	4ms	8ms	16ms	32ms	64ms

7.8.2.6. APPEND – 応用ｺｰﾄﾞ領域の最後 (Application Code Section End)

名称 : APPEND
変位 : +$07
既定 : $00
特質 : –

このﾋｭｰｽﾞ記述で与えられる既定値は工場書き込み値で、ﾘｾｯﾄ値と間違えてはいけません。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	APPEND7~0							
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
既定値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – APPEND7~0 : 応用ｺｰﾄﾞ領域の最後** (Application Code Section End)

このﾋﾞｯﾄ領域はﾌﾞｰﾄ ｺｰﾄﾞ領域と応用ｺｰﾄﾞ領域を組み合わせた大きさを256ﾊﾞｲﾄ単位で制御します。より多くの詳細は「NVMCTRL – 不揮発性ﾒﾓﾘ制御器」章を参照してください。

注: FUSE.BOOTENDが$00の場合、ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ全体がﾌﾞｰﾄ ｺｰﾄﾞ領域です。

7.8.2.7. BOOTEND – ﾌﾞｰﾄの最後 (Boot End)

名称 : BOOTEND
変位 : +$08
既定 : $00
特質 : –

このﾋｭｰｽﾞ記述で与えられる既定値は工場書き込み値で、ﾘｾｯﾄ値と間違えてはいけません。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	BOOTEND7~0							
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
既定値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – BOOTEND7~0 : ﾌﾞｰﾄ領域の最後** (Boot Section End)

このﾋﾞｯﾄ領域はﾌﾞｰﾄ領域の大きさを256ﾊﾞｲﾄ単位で制御します。$00の値はﾌﾞｰﾄ ｺｰﾄ領域としてﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ全体を定義します。
より多くの詳細は「NVMCTRL – 不揮発性ﾒﾓﾘ制御器」章を参照してください。

7.9. SIGROW – 識票列

識票列(SIGROW)ﾋｭｰｽﾞの内容は予め書かれていて変えることはできません。SIGROWはﾃﾞﾊﾞｲｽID、通番、校正値のような情報を保持します。

全てのAVRﾏｲｸﾛ ｺﾝﾄﾛｰﾗはﾃﾞﾊﾞｲｽを識別する3ﾊﾞｲﾄのﾃﾞﾊﾞｲｽIDを持ちます。ﾃﾞﾊﾞｲｽIDはUPDIｲﾝﾀｰﾌｪｰｽを使って、また、ﾃﾞﾊﾞｲｽが施錠されている時にも読むことができます。この3ﾊﾞｲﾄは識票列に属します。この識票ﾊﾞｲﾄは右表で与えられます。

表7-6. ﾃﾞﾊﾞｲｽID

ﾃﾞﾊﾞｲｽ名	識票ﾊﾞｲﾄ ｱﾄﾞﾚｽ		
	$0000	$0001	$0002
ATtiny3224	$1E	$95	$28
ATtiny3226	$1E	$95	$27
ATtiny3227	$1E	$95	$26

7.9.1. 識票列要約

変位	略称	ﾋﾞｯﾄ位置	ﾋﾞｯﾄ7	ﾋﾞｯﾄ6	ﾋﾞｯﾄ5	ﾋﾞｯﾄ4	ﾋﾞｯﾄ3	ﾋﾞｯﾄ2	ﾋﾞｯﾄ1	ﾋﾞｯﾄ0
+$00	DEVICEID0	7～0	DEVICEID7~0							
+$01	DEVICEID1	7～0	DEVICEID7~0							
+$02	DEVICEID2	7～0	DEVICEID7~0							
+$03	SERNUM0	7～0	SERNUM7~0							
+$04	SERNUM1	7～0	SERNUM7~0							
+$05	SERNUM2	7～0	SERNUM7~0							
+$06	SERNUM3	7～0	SERNUM7~0							
+$07	SERNUM4	7～0	SERNUM7~0							
+$08	SERNUM5	7～0	SERNUM7~0							
+$09	SERNUM6	7～0	SERNUM7~0							
+$0A	SERNUM7	7～0	SERNUM7~0							
+$0B	SERNUM8	7～0	SERNUM7~0							
+$0C	SERNUM9	7～0	SERNUM7~0							
+$0D ～ +$17	予約									
+$18	OSCCAL16M0	7～0		OSCCAL16M6~0						
+$19	OSCCAL16M1	7～0					OSCCAL16MTCAL3~0			
+$1A	OSCCAL20M0	7～0		OSCCAL20M6~0						
+$1B	OSCCAL20M1	7～0					OSCCAL20MTCAL3~0			
+$1C ～ +$1F	予約									
+$20	TEMPSENSE0	7～0	TEMPSENSE7~0							
+$21	TEMPSENSE1	7～0	TEMPSENSE7~0							
+$22	OSC16ERR3V	7～0	OSC16ERR3V7~0							
+$23	OSC16ERR5V	7～0	OSC16ERR5V7~0							
+$24	OSC20ERR3V	7～0	OSC20ERR3V7~0							
+$25	OSC20ERR5V	7～0	OSC20ERR5V7~0							

(訳注) 原書ではOSCxxERRxV校正値がありませんが、CLKCTRL章でこの記述があるため、整合性のために追加しています。

7.9.2. 識票列説明

7.9.2.1. DEVICEIDn – ﾃﾞﾊﾞｲｽIDn (Device ID n)

名称 : DEVICEID0 : DEVICEID1 : DEVICEID2
変位 : +$00 : +$01 : +$02
ﾘｾｯﾄ : [ﾃﾞﾊﾞｲｽID]
特質 : –

各ﾃﾞﾊﾞｲｽはﾃﾞﾊﾞｲｽとﾒﾓﾘ量、ﾋﾟﾝ数、ﾀﾞｲ改訂のようなそれの特性を識別するﾃﾞﾊﾞｲｽIDを持ちます。これはﾃﾞﾊﾞｲｽを識別するのに使うことができ、故にｿﾌﾄｳｪｱによって利用可能な機能です。ﾃﾞﾊﾞｲｽIDはSIGROW.DEVICEID2～0の3ﾊﾞｲﾄから成ります。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	DEVICEID7~0							
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	x	x	x	x	x	x	x	x

- **ﾋﾞｯﾄ7~0 – DEVICEID7~0 : ﾃﾞﾊﾞｲｽIDのﾊﾞｲﾄn** (Byte n of the Device ID)

7.9.2.2. SERNUMn – 通番ﾊﾞｲﾄn (Serial Number Byte n)

名称 : SERNUM0 : SERNUM1 : SERNUM2 : SERNUM3 : SERNUM4 : SERNUM5 : SERNUM6 : SERNUM7 : SERNUM8 : SERNUM9
変位 : +$03 : +$04 : +$05 : +$06 : +$07 : +$08 : +$09 : +$0A : +$0B : +$0C
ﾘｾｯﾄ : [ﾃﾞﾊﾞｲｽ通番のﾊﾞｲﾄn]
特質 : –

各ﾃﾞﾊﾞｲｽは固有のIDを表す個別の通番を持ちます。これは在野で特定ﾃﾞﾊﾞｲｽを識別するのに使うことができます。通番はSIGROW.SERNUM9～0の10ﾊﾞｲﾄから成ります。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	SERNUM7~0							
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	x	x	x	x	x	x	x	x

- **ﾋﾞｯﾄ7~0 – SERNUM7~0 : 通番のﾊﾞｲﾄn** (Serial Number n [n=0～9])

7.9.2.3. OSCCAL16M0 – OSC16校正ﾊﾞｲﾄ (OSC16 Calibration byte)

名称 : OSCCAL16M0
変位 : +$18
ﾘｾｯﾄ : [発振器工場校正値]
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
		OSCCAL16M6~0						
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	–	x	x	x	x	x	x	x

- **ﾋﾞｯﾄ6~0 – OSCCAL16M6~0 : OSC16校正** (OSC16 Calibration)

これらのﾋﾞｯﾄは内部16MHz発振器用工場校正値を含みます。OSCCFGﾋｭｰｽﾞがﾃﾞﾊﾞｲｽを16MHzで走行するように構成設定される場合、このﾊﾞｲﾄは内部16MHz RC発振器を校正するため、ﾘｾｯﾄ中、自動的に16/20MHz発振器校正A(OSC20MCALIBA)ﾚｼﾞｽﾀへ複写されます。

7.9.2.4. OSCCAL16M1 – OSC16温度校正ﾊﾞｲﾄ (OSC16 Temperature Calibration byte)

名称 : OSCCAL16M1
変位 : +$19
ﾘｾｯﾄ : [発振器工場温度校正値]
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
					OSCCAL16MTCAL3~0			
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	–	–	–	–	x	x	x	x

- **ﾋﾞｯﾄ3~0 – OSCCAL16MTCAL3~0 : OSC16温度校正** (OSC16 Temperature Calibration)

これらのﾋﾞｯﾄは内部16MHz発振器用工場温度校正値を含みます。OSCCFGﾋｭｰｽﾞがﾃﾞﾊﾞｲｽを16MHzで走行するように構成設定される場合、このﾊﾞｲﾄは校正したRC発振器の正しい周波数を保証するため、ﾘｾｯﾄ中、自動的に16/20MHz発振器校正B(OSC20MCALIBB)ﾚｼﾞｽﾀへ複写されます。

7.9.2.5. OSCCAL20M0 – OSC20校正ﾊﾞｲﾄ (OSC20 Calibration byte)

名称 : OSCCAL20M0
変位 : +$1A
ﾘｾｯﾄ : [発振器工場校正値]
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
		OSCCAL20M6~0						
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	–	x	x	x	x	x	x	x

● **ﾋﾞｯﾄ6~0 – OSCCAL20M6~0 : OSC20校正** (OSC20 Calibration)

これらのﾋﾞｯﾄは内部20MHz発振器用工場校正値を含みます。OSCCFGﾋｭｰｽﾞがﾃﾞﾊﾞｲｽを20MHzで走行するように構成設定される場合、このﾊﾞｲﾄは内部20MHz RC発振器を校正するため、ﾘｾｯﾄ中、自動的に16/20MHz発振器校正A(OSC20MCALIBA)ﾚｼﾞｽﾀへ複写されます。

7.9.2.6. OSCCAL20M1 – OSC20温度校正ﾊﾞｲﾄ (OSC20 Temperature Calibration byte)

名称 : OSCCAL20M1
変位 : +$1B
ﾘｾｯﾄ : [発振器工場温度校正値]
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
					OSCCAL20MTCAL3~0			
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	–	–	–	–	x	x	x	x

● **ﾋﾞｯﾄ3~0 – OSCCAL20MTCAL3~0 : OSC20温度校正** (OSC20 Temperature Calibration)

これらのﾋﾞｯﾄは内部20MHz発振器用工場温度校正値を含みます。OSCCFGﾋｭｰｽﾞがﾃﾞﾊﾞｲｽを20MHzで走行するように構成設定される場合、このﾊﾞｲﾄは校正したRC発振器の正しい周波数を保証するため、ﾘｾｯﾄ中、自動的に16/20MHz発振器校正B(OSC20MCALIBB)ﾚｼﾞｽﾀへ複写されます。

7.9.2.7. TEMPSENSEn – 温度感知器校正n (Temperature Sensor Calibration n)

名称 : TEMPSENSE0 : TEMPSENSE1
変位 : +$20 : +$21
ﾘｾｯﾄ : [温度感知器校正値]
特質 : –

温度感知器校正ﾚｼﾞｽﾀはﾁｯﾌﾟ上感知器での温度測定に対する修正係数を含みます。SIGROW.TEMPSENSE0は利得/傾斜に対する(符号なし)修正係数で、SIGROW.TEMPSENSE1は変位(ｵﾌｾｯﾄ)に対する(符号付き)修正係数です。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
				TEMPSENSE7~0				
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	x	x	x	x	x	x	x	x

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – TEMPSENSE7~0 : 温度感知器校正ﾊﾞｲﾄn** (Temperature Sensor Calibration Byte)

このﾚｼﾞｽﾀの使用方法については「ADC」章の「温度測定」を参照してください。

7.9.2.8. OSC16ERR3V – 3VでのOSC16誤差 (OSC16 error at 3V)

名称 : OSC16ERR3V
変位 : +$22
ﾘｾｯﾄ : [発振器周波数誤差値]
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
				OSC16ERR3V7~0				
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	x	x	x	x	x	x	x	x

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – OSC16ERR3V7~0 : 3VでのOSC16誤差** (OSC16 error at 3V) (**訳注**:次頁脚注の訳補参照)

このﾚｼﾞｽﾀは製造中に測定した3V/内部16MHz走行時の標準発振器周波数に相対する符号付き発振器周波数誤差値を含みます。

7.9.2.9. OSC16ERR5V – 5VでのOSC16誤差 (OSC16 error at 5V)

名称 : OSC16ERR5V
変位 : +$23
ﾘｾｯﾄ : [発振器周波数誤差値]
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	OSC16ERR5V7~0							
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	x	x	x	x	x	x	x	x

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – OSC16ERR5V7~0 : 5VでのOSC16誤差** (OSC16 error at 5V) (**訳注**:脚注の訳補参照)

このﾚｼﾞｽﾀは製造中に測定した5V/内部16MHz走行時の標準発振器周波数に相対する符号付き発振器周波数誤差値を含みます。

7.9.2.10. OSC20ERR3V – 3VでのOSC20誤差 (OSC20 error at 3V)

名称 : OSC20ERR3V
変位 : +$24
ﾘｾｯﾄ : [発振器周波数誤差値]
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	OSC20ERR3V7~0							
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	x	x	x	x	x	x	x	x

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – OSC20ERR3V7~0 : 3VでのOSC20誤差** (OSC20 error at 3V) (**訳注**:脚注の訳補参照)

このﾚｼﾞｽﾀは製造中に測定した3V/内部20MHz走行時の標準発振器周波数に相対する符号付き発振器周波数誤差値を含みます。

7.9.2.11. OSC20ERR5V – 5VでのOSC20誤差 (OSC20 error at 5V)

名称 : OSC20ERR5V
変位 : +$25
ﾘｾｯﾄ : [発振器周波数誤差値]
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	OSC20ERR5V7~0							
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	x	x	x	x	x	x	x	x

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – OSC20ERR5V7~0 : 5VでのOSC20誤差** (OSC20 error at 5V) (**訳注**:脚注の訳補参照)

このﾚｼﾞｽﾀは製造中に測定した5V/内部20MHz走行時の標準発振器周波数に相対する符号付き発振器周波数誤差値を含みます。

(**訳補**) OSCxxERRxVﾚｼﾞｽﾀは「CLKCTRL」章のｺｰﾄﾞ例に基づくと[(公称周波数−実測周波数)/公称周波数×1024]の符号付き8ﾋﾞｯﾄ値で概ね+12.7～−12.8%の誤差を表します。

7.10. I/Oメモリ

ATtiny3224/3226/3227ﾃﾞﾊﾞｲｽの全てのI/Oと周辺機能はI/Oﾒﾓﾘ空間に配置されます。更なる詳細については周辺機能ｱﾄﾞﾚｽ割り当て表を参照してください。

将来のﾃﾞﾊﾞｲｽとの互換性のため、予約ﾋﾞｯﾄを含むﾚｼﾞｽﾀが書かれる場合、予約されたﾋﾞｯﾄは'0'を書かれるべきです。予約されたI/Oﾒﾓﾘ ｱﾄﾞﾚｽは決して書かれるべきではありません。

単一周期I/Oﾚｼﾞｽﾀ

$00～$3Fに及ぶI/OﾒﾓﾘはINまたはOUTの命令を使って単一周期CPU命令によってｱｸｾｽすることができます。

単一周期I/Oﾚｼﾞｽﾀで利用可能な周辺機能は次のとおりです。

- VPORTx (仮想ﾎﾟｰﾄ)
  - 更なる詳細については「I/Oﾋﾟﾝ構成設定」章を参照してください。
- GPIO (汎用ﾚｼﾞｽﾀ)
  - 更なる詳細については「I/Oﾋﾟﾝ構成設定」章を参照してください。
- CPU
  - 更なる詳細については「AVR CPU」章を参照してください。

$00～$1Fに及ぶ単一周期I/Oﾚｼﾞｽﾀ(VPORTxとGPIO)はSBIまたはCBIの命令を用いて直接ﾋﾞｯﾄ ｱｸｾｽも可能です。これらの単一周期I/Oﾚｼﾞｽﾀでは、SBISまたはSBICの命令を用いることによって単一ﾋﾞｯﾄを調べることができます。

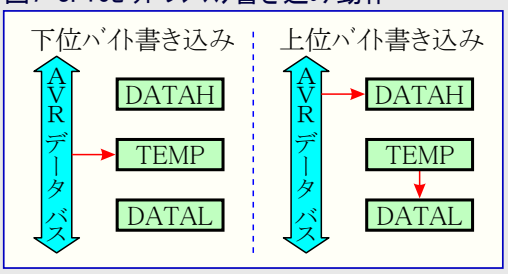
更なる詳細については「命令一式要約」章を参照してください。

7.10.1. 16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀのｱｸｾｽ

ATtiny3224/3226/3227ﾃﾞﾊﾞｲｽ用のﾚｼﾞｽﾀの殆どは8ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀですが、このﾃﾞﾊﾞｲｽは少数の16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀも特徴です。AVRﾃﾞｰﾀ ﾊﾞｽが8ﾋﾞｯﾄの幅を持つため、16ﾋﾞｯﾄのｱｸｾｽは2つの読みまたは書きの操作を必要とします。ATtiny3224/3226/3227ﾃﾞﾊﾞｲｽの全ての16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀは一時(TEMP)ﾚｼﾞｽﾀを通して8ﾋﾞｯﾄ ﾊﾞｽに接続されます。

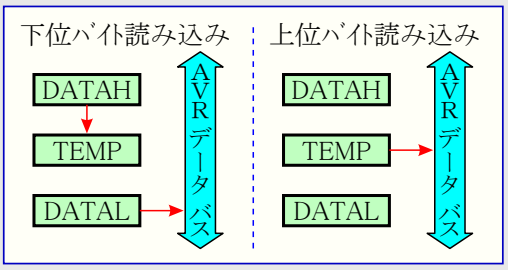
16ﾋﾞｯﾄ書き込み操作については、16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀの下位ﾊﾞｲﾄ ﾚｼﾞｽﾀ(例えば、DATAL)が上位ﾊﾞｲﾄ ﾚｼﾞｽﾀ(例えば、DATAH)に先立って書かれなければなりません。下位ﾊﾞｲﾄ ﾚｼﾞｽﾀ書き込みは右図の左側で示されるように、下位ﾊﾞｲﾄ ﾚｼﾞｽﾀの代わりに一時(TEMP)ﾚｼﾞｽﾀへの書き込みに帰着します。16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀの上位ﾊﾞｲﾄ ﾚｼﾞｽﾀが書かれると、同じ図の右側で示されるように、同じｸﾛｯｸ周期でTEMPが16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀの下位ﾊﾞｲﾄに複写されます。

図7-3. 16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀ書き込み動作



16ﾋﾞｯﾄ読み込み操作については、16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀの下位ﾊﾞｲﾄ ﾚｼﾞｽﾀ(例えば、DATAL)が上位ﾊﾞｲﾄ ﾚｼﾞｽﾀ(例えば、DATAH)に先立って読まれなければなりません。下位ﾊﾞｲﾄ ﾚｼﾞｽﾀが読まれると、右図の左側で示されるように、同じｸﾛｯｸ周期で16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀの上位ﾊﾞｲﾄ ﾚｼﾞｽﾀがTEMPに複写されます。上位ﾊﾞｲﾄ ﾚｼﾞｽﾀ読み込みは同じ図の右側で示されるように、上位ﾊﾞｲﾄ ﾚｼﾞｽﾀの代わりに一時(TEMP)ﾚｼﾞｽﾀからの読み込みに帰着します。

図7-4. 16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀ読み込み動作



記述された機構はﾚｼﾞｽﾀが読みまたは書きされた時に16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀの上位と下位のﾊﾞｲﾄが常に同時にｱｸｾｽされることを保証します。

16ﾋﾞｯﾄ読み書き操作の間に割り込みが起動され、割り込み処理ﾙｰﾁﾝで同じ周辺機能内の16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀがｱｸｾｽされる場合、割り込みは時限手順を不正にし得ます。これを防ぐため、16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀを読みまたは書きする時に割り込みが禁止されるべきです。代わりに、割り込み処理ﾙｰﾁﾝで一時ﾚｼﾞｽﾀを先に読んで、16ﾋﾞｯﾄ ｱｸｾｽ後に復元することができます。

7.10.2. 32ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀのｱｸｾｽ

32ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀについては、32ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀ用に3つの一時ﾚｼﾞｽﾀがあることを除き、16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀに対して記述されたのと同じ方法で行われます。ﾚｼﾞｽﾀに書く時は最上位ﾊﾞｲﾄ(MSB)が最後に書かれなければならず、ﾚｼﾞｽﾀを読む時は最下位ﾊﾞｲﾄ(LSB)が先に読まれなければなりません。

8. 汎用I/Oレジスタ

ATtiny3224/3226/3227デバイスは4つの汎用I/Oレジスタを提供します。これらのレジスタはどんな情報を格納するのにも使うことができ、それらは特に全域変数と割り込みフラグを格納するのに有用です。アドレス範囲$0C～1Fに属す汎用I.OレジスタはSBI、CBI、SBIS、SBICの命令を用いて直接ビット アクセス可能です。

8.1. レジスタ要約

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00	GPIOR0	7～0	GPIOR7~0							
+$01	GPIOR1	7～0	GPIOR7~0							
+$02	GPIOR2	7～0	GPIOR7~0							
+$03	GPIOR3	7～0	GPIOR7~0							

8.2. ﾚｼﾞｽﾀ説明

8.2.1. GPIORn – 汎用I/Oﾚｼﾞｽﾀn (General Purpose I/O Register n)

名称 : GPIOR0 : GPIOR1 : GPIOR2 : GPIOR3
変位 : +$00 : +$01 : +$02 : +$03
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

これらはﾋﾞｯﾄ ｱｸｾｽ可能なI/Oﾒﾓﾘ空間で全域変数やﾌﾗｸﾞのようなﾃﾞｰﾀを格納するのに使うことができる汎用ﾚｼﾞｽﾀです。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	GPIOR7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

- **ﾋﾞｯﾄ7~0 – GPIOR7~0 : 汎用I/Oﾚｼﾞｽﾀn ﾊﾞｲﾄ** (General Purpose I/O Register Byte)

9. 周辺機能と基本構造

9.1. 周辺機能ｱﾄﾞﾚｽ配置

ｱﾄﾞﾚｽ配置は各周辺機能に対する基準ｱﾄﾞﾚｽを示します。各周辺機能に対する完全なﾚｼﾞｽﾀ記述と要約については各々の周辺機能章を参照してください。

表9-1. 周辺機能ｱﾄﾞﾚｽ配置

基準ｱﾄﾞﾚｽ	名称	説明	基準ｱﾄﾞﾚｽ	名称	説明
$0000	VPORTA	仮想ﾎﾟｰﾄA	$0400	PORTA	ﾎﾟｰﾄA構成設定
$0004	VPORTB	仮想ﾎﾟｰﾄB	$0420	PORTB	ﾎﾟｰﾄB構成設定
$0008	VPORTC	仮想ﾎﾟｰﾄC (注)	$0440	PORTC	ﾎﾟｰﾄC構成設定 (注)
$001C	GPIO	汎用I/Oﾚｼﾞｽﾀ	$05E0	PORTMUX	ﾎﾟｰﾄ多重器
$0030	CPU	CPU	$0600	ADC0	A/D変換器0
$0040	RSTCTRL	ﾘｾｯﾄ制御器	$0680	AC0	ｱﾅﾛｸﾞ比較器0
$0050	SLPCTRL	休止制御器	$0800	USART0	万能同期非同期送受信器0
$0060	CLKCTRL	ｸﾛｯｸ制御器	$0820	USART1	万能同期非同期送受信器1
$0080	BOD	低電圧検出	$0810	TWI0	2線ｲﾝﾀｰﾌｪｰｽ0
$00A0	VREF	基準電圧	$08C0	SPI0	直列周辺ｲﾝﾀｰﾌｪｰｽ0
$0100	WDT	ｳｫｯﾁﾄﾞｯｸﾞ ﾀｲﾏ	$0A00	TCA0	ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀA型0
$0110	CPUINT	割り込み制御器	$0A80	TCB0	ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀB型0
$0120	CRCSCAN	巡回冗長検査ﾒﾓﾘ走査	$0A90	TCB1	ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀB型1
$0140	RTC	実時間計数器	$0F00	SYSCFG	ｼｽﾃﾑ構成設定
$0180	EVSYS	事象ｼｽﾃﾑ	$1000	NVMCTRL	不揮発性ﾒﾓﾘ制御器
$01C0	CCL	構成設定可能な注文論理回路			

注: このﾚｼﾞｽﾀの有効性はﾃﾞﾊﾞｲｽのﾋﾟﾝ数に依存します。PORTC/VPORTCは20ﾋﾟﾝ以上のﾃﾞﾊﾞｲｽで利用可能です。

表9-2. ｼｽﾃﾑ ﾒﾓﾘ ｱﾄﾞﾚｽ配置

基準ｱﾄﾞﾚｽ	名称	説明	基準ｱﾄﾞﾚｽ	名称	説明
$1100	SIGROW	識票列	$128A	LOCKBIT	施錠ﾋﾞｯﾄ
$1280	FUSE	ﾃﾞﾊﾞｲｽ特有ﾋｭｰｽﾞ	$1300	USERROW	使用者列

9.2. 割り込みﾍﾞｸﾀ配置

割り込みﾍﾞｸﾀの各々は次表で示されるように1つの周辺機能実体に接続されます。周辺機能は1つ以上の割り込み元を持ち得ます。利用可能な割り込み元のより多くの詳細については各々の周辺機能の「機能的な説明」の「割り込み」項をご覧ください。

割り込み条件が起こると、例え割り込みが許可されていなくても、周辺機能の割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(周辺機能名.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀで割り込み要求ﾌﾗｸﾞが設定(1)されます。

割り込みは周辺機能の割り込み制御(周辺機能名.INTCTRL)ﾚｼﾞｽﾀで対応する割り込み許可ﾋﾞｯﾄを書くことによって許可または禁止にされます。

割り込み要求は対応する割り込みが許可され、割り込み要求ﾌﾗｸﾞが設定(1)される時に生成されます。割り込み要求はその割り込み要求ﾌﾗｸﾞが解除(0)されるまで活性に留まります。割り込み要求ﾌﾗｸﾞを解除(0)する方法の詳細については周辺機能のINTFLAGSﾚｼﾞｽﾀをご覧ください。

注: 割り込み要求が生成されるには割り込みが全体的に許可されなければなりません。

表9-3. 割り込みベクタ配置

ベクタ番号	プログラム アドレス (語)	周辺機能 (名称)	説明
0	$0000	RESET	リセット
1	$0002	NMI	CRCSCANに対して利用可能な遮蔽不可割り込み
2	$0004	BOD_VLM	電圧水準監視器割り込み
3	$0006	RTC_CNT	実時間計数器溢れまたは比較一致割り込み
4	$0008	RTC_PIT	実時間計数器周期割り込み
5	$000A	CCL_CCL	構成設定可能な注文論理回路割り込み
6	$000C	PORTA_PORT	ポートA外部割り込み
7	$000E	PORTB_PORT	ポートB外部割り込み
8	$0010	TCA0_OVF TCA0_LUNF	標準: タイマ/カウンタA型溢れ割り込み 分割: タイマ/カウンタA型下位下溢れ割り込み
9	$0012	TCA0_HUNF	標準: (不使用) 分割: タイマ/カウンタA型上位下溢れ割り込み
10	$0014	TCA0_CMP0 TCA0_LCMP0	標準: タイマ/カウンタA型比較0割り込み 分割: タイマ/カウンタA型下位比較0割り込み
11	$0016	TCA0_CMP1 TCA0_LCMP1	標準: タイマ/カウンタA型比較1割り込み 分割: タイマ/カウンタA型下位比較1割り込み
12	$0018	TCA0_CMP2 TCA0_LCMP2	標準: タイマ/カウンタA型比較2割り込み 分割: タイマ/カウンタA型下位比較2割り込み
13	$001A	TCB0_INT	タイマ/カウンタB型0 捕獲割り込み
14	$001C	TWI0_TWIS	2線インターフェース従装置割り込み
15	$001E	TWI0_TWIM	2線インターフェース主装置割り込み
16	$0020	SPI0_INT	直列周辺インターフェース割り込み
17	$0022	USART0_RXC	万能同期非同期送受信器0 受信完了割り込み
18	$0024	USART0_DRE	万能同期非同期送受信器0 データ レジスタ空割り込み
19	$0026	USART0_TXC	万能同期非同期送受信器0 送信完了割り込み
20	$0028	AC0_AC	アナログ比較器比較割り込み
21	$002A	ADC0_ERROR	A/D変換器異常割り込み
22	$002C	ADC0_RESRDY	A/D変換器結果割り込み
23	$002E	ADC0_SAMPRDY	A/D変換器採取(試料)割り込み
24	$0030	PORTC_PORT	ポートC外部割り込み (注)
25	$0032	TCB1_INT	タイマ/カウンタB型1 捕獲割り込み
26	$0034	USART1_RXC	万能同期非同期送受信器1 受信完了割り込み
27	$0036	USART1_DRE	万能同期非同期送受信器1 データ レジスタ空割り込み
28	$0038	USART1_TXC	万能同期非同期送受信器1 送信完了割り込み
29	$003A	NVMCTRL_EE	不揮発性メモリ制御器準備可割り込み

注: ポート ピンの有効性はデバイスのピン数に依存します。PORTCは20ピン以上のデバイスで利用可能です。

9.3. SYSCFG – システム構成設定

システム構成設定は部品の改訂IDを含みます。この改訂IDはCPUから読め、部品の改訂間での応用変更の実装に対してそれを有用にします。

9.3.1. レジスタ要約

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00	予約									
+$01	REVID	7～0	REVID7~0							

9.3.2. レジスタ説明

9.3.2.1. REVID – デバイス改訂IDレジスタ (Device Revision ID Register)

名称 ：REVID
変位 ：+$01
リセット ：[改訂ID]
特質 ：–

このレジスタは読み込み専用でデバイス改訂IDを与えます。

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
	REVID7~0							
アクセス種別	R	R	R	R	R	R	R	R
リセット値	x	x	x	x	x	x	x	x

● **ビット7~0 – REVID7~0 : 改訂ID** (Revision ID)

このビット領域はデバイス改訂を含みます。$00=A、$01=B、以下同様です。

10. NVMCTRL – 不揮発性ﾒﾓﾘ制御器

10.1. 特徴

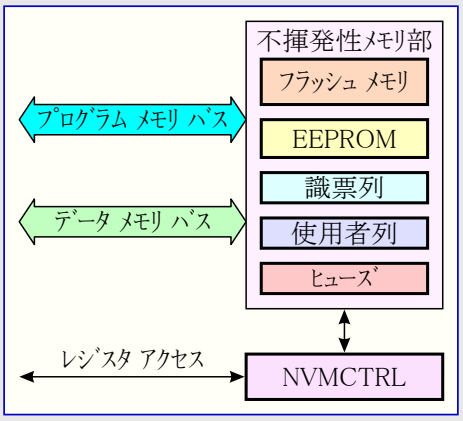
- 統一されたﾒﾓﾘ
- 実装ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ可能
- 自己ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞとﾌﾞｰﾄ ﾛｰﾀﾞ支援
- 書き込み保護に対して構成設定可能な領域
  - ﾌﾞｰﾄ ﾛｰﾀﾞ ｺｰﾄﾞまたは応用ｺｰﾄﾞ用のﾌﾞｰﾄ領域
  - 応用ｺｰﾄﾞ用の応用ｺｰﾄﾞ領域
  - 応用ｺｰﾄﾞまたはﾃﾞｰﾀ記憶用の応用ﾃﾞｰﾀ領域
- 工場書き込みされたﾃﾞｰﾀ用の識票列
  - 各ﾃﾞﾊﾞｲｽ型式用のID
  - 各ﾃﾞﾊﾞｲｽ用の通番
  - 工場校正された周辺機能用の校正ﾊﾞｲﾄ
- 応用ﾃﾞｰﾀ用の使用者列
  - ｿﾌﾄｳｪｱから読み書き可能
  - 施錠されたﾃﾞﾊﾞｲｽでUPDIから書き込み可能
  - ﾁｯﾌﾟ消去後も保持される内容

10.2. 概要

NVM制御器(NVMCTRL)はCPUと不揮発性ﾒﾓﾘ(ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ、EEPROM、識票列、使用者列、ﾋｭｰｽﾞ)間のｲﾝﾀｰﾌｪｰｽです。これらは給電されない時にそれらの値を保持する再書き込み可能なﾒﾓﾘ部です。ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘは主にﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ記憶に使われますが、ﾃﾞｰﾀ記録に使うこともできます。EEPROM、識票列、使用者列、ﾋｭｰｽﾞはもっぱらﾃﾞｰﾀ記憶に使われます。

10.2.1. 構成図

図10-1. NVMCTRL構成図



10.3. 機能的な説明

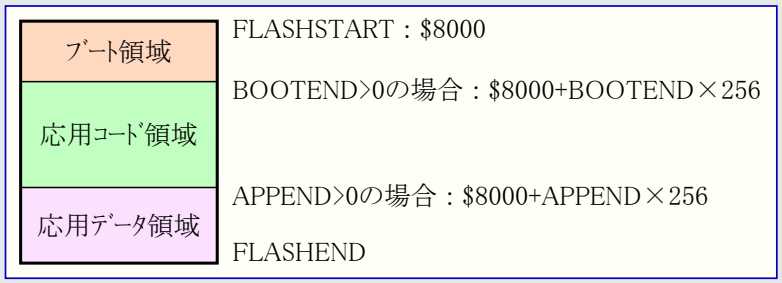
10.3.1. ﾒﾓﾘ構成

10.3.1.1. ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ

ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘはﾍﾟｰｼﾞの組に分けられます。ﾍﾟｰｼﾞはﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘをﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞする時にｱﾄﾞﾚｽ指定される基本単位です。それは一度にﾍﾟｰｼﾞ全体を書くまたは消去することだけが可能です。1ﾍﾟｰｼﾞは多数の語から成ります。

ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘは異なる安全保障のために256ﾊﾞｲﾄの塊単位で3つの領域に分けることができます。この3つの異なる領域は、ﾌﾞｰﾄ(BOOT)、応用ｺｰﾄﾞ(APPCODE)、応用ﾃﾞｰﾀ(APPDATA)です。

図10-2. ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ領域



領域容量

これらの領域の大きさはﾌﾞｰﾄ領域の最後(FUSE.BOOTEND)ﾋｭｰｽﾞと応用ｺｰﾄﾞ領域の最後(FUSE.APPEND)ﾋｭｰｽﾞによって設定されます。

このﾋｭｰｽﾞは256ﾊﾞｲﾄの塊単位で領域容量を選びます。BOOT領域はﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘの始めからBOOTEND直前までに及びます。APPCODE領域はBOOTENDからAPPEND直前までで、残りの領域がAPPDATA領域です。

表10-1. ﾌﾗｯｼｭ領域の構成設定

BOOTEND	APPEND	BOOT領域	APPCODE領域	APPDATA領域
0	-	0～FLASHEND	-	-
＞0	0	0～256×BOOTEND	256×BOOTEND～FLASHEND	-
＞0	≦BOOTEND	0～256×BOOTEND	-	256×BOOTEND～FLASHEND
＞0	＞BOOTEND	0～256×BOOTEND	256×BOOTEND～256×APPEND	256×APPEND～FLASHEND

BOOTENDが'0'を書かれた場合、ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ全体がBOOT領域と見做されます。APPENDが'0'を書かれ、BOOTEND>0の場合、APPEND領域はBOOTENDからﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘの最後までになります(APPDATA領域なし)。APPEND≦BOOTENDの時にAPPCODE領域は取り除かれ、APPDATAがBOOTENDからﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘの最後までになります。APPEND>BOOTENDの時はAPPCODE領域がBOOTENDからAPPENDまで広がります。残りの領域はAPPDATA領域です。

ﾌﾞｰﾄ ﾛｰﾀﾞ ｿﾌﾄｳｪｱがない場合、応用ｺｰﾄﾞ用にBOOT領域を使うことが推奨されます。

注: 1. ﾘｾｯﾄ後、既定ﾍﾞｸﾀ表位置はAPPCODE領域の始めです。BOOT領域の始めに割り込みﾍﾞｸﾀ表を再配置することによってBOOT領域で走っているｺｰﾄﾞで周辺機能割り込みを使うことができます。それは制御A(CPUINT.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの割り込みﾍﾞｸﾀ選択(IVSEL)ﾋﾞｯﾄを設定(1)することによって行われます。詳細については「CPUINT」章を参照してください。

2. BOOTEND/APPENDのﾋｭｰｽﾞ設定からの結果としてﾃﾞﾊﾞｲｽのFLASHENDを超える場合、対応するﾋｭｰｽﾞ設定は無視され、既定値が使われます。既定値については「ﾒﾓﾘ」章の「FUSE」を参照してください。

例10-1. ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ領域の大きさの例

FUSE.BOOTENDが$04を書かれ、FUSE.APPENDが$08を書かれた場合、最初の4×512ﾊﾞｲﾄがBOOTで、次の4×512ﾊﾞｲﾄがAPPCODE、そして残りのﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘがAPPDATAです。

領域間の書き込み保護

3つの領域間では、以下の方向性の書き込み保護が実装されます。

- BOOT領域のｺｰﾄﾞはAPPCODEとAPPDATAに書くことができます。
- APPCODE領域のｺｰﾄﾞはAPPDATAに書くことができます。
- APPDATA領域のｺｰﾄﾞはﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘやEEPROMに書くことができません。

ﾌﾞｰﾄ領域施錠と応用ｺｰﾄﾞ領域書き込み保護

相互領域書き込み保護に加えて、NVMCTRLはﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ領域への望まれないｱｸｾｽを避けるための安全機構を提供します。例えCPUが決してBOOT領域に書くことができないとは言え、BOOT領域からの読み込みとｺｰﾄﾞの実行を防ぐために制御B(NVMCTRL.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀのﾌﾞｰﾄ領域施錠(BOOTLOCK)ﾋﾞｯﾄが提供されます。このﾋﾞｯﾄはBOOT領域で実行されるｺｰﾄﾞからだけ設定することができ、BOOT領域を去る時にだけ効力を持ちます。

制御Bﾚｼﾞｽﾀ(NVMCTRL.CTRLB)の応用ｺｰﾄﾞ領域書き込み保護(APCWP)ﾋﾞｯﾄはAPPCODE領域の更なる更新を防ぐために設定することができます。

10.3.1.2. EEPROM

EEPROMは1つのﾍﾟｰｼﾞが多数のﾊﾞｲﾄから成るﾍﾟｰｼﾞの組に分けられます。EEPROMは消去/書き込みでﾊﾞｲﾄの粒度を持ちます。1ﾍﾟｰｼﾞ内で、更新されるべく記されたﾊﾞｲﾄだけが消去されて書かれます。ﾊﾞｲﾄはそのｱﾄﾞﾚｽ位置に対してﾍﾟｰｼﾞ緩衝部へ新しい値を書くことによって記されます。

10.3.1.3. 使用者列

使用者列はEEPROMの1つの付加ﾍﾟｰｼﾞです。このﾍﾟｰｼﾞは校正/構成設定のﾃﾞｰﾀや通番のような様々なﾃﾞｰﾀを格納するのに使うことができます。このﾍﾟｰｼﾞはﾁｯﾌﾟ消去によって消去されません。使用者列は標準EEPROMとして書かれるだけでなく施錠されたﾃﾞﾊﾞｲｽに於いてUPDIを通して書くこともできます。

10.3.2. ﾒﾓﾘ ｱｸｾｽ

10.3.2.1. 読み込み

ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘとEEPROMの読み込みはﾒﾓﾘ配置に従ったｱﾄﾞﾚｽを持つ取得(LD系)命令を用いて行われます。書き込みまたは消去が進行中と同時に配列の何れかを読むことはﾊﾞｽ待ちに帰着し、その命令は進行中の操作が完了するまで中断されます。

10.3.2.2. ﾍﾟｰｼﾞ緩衝部設定

ﾍﾟｰｼﾞ緩衝部はﾒﾓﾘ配置で定義されるようにﾒﾓﾘへ直接書くことによって設定されます。ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ、EEPROM、使用者列は同じﾍﾟｰｼﾞ緩衝部を共用し、故に一度に1つの領域だけをﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞする(書く)ことができます。ｱﾄﾞﾚｽの下位(LSB)側ﾋﾞｯﾄはﾃﾞｰﾀが書かれるﾍﾟｰｼﾞ緩衝部内の場所を選ぶのに使われます。結果のﾃﾞｰﾀはﾍﾟｰｼﾞ緩衝部の新旧内容間のﾋﾞｯﾄ単位論理積(AND)操作です。ﾍﾟｰｼﾞ緩衝部は以下の後で自動的に消去(全ﾋﾞｯﾄが設定(1))されます。

- ﾃﾞﾊﾞｲｽ ﾘｾｯﾄ
- どれかのﾍﾟｰｼﾞ書き込みまたは消去の操作
- ﾍﾟｰｼﾞ緩衝部消去指令
- どれかの休止動作形態からのﾃﾞﾊﾞｲｽ起き上がり

10.3.2.3. ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(書き込み)

ﾍﾟｰｼﾞ書き込み(ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ)に関して、ﾍﾟｰｼﾞ緩衝部を満たしてﾍﾟｰｼﾞ緩衝部をﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ、使用者列、EEPROM内へ書くのは2つの独立した操作です。

ﾍﾟｰｼﾞ緩衝部内のﾃﾞｰﾀでﾌﾗｯｼｭ ﾍﾟｰｼﾞをﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞする(書く)前に、ﾌﾗｯｼｭ ﾍﾟｰｼﾞが消去されなければなりません。ﾍﾟｰｼﾞ緩衝部はﾃﾞﾊﾞｲｽが休止動作形態へ移行する時にも消去されます。未消去のﾌﾗｯｼｭ ﾍﾟｰｼﾞ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞはその内容を不正にします。

ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘは消去と書き込みを独立して、または以下の両方を処理する1つの指令でのどちらかで書くことができます。

代替手段1:

1. ﾍﾟｰｼﾞ緩衝部を満たしてください。
2. ﾍﾟｰｼﾞ消去/書き込み(ERWP)指令でﾍﾟｰｼﾞ緩衝部をﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘに書いてください。

代替手段2:

1. ｱﾄﾞﾚｽを提供するためにﾍﾟｰｼﾞ内の位置へ書いてください。
2. ﾍﾟｰｼﾞ消去(ER)指令を実行してください。
3. ﾍﾟｰｼﾞ緩衝部を満たしてください。
4. ﾍﾟｰｼﾞ書き込み(WP)指令を実行してください。

NVM指令一式は単一の消去と書き込みの操作(ERWP)、分離した消去(ER)とﾍﾟｰｼﾞ書き込み(WP)の指令の両方を支援します。この分離命令は各指令に対してより短いﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ時間を許し、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実行の時間が重要でない間に消去操作を行うことができます。

EEPROMﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞも同様ですが、ﾍﾟｰｼﾞ緩衝部内で更新されるﾊﾞｲﾄがEEPROMで書かれるまたは消去されるだけです。

10.3.2.4. 指令

ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ/EEPROM読み込みとﾍﾟｰｼﾞ緩衝部書き込みは通常の取得(LD系)/格納(ST系)命令で処理されます。ﾒﾓﾘ配列の書き込みや消去のような他の操作はNVMでの指令によって処理されます。

NVMで指令を実行するには、

1. 状態(NVMCTRL.STATUS)ﾚｼﾞｽﾀの多忙ﾌﾗｸﾞ(EEBUSYとFBUSY)を読むことによってどの直前の操作も完了されていることを確認してください。
2. CPUの構成設定変更保護(CPU.CCP)ﾚｼﾞｽﾀに適切な鍵を書いてください。
3. 次の4命令以内に制御A(NVMCTRL.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの指令(CMD)ﾋﾞｯﾄに望む指令値を書いてください。

10.3.2.4.1. ﾍﾟｰｼﾞ書き込み指令

ﾌﾗｯｼｭ制御器のﾍﾟｰｼﾞ書き込み(WP)指令はﾍﾟｰｼﾞ緩衝部の内容をﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘまたはEEPROMに書きます。

その書き込みがﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘに対する場合、CPUはその書き込み操作でﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘが多忙である限りｺｰﾄﾞの実行を停止します。書き込みがEEPROMに対する場合、CPUはその操作が進行中の間にｺｰﾄﾞの実行を続けることができます。

ﾍﾟｰｼﾞ緩衝部は操作が終了された後で自動的に解消されます。

10.3.2.4.2. ﾍﾟｰｼﾞ消去指令

ﾍﾟｰｼﾞ消去(ER)指令は現在のﾍﾟｰｼﾞを消去します。効力を発するにはﾍﾟｰｼﾞ消去(ER)指令に対してﾍﾟｰｼﾞ緩衝部に1ﾊﾞｲﾄが書かれなければなりません。

ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ消去に対して、最初に望むﾍﾟｰｼﾞ内の或るｱﾄﾞﾚｽに書き、その後に指令を実行してください。ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ内のそのﾍﾟｰｼﾞ全体がその後に消去されます。CPUは消去が進行中の間停止されます。

EEPROMに対して、この指令が実行される時にﾍﾟｰｼﾞ緩衝部内に書かれたﾊﾞｲﾄだけが消去されます。特定ﾊﾞｲﾄを消去するには、この指令を実行する前にそれに対応するｱﾄﾞﾚｽに(何かを)書いてください。ﾍﾟｰｼﾞ全体を消去するには、この指令が実行される前にﾍﾟｰｼﾞ緩衝部内の全ﾊﾞｲﾄが更新されなければなりません。CPUはこの操作が進行中の間にｺｰﾄﾞの実行を続けることができます。

ﾍﾟｰｼﾞ緩衝部は操作が終了された後で自動的に解消されます。

10.3.2.4.3. ﾍﾟｰｼﾞ消去-書き込み操作

ﾍﾟｰｼﾞ消去/書き込み(ERWP)指令はﾍﾟｰｼﾞ消去(ER)とﾍﾟｰｼﾞ書き込み(WP)の指令の組み合わせですが、ﾍﾟｰｼﾞ消去指令後のﾍﾟｰｼﾞ緩衝部解消を除きます。ﾍﾟｰｼﾞ消去/書き込み操作は最初に選択されたﾍﾟｰｼﾞを消去し、その後にﾍﾟｰｼﾞ緩衝部の内容を同じﾍﾟｰｼﾞに書きます。

ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘで実行されると、CPUはその操作が進行中の間停止されます。EEPROMで実行されると、CPUはｺｰﾄﾞ実行を続けることができます。

ﾍﾟｰｼﾞ緩衝部は操作が終了された後で自動的に解消されます。

10.3.2.4.4. ﾍﾟｰｼﾞ緩衝部解消指令

ﾍﾟｰｼﾞ緩衝部解消(PBC)指令はﾍﾟｰｼﾞ緩衝部を解消します。ﾍﾟｰｼﾞ緩衝部の内容はこの操作後に全て'1'です。この操作実行時にCPUは(7 CPU周期)停止されます。

10.3.2.4.5. ﾁｯﾌﾟ消去指令

ﾁｯﾌﾟ消去(CHER)指令はﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘとEEPROMを消去します。EEPROMはｼｽﾃﾑ構成設定0(FUSE.SYSCFG0)のﾁｯﾌﾟ消去中EEPROM保存(EESAVE)ﾋｭｰｽﾞが設定(1)される場合に不変です。ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘは制御B(NVMCTRL.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀのﾌﾞｰﾄ領域施錠(BOOTLOCK)ﾋﾞｯﾄや応用ｺｰﾄﾞ領域書き込み保護(APCWP)ﾋﾞｯﾄによって保護されません。ﾒﾓﾘはこの操作後に全て'1'です。

10.3.2.4.6. EEPROM消去指令

EEPROM消去(EEER)指令はEEPROMを消去します。EEPROMはこの操作後に全て'1'です。CPUはEEPROMが消去されつつある間停止されます。

10.3.2.4.7. ﾋｭｰｽﾞ書き込み指令

ﾋｭｰｽﾞ書き込み(WFU)指令はﾋｭｰｽﾞを書きます。これはUPDIによってのみ使うことができ、CPUはこの指令を開始することができません。

ﾋｭｰｽﾞ書き込み指令を使うには以下のこの手順に従ってください。

1. ｱﾄﾞﾚｽ(NVMCTRL.ADDR)ﾚｼﾞｽﾀにﾋｭｰｽﾞのｱﾄﾞﾚｽを書いてください。
2. ﾃﾞｰﾀ(NVMCTRL.DATA)ﾚｼﾞｽﾀにﾋｭｰｽﾞに書かれるべきﾃﾞｰﾀを書いてください。
3. ﾋｭｰｽﾞ書き込み指令を実行してください。
4. ﾋｭｰｽﾞ書き込み後、効力を発するには更新された値のためにﾘｾｯﾄが必要とされます。

ﾋｭｰｽﾞ読み込みに対してはﾒﾓﾘ位置で通常の読み込みを使ってください。

10.3.2.5. ﾘｾｯﾄ後の書き込みｱｸｾｽ (訳注:本ﾃﾞﾊﾞｲｽでは下記のTOUTDISﾋｭｰｽﾞがなく、従って適用できません。)

電源ONﾘｾｯﾄ(POR)後、NVMCTRLは一定時間の間、NVMへのどの書き込みの試みも拒否します。この期間の間、状態(NVMCTRL.STATUS)ﾚｼﾞｽﾀのﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ多忙(FBUSY)とEEPROM多忙(EEBUSY)のﾋﾞｯﾄは'1'を読みます。ﾍﾟｰｼﾞ緩衝部が満たされ得る、またはNVM指令が発行され得るのに先立って、EEBUSYとFBUSYは'0'を読まなくてはなりません。

この制限時間期間はｼｽﾃﾑ構成設定0(FUSE.SYSCFG0)ﾋｭｰｽﾞの制限時間禁止(TOUTDIS)ﾋﾞｯﾄを書くこと、またはFUSE.SYSCFG0のﾘｾｯﾄ ﾋﾟﾝ構成設定(RSTPINCFG)ﾋﾞｯﾄをUPDIに構成設定することのどちらかによって禁止されます。

10.3.3. ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ/EEPROM化け防止

CPUとﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ/EEPROMに対して正しく動作するための供給電圧が低すぎる場合に、ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ/EEPROMの書き込みや消去はﾒﾓﾘ化けを起こし得ます。これらの問題はﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ/EEPROMを使う基板上の段階と同じで、ﾃﾞﾊﾞｲｽが低すぎる電圧で動かないことを保証するため、内部または外部の低電圧検出器(BOD)を使うことが推奨されます。

電圧が低すぎる時にﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ/EEPROM化けは以下の2つの状況によって起こされ得ます。

1. ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ/EEPROMへの通常の書き込み手順は正しく動作するための最低電圧を必要とします。
2. 供給電圧が低すぎると、CPU自身が命令を間違って実行し得ます。

ﾁｯﾌﾟ消去はﾋｭｰｽﾞを解消しません。ﾁｯﾌﾟ消去命令が開始されるの前にﾋｭｰｽﾞによってBODが許可されている場合、ﾁｯﾌﾟ消去中、その前に構成設定された基準で自動的に許可されます。

最大周波数対VDDについては「電気的特性」章を参照してください。

注意: ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ/EEPROM化けは以下の以下の対策を取ることによって避けることができます。

1. 不十分な供給電源電圧の期間中、ﾃﾞﾊﾞｲｽをﾘｾｯﾄに保ってください。内部低電圧検出器(BOD)を許可することによってこれを行ってください。
2. BOD基準近くでEEPROMへの書き込み開始を防ぐのにBODでの電圧水準監視部(VLM)を使うことができます。
3. 内部BODの検出基準が必要とする検出基準と一致しない場合、外部の低VDDﾘｾｯﾄ保護回路を使うことができます。書き込み操作が進行中の間にﾘｾｯﾄが起こる場合、その書き込み操作は中止されます。

10.3.4. 割り込み

表10-2. 利用可能な割り込みﾍﾞｸﾀと供給元

名称	ﾍﾞｸﾀ説明	条件
EEREADY	NVM	新規の書き込み/消去の操作に対してEEPROMが準備可

割り込み条件が起こると、周辺機能の割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(NVMCTRL.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀで対応する割り込み要求ﾌﾗｸﾞが設定(1)されます。

割り込み元は周辺機能の割り込み許可(NVMCTRL.INTCTRL)ﾚｼﾞｽﾀで対応するﾋﾞｯﾄに書くことによって許可または禁止にされます。

割り込み要求は対応する割り込み元が許可され、割り込み要求ﾌﾗｸﾞが設定(1)される時に生成されます。割り込み要求は割り込み要求ﾌﾗｸﾞが解除(0)されるまで活性に留まります。割り込み要求ﾌﾗｸﾞを解除する方法の詳細についてはNVMCTRL.INTFLAGSﾚｼﾞｽﾀをご覧ください。

10.3.5. 休止形態動作

進行中の書き込み操作が全くなければ、NVMCTRLはｼｽﾃﾑが休止動作形態へ移行する時に休止動作形態へ移行します。

ｼｽﾃﾑが休止動作形態へ移行する時に書き込み操作が進行中の場合、NVM部、NVM制御器、ｼｽﾃﾑ ｸﾛｯｸはその書き込みが終了されるまでONに留まります。これはﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝ休止動作を含む全ての休止動作形態に対して有効です。

EEPROM準備可割り込みはｱｲﾄﾞﾙ休止動作からだけﾃﾞﾊﾞｲｽを起き上がらせます。

ﾍﾟｰｼﾞ緩衝部は休止から起き上がる時に解消されます。

10.3.6. 構成設定変更保護

この周辺機能は構成設定変更保護(CCP)下にあるﾚｼﾞｽﾀを持ちます。これらのﾚｼﾞｽﾀへ書くには、最初に構成設定変更保護(CPU.CCP)ﾚｼﾞｽﾀへ或る鍵が書かれ、4 CPU命令以内に保護されたﾋﾞｯﾄへの書き込みｱｸｾｽが後続しなければなりません。

適切なCCP解錠手順に従わずに保護されたﾚｼﾞｽﾀへの書き込みを試みることは保護されたﾚｼﾞｽﾀを無変化のままにします。

右のﾚｼﾞｽﾀがCCP下です。

表10-3. NVMCTRL – 構成設定変更保護下のﾚｼﾞｽﾀ

ﾚｼﾞｽﾀ	鍵種別
NVMCTRL.CTRLA	SPM
NVMCTRL.CTRLB	IOREG

10.4. レジスタ要約

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00	CTRLA	7～0						CMD2~0		
+$01	CTRLB	7～0							BOOTLOCK	APCWP
+$02	STATUS	7～0						WRERROR	EEBUSY	FBUSY
+$03	INTCTRL	7～0								EEREADY
+$04	INTFLAGS	7～0								EEREADY
+$05	予約									
+$06	DATA	7～0	DATA7~0							
+$07		15～8	DATA15~8							
+$08	ADDR	7～0	ADDR7~0							
+$09		15～8	ADDR15~8							

10.5. ﾚｼﾞｽﾀ説明

10.5.1. CTRLA – 制御A (Control A)

名称 : CTRLA
変位 : +$00
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : 構成設定変更保護

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
						CMD2~0		
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ2~0 – CMD2~0 : 指令** (Command)

指令を発行するにはこのﾋﾞｯﾄ領域に書いてください。この書き込み前の4命令以内に自己ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ用の構成設定変更保護鍵(SPM)が書かれなければなりません。

値	名称	説明
000	–	指令なし
001	WP	ﾍﾟｰｼﾞ緩衝部をﾒﾓﾘに書き込み (NVMCTRL.ADDRがどのﾒﾓﾘかを選択)
010	ER	ﾍﾟｰｼﾞ消去 (NVMCTRL.ADDRがどのﾒﾓﾘかを選択)
011	ERWP	ﾍﾟｰｼﾞの消去と書き込み (NVMCTRL.ADDRがどのﾒﾓﾘかを選択)
100	PBC	ﾍﾟｰｼﾞ緩衝部解消
101	CHER	ﾁｯﾌﾟ消去 : ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘと(FUSE.SYSCFG0のEESAVEが'1'でない限り)EEPROMを消去
110	EEER	EEPROM消去
111	WFU	ﾋｭｰｽﾞ書き込み (UPDIを通してのみｱｸｾｽ可能)

10.5.2. CTRLB – 制御B (Control B)

名称 : CTRLB
変位 : +$01
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : 構成設定変更保護

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
							BOOTLOCK	APCWP
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ1 – BOOTLOCK : ﾌﾞｰﾄ領域施錠** (Boot Section Lock)

このﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みは読み込みと命令取得からﾌﾞｰﾄ領域を施錠します。
このﾋﾞｯﾄが'1'の場合、ﾌﾞｰﾄ領域からの読み込みは'0'を返します。ﾌﾞｰﾄ領域からの取得も命令として0を返します。
このﾋﾞｯﾄはﾌﾞｰﾄ領域からだけ書くことができます。ﾘｾｯﾄによってだけ解除(0)することができます。
このﾋﾞｯﾄはこのﾋﾞｯﾄが書かれた後で初めてﾌﾞｰﾄ領域から去られる時にだけ効力を発します。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – APCWP : 応用ｺｰﾄﾞ領域書き込み保護** (Application Code Section Write Protection)

このﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みは応用ｺｰﾄﾞ領域への更なる書き込みを防ぎます。
このﾋﾞｯﾄは'1'に書くことだけができ、ﾘｾｯﾄによってのみ解除(0)されます。

10.5.3. STATUS – 状態 (Status)

名称 : STATUS
変位 : +$02
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
						WRERROR	EEBUSY	FBUSY
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ2 – WRERROR : 書き込み異常** (Write Error)

このﾋﾞｯﾄは書き込み異常が起きた時に'1'を読みます。書き込み異常はﾍﾟｰｼﾞ書き込みを行う前に異なる領域へ書く、または保護された領域へ書くことで有り得ます。このﾋﾞｯﾄは最後の操作に対して有効です。

● **ﾋﾞｯﾄ1 – EEBUSY : EEPROM多忙** (EEPROM Busy)

このﾋﾞｯﾄは指令でEEPROMが多忙の時に'1'を読みます。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – FBUSY : ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ多忙** (Flash Busy)

このﾋﾞｯﾄは指令でﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘが多忙の時に'1'を読みます。

10.5.4. INTCTRL – 割り込み制御 (Interrupt Control)

名称 : INTCTRL
変位 : +$03
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
								EEREADY
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ0 – EEREADY : EEPROM準備可割り込み許可** (EEPROM Ready Interrupt)

このﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みはEEPROMが新しい書き込み/消去操作の準備が整ったことを示す割り込みを許可します。

これは割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀのEEPROM準備可割り込み要求(EEREADY)ﾌﾗｸﾞが'0'に設定されている時にだけ起動されるﾚﾍﾞﾙ割り込みです。故に、NVM指令発行前にEEREADYﾌﾗｸﾞが設定(1)されないように、この割り込みはNVM指令起動前に起動されてはなりません。この割り込みはおそらく割り込み処理部で禁止されます。

10.5.5. INTFLAGS – 割り込み要求ﾌﾗｸﾞ (Interrupt Flags)

名称 : INTFLAGS
変位 : +$04
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
								EEREADY
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ0 – EEREADY : EEPROM準備可割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (EEREADY Interrupt Flag)

このﾌﾗｸﾞはEEPROMが多忙でない限り継続的に設定(1)されます。このﾌﾗｸﾞはこれに'1'を書くことによって解除(0)されます。

10.5.6. DATA – ﾃﾞｰﾀ (Data)

名称 : DATA (DATAH,DATAL)
変位 : +$06
ﾘｾｯﾄ : $0000
特質 : –

NVNCTRL.DATAHとNVMCTRL.DATALのﾚｼﾞｽﾀ対は16ﾋﾞｯﾄ値のNVMCTRL.DATAを表します。下位ﾊﾞｲﾄ[7～0](接尾辞L)は変位原点でｱｸｾｽ可能です。上位ﾊﾞｲﾄ[15～8](接尾辞H)は変位+1でｱｸｾｽすることができます。

ﾋﾞｯﾄ	15	14	13	12	11	10	9	8
	DATA15~8							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	DATA7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ15~0 – DATA15~0 : ﾃﾞｰﾀ値** (Data Register)

このﾚｼﾞｽﾀはﾋｭｰｽﾞ書き込み操作のためにUPDIによって使われます。

10.5.7. ADDR – ｱﾄﾞﾚｽ (Address)

名称 : ADDR (ADDRH,ADDRL)
変位 : +$08
ﾘｾｯﾄ : $0000
特質 : –

NVNCTRL.ADDRHとNVMCTRL.ADDRLのﾚｼﾞｽﾀ対は16ﾋﾞｯﾄ値のNVMCTRL.ADDRを表します。下位ﾊﾞｲﾄ[7～0](接尾辞L)は変位原点でｱｸｾｽ可能です。上位ﾊﾞｲﾄ[15～8](接尾辞H)は変位+1でｱｸｾｽすることができます。

ﾋﾞｯﾄ	15	14	13	12	11	10	9	8
	ADDR15~8							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	ADDR7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ15~0 – ADDR15~0 : ｱﾄﾞﾚｽ値** (Address)

ｱﾄﾞﾚｽ ﾚｼﾞｽﾀは更新される最後のﾒﾓﾘ位置に対するｱﾄﾞﾚｽを含みます。

11. CLKCTRL – クロック制御器

11.1. 特徴

- 周辺機能によって要求される時に自動的に許可される全てのクロックとクロック元
- 内部発振器
  - 16/20MHz発振器(OSC20M)
  - 32.768kHz超低電力発振器(OSCULP32K)
- 外部クロック任意選択
  - 32.768kHzクリスタル用発振器(XOSC32K)
  - 外部クロック
- 主なクロック機能
  - 安全な走行時切り替え
  - 12種の設定で1～64の分周を持つ前置分周器

11.2. 概要

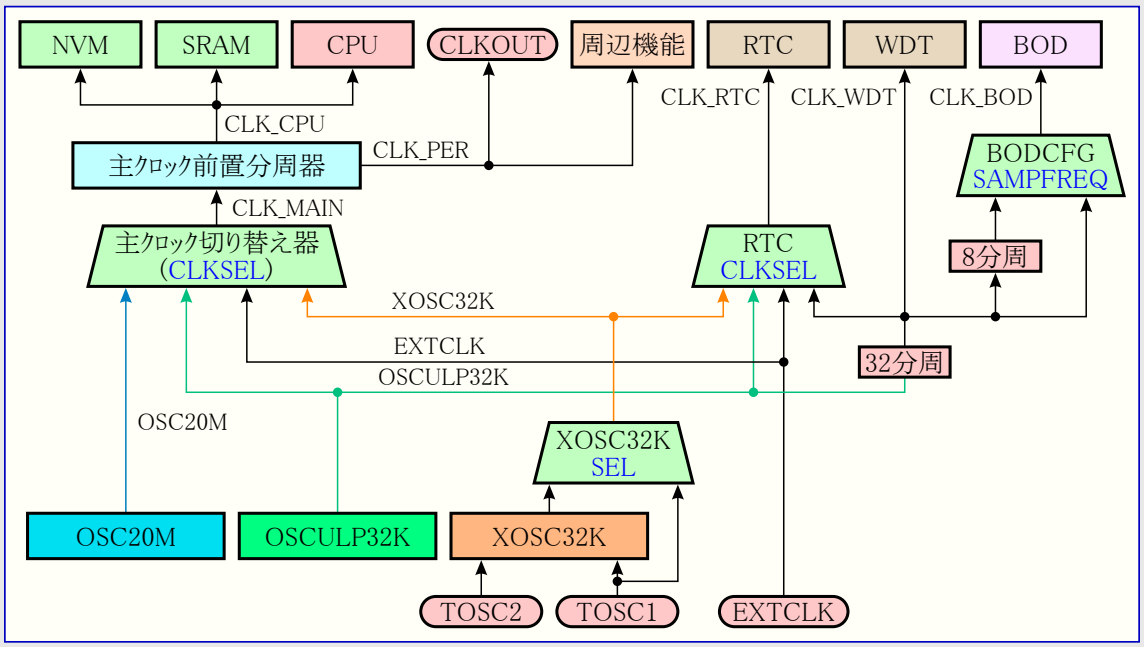
クロック制御器(CLKCTRL)は利用可能な発振器からのクロック信号を制御、分配、前置分周し、内部と外部のクロック元を支援します。

CLKCTRLはデバイス上の全ての周辺機能に実装された自動クロック要求システムに基づきます。周辺機能は必要とされるクロックを自動的に要求します。多数のクロック元が利用可能な場合、その要求は正しいクロック元に配線されます。

主クロック(CLK_MAIN)はCPU、SRAM、それとI/Oバスに接続された全ての周辺機能によって使われます。主クロック元を選んで前置分周することができます。いくつかの周辺機能は主クロックと同じクロック元を共用し、また主クロック領域と非同期に動きます。

11.2.1. 構成図 – CLKCTRL

図11-1. CLKCTRL構成図



注: CLKOUTピンは20ピン以上のデバイスでだけ利用可能です。詳細については「3.1. 入出力多重化」項をご覧ください。

クロック システムは主クロックと他の非同期クロックから成ります。

- 主クロック

  このクロックはCPU、SRAM、フラッシュ メモリ、I/Oバス、それとI/Oバスに接続された全ての周辺機能によって使われます。これは常に活動とアイドル休止動作で動き、必要とされる場合はスタンバイ休止動作で動くことができます。

  主クロック(CLK_MAIN)はクロック制御器によって前置分周されて分配されます。

  - CLK_CPUはCPU、SRAMと不揮発性メモリにアクセスするためのNVMCTRL周辺機能によって使われます。
  - CLK_PERは非同期クロック下で一覧にされない全ての周辺機能によって使われます。

- 主クロック領域に対して非同期に動くクロック
  - CLK_RTCは実時間計数器/周期的割り込み計時器(RTC/PIT)に使われます。RTC/PITが許可される時に要求されます。CLK_RTC用のクロック元はこの周辺機能が禁止されている場合にだけ変更することができます。
  - CLK_WDTはウォッチドッグ タイマ(WDT)によって使われます。WDTが許可される時に要求されます。
  - CLK_BODは低電圧検出器(BOD)によって使われます。BODが採取動作で許可される時に要求されます。

主ｸﾛｯｸ領域用のｸﾛｯｸ元は主ｸﾛｯｸ制御A(CLKCTRL.MCLKCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのｸﾛｯｸ選択(CLKSEL)ﾋﾞｯﾄに書くことによって構成設定されます。非同期ｸﾛｯｸ元は各々の周辺機能内のﾚｼﾞｽﾀによって構成設定されます。

11.2.2. 信号説明

信号	形式	説明
CLKOUT	ﾃﾞｼﾞﾀﾙ出力	CLK_PER出力

11.3. 機能的な説明

11.3.1. 休止形態動作

ｸﾛｯｸ元が使用または要求されない時にそれは止まります。各々の周辺機能の制御A(CLKCTRL.[発振器種別名]CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのｽﾀﾝﾊﾞｲ時走行(RUNSTDBY)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって直接ｸﾛｯｸ元を要求することが可能です。これはﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝ休止動作形態を除き、その発振器を絶えず走行させます。加えて、このﾋﾞｯﾄが'1'を書かれると、ｸﾛｯｸ元が周辺機能によって要求される時に、発振器の始動時間が除去されます。

主ｸﾛｯｸは活動とｱｲﾄﾞﾙ休止の動作形態で常に走行します。ｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作形態では、どれかの周辺機能がこれを要求する、または各々の発振器の制御A(CLKCTRL.[発振器種別名]CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのｽﾀﾝﾊﾞｲ時走行(RUNSTDBY)ﾋﾞｯﾄが'1'を書かれる場合にだけ主ｸﾛｯｸが走行します。

ﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝ休止動作形態ではNVM操作が完了された後に主ｸﾛｯｸが停止します。休止動作操作でのより多くの詳細については「休止制御器」章を参照してください。

11.3.2. 主ｸﾛｯｸ選択と前置分周器

全ての内部発振器はCLK_MAIN用の主ｸﾛｯｸ元として使うことができます。主ｸﾛｯｸ元はｿﾌﾄｳｪｱから選択可能で、標準動作の間に安全に変更することができます。

組み込みﾊｰﾄﾞｳｪｱ保護は安全でないｸﾛｯｸ切り替えを防ぎます。

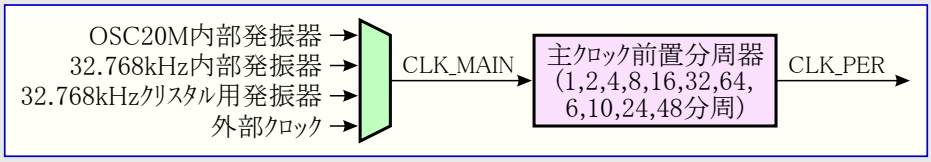
外部ｸﾛｯｸ元の選択では選んだｸﾛｯｸ元への切り替えはその外部ｸﾛｯｸでｴｯｼﾞ(端)が検出される場合にだけ起こります。充分なｸﾛｯｸ端数が検出されるまで切り替えは起きず、ﾘｾｯﾄを実行することなしに再び別のｸﾛｯｸ元へ変更することはできません。

進行中のｸﾛｯｸ元切り替えは主ｸﾛｯｸ状態(CLKCTRL.MCLKSTATUS)ﾚｼﾞｽﾀのｼｽﾃﾑ発振器変更(SOSC)ﾌﾗｸﾞによって示されます。外部ｸﾛｯｸ元の安定性は各々の状態ﾌﾗｸﾞ(CLKCTRL.MCLKSTATUSの外部ｸﾛｯｸ状態(EXTS)と32.768kHzｸﾘｽﾀﾙ用発振器状態(XOSC32KS))によって示されます。

⚠注意
1. 外部ｸﾛｯｸ元がCLK_MAIN供給元として使われる間に機能しなくなる場合、ｳｫｯﾁﾄﾞｯｸﾞ ﾀｲﾏ(WDT)だけがｼｽﾃﾑ ﾘｾｯﾄ経由で切り替え戻すための機構を提供することができます。
2. CLK_MAIN元として使われる間に外部ｸﾛｯｸ元の特性を変えないでください。これはｸﾛｯｸ障害として解釈され得ます。

CLK_MAINはﾃﾞﾊﾞｲｽの周辺機能(CLK_PER)によって使われる前に前置分周器へ供給されます。前置分周器は1段だけを持ち、1～64の係数でCLK_MAINを分周することができます。

図11-2. 主ｸﾛｯｸと前置分周器



主ｸﾛｯｸと前置分周器の構成設定ﾚｼﾞｽﾀ(CLKCTRL.MCLKCTRLAとCLKCTRL.MCLKCTRLB)は、これらのﾚｼﾞｽﾀを変更するのに時間制限書き込み手順を使う構成設定変更保護機構によって保護されます。

11.3.3. ﾘｾｯﾄ後の主ｸﾛｯｸ

どのﾘｾｯﾄ後でも、CLK_MAINは前置分周器の分周係数6と共に16/20MHz発振器(OSC20M)によって提供されます。OSC20 Mの実際の周波数は発振器構成設定(FUSE.OSCCFG)ﾋｭｰｽﾞの周波数選択(FREQSEL)ﾋﾞｯﾄによって決められます。ﾘｾｯﾄ後に可能な周波数の詳細詳細についてはFUSE.OSCCFGの記述を参照してください。

11.3.4. クロック元

クロック元は内部発振器と外部発振器の2つの主な群に分けられます。全ての内部クロック元はそれらが周辺機能によって要求される時に自動的に許可されます。

クリスタル用発振器はそれがクロック元として扱われるのに先立って32.768kHzクリスタル用発振器制御A(CLKCTRL.XOSC32KCTRLA)レジスタの許可(ENABLE)ビットに'1'を書くことによって許可されなければなりません。

リセット後、デバイスは内部の高周波数発振器または32.768kHz発振器からの走行で開始します。

主クロック状態(CLKCTRL.MCLKSTATUS)レジスタの各々の状態ビットはクロック元が走行中で安定かを示します。

11.3.4.1. 内部発振器

内部発振器は走行するのにどんな外部部品も必要としません。

11.3.4.1.1. 16/20MHz発振器 (OSC20M)

この発振器は発振器構成設定(FUSE.OSCCFG)ヒューズの周波数選択(FREQSEL)ビットの値によって選択される複数の周波数で動作することができます。

システム リセット後、FUSE.OSCCFGはCLK_MAINの初期周波数を決めます。

リセットの間にヒューズからOSC20M用の校正値が設定されます。2つの異なる校正ビット領域があります。校正A(CLKCTRL.OSC20MCALIBA)レジスタの校正(CAL20M)ビット領域は現在の中心周波数近辺への校正を許します。校正B(CLKCTRL.OSC20MCALIBB)レジスタの発振器温度係数校正(TEMPCAL20M)ビット領域は温度変動補償の傾斜の調整を許します。

発振器校正によって提供されるよりももっと微調整された周波数設定が必要な応用については、追加補償のため、校正中に測定した残存発振器周波数誤差が識票列(SIGROW)で利用可能です。

発振器校正は発振器構成設定(FUSE.OSCCFG)の発振器施錠(OSCLOCK)ヒューズによって施錠することができます。このヒューズが'1'の時に校正変更が不能です。この発振器が主クロック元として使われ、主クロック施錠(CLKCTRL.MCLKLOCK)レジスタの施錠許可(LOCKEN)ビットが'1'の場合にも校正が施錠されます。

校正ビットは主クロックと前置分周器の設定を変更するために時間制限書き込み手順を必要とする構成設定変更保護機構によって保護されます。

始動時間については「電気的特性」章を参照してください。

11.3.4.1.1.1. OSC20M格納された周波数誤差補償

この発振器はリセット後に発振器構成設定(FUSE.OSCCFG)ヒューズの周波数選択(FREQSEL)ビットの値によって選択される複数の周波数で動作することができます。前で言及したように、(OSC20Mの)周波数を中心に調整するために適切な校正値が設定され、温度変動補償(TEMPCAL20M)が内部発振器特性で定義される仕様に合わせます。より広い動作範囲が必要な応用については、校正後に工場で格納した相対的な周波数誤差を使うことができます。異なる設定で4つの誤差が測定され、識票列で符号付きバイト値として利用可能です。

- 3VでのOSC16誤差(SIGROW.OSC16ERR3V)は3Vで測定された16MHzからの周波数誤差です。
- 5VでのOSC16誤差(SIGROW.OSC16ERR5V)は5Vで測定された16MHzからの周波数誤差です。
- 3VでのOSC20誤差(SIGROW.OSC20ERR3V)は3Vで測定された20MHzからの周波数誤差です。
- 5VでのOSC20誤差(SIGROW.OSC20ERR5V)は5Vで測定された20MHzからの周波数誤差です。

分解能を失わないために誤差は圧縮されたQ1.10固定小数点8ビット値として格納され、ここで最上位ビットは符号ビットで下位7ビットはQ.10の下位側ビットです。

$$\text{実際のBAUD} = \left(\text{理想BAUD} + \frac{\text{理想BAUD} \times \text{SIGROW誤差}}{1024}\right)$$

正当な最小BAUDレジスタ値は$40で、従って、例え負の補償値を持つデバイスに対しても補償したBAUD値が正当な範囲内に留まることを保証するために、目的対象BAUDレジスタ値は$4Aよりも低くすることができません。次の例のコードはより正確なUSARTボーレートのためにこの値をどう適用するかを実演します。

```
#include <assert.h>
/* 工場で格納された周波数誤差でのボーレート補償  */
/* 自動ボーレート(同期領域)なしでの非同期通信     */
/* 16MHzクロック、3Vで600ボー                    */

int8_t  sigrow_val     = SIGROW.OSC16ERR3V;      // 符号付き誤差取得
int32_t baud_reg_val   = 600;                    // 理想ボーレート レジスタ値

assert (baud_reg_val >= 0x4A);                   // 負の最大比較で正当な最小BAUDレジスタ値を確認
baud_reg_val *= (1024 + sigrow_val);             // (分解能+誤差)で乗算
baud_reg_val /=  1024;                           // 分解能で除算
USART0.BAUD = (int16_t) baud_reg_val;            // 補正したボーレート設定
```

11.3.4.1.2. 32.768kHz発振器 (OSCULP32K)

32.768kHz発振器は超低電力(ULP)動作に最適化されます。外部ｸﾘｽﾀﾙ用発振器に比べて減らされた精度を犠牲にして消費電力が減らされます。

この発振器は実時間計数器(RTC)、ｳｫｯﾁﾄﾞｯｸﾞ ﾀｲﾏ(WDT)、低電圧検出器(BOD)に1.024kHzの信号を提供します。

この発振器の始動時間はｱﾅﾛｸﾞ始動時間+4発振器周期です。始動時間については「電気的特性」章を参照してください。

11.3.4.2. 外部ｸﾛｯｸ元

これらの外部ｸﾛｯｸ元が利用可能です。

- ﾋﾟﾝからの外部ｸﾛｯｸ (EXTCLK)
- TOSC1とTOSC2のﾋﾟﾝは32.768kHzｸﾘｽﾀﾙ発振子を駆動するため専用です。(XOSC32K)
- ｸﾘｽﾀﾙ発振子の代わりに、TOSC1は外部ｸﾛｯｸ元を受け入れるように構成設定することができます。

11.3.4.2.1. 32.768kHzｸﾘｽﾀﾙ用発振器 (XOSC32K)

この発振器は、ｸﾘｽﾀﾙがTOSC1とTOSC2のﾋﾟﾝに接続される、または32.768kHzで走行する外部ｸﾛｯｸがTOSC1に接続されるのどちらかの2つの入力任意選択を支援します。この入力任意選択はXOSC32K制御A(CLKCTRL.XOSC32KCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの供給元選択(SEL)ﾋﾞｯﾄの書き込みによって構成設定されなければなりません。

XOSC32KはCLKCTRL.XOSC32KCTRLAのそれの許可(ENABLE)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって許可されます。許可されると、XOSC32Kによって使われる汎用入出力(GPIO)ﾋﾟﾝの構成設定はTOSC1とTOSC2のﾋﾟﾝとなることで無効にされます。要求された時に走行を開始する発振器に対して許可(ENABLE)ﾋﾞｯﾄが設定(1)されることが必要です。与えられたｸﾘｽﾀﾙでのｸﾘｽﾀﾙ用発振器の始動時間はCLKCTRL.XOSC32KCTRLAのｸﾘｽﾀﾙ始動時間(CSUT)ﾋﾞｯﾄへの書き込みによって調節することができます。

XOSC32KがTOSC1での外部ｸﾛｯｸ使用に構成設定されると、始動時間は2周期に固定されます。

11.3.4.2.2. 外部ｸﾛｯｸ (EXTCLK)

EXTCLKはﾋﾟﾝから直接的に取られます。この汎用入出力(GPIO)ﾋﾟﾝは何れかの周辺機能がこのｸﾛｯｸを要求した場合にEXTCLK用に構成設定されます。

このｸﾛｯｸ元は最初に要求された時に2周期の始動時間を持ちます。

11.3.5. 構成設定変更保護

この周辺機能は構成設定変更保護(CCP)下にあるﾚｼﾞｽﾀを持ちます。これらのﾚｼﾞｽﾀへ書くには、最初に構成設定変更保護(CPU.CCP)ﾚｼﾞｽﾀへ或る鍵が書かれ、4 CPU命令以内に保護されたﾋﾞｯﾄへの書き込みｱｸｾｽが後続しなければなりません。

適切なCCP解錠手順に従わずに保護されたﾚｼﾞｽﾀへの書き込みを試みることは保護されたﾚｼﾞｽﾀを無変化のままにします。

右のﾚｼﾞｽﾀがCCP下です。

表11-1. CLKCTRL – 構成設定変更保護下のﾚｼﾞｽﾀ

ﾚｼﾞｽﾀ	鍵種別
CLKCTRL.MCLKCTRLB	IOREG
CLKCTRL.MCLKLOCK	
CLKCTRL.XOSC32KCTRLA	
CLKCTRL.MCLKCTRLA	
CLKCTRL.OSC20MCTRLA	
CLKCTRL.OSC20MCALIBA	
CLKCTRL.OSC20MCALIBB	
CLKCTRL.OSC32KCTRLA	

11.4. レジスタ要約

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00	MCLKCTRLA	7～0	CLKOUT						CLKSEL1,0	
+$01	MCLKCTRLB	7～0				PDIV3~0				PEN
+$02	MCLKLOCK	7～0								LOCKEN
+$03	MCLKSTATUS	7～0	EXTS	XOSC32KS	OSC32KS	OSC20MS				SOSC
+$04 ～ +$0F	予約									
+$10	OSC20MCTRLA	7～0							RUNSTDBY	
+$11	OSC20MCALIBA	7～0		CAL20M6~0						
+$12	OSC20MCALIBB	7～0	LOCK				TEMPCAL20M3~0			
+$13 ～ +$17	予約									
+$18	OSC32KCTRLA	7～0							RUNSTDBY	
+$19 ～ +$1B	予約									
+$1C	XOSC32KCTRLA	7～0			CSUT1,0			SEL	RUNSTDBY	ENABLE

11.5. レジスタ説明

11.5.1. MCLKCTRLA – 主クロック制御A (Main Clock Control A)

名称 : MCLKCTRLA
変位 : +$00
リセット : $00
特質 : 構成設定変更保護

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
	CLKOUT						CLKSEL1,0	
アクセス種別	R/W	R	R	R	R	R	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット7 – CLKOUT : システム クロック出力** (System Clock Out)

このビットが'1'を書かれると、システム クロックがCLKOUTピンに出力されます。CLKOUTピンは20ピン以上のデバイスで利用可能です。より多くの情報については「3.1. 入出力多重化」項をご覧ください。

デバイスが休止動作形態の時には、周辺機能がシステム クロックを使っていない限り、クロック出力は全くありません。

● **ビット1,0 – CLKSEL1,0 : クロック選択** (Clock Select)

このビット領域は主クロック(CLK_MAIN)用の供給元を選びます。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	OSC20M	OSCULP32K	XOSC32K	EXTCLK
説明	16/20MHz 内部発振器	32.768kHz内部 超低電力発振器	XOSC32KCTRLAのSELビットに応じて32.768kHz 外部クロックまたは32.768kHz外部クリスタル用発振器	外部クロック

11.5.2. MCLKCTRLB – 主クロック制御B (Main Clock Control B)

名称 : MCLKCTRLB
変位 : +$01
リセット : $11
特質 : 構成設定変更保護

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
				PDIV3~0				PEN
アクセス種別	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	1	0	0	0	1

● **ビット4~1 – PDIV3~0 : 前置分周器分周値** (Prescaler Division)

前置分周器許可(PEN)ビットが'1'を書かれると、これらのビットは主クロック前置分周器の分周比を定義します。

これらのビットは応用の必要条件に適合させるようにシステムのクロック周波数を変えるために走行時の間に書くことができます。

使用者ソフトウェアは結果のCLK_PER周波数が許された最大(電気的特性をご覧ください)を決して超えないような、正しい入力周波数(CLK_MAIN)の構成設定と前置分周器設定を保証しなければなりません。

値	0000	0001	0010	0011	0100	0101	0110	0111	1000	1001	1010	1011	1100	1101	1110	1111
名称	DIV2	DIV4	DIV8	DIV16	DIV32	DIV64	–		DIV6	DIV10	DIV12	DIV24	DIV48	–		
説明 (分周数)	2	4	8	16	32	64	(予約)		6	10	12	24	48	(予約)		

● **ビット0 – PEN : 前置分周器許可** (Prescaler Enable)

前置分周器が許可されるにはこのビットが'1'を書かれなければなりません。許可されると、前置分周器分周値(PDIV)ビット領域によって分周比が選ばれます。

このビットが'0'を書かれると、主クロックはPDIVの値に関わらず、分周なしを通して渡されます(CLK_PER=CLK_MAIN)。

11.5.3. MCLKLOCK – 主ｸﾛｯｸ施錠 (Main Clock Lock)

名称 ：MCLKLOCK
変位 ：+$02
ﾘｾｯﾄ ：‘0000000x’：発振器構成設定(FUSE.OSCCFG)ﾋｭｰｽﾞの発振器施錠(OSCLOCK)に基づきます。
特質 ：構成設定変更保護

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
								LOCKEN
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	x

● **ﾋﾞｯﾄ0 – LOCKEN：施錠許可** (Lock Enable)

このﾋﾞｯﾄへの’1’書き込みは主ｸﾛｯｸ制御A(CLKCTRL.MCLKCTRLA)と主ｸﾛｯｸ制御B(CLKCTRL.MCLKCTRLB)のﾚｼﾞｽﾀと、適用可能ならば更なるｿﾌﾄｳｪｱ更新から現在の主ｸﾛｯｸ元に対する校正設定を施錠します。一旦施錠されると、CLKCTRL.MCLKLOCKﾚｼﾞｽﾀは次のﾊｰﾄﾞｳｪｱ ﾘｾｯﾄまでｱｸｾｽすることができません。

これはｿﾌﾄｳｪｱによる予期せぬ変更からCLKCTRL.MCLKCTRLAとCLKCTRL.MCLKCTRLBのﾚｼﾞｽﾀと主ｸﾛｯｸ元に対する校正設定の保護を提供します。

11.5.4. MCLKSTATUS – 主ｸﾛｯｸ状態 (Main Clock Status)

名称 ：MCLKSTATUS
変位 ：+$03
ﾘｾｯﾄ ：$00
特質 ：–

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	EXTS	XOSC32KS	OSC32KS	OSC20MS				SOSC
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7 – EXTS：外部ｸﾛｯｸ状態** (External Clock Status)

値	0	1
説明	EXTCLKは開始していません。	EXTCLKは開始しています。

● **ﾋﾞｯﾄ6 – XOSC32KS：32.768kHzｸﾘｽﾀﾙ用発振器状態** (XOSC32K Status)

この状態ﾋﾞｯﾄはこの供給元が主ｸﾛｯｸとして、または別の周辺機能によって要求された場合にだけ利用可能です。この発振器のｽﾀﾝﾊﾞｲ時走行(RUNSTDBY)ﾋﾞｯﾄが設定(1)で、発振器が未使用/要求なしの場合、このﾋﾞｯﾄは’0’になります。

値	0	1
説明	XOSC32Kは安定ではありません。	XOSC32Kは安定です。

● **ﾋﾞｯﾄ5 – OSC32KS：内部32.768kHz超低電力発振器状態** (OSCULP32K Status)

この状態ﾋﾞｯﾄはこの供給元が主ｸﾛｯｸとして、または別の周辺機能によって要求された場合にだけ利用可能です。この発振器のｽﾀﾝﾊﾞｲ時走行(RUNSTDBY)ﾋﾞｯﾄが設定(1)で、発振器が未使用/要求なしの場合、このﾋﾞｯﾄは’0’になります。

値	0	1
説明	OSCULP32Kは安定ではありません。	OSCULP32Kは安定です。

● **ﾋﾞｯﾄ4 – OSC20MS：内部16/20MHz発振器状態** (OSC20M Status)

この状態ﾋﾞｯﾄはこの供給元が主ｸﾛｯｸとして、または別の周辺機能によって要求された場合にだけ利用可能です。この発振器のｽﾀﾝﾊﾞｲ時走行(RUNSTDBY)ﾋﾞｯﾄが設定(1)で、発振器が未使用/要求なしの場合、このﾋﾞｯﾄは’0’になります。

値	0	1
説明	OSC20Mは安定ではありません。	OSC20Mは安定です。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – SOSC：主ｸﾛｯｸ発振器変更** (Main Clock Oscillator Changing)

値	0	1
説明	CLK_MAIN用ｸﾛｯｸ元は切り替えを体験していません。	CLK_MAIN用ｸﾛｯｸ元は切り替えを体験し、新供給元が安定すると直ぐに変更します。

11.5.5. OSC20MCTRLA – 16/20MHz発振器制御A (16/20MHz Oscillator Control A)

名称 : OSC20MCTRLA
変位 : +$10
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : 構成設定変更保護

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
							RUNSTDBY	
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R/W	R
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ1 – RUNSTDBY : ｽﾀﾝﾊﾞｲ時走行** (Run in Standby)

このﾋﾞｯﾄは例えｼｽﾃﾑによって未使用の時でも全ての動作形態でこの発振器を強制します。ｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作形態に於いて、これは発振器始動時間を待つことなく直ちに起き上がることを保証するのに使うことができます。

周辺機能によって要求されない時は発振器出力が全く提供されません。

要求後にｸﾛｯｸ開閉部を開くのに4発振器周期かかりますが、このﾋﾞｯﾄが設定(1)されると、発振器ｱﾅﾛｸﾞ始動時間が除去されます。

11.5.6. OSC20MCALIBA – 16/20MHz発振器校正A (16/20MHz Oscillator Calibration A)

名称 : OSC20MCALIBA
変位 : +$11
ﾘｾｯﾄ : FUSE.OSCCFG内のFREQSELﾋｭｰｽﾞに基づきます。
特質 : 構成設定変更保護

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
		CAL20M6~0						
ｱｸｾｽ種別	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	x	x	x	x	x	x	x

● **ﾋﾞｯﾄ5~0 – CAL20M6~0 : 校正値** (Calibration)

これらのﾋﾞｯﾄは微調整のために周波数を現在の中心周波数近辺に変更します。

ﾘｾｯﾄ後に発振器構成設定(FUSE.OSCCFG)ﾋｭｰｽﾞの周波数選択(FREQSEL)ﾋﾞｯﾄに基づいて工場校正値が設定されます。

11.5.7. OSC20MCALIBB – 16/20MHz発振器校正B (16/20MHz Oscillator Calibration B)

名称 : OSC20MCALIBB
変位 : +$12
ﾘｾｯﾄ : FUSE.OSCCFGﾋｭｰｽﾞに基づきます。
特質 : 構成設定変更保護

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	LOCK				TEMPCAL20M3~0			
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	x	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7 – LOCK : ﾋｭｰｽﾞによる発振器校正施錠** (Oscillator Calibration Locked by Fuse)

このﾋﾞｯﾄが設定(1)されると、校正A(CLKCTRL.OSC20MCALIBA)と校正B(CLKCTRL.OSC20MCALIBB)のﾚｼﾞｽﾀの校正設定は変更することができません。

ﾘｾｯﾄ値は発振器構成設定(FUSE.OSCCFG)ﾋｭｰｽﾞの発振器施錠(OSCLOCK)ﾋﾞｯﾄから取得/設定されます。

● **ﾋﾞｯﾄ3~0 – TEMPCAL20M3~0 : 発振器温度係数校正** (Oscillator Temperrature Coefficient Calibration)

これらのﾋﾞｯﾄは温度補償の傾斜を調整します。

ﾘｾｯﾄ後に発振器構成設定(FUSE.OSCCFG)ﾋｭｰｽﾞの周波数選択(FREQSEL)ﾋﾞｯﾄに基づいて工場校正値が設定されます。

11.5.8. OSC32KCTRLA – 32.768kHz発振器制御A (32.768kHz Oscillator Control A)

名称 : OSC32KCTRLA
変位 : +$18
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : 構成設定変更保護

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
							RUNSTDBY	
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R/W	R
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ1 – RUNSTDBY : ｽﾀﾝﾊﾞｲ時走行** (Run in Standby)

このﾋﾞｯﾄは例えｼｽﾃﾑによって未使用の時でも全ての動作形態でこの発振器を強制します。ｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作形態に於いて、これは発振器始動時間を待つことなく直ちに起き上がることを保証するのに使うことができます。

周辺機能によって要求されない時は発振器出力が全く提供されません。

要求後にｸﾛｯｸ開閉部を開くのに4発振器周期かかりますが、このﾋﾞｯﾄが設定(1)されると、発振器ｱﾅﾛｸﾞ始動時間が除去されます。

11.5.9. XOSC32KCTRLA – 32.768kHzｸﾘｽﾀﾙ用発振器制御A (32.768kHz Crystal Oscillator Control A)

名称 : XOSC32KCTRLA
変位 : +$1C
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : 構成設定変更保護

供給元選択(SEL)とｸﾘｽﾀﾙ始動時間(CSUT)のﾋﾞｯﾄは許可(ENABLE)ﾋﾞｯﾄが設定(1)される、または主ｸﾛｯｸ状態(CLKCTRL.MCLKSTATUS)ﾚｼﾞｽﾀの32.768kHzｸﾘｽﾀﾙ用発振器状態安定(XOSC32KS)ﾋﾞｯﾄが'1'である限り、変更することができません。

設定を安全に変更するには、ENABLEﾋﾞｯﾄに'0'を書き、新設定でXOSC32Kを許可する前に、XOSC32KSが'0'になるまで待ってください。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
			CSUT1,0			SEL	RUNSTDBY	ENABLE
ｱｸｾｽ種別	R	R	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ5,4 – CSUT1,0 : ｸﾘｽﾀﾙ始動時間** (Crystal Start-Up Time)

これらのﾋﾞｯﾄは32.768kHzｸﾘｽﾀﾙ用発振器(XOSC32K)に対する始動時間を選びます。この発振器が許可される(ENABLE=1の)時に書き込み保護にされます。

供給元選択(SEL)=1の場合、始動時間は適用されません。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	1K	16K	32K	64K
説明	1K周期	16K周期	32K周期	64K周期

● **ﾋﾞｯﾄ2 – SEL : 供給元選択** (Source Select)

このﾋﾞｯﾄは外部供給元形式を選びます。この発振器が許可される(ENABLE=1の)時に書き込み保護にされます。

値	0	1
説明	外部ｸﾘｽﾀﾙ	TOSC1ﾋﾟﾝでの外部ｸﾛｯｸ

● **ﾋﾞｯﾄ1 – RUNSTDBY : ｽﾀﾝﾊﾞｲ時走行** (Run in Standby)

このﾋﾞｯﾄは例えENABLEﾋﾞｯﾄが設定(1)されている場合にｼｽﾃﾑによって未使用の時でも、全ての動作形態でこの発振器を強制します。ｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作形態に於いてこれは発振器始動時間を待つことなく直ちに起き上がることを保証するのに使うことができます。このﾋﾞｯﾄが'0'の時に、ｸﾘｽﾀﾙ用発振器はENABLEﾋﾞｯﾄが設定(1)されて、要求された時にだけ走行します。

1つ以上の周辺機能によって要求されない限り、XOSC32Kの出力は他の周辺機能に全く送られません。

RUNSTDBYﾋﾞｯﾄが設定(1)されると、この発振器出力を受け取るまでに、初期ｸﾘｽﾀﾙ始動時間が既に完了されていれば、要求した後で2から3のｸﾘｽﾀﾙ用発振器周期の遅延だけがあります。

RUNSTDBYﾋﾞｯﾄに従い、この発振器はﾃﾞﾊﾞｲｽが活動、ｱｲﾄﾞﾙまたはｽﾀﾝﾊﾞｲの休止動作形態、または要求された時にだけ許可される場合、全ての時間で活性(ON)にされます。

このﾋﾞｯﾄはこの発振器の意図せぬ許可も防ぐためにI/O保護されます。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – ENABLE : 許可** (Enable)

このﾋﾞｯﾄが’1’を書かれると、TOSC1とTOSC2に対する各々の入力ﾋﾟﾝの構成設定が無効にされます。また、供給元選択(SEL)とｸﾘｽﾀﾙ始動時間(CSUT)のﾋﾞｯﾄは読み込み専用になります。

このﾋﾞｯﾄはこの発振器のどの意図せぬ許可も防ぐためにI/O保護されます。

12. SLPCTRL – 休止制御器

12.1. 特徴

- 消費電力と機能を調整するための電力管理
- 3つの休止動作形態
  - アイドル
  - スタンバイ
  - パワーダウン
- 周辺機能をONまたはOFFとして構成設定できる、構成設定可能なスタンバイ動作

12.2. 概要

休止動作は節電のためにデバイス内の周辺機能とクロック領域を停止するのに使われます。休止制御器(SLPCTRL)は活動動作と休止動作間の移行を制御して処理します。

ソフトウェアが実行される1つの活動動作と3つの休止動作で利用可能な合計4つの動作形態があります。利用可能な休止動作形態はアイドル、スタンバイ、パワーダウンです。

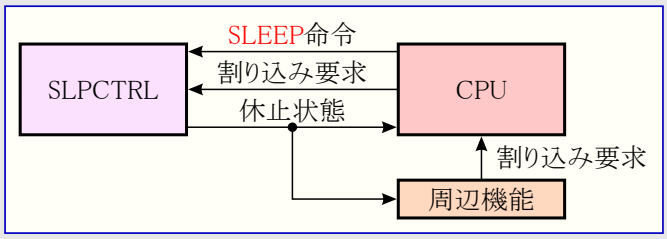
全ての休止動作は活動動作から移行することができます。活動動作ではCPUが応用コードを実行しています。デバイスが休止動作形態へ移行すると、プログラム実行が停止されます。応用コードはどの休止動作に移行するかとその時を決めます。

休止からデバイスを起き上がらせるのに割り込みが使われます。利用可能な割り込み起動元は構成設定された休止動作形態に依存します。割り込みが起こると、デバイスが起き上がり、SLEEP命令の後の最初の命令から通常のプログラム実行を続ける前に、割り込み処理ルーチンを実行します。どのリセットもデバイスを休止動作形態の外へ連れ出します。

レジスタ ファイル、SRAM、レジスタの内容は休止の間、保持されます。休止中にリセットが起きた場合、デバイスはリセットして開始し、リセット ベクタから実行します。

12.2.1. 構成図

図12-1. SLPCTRL構成図



12.3. 機能的な説明

12.3.1. 初期化

デバイスを休止動作形態に置くには以下のこれらの手順に従ってください。

1. 休止からデバイスを起き上がらせることができる割り込みを構成設定して許可してください。全体割り込みも許可してください。

   ⚠警告 休止へ行く時に許可された割り込みが全くない場合、デバイスは再び起き上がることができません。リセットだけがデバイスに動作の継続を許します。

2. 制御A(SLPCTRL.CTRLA)レジスタの休止動作形態(SMODE)ビット領域と休止許可(SEN)ビットを書くことによって、移行する休止動作を選んで休止制御器を許可してください。

デバイスを休止にするにはSLEEP命令が実行されなければなりません。

12.3.2. 動作

12.3.2.1. 休止動作

消費電力を減らすために3つの異なる休止動作形態を許可することができます。

アイドル CPUはコード実行を停止し、消費電力減少になります。
全ての周辺機能が動いて全ての割り込み元はデバイスを起こすことができます。

スタンバイ スタンバイ休止動作での走行が許可されていない何れの周辺機能やクロックを除き、全ての高周波数クロックが停止されます。これは対応するスタンバイ時走行(RUNSTDBY)ビットに'1'を書くことによって許可されます。消費電力は許可される機能に依存します。
一部の割り込み元がデバイスを起こすことができます(注)。

パワーダウン 全ての高周波数クロックが停止され、アイドル休止動作よりも低い消費電力になります。
一部の周辺機能が動いていて、一部の割り込み元がデバイスを起こすことができます(注)。

注: 更なる情報については以下の休止動作活動表を参照してください。
起き上がり時間が各種休止動作によってどう影響を及ぼされるかについては「起き上がり時間」項を参照してください。

表12-1. 周辺機能に対する休止動作活動概要

クロック	周辺機能	休止動作で活動		
		アイドル	スタンバイ	パワーダウン
CLK_CPU	CPU	×	×	×
CLK_RTC	RTC	○	○ (注1,2)	○ (注2)
CLK_WDT	WDT	○	○	○
CLK_BOD (注3)	BOD	○	○	○
(注4)	CCL	○	○ (注1)	×
CLK_PER	ADCn、TCAn、TCBn	○	○ (注1)	×
	他の全ての周辺機能	○	×	×

注1: 活動状態に入るには対応する周辺機能のスタンバイ時走行(RUNSTDBY)ビットを設定(1)してください。
注2: 活動状態に入るにはRTC機能だけ、RUNSTDBYビットの設定(1)が必要とされます。パワーダウン休止動作ではPIT機能だけが利用可能です。
注3: 採取動作のみ。
注4: クロック領域はCCL用に選ばれたクロック元に依存します。

表12-2. クロック元に対する休止動作活動概要

クロック元	休止動作で活動		
	アイドル	スタンバイ	パワーダウン
主クロック元	○	○ (注1)	×
RTCクロック元	○	○ (注1,2)	○ (注2)
WDT発振器、BOD発振器(注3)	○	○	○
CCLクロック元	○	○ (注1)	×

注1: 活動状態に入るには対応する周辺機能のスタンバイ時走行(RUNSTDBY)ビットを設定(1)してください。
注2: 活動状態に入るにはRTC機能だけ、RUNSTDBYビットの設定(1)が必要とされます。パワーダウン休止動作ではPIT機能だけが利用可能です。
注3: 採取動作のみ。

表12-3. 休止動作起こし元

起こし元	休止動作で活動		
	アイドル	スタンバイ	パワーダウン
PORTピン割り込み	○	○	○ (注1)
TWIアドレス一致割り込み、BOD VLM割り込み	○	○	○
CCL割り込み	○	○ (注2,3)	○ (注3)
RTC割り込み	○	○ (注2,4)	○ (注4)
USART割り込み	○ (注5)	○ (注6)	×
TCAn割り込み、TCBn割り込み、ADCn割り込み、ACn比較割り込み	○	○ (注2)	×
他の全ての割り込み	○	×	×

注1: 入出力ピンは「PORT」章の「非同期感知ピン特性」に従って構成設定されなければなりません。
注2: 活動状態に入るために対応する周辺機能のスタンバイ時走行(RUNSTDBY)ビットを設定(1)してください。
注3: CCLはLUTnを通す経路が非同期(LUTn制御A(LUTnCTRLA)レジスタで濾波器選択(FILTSEL)='00'且つ端検出(EDGEDET)='0')の場合にだけデバイスを起き上がらせることができます。
注4: スタンバイ休止動作では活動状態に入るためにRTC機能だけがRUNSTDBYビットの設定(1)を必要とされます。パワーダウン休止動作ではPIT機能だけが利用可能です。
注5: フレーム開始割り込みはスタンバイ休止動作でだけ利用可能です。
注6: スタンバイ動作ではフレーム開始割り込みだけがUSARTからの起き上がりを起動します。

12.3.2.2. 起き上がり時間

このﾃﾞﾊﾞｲｽに対する標準起き上がり時間は6主ｸﾛｯｸ周期(CLK_PER)と加えて主ｸﾛｯｸ元が始動するのにかかる時間、、それと調整器がOFFに切り替えられていた場合、調整器が開始するのにかかる時間です。

- ｱｲﾄﾞﾙ動作では追加の起き上がり時間をなくすために主ｸﾛｯｸ元が走行を保ちます。
- ｽﾀﾝﾊﾞｲ動作では主ｸﾛｯｸが走行するかもしれず、故に周辺機能構成設定に依存します。
- ﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝ動作では内部32.768kHz低電力発振器と実時間計数器(RTC)ｸﾛｯｸ元だけが動くかもしれません。これらは低電圧検出器(BOD)、ｳｫｯﾁﾄﾞｯｸﾞ ﾀｲﾏ(WDT)または周期的割り込み計時器(PIT)によって使われます。他の全てのｸﾛｯｸ元はOFFです。

各種ｸﾛｯｸ元に対する始動時間は「CLKCTRL – ｸﾛｯｸ制御器」章で記述されます。

標準起き上がり時間に加えて、ｺｰﾄﾞを実行するのに先立ってBODが準備を整えるまでﾃﾞﾊﾞｲｽを待たせることが可能です。これはBOD構成設定(FUSE.BODCFG)ﾋｭｰｽﾞの活動とｱｲﾄﾞﾙでのBOD動作形態(ACTIVE)ﾋﾞｯﾄに’11’を書くことによって行われます。標準起き上がり時間の前にBODが準備を整える場合、最終的な起き上がり時間は同じです。BODが標準起き上がり時間よりも長くかかる場合、起き上がり時間はBODが準備を整えるまで延長されます。これはいつｺｰﾄﾞが実行されようとも正しい供給電圧を保証します。

表12-4. 休止動作と始動時間

休止動作	始動時間
ｱｲﾄﾞﾙ	6 CLK
ｽﾀﾝﾊﾞｲ	6 CLK + OSC始動時間
ﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝ	6 CLK + OSC始動時間

12.3.3. ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ操作

走行時のﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ間、この周辺機能は標準動作を続けます。SLPCTRLはﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ操作の中断によってのみ影響を及ぼされます。中断が起きた時にSLPCTRLが休止動作形態の場合、例え保留割り込み要求が全くなくても、ﾃﾞﾊﾞｲｽは起き上がってSLPCTRLは活動動作になります。

周辺機能が割り込みまたは同様のものを通してCPUによる定期的な助けを必要とするように構成設定された場合、停止したﾃﾞﾊﾞｯｸﾞの間に不適切な動作やﾃﾞｰﾀ損失の可能性があります。

12.4. レジスタ要約

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00	CTRLA	7～0						SMODE1,0		SEN

12.5. レジスタ説明

12.5.1. CTRLA – 制御A (Control A)

名称 : CTRLA
変位 : +$00
リセット : $00
特質 : –

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
						SMODE1,0		SEN
アクセス種別	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット2,1 – SMODE1,0 : 休止動作形態** (Sleep Mode)

これらのビット書き込みは休止許可(SEN)ビットが'1'を書かれ、SLEEP命令が実行される時に移行される休止動作形態を選びます。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	IDLE	STANDBY	PDOWN	–
説明	アイドル休止動作許可	スタンバイ休止動作許可	パワーダウン休止動作許可	(予約)

● **ビット0 – SEN : 休止許可** (Sleep Enable)

選択された休止動作にMCUを移行するためにSLEEP命令が実行される前に、このビットは'1'を書かれなければなりません。

13. RSTCTRL – リセット制御器

13.1. 特徴

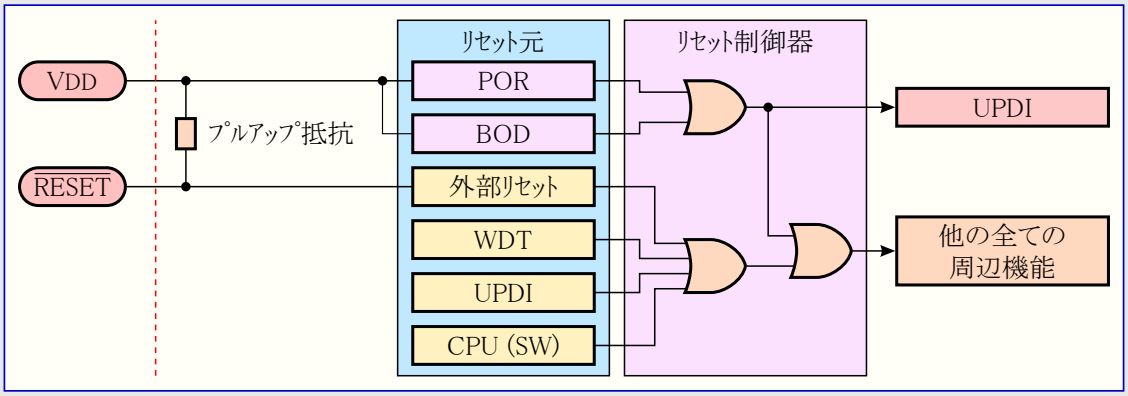
- デバイスをリセット後の初期状態に復帰
- 直前のリセット元を識別
- 電源リセット元:
  - 電源ONリセット(POR)
  - 低電圧検出器(BOD) リセット
- 使用者リセット元
  - 外部リセット($\overline{\text{RESET}}$)
  - ウォッチドッグ タイマ(WDT) リセット
  - ソフトウェア リセット(SWRST)
    - 統一プログラム/デバッグ インターフェース(UPDI) リセット

13.2. 概要

リセット制御器(RSTCTRL)はデバイスのリセットを管理します。これはデバイスにリセットを発行し、デバイスをその初期状態に設定し、そしてソフトウェアによる識別をリセット元に許します。

13.2.1. 構成図

図13-1. リセット システム概要



13.2.2. 信号説明

信号	形式	説明
$\overline{\text{RESET}}$	デジタル入力	外部リセット (Low活性)

13.3. 機能的な説明

13.3.1. 初期化

RSTCTRLは常に許可されますが、リセット元のいくつかはそれらがリセットを要求し得る前に(ヒューズまたはソフトウェアのどちらかによって)許可されなければなりません。

ヒューズまたは識票列から自動的に設定されるデバイスのレジスタが更新されます。どの供給元からのリセット後も、プログラム カウンタは$0000に設定されます。

13.3.2. 動作

13.3.2.1. リセット元

どれかのリセット後、リセットを起こした供給元はリセット フラグ(RSTCTRL.RSTFR)レジスタで見つかります。ソフトウェア応用でこのレジスタを読むことによって直前のリセット元を識別することができます。

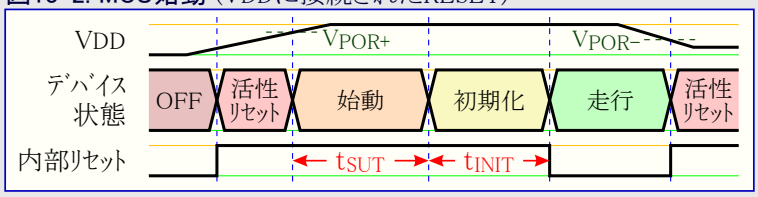
供給元に基づいて次のように2つのリセット形式があります。

- 電源リセット元:
  - 電源ONリセット (POR)
  - 低電圧検出器 (BOD) リセット
- 使用者リセット元:
  - 外部リセット ($\overline{\text{RESET}}$)
  - ウォッチドッグ タイマ (WDT) リセット
  - ソフトウェア リセット (SWRST)
  - 統一プログラム/デバッグ インターフェース (UPDI) リセット

13.3.2.1.1. 電源ONリセット (POR)

電源ONリセット(POR)は論理回路とメモリの安全な始動を保証することが狙いです。チップ上の検出回路が常に許可され、これを生成します。PORはVDDが上昇する時に活性にされ、VDDがPOR閾値電圧(VPOR+)未満である限り活性リセットを与えます。このリセットは始動してリセット初期化手順が終了されるまで持続されます。ヒューズが始動時間(SUT)を決めます。VDDが検出基準(VPOR-)未満に落ちる時にリセットは遅延もなしに再び活性にされます。

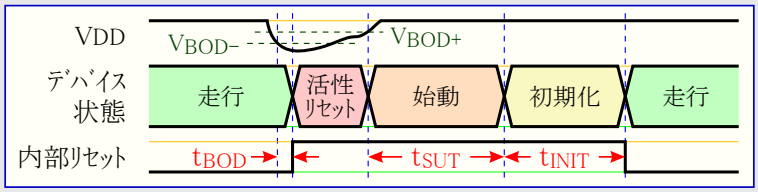
図13-2. MCU始動 (VDDに接続されたRESET)



13.3.2.1.2. 低電圧検出器 (BOD) リセット

低電圧検出器(BOD)回路はそれを一定の起動基準と比較することによって動作中にVDD水準を監視します。BODに対する起動基準はヒューズによって選ぶことができます。BODが応用で使われない場合、内部リセットとチップ消去の間の安全な動作を保証するため、最小基準を強制されます。

図13-3. 低電圧検出器リセット

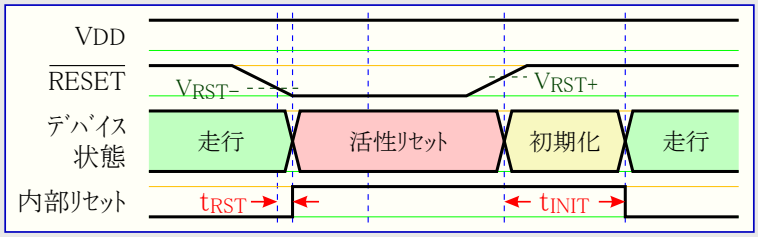


13.3.2.1.3. 外部リセット

外部リセットはヒューズによって許可されます。システム構成設定0(FUSE.SYSCFG0)ヒューズのリセット ピン構成設定(RSTPINCFG)ビット領域をご覧ください。

許可されると、外部リセットはRESETピンがLowである限り、リセットを要求します。デバイスはRESETが再びHighになるまでリセットに留まります。UPDIとBOD構成設定を除き、外部リセットで全ての論理回路がリセットされます。リセットが解放された後に全てのヒューズが再設定されます。

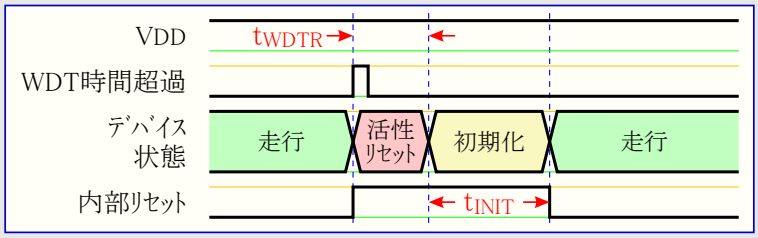
図13-4. 外部リセット特性



13.3.2.1.4. ウォッチドッグ タイマ (WDT) リセット

ウォッチドッグ タイマ(WDT)はプログラムの動作を監視するシステム機能です。ソフトウェアが設定された制限時間期間に従ってWDTを処理しなければ、ウォッチドッグ リセットが発行されます。「WDT – ウォッチドッグ タイマ」章でより多くの詳細を見つけてください。

図13-5. ウォッチドッグ リセット



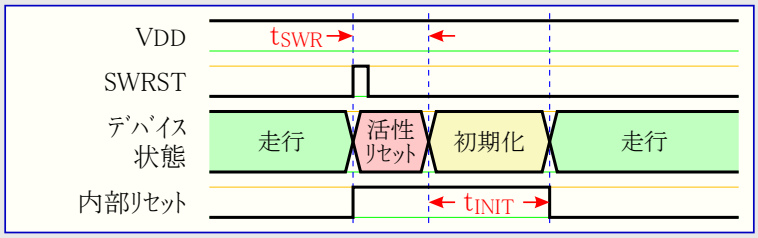
注: tWDTR時間は概ね50nsです。

13.3.2.1.5. ソフトウェア リセット

ソフトウェア リセットはソフトウェアからシステム リセットを発行することを可能にします。ソフトウェア リセット レジスタ(RSTCTRL.SWRR)のソフトウェア リセット許可(SWRST)ビットへの'1'書き込みがリセットを生成します。

ビットが書かれた後にリセットが直ちに起こり、リセット手順が完了されるまでデバイスはリセットを保ちます。

図13-6. ソフトウェア リセット



注: tSWR時間は概ね50nsです。

13.3.2.1.6. 統一プログラム/デバッグ インターフェース (UPDI) リセット

統一プログラム/デバッグ インターフェース(UPDI)は外部的なプログラミングとデバッグを行う間にデバイスをリセットするのに使われる独立したリセット元を含みます。このリセット元は外部のデバッガと書き込み器からだけアクセス可能です。「UPDI – 統一プログラム/デバッグ インターフェース」章でより多くの詳細を見つけてください。

13.3.2.1.7. リセットによって影響を及ぼされる領域

以下の論理回路領域が様々なリセットによって影響を及ぼされます。

表13-1. 様々なリセットによって影響を及ぼされる論理回路領域

リセット形式	POR	BOD	ソフトウェア リセット	外部リセット	WDTリセット	UPDIリセット
ヒューズ再設定	○	○	○	○	○	○
UPDIのリセット	○	○	×	×	×	×
他の揮発性論理回路のリセット	○	○	○	○	○	○

13.3.2.2. リセット時間

リセット時間は2つの部分に分けることができます。

最初の部分はリセット元のどれかが活性の時です。この部分はリセット元の入力に依存します。外部リセットは$\overline{\text{RESET}}$ピンがLowである限り活性です。電源ONリセット(POR)と低電圧リセット(BOD)は供給電圧がリセット元閾値未満の時に活性です。

2つ目の部分は全てのリセット元が解放される時で、デバイスの内部リセット初期化が行われます。電源リセット元がリセットを引き起こした場合、この時間はシステム構成設定1(FUSE.SYSCFG1)ヒューズの始動時間(SUT)ビット領域設定によって与えられる始動時間で増されます。内部リセット初期化時間は巡回冗長検査メモリ走査(CRCSCAN)が始動で動くように構成設定される場合にも増やされます。この構成設定はシステム構成設定0(FUSE.SYSCFG0)ヒューズのCRC元(CRCSRC)ビット領域で変更することができます。

13.3.3. 休止形態動作

RSTCTRLは活動動作と全ての休止動作で動作します。

13.3.4. 構成設定変更保護

この周辺機能は構成設定変更保護(CCP)下にあるレジスタを持ちます。これらへ書くには最初に構成設定変更保護(CPU.CCP)レジスタへ与えられた鍵が書かれ、4 CPU命令以内に保護されたビットへの書き込みアクセスが後続しなければなりません。

適切なCCP解錠手順に従わずに保護されたレジスタへ書こうとすると、それを無変化のままにします。

右のレジスタがCCP下です。

表13-2. RSTCTRL – 構成設定変更保護下のレジスタ

レジスタ	鍵種別
RSTCTRL.SWRR	IOREG

13.4. レジスタ要約

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00	RSTFR	7～0			UPDIRF	SWRF	WDRF	EXTRF	BORF	PORF
+$01	SWRR	7～0								SWRE

13.5. ﾚｼﾞｽﾀ説明

13.5.1. RSTFR – ﾘｾｯﾄ ﾌﾗｸﾞ ﾚｼﾞｽﾀ (Reset Flag Register)

名称 : RSTFR
変位 : +$00
ﾘｾｯﾄ : '00xx xxxx'
特質 : –

全てのﾌﾗｸﾞはそれらへ'1'を書くことによって解除(0)されます。それらは電源ONﾘｾｯﾄ ﾌﾗｸﾞ(PORF)を除き、電源ONﾘｾｯﾄ(POR)によっても解除(0)されます。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
			UPDIRF	SWRF	WDRF	EXTRF	BORF	PORF
ｱｸｾｽ種別	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	x	x	x	x	x	x

- **ﾋﾞｯﾄ5 – UPDIRF : UPDIﾘｾｯﾄ ﾌﾗｸﾞ** (UPDI Reset Flag)

このﾋﾞｯﾄはUPDIﾘｾｯﾄが起きた場合に設定(1)されます。

- **ﾋﾞｯﾄ4 – SWRF : ｿﾌﾄｳｪｱ ﾘｾｯﾄ ﾌﾗｸﾞ** (Software Reset Flag)

このﾋﾞｯﾄはｿﾌﾄｳｪｱ ﾘｾｯﾄが起きた場合に設定(1)されます。

- **ﾋﾞｯﾄ3 – WDRF : ｳｫｯﾁﾄﾞｯｸﾞ ﾘｾｯﾄ ﾌﾗｸﾞ** (Watchdog Reset Flag)

このﾋﾞｯﾄはｳｫｯﾁﾄﾞｯｸﾞ ﾘｾｯﾄが起きた場合に設定(1)されます。

- **ﾋﾞｯﾄ2 – EXTRF : 外部ﾘｾｯﾄ ﾌﾗｸﾞ** (External Reset Flag)

このﾋﾞｯﾄは外部ﾘｾｯﾄが起きた場合に設定(1)されます。

- **ﾋﾞｯﾄ1 – BORF : 低電圧検出ﾘｾｯﾄ ﾌﾗｸﾞ** (Brownout Reset Flag)

このﾋﾞｯﾄは低電圧検出ﾘｾｯﾄが起きた場合に設定(1)されます。

- **ﾋﾞｯﾄ0 – PORF : 電源ONﾘｾｯﾄ ﾌﾗｸﾞ** (Power-On Reset Flag)

このﾋﾞｯﾄはPORﾘｾｯﾄが起きた場合に設定(1)されます。

POR後、PORﾌﾗｸﾞだけが設定(1)され、他の全てのﾌﾗｸﾞは解除(0)されます。POR後に完全なｼｽﾃﾑ起動が走行する前に他のﾌﾗｸﾞは全く設定(1)され得ません。

13.5.2. SWRR – ｿﾌﾄｳｪｱ ﾘｾｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀ (Software Reset Register)

名称 : SWRR
変位 : +$01
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : 構成設定変更保護

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
								SWRE
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

- **ﾋﾞｯﾄ0 – SWRE : ｿﾌﾄｳｪｱ ﾘｾｯﾄ許可** (Software Reset Enable)

このﾋﾞｯﾄが'1'を書かかれると、ｿﾌﾄｳｪｱ ﾘｾｯﾄが起こります。

このﾋﾞｯﾄは常に'0'として読みます。

14. CPUINT – CPU割り込み制御器

14.1. 特徴

- 短くて予測可能な割り込み応答時間
- 各割り込みに対する独立した構成設定とﾍﾞｸﾀ ｱﾄﾞﾚｽ
- 段位とﾍﾞｸﾀ ｱﾄﾞﾚｽによる割り込み優先順位付け
- 2つの割り込み優先段位：0(標準)と1(高)
  - 割り込み要求の1つを優先段位1割り込みとして割り当て可能
  - 優先段位0割り込みに対する任意選択のﾗｳﾝﾄﾞﾛﾋﾞﾝ優先機構
- 重要な機能用の遮蔽不可割り込み(NMI:Non-Maskable Interrupt)
- 応用領域またはﾌﾞｰﾄ ﾛｰﾀﾞ領域に任意選択で配置される割り込みﾍﾞｸﾀ
- 選択可能な簡潔ﾍﾞｸﾀ表(CVT)

14.2. 概要

割り込み要求は周辺機能内側の状態変化を合図し、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ実行を変えるのに使うことができます。周辺機能は1つ以上の割り込みを持ちます。全てが個別に許可されて構成設定されます。

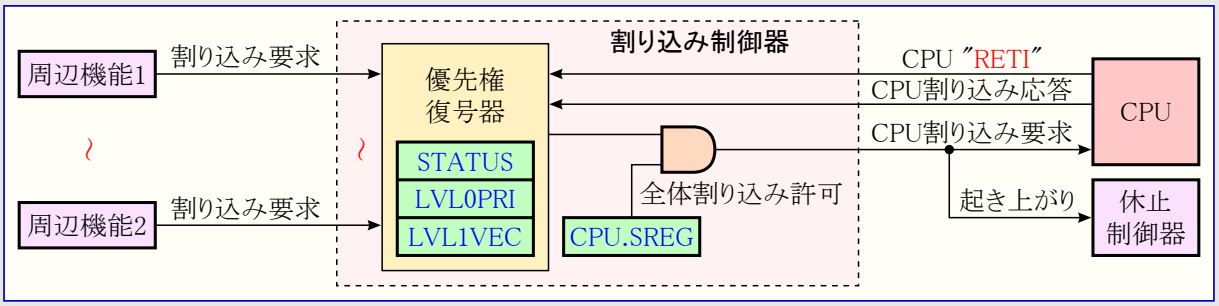
割り込みが許可されて構成設定されると、割り込み条件が発生する時に割り込み要求を生成します。

CPU割り込み制御器(CPUINT)は割り込み要求を優先順位付けして処理します。割り込みが許可されて割り込み条件が起こると、CPUINTはその割り込み要求を受け取ります。その割り込みの優先段位と何れかの進行中の割り込みの優先段位に基づいて、割り込み要求は応答されるか、またはそれが優先権を持つまで保留を保たれるかのどちらかです。割り込み処理部から戻った後、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ実行は割り込みが起きた前の場所から続け、どの保留割り込みも1命令実行後に扱われます。

CPUINTは重要な機能に対するNMI、1つの選択可能な高優先権割り込み、標準優先権割り込みに対する任意選択のﾗｳﾝﾄﾞﾛﾋﾞﾝ計画機構を提供します。ﾗｳﾝﾄﾞﾛﾋﾞﾝ計画は一定時間内で全ての割り込みを処理することを保証します。

14.2.1. 構成図

図14-1. CPUINT構成図



14.3. 機能的な説明

14.3.1. 初期化

以下の順で割り込みを初期化してください。

1. 任意選択: 制御A(CPUINT.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの割り込みﾍﾞｸﾀ選択(IVSEL)ﾋﾞｯﾄを使って望む割り込みﾍﾞｸﾀの位置を構成設定してください。
2. 任意選択: CPUINT.CTRLAﾚｼﾞｽﾀの簡潔ﾍﾞｸﾀ表(CVT)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって簡潔ﾍﾞｸﾀ表を許可してください。
3. 任意選択: CPUINT.CTRLAﾚｼﾞｽﾀのﾗｳﾝﾄﾞﾛﾋﾞﾝ優先権許可(LVL0RR)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによってﾗｳﾝﾄﾞﾛﾋﾞﾝによるﾍﾞｸﾀの優先順位付けを許可してください。
4. 任意選択: 段位1優先権保持割り込みﾍﾞｸﾀ(CPUINT.LVL1VEC)ﾚｼﾞｽﾀでの割り込みﾍﾞｸﾀに割り込みﾍﾞｸﾀ番号を書くことによって優先段位1のﾍﾞｸﾀを選んでください。
5. 任意選択: 割り込み優先段位0(LVL0PRI)ﾚｼﾞｽﾀを構成設定することによってLVL0割り込みの優先順位を変更してください。
6. 各周辺機能内で割り込み条件を構成設定し、周辺機能の割り込みを許可してください。
7. CPUｽﾃｰﾀｽ ﾚｼﾞｽﾀ(CPU.SREG)の全体割り込み許可(I)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって全体的に割り込みを許可してください。

14.3.2. 動作

14.3.2.1. 許可、禁止とﾘｾｯﾄ

割り込みの全体許可はCPUｽﾃｰﾀｽ ﾚｼﾞｽﾀ(CPU.SREG)の全体割り込み許可(I)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって行われます。割り込みを全体的に禁止するには、CPU.SREGのIﾋﾞｯﾄに'0'を書いてください。

望む割り込み線は周辺機能の割り込み制御([周辺機能名].INTCTRL)ﾚｼﾞｽﾀに書くことによって各々の周辺機能でも許可されなければなりません。

割り込み要求ﾌﾗｸﾞは割り込みが実行された後で自動的に解除(0)されません。各々の割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀ記述が特定のﾌﾗｸﾞをどう解除(0)するかの情報を提供します。

14.3.2.2. 割り込みﾍﾞｸﾀ位置

望む割り込みﾍﾞｸﾀの位置は制御A(CPUINT.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの割り込みﾍﾞｸﾀ選択(IVSEL)ﾋﾞｯﾄに依存します。可能な位置についてはCPUIN T.CTRLAのIVSEL記述を参照してください。

ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑが決して割り込み元を許可しなければ、割り込みﾍﾞｸﾀは使われず、それらの場所に通常のﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ｺｰﾄﾞを置くことができます。

14.3.2.3. 割り込み応答時間

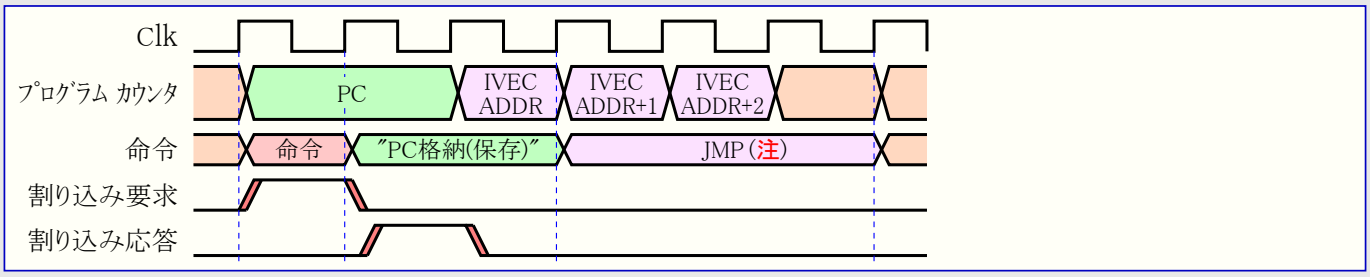
最小割り込み応答時間は右表で表されます。

表14-1. 最小割り込み応答時間

進行処理内容	ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ量＞8Kﾊﾞｲﾄ	ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ量≦8Kﾊﾞｲﾄ
進行中の命令終了	1周期	1周期
PCをｽﾀｯｸに格納	2周期	2周期
割り込み処理部へ飛ぶ	3周期 (JMP)	2周期 (RJMP)

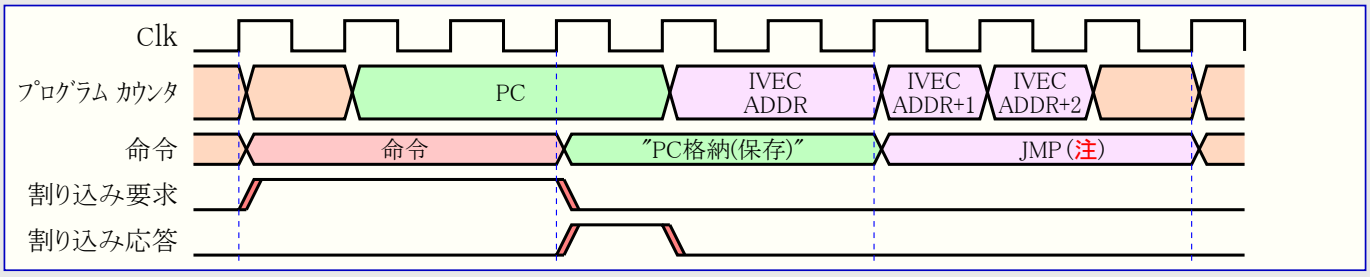
ｽﾀｯｸにﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ｶｳﾝﾀが押し込まれた後、割り込み用のﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ﾍﾞｸﾀが実行されます。以下の図をご覧ください。

図14-2. 単一周期命令の割り込み実行



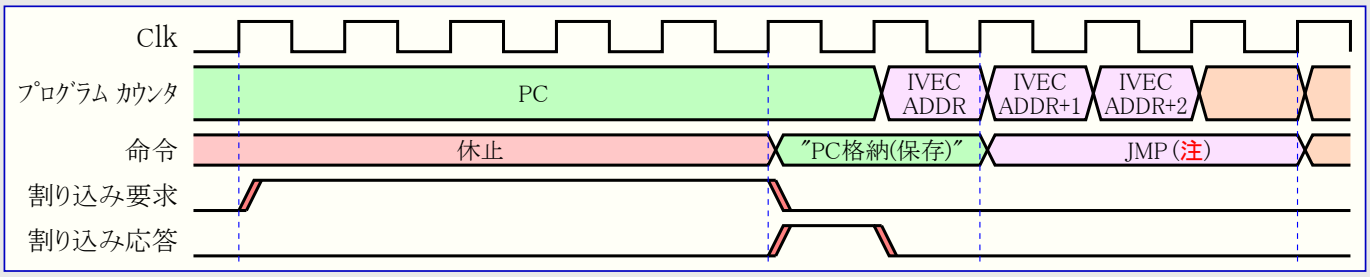
複数周期命令の実行中に割り込みが起きる場合、次図で示されるように、割り込みが処理される前にこの命令が完了されます。

図14-3. 複数周期命令の割り込み実行



ﾃﾞﾊﾞｲｽが休止動作形態の時に割り込みが起こる場合、次図で示されるように、割り込み実行応答時間は5ｸﾛｯｸ周期増やされます。また、応答時間は選んだ休止動作からの始動時間によっても増やされます。

図14-4. 休止からの割り込み実行



ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ｶｳﾝﾀの大きさに依存して、割り込み処理ﾙｰﾁﾝからの復帰は4～5ｸﾛｯｸ周期かかります。これらのｸﾛｯｸ周期の間、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ｶｳﾝﾀがｽﾀｯｸから取り出され、ｽﾀｯｸ ﾎﾟｲﾝﾀが増やされます。

注: 8Kﾊﾞｲﾄ以下のﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘを持つﾃﾞﾊﾞｲｽはJMPの代わりにRJMPを使い、2ｸﾛｯｸ周期だけかかります。

14.3.2.4. 割り込み優先権

全ての割り込みﾍﾞｸﾀは次表で示されるように、3つの可能な優先段位の1つに割り当てられます。高優先元からの割り込み要求は標準優先元からのどの進行中の割り込み処理部にも割り込みます。高優先割り込み処理部から戻ると、標準優先割り込み処理部の実行が再開します。

表14-2. 割り込み優先段位

優先権	段位	供給元
最高	遮蔽不可割り込み (NMI)	ﾃﾞﾊﾞｲｽ依存で静的割り当て
～	段位1 (高優先権)	1つのﾍﾞｸﾀが段位1として任意選択で使用者選択可能
最低	段位0 (標準優先権)	残りの割り込みﾍﾞｸﾀ

14.3.2.4.1. NMI – 遮蔽不可割り込み

NMIはCPUｽﾃｰﾀｽ ﾚｼﾞｽﾀ(CPU.SREG)の全体割り込み許可(I)ﾋﾞｯﾄ設定に関わらず実行されます。NMIは決してIﾋﾞｯﾄを変えません。他の割り込みがNMI処理部に割り込むことはできません。複数のNMIが同時に要求された場合、優先権は最下位ｱﾄﾞﾚｽが最高優先権を持つ割り込みﾍﾞｸﾀ ｱﾄﾞﾚｽに従った静的優先権です。

どの割り込みが遮蔽不可かはﾃﾞﾊﾞｲｽ依存で、構成設定の対象ではありません。遮蔽不可割り込みはそれらが使われ得る前に許可されなければなりません。利用可能なNMI元についてはﾃﾞﾊﾞｲｽの割り込みﾍﾞｸﾀ配置表を参照してください。

14.3.2.4.2. 高優先割り込み

優先段位1保持割り込みﾍﾞｸﾀ(CPUINT.LVL1VEC)ﾚｼﾞｽﾀに割り込みﾍﾞｸﾀ番号を書くことによって1つの割り込み要求を段位1(高優先)に割り当てることが可能です。この割り込み要求は他の(標準優先)割り込み要求よりも高い優先権を持ちます。優先段位1割り込みは段位0割り込み処理部に割り込みます。

14.3.2.4.3. 標準優先割り込み

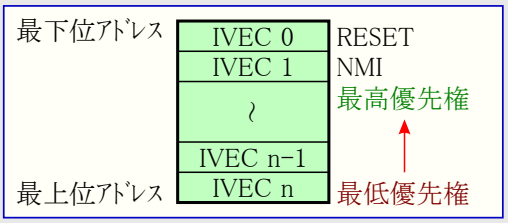
NMI以外の全ての割り込みﾍﾞｸﾀは既定で優先段位0(標準)に割り当てられます。これらのﾍﾞｸﾀの1つを高優先ﾍﾞｸﾀとして割り当てることによってこれを覆すかもしれません。ﾃﾞﾊﾞｲｽは多くの標準優先ﾍﾞｸﾀを持ち、それらのいくつかが同時に保留中かもしれません。どの保留中標準優先割り込みを先に処理するかを選ぶために静的とﾗｳﾝﾄﾞﾛﾋﾞﾝの異なる2つの計画機構が利用可能です。

IVECは「周辺機能と基本構造」章で一覧にされるような割り込みﾍﾞｸﾀ割り当てです。以下の項は計画機構を説明するのにIVECを使います。IVEC0はﾘｾｯﾄ ﾍﾞｸﾀ、IVEC1はNMIﾍﾞｸﾀ、以下同様です。n+1要素を持つﾍﾞｸﾀ表では最高ﾍﾞｸﾀ番号を持つﾍﾞｸﾀがIVECnと示されます。ﾘｾｯﾄ、遮蔽不可割り込み、それと高段位割り込みはIVEC割り当てに含まれますが、常に標準優先割り込みを超えて優先されます。

14.3.2.4.3.1. 静的計画

いくつかの段位0割り込み要求が同時に保留中の場合、最高優先権を持つ1つが先行する実行のために計画されます。右図は最低ｱﾄﾞﾚｽを持つ割り込みﾍｸﾀが最高優先権を持つ既定構成設定を説明します。

図14-5. 既定静的計画



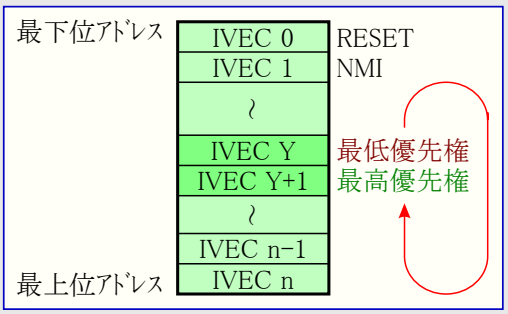
14.3.2.4.3.2. 変更した静的計画

既定優先権は割り込み優先段位0(CPUINT.LVL0PRI)ﾚｼﾞｽﾀにﾍﾞｸﾀ番号を書くことによって変更することができます。右図で示されるように、次の割り込みﾍﾞｸﾀがLVL0割り込み内で最高優先権を持ちます。

ここで、値YはY+1の割り込みﾍﾞｸﾀが最高優先権を持つようにCPUINT.LVL0PRIへ書かれています。この場合、優先権はもはや最低ｱﾄﾞﾚｽが最高優先権を持たないように丸め、常に最高優先権を持つRESETとNMIを含めないことに注意してください。

利用可能な割り込み要求とそれらの割り込みﾍﾞｸﾀ番号についてはﾃﾞﾊﾞｲｽの「割り込みﾍﾞｸﾀ配置」を参照してください。

図14-6. CPUINT.LVL0PRI≠0時静的計画

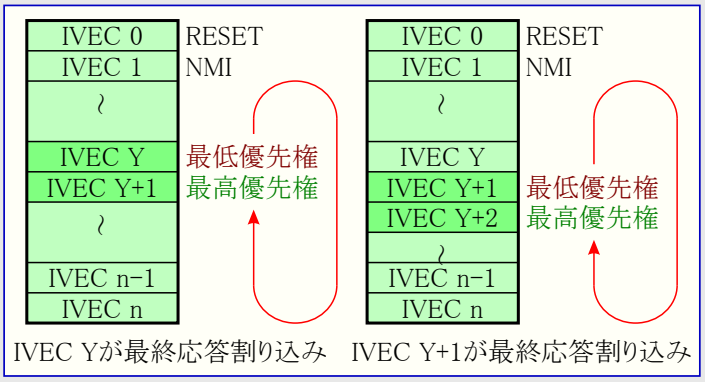


14.3.2.4.3.3. ﾗｳﾝﾄﾞﾛﾋﾞﾝ計画

静的計画は処理されることからいくつかの割り込み要求を妨げるかもしれません。これを避けるため、CPUINTは標準優先(LVL0)割り込みに対してﾗｳﾝﾄﾞﾛﾋﾞﾝ計画を提供します。ﾗｳﾝﾄﾞﾛﾋﾞﾝ計画ではCPUINT.LVL0PRIﾚｼﾞｽﾀが最後に応答した割り込みﾍﾞｸﾀ番号を格納します。このﾚｼﾞｽﾀは最後に応答した割り込みﾍﾞｸﾀが最低優先権を持ち、ﾊｰﾄﾞｳｪｱによって自動的に更新されます。以下の図はIVEC Y応答後とIVEC Y+1応答後の優先順を説明します。

LVL0割り込み要求に対するﾗｳﾝﾄﾞﾛﾋﾞﾝ計画は制御A(CPUINT.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのﾗｳﾝﾄﾞﾛﾋﾞﾝ優先権許可(LVL0RR)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって許可されます。

図14-7. ﾗｳﾝﾄﾞﾛﾋﾞﾝ計画



14.3.2.5. 簡潔ﾍﾞｸﾀ表

簡潔ﾍﾞｸﾀ表(CVT)は全ての段位0割り込みが同じﾍﾞｸﾀ番号を共用することによって簡潔なｺｰﾄﾞ書きを許すための機能です。従って、割り込みは同じ割り込み処理ﾙｰﾁﾝ(ISR)を共用します。これは割り込み処理部を減らし、それによって応用ｺｰﾄﾞに使うことができるﾒﾓﾘを開放します。

制御A(CPUINT.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの簡潔ﾍﾞｸﾀ表(CVT)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによってCVTが許可されると、ﾍﾞｸﾀ表は以下のこれら3つの割り込みﾍﾞｸﾀを含みます。

1. ﾍﾞｸﾀ ｱﾄﾞﾚｽ1の遮蔽不可割り込み(NMI)
2. ﾍﾞｸﾀ ｱﾄﾞﾚｽ2の優先段位1(LVL1)割り込み
3. ﾍﾞｸﾀ ｱﾄﾞﾚｽ3の全ての優先段位0(LVL0)割り込み

この機能は限定されたﾒﾓﾘを持つﾃﾞﾊﾞｲｽと少数の割り込み生成部を使う応用に最適です。

14.3.3. ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ操作

段位1割り込み使用時、段位1優先権を持つ割り込みの繰り返しで応用を立往生させるかもしれないため、割り込み処理ﾙｰﾁﾝが正しく構成設定される事を確実にすることが重要です。

CPUINT状態(CPUINT.STATUS)ﾚｼﾞｽﾀを読むことにより、応用が正しいRETI(割り込み復帰)命令を実行されているか知ることが可能です。CPUINT.STATUSﾚｼﾞｽﾀは割り込み処理部の最後でRETI命令が実行される時にCPUINTが正しい割り込み段位に戻ることを保証する状態情報を含みます。割り込みからの復帰はCPUINTを割り込みに入る前に持っていた状態に戻します。

14.3.4. 構成設定変更保護

この周辺機能は構成設定変更保護(CCP)下にあるﾚｼﾞｽﾀを持ちます。これらへ書くには最初に構成設定変更保護(CPU.CCP)ﾚｼﾞｽﾀへ或る鍵が書かれ、4 CPU命令以内に保護されたﾋﾞｯﾄへの書き込みｱｸｾｽが後続しなければなりません。

適切なCCP解錠手順に従わずに保護されたﾚｼﾞｽﾀへ書こうとすると、保護されたﾚｼﾞｽﾀを無変化のままにします。

右のﾚｼﾞｽﾀがCCP下です。

表14-3. CPUINT - 構成設定変更保護下のﾚｼﾞｽﾀ

ﾚｼﾞｽﾀ	鍵種別
CPUINT.CTRLAのIVSELとCVT	IOREG

14.4. レジスタ要約

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00	CTRLA	7～0		IVSEL	CVT					LVL0RR
+$01	STATUS	7～0	NMIEX						LVL1EX	LVL0EX
+$02	LVL0PRI	7～0	LVL0PRI7~0							
+$03	LVL1VEC	7～0	LVL1VEC7~0							

14.5. ﾚｼﾞｽﾀ説明

14.5.1. CTRLA – 制御A (Control A)

名称 : CTRLA
変位 : +$00
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : 構成設定変更保護

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
		IVSEL	CVT					LVL0RR
ｱｸｾｽ種別	R	R/W	R/W	R	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ6 – IVSEL : 割り込みﾍﾞｸﾀ選択** (Interrupt Vector Select)

ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ全体がﾌﾞｰﾄ領域として構成設定されると、このﾋﾞｯﾄは無視されます。

値	0	1
説明	望む割り込みﾍﾞｸﾀの位置はﾌﾞｰﾄ領域の直後(注)	望む割り込みﾍﾞｸﾀの位置はﾌﾞｰﾄ領域の先頭

注: ｼｽﾃﾑ ﾘｾｯﾄはIVSELﾋﾞｯﾄ値に関わらず、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ｶｳﾝﾀを$0000にﾘｾｯﾄさせます。

● **ﾋﾞｯﾄ5 – CVT : 簡潔ﾍﾞｸﾀ表** (Compact Vector Table)

値	0	1
説明	簡潔ﾍﾞｸﾀ表機能禁止	簡潔ﾍﾞｸﾀ表機能許可

● **ﾋﾞｯﾄ0 – LVL0RR : ﾗｳﾝﾄﾞﾛﾋﾞﾝ優先権許可** (Round-Robin Priority Enable)

このﾋﾞｯﾄは構成設定変更保護機構によって保護されません。

値	0	1
説明	優先権は優先段位0割り込みに対して固定、最下位割り込み要求ｱﾄﾞﾚｽが最高優先権を持ちます。	優先段位0割り込み要求に対してﾗｳﾝﾄﾞﾛﾋﾞﾝ優先機構が許可されます。

14.5.2. STATUS – 状態 (Status)

名称 : STATUS
変位 : +$01
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	NMIEX						LVL1EX	LVL0EX
ｱｸｾｽ種別	R/W	R	R	R	R	R	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7 – NMIEX : 遮蔽不可割り込み実行中** (Non-Maskable Interrupt Executing)

このﾌﾗｸﾞは遮蔽不可割り込みが実行中の場合に設定(1)されます。このﾌﾗｸﾞは割り込み処理部から(RETIで)戻る時に解除(0)されます。

● **ﾋﾞｯﾄ1 – LVL1EX : 段位1割り込み実行中** (Level 1 Interrupt Executing)

このﾌﾗｸﾞは優先段位割り込みが実行中の時か、またはその割り込み処理部がNMIによって割り込まれている時に設定(1)されます。このﾌﾗｸﾞは割り込み処理部から(RETIで)戻る時に解除(0)されます。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – LVL0EX : 段位0割り込み実行中** (Level 0 Interrupt Executing)

このﾌﾗｸﾞは優先段位0割り込みが実行中の時か、またはその割り込み処理部が優先段位1割り込みかNMIによって割り込まれている時に設定(1)されます。このﾌﾗｸﾞは割り込み処理部から(RETIで)戻る時に解除(0)されます。

14.5.3. LVL0PRI – 割り込み優先段位0 (Interrupt Priority Level 0)

名称 : LVL0PRI
変位 : +$02
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	LVL0PRI7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – LVL0PRI7~0 : 割り込み優先段位0** (Interrupt Priority Level 0)

このﾚｼﾞｽﾀはLVL0割り込みの優先権を変更するのに使われます。より多くの情報については「標準優先割り込み」項をご覧ください。

14.5.4. LVL1VEC – 優先段位1保持割り込みﾍﾞｸﾀ (Interrupt Vector with Priority Level 1)

名称 : LVL1VEC
変位 : +$03
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	LVL1VEC7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – LVL1VEC7~0 : 優先段位1保持割り込みﾍﾞｸﾀ** (Interrupt Vector with Priority Level 1)

このﾋﾞｯﾄ領域は高められた優先段位1(LVL1)を持つ単一ﾍﾞｸﾀの番号を含みます。このﾋﾞｯﾄ領域が$00の値を持つ場合、ﾍﾞｸﾀはLVL1を持ちません。その結果として、LVL1割り込みは禁止されます。

15. EVSYS – 事象システム

15.1. 特徴

- 周辺機能から周辺機能への直接的な合図のためのシステム
- 周辺機能は周辺機能事象への直接的な生成、使用、反応が可能
- 短くて予測可能な応答時間
- 最大6つの平行事象チャネルを利用可能
- 各チャネルは1つの事象生成部によって駆動され、複数の事象使用部を持つことが可能
- 事象は殆どの周辺機能とソフトウェアによって送ることや受け取ることが可能
- 事象システムは活動動作、アイドルとスタンバイの休止動作で動作

15.2. 概要

事象システム(EVSYS)は周辺機能から周辺機能への直接的な合図を許します。それはCPUを使うことなく、事象チャネルを通して或る周辺機能(事象生成部)での変化で別の周辺機能(事象使用部)での活動を起動することを許します。それは自律の周辺機能制御と相互作用、そして多数の周辺機能単位部での活動の同期タイミングをも許す、周辺機能間の短くて予測可能な応答時間を提供するように設計されます。従って、EVSYS周辺機能はコアから独立した周辺機能(CIPs:Core Independent Peripherals)の実装を可能にします。また、それはソフトウェアの複雑さ、大きさ、実行時間を減らすための強力な道具です。

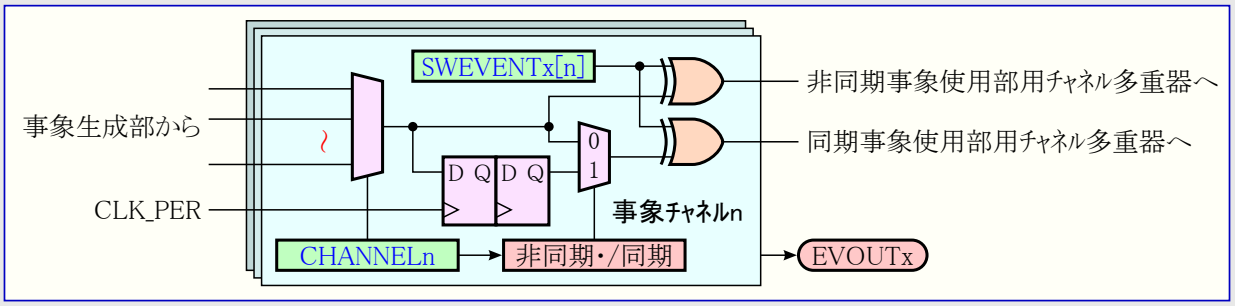
事象生成部の状態の変化は事象として参照され、通常、周辺機能の割り込み条件の1つに対応します。事象は専用の事象経路網を用いて他の周辺機能へ直接送ることができます。各チャネルの配線は事象生成と使用を含め、ソフトウェアで構成設定されます。

各チャネルでは1つの事象だけを配線することができます。複数の周辺機能が同じチャネルからの事象を使うことができます。

EVSYSはA/D変換器、アナログ比較器、入出力ポート ピン、実時間計数器、タイマ/カウンタ、構成設定可能な注文論理回路のような周辺機能を直接的に接続することができます。事象はソフトウェアから生成することもできます。

15.2.1. 構成図

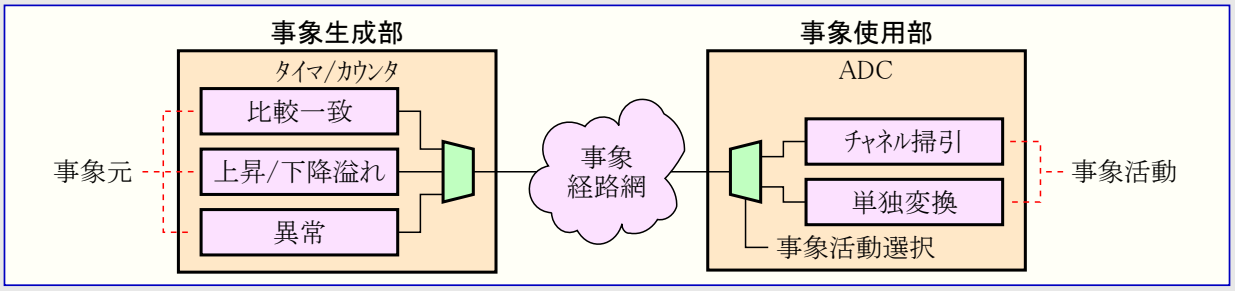
図15-1. EVSYS構成図



構成図は事象チャネルの動作を示します。入力でチャネルn生成部選択(EVSYS.CHANNELn)によって制御される多重器はどの事象元を事象チャネルに配線するかを選びます。各事象チャネルは2つの副チャネル、1つの非同期副チャネルと1つの同期副チャネルを持ちます。同期使用部は同期副チャネルを聴取し、非同期使用部は非同期副チャネルを聴取します。

非同期元からの事象信号は同期副チャネルに配線される前に事象システムによって同期化されます。同期使用部によって使われる非同期事象信号は同期部を通る伝搬を保証するために最低1周辺機能クロック周期間持続しなければなりません。同期部は事象発生時に依存してそのような事象を2～3クロック周期遅らせます。

図15-2. 事象元、生成部、使用部、活動の例



15.2.2. 信号説明

信号	形式	説明
EVOUTx	デジタル出力	事象出力、入出力ポート毎に1出力

15.3. 機能的な説明

15.3.1. 初期化

事象を使うには、事象システム、生成する周辺機能とその事象を使う周辺機能が適切に構成設定されなければなりません。

1. 生成する周辺機能を適切に構成設定してください。例えば、生成する周辺機能が計時器の場合、望む事象が生成されるように前置分周、比較レジスタなどを設定してください。
2. 事象使用部周辺機能を適切に構成設定してください。例えば、ADCが事象使用部の場合、ADCの前置分周器、分解能、変換時間などを設定し、事象の受け取りで開始するようにADC変換を構成設定してください。
3. 事象システムを望む供給元に構成設定してください。この例では計時器比較一致を望む事象チャネルへです。これは例えば、チャネル0生成部選択(EVSYS.CHANNEL0)レジスタへ書くことによって達成されるチャネル0かもしれません。
4. 対応する使用部nチャネル多重器(EVSYS.USERn)レジスタへ書くことによってこのチャネルを聴取するようにADCを構成設定してください。

15.3.2. 動作

15.3.2.1. 事象使用部多重器構成設定

各事象使用部はどの事象チャネルを聴取するかを選ぶ1つの専用事象使用部多重器を持ちます。応用は対応する使用部nチャネル入力選択(EVSYS.USERn)レジスタを書くことによってこれらの多重器を構成設定します。

15.3.2.2. 事象システム チャネル

事象チャネルは事象生成部の1つに接続することができます。

各事象チャネルの供給元は各々のチャネルn生成部選択(EVSYS.CHANNELn)レジスタを書くことによって構成設定されます。

15.3.2.3. 事象生成部

各事象チャネルは同時にどれか1つだけを選ぶことができるいくつかの可能な事象生成部を持ちます。チャネルに対する事象生成部は各々のチャネルn生成部選択(EVSYS.CHANNELn)レジスタを書くことによって選ばれます。既定では、チャネルがどの事象生成部にも接続されません。事象生成の詳細については対応する周辺機能の記述を参照してください。

生成される事象はデバイスの周辺機能クロック(CLK_PER)に対して同期または非同期のどちらかです。非同期事象は周辺機能クロックの標準端外で生成することができ、システムが選ばれたクロック周波数よりも速く応答することを示唆します。非同期事象はクロックが動いていない時のデバイスが休止動作の間に生成することもできます。

生成されたどの事象も、パルス事象またはレベル事象のどちらかとして分類されます。両方の場合で、事象は下表に従う特性で同期または非同期のどちらかにすることができます。

表15-1. 生成された事象の特性

事象型	同期/非同期	説明
パルス	同期	1クロック周期持続するCLK_PERから生成された事象
	非同期	1クロック周期持続するCLK_PER以外のクロックから生成された事象
レベル	同期	複数クロック周期持続するCLK_PERから生成された事象
	非同期	クロックなし(例えば、ピンまたは比較器)で生成された事象、または複数クロック周期持続するCLK_PER以外のクロックから生成された事象

信頼性があって予測可能な動作を保証するため、生成された事象と意図する事象使用部の両方の特性が考慮されなければなりません。

次表はこのデバイス系統に対して利用可能な事象生成部を示します。

表15-2. 事象生成部

生成部名		説明	事象型	生成ｸﾛｯｸ領域	事象長
周辺機能	事象				
UPDI	SYNCH	同期(SYNCH)文字	ﾚﾍﾞﾙ	CLK_UPDI	CLK_UPDIに同期した UPDI受信入力でのSYNCH文字
RTC	OVF	溢れ	ﾊﾟﾙｽ	CLK_RTC	1 CLK_RTC周期
	CMP	比較一致			
	PIT_DIV8192	8196前置分周したRTCｸﾛｯｸ	ﾚﾍﾞﾙ		8196前置分周したRTCｸﾛｯｸで与えられる
	PIT_DIV4096	4096前置分周したRTCｸﾛｯｸ			4096前置分周したRTCｸﾛｯｸで与えられる
	PIT_DIV2048	2048前置分周したRTCｸﾛｯｸ			2048前置分周したRTCｸﾛｯｸで与えられる
	PIT_DIV1024	1024前置分周したRTCｸﾛｯｸ			1024前置分周したRTCｸﾛｯｸで与えられる
	PIT_DIV512	512前置分周したRTCｸﾛｯｸ			512前置分周したRTCｸﾛｯｸで与えられる
	PIT_DIV256	256前置分周したRTCｸﾛｯｸ			256前置分周したRTCｸﾛｯｸで与えられる
	PIT_DIV128	128前置分周したRTCｸﾛｯｸ			128前置分周したRTCｸﾛｯｸで与えられる
	PIT_DIV64	64前置分周したRTCｸﾛｯｸ			64前置分周したRTCｸﾛｯｸで与えられる
CCL	LUTn	LUT出力ﾚﾍﾞﾙ	ﾚﾍﾞﾙ	非同期	CCL構成設定に依存
ACn	OUT	比較器出力ﾚﾍﾞﾙ			AC出力ﾚﾍﾞﾙで与えられる
ADCn	RES	結果準備可	ﾊﾟﾙｽ	CLK_PER	1 CLK_PER周期
	SAMP	採取(試料)準備可			
	WCMP	窓比較一致			
PORTx	PINn	ﾋﾟﾝ ﾚﾍﾞﾙ	ﾚﾍﾞﾙ	非同期	ﾋﾟﾝ ﾚﾍﾞﾙで与えられる
USARTn	XCK	USARTﾎﾞｰﾚｰﾄ ｸﾛｯｸ		CLK_PER	最小2 CLK_PER周期
SPIn	SCK	SPI主装置ｸﾛｯｸ			
TCAn	OVF_LUNF	標準動作: 溢れ 分割動作: 下位ﾊﾞｲﾄ計時器 下溢れ	ﾊﾟﾙｽ	CLK_PER	1 CLK_PER周期
	HUNF	標準動作: 利用不可 分割動作: 上位ﾊﾞｲﾄ計時器 下溢れ			
	CMP0_LCMP0	標準動作: 比較ﾁｬﾈﾙ0一致 分割動作: 下位ﾊﾞｲﾄ計時器 比較ﾁｬﾈﾙ0一致			
	CMP1_LCMP1	標準動作: 比較ﾁｬﾈﾙ1一致 分割動作: 下位ﾊﾞｲﾄ計時器 比較ﾁｬﾈﾙ1一致			
	CMP2_LCMP2	標準動作: 比較ﾁｬﾈﾙ2一致 分割動作: 下位ﾊﾞｲﾄ計時器 比較ﾁｬﾈﾙ2一致			
TCBn	CAPT	CAPTﾌﾗｸﾞ設定(1)			
	OVF	OVFﾌﾗｸﾞ設定(1) (溢れ)			

15.3.2.4. 事象使用部

聴取する事象ﾁｬﾈﾙは事象使用部を構成設定することによって選ばれます。事象使用部は周辺機能ｸﾛｯｸに対して同期または非同期のどちらかの事象信号を必要とするかもしれません。非同期事象使用部はｸﾛｯｸが動いていない時の休止動作で事象に応答することができます。このような事象は周辺機能ｸﾛｯｸの標準端外で応答することができ、事象使用部がｸﾛｯｸ周波数よりも速く応答することを示唆します。各周辺機能の必要条件の詳細については対応する周辺機能の記述を参照してください。

殆どの事象使用部はやって来る事象信号に基づいて対応する周辺機能で活動を起動するための端またはﾚﾍﾞﾙの検出を実装します。両方の場合で、やって来る事象が周辺機能ｸﾛｯｸ(CLK_PER)から生成されることを必要とする同期、またはそうでない非同期のどちらかにすることができます。いくつかの非同期事象使用部は事象入力検出が適用されず、事象信号を直接使います。各種事象使用部特性が次表で全般的に記述されます。

表15-3. 事象使用部の特性

入力検出	同期/非同期	説明
端	同期	事象使用部は事象端で起動され、やって来る事象がCLK_PERから生成されることを必要とします。
	非同期	事象使用部は事象端で起動され、非同期検出または内部同期部を持ちます。
レベル	同期	事象使用部は事象レベルで起動され、やって来る事象がCLK_PERから生成されることを必要とします。
	非同期	事象使用部は事象レベルで起動され、非同期検出または内部同期部を持ちます。
検出なし	非同期	事象使用部は事象信号を直接使います。

下表はこのデバイス系統に対して利用可能な事象使用部を示します。

表15-4. 事象使用部

使用部名		説明	入力検出	同期/非同期
周辺機能	入力			
CCL	LUTnx	LUT入力xまたはクロック信号	レベル	非同期
ADCn	START	事象でのADC開始	端	
EVSYS	EVOUTx	事象信号をピンへ転送	検出なし	
USARTn	IRDA	IrDA動作入力	レベル	同期
TCAn	CNTA	正事象端で計数	端	
		両事象端で計数		
		事象信号がHighの間計数	レベル	
		事象レベルが計数方向を制御 (Low時上昇、High時下降)		
	CNTB	事象レベルが計数方向を制御 (Low時上昇、High時下降)		
		正事象端で計数器再始動	端	
		両事象端で計数器再始動		
		事象信号がHighの間再始動	レベル	
TCBn	CAPT	制限時間検査	端	
		事象で計数捕獲		
		計数捕獲周波数測定		
		計数捕獲パルス幅測定		
		計数捕獲周波数/パルス幅測定		
		単発		両方
	COUNT	事象で計数		同期

15.3.2.5. 同期化

事象は周辺機能クロックに対して同期または非同期のどちらかにすることができます。各事象システム チャネルは2つの副チャネル、1つの非同期副チャネルと1つの同期副チャネルを持ちます。

非同期副チャネルは生成部からの事象出力と同じです。事象生成部が周辺機能クロックに対して非同期な信号を生成する場合、非同期副チャネル上の信号は非同期です。事象生成部が周辺機能クロックに対して同期する信号を生成する場合、非同期副チャネル上の信号も同期になります。

事象生成部が周辺機能クロックに対して同期する信号を生成する場合、同期副チャネルは生成部からの事象出力と同じです。事象生成部が周辺機能クロックに対して非同期な信号を生成する場合、この信号は同期副チャネルに配線される前に先立って同期化されます。それが起きる時に依存して、同期化は2または3 クロック周期によって事象を遅らせます。事象システムは事象チャネルに対して非同期生成部が選ばれる場合にこの同期化を自動的に実行します。

15.3.2.6. ソフトウェア事象

応用はソフトウェア事象を生成することができます。チャネルn上のソフトウェア事象はソフトウェア事象(EVSYS.SWEVENTx)レジスタのソフトウェア事象チャネル選択(SWEVENTxn)ビットに'1'を書くことによって発行されます。ソフトウェア事象は事象システム チャネルでパルスとして現れ、1クロック周期間、現在の事象システム値を反転します。

事象使用部は事象を生成する周辺機能によって引き起こされるそれらと違わないものとしてソフトウェア事象を見ます。

15.3.3. 休止形態動作

構成設定されると、事象システムは全ての休止動作形態で動作します。それが周辺機能クロックを必要とするため、ソフトウェア事象は1つの例外を示します。

非同期事象使用部はスタンバイ休止動作でそれらのクロック走行なしで事象に応答することができます。同期事象使用部は事象に応答できるよう、動いているそれらのクロックを必要とします。このような使用部はアイドル休止動作と、適切なレジスタでスタンバイ時走行(RUNSTDBY)ビットを設定(1)することによってスタンバイ動作で動くように構成設定された場合のスタンバイ休止動作でだけ動きます。

非同期事象生成部はそれらのクロック走行なし、即ち、スタンバイ休止動作で事象を生成することができます。同期事象生成部は事象を生成できるよう、動いているそれらのクロックを必要とします。このような生成部はアイドル休止動作と、適切なレジスタでスタンバイ時走行(RUNSTDBY)ビットを設定(1)することによってスタンバイ動作で動くように構成設定された場合のスタンバイ休止動作でだけ動きます。

15.3.4. デバッグ動作

この周辺機能はデバッグ動作へ移行することによって影響を及ぼされません。

15.4. レジスタ要約

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00	SWEVENTA	7～0	SWEVENTA7~0							
+$01 ～ +$0F	予約									
+$10	CHANNEL0	7～0	CHANNEL7~0							
+$11	CHANNEL1	7～0	CHANNEL7~0							
+$12	CHANNEL2	7～0	CHANNEL7~0							
+$13	CHANNEL3	7～0	CHANNEL7~0							
+$14	CHANNEL4	7～0	CHANNEL7~0							
+$15	CHANNEL5	7～0	CHANNEL7~0							
+$16 ～ +$1F	予約									
+$20	USER0	7～0	USER7～0							
～	～	～	～							
+$33	USER19	7～0	USER7～0							

15.5. ﾚｼﾞｽﾀ説明

15.5.1. SWEVENTx – ｿﾌﾄｳｪｱ事象 (Software Events)

名称 ：SWEVENTA
変位 ：+$00
ﾘｾｯﾄ ：$00
特質 ：–

対応する事象ﾁｬﾈﾙでｿﾌﾄｳｪｱ事象を生成するにはこのﾚｼﾞｽﾀのﾋﾞｯﾄに'1'を書いてください。EVSYS.SWEVENTAﾚｼﾞｽﾀのﾋﾞｯﾄ7～0は事象ﾁｬﾈﾙ7～0(訳補:本ﾃﾞﾊﾞｲｽは5～0)に対応します。利用可能な事象ﾁｬﾈﾙの番号が8～15(訳補:本ﾃﾞﾊﾞｲｽはなし)の場合、それらはﾋﾞｯﾄnが事象ﾁｬﾈﾙ8+nであるEVSYS.SWEVENTBﾚｼﾞｽﾀで利用可能です。

利用可能な事象ｼｽﾃﾑ ﾁｬﾈﾙ数については「周辺機能概要」項を参照してください。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	SWEVENTx7~0							
ｱｸｾｽ種別	W	W	W	W	W	W	W	W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7～0 – SWEVENTx7~0 : ｿﾌﾄｳｪｱ事象ﾁｬﾈﾙ選択** (Software Event Channel Select)

このﾋﾞｯﾄ群のﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みは1周辺機能ｸﾛｯｸ周期間、事象ﾁｬﾈﾙ上の信号を反転することによって対応する事象ﾁｬﾈﾙで単一ﾊﾟﾙｽ事象を生成します。

15.5.2. CHANNELn – ﾁｬﾈﾙn生成部選択 (Channel n Generator Selection)

名称 ：CHANNELn
変位 ：+$10+n ［n=0～5］
ﾘｾｯﾄ ：$00
特質 ：–

各ﾁｬﾈﾙは1つの事象生成部に接続することができます。全ての生成部が全てのﾁｬﾈﾙに接続できる訳ではありません。どの生成部供給元が各ﾁｬﾈﾙに配線することができ、この配線を達成するのにEVSYS.CHANNELnに書かれるべき生成部値を知るには下表を参照してください。EVSYS.CHANNELnへの値$00書き込みはそのﾁｬﾈﾙをOFFにします。

利用可能な事象ｼｽﾃﾑ ﾁｬﾈﾙ数については「周辺機能概要」項を参照してください。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	CHANNEL7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7～0 – CHANNEL7~0 : ﾁｬﾈﾙ生成部選択** (Channel Generator Selection)

各ﾋﾞｯﾄ群構成設定に対応する指定生成部名は次表からの周辺機能と出力を「周辺機能_出力」のように結合することによって与えられます。

生成部			同期/非同期	説明	チャネル可用性
値	名称				
	周辺機能	出力			
$01	UPDI	SYNCH	同期	同期(SYNCH)文字検出の上昇端	
$06		OVF		計数器溢れ	全チャネル
$07		CMP		比較一致	
$08		PIT_DIV8192		8192前置分周されたRTCクロック	
$09		PIT_DIV4096		4096前置分周されたRTCクロック	偶数チャネル専用
$0A	RTC	PIT_DIV2048		2048前置分周されたRTCクロック	
$0B		PIT_DIV1024		1024前置分周されたRTCクロック	
$08		PIT_DIV512		512前置分周されたRTCクロック	
$09		PIT_DIV256		256前置分周されたRTCクロック	奇数チャネル専用
$0A		PIT_DIV128		128前置分周されたRTCクロック	
$0B		PIT_DIV64	非同期	64前置分周されたRTCクロック	
$10		LUT0			
$11		LUT1			
$12	CCL	LUT2		LUT出力レベル	
$13		LUT3			
$14		LUT4 (注1)			全チャネル
$15		LUT5 (注1)			
$20	AC0	OUT		比較器出力レベル	
$24		RES		結果準備可	
$25	ADC0	SAMP	同期	採取(試料)準備可	
$26		WCMP		窓比較一致	
$40～$47	PORTA			ポートA PIN0～PIN7レベル (注2)	チャネル0と1専用
$48～$4F					チャネル2と3専用
$40～$47	PORTB (注1)	PIN0～PIN7	非同期	ポートB PIN0～PIN7レベル (注2)	チャネル4と5専用
$48～$4F					チャネル0と1専用
$40～$47	PORTC (注1)			ポートC PIN0～PIN7レベル (注2)	チャネル2と3専用
$48～$4F					チャネル4と5専用
$60	USART0	XCK		SPI主装置動作と同期USART主装置動作での	
$61	USART1			クロック信号	
$68	SPI0	SCK		SPI主装置クロック信号	
$80		OVF_LUNF		標準動作: 溢れ 分割動作: 下位バイト計時器下溢れ	
$81		HUNF		標準動作: なし 分割動作: 上位バイト計時器下溢れ	
$84	TCA0	CMP0_LCMP0		標準動作: 比較チャネル0一致 分割動作: 下位バイト計時器比較チャネル0一致	全チャネル
$85		CMP1_LCMP1		標準動作: 比較チャネル1一致 分割動作: 下位バイト計時器比較チャネル1一致	
$86		CMP2_LCMP2		標準動作: 比較チャネル2一致 分割動作: 下位バイト計時器比較チャネル2一致	
$A0	TCB0	CAPT		CAPT割り込み要求フラグ設定(1) (注3)	
$A1		OVF		OVF割り込み要求フラグ設定(1) (計数器溢れ)	
$A2	TCB1	CAPT		CAPT割り込み要求フラグ設定(1) (注3)	
$A3		OVF		OVF割り込み要求フラグ設定(1) (計数器溢れ)	

注1: 全ての周辺機能の実体が全てのピン数で利用可能な訳ではありません。詳細については「周辺機能と基本構造」章を参照してください。

注2: ポートピンからの事象は入力駆動部が禁止されている場合に'0'です。

注3: 計時器の動作形態がCAPTフラグを立てる時を決めます。詳細については「TCB – 16ビットタイマ/カウンタB型」章をご覧ください。

15.5.3. USERn – 使用部nﾁｬﾈﾙ多重器 (User Channel Mux)

名称 : USERn
変位 : +$20+n [n=0～19]
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

各事象使用部は1つの事象ﾁｬﾈﾙに接続することができ、いくつかの使用部を同じﾁｬﾈﾙに接続することができます。次表はそれらの対応する使用部ID番号と名称と共に全ての事象ｼｽﾃﾑ使用部を一覧にします。使用部名称は次表からの周辺機能と入力と共にUSERを「USER周辺機能入力」のように結合することによって与えられます。

使用部番号	使用部名称		同期/非同期	説明
	周辺機能	入力		
0 ($0)	CCL	LUT0A	非同期	CCL LUT0事象入力A
1 ($1)		LUT0B		CCL LUT0事象入力B
2 ($2)		LUT1A		CCL LUT1事象入力A
3 ($3)		LUT1B		CCL LUT1事象入力B
4 ($4)		LUT2A		CCL LUT2事象入力A
5 ($5)		LUT2B		CCL LUT2事象入力B
6 ($6)		LUT3A		CCL LUT3事象入力A
7 ($7)		LUT3B		CCL LUT3事象入力B
8 ($8)	ADC0	START		事象でADC開始
9 ($9)	EVSYS	EVOUTA		事象出力(ﾋﾟﾝ出力)A
10 ($A)		EVOUTB		事象出力(ﾋﾟﾝ出力)B
11 ($B)		EVOUTC (注1)		事象出力(ﾋﾟﾝ出力)C
12 ($C)	USART0	IRDA	同期	USART0 IrDA事象入力
13 ($D)	USART1			USART1 IrDA事象入力
14 ($E)	TCA0	CNTA		事象で計数または計数方向制御
15 ($F)		CNTB		事象で再始動または計数方向制御
16 ($10)	TCB0	CAPT	両方 (注2)	開始、停止、捕獲、再始動または計数器解消
17 ($11)		COUNT	同期	事象で計数
18 ($12)	TCB1	CAPT	両方 (注2)	開始、停止、捕獲、再始動または計数器解消
19 ($13)		COUNT	同期	事象で計数

注1: 全ての周辺機能実体が全てのﾋﾟﾝ数に対して利用可能な訳ではありません。詳細については「周辺機能と基本構造」章を参照してください。

注2: 計時器動作形態に依存

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	USER7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – CHANNEL7~0 : 使用部ﾁｬﾈﾙ選択** (User Channel Selection)

使用部がどの事象ｼｽﾃﾑ ﾁｬﾈﾙに接続するかを構成設定します。

値	0	1～6 (= n)	その他
説明	OFF、ﾁｬﾈﾙはこの事象ｼｽﾃﾑ使用部に未接続	事象使用部はﾁｬﾈﾙn-1に接続されます。	(予約)

16. PORTMUX - ﾎﾟｰﾄ多重器

16.1. 概要

ﾎﾟｰﾄ多重器(PORTMUX)はﾋﾟﾝの機能を許可または禁止、または既定と代替のﾋﾟﾝ位置の変更のどちらも行うことができます。利用可能な任意選択はPORTMUXﾚｼﾞｽﾀ配置で詳細に記述され、実際のﾋﾟﾝと特性に依存します。

利用可能な機能については「入出力多重化と考察」章を参照してください。

16.2. レジスタ要約

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00	EVSYSROUTEA	7～0							EVOUTB	EVOUTA
+$01	CCLROUTEA	7～0					LUT3	LUT2	LUT1	LUT0
+$02	USARTROUTEA	7～0					USART11,0		USART01,0	
+$03	SPIROUTEA	7～0							SPI01,0	
+$04	TCAROUTEA	7～0			TCA05	TCA04	TCA03	TCA01	TCA01	TCA00
+$05	TCBROUTEA	7～0							TCB1	TCB0

16.3. レジスタ説明 (訳注:本項の各表などは可能な限り各々の共通部分を纏めました。)

16.3.1. EVSYSROUTEA – 事象システム ピン位置 (Event System Pin Position)

名称 : EVSYSROUTEA
変位 : +$00
リセット : $00
特質 : –

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
							EVOUTB	EVOUTA
アクセス種別	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット6~0 – EVOUTx : 事象出力x** (Event Output x)

これらのビットは事象出力x用ピン位置を制御します。(訳補:事象出力xの既定はポートxの2番ピン、代替はポートxの7番ピン)

値	0	1
名称	DEFAULT	ALT1
説明	EVOUTB:PB2, EVOUTA:PA2	EVOUTB:PB7, EVOUTA:PA7

16.3.2. CCLROUTEA – CCL LUTnピン位置 (CCL LUTn Pin Position)

名称 : CCLROUTEA
変位 : +$01
リセット : $00
特質 : –

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
					LUT3	LUT2	LUT1	LUT0
アクセス種別	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット5~0 – LUTn : CCL LUTn信号** (CCL LUTn Signals) (訳補:LUT3～0の入力はポートC,B,C,Aに対応)

これらのビットはCCL LUTn信号用ピン位置を制御します。(訳補:OUTのみ代替可、INnは固定)

値	0	1
名称	DEFAULT	ALT1
説明	LUT3:PC4, LUT2:PB3, LUT1:PA7, LUT0:PA4	LUT3:PA5, LUT2:PB6, LUT1:PC1, LUT0:PB4

16.3.3. USARTROUTEA – USARTnピン位置 (USARTn Pin Position)

名称 : USARTROUTEA
変位 : +$02
リセット : $00
特質 : –

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
					USART11,0		USART01,0	
アクセス種別	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット7~0/3~0 – USARTn1,0 : USARTn信号** (USART n Signals)

これらのビット領域はUSARTn信号用ピン位置を制御します。

値		0 0	0 1	1 0	1 1
名称		DEFAULT	ALT1	–	NONE
説明	TxD	USART1:PA1, USART0:PB2	USART1:PC2, USART0:PA1	(予約)	どのピンへも接続なし
	RxD	USART1:PA2, USART0:PB3	USART1:PC1, USART0:PA2		
	XCK	USART1:PA3, USART0:PB1	USART1:PC0, USART0:PA3		
	XDIR	USART1:PA4, USART0:PB0	USART1:PC3, USART0:PA4		

16.3.4. SPIROUTEA – SPInﾋﾟﾝ位置 (SPIn Pin Position)

名称 : SPIROUTEA
変位 : +$03
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
							SPI01,0	
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ3~0 – SPI01,0 : SPI0信号** (SPI 0 Signals)

これらのﾋﾞｯﾄ領域はSPI0用ﾋﾟﾝ位置を制御します。

値		0 0	0 1	1 0	1 1
名称		DEFAULT	ALT1	–	NONE
説明	MOSI	SPI0:PA1	SPI0:PC2	(予約)	どのﾋﾟﾝへも接続なし
	MISO	SPI0:PA2	SPI0:PC1		
	XCK	SPI0:PA3	SPI0:PC0		
	$\overline{SS}$	SPI0:PA4	SPI0:PC3		

16.3.5. TCAROUTEA – TCAnﾋﾟﾝ位置 (TCAn Pin Position)

名称 : TCAROUTEA
変位 : +$04
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
			TCA05	TCA04	TCA03	TCA02	TCA01	TCA00
ｱｸｾｽ種別	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ5~0 – TCA05~0 : TCA0信号** (TCA0 Signals)

これらのﾋﾞｯﾄ領域はTCA0用ﾋﾟﾝ位置を制御します。(**訳補**:WOn出力でn=5～0)

値	0	1
名称	DEFAULT	ALT1
説明	5:PA5, 4:PA4, 3:PA3, 2:PB2, 1:PB1, 0:PB0	5:PC5, 4:PC4, 3:PC3, 2:PB5, 1:PB4, 0:PB3

16.3.6. TCBROUTEA – TCBnﾋﾟﾝ位置 (TCBn Pin Position)

名称 : TCBROUTEA
変位 : +$05
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
							TCB1	TCB0
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ4~0 – TCBn : TCBn出力** (TCBn Output)

これらのﾋﾞｯﾄはTCBn出力用ﾋﾟﾝ位置を制御します。(**訳補**:WO出力)

値	0	1
名称	DEFAULT	ALT1
説明	TCB1:PA3, TCB0:PA5	TCB1:PC4, TCB0:PC0

17. PORT – I/Oﾋﾟﾝ構成設定

17.1. 特徴

- 個別構成設定を持つ汎用入出力ﾋﾟﾝ
  - ﾌﾟﾙｱｯﾌﾟ
  - 反転I/O
- 割り込みと事象を持つ入力
  - 両端感知
  - 上昇端感知
  - 下降端感知
  - Lowﾚﾍﾞﾙ感知
- ﾎﾟｰﾄ毎の任意選択ｽﾘｭｰﾚｰﾄ制御
- 全休止動作形態からﾃﾞﾊﾞｲｽを起き上がらせることができる非同期ﾋﾟﾝ変化感知
- ﾎﾟｰﾄ ﾋﾟﾝへの効率的で安全なｱｸｾｽ
  - 専用の切り換え、解除(0)、設定(1)用ﾚｼﾞｽﾀ通したﾊｰﾄﾞｳｪｱ読み-変更-書き(RMW)
  - ﾋﾞｯﾄ ｱｸｾｽ可能なI/Oﾒﾓﾘ空間への度々使われるﾎﾟｰﾄ ﾚｼﾞｽﾀ割り当て(仮想ﾎﾟｰﾄ)

17.2. 概要

ﾃﾞﾊﾞｲｽの入出力ﾋﾟﾝはPORT周辺機能ﾚｼﾞｽﾀの実体によって制御されます。各PORT実体は最大8つの入出力ﾋﾟﾝを持ちます。PORTはPORTA、PORTB、PORTCなどと名付けられます。どのﾋﾟﾝが何のPORTの実体によって制御されるかを見るには「入出力多重化と考察」章を参照してください。PORT実体と対応する仮想PORT実体の基準ｱﾄﾞﾚｽは「周辺機能と基本構造」章で一覧にされます。

各ﾎﾟｰﾄ ﾋﾟﾝは出力としてそのﾋﾟﾝを許可して出力状態を定義するためにﾃﾞｰﾀ方向(PORTx.DIR)とﾃﾞｰﾀ出力値(PORTx.OUT)のﾚｼﾞｽﾀで対応するﾋﾞｯﾄを持ちます。例えば、PORTA実体のDIR3とOUT3はPA3ﾋﾟﾝを制御します。

PORTﾋﾟﾝの入力値は周辺機能ｸﾛｯｸ(CLK_PER)に同期され、その後にﾃﾞｰﾀ入力値(PORTx.IN)としてｱｸｾｽ可能にされます。ﾋﾟﾝが入力または出力のどちらとして構成設定されても、このﾋﾟﾝの値は常に読むことができます。

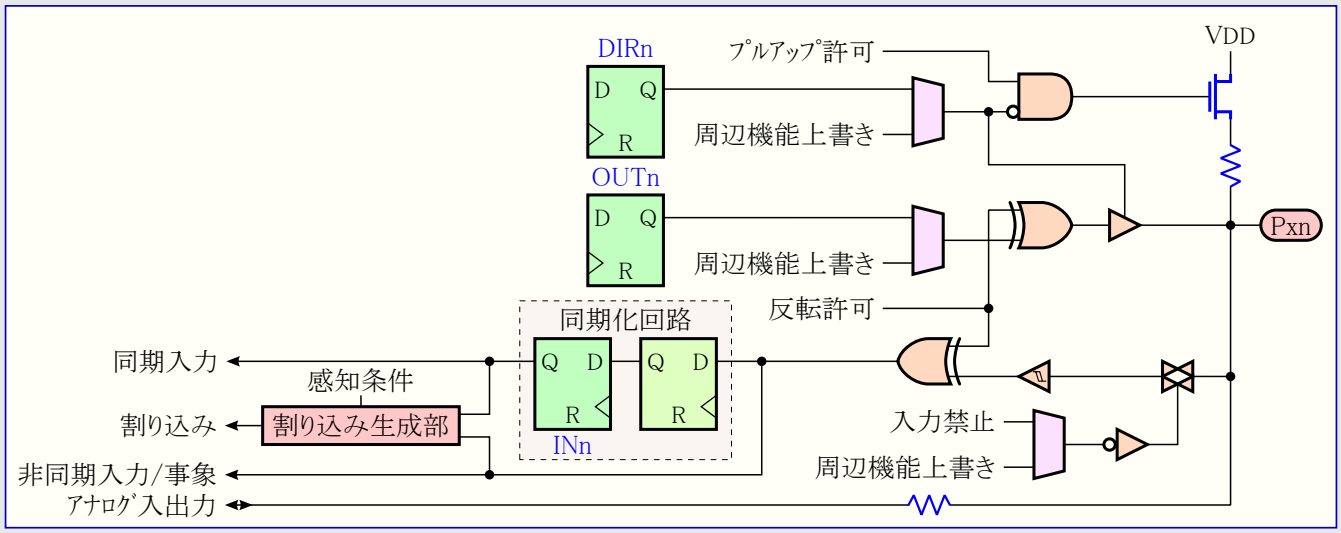
PORTは選択可能なﾋﾟﾝ変化条件に対して割り込みと事象と共に非同期の入力感知も支援します。非同期ﾋﾟﾝ変化感知はCLK_PERが停止される休止動作を含み、割り込みを起動して休止からﾃﾞﾊﾞｲｽを起き上がらせることができることを意味します。

全てのﾋﾟﾝ機能はﾋﾟﾝ毎に個別に構成設定可能です。ﾋﾟﾝは駆動値や入力と感知の構成設定の安全で正しい変更のためにﾊｰﾄﾞｳｪｱ読み-変更-書き(RMW:Read-Modify-Write)機能を持ちます。

PORTﾋﾟﾝ構成設定は他のﾃﾞﾊﾞｲｽ機能の入力と出力の選択も制御します。

17.2.1. 構成図

図17-1. PORT構成図



17.2.2. 信号説明

信号	形式	説明
Pxn	入出力	PORTxのn入出力ﾋﾟﾝ

17.3. 機能的な説明

17.3.1. 初期化

ﾘｾｯﾄ後、例えｸﾛｯｸ走行がなくても、全ての出力がﾄﾗｲｽﾃｰﾄ(Hi-Z)にされ、ﾃﾞｼﾞﾀﾙ入力緩衝部が許可されます。

ﾎﾟｰﾄ動作を初期化する時に以下の手順は全て任意選択です。

- ﾃﾞｰﾀ方向設定(PORTx.DIRSET)またはﾃﾞｰﾀ方向解除(PORTx.DIRCLR)のﾚｼﾞｽﾀのﾋﾞｯﾄに各々'1'を書くことによってPxnﾋﾟﾝに対して出力駆動部を許可または禁止にしてください。
- 出力値設定(PORTx.OUTSET)または出力値解除(PORTx.OUTCLR)のﾚｼﾞｽﾀのﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによってPxnﾋﾟﾝに対する出力駆動部を各々HighまたはLowの水準に設定してください。
- 入力値(PORTx.IN)ﾚｼﾞｽﾀのﾋﾞｯﾄnを読むことによってPxnﾋﾟﾝの入力を読んでください。
- ﾋﾟﾝn制御(PORTx.PINnCTRL)ﾚｼﾞｽﾀでPxnﾋﾟﾝに対して個別ﾋﾟﾝ構成設定と割り込み制御を構成設定してください。

重要: 最低消費電力のため、未使用ﾋﾟﾝとｱﾅﾛｸﾞ入力または出力として使われるﾋﾟﾝのﾃﾞｼﾞﾀﾙ入力緩衝部を禁止してください。

ﾃﾞﾊﾞｯｶﾞに接続するのに使われるそれらのような特定ﾋﾟﾝは、それらの特殊機能によって必要とされるため、違う様に構成設定されるでしょう。

17.3.2. 動作

17.3.2.1. 基本機能

各ﾋﾟﾝ群(x)はそれ自身のPORTﾚｼﾞｽﾀ一式を持ちます。入出力(Pxn)ﾋﾟﾝはPORTx内のﾚｼﾞｽﾀによって制御することができます。

出力としてﾋﾟﾝ番号nを使うには、ﾃﾞｰﾀ方向(PORTx.DIR)ﾚｼﾞｽﾀのﾋﾞｯﾄnに'1'を書いてください。これはﾃﾞｰﾀ方向設定(PORTx.DIRSET)ﾚｼﾞｽﾀのﾋﾞｯﾄnに'1'を書くことによっても行うことができ、これはその群内の他のﾋﾟﾝの構成設定の妨害を避けます。出力値(PORTx.OUT)ﾚｼﾞｽﾀのﾋﾞｯﾄnは望む出力値が書かれなければなりません。

同様に、出力値設定(PORTx.OUTSET)ﾚｼﾞｽﾀのﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みはPORTx.OUTﾚｼﾞｽﾀの対応するﾋﾞｯﾄを'1'に設定します。出力値解除(PORTx.OUTCLR)ﾚｼﾞｽﾀのﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みはPORTx.OUTﾚｼﾞｽﾀのそのﾋﾞｯﾄを'0'に解除します。出力値切り替え(PORTx.OUTTGL)または入力値(PORTx.IN)のﾚｼﾞｽﾀのﾋﾞｯﾄへ'1'書き込みはPORTx.OUTﾚｼﾞｽﾀ内のそのﾋﾞｯﾄを論理反転します。

ﾋﾟﾝを入力として使うには出力駆動部を禁止するためにPORTx.DIRﾚｼﾞｽﾀのﾋﾞｯﾄnが'0'を書かれなければなりません。これはﾃﾞｰﾀ方向解除(PORTx.DIRCLR)ﾚｼﾞｽﾀのﾋﾞｯﾄnに'1'を書くことによっても行うことができ、これはその群内の他のﾋﾟﾝの構成設定の妨害を避けます。入力値はﾋﾟﾝn制御(PORTx.PINnCTRL)ﾚｼﾞｽﾀの入力/感知構成設定(ISC)ﾋﾞｯﾄ領域が入力禁止(INPUT_DISABLE)に設定されない限り、PORTx.INﾚｼﾞｽﾀのﾋﾞｯﾄnから読むことができます。

ﾃﾞｰﾀ方向切り替え(PORTx.DIRTGL)での'1'書き込みはPORTx.DIRでそのﾋﾞｯﾄを切り替え、対応するﾋﾟﾝの方向を切り替えます。

17.3.2.2. ﾎﾟｰﾄ構成設定

ﾎﾟｰﾄ制御(PORTx.PORTCTRL)ﾚｼﾞｽﾀは全てのPORTxﾋﾟﾝに対するｽﾘｭｰﾚｰﾄ制限を構成設定するのに使われます。

ｽﾘｭｰﾚｰﾄ制限はPORTx.CTRLのｽﾘｭｰﾚｰﾄ制限許可(SRL)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって許可されます。更なる詳細については「電気的特性」章を参照してください。

17.3.2.3. ﾋﾟﾝ構成設定

ﾋﾟﾝn制御(PORTx.PINnCTRL)ﾚｼﾞｽﾀはﾋﾟﾝの反転I/O、ﾌﾟﾙｱｯﾌﾟ、入力感知を構成設定するのに使われます。ﾋﾟﾝn用の制御ﾚｼﾞｽﾀはﾊﾞｲﾄ ｱﾄﾞﾚｽのPORTx+$10+nです。

各々のn番ﾋﾟﾝの全ての入力と出力はPORTx.PINnCTRLの反転I/O許可(INVEN)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって反転することができます。INVENが'1'の時は、このﾋﾟﾝに対してPORTx.IN/OUT/OUTSET/OUTCLRﾚｼﾞｽﾀが反転操作になります。

INVENﾋﾞｯﾄの交互切り替えは、このﾋﾟﾝを使う全ての周辺機能によって検出することができるﾋﾟﾝでの変化端(ｴｯｼﾞ)を引き起こし、許可されていれば割り込みまたは事象によって見られます。

ﾋﾟﾝnの入力ﾌﾟﾙｱｯﾌﾟはPORTx.PINnCTRLのﾌﾟﾙｱｯﾌﾟ許可(PULLUPEN)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって許可されます。ﾌﾟﾙｱｯﾌﾟは例えPULLUPENﾋﾞｯﾄが'1'でも、ﾋﾟﾝが出力として構成設定されると、切断されます。

ﾋﾟﾝ割り込みはPORTx.PINnCTRLの入力/感知構成設定(ISC)ﾋﾞｯﾄ領域に書くことによってﾋﾟﾝnに対して許可されます。更なる詳細については「17.3.3. 割り込み」を参照してください。

ﾋﾟﾝn用のﾃﾞｼﾞﾀﾙ入力緩衝部はISCﾋﾞｯﾄ領域にINPUT_DISABLE設定を書くことによって禁止することができます。これは消費電力を減らしてﾋﾟﾝがｱﾅﾛｸﾞ入力として使われる場合に雑音を減らすでしょう。INPUT_DISABLEに構成設定されている間、PORTx.INのﾋﾞｯﾄnは入力同期部が禁止されるため変わりません。

17.3.2.4. 仮想ﾎﾟｰﾄ

仮想ﾎﾟｰﾄ ﾚｼﾞｽﾀは最も頻繁に使われる通常のﾎﾟｰﾄ ﾚｼﾞｽﾀを単一周期ﾋﾞｯﾄ ｱｸｾｽを持つI/Oﾚｼﾞｽﾀ空間に割り当てます。仮想ﾎﾟｰﾄ ﾚｼﾞｽﾀへのｱｸｾｽは普通のﾚｼﾞｽﾀへのｱｸｾｽと同じ結果を持ち、通常のﾎﾟｰﾄ ﾚｼﾞｽﾀが属す拡張I/Oﾚｼﾞｽﾀ空間で使うことができないﾋﾞｯﾄ操作命令のようなﾒﾓﾘ特定命令を許します。右表はPORTとVPORTのﾚｼﾞｽﾀ間の割り当てを示します。

表17-1. 仮想ﾎﾟｰﾄ割り当て

通常ﾎﾟｰﾄ ﾚｼﾞｽﾀ	割り当てられる仮想ﾎﾟｰﾄ ﾚｼﾞｽﾀ
PORTx.DIR	VPORTx.DIR
PORTx.OUT	VPORTx.OUT
PORTx.IN	VPORTx.IN
PORTx.INTFLAGS	VPORTx.INTFLAGS

17.3.2.5. 周辺機能優先

USART、ADC、計時器のような周辺機能は入出力ﾋﾟﾝに接続されるでしょう。このような周辺機能は通常、ﾎﾟｰﾄ多重器(PORTMUX)またはその周辺機能内の多重器よって選択可能な基本と任意選択の1つ以上の代替入出力ﾋﾟﾝ接続を持ちます。このような周辺機能を構成設定して許可することにより、I/Oﾋﾟﾝ構成設定(PORT)によって制御される通常の汎用入出力ﾋﾟﾝの動きは周辺機能に依存する方法で覆されます。いくつかの周辺機能はPORTﾚｼﾞｽﾀの全てを覆さないかもしれず、入出力ﾋﾟﾝ操作のいくつかの面の制御をPORT単位部に残します。

周辺機能優先の情報については各周辺機能の記述を参照してください。周辺機能によって覆されないﾎﾟｰﾄのどのﾋﾟﾝも汎用入出力ﾋﾟﾝとしての動作を続けます。

17.3.3. 割り込み

表17-2. 利用可能な割り込みﾍﾞｸﾀと供給元

名称	ﾍﾞｸﾀ説明	条件
PORTx	PORT 割り込み	PORTx.INTFLAGSのINTnはPORTx.PINnCTRLの入力/感知構成設定(ISC)ﾋﾞｯﾄによって構成設定されるとおりに掲げられます。

各PORTﾋﾟﾝnは割り込み元として構成設定することができます。各割り込みはﾋﾟﾝn制御(PORTx.PINnCTRL)ﾚｼﾞｽﾀの入力/感知構成設定(ISC)へ書くことによって個別に許可または禁止することができます。

割り込み条件が起こると、周辺機能の割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(PORTx.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀで対応する割り込み要求(INTn)ﾌﾗｸﾞが設定(1)されます。

割り込み要求は対応する割り込み元が許可され、割り込み要求ﾌﾗｸﾞが設定(1)される時に生成されます。割り込み要求は割り込み要求ﾌﾗｸﾞが解除(0)されるまで活性に留まります。割り込み要求ﾌﾗｸﾞを解除する方法の詳細については周辺機能のINTFLAGSﾚｼﾞｽﾀをご覧ください。

割り込み設定の設定または変更時、以下のこれらの点を考慮してください。

- 入力/感知構成設定(ISC)が変更されるのと同じ周期で反転I/O許可(INVEN)ﾋﾞｯﾄが切り替えられる場合、反転切り替えによって引き起こされる端は割り込み要求を引き起こさないかもしれません。
- 割り込み同期中にISCへ書くことによって入力を禁止する場合、例えそれが違う割り込み設定で再許可されても、その特定割り込みが再許可で要求されるかもしれません。
- 割り込み同期中にISCへ書くことによって割り込み設定が変更される場合、その割り込みが要求されないかもしれません。

17.3.3.1. 非同期感知ﾋﾟﾝ特性

全てのﾎﾟｰﾄ ﾋﾟﾝは選択可能なﾋﾟﾝ変化条件に対する割り込みを持つ非同期入力感知を支援します。完全な非同期ﾋﾟﾝ変化感知は割り込みを起動して、周辺機能ｸﾛｯｸ(CLK_PER)が停止される動作形態を含めて全ての休止動作からﾃﾞﾊﾞｲｽを起き上がらせることができますが、一方で下表により部分的非同期ﾋﾟﾝ変化感知が制限されます。どのﾋﾟﾝが完全な同期ﾋﾟﾝ変化感知を支援するかの更なる詳細については「入出力多重化と考察」章をご覧ください。

表17-3. 感知ﾋﾟﾝの動き比較

特性	部分的非同期ﾋﾟﾝ	完全な非同期ﾋﾟﾝ
CLK_PER走行の休止動作からﾃﾞﾊﾞｲｽ起き上がり	全ての割り込み感知構成設定から	全ての割り込み構成設定から
CLK_PER停止の休止動作からﾃﾞﾊﾞｲｽ起き上がり	BOTHEDGESまたはLEVELの割り込み感知構成設定からだけ	
CLK_PER走行で割り込みを起動するための最小ﾊﾟﾙｽ幅	最小1 CLK_PER周期	1 CLK_PER周期未満
CLK_PER停止で割り込みを起動するための最小ﾊﾟﾙｽ幅	ﾋﾟﾝ値はCLK_PERが再開されるまで維持されなければなりません。(注)	
割り込み"沈黙時間"	前回から3 CLK_PER周期間、新しい割り込みはありません。	

注: 部分的非同期入力ﾋﾟﾝがCLK_PER停止での休止からの起き上がりに使われる場合、要求されたﾚﾍﾞﾙは割り込みを起動するための起き上がりを完了するため、MCUに対して充分長く保持されなければなりません。ﾚﾍﾞﾙが消滅した場合、MCUはどの生成した割り込みもなしに起き上がり得ます。

17.3.4. 事象

PORTは以下の事象を生成することができます。

表17-4. PORTxの事象生成部

生成部名		説明	事象型	生成するクロック領域	事象の長さ
周辺機能	事象				
PORTx	PINn	ピン レベル	レベル	非同期	ピン レベルによって与えられます。

全てのポート ピンが非同期事象システム生成部です。ポートはデバイスにあるポート ピンの数の事象生成部を持ちます。ポートからの各事象システム出力はデジタル入力駆動部が許可される場合に対応するピンに存在する値です。ピン入力駆動部が禁止される場合、対応する事象システム出力は'0'です。

ポートは事象入力を持ちません。事象型と事象システム構成設定に関するより多くの詳細については「EVSYS – 事象システム」章を参照してください。

17.3.5. 休止形態動作

割り込みと入力の同期化の例外を除き、全てのピン構成設定は休止動作と無関係です。全てのピンはデバイスを休止から起き上がらせることができ、更なる詳細についてはポート割り込み部分をご覧ください。

ポートに接続された周辺機能は各々の周辺機能のデータシート部分で記述される休止動作によって影響を及ぼされ得ます。

重要: ポートは常に周辺機能クロック(CLK_PER)を使います。このクロックが止まる時に入力同期化は停止します。

17.3.6. デバッグ操作

ポートはデバッグ動作でのCPU停止時に通常動作を続けます。ポートが割り込みまたは同様のものを通してCPUによって定期的に処理されるのを必要とするように構成設定する場合、デバッグ中に不正な動作やデータ損失になるかもしれません。

17.4. レジスタ要約 – PORTx

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00	DIR	7～0	DIR7~0							
+$01	DIRSET	7～0	DIRSET7~0							
+$02	DIRCLR	7～0	DIRCLR7~0							
+$03	DIRTGL	7～0	DIRTGL7~0							
+$04	OUT	7～0	OUT7~0							
+$05	OUTSET	7～0	OUTSET7~0							
+$06	OUTCLR	7～0	OUTCLR7~0							
+$07	OUTTGL	7～0	OUTTGL7~0							
+$08	IN	7～0	IN7~0							
+$09	INTFLAGS	7～0	INT7~0							
+$0A	PORTCTRL	7～0								SRL
+$0B ～ +$0F	予約									
+$10	PIN0CTRL	7～0	INVEN				PULLUPEN	ISC2~0		
+$11	PIN1CTRL	7～0	INVEN				PULLUPEN	ISC2~0		
+$12	PIN2CTRL	7～0	INVEN				PULLUPEN	ISC2~0		
+$13	PIN3CTRL	7～0	INVEN				PULLUPEN	ISC2~0		
+$14	PIN4CTRL	7～0	INVEN				PULLUPEN	ISC2~0		
+$15	PIN5CTRL	7～0	INVEN				PULLUPEN	ISC2~0		
+$16	PIN6CTRL	7～0	INVEN				PULLUPEN	ISC2~0		
+$17	PIN7CTRL	7～0	INVEN				PULLUPEN	ISC2~0		

17.5. ﾚｼﾞｽﾀ説明 – PORTx

17.5.1. DIR – ﾃﾞｰﾀ方向 (Data Direction)

名称 : DIR
変位 : +$00
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	DIR7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – DIR7~0 : ﾃﾞｰﾀ方向** (Data Direction)

このﾋﾞｯﾄ領域は各PORTxﾋﾟﾝに対する出力駆動部を制御します。

このﾋﾞｯﾄ領域はﾃﾞｼﾞﾀﾙ入力緩衝部を制御しません。ﾋﾟﾝn(Pxn)用のﾃﾞｼﾞﾀﾙ入力緩衝部はﾋﾟﾝn制御(PORTx.PINnCTRL)の割り込み/感知構成設定(ISC)ﾋﾞｯﾄ領域で構成設定することができます。

このﾋﾞｯﾄ領域で各ﾋﾞｯﾄnに対して利用可能な構成設定が下表で示されます。

値	0	1
説明	Pxnは入力専用ﾋﾟﾝとして構成、出力駆動部は禁止	Pxnは出力ﾋﾟﾝとして構成、出力駆動部は許可

17.5.2. DIRSET – ﾃﾞｰﾀ方向設定 (Data Direction Set)

名称 : DIRSET
変位 : +$01
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	DIRSET7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – DIRSET7~0 : ﾃﾞｰﾀ方向設定** (Data Direction Set)

このﾋﾞｯﾄ領域は読み-変更-書き操作を使わず、各PORTxﾋﾟﾝに対する出力駆動部を制御します。

このﾋﾞｯﾄ領域のﾋﾞｯﾄnへの'0'書き込みは無効です。

このﾋﾞｯﾄ領域のﾋﾞｯﾄnへの'1'書き込みはﾃﾞｰﾀ方向(PORTx.DIR)の対応するﾋﾞｯﾄを設定(1)し、ﾋﾟﾝn(Pxn)を出力ﾋﾟﾝとして構成設定して出力駆動部を許可します。

このﾋﾞｯﾄ領域の読み込みはPORTx.DIRの値を返します。

17.5.3. DIRCLR – ﾃﾞｰﾀ方向解除 (Data Direction Clear)

名称 : DIRCLR
変位 : +$02
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	DIRCLR7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – DIRCLR7~0 : ﾃﾞｰﾀ方向解除** (Data Direction Clear)

このﾋﾞｯﾄ領域は読み-変更-書き操作を使わず、各PORTxﾋﾟﾝに対する出力駆動部を制御します。

このﾋﾞｯﾄ領域のﾋﾞｯﾄnへの'0'書き込みは無効です。

このﾋﾞｯﾄ領域のﾋﾞｯﾄnへの'1'書き込みはﾃﾞｰﾀ方向(PORTx.DIR)の対応するﾋﾞｯﾄを解除(0)し、ﾋﾟﾝn(Pxn)を入力専用ﾋﾟﾝとして構成設定して出力駆動部を禁止します。

このﾋﾞｯﾄ領域の読み込みはPORTx.DIRの値を返します。

17.5.4. DIRTGL – データ方向切り替え (Data Direction Toggle)

名称 : DIRTGL
変位 : +$03
リセット : $00
特質 : –

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
	DIRTGL7~0							
アクセス種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット7~0 – DIRTGL7~0 : データ方向切り替え** (Data Direction Toggle)

このビット領域は読み–変更–書き操作を使わず、各PORTxピンに対する出力駆動部を制御します。

このビット領域のビットnへの'0'書き込みは無効です。

このビット領域のビットnへの'1'書き込みはデータ方向(PORTx.DIR)の対応するビットを反転切り替えします。

このビット領域の読み込みはPORTx.DIRの値を返します。

17.5.5. OUT – 出力値 (Output Value)

名称 : OUT
変位 : +$04
リセット : $00
特質 : –

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
	OUT7~0							
アクセス種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット7~0 – OUT7~0 : 出力値** (Output Value)

このビット領域は各PORTxピンに対する出力駆動部レベルを制御します。

この構成設定は対応するピンに対して駆動部(PORTx.DIR)が許可される時にだけ出力に影響を及ぼします。

このビット領域の各ビットnに対して利用可能な構成設定が下表で示されます。

値	0	1
説明	ピンn(Pxn)出力はLowに駆動されます。	Pxn出力はHighに駆動されます。

17.5.6. OUTSET – 出力値設定 (Output Value Set)

名称 : OUTSET
変位 : +$05
リセット : $00
特質 : –

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
	OUTSET7~0							
アクセス種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット7~0 – OUTSET7~0 : 出力値設定** (Output Value Set)

このビット領域は読み–変更–書き操作を使わず、各PORTxピンに対する出力駆動部レベルを制御します。

このビット領域のビットnへの'0'書き込みは無効です。

このビット領域のビットnへの'1'書き込みは出力値(PORTx.OUT)の対応するビットを設定(1)し、ピンn(Pxn)に対する出力をHighに駆動するように構成設定します。

このビット領域の読み込みはPORTx.OUTの値を返します。

17.5.7. OUTCLR – 出力値解除 (Output Value Clear)

名称 : OUTCLR
変位 : +$06
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	OUTCLR7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – OUTCLR7~0 : 出力値解除** (Output Value Clear)

このﾋﾞｯﾄ領域は読み-変更-書き操作を使わず、各PORTxﾋﾟﾝに対する出力駆動部ﾚﾍﾞﾙを制御します。

このﾋﾞｯﾄ領域のﾋﾞｯﾄnへの'0'書き込みは無効です。

このﾋﾞｯﾄ領域のﾋﾞｯﾄnへの'1'書き込みは出力値(PORTx.OUT)の対応するﾋﾞｯﾄを解除(0)し、ﾋﾟﾝn(Pxn)に対する出力をLowに駆動するように構成設定します。

このﾋﾞｯﾄ領域の読み込みはPORTx.OUTの値を返します。

17.5.8. OUTTGL – 出力値切り替え (Output Value Toggle)

名称 : OUTTGL
変位 : +$07
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	OUTTGL7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – OUTTGL7~0 : 出力値切り替え** (Output Value)

このﾋﾞｯﾄ領域は読み-変更-書き操作を使わず、各PORTxﾋﾟﾝに対する出力駆動部ﾚﾍﾞﾙを制御します。

このﾋﾞｯﾄ領域のﾋﾞｯﾄnへの'0'書き込みは無効です。

このﾋﾞｯﾄ領域のﾋﾞｯﾄnへの'1'書き込みは出力値(PORTx.OUT)の対応するﾋﾞｯﾄを反転切り替えします。

このﾋﾞｯﾄ領域の読み込みはPORTx.OUTの値を返します。

17.5.9. IN – 入力値 (Input Value)

名称 : IN
変位 : +$08
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	IN7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – IN7~0 : 入力値** (Input Value)

このﾋﾞｯﾄ領域はﾃﾞｼﾞﾀﾙ入力緩衝部が許可される時ににPORTxﾋﾟﾝの状態を示します。

このﾋﾞｯﾄ領域のﾋﾞｯﾄnへの'0'書き込みは無効です。

このﾋﾞｯﾄ領域のﾋﾞｯﾄnへの'1'書き込みは出力値(PORTx.OUT)の対応するﾋﾞｯﾄを反転切り替えします。

ﾃﾞｼﾞﾀﾙ入力緩衝部が禁止される場合、入力は採取されず、ﾋﾞｯﾄ値は変わりません。ﾋﾟﾝn(Pxn)用のﾃﾞｼﾞﾀﾙ入力緩衝部はﾋﾟﾝn制御(PORTx.PINnCTRL)ﾚｼﾞｽﾀの入力/感知構成設定(ISC)ﾋﾞｯﾄ領域で構成設定することができます。

このﾋﾞｯﾄ領域の各ﾋﾞｯﾄnの利用可能な状態が下表で示されます。

値	0	1
説明	Pxnでの電圧水準はLowです。	Pxnでの電圧水準はHighです。

17.5.10. INTFLAGS – 割り込み要求ﾌﾗｸﾞ (Interrupt Flags)

名称 : INTFLAGS
変位 : +$09
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	INT7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – INT7~0 : ﾋﾟﾝ割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (Interrupt Pin Flag)

ﾋﾟﾝ割り込み要求ﾌﾗｸﾞはそれに'1'を書くことによって解除(0)されます。

ﾋﾟﾝ割り込み要求ﾌﾗｸﾞはﾋﾟﾝn(Pxn)の変化または状態がﾋﾟﾝn制御(PORTx.PINnCTRL)のそのﾋﾟﾝの入力/感知構成設定(ISC)に一致する時に設定(1)されます。

このﾋﾞｯﾄ領域のﾋﾞｯﾄnへの'0'書き込みは無効です。

このﾋﾞｯﾄ領域のﾋﾞｯﾄnへの'1'書き込みはﾋﾟﾝn割り込み要求ﾌﾗｸﾞを解除(0)します。

17.5.11. PORTCTRL – ﾎﾟｰﾄ制御 (Port Control)

名称 : PORTCTRL
変位 : +$0A
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

このﾚｼﾞｽﾀはこのﾎﾟｰﾄに対するｽﾘｭｰﾚｰﾄ制限許可ﾋﾞｯﾄを含みます。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
								SRL
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ0 – SRL : ｽﾘｭｰﾚｰﾄ制限許可** (Slew Rate Limit Enable)

このﾋﾞｯﾄはPORTxの全てのﾋﾟﾝに対してｽﾘｭｰﾚｰﾄ制限を制御します。

値	0	1
説明	PORTxの全ﾋﾟﾝに対してｽﾘｭｰﾚｰﾄ制限が禁止	PORTxの全ﾋﾟﾝに対してｽﾘｭｰﾚｰﾄ制限が許可

17.5.12. PINnCTRL – ﾋﾟﾝn制御 (Pin n Control)

名称 : PIN0CTRL : PIN1CTRL : PIN2CTRL : PIN3CTRL : PIN4CTRL : PIN5CTRL : PIN6CTRL : PIN7CTRL
変位 : +$10 : +$11 : +$12 : +$13 : +$14 : +$15 : +$16 : +$17
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	INVEN				PULLUPEN	ISC2~0		
ｱｸｾｽ種別	R/W	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7 – INVEN : 反転I/O許可** (Inverted I/O Enable)

このﾋﾞｯﾄはﾋﾟﾝnに対する入力と出力が反転されるか否かを制御します。

値	0	1
説明	入出力値は反転されません。	入出力値は反転されます。

● **ﾋﾞｯﾄ3 – PULLUPEN : ﾌﾟﾙｱｯﾌﾟ許可** (Pullup Enable)

このﾋﾞｯﾄはﾋﾟﾝが入力専用として構成設定される時にﾋﾟﾝnの内部ﾌﾟﾙｱｯﾌﾟが許可される否かを制御します。

値	0	1
説明	ﾌﾟﾙｱｯﾌﾟ禁止	ﾌﾟﾙｱｯﾌﾟ許可

● ﾋﾞｯﾄ2~0 – ISC2~0 : 入力/感知構成設定 (Input/Sense Configuration)

このﾋﾞｯﾄ領域はﾋﾟﾝnの入力と感知の構成設定を制御します。感知構成設定はﾎﾟｰﾄ割り込みを起動するﾋﾟﾝ条件を決めます。

値	名称	説明
000	INTDISABLE	割り込み禁止、けれどもﾃﾞｼﾞﾀﾙ入力緩衝部許可
001	BOTHEDGES	両端感知で割り込み許可
010	RISING	上昇端感知で割り込み許可
011	FALLING	下降端感知で割り込み許可
100	INPUT_DISABLE	割り込みとﾃﾞｼﾞﾀﾙ入力緩衝部を禁止 (注1)
101	LEVEL	Lowﾚﾍﾞﾙ感知で割り込み許可 (注2)
11x	–	(予約)

注1: ﾋﾟﾝnのﾃﾞｼﾞﾀﾙ入力緩衝部が禁止される場合、入力値(PORTx.IN)ﾚｼﾞｽﾀのﾋﾞｯﾄnは更新されません。

注2: LEVEL割り込みはﾋﾟﾝがLowに留まる限り継続的に起動し続けます。

17.6. レジスタ要約 – VPORTx

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00	DIR	7～0	DIR7~0							
+$01	OUT	7～0	OUT7~0							
+$02	IN	7～0	IN7~0							
+$03	INTFLAGS	7～0	INT7~0							

17.7. ﾚｼﾞｽﾀ説明 – VPORTx

17.7.1. DIR – ﾃﾞｰﾀ方向 (Data Direction)

名称 : DIR
変位 : +$00
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

仮想ﾎﾟｰﾄ ﾚｼﾞｽﾀへのｱｸｾｽは普通のﾚｼﾞｽﾀへのｱｸｾｽと同じ結果を持ち、通常のﾎﾟｰﾄ ﾚｼﾞｽﾀが属す拡張I/Oﾚｼﾞｽﾀ空間で使うことができないﾋﾞｯﾄ操作命令のようなﾒﾓﾘ特定命令を許します。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	DIR7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – DIR7~0 : ﾃﾞｰﾀ方向** (Data Direction)

このﾋﾞｯﾄ領域は各PORTxﾋﾟﾝに対する出力駆動部を制御します。

このﾋﾞｯﾄ領域はﾃﾞｼﾞﾀﾙ入力緩衝部を制御しません。ﾋﾟﾝn(Pxn)用のﾃﾞｼﾞﾀﾙ入力緩衝部はﾋﾟﾝn制御(PORTx.PINnCTRL)ﾚｼﾞｽﾀの割り込み/感知構成設定(ISC)ﾋﾞｯﾄ領域で構成設定することができます。

下表はこのﾋﾞｯﾄ領域の各ﾋﾞｯﾄnに対して利用可能な構成設定を示します。

値	0	1
説明	Pxnは入力専用ﾋﾟﾝとして構成、出力駆動部は禁止	Pxnは出力ﾋﾟﾝとして構成、出力駆動部は許可

17.7.2. OUT – 出力値 (Output Value)

名称 : OUT
変位 : +$01
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

仮想ﾎﾟｰﾄ ﾚｼﾞｽﾀへのｱｸｾｽは普通のﾚｼﾞｽﾀへのｱｸｾｽと同じ結果を持ち、通常のﾎﾟｰﾄ ﾚｼﾞｽﾀが属す拡張I/Oﾚｼﾞｽﾀ空間で使うことができないﾋﾞｯﾄ操作命令のようなﾒﾓﾘ特定命令を許します。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	OUT7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – OUT7~0 : 出力値** (Output Value)

このﾋﾞｯﾄ領域は各PORTxﾋﾟﾝに対する出力駆動部ﾚﾍﾞﾙを制御します。

この構成設定は対応するﾋﾟﾝに対して駆動部(PORTx.DIR)が許可される時にだけ出力に影響を及ぼします。

下表はこのﾋﾞｯﾄ領域の各ﾋﾞｯﾄnに対して利用可能な構成設定を示します。

値	0	1
説明	ﾋﾟﾝn(Pxn)出力はLowに駆動されます。	Pxn出力はHighに駆動されます。

17.7.3. IN – 入力値 (Input Value)

名称 : IN
変位 : +$02
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

仮想ﾎﾟｰﾄ ﾚｼﾞｽﾀへのｱｸｾｽは普通のﾚｼﾞｽﾀへのｱｸｾｽと同じ結果を持ち、通常のﾎﾟｰﾄ ﾚｼﾞｽﾀが属す拡張I/Oﾚｼﾞｽﾀ空間で使うことができないﾋﾞｯﾄ操作命令のようなﾒﾓﾘ特定命令を許します。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	IN7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – IN7~0 : 入力値** (Input Value)

このﾋﾞｯﾄ領域はﾃﾞｼﾞﾀﾙ入力緩衝部が許可される時ににPORTxﾋﾟﾝの状態を示します。

このﾋﾞｯﾄ領域のﾋﾞｯﾄnへの'0'書き込みは無効です。

このﾋﾞｯﾄ領域のﾋﾞｯﾄnへの'1'書き込みは出力値(PORTx.OUT)の対応するﾋﾞｯﾄを反転切り替えします。

ﾃﾞｼﾞﾀﾙ入力緩衝部が禁止される場合、入力は採取されず、ﾋﾞｯﾄ値は変わりません。ﾋﾟﾝn(Pxn)用のﾃﾞｼﾞﾀﾙ入力緩衝部はﾋﾟﾝn制御(PORTx.PINnCTRL)ﾚｼﾞｽﾀの入力/感知構成設定(ISC)ﾋﾞｯﾄ領域で構成設定することができます。

下表はこのﾋﾞｯﾄ領域の各ﾋﾞｯﾄnに対して利用可能な構成設定を示します。

値	0	1
説明	Pxnでの電圧水準はLowです。	Pxnでの電圧水準はHighです。

17.7.4. INTFLAGS – 割り込み要求ﾌﾗｸﾞ (Interrupt Flag)

名称 : INTFLAGS
変位 : +$03
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

仮想ﾎﾟｰﾄ ﾚｼﾞｽﾀへのｱｸｾｽは普通のﾚｼﾞｽﾀへのｱｸｾｽと同じ結果を持ち、通常のﾎﾟｰﾄ ﾚｼﾞｽﾀが属す拡張I/Oﾚｼﾞｽﾀ空間で使うことができないﾋﾞｯﾄ操作命令のようなﾒﾓﾘ特定命令を許します。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	INT7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – INT7~0 : ﾋﾟﾝ割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (Interrupt Pin Flag)

ﾋﾟﾝ割り込み要求ﾌﾗｸﾞはそれに'1'を書くことによって解除(0)されます。

ﾋﾟﾝ割り込み要求ﾌﾗｸﾞはﾋﾟﾝn(Pxn)の変化または状態がﾋﾟﾝn制御(PORTx.PINnCTRL)のそのﾋﾟﾝの入力/感知構成設定(ISC)に一致する時に設定(1)されます。

このﾋﾞｯﾄ領域のﾋﾞｯﾄnへの'0'書き込みは無効です。

このﾋﾞｯﾄ領域のﾋﾞｯﾄnへの'1'書き込みはﾋﾟﾝn割り込み要求ﾌﾗｸﾞを解除(0)します。

18. BOD – 低電圧検出器 (BOD:Brownout Detector)

18.1. 特徴

- 低電圧検出は設定可能な基準未満での動作を避けるために電源を監視します。
- 利用可能な3つの動作形態
  - 許可動作 (継続的に活動)
  - 採取動作
  - 禁止
- 活動動作と休止動作に対して独立した動作形態を選択
- 割り込みを持つ電圧水準監視部(VLM)
- BOD基準に比例した設定可能なVLM基準

18.2. 概要

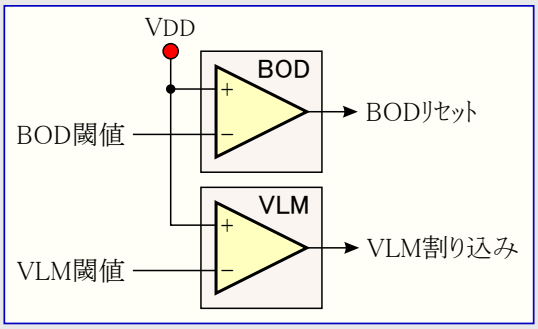
低電圧検出器(BOD)は電源を監視して供給電圧を設定可能な低電圧閾値基準と比べます。低電圧閾値基準はｼｽﾃﾑ ﾘｾｯﾄを生成する時を定義します。電圧水準監視部(VLM)も電源を監視してそれをBOD閾値よりも高い閾値と比べます。そしてVLMは供給電圧がBOD閾値に近づいている時に”早期警告”として割り込み要求を生成することができます。VLM閾値基準はBOD閾値基準の%超えとして表現されます。

BODは主にﾋｭｰｽﾞによって制御され、使用者によって許可されなければなりません。ｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作とﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝ休止動作で使われる動作形態は標準ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ実行で変えることができます。VLMは更にI/Oﾚｼﾞｽﾀによっても制御されます。

有効にされると、BODはBODが継続的に活動する許可動作形態で、またはBODが供給電圧水準を検査するのに与えられた周期で一時的に活動にされる採取動作形態で動作することができます。

18.2.1. 構成図

図18-1. BOD構成図



18.3. 機能的な説明

18.3.1. 初期化

BOD設定はﾘｾｯﾄの間にﾋｭｰｽﾞから設定されます。活動動作とｱｲﾄﾞﾙ休止動作でのBOD基準と動作形態はﾋｭｰｽﾞによって設定され、ｿﾌﾄｳｪｱによって変更することができません。ｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作とﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝ休止動作での動作形態はﾋｭｰｽﾞによって設定され、ｿﾌﾄｳｪｱによって変更することができます。

電圧水準監視部機能は割り込み制御(BOD.INTCTRL)ﾚｼﾞｽﾀのVLM割り込み許可(VLMIE)ﾋﾞｯﾄに’1’を書くことによって許可することができます。VLM割り込みはBOD.INTCTRLﾚｼﾞｽﾀのVLM構成設定(VLMCFG)ﾋﾞｯﾄを書くことによって構成設定されます。割り込みは供給電圧が上または下のどちらかから、または何れかの方向でVLM閾値を横切る時に要求されます。

VLM機能はBOD動作に従います。BODが禁止された場合、VLMは例えVLMIEが’1’でも許可されません。BODが採取動作を使う場合、VLMも採取にされます。VLM割り込み許可時、割り込み要求ﾌﾗｸﾞは電圧水準がVLM基準を横切る時にVLMCFGに従って設定(1)されます。

VLM閾値は制御A(BOD.VLMCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのVLM基準(VLMLVL)ﾋﾞｯﾄを書くことによって定義されます。

18.3.2. 割り込み

表18-1. 利用可能な割り込みﾍﾞｸﾀと供給元

名称	ﾍﾞｸﾀ説明	条件
VLM	電圧水準監視部	割り込み制御(BOD.INTCTRL)ﾚｼﾞｽﾀのVLM構成設定(VLMCFG)ﾋﾞｯﾄによって構成されるように供給電圧がVLM閾値を横断

VLM割り込みはCPUがﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ動作で停止されている場合に実行されません。

割り込み条件が起こると、周辺機能の割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(BOD.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀで対応する割り込み要求ﾌﾗｸﾞが設定(1)されます。

割り込み元は周辺機能の割り込み制御(BOD.INTCTRL)ﾚｼﾞｽﾀで対応する許可ﾋﾞｯﾄを書くことによって許可または禁止にされます。

割り込み要求は対応する割り込み元が許可され、割り込み要求ﾌﾗｸﾞが設定(1)される時に生成されます。割り込み要求は割り込み要求ﾌﾗｸﾞが解除(0)されるまで活性に留まります。割り込み要求ﾌﾗｸﾞを解除する方法の詳細については周辺機能のINTFLAGSﾚｼﾞｽﾀをご覧ください。

18.3.3. 休止形態動作

異なる休止動作形態でのBOD構成設定はﾋｭｰｽﾞによって定義されます。活動動作とｱｲﾄﾞﾙ休止動作で使われる動作形態はFUSE.BODCFGのACTIVEﾋｭｰｽﾞによって定義され、制御A(BOD.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの活動/ｱｲﾄﾞﾙ時動作(ACTIVE)ﾋﾞｯﾄ領域に設定されます。ｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作とﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝ休止動作で使われる動作形態はFUSE.BODCFGのSLEEPﾋｭｰｽﾞによって定義され、制御A(BOD.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのｽﾀﾝﾊﾞｲ/ﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝ時動作(SLEEP)ﾋﾞｯﾄ領域に設定されます。

活動動作とｱｲﾄﾞﾙ休止動作(即ち、BOD.CTRLAのACTIVE)での動作形態はｿﾌﾄｳｪｱによって変えることができません。ｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作とﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝ休止動作での動作形態は制御A(BOD.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの休止(SLEEP)ﾋﾞｯﾄ領域への書き込みによって変えることができます。

ﾃﾞﾊﾞｲｽがｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作またはﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝ休止動作へ行く時に、BODはBOD.CTRLAのSLEEPによって定義されるように動作形態を変更します。ﾃﾞﾊﾞｲｽがｽﾀﾝﾊﾞｲまたはﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝの休止動作から起き上がる時に、BODは制御A(BOD.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのACTIVEﾋﾞｯﾄ領域によって定義される動作形態で動きます。

18.3.4. 構成設定変更保護

この周辺機能は構成設定変更保護(CCP)下にあるﾚｼﾞｽﾀを持ちます。これらへ書くには最初に構成設定変更保護(CPU.CCP)ﾚｼﾞｽﾀへ与えられた鍵が書かれ、4 CPU命令以内に保護されたﾋﾞｯﾄへの書き込みｱｸｾｽが後続しなければなりません。

適切なCCP解錠手順に従わずに保護されたﾚｼﾞｽﾀへ書こうとすると、それを無変化のままにします。

右のﾚｼﾞｽﾀがCCP下です。

表18-2. BOD – 構成設定変更保護下のﾚｼﾞｽﾀ

ﾚｼﾞｽﾀ	鍵種別
BOD.CTRLAのSLEEP	IOREG

18.4. レジスタ要約

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00	CTRLA	7～0				SAMPFREQ	ACTIVE1,0		SLEEP1,0	
+$01	CTRLB	7～0						LVL2~0		
+$02 ～ +$07	予約									
+$08	VLMCTRLA	7～0							VLMLVL1,0	
+$09	INTCTRL	7～0						VLMCFG1,0		VLMIE
+$0A	INTFLAGS	7～0								VLMIF
+$0B	STATUS	7～0								VLMS

18.5. ﾚｼﾞｽﾀ説明

18.5.1. CTRLA – 制御A (Control A)

名称 : CTRLA
変位 : +$00
ﾘｾｯﾄ : FUSE.BODCFGﾋｭｰｽﾞから設定
特質 : 構成設定変更保護

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
				SAMPFREQ	ACTIVE1,0		SLEEP1,0	
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	x	x	x	x	x

● **ﾋﾞｯﾄ4 – SAMPFREQ : 採取周波数** (Sample Frequency)

このﾋﾞｯﾄはBOD採取周波数を制御します。

ﾘｾｯﾄ値はFUSE.BODCFGのBOD採取周波数(SAMPFREQ)ﾋﾞｯﾄから取得/設定されます。

このﾋﾞｯﾄは構成設定保護(CCP)下ではありません。

値	0	1
説明	採取周波数は1kHzです。	採取周波数は125Hzです。

● **ﾋﾞｯﾄ3,2 – ACTIVE1,0 : 活動/ｱｲﾄﾞﾙ時動作** (Active)

これらのﾋﾞｯﾄはﾃﾞﾊﾞｲｽが活動動作とｱｲﾄﾞﾙ休止動作の時のBOD動作形態を選びます。

ﾘｾｯﾄ値はFUSE.BODCFGの活動とｱｲﾄﾞﾙでのBOD動作形態(ACTIVE)ﾋﾞｯﾄ領域から取得/設定されます。

このﾋﾞｯﾄ領域は構成設定変更保護(CCP)下ではありません。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	DIS	ENABLED	SAMPLED	ENWAIT
説明	禁止	継続動作で許可	採取動作で許可	継続動作で許可。実行は起き上がりでBODが動くまで停止

● **ﾋﾞｯﾄ1,0 – SLEEP1,0 : ｽﾀﾝﾊﾞｲ/ﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝ時動作** (Sleep)

これらのﾋﾞｯﾄはﾃﾞﾊﾞｲｽがｽﾀﾝﾊﾞｲとﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝの休止動作の時のBOD動作形態を選びます。

ﾘｾｯﾄ値はFUSE.BODCFGの休止でのBOD動作形態(SLEEP)ﾋﾞｯﾄ領域から取得/設定されます。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	DIS	ENABLED	SAMPLED	–
説明	禁止	継続動作で許可	採取動作で許可	(予約)

18.5.2. CTRLB – 制御B (Control B)

名称 : CTRLB
変位 : +$01
ﾘｾｯﾄ : FUSE.BODCFGﾋｭｰｽﾞから設定
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
						LVL2~0		
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	x	x	x

● **ﾋﾞｯﾄ2~0 – LVL2~0 : BOD基準** (BOD Level)

このﾋﾞｯﾄ領域はBOD閾値基準を制御します。

ﾘｾｯﾄ値はBOD構成設定(FUSE.BODCFG)ﾋｭｰｽﾞのBOD基準(LVL)ﾋﾞｯﾄから取得/設定されます。

値	0 0 0	0 1 0	1 1 1
名称	BODLEVEL0	BODLEVEL2	BODLEVEL7
説明	1.8V	2.6V	4.2V

注: ・ 更なる詳細については電気的特性でBODとPORの特性を参照してください。
・ 説明内の値は代表値です。

18.5.3. VLMCTRLA – VLM制御A (VLM Control A)

名称 : VLMCTRLA
変位 : +$08
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
							VLMLVL1,0	
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ1,0 – VLMLVL1,0 : VLM基準** (VLM Level)

これらのﾋﾞｯﾄはBOD閾値(BOD.CTRLBのLVL)に相対する電圧水準監視部(VLM)閾値を選びます。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
説明	BOD閾値+5%がVLM閾値	BOD閾値+15%がVLM閾値	BOD閾値+25%がVLM閾値	(予約)

18.5.4. INTCTRL – 割り込み制御 (Interrupt Control)

名称 : INTCTRL
変位 : +$09
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
						VLMCFG1,0		VLMIE
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ2,1 – VLMCFG1,0 : VLM構成設定** (VLM Configuration)

これらのﾋﾞｯﾄはどの出来事がVLM割り込みを起動するかを選びます。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	BELOW	ABOVE	CROSS	–
説明	VDDがVLM閾値未満へ下降	VDDがVLM閾値越えへ上昇	VDDがVLM閾値を横切る	(予約)

● **ﾋﾞｯﾄ0 – VLMIE : VLM割り込み許可** (VLM Interrupt Enable)

このﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みは電圧水準監視部(VLM)割り込みを許可します。

18.5.5. INTFLAGS – VLM割り込み要求ﾌﾗｸﾞ (VLM Interrupt Flag)

名称 : INTFLAGS
変位 : +$0A
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
								VLMIF
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ0 – VLMIF : VLM割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (VLM Interrupt Flag)

このﾌﾗｸﾞは割り込み制御(BOD.INTCTRL)ﾚｼﾞｽﾀのVLM構成設定(VLMCFG)ﾋﾞｯﾄによって構成設定されるように、VLMからの起動が与えられる時に設定(1)されます。このﾌﾗｸﾞはBODが許可されている時にだけ更新されます。

18.5.6. STATUS – VLM状態 (VLM Status)

名称 : STATUS
変位 : +$0B
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
								VLMS
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ0 – VLMS : VLM状態** (VLM Status)

このﾋﾞｯﾄはBODが許可されている時にだけ有効です。

値	0	1
説明	電圧はVLM閾値ﾚﾍﾞﾙ以上です。	電圧はVLM閾値ﾚﾍﾞﾙ以下です。

19. VREF – 基準電圧

19.1. 特徴

- 設定可能な基準電圧源
  - AC
  - ADC
- 各基準元は以下の電圧を支援
  - 1.024V
  - 2.048V
  - 2.500V
  - 4.096V
  - VDD

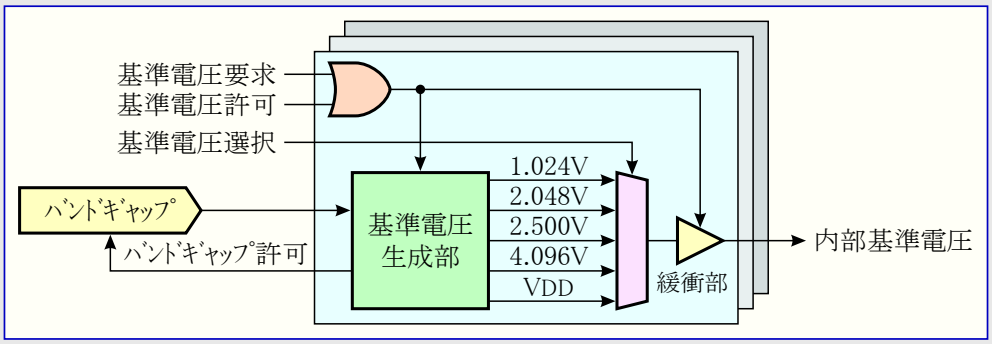
19.2. 概要

基準電圧(VREF)周辺機能は様々な周辺機能によって使われる基準電圧源を提供します。制御A(VREF.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの適切なﾚｼﾞｽﾀを書くことによってｱﾅﾛｸﾞ比較器に対する基準電圧を選ぶことができます。

基準電圧源は周辺機能によって要求される時に自動的に許可されます。使用者は制御B(VREF.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀで各々の強制許可(NVMREFEN、ADC0REFEN、AC0REFEN)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって基準電圧源を許可(故に未使用供給元の自動禁止を無効に)することができます。これは増される消費電力を犠牲にして始動時間を減らします。

19.2.1. 構成図

図19-1. VREF構成図



19.3. 機能的な説明

19.3.1. 初期化

既定構成設定はADC0またはAC0が基準電圧を要求する時に各々の供給元を許可します。

ADC0とAC0用の基準電圧は制御B(VREF.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀで各々の参照基準強制許可(ADC0REFENとAC0REFEN)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって強制的にONにすることができます。これは各々の周辺機能の始動時間を増される消費電力を犠牲にして始動時間を減らすのに役立ちます。

AC0の既定基準電圧は1.024Vですが、制御A(VREF.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのAC0基準選択(AC0REFSEL)ﾋﾞｯﾄ領域に書くことによって構成設定することができます。

ADC0の基準電圧はADC0ﾚｼﾞｽﾀ内で参照基準元を選ぶことによって構成設定されます。詳細についてはADC記述を参照してください。

19.4. レジスタ要約

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00	CTRLA	7～0						AC0REFSEL2～0		
+$01	CTRLB	7～0						NVMREFEN	ADC0REFEN	AC0REFEN

19.5. ﾚｼﾞｽﾀ説明

19.5.1. CTRLA – 制御A (Control A)

名称 : CTRLA
変位 : +$00
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
						AC0REFSEL2~0		
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ2~0 – AC0REFSEL2~0 : ｱﾅﾛｸﾞ比較器0基準選択** (Analog Comparator 0 Reference Select)

このﾋﾞｯﾄ領域はｱﾅﾛｸﾞ比較器0用の基準電圧を選びます。

値	0 0 0	0 0 1	0 1 0	0 1 1	1 0 0	1 0 1	1 1 0	1 1 1
名称	1V024	2V048	2V500	4V096	–	–	–	VDD
説明	1.02V 参照基準(注)	2.05V 参照基準(注)	2.5V 参照基準(注)	4.1V 参照基準(注)	(予約)	(予約)	(予約)	参照基準 として供給電圧

注: 内部参照基準に対して与えられる値は代表値なだけです。更なる詳細については「電気的特性」章を参照してください。

19.5.2. CTRLB – 制御B (Control B)

名称 : CTRLB
変位 : +$01
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
						NVMREFEN	ADC0REFEN	AC0REFEN
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ2 – NVMREFEN : NVM基準電圧強制許可** (NVM Reference Force Enable)

このﾋﾞｯﾄはNVMの参照基準が常時ONか否かを制御します。

値	0	1
名称	AUTO	ALWAYSON
説明	参照基準は必要とされる時に自動的に許可されます。	参照基準は常にONです。

● **ﾋﾞｯﾄ1 – ADC0REFEN : ADC0基準電圧強制許可** (ADC0 Reference Force Enable)

このﾋﾞｯﾄはADC0の参照基準が常時ONか否かを制御します。

値	0	1
名称	AUTO	ALWAYSON
説明	参照基準は必要とされる時に自動的に許可されます。	参照基準は常にONです。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – AC0REFEN : AC0基準電圧強制許可** (AC0 Reference Force Enable)

このﾋﾞｯﾄはAC0の参照基準が常時ONか否かを制御します。

値	0	1
名称	AUTO	ALWAYSON
説明	参照基準は必要とされる時に自動的に許可されます。	参照基準は常にONです。

20. WDT – ｳｫｯﾁﾄﾞｯｸﾞ ﾀｲﾏ

20.1. 特徴

- 時間超過前にｳｫｯﾁﾄﾞｯｸﾞ ﾀｲﾏが解消されない場合にｼｽﾃﾑ ﾘｾｯﾄを発行
- 独立した発振器を用いる周辺機能ｸﾛｯｸからの非同期動作
- 32.768kHz超低電力発振器(OSCULP32K)の1.024kHz出力を使用
- 8msから8sまで11種の選択可能な時限期間
- 2つの動作形態
  - 標準動作
  - 窓動作
- 望まれない変更を防ぐための構成設定施錠

20.2. 概要

ｳｫｯﾁﾄﾞｯｸﾞ ﾀｲﾏ(WDT)は正しいﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ動作を監視するためのｼｽﾃﾑ機能です。許可されると、WDTは構成設定可能な時限期間で継続的に計時器を動かします。WDTが制限期間内にﾘｾｯﾄされなければ、ｼｽﾃﾑ ﾘｾｯﾄを発行し、これは暴走や停滞されたｺｰﾄﾞのような状況からの回復をｼｽﾃﾑに許します。WDTはｿﾌﾄｳｪｱからWDR(Watchdog Timer Reset)命令を実行することによってﾘｾｯﾄされます。

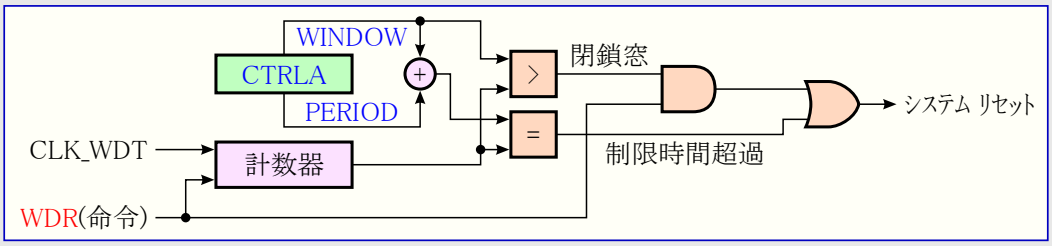
上で記述されたような標準動作に加えて、WDTは窓動作を持ちます。窓動作はWDTがﾘｾｯﾄされなければならない間の制限時間内側の時間幅または”窓”を定義します。WDTが速すぎまたは遅すぎでこの窓の外側でﾘｾｯﾄされた場合、ｼｽﾃﾑ ﾘｾｯﾄが発行されます。標準動作に比べ、窓動作はｺｰﾄﾞ異常が一定のWDR実行を引き起こす状況を捕らえることができます。

許可されると、WDTは活動動作と全ての休止動作で動きます。これが非同期の(CPUから独立したｸﾛｯｸ元から動く)ため、例え主ｸﾛｯｸが動かなくても、動作を継続してｼｽﾃﾑ ﾘｾｯﾄを発行することができます。

WDTは構成設定変更保護(CCP)機構と施錠機能を持ち、WDT設定が事故によって変更され得ないことを保証します。

20.2.1. 構成図

図20-1. WDT構成図



20.2.2. 信号説明

該当なし

20.3. 機能的な説明

20.3.1. 初期化

1. WDTは制御A(WDT.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの制限期間(PERIOD)ﾋﾞｯﾄ領域に0以外の値が書かれる時に許可されます。
2. 任意選択: 窓形態動作を許可するにはWDT.CTRLAﾚｼﾞｽﾀの窓(WINDOW)ﾋﾞｯﾄ領域に0以外の値を書いてください。

制御A(WDT.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの全ﾋﾞｯﾄと状態(WDT.STATUS)ﾚｼﾞｽﾀの施錠(LOCK)ﾋﾞｯﾄは構成設定変更保護機構によって書き込み保護されます。

ｳｫｯﾁﾄﾞｯｸﾞ構成設定(FUSE.WDTCFG)ﾋｭｰｽﾞはWDT.CTRLAﾚｼﾞｽﾀのﾘｾｯﾄ値を定義します。FUSE.WDTCFGのｳｫｯﾁﾄﾞｯｸﾞ制限時間周期(PERIOD)ﾋﾞｯﾄ領域が0以外なら、起動時にWDTが許可されてWDT.STATUSﾚｼﾞｽﾀのLOCKﾋﾞｯﾄが設定(1)されます。

20.3.2. ｸﾛｯｸ

1.024kHz発振器ｸﾛｯｸ(CLK_WDT)は内部超低電力発振器(OSCULP32K)から供給されます。超低電力設計のため、この発振器はﾃﾞﾊﾞｲｽで特徴とされる他の発振器よりもかなり不正確で、従って正確な時限期間はﾃﾞﾊﾞｲｽ毎に変わるかもしれません。全てのﾃﾞﾊﾞｲｽに対して使われる時限期間が有効なことを保証するため、WDTを使うｿﾌﾄｳｪｱ設計時にこの変化が考慮されなければなりません。

計数器ｸﾛｯｸ(CLK_WDT)は周辺機能ｸﾛｯｸに対して非同期です。この非同期性のため、WDT制御A(WDT.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀへの書き込みはｸﾛｯｸ領域間の同期が必要とされます。更なる詳細については「20.3.6. 同期」を参照してください。

20.3.3. 動作

20.3.3.1. 標準動作

標準動作操作では、WDTに単一制限期間が設定されます。WDTが定義された時限期間中にWDR命令を用いてソフトウェアからリセットされない場合、WDTはシステム リセットを発行します。

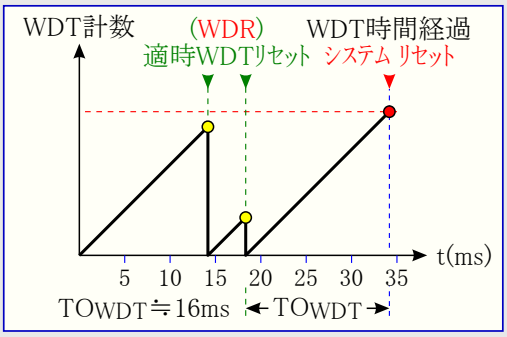
WDTがWDR命令を用いてソフトウェアによってリセットされる時毎に新しいWDT時限期間が開始されます。

制御A(WDT.CTRLA)レジスタの制限期間(PERIOD)ビット領域に書くことによって8msから8sまで選択可能な11個の可能なWDT時限期間(TO_{WDT})があります。

右図は標準動作でのWDT操作に対する代表的なタイミング体系を示します。

標準動作は制御A(WDT.CTRLA)レジスタの窓期間(WINDOW)ビット領域が'0000'である限り許可されます。

図20-2. 標準動作操作



20.3.3.2. 窓動作

窓動作操作では、WDTが次のような2つの異なる制限期間、閉鎖窓制限期間(TO_{WDTW})と開放窓制限期間(TO_{WDT})を使います。

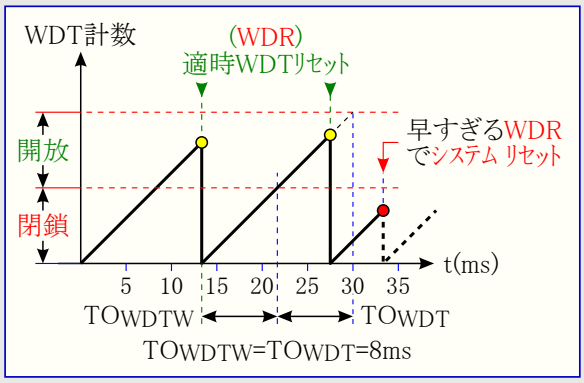
- TO_{WDTW}はWDTをリセットされるべきではない8msから8sまでの持続期間を定義します。この期間の間にWDTがリセットされた場合、WDTはシステム リセットを発行します。
- TO_{WDT}も8msから8sで、WDTをリセットすることができる(すべき)間の開放持続期間を定義します。開放期間は常に閉鎖期間に続き、故に時限期間の総持続期間は閉鎖窓と開放窓の時限期間の合計です。

窓動作許可時、またはデバッグ動作の外に出る時に、窓は最初のWDR命令後に活性(有効)にされます。

右図は窓動作でのWDT操作に対する代表的なタイミング体系を示します。

窓動作は制御A(WDT.CTRLA)レジスタの窓期間(WINDOW)ビット領域に0以外の値を書くことで許可され、'0000'を書くことで禁止されます。

図20-3. 窓動作操作



20.3.3.3. 意図しない変更の防止

WDTはWDT設定に対して意図しない変更を避けるために次のような2つの安全機構を提供します。

- WDT制御レジスタ変更のために時限書き込み手順を使う構成設定変更保護(CCP)機構。更なる詳細については「20.3.7. 構成設定変更保護」を参照してください。
- 状態(WDT.STATUS)レジスタの施錠(LOCK)ビットに'1'を書くことによる構成設定の施錠。このビットが'1'の時に制御A(WDT.CTRLA)レジスタは変更することができません。LOCKビットはソフトウェアで'1'を書くことだけができるのに対し、デバイスがそれに'0'を書くことができるにはデバッグ動作が必要です。結果としてWDTはソフトウェアから禁止することができません。

注: WDT構成設定はリセット後にヒューズから設定されます。制限期間(PERIOD)ビット領域が0以外に設定される場合、WDT.STATUSレジスタで自動的にLOCKビットが設定(1)されます。

20.3.4. 休止形態動作

WDTは供給元クロックが活性であるどの休止動作形態でも動作を続けます。

20.3.5. デバッグ操作

走行時のデバッグ時、この周辺機能は標準動作を続けます。デバッグ動作形態でのCPU停止はこの周辺機能の標準動作を停止します。

デバッグ動作形態でのCPU停止時、WDT計数器はリセットされます。

WDTが窓動作で動いていてCPUを開始すると、最初の閉鎖窓制限時間は禁止され、標準動作制限時間が実行されます。

20.3.6. 同期

WDTクロック領域と周辺機能クロック領域間が非同期なため、制御A(WDT.CTRLA)レジスタは書かれた時に同期されます。状態(WDT.STATUS)レジスタの同期化多忙(SYNCBUSY)フラグは進行中の同期化があるかを示します。

SYNCBUSY=1の間のWDT.CTRLAレジスタ書き込みは許されません。

以下のレジスタ ビットは書かれた時に同期化されなければなりません。

- 制御A(WDT.CTRLA)レジスタの制限期間(PERIOD)ビット
- WDT.CTRLAレジスタの窓期間(WINDOW)ビット

WDR命令は同期するのに2～3周期のWDTクロックが必要です。

20.3.7. 構成設定変更保護

この周辺機能は構成設定変更保護(CCP)下にあるレジスタを持ちます。これらへ書くには最初に構成設定変更保護(CPU.CCP)レジスタへ与えられた鍵が書かれ、4 CPU命令以内に保護されたビットへの書き込みアクセスが後続しなければなりません。

適切なCCP解錠手順に従わずに保護されたレジスタへ書こうとすると、それを無変化のままにします。

右のレジスタがCCP下です。

CCPによって保護されるビット/レジスタの一覧は以下です。

- 制御A(WDT.CTRLA)レジスタの制限期間(PERIOD)ビット
- 制御A(WDT.CTRLA)レジスタの窓期間(WINDOW)ビット
- 状態(WDT.STATUS)レジスタの施錠(LOCK)ビット

表20-1. WDT – 構成設定変更保護下のレジスタ

レジスタ	鍵種別
WDT.CTRLA	IOREG
WDT.STATUSのLOCKビット	

20.4. レジスタ要約

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00	CTRLA	7～0	WINDOW3～0				PERIOD3~0			
+$01	STATUS	7～0	LOCK							SYNCBUSY

20.5. ﾚｼﾞｽﾀ説明

20.5.1. CTRLA – 制御A (Control A)

名称 : CTRLA
変位 : +$00
ﾘｾｯﾄ : FUSE.WDTCFGからの値
特質 : 構成設定変更保護

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	WINDOW3~0				PERIOD3~0			
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	x	x	x	x	x	x	x	x

● **ﾋﾞｯﾄ7~4 – WINDOW3~0 : 窓期間** (Window)

これらのﾋﾞｯﾄへの0以外の値の書き込みが窓動作を許可し、それに応じて閉鎖期間の持続期間を選びます。

このﾋﾞｯﾄは以下のように任意選択で施錠保護されます。

- 状態(WDT.STATUS)ﾚｼﾞｽﾀの施錠(LOCK)ﾋﾞｯﾄが'1'の場合、全ﾋﾞｯﾄが変更保護されます(ｱｸｾｽ=R)。
- WDT.STATUSﾚｼﾞｽﾀのLOCKﾋﾞｯﾄが'0'の場合、全ﾋﾞｯﾄを変更することができます(ｱｸｾｽ=R/W)。

値	0000	0001	0010	0011	0100	0101	0110	0111	1000	1001	1010	1011	その他
名称	OFF	8CLK	16CLK	32CLK	64CLK	128CLK	256CLK	512CLK	1KCLK	2KCLK	4KCLK	8KCLK	–
説明	–	0.008s	0.016s	0.031s	0.063s	0.125s	0.25s	0.5s	1s	2s	4s	8s	(予約)

注: 32.768kHz超低電力発振器(OSCULP32K)精度に関する特定情報については「電気的特性」章を参照してください。

● **ﾋﾞｯﾄ3~0 – PERIOD3~0 : 制限期間** (Period)

これらのﾋﾞｯﾄへの0以外の値の書き込みがWDTを許可し、それに応じて標準動作での制限期間を選びます。窓動作でのこれらのﾋﾞｯﾄは開放窓の持続期間を選びます。

このﾋﾞｯﾄは以下のように任意選択で施錠保護されます。

- 状態(WDT.STATUS)ﾚｼﾞｽﾀの施錠(LOCK)ﾋﾞｯﾄが'1'の場合、全ﾋﾞｯﾄが変更保護されます(ｱｸｾｽ=R)。
- WDT.STATUSﾚｼﾞｽﾀのLOCKﾋﾞｯﾄが'0'の場合、全ﾋﾞｯﾄを変更することができます(ｱｸｾｽ=R/W)。

値	0000	0001	0010	0011	0100	0101	0110	0111	1000	1001	1010	1011	その他
名称	OFF	8CLK	16CLK	32CLK	64CLK	128CLK	256CLK	512CLK	1KCLK	2KCLK	4KCLK	8KCLK	–
説明	–	0.008s	0.016s	0.031s	0.063s	0.125s	0.25s	0.5s	1s	2s	4s	8s	(予約)

注: 32.768kHz超低電力発振器(OSCULP32K)精度に関する特定情報については「電気的特性」章を参照してください。

20.5.2. STATUS – 状態 (Status)

名称 : STATUS
変位 : +$01
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : LOCKﾋﾞｯﾄは構成設定変更保護

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	LCOK							SYNCBUSY
ｱｸｾｽ種別	R/W	R	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7 – LOCK : 施錠** (Lock)

このﾋﾞｯﾄの'1'書き込みは制御A(WDT.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀを書き込み保護にします。

このﾋﾞｯﾄに'1'を書くことだけが可能です。このﾋﾞｯﾄはﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ動作でだけ解除(0)することができます。

ｳｫｯﾁﾄﾞｯｸﾞ ﾀｲﾏ構成設定(WDTCFG)ﾋｭｰｽﾞのｳｫｯﾁﾄﾞｯｸﾞ制限時間周期(PERIOD)値が0と違う場合、自動的に施錠が設定されます。

このﾋﾞｯﾄは構成設定変更保護(CCP)下です。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – SYNCBUSY : 同期化多忙** (Synchronization Busy)

このﾋﾞｯﾄはWDT.CTRLAﾚｼﾞｽﾀを書いた後にﾃﾞｰﾀが周辺機能ｸﾛｯｸ領域からWDTｸﾛｯｸ領域へ同期化されつつある間、設定(1)されます。

このﾋﾞｯﾄは同期化終了後に解除(0)されます

このﾋﾞｯﾄは構成設定変更保護(CCP)下ではありません。

21. TCA – 16ﾋﾞｯﾄ ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀA型

21.1. 特徴

- 16ﾋﾞｯﾄ ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀ
- 3つの比較ﾁｬﾈﾙ
- 2重緩衝されたﾀｲﾏ定期間設定
- 2重緩衝された比較ﾁｬﾈﾙ
- 波形生成:
  - 周波数生成
  - 単一傾斜PWM(ﾊﾟﾙｽ幅変調)
  - 2傾斜PWM
- 事象での計数
- 計時器溢れ割り込み/事象
- 比較ﾁｬﾈﾙ当たり1つの比較一致
- 分割動作での2つの8ﾋﾞｯﾄ ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀ

21.2. 概要

柔軟な16ﾋﾞｯﾄ ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀA型(TCA)は正確なﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ実行ﾀｲﾐﾝｸﾞ、周波数と波形の生成、指令実行を提供します。

TCAは基本計数器と比較ﾁｬﾈﾙの組から成ります。基本計数器はｸﾛｯｸ周期または事象を計数するのに使うことができ、またｸﾛｯｸ周期をどう計数するかを事象に制御させます。それは方向制御を持ち、ﾀｲﾐﾝｸﾞに周期設定を使うことができます。比較ﾁｬﾈﾙは基本計数器と共に、比較一致制御、周波数生成、ﾊﾟﾙｽ幅波形変調を実行するのに使うことができます。

動作形態に依存して、計数器は各ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀ ｸﾛｯｸまたは事象入力で解消、再設定、増加、減少されます。

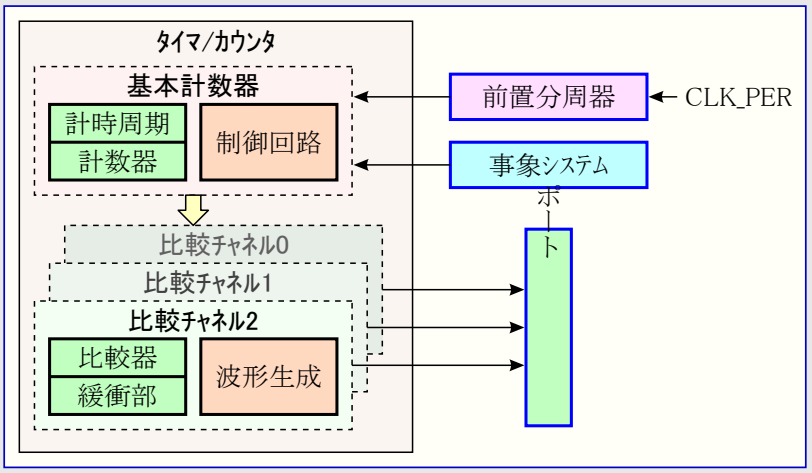
ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀは任意選択の前置分周を持つ周辺機能ｸﾛｯｸから、または事象ｼｽﾃﾑからｸﾛｯｸ駆動と計時をすることができます。事象ｼｽﾃﾑは方向制御または動作の同期にも使うことができます。

既定で、TCAは16ﾋﾞｯﾄ ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀです。このﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀは各々3つの比較ﾁｬﾈﾙを持つ2つの8ﾋﾞｯﾄ ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀに分割する分割動作機能を持ちます。使う動作形態に応じて、ﾚｼﾞｽﾀのｱﾄﾞﾚｽ付けや、ﾋﾞｯﾄ遮蔽と群構成設定の使用は以降のように、ﾚｼﾞｽﾀに対してTCAn.SINGLE.REGISTERまたはTCAn.SPLIT.REGISTER、ﾋﾞｯﾄ遮蔽と群構成設定の例としてTCA_SINGLE_CLKSEL_DIV1_gcまたはTCA_SPLIT_CLKSEL_DIV1_gcのどちらかとして行われます。

本章でﾚｼﾞｽﾀはTCAn.REGISTERとしてｱﾄﾞﾚｽ付けされます。

下図は密接に関連する(青枠の(**訳注**:原書は灰色の))周辺機能単位部を伴う16ﾋﾞｯﾄ ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀの構成図を示します。

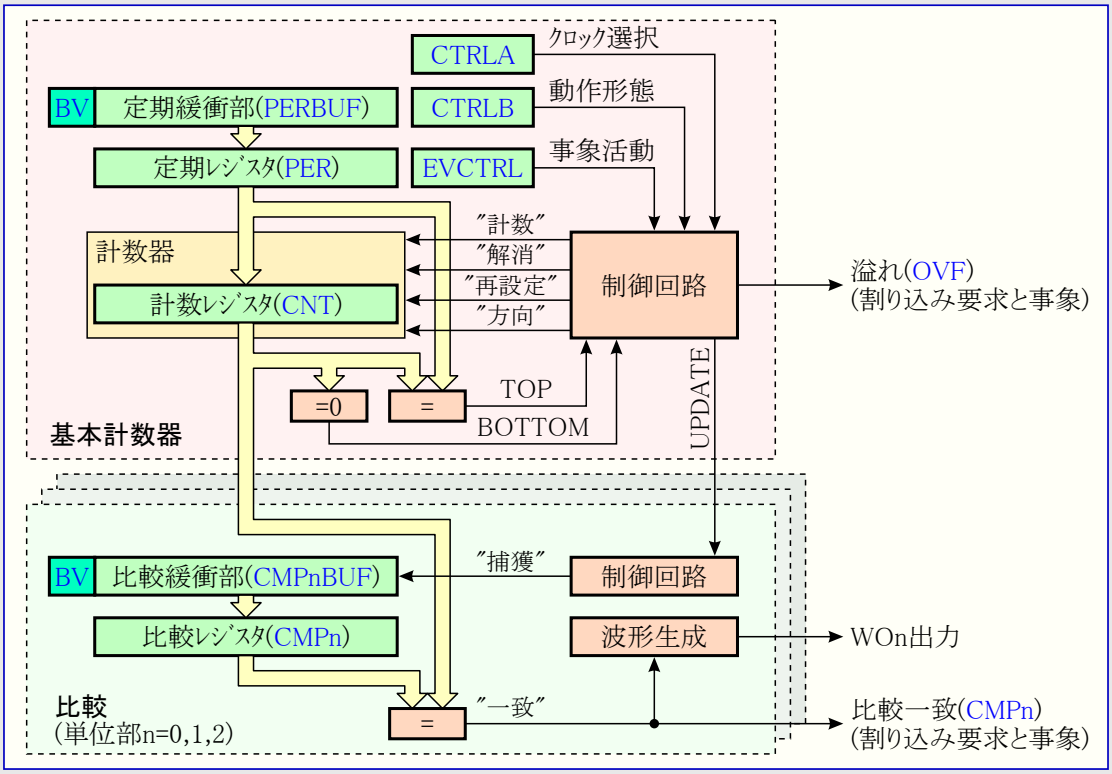
図21-1. 16ﾋﾞｯﾄ ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀと密接に関連する周辺機能



21.2.1. 構成図

下図はこのタイマ/カウンタの詳細な構成図を示します。

図21-2. タイマ/カウンタ構成図



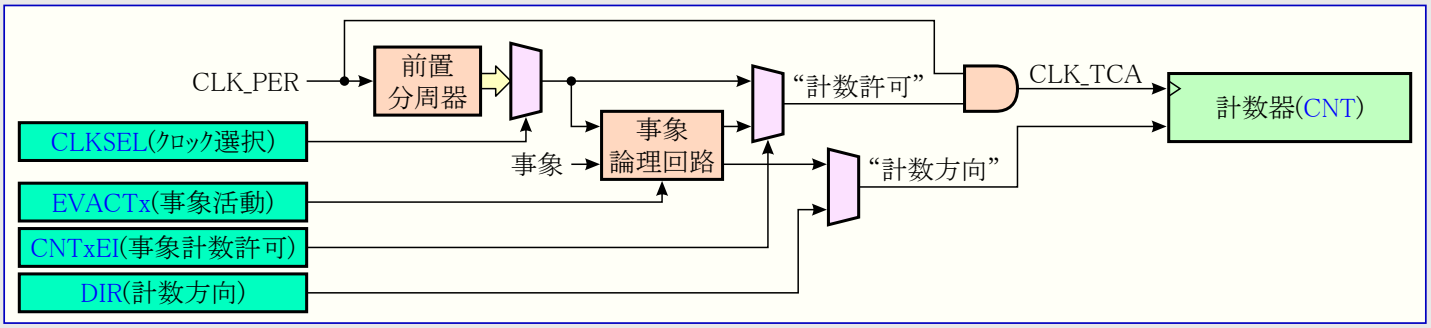
計数(TCAn.CNT)レジスタ、定期と比較(TCAn.PERとTCAn.CMPn)のレジスタ、それらに対応する(TCAn.PERBUFとTCAn.CMPnBUF)の緩衝レジスタは16ビット レジスタです。全ての緩衝レジスタは緩衝部が新しい値を含む時を示す緩衝有効(BV)フラグを持ちます。

標準動作の間、計数器値は計数器がTOPまたはBOTTOMに達したかどうかを決めるために0と定期(PER)値と継続的に比較されます。計数器値はTCAn.CMPnレジスタとも比較されます。

タイマ/カウンタは割り込み要求、事象を生成したり、計数器(TCAn.CNT)レジスタがTOP、BOTTOM、またはCMPnに達することによって起動された後に波形出力を変更することができます。起動後、割り込み要求、事象、波形出力変更は次のCLK_TCA周期で起こります。

下図で示されるように、CLK_TCAは前置分周された周辺機能クロックか、または事象システムからの事象のどちらかです。

図21-3. タイマ/カウンタ クロック論理回路



21.2.2. 信号説明

信号	形式	説明
WOn	デジタル出力	波形出力

21.3. 機能的な説明

21.3.1. 定義

以下の定義は文書全体を通して使われます。

表21-1. タイマ/カウンタ定義

名称	説明
BOTTOM	計数器が底(BOTTOM)に到達し、それが$0000になる時
MAX	計数器が最大(MAXimum)に到達し、それが全て1になる時
TOP	計数器が頂上(TOP)に到達し、それが計数の流れで最高値と等しくなる時
UPDATE	更新条件一致、波形生成動作に依存してタイマ/カウンタがBOTTOMまたはTOPに到達する時。有効な緩衝値を持つ緩衝されるレジスタは制御E(TCAn.CTRLE)レジスタの更新施錠(LUPD)ビットが設定(1)されていない限り更新されます。
CNT	計数器レジスタ値
CMP	比較レジスタ値
PER	定期(周期)レジスタ値

一般的に用語の計時器はタイマ/カウンタが周期的クロック刻みを計数する時に使われます。用語の計数器は入力信号が散発的または不規則なクロック刻みを持つ時に使われます。後者は事象計数時の場合に有り得ます。

21.3.2. 初期化

基本動作でタイマ/カウンタの使用を開始するには以下のようにこれらの手順に従ってください。

1. 定期(TCAn.PER)レジスタにTOP値を書いてください。
2. 制御A(TCAn.CTRLA)レジスタの許可(ENABLE)ビットに'1'を書くことによって周辺機能を許可してください。計数器はTCAn.CTRLAレジスタのクロック選択(CLKSEL)ビット領域で設定した前置分周器に従ったクロック刻みの計数を開始します。
3. 任意選択: 事象制御(TCAn.EVCTRL)レジスタの事象入力での計数器事象入力A許可(CNTAEI)ビットに'1'を書くことにより、クロック刻みに代わって事象が計数されます。
4. 計数値は計数(TCAn.CNT)レジスタの計数(CNT)ビット領域から読むことができます。

21.3.3. 動作

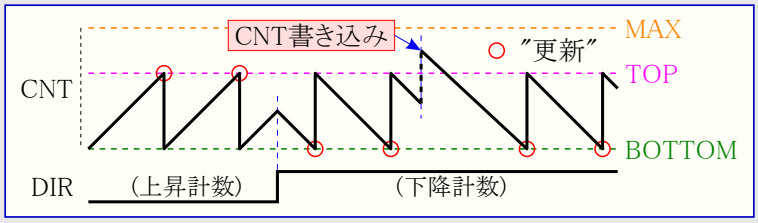
21.3.3.1. 標準動作

標準動作では計数器がTOPまたはBOTTOMに達するまで、制御E(TCAn.CTRLE)レジスタの方向(DIR)ビットによって選ばれる方向でクロック刻みを計数します。制御A(TCAn.CTRLA)レジスタのクロック選択(CLKSEL)ビット領域に従って前置分周した周辺機能クロック(CLK_PER)がクロック刻みを与えます。

計数器が上昇計数中にTOPに達すると、計数器は次のクロック刻みで'0'に丸められます。下降計数時、計数器はBOTTOMに達した時に定期(TCAn.PER)レジスタ値で再設定されます。

計数器が走行している時に計数(TCAn.CNT)レジスタの計数値を変更することが可能です。TCAn.CNTレジスタへの書き込みアクセスは計数、解消、再設定よりも高い優先権を持ち、直ちに行われます。計数器の方向はTCAn.CTRLEレジスタのDIRビットに書くことによって標準動作の間でも変更することができます。

図21-4. 標準動作



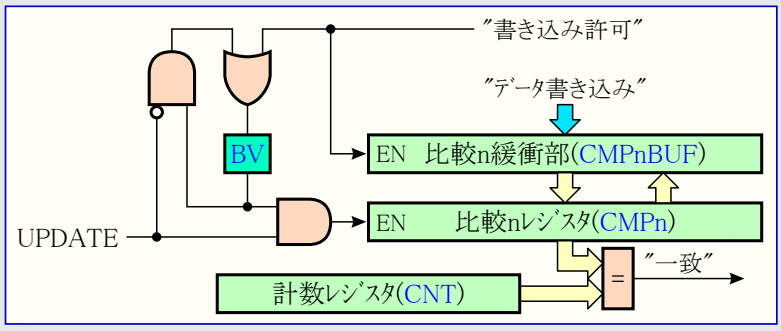
21.3.3.2. 2重緩衝

定期(TCAn.PER)レジスタ値と比較n(TCAn.CMPn)レジスタ値は全て2重緩衝(TCAn.PERBUFとTCAn.CMPnBUF)されます。

各々の緩衝レジスタは緩衝レジスタが対応する定期または比較のレジスタ内に複写することができる有効な(新しい)値を含むことを示す、制御F(TCAn.CTRLF)レジスタ内の緩衝有効(BV)フラグ(PERBVとCMPnBV)を持ちます。定期レジスタと比較nレジスタが比較動作に使われる時に、BVフラグはデータが緩衝レジスタに書かれる時に設定(1)され、UPDATE条件で解除(0)されます。この図は比較レジスタに関して示します。

TCAn.CMPnとTCAn.CMPnBUFのレジスタはI/Oレジスタとして利用可能で、緩衝レジスタの初期化と迂回、2重緩衝機能を許します。

図21-5. 定期と比較の2重緩衝

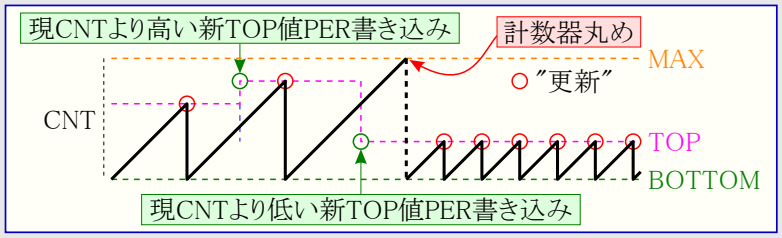


21.3.3.3. 周期変更

計数器の周期は新しいTOP値を定期(TCAn.PER)ﾚｼﾞｽﾀへ書くことによって変更されます。

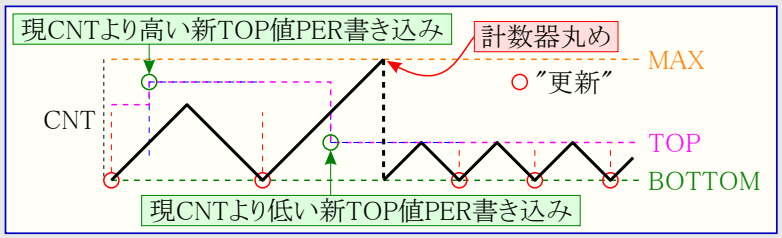
緩衝なし：2重緩衝を使わない場合、どんな周期変更も直ちに行われます。

図21-6. 緩衝なし周期変更



計数(TCAn.CNT)と定期(TCAn.PER)のﾚｼﾞｽﾀが継続的に比較されるため、計数器丸めは緩衝なしでの上昇計数時のどの動作形態でも起こり得ます。現在のTCAn.CNTよりも低い新しいTOP値をTCAn.PERに書く場合、計数器は比較一致が起こるのに先立って先に丸めを行うでしょう。

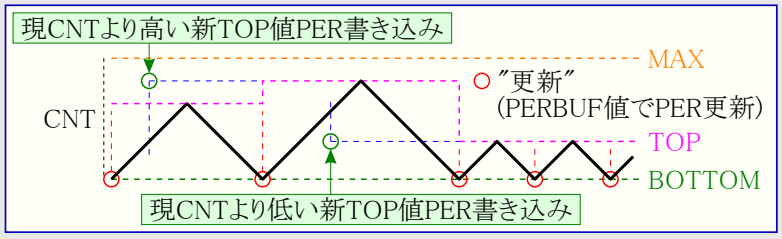
図21-7. 緩衝なし2傾斜動作



緩衝有り：2重緩衝を使うと、緩衝部は何時でも書けて、未だ正しい動作を維持します。右図の2傾斜動作に対して示されるように、定期(TCAn.PER)ﾚｼﾞｽﾀは常に"更新"(UPDATE)条件で更新されます。これは丸めと奇数波形の生成を防ぎます。

注: 他に指定されない場合、TCA動作を示す図では緩衝が使われます。

図21-8. 緩衝使用周期変更



21.3.3.4. 比較ﾁｬﾈﾙ

各比較nﾁｬﾈﾙは計数器(TCAn.CNT)値を比較n(TCAn.CMPn)ﾚｼﾞｽﾀと継続的に比較します。TCAn.CNTとTCAn.CMPnが等しい場合、比較器は一致を合図します。この一致は次の計時器ｸﾛｯｸ周期で比較ﾁｬﾈﾙの割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(INTFLAGS.CMPn)を設定(1)し、任意選択の割り込みが生成されます。

比較n緩衝(TCAn.CMPnBUF)ﾚｼﾞｽﾀは定期緩衝(TCAn.PERBUF)ﾚｼﾞｽﾀのものと等価な能力を持つ2重緩衝を提供します。2重緩衝はUPDATE条件に従って、計数の流れのTOPまたはBOTTOMのどちらかに対して緩衝値でのTCAn.CMPnﾚｼﾞｽﾀの更新を同期化します。同期化は不具合なしの出力のために奇数長の発生、非対称ﾊﾟﾙｽを防ぎます。

CMPnBUFの値はUPATE条件でCMPnに移動され、次の計数から計数器(TCAn.CNT)値と比較されます。

21.3.3.4.1. 波形生成

比較ﾁｬﾈﾙは対応するﾎﾟｰﾄ ﾋﾟﾝでの波形生成に使うことができます。接続されたﾎﾟｰﾄ ﾋﾟﾝで波形を見ることができるようにするには、以下の必要条件が完全に満たされなければなりません。

1. 制御B(TCAn.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの波形生成動作(WGMODE)ﾋﾞｯﾄ領域を書くことによって波形設定動作形態が選ばれなければなりません。
2. 使われる比較ﾁｬﾈﾙが許可(TCAn.CTRLBﾚｼﾞｽﾀの比較n許可(CMPnEN)=1に)されなければならず、これは対応するﾋﾟﾝに対する出力値を指定変更します。代替ﾋﾟﾝはﾎﾟｰﾄ多重器(PORTMUX)を構成設定することによって選ぶことができます。詳細については「PORTMUX - ﾎﾟｰﾄ多重器」章を参照してください。
3. 連携するﾎﾟｰﾄ ﾋﾟﾝに対する方向は出力としてﾎﾟｰﾄ周辺機能で構成設定されなければなりません。
4. 任意選択: 連携するﾎﾟｰﾄ ﾋﾟﾝに反転波形出力を許可してください。詳細については「PORT - I/Oﾋﾟﾝ構成設定」章を参照してください。

注: 標準動作では利用可能な波形出力はWO0～2だけです。WO3～5を使うには分割動作が許可されなければなりません。

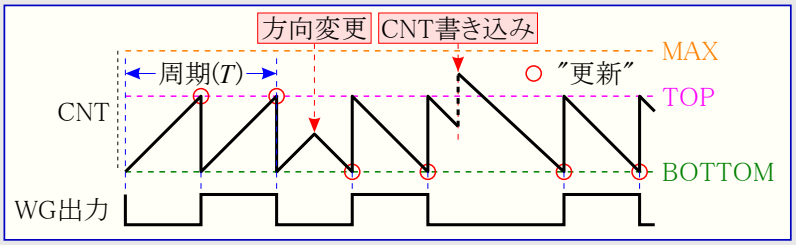
21.3.3.4.2. 周波数(FRQ)波形生成

周波数生成に関して、周期(T)は定期(TCAn.PER)ﾚｼﾞｽﾀに代わって比較0(TCAn.CMP0)ﾚｼﾞｽﾀによって制御されます。対応する波形生成(WG)出力はTCAn.CNTとTCAn.CMPnのﾚｼﾞｽﾀ間の各比較一致で交互切り替えされます。

次式は波形周波数(f_{FRQ})を定義します。

$$f_{FRQ} = \frac{f_{CLK_PER}}{2N(CMPn+1)}$$

図21-9. 周波数波形生成



ここでNは使われる前置分周数(制御A(TCAn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのｸﾛｯｸ選択(CLKSEL)ﾋﾞｯﾄ領域参照)を表し、f_{CLK_PER}は周辺機能ｸﾛｯｸ周波数です。

生成される波形の最大周波数はTCAn.CMP0ﾚｼﾞｽﾀが0($0000)を書かれて前置分周が全く使われない(TCAn.CTRLAのCLKSEL=0、N=1の)時に周辺機能ｸﾛｯｸ周波数(f_{CLK_PER})の半分です。

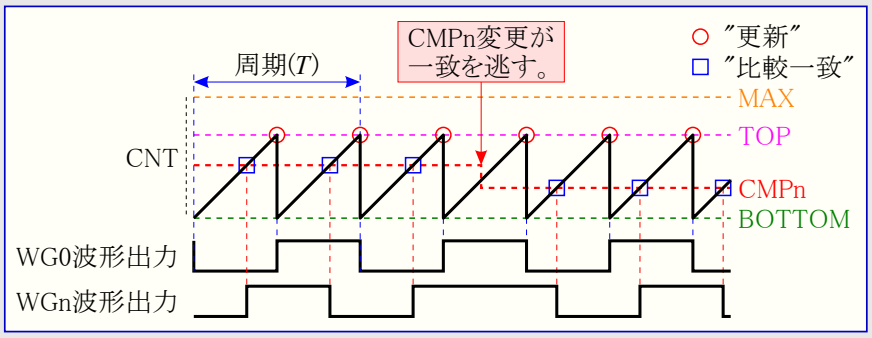
追加の波形出力WOnを得るにはTCAn.CMP1とTCAn.CMP2のﾚｼﾞｽﾀを使ってください。波形WOnは同一またはWO0に対する変位のどちらかで有り得ます。この変位はTCAn.CMPn、TCAn.CNT、計数方向によって動かすことができます。秒での変位(t_{Offset})は下表の式を使って計算することができます。この式はCMPn<CMP0の時にだけ有効です。

表21-2. 変位式概要

式	計数方向	CMPn対CNTの状態	変位
$t_{Offset} = \left(\frac{CMP0 - CMPn}{CMP0+1}\right)\left(\frac{T}{2}\right)$	上昇	CMPn≧CNT	WO0に先行するWOn
	下降	CMP0≦CNT	WO0に後行するWOn
		CMP0＞CNTでCMPn＞CNT	WO0に後行するWOn
$t_{Offset} = \left(\frac{CMPn+1}{CMP0+1}\right)\left(\frac{T}{2}\right)$	上昇	CMP0＜CNT	WO0に後行するWOn
	下降	CMP0≦CNT	WO0に先行するWOn

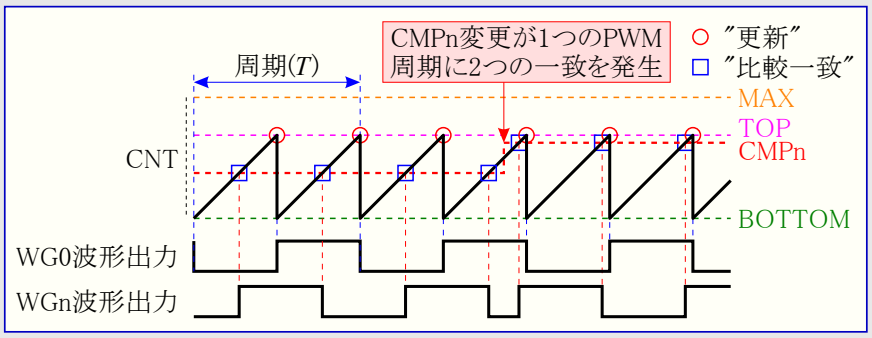
右図は両式を使うことができるWOn用の先行と後行の変位を示します。正しい式は計数方向と計時器が許可される、またはCMPnが変更される時のCMPn対CNTの状態によって決められます。

図21-10. 上昇計数時の変位



右図は走行時中のCMPn変更が波形をどう反転し得るかを示します。

図21-11. 波形出力反転



21.3.3.4.3. 単一傾斜PWM生成

単一傾斜PWM生成に関して、TCAn.PERレジスタが周期(*T*)を制御する一方で、TCAn.CMPnレジスタ値は生成する波形のデューティ サイクルを制御します。下図は計数器がどうBOTTOMからTOPへ計数し、その後にBOTTOMから再開するかを示します。波形生成器出力はBOTTOMで設定(1)され、TCAn.CNTとTCAn.CMPnのレジスタ間の比較一致で解除(0)されます。

CMPn=BOTTOMはWOnで静的なLow信号を生じ、一方でCMPn>TOPはWOnで静的なHigh信号を生じます。

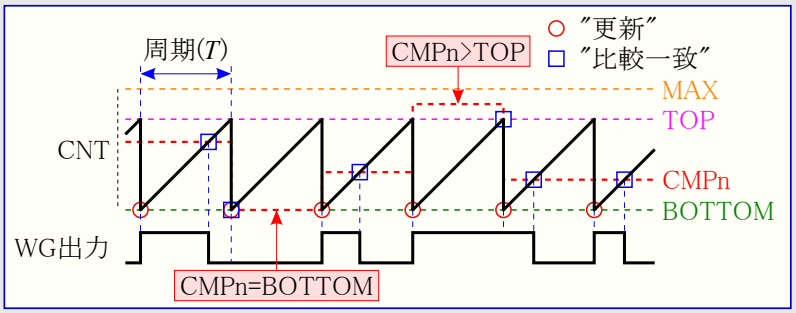
定期(TCAn.PER)レジスタはPWM分解能を定義します。最小分解能は2ビット(TCAn.PER=$0003)で、最大分解能は16ビット(TCAn.PER=MAX)です。

次式は単一傾斜PWMに対するビットでの正確な分解能(R_{PWM_SS})を計算します。

$$R_{PWM_SS} = \frac{\log(PER+1)}{\log(2)}$$

単一傾斜PWM周波数(f_{PWM_SS})は周期設定(TCAn.PER)、周辺機能クロック周波数(f_{CLK_PER})、TCA前置分周器(TCAn.CTRLAレジスタのCLKSELビット領域)に依存します。それは使う前置分周数を*N*が表す右式によって計算されます。

図21-12. 単一傾斜パルス幅変調



注: ・上図表現はCMPnがCMPnBUFを使い更新される時に有効です。
・単一傾斜PWM生成に対して下降計数は支援されません。

$$f_{PWM_SS} = \frac{f_{CLK_PER}}{N(PER+1)}$$

21.3.3.4.4. 2傾斜PWM生成

2傾斜PWM生成に関して、定期(TCAn.PER)レジスタが周期(*T*)を制御する一方で、比較n(TCAn.CMPn)レジスタ値は波形生成(WG)出力のデューティ サイクルを制御します。

下図は2傾斜PWMに対して計数器がBOTTOMからTOPへそしてその後にTOPからBOTTOMへどう繰り返し計数するかを示します。波形生成器出力はBOTTOMで設定(1)され、上昇計数時の比較一致で解除(0)され、下降計数時の比較一致で設定(1)されます。

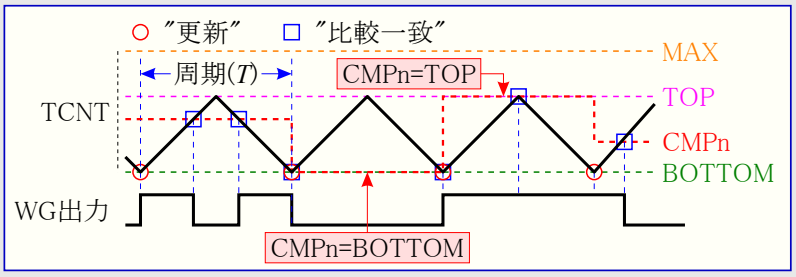
CMPn=BOTTOMはWOnで静的なLow信号を生じ、一方でCMPn=TOPはWOnで静的なHigh信号を生じます。

定期(TCAn.PER)レジスタはPWM分解能を定義します。最小分解能は2ビット(TCAn.PER=$0003)で、最大分解能は16ビット(TCAn.PER=MAX)です。

次式は2傾斜PWMに対する正確な分解能(R_{PWM_DS})を計算します。

$$R_{PWM_DS} = \frac{\log(PER+1)}{\log(2)}$$

図21-13. 2傾斜パルス幅変調



注: 上図表現はCMPnがCMPnBUFを使って更新される時に有効です。

PWM周波数(f_{PWM_DS})はTCAn.PERレジスタでの周期設定、周辺機能クロック周波数(f_{CLK_PER})、TCAn.CTRLAレジスタのCLKSELビット領域で選ばれる前置分周器に依存します。それは右式によって計算することができます。

$$f_{PWM_DS} = \frac{f_{CLK_PER}}{2N \times PER}$$

ここで*N*は使う前置分周数を表します。

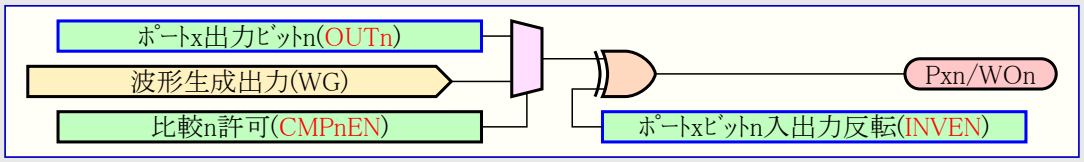
2傾斜PWMの使用は単一傾斜PWM動作と比較して周期毎に倍の計時器増加数のため、概ね半分の最大動作周波数になります。

21.3.3.4.5. 波形生成に関するポート無効化

ポート ピンで利用可能な波形生成を行うには、対応するポート ピンの方向が出力として設定(方向(PORTx.DIR)レジスタの方向(DIRn)=1に)されなければなりません。TCAは比較チャネルが許可(制御B(TCAn.CTRLB)レジスタの比較n許可(CMPnEN)=1に)され、波形生成動作が選ばれる時にポート ピン値を覆します。

下図はTCAに関するポート無効化を示します。タイマ/カウンタ比較チャネルは対応するポート ピン(Pxn)でのポート ピン出力値(PORTx.OUTレジスタのOUTn)を無効にします。ポート ピンでの反転I/O許可(PORTx.PINnCTRLレジスタのINVEN=1)は対応するWG出力を反転します。

図21-14. タイマ/カウンタA型に関するポート無効化



21.3.3.5. タイマ/カウンタ指令

周辺機能の状態を直ちに変更するために、ソフトウェアによって1組の指令を発行することができます。これらの指令は更新、再始動、リセットの信号の直接制御を与えます。指令は制御E設定(TCAn.CTRLESET)レジスタの指令(CMD)ビット領域に各々の値を書くことによって発行されます。

更新(UPDATE)指令はUPDATE指令が制御E(TCAn.CTRLESET/CLR)レジスタの更新施錠(LUPD)ビットの状態によって影響を及ぼされないことを除き、更新条件が起こる時と同じ効果を持ちます。

ソフトウェアは再始動(RESTART)指令を発行することによって現在の波形周期の再始動を強制することができます。この場合は計数器と全ての波形出力が'0'に設定されます。

リセット(RESET)指令は全てのタイマ/カウンタ レジスタをそれらの初期値に設定します。RESET指令はタイマ/カウンタが走行していない(TCAn.CTRLAレジスタの許可(ENABLE)=0の)時にだけ発行することができます。

21.3.3.6. 分割動作 – 2つの8ビット タイマ/カウンタ

分割動作概要

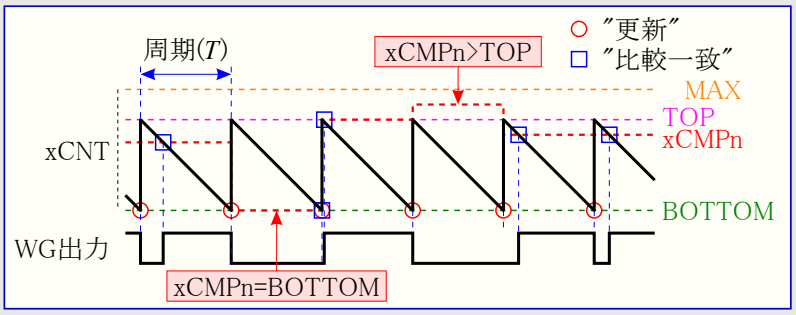
分割動作はTCAで計時器とPWMチャネルの数を倍にするために提供されます。この分割動作では、各々がPWM生成用に3つの比較チャネルを持つ2つの独立した8ビット計時器として働きます。分割動作は単一傾斜下降計数でだけ動きます。事象で制御される操作は分割動作で支援されません。

右図は分割動作での単一傾斜PWM生成を示します。波形生成部出力はBOTTOMで解除(0)され、計数器値(TCAn.xCNT)と比較n(TCAn.xCMPn)のレジスタ間の比較一致で設定(1)です。

CMPn=BOTTOMやCMPn>TOPはWOnでの固定Low信号を生じます。

分割動作の有効化はいくつかのレジスタとレジスタ ビットの機能を変更します。この変更は独立したレジスタ割り当てで記述されます(「21.6. レジスタ要約 – 分割動作」をご覧ください)。

図21-15. 分割動作での単一傾斜パルス幅変調



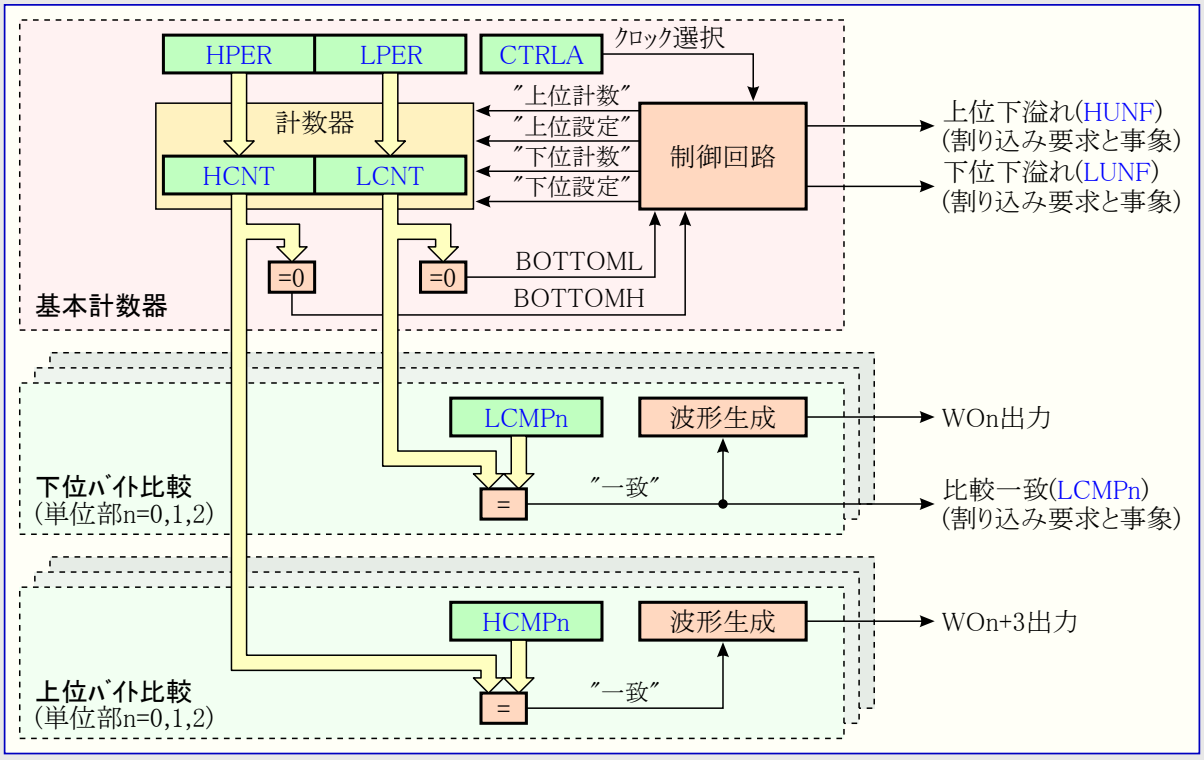
注: 波形出力の最大デューティ サイクルはTOP/(TOP+1)です。

標準動作と比べた分割動作の違い

- 計数
  - 下降計数専用
  - 下位バイト タイマ/カウンタ(TCAn.LCNT)レジスタと上位バイト タイマ/カウンタ(TCAn.HCNT)レジスタは独立です。
- 波形生成
  - 単一傾斜PWM専用(TCAn.CTRLBレジスタのWGMODE=SINGLESLOPE)
- 割り込み
  - 下位バイト タイマ/カウンタ(TCAn.LCNT)レジスタに対する変更なし
  - 上位バイト タイマ/カウンタ(TCAn.HCNT)レジスタに対する下溢れ割り込み
  - 比較n上位バイト(TCAn.HCMPn)レジスタに対する比較割り込みと割り込み要求フラグなし
- 事象活動：不適合
- 緩衝レジスタと緩衝有効フラグ：不使用
- レジスタ アクセス：全てのレジスタに対してバイト アクセス

構成図

図21-13. タイマ/カウンタ構成図 – 分割動作



分割動作初期化

標準動作と分割動作の間を移る時に、いくつのレジスタとビットの機能が変わりますが、それらの値は変わりません。この理由のため、予期せぬ動きを避けるため、動作を変更する時に周辺機能を禁止(TCAn.CTRLAレジスタのENABLE=0)して、ハードリセット(制御E設定(TCAn.CTRLESET)レジスタの指令(CMD)=RESET)を行うことが推奨されます。

ハードリセット後に基本的な分割動作でタイマ/カウンタの使用を開始するには、以下のこれらの手順に従ってください。

1. 制御D(TCAn.CTRLD)レジスタの分割動作許可(SPLITM)ビットに'1'を書くことによって分割動作を許可してください。
2. 定期(TCAn.H/LPER)レジスタにTOP値を書いてください。
3. 制御A(TCAn.CTRLA)レジスタの許可(ENABLE)ビットに'1'を書くことによって周辺機能を許可してください。計数器はTCAn.CTRLAレジスタのクロック選択(CLKSEL)ビット領域に従ってクロック刻みを計数します。
4. 計数器値は計数(TCAn.H/LCNT)レジスタの計数(H/LCNT)ビット領域から読むことができます。

分割動作の有効化はいくつかのレジスタとレジスタ ビットの機能の変更に帰着します。この変更は分離したレジスタ配置で記述されます。

21.3.4. 事象

TCAは下表で記述される事象を生成することができます。TCAn_HUNFを除く全ての生成部は標準動作と分割動作の操作間で共有されます。生成部名は生成部が各動作で次のように表す特定信号を示します。標準動作での溢れと分割動作での下位バイト下溢れに対応するOVF_LUNF。同じことがCMPn_LCMPnに適用されます。

表21-3. TCAでの事象生成部

生成部名		説明	事象型	生成クロック領域	事象長
周辺機能	事象				
TCAn	OVF_LUNF	標準動作: 溢れ 分割動作: 下位バイト計時器下溢れ	パルス	CLK_PER	1 CLK_PER周期
	HUNF	標準動作: 利用不可 分割動作: 上位バイト計時器下溢れ			
	CMP0_LCMP0	標準動作: 比較チャネル0一致 分割動作: 下位バイト計時器比較チャネル0一致			
	CMP1_LCMP1	標準動作: 比較チャネル1一致 分割動作: 下位バイト計時器比較チャネル1一致			
	CMP2_LCMP2	標準動作: 比較チャネル2一致 分割動作: 下位バイト計時器比較チャネル2一致			

注: 事象生成の条件は標準動作と分割動作の両方に対して割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(TCAn.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀで対応する割り込み要求ﾌﾗｸﾞを掲げるそれらと同じです。

TCAは入力事象での検出と活動のために2つの事象使用部を持ちます。下表は事象使用部とそれらの関連機能を記述します。

表21-4. TCAでの事象使用部

使用部名		説明	入力検出	同期/非同期
周辺機能	入力			
TCAn	CNTA	正事象端で計数	端	同期
		両事象端で計数		
		事象信号がHighの間計数	レベル	
		事象ﾚﾍﾞﾙが計数方向を制御、Lowの時に上昇、Highの時に下降		
	CNTB	事象ﾚﾍﾞﾙが計数方向を制御、Lowの時に上昇、Highの時に下降		
		正事象端で計数器再始動	端	
		両事象端で計数器再始動		
		事象信号がHighの間再始動	レベル	

上表で記述される特定の活動は事象制御(TCAn.EVCTRL)ﾚｼﾞｽﾀの事象活動(EVACTA、EVACTB)ﾋﾞｯﾄに書くことによって選ばれます。入力事象はTCAn.EVCTRLの事象入力での計数許可(CNTAEI、CNTBEI)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって許可されます。

EVACTAとEVACTBの両方が計数方向を制御するように構成設定される場合、事象信号は計数方向を決めるために論理和(OR)されます。そのため上向きに計数するには計数器に対して両事象入力がLow('0')でなければなりません。

注: 1. 事象入力は分割動作で使われません。

2. ﾚﾍﾞﾙ入力検出での事象活動は事象周波数が計時器の周波数未満の場合にだけ確実に動きます。

事象型と事象ｼｽﾃﾑ構成設定に関するより多くの詳細については「EVSYS - 事象ｼｽﾃﾑ」章を参照してください。

21.3.5. 割り込み

表21-5. 標準動作で利用可能な割り込みﾍﾞｸﾀと供給元

名称	ﾍﾞｸﾀ説明	条件
OVF	溢れ割り込み	計数器がTOPまたはBOTTOMに到達
CMP0	比較ﾁｬﾈﾙ0割り込み	計数器値と比較0ﾚｼﾞｽﾀ間の一致
CMP1	比較ﾁｬﾈﾙ1割り込み	計数器値と比較1ﾚｼﾞｽﾀ間の一致
CMP2	比較ﾁｬﾈﾙ2割り込み	計数器値と比較2ﾚｼﾞｽﾀ間の一致

表21-6. 分割動作で利用可能な割り込みﾍﾞｸﾀと供給元

名称	ﾍﾞｸﾀ説明	条件
LUNF	下位ﾊﾞｲﾄ下溢れ割り込み	下位ﾊﾞｲﾄ計時器がBOTTOMに到達
HUNF	上位ﾊﾞｲﾄ下溢れ割り込み	上位ﾊﾞｲﾄ計時器がBOTTOMに到達
LCMP0	比較ﾁｬﾈﾙ0割り込み	計数器値と下位ﾊﾞｲﾄ比較0ﾚｼﾞｽﾀ間の一致
LCMP1	比較ﾁｬﾈﾙ1割り込み	計数器値と下位ﾊﾞｲﾄ比較1ﾚｼﾞｽﾀ間の一致
LCMP2	比較ﾁｬﾈﾙ2割り込み	計数器値と下位ﾊﾞｲﾄ比較2ﾚｼﾞｽﾀ間の一致

割り込み条件が起こると、周辺機能の割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(TCAn.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀで対応する割り込み要求ﾌﾗｸﾞが設定(1)されます。

割り込み元は周辺機能の割り込み制御(TCAn.INTCTRL)ﾚｼﾞｽﾀで対応する許可ﾋﾞｯﾄを書くことによって許可または禁止にされます。

割り込み要求は対応する割り込み元が許可され、割り込み要求ﾌﾗｸﾞが設定(1)される時に生成されます。割り込み要求は割り込み要求ﾌﾗｸﾞが解除(0)されるまで活性に留まります。割り込み要求ﾌﾗｸﾞを解除する方法の詳細については周辺機能のINTFLAGSﾚｼﾞｽﾀをご覧ください。

21.3.6. 休止形態動作

TCAは既定でｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作に於いて禁止されます。休止動作に入ると直ぐに停止されます。この単位部は制御A(TCAn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのｽﾀﾝﾊﾞｲ時走行(RUNSTDBY)ﾋﾞｯﾄが'1'を書かれる場合にｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作で完全な動作に留まることができます。

全ての動作はﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝ休止動作で停止します。

21.4. レジスタ要約 – 標準動作

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00	CTRLA	7～0	RUNSTDBY				CLKSEL2~0			ENABLE
+$01	CTRLB	7～0		CMP2EN	CMP1EN	CMP0EN	ALUPD	WGMODE2~0		
+$02	CTRLC	7～0						CMP2OV	CMP1OV	CMP0OV
+$03	CTRLD	7～0								SPLITM
+$04	CTRLECLR	7～0					CMD1,0		LUPD	DIR
+$05	CTRLESET	7～0					CMD1,0		LUPD	DIR
+$06	CTRLFCLR	7～0					CMP2BV	CMP1BV	CMP0BV	PERBV
+$07	CTRLFSET	7～0					CMP2BV	CMP1BV	CMP0BV	PERBV
+$08	予約									
+$09	EVCTRL	7～0	EVACTB2~0			CNTBEI	EVACTA2~0			CNTAEI
+$0A	INTCTRL	7～0		CMP2	CMP1	CMP0				OVF
+$0B	INTFLAGS	7～0		CMP2	CMP1	CMP0				OVF
+$0C ～ +$0D	予約									
+$0E	DBGCTRL	7～0								DBGRUN
+$0F	TEMP	7～0	TEMP7~0							
+$10 ～ +$1F	予約									
+$20	CNT	7～0	CNT7~0							
+$21		15～8	CNT15~8							
+$22 ～ +$25	予約									
+$26	PER	7～0	PER7~0							
+$27		15～8	PER15~8							
+$28	CMP0	7～0	CMP7~0							
+$29		15～8	CMP15~8							
+$2A	CMP1	7～0	CMP7~0							
+$2B		15～8	CMP15~8							
+$2C	CMP2	7～0	CMP7~0							
+$2D		15～8	CMP15~8							
+$2E ～ +$35	予約									
+$36	PERBUF	7～0	PERBUF7~0							
+$37		15～8	PERBUF15~8							
+$38	CMP0BUF	7～0	CMPBUF7~0							
+$39		15～8	CMPBUF15~8							
+$3A	CMP1BUF	7～0	CMPBUF7~0							
+$3B		15～8	CMPBUF15~8							
+$3C	CMP2BUF	7～0	CMPBUF7~0							
+$3D		15～8	CMPBUF15~8							

21.5. レジスタ説明 – 標準動作

21.5.1. CTRLA – 制御A (Control A) – 標準/分割動作共通

名称 : CTRLA
変位 : +$00
リセット : $00
特質 : –

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
	RUNSTDBY				CLKSEL2~0			ENABLE
アクセス種別	R/W	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット7 – RUNSTDBY : スタンバイ時走行** (Run Standby)

このビットへの'1'書き込みはこの周辺機能にスタンバイ休止動作での走行を許します。

● **ビット3~1 – CLKSEL2~0 : クロック選択** (Clock Select)

これらのビットはタイマ/カウンタに対するクロック周波数を選びます。

値	0 0 0	0 0 1	0 1 0	0 1 1	1 0 0	1 0 1	1 1 0	1 1 1
名称	DIV1	DIV2	DIV4	DIV8	DIV16	DIV64	DIV256	DIV1024
説明 (f_{TCA}=)	f_{CLK_PER}	$f_{CLK_PER}/2$	$f_{CLK_PER}/4$	$f_{CLK_PER}/8$	$f_{CLK_PER}/16$	$f_{CLK_PER}/64$	$f_{CLK_PER}/256$	$f_{CLK_PER}/1024$

● **ビット0 – ENABLE : 許可** (Enable)

値	0	1
説明	周辺機能は禁止されます。	周辺機能は許可されます。

21.5.2. CTRLB – 制御B (Control B) – 標準動作

名称 : CTRLB
変位 : +$01
リセット : $00
特質 : –

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
		CMP2EN	CMP1EN	CMP0EN	ALUPD	WGMODE2~0		
アクセス種別	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット6~4 – CMPnEN : 比較n許可** (Compare n Enable)

FRQ(周波数)とPWMの波形生成動作で比較n許可(CMPnEN)ビットはWOnに対応するピンでの波形出力を利用可能にします。

値	0	1
説明	波形出力WOnは対応するピンで利用できません。	波形出力WOnは対応するピンの出力値を無効にします。

● **ビット3 – ALUPD : 更新自動施錠** (Auto Lock Update)

更新自動施錠ビットは制御E(TCAn.CTRLE)レジスタの更新施錠(LUPD)ビットを制御します。ALUPDが'1'を書かれると、全ての許可された比較チャネルの緩衝部有効(CMPnBV)ビットが'1'になるまでLUPDビットが'1'に設定されます。(前行の)この条件がLUPDを解除(0)します。

これは緩衝値が比較n(CMPn)レジスタに転送され、LUPDビットが再び'1'に設定される後続するUPDATE条件まで解除(0)に留まります。これは許可された全ての比較緩衝部が書かれるまで、比較n緩衝(CMPnBUF)レジスタ値がCMPnレジスタに転送されないことを保証します。

値	0	1
説明	TCAn.CTRLEレジスタのLUPDビットは自動的に変えられません。	TCAn.CTRLEレジスタのLUPDビットは自動的に設定(1)/解除(0)されます。

● **ﾋﾞｯﾄ2~0 – WGMODE2~0 : 波形生成動作** (Waveform Generation Mode)

このﾋﾞｯﾄ領域は波形生成動作を選び、計数器の計数進行、TOP値、UPDATE条件、割り込み条件、生成される波形の形式を制御します。

標準形態の動作では波形生成が全く実行されません。他の全ての動作形態に対して対応する比較n許可(CMPnEN)ﾋﾞｯﾄを設定(1)する場合、波形生成部出力がﾎﾟｰﾄ ﾋﾟﾝに直結されるだけです。ﾎﾟｰﾄ ﾋﾟﾝの方向は出力として設定されなければなりません。

値		000	001	010	011	100	101	110	111
名称		NORMAL	FRQ	–	SINGLESLOPE	–	DSTOP	DSBOTH	DSBOTTOM
説明	動作	標準	周波数	(予約)	1傾斜PWM	(予約)	2傾斜PWM	2傾斜PWM	2傾斜PWM
	TOP	PER	CMP0	–	PER	–	PER	PER	PER
	更新	TOP(注)	TOP(注)	–	BOTTOM	–	BOTTOM	BOTTOM	BOTTOM
	OVF	TOP(注)	TOP(注)	–	BOTTOM	–	TOP	TOPとBOTTOM	BOTTOM

注: 上昇計数時

21.5.3. CTRLC – 制御C (Control C) – 標準動作

名称 : CTRLC
変位 : +$02
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
						CMP2OV	CMP1OV	CMP0OV
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ2 – CMP2OV : 比較2出力値** (Compare Output Value 2)

CMP0OVをご覧ください。

● **ﾋﾞｯﾄ1 – CMP1OV : 比較1出力値** (Compare Output Value 1)

CMP0OVをご覧ください。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – CMP0OV : 比較0出力値** (Compare Output Value 0)

CMPnOVﾋﾞｯﾄはﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀが許可されない時に波形生成(WG)部の出力値への直接ｱｸｾｽを許します。これはﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀが走行していない時にWG出力値を設定(1)または解除(0)するのに使われます。

注: この出力をﾊﾟｯﾄﾞへ接続時、制御B(TCAn.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの比較n許可(CMPnEN)ﾋﾞｯﾄが設定(1)されない限り、これらのﾋﾞｯﾄの指定変更は動きません。この出力をCCLへ接続時、TCAn.CTRLBﾚｼﾞｽﾀのCMPnENﾋﾞｯﾄは迂回されます。

21.5.4. CTRLD – 制御D (Control D) – 標準/分割動作共通

名称 : CTRLD
変位 : +$03
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
								SPLITM
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ0 – SPLITM : 分割動作許可** (Enalbe Split Mode)

このﾋﾞｯﾄはﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀを分割動作形態に設定し、2つの8ﾋﾞｯﾄ ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀとして動きます。標準16ﾋﾞｯﾄ動作と比べてﾚｼﾞｽﾀ割り当てが変わります。

21.5.5. CTRLECLR – 制御E解除 (Control Register E Clear) – 標準動作

名称 : CTRLECLR
変位 : +$04
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

そのﾋﾞｯﾄ位置に'1'を書くことによって個別ﾋﾞｯﾄを解除(0)するため、このﾚｼﾞｽﾀを読み-変更-書き(RMW)の代わりに使ってください。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
					CMD1,0		LUPD	DIR
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ3,2 – CMD1,0 : 指令** (Command)

このﾋﾞｯﾄ領域はﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀの更新、再始動、ﾘｾｯﾄのｿﾌﾄｳｪｱ制御に使われます。指令ﾋﾞｯﾄ領域は常に'0'として読みます。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	NONE	UPDATE	RESTART	RESET
説明	指令なし	強制更新	強制再始動	強制ﾊｰﾄﾞﾘｾｯﾄ (TCAが許可の場合は無効)

● **ﾋﾞｯﾄ1 – LUPD : 更新施錠** (Lock Update)

更新施錠は更新を実行するのに先立って全ての緩衝部が有効であることを保証するのに使うことができます。

値		1
説明	緩衝されるﾚｼﾞｽﾀはUPDATE条件が起こると直ぐに更新されます。	例えUPDATE条件が起きても、緩衝されるﾚｼﾞｽﾀの更新は実行されません。この設定は指令ﾋﾞｯﾄ領域によって発行される更新を妨げません。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – DIR : 計数方向** (Counter Direction)

通常、このﾋﾞｯﾄは波形生成動作または事象活動によってﾊｰﾄﾞｳｪｱで制御されますが、ｿﾌﾄｳｪｱからも変更することができます。

値	0	1
説明	計数器は上昇計数 (増加)	計数器は下降計数 (減少)

21.5.6. CTRLESET – 制御E設定 (Control Register E Set) – 標準動作

名称 : CTRLESET
変位 : +$05
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

そのﾋﾞｯﾄ位置に'1'を書くことによって個別ﾋﾞｯﾄを設定(1)するため、このﾚｼﾞｽﾀを読み-変更-書き(RMW)の代わりに使ってください。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
					CMD1,0		LUPD	DIR
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ3,2 – CMD1,0 : 指令** (Command)

このﾋﾞｯﾄ領域はﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀの更新、再始動、ﾘｾｯﾄのｿﾌﾄｳｪｱ制御に使われます。指令ﾋﾞｯﾄ領域は常に'0'として読みます。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	NONE	UPDATE	RESTART	RESET
説明	指令なし	強制更新	強制再始動	強制ﾊｰﾄﾞﾘｾｯﾄ (TCAが許可の場合は無効)

● **ﾋﾞｯﾄ1 – LUPD : 更新施錠** (Lock Update)

更新を施錠することは更新を実行するのに先立って全ての緩衝部が有効であることを保証します。

値		1
説明	緩衝されるﾚｼﾞｽﾀはUPDATE条件が起こると直ぐに更新されます。	例えUPDATE条件が起きても、緩衝されるﾚｼﾞｽﾀの更新は実行されません。この設定は指令ﾋﾞｯﾄ領域によって発行される更新を妨げません。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – DIR : 計数方向** (Counter Direction)

通常、このﾋﾞｯﾄは波形生成動作または事象活動によってﾊｰﾄﾞｳｪｱで制御されますが、ｿﾌﾄｳｪｱからも変更することができます。

値	0	1
説明	計数器は上昇計数 (増加)	計数器は下降計数 (減少)

21.5.7. CTRLFCLR – 制御F解除 (Control Register F Clear) – 標準動作専用

名称 : CTRLFCLR
変位 : +$06
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

そのﾋﾞｯﾄ位置に'1'を書くことによって個別ﾋﾞｯﾄを解除(0)するため、このﾚｼﾞｽﾀを読み–変更–書き(RMW)の代わりに使ってください。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
					CMP2BV	CMP1BV	CMP0BV	PERBV
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ3 – CMP2BV : 比較2緩衝有効** (Compare 2 Buffer Valid)

CMP0BVをご覧ください。

● **ﾋﾞｯﾄ2 – CMP1BV : 比較1緩衝有効** (Compare 1 Buffer Valid)

CMP0BVをご覧ください。

● **ﾋﾞｯﾄ1 – CMP0BV : 比較1緩衝有効** (Compare 0 Buffer Valid)

CMPnBVﾋﾞｯﾄは新しい値が対応する比較n緩衝(TCAn.CMPnBUF)ﾚｼﾞｽﾀに書かれた時に設定(1)されます。これらのﾋﾞｯﾄはUPDATE条件で自動的に解除(0)します。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – PERBV : 定期緩衝有効** (Period Buffer Valid)

このﾋﾞｯﾄは新しい値が定期緩衝(TCAn.PERBUF)ﾚｼﾞｽﾀに書かれた時に設定(1)されます。このﾋﾞｯﾄはUPDATE条件で自動的に解除(0)します。

21.5.8. CTRLFSET – 制御F設定 (Control Register F Set) – 標準動作専用

名称 : CTRLFSET
変位 : +$07
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

そのﾋﾞｯﾄ位置に'1'を書くことによって個別ﾋﾞｯﾄを設定(1)するため、このﾚｼﾞｽﾀを読み–変更–書き(RMW)の代わりに使ってください。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
					CMP2BV	CMP1BV	CMP0BV	PERBV
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ3 – CMP2BV : 比較2緩衝有効** (Compare 2 Buffer Valid)

CMP0BVをご覧ください。

● **ﾋﾞｯﾄ2 – CMP1BV : 比較1緩衝有効** (Compare 1 Buffer Valid)

CMP0BVをご覧ください。

● **ﾋﾞｯﾄ1 – CMP0BV : 比較1緩衝有効** (Compare 0 Buffer Valid)

CMPnBVﾋﾞｯﾄは新しい値が対応する比較n緩衝(TCAn.CMPnBUF)ﾚｼﾞｽﾀに書かれた時に設定(1)されます。これらのﾋﾞｯﾄはUPDATE条件で自動的に解除(0)します。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – PERBV : 定期緩衝有効** (Period Buffer Valid)

このﾋﾞｯﾄは新しい値が定期緩衝(TCAn.PERBUF)ﾚｼﾞｽﾀに書かれた時に設定(1)されます。このﾋﾞｯﾄはUPDATE条件で自動的に解除(0)します。

21.5.9. EVCTRL – 事象制御 (Event Control) – 標準動作専用

名称 : EVCTRL
変位 : +$09
リセット : $00
特質 : –

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
	EVACTB2~0			CNTBEI	EVACTA2~0			CNTAEI
アクセス種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット7~5 – EVACTB2~0 : 事象活動B** (Event Action B)

これらのビットは或る事象条件で計数器が取る活動を定義します。

値	名称	説明
0 0 0	NONE	活動なし
0 1 1	UPDOWN	前置分周したクロック周期か、事象入力A用設定に従って一致する事象を計数。事象信号は計数方向を制御し、Lowの時に上昇、Highの時に下降。方向は計数器計数時にラッチされます。
1 0 0	RESTART_POSEDGE	正事象端で計数器再始動
1 0 1	RESTART_ANYEDGE	両事象端で計数器再始動
1 1 0	RESTART_HIGHLVL	事象信号がHighの間、計数器再始動
その他	–	(予約)

● **ビット4 – CNTBEI : 計数器事象入力B許可** (Enable Counter Event Input B)

値	0	1
説明	計数器事象入力Bは禁止	計数器事象入力BはEVACTBビット領域に従って許可

● **ビット3~1 – EVACTA2~0 : 事象活動A** (Event Action A)

これらのビットは或る事象条件で計数器が取る活動を定義します。

値	名称	説明
0 0 0	CNT_POSEDGE	正事象端で計数
0 0 1	CNT_ANYEDGE	両事象端で計数
0 1 0	EVACT_HIGHLVL	事象信号がHighの間、前置分周されたクロック周期を計数
0 1 1	EVACT_UPDOWN	前置分周されたクロック周期を計数。事象信号は計数方向を制御し、Lowの時に上昇、Highの時に下降。方向は計数器計数時にラッチされます。
その他	–	(予約)

● **ビット0 – CNTAEI : 計数器事象入力A許可** (Enable Counter Event Input A)

値	0	1
説明	計数器事象入力Aは禁止	計数器事象入力AはEVACTAビット領域に従って許可

21.5.10. INTCTRL – 割り込み制御 (Interrupt Control) – 標準動作

名称 : INTCTRL
変位 : +$0A
リセット : $00
特質 : –

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
		CMP2	CMP1	CMP0				OVF
アクセス種別	R	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット6 – CMP2 : 比較チャネル2割り込み許可** (Compare Channel 2 Interrupt Enable)

CMP0をご覧ください。

● **ﾋﾞｯﾄ5 – CMP1 : 比較ﾁｬﾈﾙ1割り込み許可** (Compare Channel 1 Interrupt Enable)

CMP0をご覧ください。

● **ﾋﾞｯﾄ4 – CMP0 : 比較ﾁｬﾈﾙ0割り込み許可** (Compare Channel 0 Interrupt Enable)

CMPnﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みはﾁｬﾈﾙnからの比較割り込みを許可します。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – OVF : 上下溢れ割り込み許可** (Timer Overflow/Underflow Interrupt Enable)

OVFﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みは上下溢れ割り込みを許可します。

21.5.11. INTFLAGS – 割り込み要求ﾌﾗｸﾞ (Interrupt Flag Register) – 標準動作

名称 : INTFLAGS
変位 : +$0B
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
		CMP2	CMP1	CMP0				OVF
ｱｸｾｽ種別	R	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ6 – CMP2 : 比較ﾁｬﾈﾙ2割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (Compare Channel 2 Interrupt Flag)

CMP0をご覧ください。

● **ﾋﾞｯﾄ5 – CMP1 : 比較ﾁｬﾈﾙ1割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (Compare Channel 1 Interrupt Flag)

CMP0をご覧ください。

● **ﾋﾞｯﾄ4 – CMP0 : 比較ﾁｬﾈﾙ0割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (Compare Channel 0 Interrupt Flag)

比較割り込み要求(CMPn)ﾌﾗｸﾞは対応する比較ﾁｬﾈﾙでの比較一致で設定(1)されます。全ての動作形態に対して、CMPnﾌﾗｸﾞは計数(TCAn.CNT)ﾚｼﾞｽﾀと対応する比較(TCAn.CMPn)ﾚｼﾞｽﾀ間で比較一致が起こる時に設定(1)されます。CMPnﾌﾗｸﾞは自動的に解除(0)されません。そのﾋﾞｯﾄ位置に'1'を書くことによってだけ解除(0)されます。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – OVF : 上下溢れ割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (Timer Overflow/Underflow Interrupt Flag)

このﾌﾗｸﾞは波形生成動作(WGMODE)設定に依存して、TOP(上溢れ)またはBOTTOM(下溢れ)のどちらかで設定(1)されます。OVFﾌﾗｸﾞは自動的に解除(0)さません。このﾋﾞｯﾄ位置に'1'を書くことによってだけ解除(0)されます。

21.5.12. DBGCTRL – ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ制御 (Debug Control) – 標準/分割動作共通

名称 : DBGCTRL
変位 : +$0E
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
								DBGRUN
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ0 – DBGRUN : ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ時走行** (Run in Debug)

値	0	1
説明	TCAはﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ動作中断で停止し、事象を無視	TCAはCPU停止中のﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ動作中断で走行継続

21.5.13. TEMP – 一時ﾚｼﾞｽﾀ (Temporary bits for 16-bit Access) – 標準動作専用

名称 : TEMP
変位 : +$0F
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

一時ﾚｼﾞｽﾀはこの周辺機能の16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀへの16ﾋﾞｯﾄ単一周期ｱｸｾｽのためにCPUによって使われます。このﾚｼﾞｽﾀはこの周辺機能の全ての16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀに対して共通でｿﾌﾄｳｪｱによって読み書きすることができます。16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀの読み書きのより多くの詳細については「ﾒﾓﾘ」章の「16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀのｱｸｾｽ」を参照してください。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	TEMP7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – TEMP7~0 : 一時値** (Temporary Bits for 16-bit Access)

21.5.14. CNT – 計数 (Counter Register) – 標準動作

名称 : CNT (CNTH,CNTL)
変位 : +$20
ﾘｾｯﾄ : $0000
特質 : –

TCAn.CNTHとTCAn.CNTLのﾚｼﾞｽﾀ対は16ﾋﾞｯﾄ値のTCAn.CNTを表します。下位ﾊﾞｲﾄ[7～0](接尾辞L)は変位原点でｱｸｾｽできます。上位ﾊﾞｲﾄ[15～8](接尾辞H)は変位+1でｱｸｾｽすることができます。

ﾋﾞｯﾄ	15	14	13	12	11	10	9	8
	CNT15~8							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	CNT7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ15~8 – CNT15~8 : 計数値上位ﾊﾞｲﾄ** (Counter high byte)

このﾋﾞｯﾄ領域は16ﾋﾞｯﾄ計数ﾚｼﾞｽﾀの上位ﾊﾞｲﾄを保持します。

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – CNT7~0 : 計数値下位ﾊﾞｲﾄ** (Counter low byte)

このﾋﾞｯﾄ領域は16ﾋﾞｯﾄ計数ﾚｼﾞｽﾀの下位ﾊﾞｲﾄを保持します。

21.5.15. PER – 定期 (Period Register) – 標準動作

名称 : PER (PERH,PERL)
変位 : +$26
ﾘｾｯﾄ : $FFFF
特質 : –

TCAn.PERﾚｼﾞｽﾀは周波数波形生成(FRQ)を除く全ての動作形態でﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀの16ﾋﾞｯﾄTOP値を含みます。

TCAn.PERHとTCAn.PERLのﾚｼﾞｽﾀ対は16ﾋﾞｯﾄ値のTCAn.PERを表します。下位ﾊﾞｲﾄ[7～0](接尾辞L)は変位原点でｱｸｾｽできます。上位ﾊﾞｲﾄ[15～8](接尾辞H)は変位+1でｱｸｾｽすることができます。

ﾋﾞｯﾄ	15	14	13	12	11	10	9	8
	PER15~8							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	1	1	1	1	1	1	1	1

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	PER7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	1	1	1	1	1	1	1	1

● **ﾋﾞｯﾄ15~8 – PER15~8 : 定期値上位ﾊﾞｲﾄ** (Periodic high byte)

このﾋﾞｯﾄ領域は16ﾋﾞｯﾄ定期ﾚｼﾞｽﾀの上位ﾊﾞｲﾄを保持します。

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – PER7~0 : 定期値下位ﾊﾞｲﾄ** (Periodic low byte)

このﾋﾞｯﾄ領域は16ﾋﾞｯﾄ定期ﾚｼﾞｽﾀの下位ﾊﾞｲﾄを保持します。

21.5.16. CMPn – 比較n (Compare n Register) – 標準動作

名称 : CMP0 (CMP0H,CMP0L) : CMP1 (CMP1H,CMP1L) : CMP2 (CMP2H,CMP2L)
変位 : +$28 : +$2A : +$2C
ﾘｾｯﾄ : $0000
特質 : –

このﾚｼﾞｽﾀは継続的に計数器値と比較します。通常、比較器からの出力は波形を生成するのに使われます。

TCAn.CMPnﾚｼﾞｽﾀはUPDATE条件発生時に対応する比較緩衝(TCAn.CMPnBUF)ﾚｼﾞｽﾀからの緩衝値で更新されます。

TCAn.CMPnHとTCAn.CMPnLのﾚｼﾞｽﾀ対は16ﾋﾞｯﾄ値のTCAn.CMPnを表します。下位ﾊﾞｲﾄ[7～0](接尾辞L)は変位原点でｱｸｾｽできます。上位ﾊﾞｲﾄ[15～8](接尾辞H)は変位+1でｱｸｾｽすることができます。

ﾋﾞｯﾄ	15	14	13	12	11	10	9	8
	CMP15~8							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	CMP7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

- **ﾋﾞｯﾄ15~8 – CMP15~8 : 比較値上位ﾊﾞｲﾄ** (Compare high byte)

このﾋﾞｯﾄ領域は16ﾋﾞｯﾄ比較ﾚｼﾞｽﾀの上位ﾊﾞｲﾄを保持します。

- **ﾋﾞｯﾄ7~0 – CMP7~0 : 比較値下位ﾊﾞｲﾄ** (Compare low byte)

このﾋﾞｯﾄ領域は16ﾋﾞｯﾄ比較ﾚｼﾞｽﾀの下位ﾊﾞｲﾄを保持します。

21.5.17. PERBUF – 定期緩衝 (Period Buffer Register) – 標準動作

名称 : PERBUF (PERHBUF,PERBUFL)
変位 : +$36
ﾘｾｯﾄ : $FFFF
特質 : –

このﾚｼﾞｽﾀは定期(TCAn.PER)ﾚｼﾞｽﾀの緩衝部として扱います。CPUまたはUPDIからのこのﾚｼﾞｽﾀ書き込みは制御F(TCAn.CTRLF)ﾚｼﾞｽﾀの定期緩衝有効(PERBV)ﾌﾗｸﾞを設定(1)します。

TCAn.PERBUFHとTCAn.PERBUFLのﾚｼﾞｽﾀ対は16ﾋﾞｯﾄ値のTCAn.PERBUFを表します。下位ﾊﾞｲﾄ[7～0](接尾辞L)は変位原点でｱｸｾｽできます。上位ﾊﾞｲﾄ[15～8](接尾辞H)は変位+1でｱｸｾｽすることができます。

ﾋﾞｯﾄ	15	14	13	12	11	10	9	8
	PERBUF15~8							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	1	1	1	1	1	1	1	1

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	PERBUF7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	1	1	1	1	1	1	1	1

- **ﾋﾞｯﾄ15~8 – PERBUF15~8 : 定期緩衝値上位ﾊﾞｲﾄ** (Period Buffer high byte)

このﾋﾞｯﾄ領域は16ﾋﾞｯﾄ定期緩衝ﾚｼﾞｽﾀの上位ﾊﾞｲﾄを保持します。

- **ﾋﾞｯﾄ7~0 – PERBUF7~0 : 定期緩衝値下位ﾊﾞｲﾄ** (Period Buffer low byte)

このﾋﾞｯﾄ領域は16ﾋﾞｯﾄ定期緩衝ﾚｼﾞｽﾀの下位ﾊﾞｲﾄを保持します。

21.5.18. CMPnBUF – 比較n緩衝 (Compare n Buffer Register) – 標準動作

名称 : CMP0BUF (CMP0BUFH,CMP0BUFL) : CMP1BUF (CMP1BUFH,CMP1BUFL) : CMP2BUF (CMP2BUFH,CMP2BUFL)
変位 : +$38 : +$3A : +$3C
ﾘｾｯﾄ : $0000
特質 : –

このﾚｼﾞｽﾀは連携する比較(TCAn.CMPn)ﾚｼﾞｽﾀに対する緩衝部として扱います。CPUまたはUPDIからのこれらのどれかのﾚｼﾞｽﾀ書き込みは制御F(TCAn.CTRLF)ﾚｼﾞｽﾀの対応する比較緩衝有効(CMPnBV)ﾌﾗｸﾞを設定(1)します。

TCAn.CMPnBUFHとTCAn.CMPnBUFLのﾚｼﾞｽﾀ対は16ﾋﾞｯﾄ値のTCAn.CMPnBUFを表します。下位ﾊﾞｲﾄ[7～0](接尾辞L)は変位原点でｱｸｾｽできます。上位ﾊﾞｲﾄ[15～8](接尾辞H)は変位+1でｱｸｾｽすることができます。

ﾋﾞｯﾄ	15	14	13	12	11	10	9	8
	CMPBUF15~8							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	CMPBUF7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ15~8 – CMPBUF15~8 : 比較緩衝値上位ﾊﾞｲﾄ** (Compare Buffer high byte)

これらのﾋﾞｯﾄは16ﾋﾞｯﾄ比較緩衝ﾚｼﾞｽﾀの上位ﾊﾞｲﾄを保持します。

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – CMPBUF7~0 : 比較緩衝値下位ﾊﾞｲﾄ** (Compare Buffer low byte)

これらのﾋﾞｯﾄは16ﾋﾞｯﾄ比較緩衝ﾚｼﾞｽﾀの下位ﾊﾞｲﾄを保持します。

21.6. レジスタ要約 – 分割動作

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00	CTRLA	7～0	RUNSTDBY				CLKSEL2~0			ENABLE
+$01	CTRLB	7～0		HCMP2EN	HCMP1EN	HCMP0EN		LCMP2EN	LCMP1EN	LCMP0EN
+$02	CTRLC	7～0		HCMP2OV	HCMP1OV	HCMP0OV		LCMP2OV	LCMP1OV	LCMP0OV
+$03	CTRLD	7～0								SPLITM
+$04	CTRLECLR	7～0					CMD1,0		CMDEN1,0	
+$05	CTRLESET	7～0					CMD1,0		CMDEN1,0	
+$06 ～ +$09	予約									
+$0A	INTCTRL	7～0		LCMP2	LCMP1	LCMP0			HUNF	LUNF
+$0B	INTFLAGS	7～0		LCMP2	LCMP1	LCMP0			HUNF	LUNF
+$0C ～ +$0D	予約									
+$0E	DBGCTRL	7～0								DBGRUN
+$0F ～ +$1F	予約									
+$20	LCNT	7～0	LCNT7~0							
+$21	HCNT	7～0	HCNT7~0							
+$22 ～ +$25	予約									
+$26	LPER	7～0	LPER7~0							
+$27	HPER	7～0	HPER7~0							
+$28	LCMP0	7～0	LCMP7~0							
+$29	HCMP0	7～0	HCMP7~0							
+$2A	LCMP1	7～0	LCMP7~0							
+$2B	HCMP1	7～0	HCMP7~0							
+$2C	LCMP2	7～0	LCMP7~0							
+$2D	HCMP2	7～0	HCMP7~0							

21.7. ﾚｼﾞｽﾀ説明 – 分割動作

21.7.1. CTRLA – 制御A (Control A) – 標準/分割動作共通

名称 : CTRLA
変位 : +$00
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	RUNSTDBY				CLKSEL2~0			ENABLE
ｱｸｾｽ種別	R/W	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7 – RUNSTDBY : ｽﾀﾝﾊﾞｲ時走行** (Run Standby)

このﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みはこの周辺機能にｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作での走行を許します。

● **ﾋﾞｯﾄ3~1 – CLKSEL2~0 : ｸﾛｯｸ選択** (Clock Select)

これらのﾋﾞｯﾄはﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀに対するｸﾛｯｸ周波数を選びます。

値	0 0 0	0 0 1	0 1 0	0 1 1	1 0 0	1 0 1	1 1 0	1 1 1
名称	DIV1	DIV2	DIV4	DIV8	DIV16	DIV64	DIV256	DIV1024
説明 (f_{TCA}=)	f_{CLK_PER}	$f_{CLK_PER}/2$	$f_{CLK_PER}/4$	$f_{CLK_PER}/8$	$f_{CLK_PER}/16$	$f_{CLK_PER}/64$	$f_{CLK_PER}/256$	$f_{CLK_PER}/1024$

● **ﾋﾞｯﾄ0 – ENABLE : 許可** (Enable)

値	0	1
説明	周辺機能(TCA)は禁止されます。	周辺機能(TCA)は許可されます。

21.7.2. CTRLB – 制御B (Control B) – 分割動作

名称 : CTRLB
変位 : +$01
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
		HCMP2EN	HCMP1EN	HCMP0EN		LCMP2EN	LCMP1EN	LCMP0EN
ｱｸｾｽ種別	R	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ6 – HCMP2EN : 上位ﾊﾞｲﾄ比較2許可** (High-byte Compare 2 Enable)

HCMP0ENをご覧ください。

● **ﾋﾞｯﾄ5 – HCMP1EN : 上位ﾊﾞｲﾄ比較1許可** (High-byte Compare 1 Enable)

HCMP0ENをご覧ください。

● **ﾋﾞｯﾄ4 – HCMP0EN : 上位ﾊﾞｲﾄ比較0許可** (High-byte Compare 0 Enable)

FRQまたはPWM波形生成動作形態でのHCMPnENﾋﾞｯﾄ設定(1)は対応するWOn+3ﾋﾟﾝに対するﾎﾟｰﾄ出力(PORTx.OUT)ﾚｼﾞｽﾀを無効にします。

● **ﾋﾞｯﾄ2 – LCMP2EN : 下位ﾊﾞｲﾄ比較2許可** (Low-byte Compare 2 Enable)

LCMP0ENをご覧ください。

● **ﾋﾞｯﾄ1 – LCMP1EN : 下位ﾊﾞｲﾄ比較1許可** (Low-byte Compare 1 Enable)

LCMP0ENをご覧ください。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – LCMP0EN : 下位ﾊﾞｲﾄ比較0許可** (Low-byte Compare 0 Enable)

FRQまたはPWM波形生成動作形態でのLCMPnENﾋﾞｯﾄ設定(1)は対応するWOnﾋﾟﾝに対するﾎﾟｰﾄ出力(PORTx.OUT)ﾚｼﾞｽﾀを無効にします。

21.7.3. CTRLC – 制御C (Control C) – 分割動作

名称 : CTRLC
変位 : +$02
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
		HCMP2OV	HCMP1OV	HCMP0OV		LCMP2OV	LCMP1OV	LCMP0OV
ｱｸｾｽ種別	R	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ6 – HCMP2OV : 上位ﾊﾞｲﾄ比較2出力値** (High-byte Compare 2 Output Value)

HCMP0OVをご覧ください。

● **ﾋﾞｯﾄ5 – HCMP1OV : 上位ﾊﾞｲﾄ比較1出力値** (High-byte Compare 1 Output Value)

HCMP0OVをご覧ください。

● **ﾋﾞｯﾄ4 – HCMP0OV : 上位ﾊﾞｲﾄ比較0出力値** (High-byte Compare 0 Output Value)

HCMPnOVﾋﾞｯﾄはﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀが許可されない時に波形生成部の出力値への直接ｱｸｾｽを許します。これはﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀが走行していない時にWOn+3出力値を設定(1)または解除(0)するのに使われます。

● **ﾋﾞｯﾄ2 – LCMP2OV : 下位ﾊﾞｲﾄ比較2出力値** (Low-byte Compare 2 Output Value)

LCMP0OVをご覧ください。

● **ﾋﾞｯﾄ1 – LCMP1OV : 下位ﾊﾞｲﾄ比較1出力値** (Low-byte Compare 1 Output Value)

LCMP0OVをご覧ください。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – LCMP0OV : 下位ﾊﾞｲﾄ比較0出力値** (Low-byte Compare 0 Output Value)

LCMPnOVﾋﾞｯﾄはﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀが許可されない時に波形生成部の出力値への直接ｱｸｾｽを許します。これはﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀが走行していない時にWOn出力値を設定(1)または解除(0)するのに使われます。

注: この出力がﾊﾟｯﾄﾞに接続される時に、制御B(TCAn.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの上位/下位ﾊﾞｲﾄ比較n許可(xCMPnEN)ﾋﾞｯﾄが設定(1)されない限り、これらのﾋﾞｯﾄの上書きは動きません。この出力がCCLに接続される場合、TCAn.CTRLBﾚｼﾞｽﾀのxCMPnENﾋﾞｯﾄは迂回されます。

21.7.4. CTRLD – 制御D (Control D) – 標準/分割動作共通

名称 : CTRLD
変位 : +$03
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
								SPLITM
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ0 – SPLITM : 分割動作許可** (Enalbe Split Mode)

このﾋﾞｯﾄはﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀを分割動作形態に設定し、2つの8ﾋﾞｯﾄ ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀとして動きます。標準16ﾋﾞｯﾄ動作と比べてﾚｼﾞｽﾀ割り当てが変わります。

21.7.5. CTRLECLR – 制御E解除 (Control Register E Clear) – 分割動作

名称 : CTRLECLR
変位 : +$04
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

そのﾋﾞｯﾄ位置に'1'を書くことによって個別ﾋﾞｯﾄを解除(0)するため、このﾚｼﾞｽﾀを読み-変更-書き(RMW)の代わりに使ってください。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
					CMD1,0		CMDEN1,0	
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ3,2 – CMD1,0 : 指令** (Command)

このﾋﾞｯﾄ領域はﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀの再始動とﾘｾｯﾄのｿﾌﾄｳｪｱ制御に使われます。指令ﾋﾞｯﾄは常に'0'として読みます。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	NONE	–	RESTART	RESET
説明	指令なし	(予約)	強制再始動	強制ﾊｰﾄﾞﾘｾｯﾄ (TCAが許可の場合は無効)

● **ﾋﾞｯﾄ1,0 – CMDEN1,0 : 指令許可** (Command enable)

このﾋﾞｯﾄ領域はCMDﾋﾞｯﾄによって与えられた指令がどのﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀに適用するかを構成設定します。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	NONE	–	–	BOTH
説明	なし	(予約)	(予約)	指令は上下ﾊﾞｲﾄの両ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀに対して適用

21.7.6. CTRLESET – 制御E設定 (Control Register E Set) – 分割動作

名称 : CTRLESET
変位 : +$05
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

このﾚｼﾞｽﾀはそのﾋﾞｯﾄ位置に'1'を書くことによって個別ﾋﾞｯﾄを設定(1)するため、読み-変更-書き(RMW)の代わりに使うことができます。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
					CMD1,0		CMDEN1,0	
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ3,2 – CMD1,0 : 指令** (Command)

このﾋﾞｯﾄ領域はﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀの再始動とﾘｾｯﾄのｿﾌﾄｳｪｱ制御に使われます。指令ﾋﾞｯﾄ領域は常に'0'として読みます。CMDﾋﾞｯﾄ領域は指令許可(CMDEN)ﾋﾞｯﾄと共に使われなければなりません。ﾘｾｯﾄ指令を使うには下位ﾊﾞｲﾄと上位ﾊﾞｲﾄの両ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀ(BOTH)で選ばれたCMDENを必要とします。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	NONE	–	RESTART	RESET
説明	指令なし	(予約)	強制再始動	強制ﾊｰﾄﾞﾘｾｯﾄ (TCAが許可の場合は無効)

● **ﾋﾞｯﾄ1,0 – CMDEN1,0 : 指令許可** (Command enable)

このﾋﾞｯﾄ領域はCMDﾋﾞｯﾄによって与えられた指令がどのﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀに適用するかを構成設定します。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	NONE	–	–	BOTH
説明	なし	(予約)	(予約)	指令は上下ﾊﾞｲﾄの両ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀに対して適用

21.7.7. INTCTRL – 割り込み制御 (Interrupt Control) – 分割動作

名称 : INTCTRL
変位 : +$0A
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
		LCMP2	LCMP1	LCMP0			HUNF	HUNF
ｱｸｾｽ種別	R	R/W	R/W	R/W	R	R	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ6 – LCMP2 : 下位ﾊﾞｲﾄ比較2割り込み許可** (Low-byte Compare Channel 2 Interrupt Enable)

LCMP0をご覧ください。

● **ﾋﾞｯﾄ5 – LCMP1 : 下位ﾊﾞｲﾄ比較1割り込み許可** (Low-byte Compare Channel 1 Interrupt Enable)

LCMP0をご覧ください。

● **ﾋﾞｯﾄ4 – LCMP0 : 下位ﾊﾞｲﾄ比較0割り込み許可** (Low-byte Compare Channel 0 Interrupt Enable)

LCMPnﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みは下位ﾊﾞｲﾄ比較ﾁｬﾈﾙn割り込みを許可します。

● **ﾋﾞｯﾄ1 – HUNF : 上位ﾊﾞｲﾄ下溢れ割り込み許可** (High-byte Underflow Interrupt Enable)

HUNFﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みは上位ﾊﾞｲﾄ下溢れ割り込みを許可します。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – LUNF : 下位ﾊﾞｲﾄ下溢れ割り込み許可** (Low-byte Underflow Interrupt Enable)

LUNFﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みは下位ﾊﾞｲﾄ下溢れ割り込みを許可します。

21.7.8. INTFLAGS – 割り込み要求ﾌﾗｸﾞ (Interrupt Flag Register) – 分割動作

名称 : INTFLAGS
変位 : +$0B
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
		LCMP2	LCMP1	LCMP0			HUNF	HUNF
ｱｸｾｽ種別	R	R/W	R/W	R/W	R	R	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ6 – LCMP2 : 下位ﾊﾞｲﾄ比較2割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (Low-byte Compare Channel 2 Interrupt Flag)

LCMP0ﾌﾗｸﾞ記述をご覧ください。

● **ﾋﾞｯﾄ5 – LCMP1 : 下位ﾊﾞｲﾄ比較1割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (Low-byte Compare Channel 1 Interrupt Flag)

LCMP0ﾌﾗｸﾞ記述をご覧ください。

● **ﾋﾞｯﾄ4 – LCMP0 : 下位ﾊﾞｲﾄ比較0割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (Low-byte Compare Channel 0 Interrupt Flag)

下位ﾊﾞｲﾄ比較割り込み要求(LCMPn)ﾌﾗｸﾞは対応する下位ﾊﾞｲﾄ計時器の比較ﾁｬﾈﾙでの比較一致で設定(1)されます。

全ての動作形態に対して、LCMPnﾌﾗｸﾞは下位ﾊﾞｲﾄ計数(TCAn.LCNT)ﾚｼﾞｽﾀと対応する下位ﾊﾞｲﾄ比較n(TCAn.LCMPn)ﾚｼﾞｽﾀ間で比較一致が起こる時に設定(1)されます。LCMPnﾌﾗｸﾞは自動的に解除(0)されないのでｿﾌﾄｳｪｱが解除(0)しなければなりません。このﾋﾞｯﾄ位置への'1'書き込みがこれを行います。

● **ﾋﾞｯﾄ1 – HUNF : 上位ﾊﾞｲﾄ下溢れ割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (High-byte Underflow Interrupt Flag)

このﾌﾗｸﾞは上位ﾊﾞｲﾄ計時器のBOTTOM(下溢れ)条件で設定(1)されます。HUNFは自動的に解除(0)されず、ｿﾌﾄｳｪｱによって解除(0)されることが必要です。このﾋﾞｯﾄ位置への'1'書き込みがこれを行います。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – LUNF : 下位ﾊﾞｲﾄ下溢れ割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (Low-byte Underflow Interrupt Flag)

このﾌﾗｸﾞは下位ﾊﾞｲﾄ計時器のBOTTOM(下溢れ)条件で設定(1)されます。LUNFは自動的に解除(0)されず、ｿﾌﾄｳｪｱによって解除(0)されることが必要です。このﾋﾞｯﾄ位置への'1'書き込みがこれを行います。

21.7.9. DBGCTRL – ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ制御 (Debug Control) – 標準/分割動作共通

名称 : DBGCTRL
変位 : +$0E
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
								DBGRUN
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ0 – DBGRUN : ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ時走行** (Run in Debug)

値	0	1
説明	TCAはﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ動作中断で停止し、事象を無視	TCAはCPU停止中のﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ動作中断で走行継続

21.7.10. LCNT – 下位ﾊﾞｲﾄ計数 (Low-byte Timer Counter Register) – 分割動作

名称 : LCNT
変位 : +$20
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

TCAn.LCNTﾚｼﾞｽﾀは下位ﾊﾞｲﾄ計時器用計数値を含みます。CPUとUPDIの書き込みｱｸｾｽはこの計数器の計数、解消、再設定を超える優先権を持ちます。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	LCNT7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – LCNT7~0 : 下位ﾊﾞｲﾄ計時器用計数値** (Counter Value for low-byte timer)

このﾋﾞｯﾄ領域は下位ﾊﾞｲﾄ計時器の計数器値を定義します。

21.7.11. HCNT – 上位ﾊﾞｲﾄ計数 (High-byte Timer Counter Register) – 分割動作

名称 : HCNT
変位 : +$21
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

TCAn.HCNTﾚｼﾞｽﾀは上位ﾊﾞｲﾄ計時器用計数値を含みます。CPUとUPDIの書き込みｱｸｾｽはこの計数器の計数、解消、再設定を超える優先権を持ちます。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	HCNT7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – HCNT7~0 : 上位ﾊﾞｲﾄ計時器用計数値** (Counter Value for high-byte timer)

このﾋﾞｯﾄ領域は上位ﾊﾞｲﾄ計時器の計数器値を定義します。

21.7.12. LPER – 下位ﾊﾞｲﾄ定期 (Low-byte Timer Period Register) – 分割動作

名称 : LPER
変位 : +$26
ﾘｾｯﾄ : $FF
特質 : –

TCAn.LPERﾚｼﾞｽﾀは下位ﾊﾞｲﾄ計時器用TOP値を含みます。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	LPER7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	1	1	1	1	1	1	1	1

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – LPER7~0 : 下位ﾊﾞｲﾄ計時器用定期値** (Period value low-byte timer)

このﾋﾞｯﾄ領域は下位ﾊﾞｲﾄ計時器用TOP値を保持します。

21.7.13. HPER – 上位ﾊﾞｲﾄ定期 (High-byte Timer Period Register) – 分割動作

名称 : HPER
変位 : +$27
ﾘｾｯﾄ : $FF
特質 : –

TCAn.HPERﾚｼﾞｽﾀは上位ﾊﾞｲﾄ計時器用TOP値を含みます。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	HPER7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	1	1	1	1	1	1	1	1

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – HPER7~0 : 上位ﾊﾞｲﾄ計時器用定期値** (Period value high-byte timer)

このﾋﾞｯﾄ領域は上位ﾊﾞｲﾄ計時器用TOP値を保持します。

21.7.14. LCMPn – 下位ﾊﾞｲﾄ比較n (Low-byte Compare Register n) – 分割動作

名称 : LCMP0 : LCMP1 : LCMP2
変位 : +$28 : +$2A : +$2C
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

TCAn.LCMPnﾚｼﾞｽﾀは下位ﾊﾞｲﾄ用比較ﾁｬﾈﾙnの比較値を表します。このﾚｼﾞｽﾀは下位ﾊﾞｲﾄ計時器(TCAn.LCNT)の計数器値と継続的に比較されます。通常、比較器からの出力はその後に波形を生成するのに使われます。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	LCMP7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – LCMP7~0 : 下位ﾊﾞｲﾄ比較n値** (Compare value of channel n)

このﾋﾞｯﾄ領域はTCAn.LCNTと比較されるﾁｬﾈﾙnの下位ﾊﾞｲﾄ比較値を保持します。

21.7.15. HCMPn – 上位ﾊﾞｲﾄ比較n (High-byte Compare Register n) – 分割動作

名称 : HCMP0 : HCMP1 : HCMP2
変位 : +$29 : +$2B : +$2D
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

TCAn.HCMPnﾚｼﾞｽﾀは上位ﾊﾞｲﾄ用比較ﾁｬﾈﾙnの比較値を表します。このﾚｼﾞｽﾀは上位ﾊﾞｲﾄ計時器(TCAn.HCNT)の計数器値と継続的に比較されます。通常、比較器からの出力はその後に波形を生成するのに使われます。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	HCMP7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – HCMP7~0 : 上位ﾊﾞｲﾄ比較n値** (Compare value of channel n)

このﾋﾞｯﾄ領域はTCAn.HCNTと比較されるﾁｬﾈﾙnの上位ﾊﾞｲﾄ比較値を保持します。

22. TCB – 16ﾋﾞｯﾄ ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀB型

22.1. 特徴

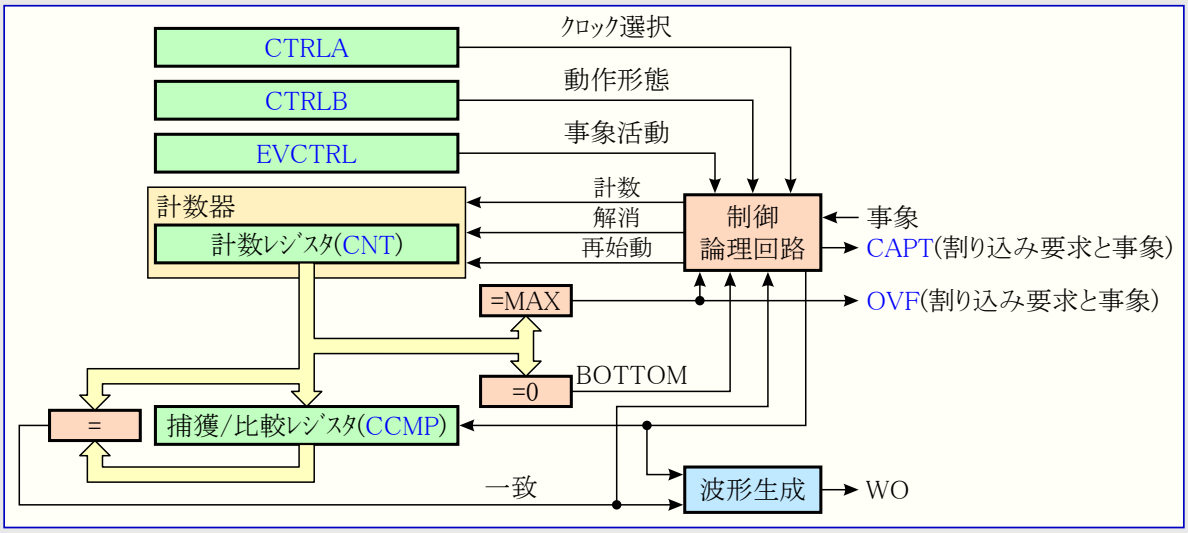
- 16ﾋﾞｯﾄ計数器動作形態
  - 周期的割り込み
  - 制限時間検査
  - 計数捕獲
    - 事象での捕獲
    - 周波数測定
    - ﾊﾟﾙｽ幅測定
    - 周波数とﾊﾟﾙｽ幅の測定
    - 32ﾋﾞｯﾄ捕獲
  - 単発
  - 8ﾋﾞｯﾄ ﾊﾟﾙｽ幅変調(PWM)
- 事象入力での雑音消去器
- TCA0との同期動作

22.2. 概要

16ﾋﾞｯﾄ ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀB型(TCB)の能力は周波数と波形の生成、ﾃﾞｼﾞﾀﾙ信号の時間と周波数の測定を持つ事象での計数捕獲を含みます。TCBは基本計数器と各動作形態が独特な機能を提供する8つの異なる動作形態の1つに設定することができる制御論理回路から成ります。基本計数器は任意選択の前置分周を持つ周辺機能ｸﾛｯｸによってｸﾛｯｸ駆動されます。

22.2.1. 構成図

図22-1. ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀB型構成図



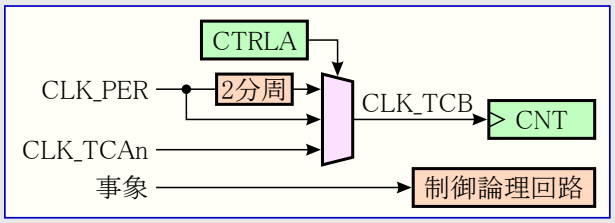
このﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀは周辺機能ｸﾛｯｸ(CLK_PER)、16ﾋﾞｯﾄ ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀA型(CLK_TCAn)、事象ｼｽﾃﾑ(EVSYS)からｸﾛｯｸ駆動することができます。

制御A(TCBn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのｸﾛｯｸ選択(CLKSEL)ﾋﾞｯﾄ領域はｸﾛｯｸ入力(CLK_TCB)として前置分周器出力の1つを直接、または事象ﾁｬﾈﾙを選びます。

TCAnからのｸﾛｯｸを使うﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀ設定はそのTCAnと同期して動くことをﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀに許します。

EVSYSを使うことにより、何れかの入出力ﾋﾟﾝでの外部ｸﾛｯｸ信号のようなどの外部事象供給元も計数器ｸﾛｯｸ入力または制御論理回路入力として使うことができます。事象活動で制御される動作使用時、ｸﾛｯｸ選択は計数器入力として事象ﾁｬﾈﾙを使うように設定されなければなりません。

図22-2. ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀB型ｸﾛｯｸ論理回路



22.2.2. 信号説明

信号	形式	説明
WO	ﾃﾞｼﾞﾀﾙ非同期出力	波形出力

22.3. 機能的な説明

22.3.1. 定義

右の定義は文書全体を通して使われます。

注: 一般的に用語の'計時器'はﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀが周期的ｸﾛｯｸ刻みを計数する時に使われます。用語の'計数器'は入力信号が散発的または不規則なｸﾛｯｸ刻みを持つ時に使われます。

表22-1. ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀ定義

名称	説明
BOTTOM	計数器は$0000になる時にBOTTOMに到達します。
MAX	計数器は$FFFFになる時に最大に到達します。
TOP	計数器が計数の流れで最高値と等しくなる時にTOPに達します。
CNT	計数器(TCBn.CNT)ﾚｼﾞｽﾀ値
CCMP	捕獲/比較(TCBn.CCMP)ﾚｼﾞｽﾀ値

22.3.2. 初期化

既定でTCBは周期的割り込み動作です。これの使用を開始するには以下のようにこれらの手順に従ってください。

1. 比較/捕獲(TCBn.CCMP)ﾚｼﾞｽﾀにTOP値を書いてください。
2. 任意選択: 制御B(TCBn.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの比較/捕獲出力許可(CCMPEN)ﾋﾞｯﾄに'1'を書いてください。これは対応するPORT出力ﾚｼﾞｽﾀの値を無効にして対応するﾋﾟﾝでの波形出力を利用可能にします。
3. 制御A(TCBn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの許可(ENABLE)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって計数器を許可してください。計数器はTCBn.CTRLAﾚｼﾞｽﾀのｸﾛｯｸ選択(CLKSEL)ﾋﾞｯﾄ領域で設定した前置分周器に従ったｸﾛｯｸ刻みの計数を開始します。
4. 計数値は計数(TCBn.CNT)ﾚｼﾞｽﾀから読むことができます。周辺機能はCNT値がTOPに達する時に捕獲(CAPT)割り込みと事象を生成します。
   a. 比較/捕獲ﾚｼﾞｽﾀが現在のCNTよりも低い値に変更される場合、周辺機能はMAXまで計数して丸めを行います。
   b. MAXで溢れ(OVF)割り込みと事象が生成されます。

22.3.3. 動作

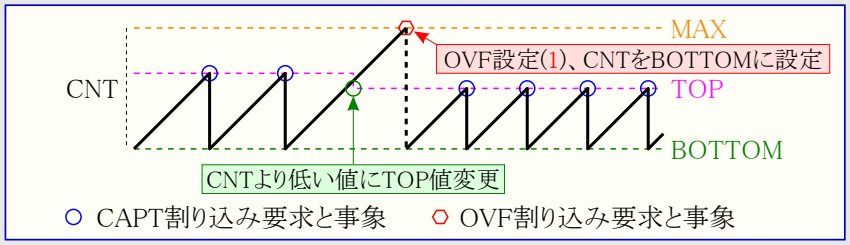
22.3.3.1. 動作形態

計時器は以降の部分で記述される8つの異なる動作形態の1つで動くように構成設定することができます。端検出を保証するために事象ﾊﾟﾙｽは1ｼｽﾃﾑ ｸﾛｯｸ周期より長いことが必要です。

22.3.3.1.1. 周期的割り込み動作

周期的割り込み動作では計数器が捕獲(TOP)値まで計数してBOTTOMから再開します。CAPT割り込みと事象はCNTがTOPと等しい時に生成されます。TOPがCNTよりも低い値に更新された場合、MAX到達でOVFの割り込みと事象が生成され、計数器はBOTTOMから再開します。

図22-3. 周期的割り込み動作



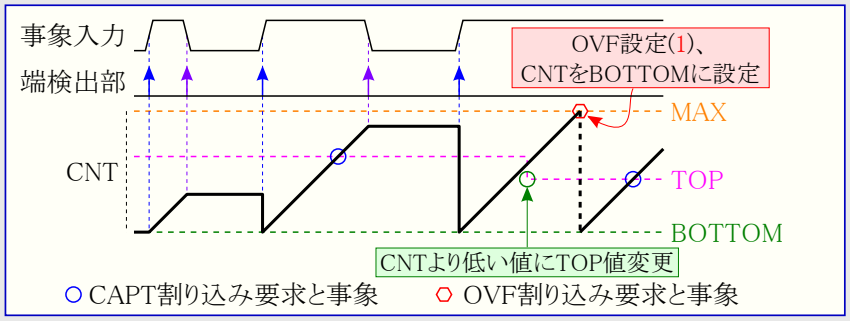
22.3.3.1.2. 制限時間検査動作

制限時間検査動作では事象入力ﾁｬﾈﾙで検出した最初の信号端で計数器が計数を開始し、次の信号端で停止します。CNTは停止端後静止(凍結状態)に留まり、計数器は新しい開始端で再開します。

この動作は事象使用部として構成設定されたTCBを必要とし、事象部分で説明されます。

開始と停止の端は事象制御(TCBn.EVCTRL)ﾚｼﾞｽﾀの事象端(EDGE)ﾋﾞｯﾄによって決められます。第2端前にCNTがTOPに到達する場合、CAPT割り込みと事象が生成されます。TOPがCNTよりも低い値に更新された場合、MAX到達でOVF割り込みと同時に事象が生成され、計数器はBOTTOMから再開します。凍結状態での計数(TCBn.CNT)ﾚｼﾞｽﾀまたは比較/捕獲(TCBn.CCMP)ﾚｼﾞｽﾀの読み込み、または状態(TCBn.STATUS)ﾚｼﾞｽﾀの走行(RUN)ﾋﾞｯﾄ書き込みは無効です。

図22-4. 制限時間検査動作



22.3.3.1.3. 事象での捕獲動作

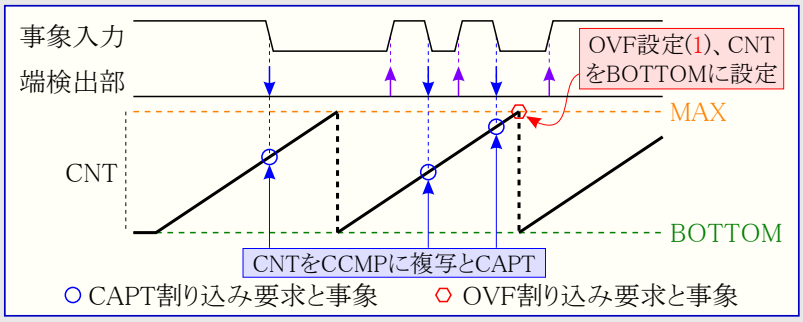
事象での捕獲動作では計数器がBOTTOMからMAXへ計数します。事象検出時、計数(TCBn.CNT)ﾚｼﾞｽﾀ値は比較/捕獲(TCBn.CCMP)ﾚｼﾞｽﾀに転送され、CAPT割り込みと事象が生成されます。事象端検出部は上昇端または下降端のどちらかで捕獲を起動するように構成設定することができます。

この動作は事象使用部として構成設定されたTCBを必要とし、事象部分で説明されます。

右図は事象入力信号の下降端で計数捕獲するように構成設定した捕獲部を示します。CAPT割り込み要求ﾌﾗｸﾞは比較/捕獲(TCBn.CCMP)ﾚｼﾞｽﾀの下位ﾊﾞｲﾄ読み込み後、自動的に解除(0)されます。CNTがMAXの時にOVF割り込みと事象が生成されます。

重要: 他のどれかの動作からこの動作へ移行する時に計数器(TCBn.CNT)ﾚｼﾞｽﾀに$0000を書くことが推奨されます。

図22-5. 事象での計数捕獲



22.3.3.1.4. 計数捕獲周波数測定動作

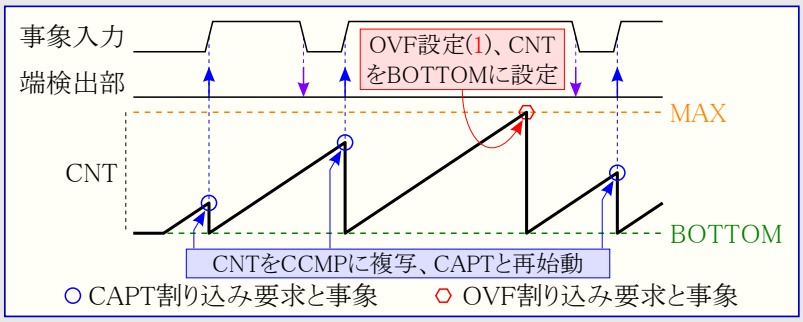
計数捕獲周波数動作ではTCBが事象入力信号の正端または負端のどちらかで計数器値を捕獲して再始動します。

この動作は事象使用部として構成設定されたTCBを必要とし、事象部分で説明されます。

CAPT割り込み要求ﾌﾗｸﾞは比較/捕獲(TCBn.CCMP)ﾚｼﾞｽﾀの下位ﾊﾞｲﾄ読み込み後、自動的に解除(0)されます。CNTがMAXの時にOVF割り込みと事象が生成されます。

右図は上昇端で働くように構成設定された時のこの動作を図解します。

図22-6. 計数捕獲周波数測定

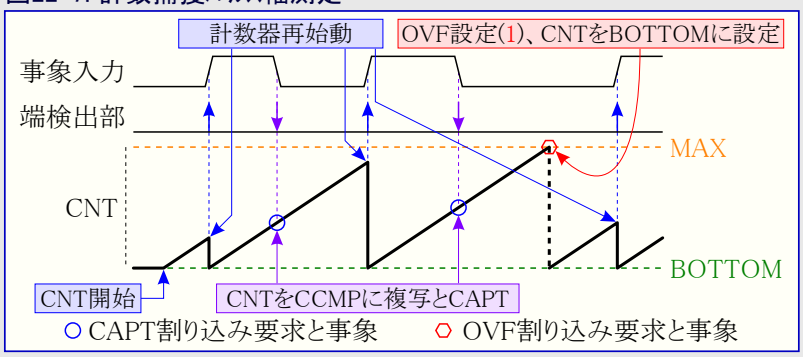


22.3.3.1.5. 計数捕獲ﾊﾟﾙｽ幅測定動作

計数捕獲ﾊﾟﾙｽ幅測定動作では計数捕獲ﾊﾟﾙｽ幅測定が正端で計数器を再始動し、割り込み要求が生成されるのに先立って次の下降端で捕獲します。CAPT割り込み要求ﾌﾗｸﾞは比較/捕獲(TCBn.CCMP)ﾚｼﾞｽﾀの下位ﾊﾞｲﾄ読み込み後、自動的に解除(0)されます。CNTがMAXの時にOVF割り込みと事象が生成されます。計時器は自動的に上昇端と下降端の方向を切り替えますが、正しい動きのために2ｸﾛｯｸ周期の最小端間分離が必要とされます。

この動作は事象使用部として構成設定されたTCBを必要とし、事象部分で説明されます。

図22-7. 計数捕獲ﾊﾟﾙｽ幅測定



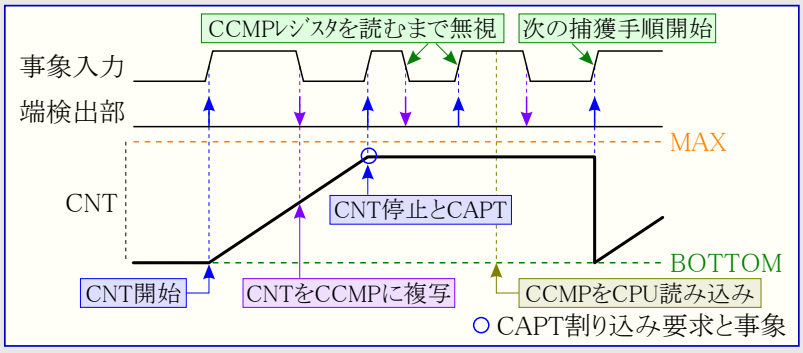
22.3.3.1.6. 計数捕獲周波数/ﾊﾟﾙｽ幅測定動作

計数捕獲周波数/ﾊﾟﾙｽ幅測定動作では事象入力信号で正端が検出された時に計時器が計数を開始します。後続する下降端で計数値が捕獲されます。計数器は事象入力信号の2つ目の上昇端が検出された時に停止してCAPT割り込み要求ﾌﾗｸﾞを設定(1)します。

この動作は事象使用部として構成設定されたTCBを必要とし、事象部分で説明されます。

比較/捕獲(TCBn.CCMP)ﾚｼﾞｽﾀの下位ﾊﾞｲﾄ読み込み後、CAPT割り込み要求ﾌﾗｸﾞが自動的に解除(0)され、新しい捕獲手順の準備が整います。従って、計数(TCBn.CNT)ﾚｼﾞｽﾀは事象入力信号の次の正端でBOTTOMにﾘｾｯﾄされるため、比較/捕獲ﾚｼﾞｽﾀの前に読んでください。CNTがMAXの時にOVF割り込みと事象が生成されます。

図22-8. 計数捕獲周波数/ﾊﾟﾙｽ幅測定



22.3.3.1.7. 単発動作

接続された事象チャネルで上昇端または下降端が観測される毎に比較/捕獲(TCBn.CCMP)レジスタによって定義される持続時間を持つパルスを生成するのに単発動作を使ってください。

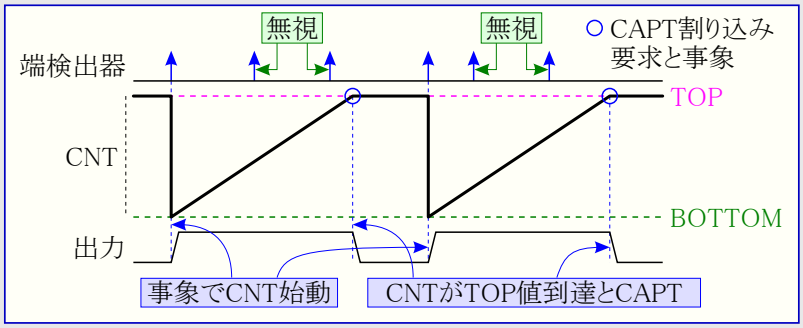
この動作は事象使用部として構成設定されたTCBを必要とし、事象部分で説明されます。

計数器が止まると、出力ピンがLowに設定されます。接続した事象チャネルで事象が検出された場合、計時器はリセットしてBOTTOMからTOPまでの計数を開始し、同時にその出力をHighに駆動します。計数器が計数しているかを見るのに状態(TCBn.STATUS)レジスタの走行(Run)ビットを読んでください。一旦CNTの値がCCMPレジスタに達すると、計数器は計数を止めます。同時に出力ピンが最小1計数器クロック(CLK_TCB)周期間Low状態に移ります。この期間中に起きる新しいどの事象も無視されます。これに続き、新しい事象を受けてから出力がHighに設定されるまでに2周辺機能クロック(CLK_PER)周期の遅延があります。事象制御(TCBn.EVCTRL)レジスタの事象端(EDGE)ビットが'1'を書かれると、どの端も計数器の開始を起動できます。EDGEビットが'0'なら、正端だけが開始を起動します。

計数器は例え事象による起動がなくてもこの周辺機能が許可されると、またこの周辺機能が許可されている間に事象制御(TCBn.EVCTRL)レジスタ内の事象端(EDGE)ビットが変更された場合、直ぐに計数を開始し、これは計数(TCBn.CNT)レジスタにTOP値を書くことによって防がれます。同様の動きはTCBn.EVCTRLレジスタ内のEDGEビットが'1'と同時にこの単位部が許可される場合にも見られます。計数レジスタへのTOP値書き込みはこれも防ぎます。

制御B(TCBn.CTRLB)レジスタの非同期許可(ASYNC)ビットが'1'を書かれた場合、計時器は到着事象に対して非同期に反応します。事象端は出力信号を直ちに設定(1)させます。計数器は未だ事象が受け取られた後の完全な2クロック周期で計数を開始し、結果として2～3クロック周期の遅延が観測されます。

図22-9. 単発動作

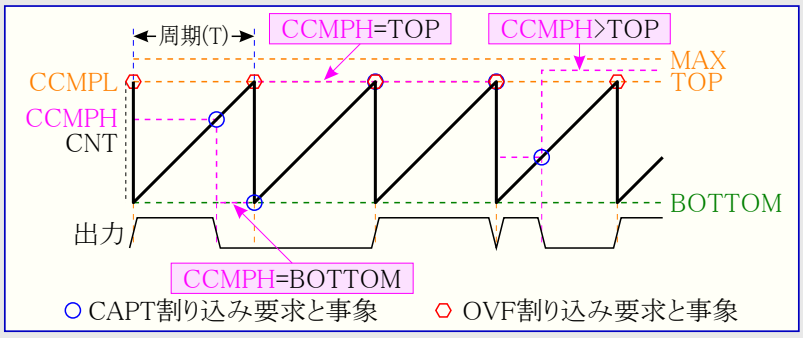


22.3.3.1.8. 8ビットPWM動作

TCBは各16ビット比較/捕獲(TCBn.CCMPHとTCBn.CCMPL)レジスタ対が個別の比較レジスタとして使われる8ビットPWM動作で動くように構成設定することができます。CCMPLは周期(T)を制御し、同時にCCMPHは波形のデューティサイクルを制御します。計数器はBOTTOMからCCMPLまで継続的に計数し、出力はBOTTOMで設定(1)され、計数器がCCMPHに達する時に解除(0)されます。

CCMPHは出力がHighに駆動される間のクロック数です。CCMPL+1が出力パルス周期で、この+1の結果として1クロック周期の遅延が観測されます。

図22-10. 8ビットPWM動作



22.3.3.2. 出力

計時器同期と出力論理レベルは選んだ制御B(TCBn.CTRLB)レジスタの計時器動作(CNTMODE)ビット領域に依存します。単発動作では信号生成が到着事象に対して非同期に起こるようにタイマ/カウンタを構成設定(TCBn.CTRLBの非同期許可(ASYNC)ビット=1に)することができます。

その後、出力信号はTCBクロックに同期化される代わりに到着事象で直ちに設定(1)されます。計数器の同期遅延のため、波形出力はTOP値によって定義されたよりも3～4 CLK_TCB周期長くHighに設定されます。

TCBn.CTRLBの比較/捕獲出力許可(CCMPEN)ビットの'1'書き込みが波形出力を許可します。これは対応するポート出力レジスタでの値を無効にして対応するピンで波形出力を利用可能にします。

下表は各種構成設定と出力でのそれらの影響を一覧にします。

表22-2. 出力構成設定

CCMPEN	CNTMODE	ASYNC	出力
1	単発動作	0	出力は計数器開始時にHigh、計数器停止時にLowです。
		1	出力は事象到着時にHigh、計数器停止時にLowです。
	8ビットPWM動作	非適用	8ビットPWM動作
	その他の動作	非適用	TCBn.CTRLBレジスタの比較/捕獲ピン初期値(CCMPINIT)ビットが初期出力レベルを選択
0	非適用	非適用	出力なし

周辺機能が許可されている間の動作変更は予期せぬ出力を生成し得るため推奨されません。計時器構成設定中に割り込み要求ﾌﾗｸﾞが設定(1)される可能性があります。周辺機能構成設定後にﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀ割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(TCBn.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀを解除(=0)することが推奨されます。

22.3.3.3. 32ﾋﾞｯﾄ計数捕獲

2つの16ﾋﾞｯﾄ ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀB型(TCBn)は真の32ﾋﾞｯﾄ計数捕獲として動くように結合することができます。

1つのTCBは下位2ﾊﾞｲﾄを計数します。一旦この計数器がMAXに達すると、溢れ(OVF)事象が生成され、計数器は丸められます。2つ目のTCBはこれらのOVF事象を計数するように構成設定され、従って上位2ﾊﾞｲﾄを提供します。32ﾋﾞｯﾄ計数器値は2つの計数器値から連結されます。

32ﾋﾞｯﾄ計数器として機能するには、2つのTCBとｼｽﾃﾑが以下の項で記述されるように準備されなければなりません。

ｼｽﾃﾑ構成設定

- 応用の必要条件に従って下位側TCB用計数入力のために供給元(TCA、事象、CLK_PER)を構成設定してください。
- 下位側TCB(事象生成部)からのOVF事象を上位側TCB(事象使用部)に配線するように事象ｼｽﾃﾑを構成設定してください。
- 同じ捕獲事象(CAPT)生成部を両TCBに配線するように事象ｼｽﾃﾑを構成設定してください。

下位側計数器の構成設定

- 制御A(CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのｸﾛｯｸ選択(CLKSEL)ﾋﾞｯﾄ領域に書くことによって構成設定した計数入力を選んでください。
- 計数捕獲動作の1つを選ぶように制御B(CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの計時器動作(CNTMODE)ﾋﾞｯﾄ領域を書いてください。
- CTRLAの2つのﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀ連結(CASCADE)ﾋﾞｯﾄが'0'でなければなりません。

上位側計数器の構成設定

- CTRLAの2つのﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀ連結(CASCADE)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって32ﾋﾞｯﾄ動作を許可してください。
- CTRLAﾚｼﾞｽﾀのｸﾛｯｸ選択(CLKSEL)ﾋﾞｯﾄ領域を書くことによってｸﾛｯｸ入力として事象を選んでください。
- 下位側TCBと同じ計数捕獲動作を選ぶように制御B(CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの計時器動作(CNTMODE)ﾋﾞｯﾄ領域を書いてください。

32ﾋﾞｯﾄ計数器値捕獲

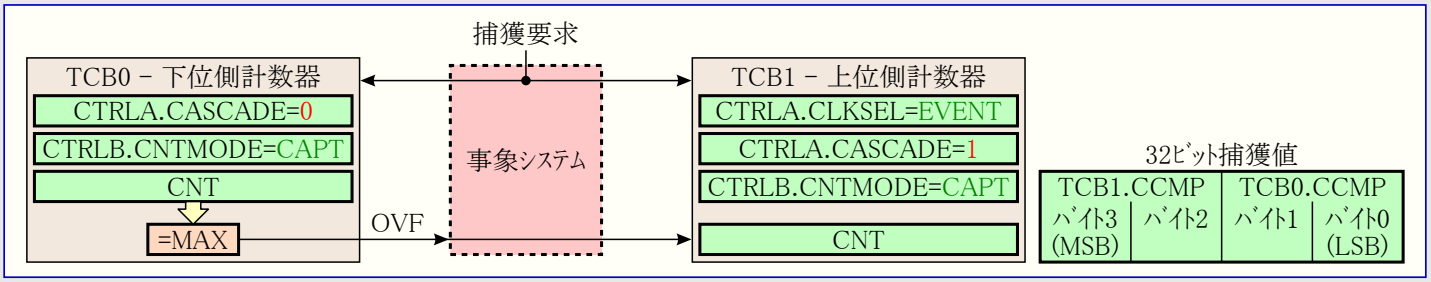
32ﾋﾞｯﾄ計数器値を取得するには両TCBにCAPT事象を送ってください。両TCBは同じ捕獲動作で動いており、故に各々が各々の比較/捕獲(CCMP)ﾚｼﾞｽﾀで現在の計数器値(CNT)を捕獲します。32ﾋﾞｯﾄ捕獲値は2つのCCMPﾚｼﾞｽﾀの連結によって形成されます。

例22-1. 下位側計数器としてTCB0、上位側計数器としてTCB1の使い方

TCB0は計数入力を数え、TCB1はTCB0からのOVF事象を数えます。両TCBは事象での計数捕獲動作です。

CAPT事象が生成され、それらの現在のCNT値をそれら各々のCCMPﾚｼﾞｽﾀに複写させます。2つの異なるCASCADEﾋﾞｯﾄ値が正しいCAPT事象ﾀｲﾐﾝｸﾞを許します。

捕獲した32ﾋﾞｯﾄ値はTCB1.CCMP(上位側)とTCB0.CCMP(下位側)で連結されます。



22.3.3.4. 雑音消去器

雑音消去器は簡単なﾃﾞｼﾞﾀﾙ濾波器の仕組みを用いることによって雑音耐性を改善します。事象制御(TCBn.EVCTRL)ﾚｼﾞｽﾀの雑音濾波器(FILTER)ﾋﾞｯﾄが許可されると、周辺機能は事象ﾁｬﾈﾙを監視して最後の4つの観測試料の記録を維持します。4つの連続する試料が等しければ、その入力は安定と見做され、その信号は端検出器に供給されます。

許可されると、雑音消去器は入力に印加された変化と入力比較ﾚｼﾞｽﾀの更新の間に4ｼｽﾃﾑ ｸﾛｯｸ周期の付加遅延をもたらします。

雑音消去器は周辺機能ｸﾛｯｸを使い、従って、前置分周器によって影響を及ぼされません。

22.3.3.5. ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀA型との同期

TCBは制御A(TCBn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのｸﾛｯｸ選択(CLKSEL)ﾋﾞｯﾄ領域に'10'を書くことによってﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀA型(TCAn)のｸﾛｯｸ(CLK_TCA)を使うように構成設定することができます。この設定でTCBはTCAnで選ばれるのと同じｸﾛｯｸ元で計数します。

制御A(TCBn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの同期更新(SYNCUPD)ﾋﾞｯﾄが'1'を書かれると、TCB計数器はTCAn計数器が再始動する時に再始動します。

22.3.4. 事象

TCBは以下の表で記述される事象を生成することができます。

表22-3. TCBでの事象生成部

生成部名		説明	事象型	生成ｸﾛｯｸ領域	事象長
周辺機能	事象				
TCBn	CAPT	CAPTﾌﾗｸﾞ設定(1)	ﾊﾟﾙｽ	CLK_PER	1 CLK_PER周期
	OVF	OVFﾌﾗｸﾞ設定(1)			

CAPTとOVFの事象を生成するための条件はﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀ割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(TCBn.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀで対応する割り込み要求ﾌﾗｸﾞを掲げるそれらと同じです。事象使用部と事象ｼｽﾃﾑ構成設定に関するより多くの詳細については「EVSYS – 事象ｼｽﾃﾑ」章を参照してください。

TCBは下表で記述される事象を受け取ることができます。

表22-4. TCBでの事象使用部と利用可能な事象活動

使用部名		説明	入力検出	同期/非同期
周辺機能	入力			
TCBn	CAPT	制限時間検査	端	同期
		事象で計数捕獲		
		計数捕獲周波数測定		
		計数捕獲ﾊﾟﾙｽ幅測定		
		計数捕獲周波数/ﾊﾟﾙｽ幅測定		
		単発		両方
	COUNT	事象で計数		同期

CAPTとCOUNTは入力事象で検出して働くTCB事象使用部です。

COUNT事象使用部は制御A(TCBn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのｸﾛｯｸ選択(CLKSEL)ﾋﾞｯﾄ領域をEVENTに変更することによってこの周辺機能で許可され、それによって事象ｼｽﾃﾑを設定します。

事象制御(TCBn.EVCTRL)ﾚｼﾞｽﾀの捕獲事象入力許可(CAPTEI)ﾋﾞｯﾄが'1'を書かれた場合、やって来る事象は制御B(TCBn.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの計時器動作(CNTMODE)ﾋﾞｯﾄ領域とTCBn.EVCTRLﾚｼﾞｽﾀの事象端選択(EDGE)ﾋﾞｯﾄによって定義されたような事象活動になります。事象は認知されるために最低1 CLK_PER周期間留まることが必要です。

単発動作に対して非同期動作が許可された場合、事象は端起動され、1周辺機能ｸﾛｯｸ周期よりも短い事象入力で変更を捕獲します。

22.3.5. 割り込み

表22-5. 利用可能な割り込みﾍﾞｸﾀと供給元

名称	ﾍﾞｸﾀ説明	条件
CAPT	TCB割り込み	動作形態に依存。TCBn.INTFLAGSﾚｼﾞｽﾀのCAPTの記述をご覧ください。
OVF		ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀがMAXからBOTTOMへ溢れ。

割り込み条件が起こると、周辺機能の割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(TCBn.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀで対応する割り込み要求ﾌﾗｸﾞが設定(1)されます。

割り込み元は周辺機能の割り込み制御(TCBn.INTCTRL)ﾚｼﾞｽﾀで対応する許可ﾋﾞｯﾄを書くことによって許可または禁止にされます。

割り込み要求は対応する割り込み元が許可され、割り込み要求ﾌﾗｸﾞが設定(1)される時に生成されます。割り込み要求は割り込み要求ﾌﾗｸﾞが解除(0)されるまで活性に留まります。割り込み要求ﾌﾗｸﾞを解除する方法の詳細については周辺機能のINTFLAGSﾚｼﾞｽﾀをご覧ください。

22.3.6. 休止形態動作

TCBは既定でｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作に於いて禁止されます。休止動作へ移行すると直ぐに停止されます。

制御A(TCBn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのｽﾀﾝﾊﾞｲ時走行(RUNSTDBY)ﾋﾞｯﾄが'1'を書かれた場合、この単位部は完全な動作をすることができます。

全ての動作はﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝ休止動作で停止されます。

22.4. レジスタ要約

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00	CTRLA	7～0		RUNSTDBY	CASCADE	SYNCUPD	CLKSEL2~0			ENABLE
+$01	CTRLB	7～0		ASYNC	CCMPINIT	CCMPEN		CNTMODE2~0		
+$02 ～ +$03	予約									
+$04	EVCTRL	7～0		FILTER		EDGE				CAPTEI
+$05	INTCTRL	7～0							OVF	CAPT
+$06	INTFLAGS	7～0							OVF	CAPT
+$07	STATUS	7～0								RUN
+$08	DBGCTRL	7～0								DBGRUN
+$09	TEMP	7～0	TEMP7~0							
+$0A	CNT	7～0	CNT7~0							
+$0B		15～8	CNT15~8							
+$0C	CCMP	7～0	CCMP7~0							
+$0D		15～8	CCMP15~8							

22.5. ﾚｼﾞｽﾀ説明

22.5.1. CTRLA – 制御A (Control A)

名称 : CTRLA
変位 : +$00
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
		RUNSTDBY	CASCADE	SYNCUPD	CLKSEL2~0			ENABLE
ｱｸｾｽ種別	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ6 – RUNSTDBY : ｽﾀﾝﾊﾞｲ時走行** (Run Standby)

このﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みはこの周辺機能にｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作での走行を許します。

● **ﾋﾞｯﾄ5 – CASCADE : 2つのﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀ連結** (Cascade Two Timer/Counters)

このﾋﾞｯﾄに'1'を書くと、事象ｼｽﾃﾑを使う32ﾋﾞｯﾄ動作用に2つの16ﾋﾞｯﾄ ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀB型(TCBn)の連結を許可します。このﾋﾞｯﾄは上位2ﾊﾞｲﾄ(MSB)に使われるﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀに対して'1'でなければなりません。このﾋﾞｯﾄが'1'の時は捕獲(CAPT)用に選ばれた事象元が1周辺機能ｸﾛｯｸ周期遅らされます。これは事象ｼｽﾃﾑ経由で2つの計数器を連結する時の繰り上げ伝搬遅延を補償します。

● **ﾋﾞｯﾄ4 – SYNCUPD : 同期更新** (Synchronize Update)

このﾋﾞｯﾄが'1'を書かれると、TCBはTCAnが再始動または溢れる時に必ず再始動します。これはPWM周期での同期捕獲に使うことができます。ｸﾛｯｸ元としてTCAnが選ばれた場合、TCBはそのTCAnが再始動した時に再始動します。他のｸﾛｯｸ選択に対してはTCA0と共に再始動します。

● **ﾋﾞｯﾄ3~1 – CLKSEL2~0 : ｸﾛｯｸ選択** (Clock Select)

これらﾋﾞｯﾄの書き込みはこの周辺機能用のｸﾛｯｸ元を選びます。

値	0 0 0	0 0 1	0 1 0	0 1 1	1 0 0	1 0 1	1 1 0	1 1 1
名称	DIV1	DIV2	TCA0	–	–	–	–	EVENT
説明	CLK_PER	CLK_PER/2	TCA0からの CLK_TCA	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	事象入力の正端

● **ﾋﾞｯﾄ0 – ENABLE : 許可** (Enable)

このﾋﾞｯﾄに'1'を書くことがﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀB型周辺機能を許可します。

22.5.2. CTRLB – 制御B (Control B)

名称 : CTRLB
変位 : +$01
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
		ASYNC	CCMPINIT	CCMPEN		CNTMODE2~0		
ｱｸｾｽ種別	R	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ6 – ASYNC : 非同期許可** (Asynchronous Enable)

このﾋﾞｯﾄに'1'を書くことが単発動作でTCB出力信号の非同期更新を許します。

値	0	1
説明	出力は計数器の同期後開始時にHighになります。	出力は事象到着時にHighになります。

● **ﾋﾞｯﾄ5 – CCMPINIT : 比較/捕獲ﾋﾟﾝ初期値** (Compare/Capture Pin Initial Value)

このﾋﾞｯﾄはﾋﾟﾝ出力が使われる時にﾋﾟﾝの初期出力値を設定するのに使われます。このﾋﾞｯﾄは8ﾋﾞｯﾄPWM動作と単発動作で無効です。

値	0	1
説明	初期のﾋﾟﾝ状態はLowです。	初期のﾋﾟﾝ状態はHighです。

● **ﾋﾞｯﾄ4 – CCMPEN : 比較/捕獲出力許可** (Compare/Capture Output Enable)

このﾋﾞｯﾄに'1'を書くと、波形出力を許可します。これは対応するPORT出力ﾚｼﾞｽﾀの値を無効にして対応するﾋﾟﾝで波形出力を利用可能にします。対応するﾋﾟﾝ方向はPORT周辺機能で出力として構成設定されなければなりません。

値	0	1
説明	対応ﾋﾟﾝで波形出力は許可されません。	波形出力は対応ﾋﾟﾝの出力値を上書きします。

● **ﾋﾞｯﾄ2~0 – CNTMODE2~0 : 計時器動作** (Timer Mode)

このﾋﾞｯﾄ領域への書き込みは計時器動作を選びます。

値	000	001	010	011
名称	INT	TIMEOUT	CAPT	FRQ
説明	周期的割り込み動作	制限時間検査動作	事象での計数捕獲動作	計数捕獲周波数測定動作

値	100	101	110	111
名称	PW	FRQPW	SINGLE	PWM8
説明	計数捕獲ﾊﾟﾙｽ幅測定動作	計数捕獲周波数/ﾊﾟﾙｽ幅測定動作	単発動作	8ﾋﾞｯﾄPWM動作

22.5.3. EVCTRL – 事象制御 (Event Control)

名称 : EVCTRL
変位 : +$04
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
		FILTER		EDGE				CAPTEI
ｱｸｾｽ種別	R	R/W	R	R/W	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ6 – FILTER : 捕獲入力雑音消去濾波器許可** (Input Capture Noise Cancellation Filter)

このﾋﾞｯﾄに'1'を書くことが捕獲入力雑音消去部を許可します。

● **ﾋﾞｯﾄ4 – EDGE : 事象端選択** (Event Edge)

このﾋﾞｯﾄは事象端を選ぶのに使われます。このﾋﾞｯﾄの影響は制御B(TCBn.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀで選んだ計数動作(CNTMODE)に依存します。"–"は事象や端がこの動作で無効なことを意味します。

計数動作	EDGE	正(上昇)端	負(下降)端
周期的割り込み動作	0	–	
	1	–	
制限時間検査動作	0	計数開始	計数停止
	1	計数停止	計数開始
事象での計数捕獲動作	0	計数値を捕獲、割り込み	–
	1	–	計数値を捕獲、割り込み
計数捕獲周波数測定動作	0	計数値を捕獲/解消/再開、割り込み	–
	1	–	計数値を捕獲/解消/再開、割り込み
計数捕獲ﾊﾟﾙｽ幅測定動作	0	計数値を解消/再開	計数値を捕獲、割り込み
	1	計数値を捕獲、割り込み	計数値を解消/再開
計数捕獲周波数/ﾊﾟﾙｽ幅測定動作	0	第1正端で計数値を解消/再開、後続する負端で捕獲、第2正端で停止と割り込み	
	1	第1負端で計数値を解消/再開、後続する正端で捕獲、第2負端で停止と割り込み	
単発動作	0	計数開始	–
	1	計数開始	計数開始
8ﾋﾞｯﾄPWM動作	0	–	
	1	–	

● **ﾋﾞｯﾄ0 – CAPTEI : 捕獲事象入力許可** (Capture Event Input Enable)

このﾋﾞｯﾄに'1'を書くことがTCBに対する事象入力捕獲を許可します。

22.5.4. INTCTRL – 割り込み制御 (Interrupt Control)

名称 : INTCTRL
変位 : +$05
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
							OVF	CAPT
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ1 – OVF : 溢れ割り込み許可** (Overflow Interrupt Enable)

このﾋﾞｯﾄに'1'を書くことが溢れでの割り込みを許可します。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – CAPT : 捕獲割り込み許可** (Capture Interrupt Enable)

このﾋﾞｯﾄに'1'を書くことが捕獲での割り込みを許可します。

22.5.5. INTFLAGS – 割り込み要求ﾌﾗｸﾞ (Interrupt Flags)

名称 : INTFLAGS
変位 : +$06
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
							OVF	CAPT
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ1 – OVF : 溢れ割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (Overflow Interrupt Flag)

このﾋﾞｯﾄは溢れ割り込み発生時に設定(1)されます。このﾌﾗｸﾞはﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀがMAXからBOTTOMに丸められる時に必ず設定(1)されます。

このﾋﾞｯﾄはこのﾋﾞｯﾄ位置に'1'を書くことによって解除(0)されます。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – CAPT : 捕獲割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (Capture Interrupt Flag)

このﾋﾞｯﾄは捕獲割り込み発生時に設定(1)されます。割り込み条件は制御B(TCBn.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの計数動作(CNTMODE)ﾋﾞｯﾄ領域に依存します。

このﾋﾞｯﾄはこれに'1'を書くことによって、または捕獲動作で比較/捕獲(CCMP)ﾚｼﾞｽﾀが読まれた時に解除(0)されます。

計数器動作	割り込み設定条件	TOP値	CAPT
周期的割り込み動作	計数器がTOPに達した時に設定(1)	CCMP	CNT=TOP
制限時間検査動作			
単発動作			
計数捕獲周波数測定動作	捕獲ﾚｼﾞｽﾀを設定して計数器再始動時端で設定(1)、ﾌﾗｸﾞは捕獲読み込み時に解除(0)	–	事象でCNTをCCMPに複写、計数再開(CNT=BOTTOM)
事象での計数捕獲動作	事象が起きて捕獲ﾚｼﾞｽﾀが設定される時に設定(1)、ﾌﾗｸﾞは捕獲読み込み時に解除(0)		事象でCNTをCCMPに複写、計数継続
計数捕獲ﾊﾟﾙｽ幅測定動作	捕獲ﾚｼﾞｽﾀを設定して計数器再始動時端で設定(1)、直前端で計数器初期化、ﾌﾗｸﾞは捕獲読み込み時に解除(0)		
計数捕獲周波数/ﾊﾟﾙｽ幅測定動作	計数器停止時の第2(正/負)端で設定(1)、ﾌﾗｸﾞは捕獲読み込み時に解除(0)		
8ﾋﾞｯﾄPWM動作	計数器がCCMPLに達した時に設定(1)	CCMPL	CNT=CCMPL

22.5.6. STATUS – 状態 (Status)

名称 : STATUS
変位 : +$07
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
								RUN
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ0 – RUN : 走行** (Run)

計数器が走行している時にこのﾋﾞｯﾄが'1'に設定されます。計数器が停止されると、このﾋﾞｯﾄが'0'に解除されます。

このﾋﾞｯﾄは読み込み専用でUPDIによって設定することはできません。

22.5.7. DBGCTRL – ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ制御 (Debug Control)

名称 : DBGCTRL
変位 : +$08
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
								DBGRUN
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ0 – DBGRUN : ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ時走行** (Debug Run)

値	0	1
説明	中断ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ動作で停止され事象を無視	中断ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ動作でCPU停止時に走行継続

22.5.8. TEMP – 一時ﾚｼﾞｽﾀ (Temporary Value)

名称 : TEMP
変位 : +$09
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

一時ﾚｼﾞｽﾀはこの周辺機能の16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀへの16ﾋﾞｯﾄ単一周期ｱｸｾｽのためにCPUによって使われます。このﾚｼﾞｽﾀはこの周辺機能の全ての16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀに対して共通で、ｿﾌﾄｳｪｱによって読み書きすることができます。16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀ読み書きのより多くの詳細については「ﾒﾓﾘ」章の「16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀのｱｸｾｽ」を参照してください。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	TEMP7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – TEMP7~0 : 一時値** (Temporary Value)

22.5.9. CNT – 計数 (Count)

名称 : CNT (CNTH,CNTL)
変位 : +$0A
ﾘｾｯﾄ : $0000
特質 : –

TCBn.CNTHとTCBn.CNTLのﾚｼﾞｽﾀ対は16ﾋﾞｯﾄ値のTCBn.CNTを表します。下位ﾊﾞｲﾄ[7～0](接尾辞L)は変位原点でｱｸｾｽできます。上位ﾊﾞｲﾄ[15～8](接尾辞H)は変位+1でｱｸｾｽすることができます。

CPUとUPDIの書き込みｱｸｾｽはﾚｼﾞｽﾀの内部更新を超える優先権を持ちます。

ﾋﾞｯﾄ	15	14	13	12	11	10	9	8
	CNT15~8							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	CNT7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ15~8 – CNT15~8 : 計数値上位ﾊﾞｲﾄ** (Count Value high)

これらのﾋﾞｯﾄは16ﾋﾞｯﾄ計数ﾚｼﾞｽﾀの上位ﾊﾞｲﾄを保持します。

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – CNT7~0 : 計数値下位ﾊﾞｲﾄ** (Count Value low)

これらのﾋﾞｯﾄは16ﾋﾞｯﾄ計数ﾚｼﾞｽﾀの下位ﾊﾞｲﾄを保持します。

22.5.10. CCMP – 比較/捕獲 (Compare/Capture)

名称 : CCMP (CCMPH,CCMPL)
変位 : +$28
ﾘｾｯﾄ : $0000
特質 : –

TCBn.CCMPHとTCBn.CCMPLのﾚｼﾞｽﾀ対は16ﾋﾞｯﾄ値のTCBn.CCMPを表します。下位ﾊﾞｲﾄ[7～0](接尾辞L)は変位原点でｱｸｾｽできます。上位ﾊﾞｲﾄ[15～8](接尾辞H)は変位+1でｱｸｾｽすることができます。

このﾚｼﾞｽﾀは動作形態に依存して異なる機能を持ちます。

- 捕獲動作に対して、これらのﾚｼﾞｽﾀは捕獲発生時に捕獲された計数器の値を含みます。
- 周期的割り込み、制限時間検査、単発の動作でこのﾚｼﾞｽﾀはTOP値として働きます。
- 8ﾋﾞｯﾄPWM動作ではTCBn.CCMPHとTCBn.CCMPLは2つの独立した比較ﾚｼﾞｽﾀとして働きます。波形の周期がCCMPLによって制御される一方で、CCMPHがﾃﾞｭｰﾃｨ ｻｲｸﾙを制御します。

ﾋﾞｯﾄ	15	14	13	12	11	10	9	8
	CCMP15~8							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	CCMP7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ15~8 – CCMP15~8 : 比較/捕獲値上位ﾊﾞｲﾄ** (Compare/Capture Value high byte)

これらのﾋﾞｯﾄは16ﾋﾞｯﾄの比較/捕獲/TOP値の上位ﾊﾞｲﾄを保持します。

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – CCMP7~0 : 比較/捕獲値下位ﾊﾞｲﾄ** (Compare/Capture Value low byte)

これらのﾋﾞｯﾄは16ﾋﾞｯﾄの比較/捕獲/TOP値の下位ﾊﾞｲﾄを保持します。

23. RTC – 実時間計数器

23.1. 特徴

- 16ﾋﾞｯﾄ分解能
- 選択可能なｸﾛｯｸ元
- 設定可能な15ﾋﾞｯﾄ ｸﾛｯｸ前置分周
- 1つの比較ﾚｼﾞｽﾀ
- 1つの定期ﾚｼﾞｽﾀ
- 定期上昇溢れでの計数器解消
- 任意選択の上昇溢れと比較一致での割り込み/事象
- 周期的な割り込みと事象
- ｸﾘｽﾀﾙ誤差修正

23.2. 概要

RTC周辺機能は実時間計数器(RTC:Real-Time Couter)と周期的割り込み計時器(PIT:Priodic Interrupt Timer)の2つのﾀｲﾐﾝｸﾞ機能を提供します。

PIT機能はRTC機能から独立して許可することができます。

RTC – 実時間計数器

RTCは計数ﾚｼﾞｽﾀで(前置分周された)ｸﾛｯｸ周期を計数し、計数ﾚｼﾞｽﾀの内容を定期ﾚｼﾞｽﾀ及び比較ﾚｼﾞｽﾀと比較します。

RTCは比較一致または溢れで割り込みと事象の両方を生成することができます。計数器値が比較ﾚｼﾞｽﾀ値と等しい後の最初の計数で比較割り込みや事象を、計数器値が定期ﾚｼﾞｽﾀ値と等しい後の最初の計数で溢れ割り込みや事象を生成します。溢れは計数器値を0にﾘｾｯﾄします。

RTC周辺機能は時間の経緯を保つよう、一般的に低電力休止動作形態を含み継続して動きます。これは規則的な間隔で休止動作形態からﾃﾞﾊﾞｲｽを起き上がらせたり、ﾃﾞﾊﾞｲｽに割り込むことができます。

基準ｸﾛｯｸは代表的に外部ｸﾘｽﾀﾙからの32.768kHz出力です。RTCは外部ｸﾛｯｸ信号、32.768kHz内部超低電力発振器(OSCULP32K)、または32分周されたOSCULP32Kからもｸﾛｯｸ駆動することができます。

RTC周辺機能は計数器へ至る前に基準ｸﾛｯｸを下げることができる設定可能な15ﾋﾞｯﾄの前置分周器を含みます。RTCに対して広範囲の分解能と時間限度を構成設定することができます。32.768kHzのｸﾛｯｸ元とで、最大分解能は30.5µsで、時間限度期間は2sまでにすることができます。1sの分解能とで、最大時間限度期間は18時間よりも多くなります(65536s)。

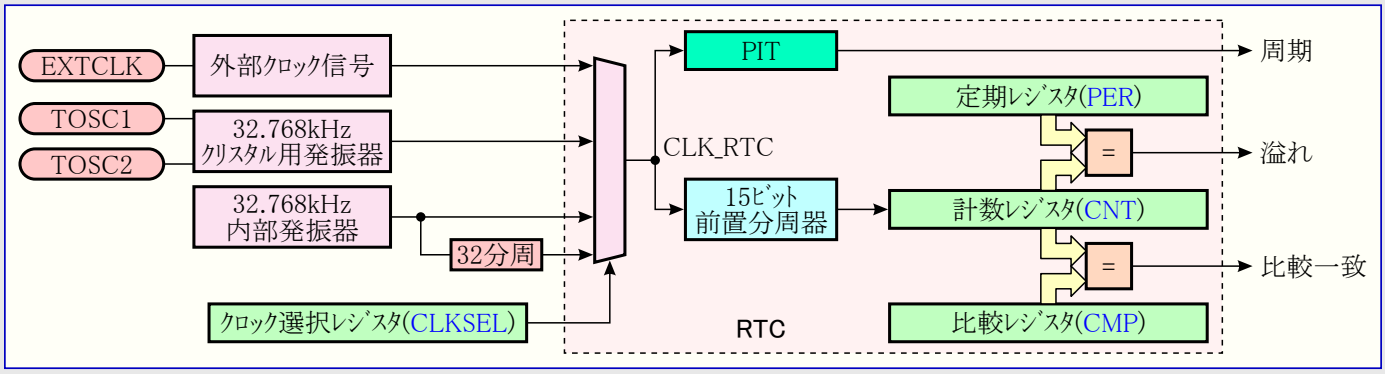
RTCは外部ｸﾘｽﾀﾙ選択を用いる動作時のｸﾘｽﾀﾙ誤差修正を支援します。修正のために外部的に校正された値が使われます。ｿﾌﾄｳｪｱはRTCを±1ppmで調整することができ、最大調整は±127ppmです。RTC修正動作はｸﾘｽﾀﾙ誤差を考慮するために前置分周器を(計数を飛ばすことによる)加速または(余分な計数を追加することによる)減速のどちらかを行います。

PIT – 周期的割り込み計時器

PITはRTC機能と同じｸﾛｯｸ元を使い、毎回の第nｸﾛｯｸ周期で割り込み要求やﾚﾍﾞﾙ事象を生成することができます。nは割り込みに対して4,8,16,～32768、事象に対して64,128,256,～8192から選ぶことができます。

23.2.1. 構成図

図23-1. RTC構成図



23.3. ｸﾛｯｸ

周辺機能ｸﾛｯｸ(CLK_PER)は前置分周器設定と無関係に計数器値を読むためにRTCｸﾛｯｸ(CLK_RTC)よりも最低4倍速いことが必要とされます。

32.768kHzｸﾘｽﾀﾙは必要とされる何れかの負荷容量と共にTOSC1とTOSC2のﾋﾟﾝに接続することができます。代わりに、外部ﾃﾞｼﾞﾀﾙｸﾛｯｸをTOSC1ﾋﾟﾝに接続することができます。

23.4. RTCの機能的な説明

RTC周辺機能は実時間計数器(RTC)と周期的割り込み計時器(PIT)の2つのﾀｲﾐﾝｸﾞ機能を提供します。

23.4.1. 初期化

RTC周辺機能と望む活動(割り込み要求、出力事象)を許可する前に、RTCを動かすためにRTC計数器用の供給元ｸﾛｯｸが構成設定されなければなりません。

23.4.1.1. CLK_RTCｸﾛｯｸ構成設定

CLK_RTCを構成設定するには以下のこれらの手順に従ってください。

1. ｸﾛｯｸ制御器(CLKCTRL)周辺機能で望む発振器を必要とされる動作に構成設定してください。
2. それに応じてｸﾛｯｸ選択(RTC.CLKSEL)ﾚｼﾞｽﾀのｸﾛｯｸ選択(CLKSEL)ﾋﾞｯﾄ領域を書いてください。

CLK_RTCｸﾛｯｸ構成設定はRTCとPITの両機能によって使われます。

23.4.1.2. RTC構成設定

RTCを動かすには以下のこれらの手順に従ってください。

1. 比較(RTC.CMP)ﾚｼﾞｽﾀに比較値、定期(RTC.PER)ﾚｼﾞｽﾀに溢れ値を設定してください。
2. 割り込み制御(RTC.INTCTRL)ﾚｼﾞｽﾀで各々の割り込み許可(CMP,OVF)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって望む割り込みを許可してください。
3. 制御A(RTC.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀで前置分周器(PRESCALER)ﾋﾞｯﾄ領域に望む値を書くことによってRTC内部前置分周器を構成設定してください。
4. RTC.CTRLAﾚｼﾞｽﾀでRTC周辺機能許可(RTCEN)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによってRTCを許可してください。

23.4.2. 操作 – RTC

23.4.2.1. 許可と禁止

RTCは制御Aﾚｼﾞｽﾀ(RTC.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのRTC周辺機能許可(RTCEN)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって許可されます。RTCはRTC.CTRLAのRTCENﾋﾞｯﾄに'0'を書くことによって禁止されます。

23.5. PITの機能的な説明

RTC周辺機能は実時間計数器(RTC)と周期割り込み計時器(PIT)の2つのﾀｲﾐﾝｸﾞ機能を提供します。

23.5.1. 初期化

PITを動かすには以下のこれらの手順に従ってください。

1. 「23.4.1.1. CLK_RTCｸﾛｯｸ構成設定」項で記述されるようにRTCｸﾛｯｸ(CLK_RTC)を構成設定してください。
2. 周期割り込み計時器割り込み制御(RTC.PITINTCTRL)ﾚｼﾞｽﾀの周期割り込み許可(PI)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって割り込みを許可してください。
3. 周期割り込み計時器制御A(RTC.PITCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀで周期(PERIOD)ﾋﾞｯﾄ領域に望む値と周期割り込み計時器許可(PITEN)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって割り込み周期を選んでPITを許可してください。

23.5.2. 操作 – PIT

23.5.2.1. 許可と禁止

PITは周期割り込み計時器制御A(RTC.PITCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの周期割り込み計時器許可(PITEN)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって許可されます。PITはRTC.PITCTRLAのPITENﾋﾞｯﾄに'0'を書くことによって禁止されます。

23.5.2.2. PIT割り込みﾀｲﾐﾝｸﾞ

初回割り込みのﾀｲﾐﾝｸﾞ

PITとRTCの両機能は前置分周器内側の同じ計数器で動き、下で記述されるように構成設定することができます。

- RTC割り込み周期は定期(RTC.PER)ﾚｼﾞｽﾀを書くことによって構成設定されます。
- PIT割り込み周期は周期割り込み計時器制御A(RTC.PITCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの周期(PERIOD)ﾋﾞｯﾄ領域を書くことによって構成設定されます。

前置分周器は両機能がOFF(RTC.CTRLAのRTC周辺機能許可(RTCEN)ﾋﾞｯﾄとRTC.PITCTRLAの周期割り込み計時器許可(PITEN)ﾋﾞｯﾄが0)の時にOFFですが、どちらかの機能が許可されると動きます(即ち、内部計数器が計数します)。この理由のため、最初のPIT割り込みとRTC計数刻みのﾀｲﾐﾝｸﾞは未知(許可と完全な周期間の何時か)です。

継続動作

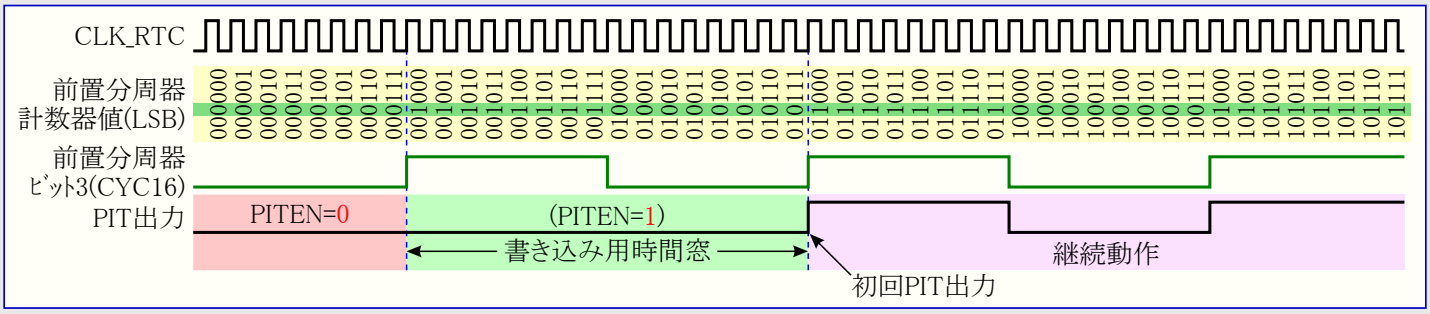
初回割り込み後、PITは完全なPIT周期信号に帰着する1/2 PIT周期毎の交互切り替えを続けます。

例23-1. PERIOD=CYC16に対するPITタイミング図

RTC.PITCTRLAでのPERIOD=CYC16に対して、PITは事実上前置分周器計数器ビット3の状態に従い、故に結果の割り込み出力は16 CLK_RTC周回の周期を持ちます。

初回PIT割り込みとPITENへの'1'書き込み間の時間は実質的に0と(n CLK_RTC周期の)PIT周期間で変わり得ます。PIT許可とそれの初回出力間の正確な遅延は前置分周器の計数段階に依存し、下で示される初回割り込みは先行する時間窓内側の何処かでPITENへ'1'を書くことによってもたらされます。

図23-2. PIT許可と初回割り込み間のタイミング



23.6. クリスタル誤差修正

RTCとPIT用の前置分周器は制御A(RTC.CTRLA)レジスタの周波数修正許可(CORREN)ビットが'1'の時にクリスタル周波数校正(CALIB)レジスタからのppm誤差値を使うことによってクリスタル クロックの内部周波数修正を行うことができます。

CALIBレジスタは周波数誤差についての情報に基づき、使用者によって書かれなければなりません。100万周期間隔を通して分散してRTC.CALIBレジスタ内の誤差修正値(ERROR)ビット領域で与えられる値に等しいいくつかの周期を追加または削除することによって修正操作を実行してください。

計数(RTC.CNT)レジスタを通して利用可能なRTC計数値またはPIT間隔はこのクロック修正を反映します。

修正機能を禁止した場合、進行中の修正周回はこの機能が禁止されるのに先立って完了されます。

注: 負の修正でこの機能を使う場合、最小前置分周構成設定は2分周(DIV2)です。

23.7. 事象

RTCは次表で記述される事象を生成することができます。

表23-1. RTC事象生成部

生成部名		説明	事象型	生成クロック領域	事象長
周辺機能	事象				
RTC	OVF	溢れ	パルス	CLK_RTC	1 CLK_RTC周期
	CMP	比較一致			
	PIT_DIV8192	8196前置分周したRTCクロック	レベル		8196前置分周したRTCクロックで与えられる
	PIT_DIV4096	4096前置分周したRTCクロック			4096前置分周したRTCクロックで与えられる
	PIT_DIV2048	2048前置分周したRTCクロック			2048前置分周したRTCクロックで与えられる
	PIT_DIV1024	1024前置分周したRTCクロック			1024前置分周したRTCクロックで与えられる
	PIT_DIV512	512前置分周したRTCクロック			512前置分周したRTCクロックで与えられる
	PIT_DIV256	256前置分周したRTCクロック			256前置分周したRTCクロックで与えられる
	PIT_DIV128	128前置分周したRTCクロック			128前置分周したRTCクロックで与えられる
	PIT_DIV64	64前置分周したRTCクロック			64前置分周したRTCクロックで与えられる

OVFとCMPの事象を生成するための条件は割り込み要求フラグ(RTC.INTFLAGS)レジスタで対応する割り込み要求フラグを掲げるそれらと同じです。

事象使用部と事象システム構成設定に関するより多くの詳細については「EVSYS – 事象システム」章を参照してください。

23.8. 割り込み

表23-2. 利用可能な割り込みﾍﾞｸﾀと供給元

名称	ﾍﾞｸﾀ説明	条件
RTC	実時間計数器溢れと 比較一致割り込み	・溢れ(OVF)　：計数器が定期(RTC.PER)ﾚｼﾞｽﾀからの値に達して0に丸められる ・比較一致(CMP)：計数器(RTC.CNT)ﾚｼﾞｽﾀからの値と比較(RTC.CMP)ﾚｼﾞｽﾀからの値間で一致
PIT	周期割り込み計時器割り込み	RTC.PITCTRLAのPERIODﾋﾞｯﾄ領域で構成設定したように時間周期通過

割り込み条件が起こると、周辺機能の割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(RTC.INTFLAGS, RTC.PITINTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀで対応する割り込み要求ﾌﾗｸﾞが設定(1)されます。

割り込み元は周辺機能の割り込み制御(RTC.INTCTRL, RTC.PITINTCTRL)ﾚｼﾞｽﾀで対応する許可ﾋﾞｯﾄを書くことによって許可または禁止にされます。

割り込み要求は対応する割り込み元が許可され、割り込み要求ﾌﾗｸﾞが設定(1)される時に生成されます。割り込み要求は割り込み要求ﾌﾗｸﾞが解除(0)されるまで活性に留まります。割り込み要求ﾌﾗｸﾞを解除する方法の詳細については周辺機能の(PIT)INTFLAGSﾚｼﾞｽﾀをご覧ください。

注:・RTCはRTC用のRTC.INTFLAGSとPIT用のRTC.PITINTFLAGSの2つのINTFLAGSﾚｼﾞｽﾀを持ちます。
・RTCはRTC用のRTC.INTCTRLとPIT用のRTC.PITINTCTRLの2つのINTCTRLﾚｼﾞｽﾀを持ちます。

23.9. 休止形態動作

RTCはｱｲﾄﾞﾙ休止動作で動作を続けます。制御Aﾚｼﾞｽﾀ(RTC.CTRLA)のｽﾀﾝﾊﾞｲ時走行(RUNSTDBY)ﾋﾞｯﾄが設定(1)なら、ｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作で走行します。

PITはどの休止動作形態でも動作を続けます。

23.10. 同期

RTCとPITは共に非同期で、周辺機能ｸﾛｯｸ(CLK_PER)から独立した違うｸﾛｯｸ元(CLK_RTC)で動きます。制御と計数ﾚｼﾞｽﾀ更新に関して、更新されたﾚｼﾞｽﾀ値がﾚｼﾞｽﾀで利用可能になる前、または構成設定変更が各々RTCやPITに影響を及ぼすまで、RTCｸﾛｯｸや周辺機能ｸﾛｯｸで多少の周期数がかかります。この同期時間はﾚｼﾞｽﾀ説明項で各ﾚｼﾞｽﾀに対して記述されます。

いくつかのRTCﾚｼﾞｽﾀに関して、状態(RTC.STATUS)ﾚｼﾞｽﾀで同期多忙(CMPBUSY, PERBUSY, CNTBUSY, CTRLABUSY)ﾌﾗｸﾞが利用可能です。

周期割り込み計時器制御A(RTC.PITCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀについては、周期割り込み計時器状態(RTC.PITSTATUS)ﾚｼﾞｽﾀでPIT制御A同期多忙(CTRLBUSY)ﾌﾗｸﾞが利用可能です。

言及したﾚｼﾞｽﾀへ書く前にこれらのﾌﾗｸﾞを調べてください。

23.11. ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ操作

ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ制御(DBGCTRL)ﾚｼﾞｽﾀのﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ時走行(DBGRUN)ﾋﾞｯﾄが'1'の場合、RTCは標準動作を続けます。DBGRUNが'0'でCPUが停止された場合、RTCは動作を停止してどの到着事象も無視します。

周期割り込み計時器ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ制御(PITDBGCTRL)ﾚｼﾞｽﾀのﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ時走行(DBGRUN)ﾋﾞｯﾄが'1'の場合、PITは標準動作を続けます。ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ動作に於いてDBGRUNが'0'でCPUが停止された場合、PIT出力はLowです。その時にPIT出力がHighだったなら、中断から再始動する時に割り込み要求ﾌﾗｸﾞを設定(1)するために新しい正端が起きます。結果は標準動作中に起こらない追加のPIT割り込みです。中断でPIT出力がLowだったなら、PITは追加の割り込みなしでLowを再開します。

23.12. レジスタ要約

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00	CTRLA	7～0	RUNSTDBY	PRESCALER3~0				CORREN		RTCEN
+$01	STATUS	7～0					CMPBUSY	PERBUSY	CNTBUSY	CTRLABUSY
+$02	INTCTRL	7～0							CMP	OVF
+$03	INTFLAGS	7～0							CMP	OVF
+$04	TEMP	7～0	TEMP7~0							
+$05	DBGCTRL	7～0								DBGRUN
+$06	CALIB	7～0	SIGN	ERROR6~0						
+$07	CLKSEL	7～0							CLKSEL1,0	
+$08	CNT	7～0	CNT7~0							
+$09		15～8	CNT15~8							
+$0A	PER	7～0	PER7~0							
+$0B		15～8	PER15~8							
+$0C	CMP	7～0	CMP7~0							
+$0D		15～8	CMP15~8							
+$0E ～ +$0F	予約									
+$10	PITCTRLA	7～0		PERIOD3~0						PITEN
+$11	PITSTATUS	7～0								CTRLBUSY
+$12	PITINTCTRL	7～0								PI
+$13	PITINTFLAGS	7～0								PI
+$14	予約									
+$15	PITDBGCTRL	7～0								DBGRUN

23.13. レジスタ説明

23.13.1. CTRLA – 制御A (Control A)

名称 : CTRLA
変位 : +$00
リセット : $00
特質 : –

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
	RUNSTDBY	PRESCALER3~0				CORREN		RTCEN
アクセス種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット7 – RUNSTDBY : スタンバイ時走行** (Run Standby)

値	0	1
説明	スタンバイ休止動作でRTC禁止	スタンバイ休止動作でRTC許可

● **ビット6~3 – PRESCALER3~0 : 前置分周器** (Prescaler)

これらのビットはCLK_RTCクロック信号の前置分周を定義します。

値	0000	0001	0010	0011	0100	0101	0110	0111
名称	DIV1	DIV2	DIV4	DIV8	DIV16	DIV32	DIV64	DIV128
説明	CLK_RTC/1	CLK_RTC/2	CLK_RTC/4	CLK_RTC/8	CLK_RTC/16	CLK_RTC/32	CLK_RTC/64	CLK_RTC/128
値	1000	1001	1010	1011	1100	1101	1110	1111
名称	DIV256	DIV512	DIV1024	DIV2048	DIV4096	DIV8192	DIV16384	DIV32768
説明	CLK_RTC/256	CLK_RTC/512	CLK_RTC/1024	CLK_RTC/2048	CLK_RTC/4096	CLK_RTC/8192	CLK_RTC/16384	CLK_RTC/32768

● **ビット2 – CORREN : 周波数修正許可** (Frequency Correction Enablee)

値	0	1
説明	周波数修正禁止	周波数修正許可

● **ビット0 – RTCEN : RTC周辺機能許可** (RTC Peripheral Enable)

値	0	1
説明	RTC周辺機能禁止	RTC周辺機能許可

重要: RTCクロックと主クロック領域間同期のため、レジスタ更新からそれが効果を持つまでに2 RTCクロック周期の遅れがあります。応用ソフトウェアはこのレジスタを書く前に状態(RTC.STATUS)レジスタの制御A同期多忙(CTRLABUSY)フラグが解除(0)されているのを確認しなければなりません。

23.13.2. STATUS – 状態 (Status)

名称 : STATUS
変位 : +$01
リセット : $00
特質 : –

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
					CMPBUSY	PERBUSY	CNTBUSY	CTRLABUSY
アクセス種別	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット3 – CMPBUSY : 比較同期多忙** (Compare Synchronization Busy)

このビットはRTCがRTCクロック領域で比較(RTC.CMP)レジスタを同期中多忙の時に'1'です。

● **ビット2 – PERBUSY : 定期同期多忙** (Period Synchronization Busy)

このビットはRTCがRTCクロック領域で定期(RTC.PER)レジスタを同期中多忙の時に'1'です。

● **ビット1 – CNTBUSY : 計数器同期多忙** (Counter Synchronization Busy)

このビットはRTCがRTCクロック領域で計数(RTC.CNT)レジスタを同期中多忙の時に'1'です。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – CTRLABUSY : 制御A同期多忙** (Control A Synchronization Busy)

このﾋﾞｯﾄはRTCがRTCｸﾛｯｸ領域で制御A(RTC.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀを同期中多忙の時に'1'です。

23.13.3. INTCTRL – 割り込み制御 (Interrupt Control)

名称 : INTCTRL
変位 : +$02
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
							CMP	OVF
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ1 – CMP : 比較一致割り込み許可** (Compare Match Interrupt Enable)

比較一致での(即ち、計数(RTC.CNT)ﾚｼﾞｽﾀ値が比較(RTC.CMP)ﾚｼﾞｽﾀ値と一致した時の)割り込みを許可します。

値	0	1
説明	比較一致割り込みは禁止されます。	比較一致割り込みは許可されます。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – OVF : 溢れ割り込み許可** (Overflow Interrupt Enable)

計数器溢れでの(即ち、計数(RTC.CNT)ﾚｼﾞｽﾀ値が定期(RTC.PER)ﾚｼﾞｽﾀ値と一致して0に丸められる時の)割り込みを許可します。

値	0	1
説明	溢れ割り込みは禁止されます。	溢れ割り込みは許可されます。

23.13.4. INTFLAGS – 割り込み要求ﾌﾗｸﾞ (Interrupt Flag)

名称 : INTFLAGS
変位 : +$03
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
							CMP	OVF
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ1 – CMP : 比較一致割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (Compare Match Interrupt Flag)

このﾌﾗｸﾞは計数(RTC.CNT)ﾚｼﾞｽﾀ値が比較(RTC.CMP)ﾚｼﾞｽﾀ値と一致した時に設定(1)されます。

このﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みがこのﾌﾗｸﾞを解除(0)します。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – OVF : 溢れ割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (Overflow Interrupt Flag)

このﾌﾗｸﾞは計数(RTC.CNT)ﾚｼﾞｽﾀ値が定期(RTC.PER)ﾚｼﾞｽﾀ値と一致して0に丸められる時に設定(1)されます。

このﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みがこのﾌﾗｸﾞを解除(0)します。

23.13.5. TEMP – 一時ﾚｼﾞｽﾀ (Temporary)

名称 : TEMP
変位 : +$04
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

一時ﾚｼﾞｽﾀはこの周辺機能の16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀへの16ﾋﾞｯﾄ単一周期ｱｸｾｽのためにCPUによって使われます。このﾚｼﾞｽﾀはこの周辺機能の全ての16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀに対して共通でｿﾌﾄｳｪｱによって読み書きすることができます。「ﾒﾓﾘ」章の「16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀのｱｸｾｽ」を参照してください。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	TEMP7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – TEMP7~0 : 一時値** (Temporary)

16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀでの読み書き操作用一時ﾚｼﾞｽﾀ

23.13.6. DBGCTRL – ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ制御 (Debug Control)

名称 : DBGCTRL
変位 : +$05
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
								DBGRUN
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ0 – DBGRUN : ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ時走行** (Debug Run)

値	0	1
説明	RTCはﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ動作中断で停止し、事象を無視	RTCはCPU停止中のﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ動作中断で走行継続

23.13.7. CALIB – ｸﾘｽﾀﾙ周波数校正 (Crystal Frequency Calibration)

名称 : CALIB
変位 : +$06
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

このﾚｼﾞｽﾀは行う修正形式と誤差値を格納します。このﾚｼﾞｽﾀは外部校正や温度校正に基づく誤差値でｿﾌﾄｳｪｱによって書かれます。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	SIGN	ERROR6~0						
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7 – SIGN : 誤差修正符号ﾋﾞｯﾄ** (Error Correction Sign Bit)

このﾋﾞｯﾄは修正の方向を示すのに使われます。

値	0	1
説明	前置分周器により遅く計数させる正修正	前置分周器により速く計数させる負修正。 これは最小前置分周器構成設定がDIV2であることが必要

● **ﾋﾞｯﾄ6~0 – ERROR6~0 : 誤差修正値** (Error Correction Value)

各100万RTCｸﾛｯｸ周期間隔に対する修正ｸﾛｯｸ数(ppm)

23.13.8. CLKSEL – ｸﾛｯｸ選択 (Clock Selection)

名称 : CLKSEL
変位 : +$07
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
							CLKSEL1,0	
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ1,0 – CLKSEL1,0 : ｸﾛｯｸ選択** (Clock Select)

これらのﾋﾞｯﾄ書き込みはRTCｸﾛｯｸ(CLK_RTC)用の供給元を選びます。

RTCをXOSC32KまたはXTAL32K1での外部ｸﾛｯｸのどちらかで使うように構成設定すると、XOSC32Kは許可されることが必要で、ｸﾛｯｸ制御器のXOSC32K制御A(CLKCTRL.XOSC32KCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの供給元選択(SEL)ﾋﾞｯﾄとｽﾀﾝﾊﾞｲ時走行(RUNSTDBY)ﾋﾞｯﾄはそれに応じて構成設定されなければなりません。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	INT32K	INT1K	TOSC32K	EXTCLK
説明	OSCULP32Kからの 32.768kHz	OSCULP32Kからの 1.024kHz	XOSC32Kからの32.768kHz またはTOSC1からの外部ｸﾛｯｸ	EXTCLKﾋﾟﾝからの 外部ｸﾛｯｸ

23.13.9. CNT – 計数 (Count)

名称 : CNT (CNTH,CNTL)
変位 : +$08
リセット : $0000
特質 : –

RTC.CNTHとRTC.CNTLのレジスタ対は16ビット値のRTC.CNTを表します。下位バイト[7～0](接尾辞L)は変位原点でアクセスできます。上位バイト[15～8](接尾辞H)は変位+1でアクセスすることができます。

ビット	15	14	13	12	11	10	9	8
	CNT15~8							
アクセス種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
	CNT7~0							
アクセス種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット15~8 – CNT15~8 : 計数値上位バイト** (Counter high byte)

これらのビットは16ビット計数レジスタの上位バイトを保持します。

● **ビット7~0 – CNT7~0 : 計数値下位バイト** (Counter low byte)

これらのビットは16ビット計数レジスタの下位バイトを保持します。

重要: RTCクロックと主クロック領域間同期のため、レジスタ更新からそれが効果を持つまでに2 RTCクロック周期の遅れがあります。応用ソフトウェアはこのレジスタを書く前に状態(RTC.STATUS)レジスタの計数器同期多忙(CNTBUSY)フラグが解除(0)されているのを確認しなければなりません。

23.13.10. PER – 定期 (Period)

名称 : PER (PERH,PERL)
変位 : +$0A
リセット : $FFFF
特質 : –

RTC.PERHとRTC.PERLのレジスタ対は16ビット値のRTC.PERを表します。下位バイト[7～0](接尾辞L)は変位原点でアクセスできます。上位バイト[15～8](接尾辞H)は変位+1でアクセスすることができます。

ビット	15	14	13	12	11	10	9	8
	PER15~8							
アクセス種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット値	1	1	1	1	1	1	1	1

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
	PER7~0							
アクセス種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット値	1	1	1	1	1	1	1	1

● **ビット15~8 – PER15~8 : 定期値上位バイト** (Periodic high byte)

これらのビットは16ビット定期レジスタの上位バイトを保持します。

● **ビット7~0 – PER7~0 : 定期値下位バイト** (Periodic low byte)

これらのビットは16ビット定期レジスタの下位バイトを保持します。

重要: RTCクロックと主クロック領域間同期のため、レジスタ更新からそれが効果を持つまでに2 RTCクロック周期の遅れがあります。応用ソフトウェアはこのレジスタを書く前に状態(RTC.STATUS)レジスタの定期同期多忙(PERBUSY)フラグが解除(0)されているのを確認しなければなりません。

23.13.11. CMP – 比較 (Compare)

名称 : CMP (CMPH,CMPL)
変位 : +$0C
リセット : $0000
特質 : –

RTC.CMPHとRTC.CMPLのレジスタ対は16ビット値のRTC.CMPを表します。下位バイト[7～0](接尾辞L)は変位原点でアクセスできます。上位バイト[15～8](接尾辞H)は変位+1でアクセスすることができます。

ビット	15	14	13	12	11	10	9	8
	CMP15~8							
アクセス種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
	CMP7~0							
アクセス種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット15~8 – CMP15~8 : 比較値上位バイト** (Compare high byte)

これらのビットは16ビット比較レジスタの上位バイトを保持します。

● **ビット7~0 – CMP7~0 : 比較値下位バイト** (Compare low byte)

これらのビットは16ビット比較レジスタの下位バイトを保持します。

重要: RTCクロックと主クロック領域間同期のため、レジスタ更新からそれが効果を持つまでに2 RTCクロック周期の遅れがあります。応用ソフトウェアはこのレジスタを書く前に状態(RTC.STATUS)レジスタの比較同期多忙(CMPBUSY)フラグが解除(0)されているのを確認しなければなりません。

23.13.12. PITCTRLA – 周期割り込み計時器制御A (Peiodic Interrupt Timer Control A)

名称 : ;PITCTRLA
変位 : +$10
リセット : $00
特質 : –

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
		PERIOD3~0						PITEN
アクセス種別	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット6~3 – PERIOD3~0 : 周期** (Period)

このビット領域は各割り込み間のRTCクロック周期数を選びます。

値	0000	0001	0010	0011	0100	0101	0110	0111
名称	OFF	CYC4	CYC8	CYC16	CYC32	CYC64	CYC128	CYC256
説明	割り込みなし	4周期	8周期	16周期	32周期	64周期	128周期	256周期
値	1000	1001	1010	1011	1100	1101	1110	1111
名称	CYC512	CYC1024	CYC2048	DIV4096	CYC8192	CYC16384	CYC32768	–
説明	512周期	1024周期	2048周期	4096周期	8192周期	16384周期	32768周期	(予約)

● **ビット0 – PITEN : 周期割り込み計時器許可** (Periodic Interrupt Timer Enable)

このビットへの'1'書き込みがPITを許可します。

値	0	1
説明	周期割り込み計時器禁止	周期割り込み計時器許可

重要: RTCクロックと主クロック領域間同期のため、レジスタ更新からそれが効果を持つまでに2 RTCクロック周期の遅れがあります。応用ソフトウェアはこのレジスタを書く前にPIT状態(RTC.PITSTATUS)レジスタのPIT制御A同期多忙(CTRLBUSY)フラグが解除(0)されているのを確認しなければなりません。

23.13.13. PITSTATUS – 周期割り込み計時器状態 (Periodic Interrupt Timer Status)

名称 : PITSTATUS
変位 : +$11
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
								CTRLBUSY
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ0 – CTRLBUSY : PIT制御A同期多忙** (PITCTRLA Synchronization Busy)

このﾋﾞｯﾄはRTCがRTCｸﾛｯｸ領域で周期割り込み計時器制御A(RTC.PITCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀを同期中多忙の時に'1'です。

23.13.14. PITINTCTRL – PIT割り込み制御 (PIT Interrupt Control)

名称 : PITINTCTRL
変位 : +$12
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
								PI
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ0 – PI : 周期割り込み許可** (Periodic Interrupt)

値	0	1
説明	周期割り込み禁止	周期割り込み許可

23.13.15. PITINTFLAGS – PIT割り込み要求ﾌﾗｸﾞ (PIT Interrupt Flag)

名称 : PITINTFLAGS
変位 : +$13
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
								PI
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ0 – PI : 周期割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (Periodic Interrupt Flag)

このﾌﾗｸﾞは周期割り込みが発行される時に設定(1)されます。
'1'書き込みがこのﾌﾗｸﾞを解除(0)します。

23.13.16. PITDBGCTRL – 周期割り込み計時器ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ制御 (Periodic Interrupt Timer Debug Control)

名称 : PITDBGCTRL
変位 : +$15
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
								DBGRUN
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ0 – DBGRUN : ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ時走行** (Debug Run)

値	0	1
説明	ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ動作中断で周辺機能は停止して事象を無視	CPU停止時のﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ動作中断で走行を継続

24. USART - 万能同期/非同期送受信器

24.1. 特徴

- 全二重操作
- 半二重操作
  - 単線動作
  - RS-485動作
- 非同期と同期の操作
- 5,6,7,8,9のﾃﾞｰﾀ ﾋﾞｯﾄと1または2の停止ﾋﾞｯﾄを持つ直列ﾌﾚｰﾑ支援
- 分数ﾎﾞｰﾚｰﾄ発生器
  - どの周辺機能ｸﾛｯｸ周波数からも望むﾎﾞｰﾚｰﾄを生成可
  - 外部発振器不要
- 組み込みの誤り検出と修正の仕組み
  - 奇数/偶数ﾊﾟﾘﾃｨ生成器とﾊﾟﾘﾃｨ検査
  - 緩衝部ｵｰﾊﾞﾗﾝとﾌﾚｰﾑ異常検出
  - 不正開始ﾋﾞｯﾄ検出とﾃﾞｼﾞﾀﾙ低域通過濾波器を含む雑音濾波
- 以下の独立した割り込み
  - 送信完了
  - 送信ﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀ空
  - 受信完了
- 主装置SPI動作
- 複数ﾌﾟﾛｾｯｻ通信動作
- ﾌﾚｰﾑ開始検出
- IrDA®適合ﾊﾟﾙｽ変調/復調用赤外線通信(IRCOM)単位部
- LIN従装置支援

24.2. 概要

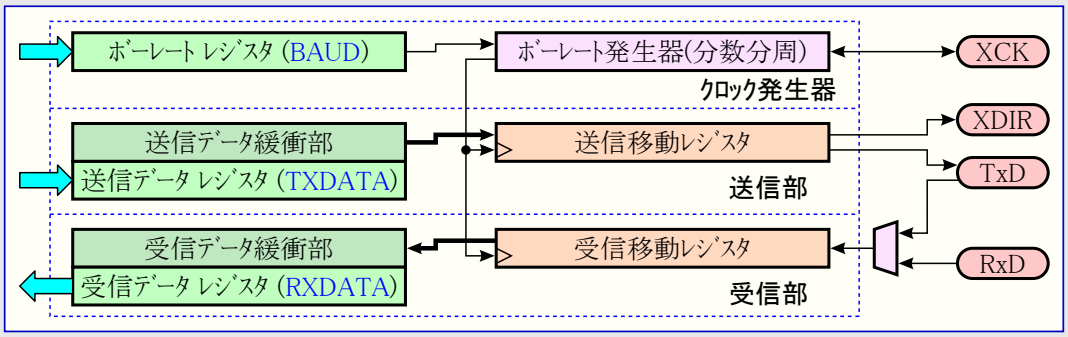
万能同期/非同期直列送受信器(USART:Universal Synchronous and Asynchronuos serial Receiver and Transmitter)は高速で柔軟な直列通信周辺機能です。USARTは複数の形式の応用と通信装置に対応することができるいくつかの異なる動作形態を支援します。例えば、単線半二重動作は少ﾋﾟﾝ数応用が望まれる時に有用です。通信はﾌﾚｰﾑに基づき、ﾌﾚｰﾑ形式は広範囲の規格を支援するように直すことができます。

USARTは両方向で緩衝され、ﾌﾚｰﾑ間でのどんな遅延もなしに継続するﾃﾞｰﾀ転送を許します。受信と送信の完了に対する独立した割り込みは完全な割り込み駆動通信を許します。

送信部は2段の書き込み緩衝部、移動ﾚｼﾞｽﾀ、それと各種ﾌﾚｰﾑ形式用の制御論理回路から成ります。受信部は2段の受信緩衝部と移動ﾚｼﾞｽﾀから成ります。受信したﾃﾞｰﾀの状態情報は異常検査に対して利用可能です。ﾃﾞｰﾀとｸﾛｯｸの再生部は非同期ﾃﾞｰﾀ受信中の頑強な同期と雑音濾波を保証します。

24.2.1. 構成図

図24-1. USART構成図



24.2.2. 信号説明

信号	形式	説明
XCK	入出力	同期動作用ｸﾛｯｸ
XDIR	出力	RS485用送信許可
TxD	入出力	送信線(と単線動作での受信線)
RxD	入力	受信線

24.3. 機能的な説明

24.3.1. 初期化

全二重動作:

1. ボーレート(USARTn.BAUD)を設定してください。
2. フレーム構成と動作形態(USARTn.CTRLC)を設定してください。
3. TxDピンを出力として構成設定してください。
4. 送信部と受信部を許可してください(USARTn.CTRLB)。

注: ・割り込み駆動USART操作について、初期化の間は全体割り込みが禁止されなければなりません。
・ボーレートまたはフレーム構成の変更を伴う再初期化を行う前に、そのレジスタが変更される間に進行中の送信がないことを確実にしてください。

単線半二重動作:

1. 内部的にTxDをUSART受信部に接続してください(制御A(USARTn.CTRLA)レジスタの折り返し動作許可(LBME)ビット)。
2. RxD/TxDピン用の内部プルアップを許可してください(ピンn制御(PORTx.PINnCTRL)レジスタのプルアップ許可(PULLUPEN)ビット)。
3. オープン ドレイン動作を許可してください(制御B(USARTn.CTRLB)レジスタのオープン ドレイン動作許可(ODME)ビット)。
4. ボーレート(USARTn.BAUD)を設定してください。
5. フレーム構成と動作形態(USARTn.CTRLC)を設定してください。
6. 送信部と受信部を許可してください(USARTn.CTRLB)。

注: ・オープン ドレイン動作が許可されると、TxDピンはハードウェアによって自動的に出力に設定されます。
・割り込み駆動USART操作について、初期化の間は全体割り込みが禁止されなければなりません。
・ボーレートまたはフレーム構成の変更を伴う再初期化を行う前に、そのレジスタが変更される間に進行中の送信がないことを確実にしてください。

24.3.2. 動作

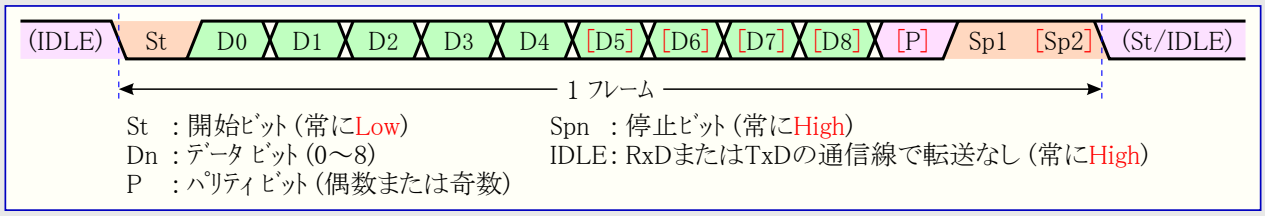
24.3.2.1. フレーム形式

USARTデータ転送はフレームに基づきます。フレームは開始ビットで始まり、データ ビットの1文字が後続します。許可されたなら、データ ビット後で最初の停止ビットの前にパリティ ビットが挿入されます。フレームの停止ビット後、直ちに次のフレームを後続するか、または通信線をアイドル(High)状態に戻すかのどちらかにすることができます。USARTは有効なフレーム形式として以下の組み合わせ全てを受け入れます。

- 1つの開始ビット
- 5, 6, 7, 8, 9 ビット データ
- 奇数または偶数パリティ ビット、またはなし
- 1つまたは2つの停止ビット

下図は可能なフレーム形式の組み合わせを図解します。[ ]付きビットは任意選択です。

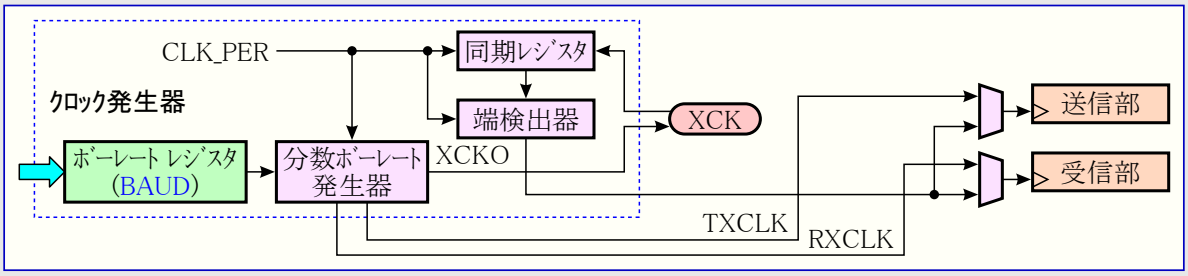
図24-2. フレーム構成



24.3.2.2. クロック生成

データ ビットの移動と採取に使われるクロックは内部的な分数ボーレート発生器(BRG)か外部的な転送クロック(XCK)ピンから生成されます。

図24-3. クロック生成論理回路構成図



24.3.2.2.1. 分数ボーレート発生器

USARTがクロック元としてXCK入力を使わない動作ではクロックを生成するのに分数ボーレート生成器が使われます。ボーレートは秒毎のビット数(bps)の言葉で与えられ、ボーレート(USARTn.BAUD)レジスタを書くことによって構成設定されます。ボーレート(f_{BAUD})は周辺機能クロック(f_{CLK_PER})をBAUDレジスタによって決められる分割係数で分割することによって生成されます。

分数ボーレート発生器はf_{BAUD}で割り切れない場合に対応するハードウェアが特徴です。通常、この状況は丸め誤差をもたらします。分数ボーレート発生器は**表27-1.**の式で実行されるように、6ビット左移動した望む分割係数を含むBAUDレジスタを期待します。そして下位6ビットは望む除数の小数部を保持します。望むボーレートにより近い近似を達成するため動的にf_{BAUD}を調節するのにBAUDレジスタの小数部を使ってください。

ボーレートをf_{CLK_PER}よりも高くすることができないため、BAUDレジスタの整数部は最低1であることが必要です。結果は6ビット左移動されるため、対応するBAUDレジスタの最小値は64です。有効な範囲は64～65535です。

同期動作では、BAUDレジスタの10ビット整数部(BAUD15～6)だけがボーレートを決め、従って、小数部(BAUD5～0)は0を書かれなければなりません。

下表はボーレートをBAUDレジスタ用の入力値に変換するための式を一覧にします。式は分数解釈を考慮し、故にこれらの式で計算されたBAUD値はどんな追加の尺度調整もなしに直接USARTn.BAUDに書くことができます。

表24-1. ボーレート レジスタ設定計算用の式

動作形態	条件	ボーレート (ビット/秒:bps)	USARTn.BAUDレジスタ値計算
非同期	$f_{BAUD} \leqq \frac{f_{CLK_PER}}{S}$ 、USARTn.BAUD≧64	$f_{BAUD} = \frac{64 \times f_{CLK_PER}}{S \times BAUD}$	$BAUD = \frac{64 \times f_{CLK_PER}}{S \times f_{BAUD}}$
同期主装置	$f_{BAUD} < \frac{f_{CLK_PER}}{S}$ 、USARTn.BAUD≧64	$f_{BAUD} = \frac{f_{CLK_PER}}{S \times BAUD[15 \sim 6]}$	$BAUD[15 \sim 6] = \frac{f_{CLK_PER}}{S \times f_{BAUD}}$

Sはビット当たりの採取数です。

- 非同期標準動作 ：S=16
- 非同期倍速動作 ：S=8
- 同期動作　　：S=2

24.3.2.3. データ送信

USART送信部は周期的に送信線をLowに駆動することによってデータを送ります。データ送信は送るデータを送信データ(USARTn.TXDATALとUSARTn.TXDATAH)レジスタに設定することによって始められます。送信データ レジスタのデータは送信緩衝部が一旦空になるとそれに移され、移動レジスタが一旦空になるとそれに進み、新しいフレームを送る準備が整います。移動レジスタがデータを設定された後、データ フレームが送信されます。

移動レジスタのフレーム全体が移動出力されてしまい、送信データや送信緩衝部に存在する新しいデータがないと、状態(USARTn.STATUS)レジスタの送信完了割り込み要求フラグ(TXCIF)ビットが設定(1)され、それが許可されていれば割り込みが生成されます。

送信データ レジスタはそれらが空で新しいデータの準備が整っていることを示すUSARTn.STATUSレジスタのデータ レジスタ空割り込み要求フラグ(DREIF)ビットが設定(1)される時にだけ書くことができます。

8ビットよりも少ないフレームの使用時、送信データ レジスタに書かれる上位側ビットは無視されます。制御C(USARTn.CTRLC)レジスタの文字ビット数(CHSIZE)ビット領域が9ビット(下位バイト先行)に構成設定されると、送信データ上位バイト(TXDATAH)レジスタの前に送信データ下位バイト(TXDATAL)レジスタが書かれなければなりません。CHSIZEが9ビット(上位バイト先行)に構成設定されると、TXDATALの前にTXDATAHが書かれなければなりません。

24.3.2.3.1. 送信部禁止

送信部を禁止すると、その操作は進行中と保留中の送信が完了される、即ち、送信移動レジスタ、送信データ(USARTn.TXDATALとUSARTn.TXDATAH)レジスタ、送信緩衝レジスタが送信されるべきデータを含まない時まで有効になりません。送信部が禁止されると、もはやTxDピンを指定変更せず、PORT単位部がピン制御を取り戻します。ピンはそれの直前の設定に関わらず、ハードウェアによって自動的に入力として構成設定されます。ピンは今やUSARTからのポート指定変更なしに標準入出力ピンとして使うことができます。

24.3.2.4. データ受信

USART受信部は検出して受信したデータを解釈するために受信線を採取します。従って、ピンの方向はデータ方向(PORTx.DIR)レジスタの対応するビットに'0'を書くことによって入力として構成設定されなければなりません。

受信部は有効な開始ビットが検出されと、データを受け入れます。開始ビットに後続する各ビットはボーレートまたはXCKクロックで採取され、フレームの最初の停止ビットが受信されるまで受信移動レジスタに移されます。第2停止ビットは受信部によって無視されます。最初の停止ビットが受信され、完全な直列フレームが受信移動レジスタに存在すると、移動レジスタの内容が受信緩衝部に移されます。状態(USARTn.STATUS)レジスタの受信完了割り込み要求フラグ(RXCIF)が設定(1)され、許可されていれば割り込みが生成されます。

RXDATAレジスタはRXCIFが設定(1)される時に応用ソフトウェアによって読むことができる2重緩衝される受信緩衝部の一部です。1フレームだけが受信されたなら、そのフレームに対するデータと状態のビットはRXDATAレジスタに直接押し込まれます。RX緩衝部に2つのフレームが存在する場合、RXDATAレジスタは最も古いフレームを含みます。

緩衝部は構成設定に応じてRXDATALまたはRXDARAHが読まれる時のどちらかでデータを移動します。移動前に両バイトを読むことができるようにデータ移動を引き起こさないレジスタが先に読まれなければなりません。制御C(USARTn.CTRLC)レジスタの文字ビット数(CHSIZE)ビット領域が9ビット(下位バイト先行)に構成設定される時に、RXDATAHの読み込みが受信緩衝部を移動します。さもなければ、RXDATALが緩衝部を移動します。

24.3.2.4.1. 受信異常フラグ

USART受信部は送信化けを暴く異常検出機構が特徴です。これらの機構は以下を含みます。

- フレーム異常検出 – 受信したフレームが有効かどうかを管理します。
- 緩衝部溢れ検出 – 受信緩衝部が満杯で新しいデータによって上書きされたためのデータ損失を示します。
- パリティ誤り検出 – 到着フレームのパリティを計算してパリティビットと比べることによって到着フレームの有効性を調べます。

各異常検出機構は受信データ上位バイト(USARTn.RXDATAH)レジスタで読むことができる各々1つの異常フラグを制御します。

- フレーム異常(FERR)
- 緩衝部溢れ(BUFOVF)
- パリティ誤り(PERR)

異常フラグはそれらが対応するフレームと共に受信緩衝部に置かれます。RXDATALレジスタ読み込みがRX緩衝部のRXDATAバイト移動を起動するため、異常フラグを含むRXDATAHレジスタはRXDATALレジスタに先立って読まれなければなりません。

注: 制御C(USARTn.CTRLC)レジスタの文字ビット数(CHSIZE)ビット領域が9ビット下位バイト先行(9BITL)に設定される場合、RXDATALレジスタに代わってRXDATAHレジスタがRXDATAバイト移動を起動します。その場合、RXDATALレジスタがRXDATAHレジスタに先立って読まれなければなりません。

24.3.2.4.2. 受信部禁止

受信部を禁止すると、その操作は即時です。受信緩衝部が破棄され、進行中の受信からのデータは失われます。

24.3.2.4.3. 受信緩衝部破棄

通常動作の間に受信緩衝部が破棄されなければならない場合、USARTn.RXDATAHレジスタの受信完了割り込み要求フラグ(RXCIF)が解除(0)されるまでDATA位置(USARTn.RXDATAHとUSARTn.RXDATALのレジスタ)を繰り返し読んでください。

24.3.3. 通信動作形態

USARTは複数の異なる通信規約を支援する柔軟な周辺機能です。利用可能な動作形態は、同期と非同期の通信の2つの群に分けることができます。

同期通信はXCKピンを通してクロック信号を残りの装置に供給する主権があるバス上の1つの主装置に依存します。全ての装置は追加の同期機構を必要とせず、送受信両方にこの共通クロック信号を使います。

装置は同期バスで主装置または従装置のどちらかで動くように構成設定することができます。

非同期通信は共通クロック信号を使いません。代わりに、通信する装置に於いて同じボーレートで構成設定されることに頼ります。やって来る伝送の受信時、受信する装置の周辺機能クロックでやって来る伝送を整列するのにハードウェア同期機構が使われます。

非同期に通信する時に4つの違う動作形態が利用可能です。それらの動作の1つは標準速度の倍で伝送を受信することができ、通常の16の代わりにビット毎に8回だけ採取します。他の3つの動作形態は同期論理回路の変種を使い、全て標準速度で受信します。

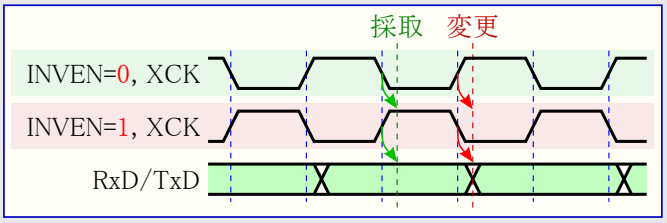
24.3.3.1. 同期動作

24.3.3.1.1. クロック動作

XCKピン方向は転送クロックが入力(従装置動作)か、または出力(主装置動作)かを制御します。対応するポートピン(PORTx.DIRレジスタのDIRn)方向は主装置動作用に出力または従装置動作用に入力に設定されなければなりません。下図で示されるように(RxDでの)データ入力はデータが(TxDで)送信される場所の逆端のXCKクロック端で採取されます。

I/Oピンはポート周辺機能のピンn制御(PORTx.PINnCTRL)レジスタの反転I/O許可(INVEN)ビットに'1'を書くことによって反転することができます。対応するXCKポートピンに反転I/O設定を使うと、RxD採取とTxD送信に使われるXCKクロック端を選ぶことができます。反転I/Oが禁止(INVEN=0)される場合、XCKクロック上昇端が新しいデータビットの開始を表し、受信データはXCKクロック下降端で採取されます。反転I/Oが許可(INVEN=1)された場合、XCKクロック下降端が新しいデータビットの開始を表し、受信データはXCKクロック上昇端で採取されます。

図24-4. 同期動作XCKタイミング



24.3.3.1.2. 外部クロック制限

USARTが同期従装置動作に構成設定されると、XCK信号は主装置によって外部的に提供されなければなりません。このクロックが外部的に提供されるため、BAUDレジスタ構成設定は転送速度に何の影響も持ちません。クロック再生成功には各上昇端と下降端に対して最低2回採取するクロック信号を必要とします。従って、同期動作形態での最大XCK速度(f_{Slave_SCK})は右式によって制限されます。

$$f_{Slave_SCK} < \frac{f_{CLK_PER}}{4}$$

XCKクロックに細動(ジッタ)がある場合、またはHigh/Low区間のデューティ サイクルが50%/50%でない場合、XCKが各端に対して最低2回採取することを保証するために、それに応じて最大XCKクロック速度が低減されなければなりません。

24.3.3.1.3. 主装置SPI動作でのUSART

USARTは複数の異なる通信インターフェースを持つ機能に構成設定されるかもしれず、それらの1つが主装置として動くことができる直列周辺インターフェース(SPI)です。SPIは主装置に1つ以上の従装置との通信を許す4線インターフェースです。

フレーム形式

主装置SPI動作でのUSARTに対する直列フレームは常に8つのデータ ビットを含みます。データ ビットは制御C(USARTn.CTRLC)レジスタのデータ順(UDORD)ビットに書くことによってLSB先行またはMSB先行のどちらかで送信されるように構成設定することができます。

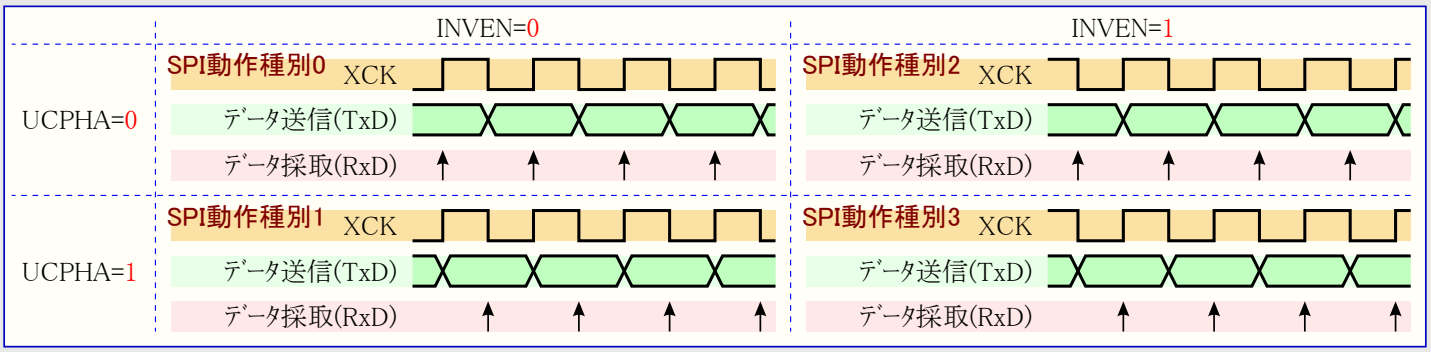
SPIは開始、停止、パリティのビットを使わず、故に伝送フレームはデータ ビットだけで成り得ます。

クロック生成

同期インターフェースでの主装置になる主装置SPI動作は従装置と共有されるインターフェース クロックを生成しなければなりません。このインタフェース クロックは「24.3.2.2.1. 分数ボーレート発生器」で記述される分数ボーレート発生器を使って生成されます。

各データ ビットは1つの完全なクロック周期に対してデータ線をHighまたはLowに引くことによって送信されます。受信部は下図で示されるように送信部保持期間の中央でビットを採取します。これはピンn制御(PORTx.PINnCTRL)レジスタの反転I/O許可(INVEN)ビットと制御C(USARTn.CTRLC)レジスタのUSARTクロック位相(UCPHA)ビットを使ってタイミングの仕組みをどう構成設定することができるかも示します。

図27-5. データ転送タイミング構成図



右表は上図を更に説明します。

表27-2. INVENビットとUCPHAビットの機能

SPI動作形態	INVEN	UCPHA	先行端 (注)	後行端 (注)
0	0	0	上昇端、採取	下降端、送信
1	0	1	上昇端、送信	下降端、採取
2	1	0	下降端、採取	上昇端、送信
3	1	1	下降端、送信	上昇端、採取

注: 先行端はクロック周期の最初のクロック端です。後行端はクロック周期の最後のクロック端です。

データ送信

主装置SPI動作でのデータ送信は「動作」項で記述されるような全般的なUSART動作と機能的に同じです。送信部割り込み要求フラグと対応するUSART割り込みも同じです。更なる記述については「24.3.2.3. データ送信」をご覧ください。

データ受信

主装置SPI動作でのデータ受信は「動作」項で記述されるような全般的なUSART動作と機能的に同じです。使われずに常に'0'として読む受信異常フラグを除き、受信部割り込み要求フラグと対応するUSART割り込みも同じです。更なる記述については「24.3.2.4. データ受信」をご覧ください。

主装置SPI動作でのUSART対SPI

主装置SPI動作でのUSARTは独立型SPI周辺機能と完全な互換性があります。それらのデータ フレームとタイミング構成設定は同じです。けれども、以下のようないくつかのSPI特有特殊機能は主装置SPI動作でのUSARTで支援されません。

- 書き込み衝突(WRCOL)フラグ保護
- 倍速動作
- 複数主装置支援

主装置SPI動作でのUSARTとSPIで使われるピンの比較が右表で示されます。

表24-3. 主装置SPI動作でのUSARTとSPIのピン比較

USART	SPI	注釈
TxD	MOSI	主装置出力
RxD	MISO	主装置入力
XCK	SCK	機能的に同一
該当なし	$\overline{SS}$	主装置SPI動作でのUSARTで不支援 (注)

注: 独立型SPI周辺機能について、このピンは複数主装置機能で、または専用従装置選択として使われます。複数主装置機能は主装置SPI動作でのUSARTで利用不可で、専用従装置選択ピンは利用不可です。

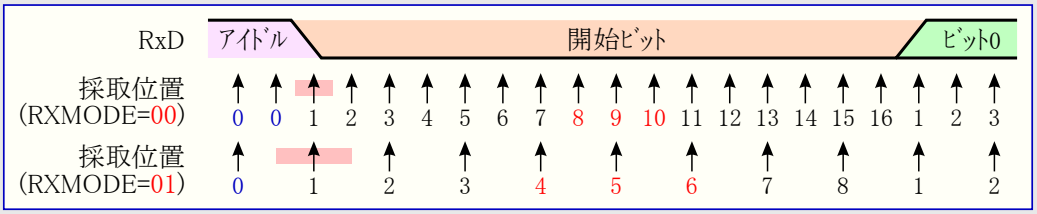
24.3.3.2. 非同期動作

24.3.3.2.1. クロック再生

非同期動作使用時に共通クロック信号がないため、通信する各装置は独立したクロック信号を生成します。これらのクロック信号は行われる通信に対して同じボーレートで動くように構成設定されなければなりません。従って、装置は同じ速度で動きますが、それらのタイミングはお互いの関係に於いて歪められています。これに対応するため、USARTはやって来る非同期直列フレームを内部的に生成したボーレート クロックと同期するハードウェア クロック再生部が特徴です。

下図は到着フレームの開始ビット用採取処理を図解します。これは標準と倍速の両動作(各々、'00'と'01'に構成設定された制御B(USARTn.CTRLB)レジスタの受信部動作(RXMODE)ビット領域)に対するタイミングの仕組みを示します。標準動作用採取速度はボーレートの16倍、一方で倍速動作用採取速度はボーレートの8倍です(「24.3.3.2.4. 倍速動作」をご覧ください)。赤帯(**訳注**:原文は水平矢印)は最大同期誤差を示します。最大同期誤差が倍速動作でより大きいことに注意してください。

図24-6. 開始ビット採取

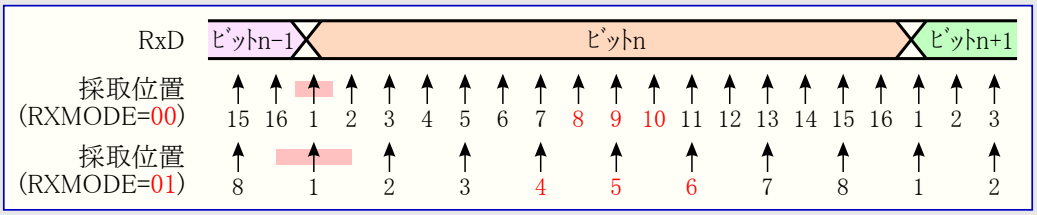


クロック再生論理回路がアイドル(High)状態から開始ビット(Low)への下降端を検出すると、開始ビット検出手順が始められます。上図に於いて、採取1は最初の'0'読み採取を記します。その後クロック再生論理回路は有効な開始ビットが受信されたかを判断するのに3つの連続採取(標準動作で採取8,9,10、倍速動作で採取4,5,6)を使います。2つまたは3つの採取が'0'を読む場合、開始ビットが受け入れられます。クロック再生部が同期化され、データ再生を始めることができます。2つ未満の採取が'0'を読む場合、この開始ビットは捨てられます。この処理は各開始ビット毎に繰り返されます。

24.3.3.2.2. データ再生

クロック再生と同様に、データ再生部は倍速動作または標準動作で動いているかに依存して、各々、ボーレートよりも8または16倍速い速度で採取します。下図は受信したフレームでのビット読み取り用採取処理を示します。

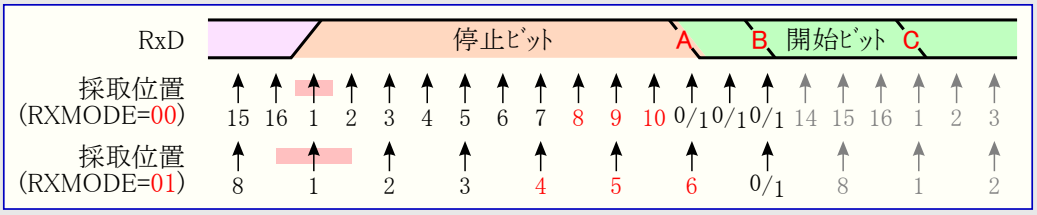
図24-7. データ ビットとパリティ ビットの採取



受信したビットの論理レベルを判断するのにクロック再生でのように中央3採取での多数決技法が使われます。この処理は完全なフレームが受信されるまで各ビットに対して繰り返されます。

データ再生部は最初の停止ビットだけを受け取る一方で、もっとある場合に残りを無視します。採取した停止ビットが'0'を読む場合、受信データ上位(USARTn.RXDADAH)レジスタのフレーム異常(FERR)フラグが設定(1)されます。下図は停止ビットの採取を示します。これは最も早く可能な次のフレームの始めも示します。

図24-8. 停止ビットと次の開始ビットの採取



新しいフレームの開始ビットを示すHighからLowへの遷移は多数決に使ったビットの最後の直後に来得ます。標準速動作については最初のLowレベル採取、上図でAと記された点で有り得ます。倍速動作については最初のLowレベルが多数決採取後の最初の採取であるB点に遅らされなければなりません。C点は公称ボーレートでの停止ビットの全長(の終点)を記します。

24.3.3.2.3. 許容誤差

内部的に生成したボーレートの速度と外部的に受信したデータ速度は理想的に同じでなければなりませんが、本来のクロック元誤差のため、これは通常、その状況ではありません。USARTはこのような誤差を許容し、この許容の限度が時に動作範囲として知られるものを構成します。

以下の表は許容することができる最大受信部ボーレート誤差であるUSARTの動作範囲を一覧にします。標準速動作が倍速動作よりもより高いボーレート変化の許容誤差を持つことに注意してください。

表24-4. 標準速と倍速での受信部ボーレート推奨最大許容誤差 (訳注:原書の表24-4.と表24-5.は表24-4.として纏めました。)

D	標準速動作 (RXMODE=00(NORMAL))				倍速動作 (RXMODE=01(CLK2X))			
	R_{slow}(%)	R_{fast}(%)	総合許容誤差(%)	推奨許容誤差(%)	R_{slow}(%)	R_{fast}(%)	総合許容誤差(%)	推奨許容誤差(%)
5	93.20	106.67	−6.80～+6.67	±3.0	94.12	105.66	−5.88～+5.66	±2.5
6	94.12	105.79	−5.88～+5.79	±2.5	94.92	104.92	−5.08～+4.92	±2.0
7	94.81	105.11	−5.19～+5.11	±2.0	95.52	104.35	−4.48～+4.35	±1.5
8	95.36	104.58	−4.54～+4.58	±2.0	96.00	103.90	−4.00～+3.90	±1.5
9	95.81	104.14	−4.19～+4.14	±1.5	96.39	103.53	−3.61～+3.53	±1.5
10	96.17	103.78	−3.83～+3.78	±1.5	96.70	103.23	−3.30～+3.23	±1.0

注: ・*D*: 文字(データ)ビット数とパリティ ビットの合計(*D*=5～10)
・R_{slow}: 受信部ボーレートに関連して受け入れすることができる最低到着データ速度の比率
・R_{fast}: 受信部ボーレートに関連して受け入れすることができる最高到着データ速度の比率

最大受信部ボーレート誤差の推奨は受信側と送信側が最大総許容誤差を等しく分けるとの仮定の元で作られました。

以下の式は到着データ速度と内部受信部ボーレートの最大比率計算に使われます。

$$R_{slow} = \frac{S(D+1)}{S(D+1)+S_F-1}$$

$$R_{fast} = \frac{S(D+2)}{S(D+1)+S_M}$$

D : 文字(データ)ビット数とパリティ ビットの合計(D=5～10)
S : ビット当たりの採取数。標準速動作はS=16、倍速動作はS=8
S_F : 多数決に使う最初の採取番号。標準速動作はS_F=8、倍速動作はS_F=4
S_M : 多数決に使う中心の採取番号。標準速動作はS_M=9、倍速動作はS_M5
R_{slow} : 受信側ボーレートに対して許容できる最低到着データ速度の比率
R_{fast} : 受信側ボーレートに対して許容できる最高到着データ速度の比率

24.3.3.2.4. 倍速動作

倍速動作はより低い周辺機能クロック周波数での非同期動作下でより高いボーレートを許します。この動作は制御B(USARTn.CTRLB)レジスタの受信部動作(RXMODE)ビット領域に'01'を書くことによって許可されます。

許可されると、「24.3.2.2.1. 分数ボーレート発生器」での式で示されるように、与えられた非同期ボーレート設定に対するボーレートが倍にされます。この動作では、受信部がデータ採取とクロック再生に対して(16から8に減らされた)半分の採取数を使います。これはもっと正確なボーレート設定と周辺機能クロックを必要とします。より多くの詳細については「24.3.3.2.3. 許容誤差」をご覧ください。

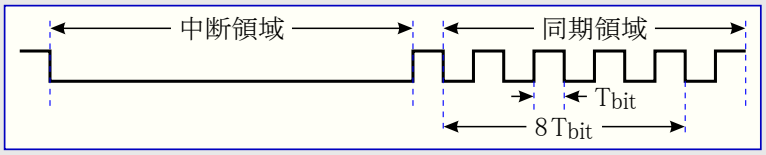
24.3.3.2.5. 自動ボーレート

自動ボーレート機能は通信装置からの入力に基づいてボーレート(USARTn.BAUD)レジスタの構成設定をUSARTにさせ、これは異なるボーレートで通信する複数装置と自律的に通信することを装置に許します。USART周辺機能は標準自動ボーレート動作とLIN制限自動ボーレート動作の2つの自動ボーレート動作が特徴です。

どちらの自動ボーレート動作も下図で見られるように自動ボーレート フレームを受け取らなければなりません。

中断領域は12以上の連続Low周期が採取される時に検出され、これから同期領域を受信しようとすることをUSARTに通知します。中断領域後、同期領域の開始ビットが検出されると、周辺機能クロック速度で動く計数器が開始されます。計数器はその後に同期領域の次の8Tbit間増やされます。全8ビットが採取されると、計数器が停止されます。結果の計数器値が事実上の新しいBAUDレジスタ値です。

図24-9. 自動ボーレート タイミング



USART受信動作が(制御B(USARTn.CTRLB)レジスタの受信動作(RXMODE)ビット領域)でGENAUTOに設定されると、標準自動ボーレート動作が許可されます。この動作では、どの長さ(即ち、12周期よりも短くても)中断領域の検出を許すために状態(USARTn.STATUS)レジスタの中断待機(WFB)ビットを設定(1)することができます。これは現在のボーレートを知ることなく、任意の新しいボーレート設定を可能にします。測定された同期領域が有効なBAUD値($0064～$FFFF)になるなら、BAUDレジスタが更新されます。

USART受信動作が(USARTn.CTRLBレジスタのRXMODEビット領域で)LINAUTO動作に設定されると、LIN形式に従います。標準自動ボーレート動作でのWFB機能はLIN制限自動ボーレートと非互換で、これは有効な中断領域のために受信した信号が12周辺機能クロック周期以上の間Lowでなければならないことを意味します。中断領域が検出されると、USARTは$55である後続する同期領域文字を期待します。2つの同期装置間のボーレートの違いに対する許容は制御D(USARTn.CTRLD)レジスタの自動ボーレート窓幅(ABW)ビットを使って構成設定することができます。受信した同期領域文字が$55でない場合、矛盾同期領域異常フラグ(USARTn.STATUSレジスタのISFIFビット)が設定(1)され、ボーレートは無変化です。

24.3.3.2.6. 半二重動作

半二重は2つ以上の装置が互いに通信できますが、同時に1つだけである通信の形式です。USARTは以下の半二重動作で動くように構成設定することができます。

- 単線動作
- RS-485動作

単線動作

単線動作は制御A(USARTn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの折り返し動作許可(LBME)を設定(1)することによって許可されます。これはTxDﾋﾟﾝを結合TxD/RxD線にするTxDﾋﾟﾝとUSART受信部間の内部接続を許します。RxDﾋﾟﾝはUSART受信部から切り離され、違う周辺機能によって制御されるかもしれません。

単線動作では複数装置が同時にTxD/RxD線を操作することができます。1つの装置がﾋﾟﾝを論理Highﾚﾍﾞﾙ(VDD)に駆動し、別の装置がこの線をLow(GND)に引く場合、短絡が起きます。これに対応するため、USARTは送信部にﾋﾟﾝを論理Highﾚﾍﾞﾙに駆動させないようにするｵｰﾌﾟﾝ ﾄﾞﾚｲﾝ動作(制御B(USARTn.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀのｵｰﾌﾟﾝ ﾄﾞﾚｲﾝ動作許可(ODME)ﾋﾞｯﾄ)が特徴で、それにより、ﾋﾟﾝをLowに引くことだけできるように制限します。内部ﾌﾟﾙｱｯﾌﾟ機能(ﾋﾟﾝn制御(PORTx.PINnCTRL)ﾚｼﾞｽﾀのﾌﾟﾙｱｯﾌﾟ許可(PULLUPEN)ﾋﾞｯﾄ)とこの機能の組み合わせは線にﾌﾟﾙｱｯﾌﾟ抵抗を通してHighを保持させ、どの装置にもLowへ引くことを許します。線がLowに引かれると、VDDからGNDへの電流はﾌﾟﾙｱｯﾌﾟ抵抗によって制限されます。TxDﾋﾟﾝはｵｰﾌﾟﾝ ﾄﾞﾚｲﾝ動作が許可される時にﾊｰﾄﾞｳｪｱによって自動的に出力に設定されます。

USARTがTxD/RxDﾋﾟﾝへ送信している時はその送信も受け取ります。これは受信したﾃﾞｰﾀが送信したﾃﾞｰﾀと同じであるかを調べることによって重なっている送信の検出に使うことができます。

RS-485動作

RS-485はUSART周辺機能によって支援される通信規格です。これは通信回路の構成を定義する物理的ｲﾝﾀｰﾌｪｰｽです。ﾃﾞｰﾀは通信を雑音に対して頑強にする差動信号を使って伝送されます。RS-485は制御A(USARTn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのRS-485動作(RS485)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって許可されます。

RS-485動作は単一USART送信を対応する差動対信号に変換する外部線駆動部ﾃﾞﾊﾞｲｽを支援します。これは線駆動部ﾃﾞﾊﾞｲｽに対して送信または受信を許可するのに使うことができるXDIRﾋﾟﾝの自動制御を許可します。USARTは送信している間、自動的にXDIRﾋﾟﾝをHighに駆動し、送信完了時にLowへ引きます。このような回路の例が下図で示されます。

XDIRﾋﾟﾝは外部線駆動部を許可するための若干の保護時間を許すため、ﾃﾞｰﾀが移動出力される1ﾎﾞｰﾚｰﾄ ｸﾛｯｸ周期前にHighになります。XDIRﾋﾟﾝは停止ﾋﾞｯﾄを含む完全なﾌﾚｰﾑ間Highに留まります。

図24-10. RS-485ﾊﾞｽ接続

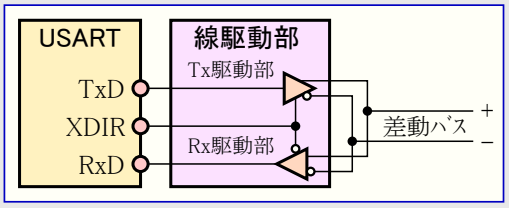
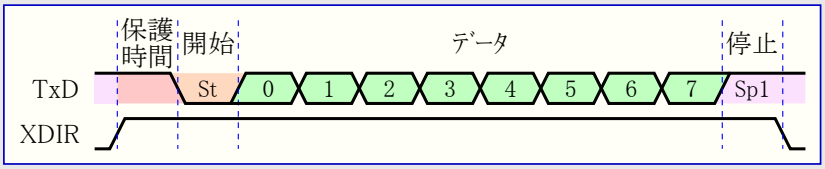
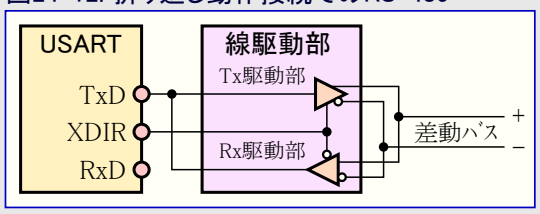


図24-11. XDIR駆動ﾀｲﾐﾝｸﾞ



RS-485動作は単線動作と互換性があります。単線動作はTxDﾋﾟﾝを結合したTxD/RxD線にするTxDﾋﾟﾝとUSART受信部間の内部接続を許します。RxDﾋﾟﾝはUSART受信部から切り離され、違う周辺機能によって制御されるかもしれません。このような回路の例が右図で示されます。

図24-12. 折り返し動作接続でのRS-485

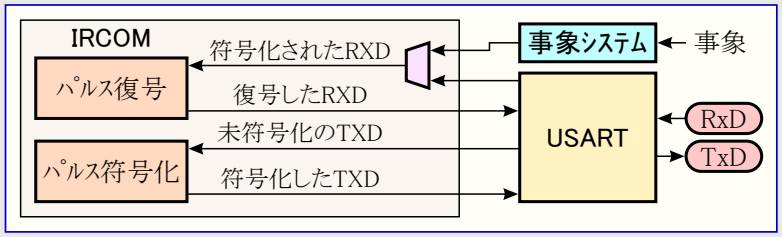


24.3.3.2.7. IRCOM動作形態

USART周辺機能は115.2kbpsまでのﾎﾞｰﾚｰﾄに適合するIrDA® 1.4である赤外線通信動作(IRCOM:Infrared Communication mode)に構成設定することができます。許可されると、IRCOM動作はUSARTに対して赤外線ﾊﾟﾙｽの符号化/復号を許します。

USARTは制御C(USARTn.CTRLC)ﾚｼﾞｽﾀの通信動作(CMODE)ﾋﾞｯﾄ領域に'10'を書くことによってIRCOM動作に設定されます。TxD/RxDﾋﾟﾝ上のﾃﾞｰﾀは送受信される赤外ﾊﾟﾙｽの反転値です。これはIRCOM受信部に対する入力として事象ｼｽﾃﾑからの事象ﾁｬﾈﾙを選ぶことも可能です。これは入出力ﾋﾟﾝまたは対応するRxDﾋﾟﾝ以外の供給元からの入力の受信をIRCOMに許し、これはUSARTﾋﾟﾝからのRxD入力を禁止します。

図24-13. 構成図



送信については以下のような3つのﾊﾟﾙｽ変調方式が利用可能です。

- 3/16ﾎﾞｰﾚｰﾄ周期
- 周辺機能ｸﾛｯｸ周波数に基いた設定可能な固定ﾊﾟﾙｽ時間
- ﾊﾟﾙｽ変調禁止

受信については論理'0'として復号されるべきﾊﾟﾙｽに対して定められた選択可能な最小Highﾚﾍﾞﾙ ﾊﾟﾙｽ幅が使われます。より短いﾊﾟﾙｽは破棄され、そのﾋﾞｯﾄはﾊﾟﾙｽが全く受信されなかった場合に論理'1'に復号されます。

倍速動作はIRCOM動作が許可される時にUSARTに対して使うことができません。

24.3.4. 付加機能

24.3.4.1. ﾊﾟﾘﾃｨ

ﾊﾟﾘﾃｨ ﾋﾞｯﾄはﾃﾞｰﾀ ﾌﾚｰﾑの有効性検査のため、USARTによって使うことができます。ﾊﾟﾘﾃｨ ﾋﾞｯﾄは送信に於いて'1'の値を持つﾋﾞｯﾄ数に基づいて送信部によって設定され、受信に於いて受信部によって管理されます。ﾊﾟﾘﾃｨ ﾋﾞｯﾄが送信ﾌﾚｰﾑと矛盾する場合、受信部はﾃﾞｰﾀ ﾌﾚｰﾑが不正にされたと推測することができます。

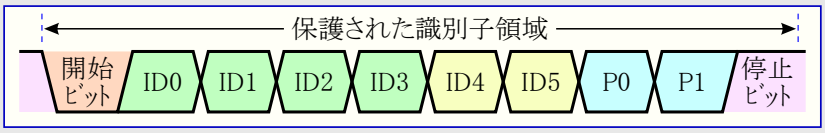
偶数または奇数のﾊﾟﾘﾃｨは制御C(USARTn.CTRLC)ﾚｼﾞｽﾀのﾊﾟﾘﾃｨ動作(PMODE)ﾋﾞｯﾄ領域を書くことによって誤り検査用に選ぶことができます。偶数ﾊﾟﾘﾃｨが選ばれた場合、ﾊﾟﾘﾃｨ ﾋﾞｯﾄは'1'値を持つﾃﾞｰﾀ ﾋﾞｯﾄ数が奇数の場合に'1'に設定されます('1'値を持つ総ﾋﾞｯﾄ数を偶数にします)。奇数ﾊﾟﾘﾃｨが選ばれた場合、ﾊﾟﾘﾃｨ ﾋﾞｯﾄは'1'値を持つﾃﾞｰﾀ ﾋﾞｯﾄ数が偶数の場合に'1'を設定します('1'を持つ総ﾋﾞｯﾄ数を奇数にします)。

許可されると、ﾊﾟﾘﾃｨ検査部は到着ﾌﾚｰﾑ内のﾃﾞｰﾀ ﾋﾞｯﾄのﾊﾟﾘﾃｨを計算し、その結果を対応するﾌﾚｰﾑのﾊﾟﾘﾃｨ ﾋﾞｯﾄと比べます。ﾊﾟﾘﾃｨ誤りが検出された場合、受信ﾃﾞｰﾀ上位ﾊﾞｲﾄ(USARTn.RXDATAH)ﾚｼﾞｽﾀのﾊﾟﾘﾃｨ誤り(PERR)ﾌﾗｸﾞが設定(1)されます。

LIN制限自動ﾎﾞｰﾚｰﾄ動作が許可(制御B(USARTn.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの受信動作(RXMODE)ﾋﾞｯﾄ='11')された場合、ﾊﾟﾘﾃｨ検査は保護された識別子領域でだけ実行されます。下の式の1つが真でなければﾊﾟﾘﾃｨ誤りが検出され、それがﾊﾟﾘﾃｨ誤り(PERR)ﾌﾗｸﾞを設定(1)します。

```
P0 = ID0 XOR ID1 XOR ID2 XOR ID4
P1 = NOT ( ID1 XOR ID3 XOR ID4 XOR ID5 )
```

図24-14. 保護された識別子領域と識別子とﾊﾟﾘﾃｨ ﾋﾞｯﾄの配置



24.3.4.2. ﾌﾚｰﾑ開始検出

ﾌﾚｰﾑ開始検出機能はﾃﾞｰﾀ受信でｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作から起き上がることをUSARTに許します。

RxDﾋﾟﾝでHighからLowへの遷移が検出されると、発振器が給電されてUART周辺機能ｸﾛｯｸが許可されます。始動後、ﾎﾞｰﾚｰﾄが発振器始動時間に関して充分遅ければ、ﾃﾞｰﾀ ﾌﾚｰﾑの残りを受信することができます。発振器の始動時間は供給電圧と温度で変わります。発振器始動時間特性の詳細については「電気的特性」章を参照してください。

誤った開始ﾋﾞｯﾄが検出された場合で別の供給元が起動してしまっていなければ、ｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作に戻ります。

ﾌﾚｰﾑ開始検出は非同期動作でだけ動きます。これは制御B(USARTn.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀのﾌﾚｰﾑ開始検出許可(SFDEN)ﾋﾞｯﾄを(1に)書くことによって許可されます。ﾃﾞﾊﾞｲｽがｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作の間に開始ﾋﾞｯﾄが検出された場合、UART開始割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(RXSIF)ﾋﾞｯﾄが設定(1)されます。

UART受信完了ﾌﾗｸﾞ(RXCIF)ﾋﾞｯﾄとUART開始割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(RXSIF)ﾋﾞｯﾄは同じ割り込み線を共用しますが、各々は専用の割り込み設定を持ちます。下表は割り込み設定に依存するUSARTﾌﾚｰﾑ開始検出動作を示します。

表24-6. USARTﾌﾚｰﾑ開始検出動作

SFDEN	RXSIF割り込み	RXCIF割り込み	注釈
0	x	x	標準動作
1	禁止	禁止	発振器はﾌﾚｰﾑ受信中にだけ給電されます。割り込みが禁止されて緩衝部溢れが無視された場合、全ての到着ﾃﾞｰﾀが失われます。
1	禁止	許可	ｼｽﾃﾑ/全てのｸﾛｯｸが受信完了割り込みで起き上がり(起動し)ます。
1	許可	x	ｼｽﾃﾑ/全てのｸﾛｯｸが開始ﾋﾞｯﾄ検出時に起き上がり(起動し)ます。

注: SLEEP命令は進行中の通信がある場合に発振器を停止しません。

24.3.4.3. 複数ﾌﾟﾛｾｯｻ通信

複数ﾌﾟﾛｾｯｻ通信動作(MPCM)は同じ直列ﾊﾞｽ経由で複数のﾏｲｸﾛ ｺﾝﾄﾛｰﾗ通信を持つｼｽﾃﾑで、受信部によって処理されなければならない到着ﾌﾚｰﾑ数を効果的に減らします。この動作は制御B(USARTn.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの複数ﾌﾟﾛｾｯｻ通信動作(MPCM)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって許可されます。この動作ではﾌﾚｰﾑがｱﾄﾞﾚｽかﾃﾞｰﾀのどちらのﾌﾚｰﾑ形式かを示すのにﾌﾚｰﾑ内の専用ﾋﾞｯﾄが使われます。

受信部が5～8ﾃﾞｰﾀ ﾋﾞｯﾄを含むﾌﾚｰﾑを受信するように構成設定されたなら、最初の停止ﾋﾞｯﾄはﾌﾚｰﾑ形式を示すのに使われます。受信部が9ﾃﾞｰﾀ ﾋﾞｯﾄのﾌﾚｰﾑに構成設定されたなら、ﾌﾚｰﾑ形式を示すのに第9ﾋﾞｯﾄが使われます。ﾌﾚｰﾑ形式(最初の停止または第9)ﾋﾞｯﾄが'1'の時にそのﾌﾚｰﾑはｱﾄﾞﾚｽを含みます。ﾌﾚｰﾑ形式ﾋﾞｯﾄが'0'の時にそのﾌﾚｰﾑはﾃﾞｰﾀ ﾌﾚｰﾑです。5～8ﾋﾞｯﾄ文字(ﾃﾞｰﾀ)ﾌﾚｰﾑが使われる場合、最初の停止ﾋﾞｯﾄがﾌﾚｰﾑ形式を示すのに使われるため、送信部は2停止ﾋﾞｯﾄ使用に設定されなければなりません。

特定の従装置MCUがｱﾄﾞﾚｽ指定されたなら、そのMCUは後続するﾃﾞｰﾀ ﾌﾚｰﾑを通常のように受信し、一方他の従装置MCUは別のｱﾄﾞﾚｽ ﾌﾚｰﾑが受信されるまでﾌﾚｰﾑを無視します。

24.3.4.3.1. 複数ﾌﾟﾛｾｯｻ通信動作の使い方

複数ﾌﾟﾛｾｯｻ通信動作(MPCM)でﾃﾞｰﾀを交換するには次の手順を使ってください。

1. 全ての従装置MCUは複数ﾌﾟﾛｾｯｻ通信動作です。
2. 主装置MCUはｱﾄﾞﾚｽ ﾌﾚｰﾑを送り、全ての従装置がこのﾌﾚｰﾑを受け取って読みます。
3. 各従装置MCUは選択されたかを判定します。
4. ｱﾄﾞﾚｽ指定されたMCUはMPCMを禁止して全てのﾃﾞｰﾀ ﾌﾚｰﾑを受信します。他の従装置MCUはﾃﾞｰﾀ ﾌﾚｰﾑを無視します。
5. ｱﾄﾞﾚｽ指定されたMCUが最後のﾃﾞｰﾀ ﾌﾚｰﾑを受信してしまうと、再びMPCMを許可して主装置からの新しいｱﾄﾞﾚｽ ﾌﾚｰﾑを待たなければなりません。

その後、手順は2.からを繰り返します。

24.3.5. 事象

USARTは下表で記述される事象を生成することができます。

表24-7. USARTでの事象生成部

生成部名		説明	事象型	生成ｸﾛｯｸ領域	事象長
周辺機能	事象				
USARTn	XCK	SPI主装置動作と同期USART主装置動作でのｸﾛｯｸ信号	ﾊﾟﾙｽ	CLK_PER	1 XCK周期

下表は事象使用部とその関連機能を記述します。

表24-8. USARTでの事象使用部

使用部名		説明	入力検出	同期/非同期
周辺機能	入力			
USARTn	IREI	USARTn IrDA事象入力	ﾊﾟﾙｽ	同期

24.3.6. 割り込み

表24-9. 利用可能な割り込みﾍﾞｸﾀと供給元

名称	ﾍﾞｸﾀ説明	条件
RXC	受信完了割り込み	・受信緩衝部に未読ﾃﾞｰﾀ有 (RXCIE) ・検出されたﾌﾚｰﾑ開始の受信 (RXSIE) ・自動ﾎﾞｰﾚｰﾄ異常/矛盾同期領域割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(ISFIF)設定(1) (ABEIE)
DRE	ﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀ空割り込み	送信緩衝部が空/新しいﾃﾞｰﾀを受け取る準備可 (DREIE)
TXC	送信完了割り込み	送信移動ﾚｼﾞｽﾀのﾌﾚｰﾑ全体が出力され、送信緩衝部に新ﾃﾞｰﾀ無し (TXCIE)

割り込み条件が起こると、状態(USARTn.STATUS)ﾚｼﾞｽﾀで対応する割り込み要求ﾌﾗｸﾞが設定(1)されます。

割り込み元は制御A(USARTn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀで対応する許可ﾋﾞｯﾄを書くことによって許可または禁止にされます。

割り込み要求は対応する割り込み元が許可され、割り込み要求ﾌﾗｸﾞが設定(1)される時に生成されます。割り込み要求は割り込み要求ﾌﾗｸﾞが解除(0)されるまで活性に留まります。割り込み要求ﾌﾗｸﾞを解除する方法の詳細についてはUSARTn.STATUSﾚｼﾞｽﾀをご覧ください。

24.4. レジスタ要約

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00	RXDATAL	7～0	DATA7~0							
+$01	RXDATAH	7～0	RXCIF	BUFOVF				FERR	PERR	DATA8
+$02	TXDATAL	7～0	DATA7~0							
+$03	TXDATAH	7～0								DATA8
+$04	STATUS	7～0	RXCIF	TXCIF	DREIF	RXSIF	ISFIF		BDF	WFB
+$05	CTRLA	7～0	RXCIE	TXCIE	DREIE	RXSIE	LBME	ABEIE		RS485
+$06	CTRLB	7～0	RXEN	TXEN		SFDEN	ODME	RXMODE1,0		MPCM
+$07	CTRLC	7～0	CMODE1,0		PMODE1,0		SBMODE	CHSIZE2~0		
								UDORD	UCPHA	
+$08	BAUD	7～0	BAUD7~0							
+$09		15～8	BAUD15~8							
+$0A	CTRLD	7～0	ABW1,0							
+$0B	DBGCTRL	7～0								DBGRUN
+$0C	EVCTRL	7～0								IREI
+$0D	TXPLCTRL	7～0	TXPL7~0							
+$0E	RXPLCTRL	7～0		RXPL7~0						

24.5. ﾚｼﾞｽﾀ説明

24.5.1. RXDATAL – 受信ﾃﾞｰﾀ下位ﾊﾞｲﾄ (Rceiver Data Register Low Byte)

名称 : RXDATAL
変位 : +$00
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

このﾚｼﾞｽﾀはUSART受信部によって受信されたﾃﾞｰﾀの下位側8ﾋﾞｯﾄを含みます。USART受信部は2重緩衝され、このﾚｼﾞｽﾀは常に最も古くに受信したﾌﾚｰﾑに対するﾃﾞｰﾀを示します。受信緩衝部に1ﾌﾚｰﾑに対するﾃﾞｰﾀだけが存在する場合、このﾚｼﾞｽﾀはそのﾃﾞｰﾀを含みます。

緩衝部は構成設定に依存してRXDATALまたはRXDATAHのどちらかが読まれる時にﾃﾞｰﾀを移動します。移動前に両ﾊﾞｲﾄを読むことができるようにﾃﾞｰﾀ移動を引き起こさないﾚｼﾞｽﾀが先に読まれなければなりません。

制御C(USARTn.CTRLC)ﾚｼﾞｽﾀの文字ﾋﾞｯﾄ数(CHSIZE)ﾋﾞｯﾄ領域が9ﾋﾞｯﾄ(下位ﾊﾞｲﾄ先行)に構成設定される場合、RXDATAHの読み込みが受信緩衝部を移動します。さもなければ、RXDATALが緩衝部を移動します。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	DATA7~0							
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

- **ﾋﾞｯﾄ7~0 – DATA7~0 : 受信ﾃﾞｰﾀ** (Receiver Data Register)

24.5.2. RXDATAH – 受信ﾃﾞｰﾀ上位ﾊﾞｲﾄ (Rceiver Data Register High Byte)

名称 : RXDATAH
変位 : +$01
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

このﾚｼﾞｽﾀはUSART受信部によって受信されたﾃﾞｰﾀの上位側ﾋﾞｯﾄだけでなく、受信したﾃﾞｰﾀ ﾌﾚｰﾑの状態を反映する状態ﾋﾞｯﾄも含みます。USART受信部は2重緩衝され、このﾚｼﾞｽﾀは常に最も古くに受信したﾌﾚｰﾑに対するﾃﾞｰﾀと状態ﾋﾞｯﾄを示します。受信緩衝部に1ﾌﾚｰﾑに対するﾃﾞｰﾀと状態ﾋﾞｯﾄだけが存在する場合、このﾚｼﾞｽﾀはそのﾃﾞｰﾀと状態ﾋﾞｯﾄを含みます。

緩衝部は構成設定に依存してRXDATALまたはRXDATAHのどちらかが読まれる時にﾃﾞｰﾀを移動します。移動前に両ﾊﾞｲﾄを読むことができるようにﾃﾞｰﾀ移動を引き起こさないﾚｼﾞｽﾀが先に読まれなければなりません。

制御C(USARTn.CTRLC)ﾚｼﾞｽﾀの文字ﾋﾞｯﾄ数(CHSIZE)ﾞｯﾄ領域が9ﾋﾞｯﾄ(下位ﾊﾞｲﾄ先行)に構成設定される場合、RXDATAHの読み込みが受信緩衝部を移動します。さもなければ、RXDATALが緩衝部を移動します。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	RXCIF	BUFOVF				FERR	PERR	DATA8
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R	R	R	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

- **ﾋﾞｯﾄ7 – RXCIF : 受信完了割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (Receive Complete Interrupt Flag)

このﾌﾗｸﾞは受信緩衝部内に未読ﾃﾞｰﾀがある時に設定(1)され、受信緩衝部が空の時に解除(0)されます。

- **ﾋﾞｯﾄ6 – BUFOVF : 緩衝部溢れﾌﾗｸﾞ** (Buffer Overflow)

このﾌﾗｸﾞは緩衝部溢れが検出された場合に設定(1)されます。緩衝部溢れは受信緩衝部が満杯で、新しﾌﾚｰﾑが受信移動ﾚｼﾞｽﾀで待っていて、新しい開始ﾋﾞｯﾄが検出された時に起こります。このﾌﾗｸﾞは受信ﾃﾞｰﾀ(USARTn.RXDATALとUSARTn.RXDATAH)ﾚｼﾞｽﾀが読まれる時に解除(0)されます。

このﾌﾗｸﾞは主装置SPI動作形態で使われません。

- **ﾋﾞｯﾄ2 – FERR : ﾌﾚｰﾑ異常ﾌﾗｸﾞ** (Frame Error)

このﾌﾗｸﾞは最初の最初の停止ﾋﾞｯﾄが'0'の場合に設定(1)され、それが'1'として正しく読めた時に解除(0)されます。

このﾌﾗｸﾞは主装置SPI動作形態で使われません。

- **ﾋﾞｯﾄ1 – PERR : ﾊﾟﾘﾃｨ誤りﾌﾗｸﾞ** (Parity Error)

このﾌﾗｸﾞはﾊﾟﾘﾃｨ検査が許可され、受信したﾃﾞｰﾀがﾊﾟﾘﾃｨ誤りを持つ場合に設定(1)され、さもなければ、このﾌﾗｸﾞは解除(0)されます。ﾊﾟﾘﾃｨ計算の詳細については「24.3.4.1. ﾊﾟﾘﾃｨ」を参照してください。

このﾌﾗｸﾞは主装置SPI動作形態で使われません。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – DATA8 : 受信ﾃﾞｰﾀ ﾋﾞｯﾄ8** (Receiver Data Register)

9ﾋﾞｯﾄの大きさのﾌﾚｰﾑ使用時、このﾋﾞｯﾄは受信ﾃﾞｰﾀの第9(最上位)ﾋﾞｯﾄを保持します。

制御B(USARTn.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの受信動作(RXMODE)ﾋﾞｯﾄ領域がLIN制限自動ﾎﾞｰﾚｰﾄ(LINAUTO)動作に構成設定されると、このﾋﾞｯﾄは受信ﾃﾞｰﾀがLINﾌﾚｰﾑの応答空間内かを示します。受信ﾃﾞｰﾀが保護された識別子領域なら、このﾋﾞｯﾄは解除(0)され、さもなければ、設定(1)されます。

24.5.3. TXDATAL – 送信ﾃﾞｰﾀ下位ﾊﾞｲﾄ (Transmit Data Register Low Byte)

名称 : TXDATAL
変位 : +$02
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

このﾚｼﾞｽﾀに書かれたﾃﾞｰﾀは自動的にTX緩衝部を通して専用の移動ﾚｼﾞｽﾀに設定されます。移動ﾚｼﾞｽﾀはﾋﾞｯﾄの各々を直列にTxDﾋﾟﾝに出力します。

9ﾋﾞｯﾄの大きさのﾌﾚｰﾑ使用時、第9(最上位)ﾋﾞｯﾄは送信ﾃﾞｰﾀ上位ﾊﾞｲﾄ(USARTn.TXDATAH)ﾚｼﾞｽﾀに書かれなければなりません。その場合、緩衝部は構成設定に応じて送信ﾃﾞｰﾀ下位ﾊﾞｲﾄ(USARTn.TXDATAL)ﾚｼﾞｽﾀまたは送信ﾃﾞｰﾀ上位ﾊﾞｲﾄ(USARTn.TXDATAH)ﾚｼﾞｽﾀのどちらかが書かれた時にﾃﾞｰﾀを移動します。移動前に両ﾊﾞｲﾄを書くことができるようにﾃﾞｰﾀ移動を引き起こさないﾚｼﾞｽﾀが先に書かれなければなりません。

制御C(USARTn.CTRLC)ﾚｼﾞｽﾀの文字ﾋﾞｯﾄ数(CHSIZE)ﾋﾞｯﾄ領域が9ﾋﾞｯﾄ(下位ﾊﾞｲﾄ先行)に構成設定されると、送信ﾃﾞｰﾀ上位ﾊﾞｲﾄ ﾚｼﾞｽﾀの書き込みが送信緩衝部を移動します。さもなければ、信ﾃﾞｰﾀ下位ﾊﾞｲﾄ ﾚｼﾞｽﾀが緩衝部を移動します。

このﾚｼﾞｽﾀは状態(USARTn.STATUS)ﾚｼﾞｽﾀのﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀ空割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(DREIF)が設定(1)されている時にだけ書くことができます。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	DATA7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – DATA7~0 : 送信ﾃﾞｰﾀ** (Transmit Data Register Low Byte)

24.5.4. TXDATAH – 送信ﾃﾞｰﾀ上位ﾊﾞｲﾄ (Transmit Data Register High Byte)

名称 : TXDATAH
変位 : +$03
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

このﾚｼﾞｽﾀに書かれたﾃﾞｰﾀは自動的にTX緩衝部を通して専用の移動ﾚｼﾞｽﾀに設定されます。移動ﾚｼﾞｽﾀはﾋﾞｯﾄの各々を直列にTxDﾋﾟﾝに出力します。

9ﾋﾞｯﾄの大きさのﾌﾚｰﾑ使用時、第9(最上位)ﾋﾞｯﾄは送信ﾃﾞｰﾀ上位ﾊﾞｲﾄ(USARTn.TXDATAH)ﾚｼﾞｽﾀに書かれなければなりません。その場合、緩衝部は構成設定に応じて送信ﾃﾞｰﾀ下位ﾊﾞｲﾄ(USARTn.TXDATAL)ﾚｼﾞｽﾀまたは送信ﾃﾞｰﾀ上位ﾊﾞｲﾄ(USARTn.TXDATAH)ﾚｼﾞｽﾀのどちらかが書かれた時にﾃﾞｰﾀを移動します。移動前に両ﾊﾞｲﾄを書くことができるようにﾃﾞｰﾀ移動を引き起こさないﾚｼﾞｽﾀが先に書かれなければなりません。

制御C(USARTn.CTRLC)ﾚｼﾞｽﾀの文字ﾋﾞｯﾄ数(CHSIZE)ﾋﾞｯﾄ領域が9ﾋﾞｯﾄ(下位ﾊﾞｲﾄ先行)に構成設定されると、送信ﾃﾞｰﾀ上位ﾊﾞｲﾄ ﾚｼﾞｽﾀの書き込みが送信緩衝部を移動します。さもなければ、信ﾃﾞｰﾀ下位ﾊﾞｲﾄ ﾚｼﾞｽﾀが緩衝部を移動します。

このﾚｼﾞｽﾀは状態(USARTn.STATUS)ﾚｼﾞｽﾀのﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀ空割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(DREIF)が設定(1)されている時にだけ書くことができます。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
								DATA8
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7 – DATA8 : 送信ﾃﾞｰﾀ ﾋﾞｯﾄ8** (Transmit Data Register High Byte)

このﾋﾞｯﾄは制御C(USARTn.CTRLC)ﾚｼﾞｽﾀの文字ﾋﾞｯﾄ数(CHSIZE)=9BITLまたは9BITHの時に使われます。

24.5.5. STATUS – 状態 (USART Status Register)

名称 : STATUS
変位 : +$04
ﾘｾｯﾄ : $20
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	RXCIF	TXCIF	DREIF	RXSIF	ISFIF		BDF	WFB
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R	R/W	W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	1	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7 – RXCIF : 受信完了割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (Receive Complete Interrupt Flag)

このﾌﾗｸﾞは受信緩衝部内に未読ﾃﾞｰﾀがある時に設定(1)され、受信緩衝部が空の時に解除(0)されます。

● **ﾋﾞｯﾄ6 – TXCIF : 送信完了割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (USART Transmit Complete Interrupt Flag)

このﾌﾗｸﾞは送信移動ﾚｼﾞｽﾀのﾌﾚｰﾑ全体が移動出力されてしまい、送信緩衝部と送信ﾃﾞｰﾀ(TXDATALとTXDATAH)ﾚｼﾞｽﾀ内に新しいﾃﾞｰﾀがない時に設定(1)されます。これに'1'を書くことによって解除(0)されます。

● **ﾋﾞｯﾄ5 – DREIF : ﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀ空割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (USART Data Register Empty Flag)

このﾌﾗｸﾞは送信ﾃﾞｰﾀ(USARTn.TXDATALとUSARTn.TXDATAH)ﾚｼﾞｽﾀが空の時に設定(1)され、それらが送信移動ﾚｼﾞｽﾀ内へ未だ移されていないﾃﾞｰﾀを含む時に解除(0)されます。

● **ﾋﾞｯﾄ4 – RXSIF : 受信開始割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (USART Receive Start Interrupt Flag)

このﾌﾗｸﾞはﾌﾚｰﾑ開始検出が許可され、ﾃﾞﾊﾞｲｽがｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作で、有効な開始ﾋﾞｯﾄが検出された時に設定(1)されます。これに'1'を書くことによって解除(0)されます。

このﾌﾗｸﾞは主装置SPI動作形態で使われません。

● **ﾋﾞｯﾄ3 – ISFIF : 矛盾同期領域割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (Inconsistent Sync Field Interrupt Flag)

このﾌﾗｸﾞは自動ﾎﾞｰﾚｰﾄが許可されて、同期領域が与えられた有効なﾎﾞｰﾚｰﾄ設定に対して速すぎる、または遅すぎる場合に設定(1)されます。USARTがLINAUTO動作に設定され、同期(SYNC)文字が$55のﾃﾞｰﾀ値と違う時にも設定(1)されます。このﾌﾗｸﾞはこれに'1'を書くことによって解除(0)されます。より多くの情報については「自動ﾎﾞｰﾚｰﾄ」項をご覧ください。

● **ﾋﾞｯﾄ1 – BDF : 中断検出ﾌﾗｸﾞ** (Break Detected Flag)

このﾌﾗｸﾞは自動ﾎﾞｰﾚｰﾄ動作が許可され、有効な中断(BREAK)と同期(SYNC)の文字が検出された場合に設定(1)され、次のﾃﾞｰﾀが受信された時に解除(0)されます。これに'1'を書くことによっても解除(0)することができます。より多くの情報については「自動ﾎﾞｰﾚｰﾄ」項をご覧ください。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – WFB : 中断待機** (Wait For Break)

このﾋﾞｯﾄは中断(BREAK)機能用待機が許可されるか否かを制御します。より多くの情報については「自動ﾎﾞｰﾚｰﾄ」項を参照してください。

値	0	1
説明	中断待機が禁止されます。	中断待機が許可されます。

24.5.6. CTRLA – 制御A (Control A)

名称 : CTRLA
変位 : +$05
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	RXCIE	TXCIE	DREIE	RXSIE	LBME	ABEIE		RS485
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7 – RXCIE : 受信完了割り込み許可** (Receive Complete Interrupt Enable)

このﾋﾞｯﾄは受信完了割り込みが許可されるか否かを制御します。許可されると、割り込みは状態(USARTn.STATUS)ﾚｼﾞｽﾀの受信完了割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(RXCIF)ﾋﾞｯﾄが設定(1)される時に起動されます。

値	0	1
説明	受信完了割り込みが禁止されます。	受信完了割り込みが許可されます。

● **ﾋﾞｯﾄ6 – TXCIE : 送信完了割り込み許可** (Transmit Complete Interrupt Enable)

このﾋﾞｯﾄは送信完了割り込みが許可されるか否かを制御します。許可されると、割り込みは状態(USARTn.STATUS)ﾚｼﾞｽﾀの送信完了割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(TXCIF)ﾋﾞｯﾄが設定(1)される時に起動されます。

値	0	1
説明	送信完了割り込みが禁止されます。	送信完了割り込みが許可されます。

● **ﾋﾞｯﾄ5 – DREIE : ﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀ空割り込み許可** (Data Register Empty Interrupt Enable)

このﾋﾞｯﾄはﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀ空割り込み許可されるか否かを制御します。許可されると、割り込みは状態(USARTn.STATUS)ﾚｼﾞｽﾀのﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀ空割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(DREIF)ﾋﾞｯﾄが設定(1)される時に起動されます。

値	0	1
説明	ﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀ空割り込みが禁止されます。	ﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀ空割り込みが許可されます。

● **ﾋﾞｯﾄ4 – RXSIE : 受信開始割り込み許可** (Receiver Start Frame Interrupt Enable)

このﾋﾞｯﾄは受信開始割り込みが許可されるか否かを制御します。許可されると、割り込みは状態(USARTn.STATUS)ﾚｼﾞｽﾀの受信開始割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(RXSIF)ﾋﾞｯﾄが設定(1)される時に起動されます。

値	0	1
説明	受信開始割り込みが禁止されます。	受信開始割り込みが許可されます。

● **ﾋﾞｯﾄ3 – LBME : 折り返し動作許可** (Loop-back Mode Enable)

このﾋﾞｯﾄは折り返し動作が許可されるか否かを制御します。許可されると、TxDﾋﾟﾝとUSART受信部間の内部接続が作成され、RxDﾋﾟﾝからUSART受信部への入力が切断されます。

値	0	1
説明	折り返し動作が禁止されます。	折り返し動作が許可されます。

● **ﾋﾞｯﾄ2 – ABEIE : 自動ﾎﾞｰﾚｰﾄ異常割り込み許可** (Auto-baud Error Interrupt Enable)

このﾋﾞｯﾄは自動ﾎﾞｰﾚｰﾄ異常割り込みが許可されるか否かを制御します。許可されると、割り込みは状態(USARTn.STATUS)ﾚｼﾞｽﾀの矛盾同期領域割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(ISFIF)ﾋﾞｯﾄが設定(1)される時に起動されます。

値	0	1
説明	自動ﾎﾞｰﾚｰﾄ異常割り込みが禁止されます。	自動ﾎﾞｰﾚｰﾄ異常割り込みが許可されます。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – RS485 : RS-485動作** (RS-485 Mode)

このﾋﾞｯﾄはRS-485動作が許可されるか否かを制御します。より多くの情報については「RS-485動作」項を参照してください。

値	0	1
説明	RS-485動作が禁止されます。	RS-485動作が許可されます。

24.5.7. CTRLB – 制御B (Control B)

名称 : CTRLB
変位 : +$06
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	RXEN	TXEN		SFDEN	ODME	RXMODE1,0		MPCM
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7 – RXEN : 受信許可** (Receiver Enable)

このﾋﾞｯﾄはUSART受信部が許可されるか否かを制御します。より多くの情報については「24.3.2.4.2. 受信部禁止」項を参照してください。

値	0	1
説明	RUSART受信部が禁止されます。	USART受信部が許可されます。

● **ﾋﾞｯﾄ6 – TXEN : 送信許可** (Transmitter Enable)

このﾋﾞｯﾄはUSART送信部が許可されるか否かを制御します。より多くの情報については「24.3.2.3.1. 送信部禁止」項を参照してください。

値	0	1
説明	RUSART送信部が禁止されます。	USART送信部が許可されます。

● **ﾋﾞｯﾄ4 – SFDEN : ﾌﾚｰﾑ開始検出許可** (Start of Frame Detection Enable)

このﾋﾞｯﾄはUSARTﾌﾚｰﾑ開始検出動作が許可されるか否かを制御します。より多くの情報については「24.3.4.2. ﾌﾚｰﾑ開始検出」項を参照してください。

値	0	1
説明	RUSART送信部が禁止されます。	USART送信部が許可されます。

● **ﾋﾞｯﾄ3 – ODME : ｵｰﾌﾟﾝ ﾄﾞﾚｲﾝ動作許可** (Open Drain Mode Enable)

このﾋﾞｯﾄはｵｰﾌﾟﾝ ﾄﾞﾚｲﾝ動作が許可されるか否かを制御します。より多くの情報については「単線動作」項を参照してください。

値	0	1
説明	ｵｰﾌﾟﾝ ﾄﾞﾚｲﾝ動作が禁止されます。	ｵｰﾌﾟﾝ ﾄﾞﾚｲﾝ動作が許可されます。

● **ﾋﾞｯﾄ2,1 – RXMODE1,0 : 受信動作** (Receiver Mode)

このﾋﾞｯﾄ領域書き込みはUSARTの受信部動作を選びます。

- これらのﾋﾞｯﾄへの‘00’書き込みは標準速(NORMAL)動作を許可します。制御C(USARTn.CTRLC)ﾚｼﾞｽﾀのUSART通信動作(CMODE)ﾋﾞｯﾄ領域が非同期USART(ASYNCHRONOUS)または赤外通信(IRCOM)に構成設定される時は常にRXMODEﾋﾞｯﾄ領域へ‘00’を書いてください。
- これらのﾋﾞｯﾄへの‘01’書き込みは倍速(CLK2X)動作を許可します。より多くの情報については「24.3.3.2.4. 倍速動作」項を参照してください。
- これらのﾋﾞｯﾄへの‘10’書き込みは標準自動ﾎﾞｰﾚｰﾄ(GENAUT)動作を許可します。より多くの情報については「自動ﾎﾞｰﾚｰﾄ」項を参照してください。
- これらのﾋﾞｯﾄへの‘11’書き込みはLIN制限自動ﾎﾞｰﾚｰﾄ(LINAUTO)動作を許可します。より多くの情報については「自動ﾎﾞｰﾚｰﾄ」項を参照してください。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	NORMAL	CLK2X	GENAUTO	LINAUTO
説明	標準速動作	倍速動作	標準自動ﾎﾞｰﾚｰﾄ動作	LIN制限自動ﾎﾞｰﾚｰﾄ動作

● **ﾋﾞｯﾄ0 – MPCM : 複数ﾌﾟﾛｾｯｻ通信動作** (Multi-processor Communication Mode)

このﾋﾞｯﾄは複数ﾌﾟﾛｾｯｻ通信動作が許可されるか否かを制御します。より多くの情報については「24.3.4.3. 複数ﾌﾟﾛｾｯｻ通信」をご覧ください。

値	0	1
説明	複数ﾌﾟﾛｾｯｻ通信動作が禁止されます。	複数ﾌﾟﾛｾｯｻ通信動作が許可されます。

24.5.8. CTRLC – 制御C – 標準動作 (Control C – Normal Mode)

名称 : CTRLC
変位 : +$07
ﾘｾｯﾄ : $03
特質 : –

このﾚｼﾞｽﾀ記述は主装置SPI動作を除く全動作に対して有効です。このﾚｼﾞｽﾀのUSART通信動作(CMODE)ﾋﾞｯﾄ領域が’MSPI’を書かれた時の正確な記述については「制御C(CTRLC) – 主装置SPI動作」ﾚｼﾞｽﾀをご覧ください。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	CMODE1,0		PMODE1,0		SBMODE	CHSIZE2~0		
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	1	1

● **ﾋﾞｯﾄ7,6 – CMODE1,0 : 通信動作** (USART Communication Mode)

このﾋﾞｯﾄ領域はUSARTの通信動作を選びます。

これらのﾋﾞｯﾄへの'11'書き込みはこのﾚｼﾞｽﾀでの利用可能なﾋﾞｯﾄ領域が変わります。「制御C(CTRLC) – 主装置SPI動作」ﾚｼﾞｽﾀをご覧ください。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	ASYNCHRONOUS	SYNCHRONOUS	IRCOM	MSPI
説明	非同期USART	同期USART	赤外線通信	主装置SPI

● **ﾋﾞｯﾄ5,4 – PMODE1,0 : ﾊﾟﾘﾃｨ動作** (Parity Mode)

このﾋﾞｯﾄ領域はﾊﾟﾘﾃｨ生成の形式を選びます。より多くの情報については「24.3.4.1. ﾊﾟﾘﾃｨ」をご覧ください。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	DISABLED	–	EVEN	ODD
説明	禁止	(予約)	許可、偶数ﾊﾟﾘﾃｨ	許可、奇数ﾊﾟﾘﾃｨ

● **ﾋﾞｯﾄ3 – SBMODE : 停止ﾋﾞｯﾄ動作** (Stop Bit Mode)

このﾋﾞｯﾄは送信部によって挿入される停止ﾋﾞｯﾄ数を選びます。受信部はこの設定を無視します。

値	0	1
説明	1停止ﾋﾞｯﾄ	2停止ﾋﾞｯﾄ

● **ﾋﾞｯﾄ2~0 – CHSIZE2~0 : 文字ﾋﾞｯﾄ数** (Character Size)

このﾋﾞｯﾄ領域はﾌﾚｰﾑ内のﾃﾞｰﾀ ﾋﾞｯﾄ数を選びます。受信部と送信部は同じ設定を使います。9ﾋﾞｯﾄ文字に対しては、受信ﾃﾞｰﾀ(RXDATA)または送信ﾃﾞｰﾀ(TXDATA)の下位または上位で先に読み書きするﾊﾞｲﾄ順を構成設定することができます。

値	0 0 0	0 0 1	0 1 0	0 1 1	1 0 0	1 0 1	1 1 0	1 1 1
名称	5BIT	6BIT	7BIT	8BIT	–	–	9BITL	9BITH
説明	5ﾋﾞｯﾄ	6ﾋﾞｯﾄ	7ﾋﾞｯﾄ	8ﾋﾞｯﾄ	(予約)	(予約)	9ﾋﾞｯﾄ(下位ﾊﾞｲﾄ先行)	9ﾋﾞｯﾄ(上位ﾊﾞｲﾄ先行)

24.5.9. CTRLC – 制御C – 主装置SPI動作 (Control C – Master SPI Mode)

名称 : CTRLC
変位 : +$07
ﾘｾｯﾄ : $02
特質 : –

このﾚｼﾞｽﾀ記述はUSARTが(通信動作(CMODE)がMSPIを書かれる)主装置SPI動作の時にだけ有効です。他のCMODE値ついての正確な記述に関しては「制御C(CTRLC) – 標準動作」ﾚｼﾞｽﾀをご覧ください。

主装置SPI動作の完全な記述については「24.3.3.1.3. 主装置SPI動作でのUSART」をご覧ください。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	CMODE1,0					UDORD	UCPHA	
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R	R	R	R/W	R/W	R
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	1	0

● **ﾋﾞｯﾄ7,6 – CMODE1,0 : 通信動作** (USART Communication Mode)

このﾋﾞｯﾄ領域はUSARTの通信動作を選びます。

これらのﾋﾞｯﾄへの'11'以外の書き込みはこのﾚｼﾞｽﾀでの利用可能なﾋﾞｯﾄ領域が変わります。「制御C(CTRLC) – 標準動作」ﾚｼﾞｽﾀをご覧ください。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	ASYNCHRONOUS	SYNCHRONOUS	IRCOM	MSPI
説明	非同期USART	同期USART	赤外線通信	主装置SPI

● **ﾋﾞｯﾄ2 – UDORD : USARTﾃﾞｰﾀ順** (USART Data Order)

このﾋﾞｯﾄはﾌﾚｰﾑ形式を選びます。

受信部と送信部は同じ設定を使います。UDORDﾋﾞｯﾄの設定変更は送受信部両方に対して進行中の全ての通信を不正にします。

値	0	1
説明	データ語のMSBが先に送信されます。	データ語のLSBが先に送信されます。

● **ビット1 – UCPHA : USARTクロック位相** (USART Clock Phase)

このビットはインターフェース クロックの位相を制御します。より多くの情報については「クロック生成」項を参照してください。

値	0	1
説明	データが先行(先頭)端で採取されます。	データが後行(最終)端で採取されます。

24.5.10. BAUD – ボーレート (Baud Register)

名称 : BAUD (BAUDH,BAUDL)
変位 : +$08
リセット : $0000
特質 : –

USARTn.BAUDHとUSARTn.BAUDLのレジスタ対は16ビット値のUSARTn.BAUDを表します。下位バイト[7～0](接尾辞L)は変位原点でアクセス可能です。上位バイト[15～8](接尾辞H)は変位+1でアクセスすることができます。

送信部と受信部の進行中の転送はボーレートが変更される場合に不正にされます。このレジスタへの書き込みはボーレート前置分周器の即時更新を起動します。ボーレートの設定方法のより多くの情報については表24-1.をご覧ください。

ビット	15	14	13	12	11	10	9	8
	BAUD15~8							
アクセス種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
	BAUD7~0							
アクセス種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット15～8 – BAUD15~8 : ボーレート上位バイト** (USART Baud Rate high byte)

このビット領域は16ビット ボーレート レジスタの上位バイトを保持します。

● **ビット7～0 – BAUD7~0 : ボーレート下位バイト** (USART Baud Rate low byte)

このビット領域は16ビット ボーレート レジスタの下位バイトを保持します。

24.5.11. CTRLD – 制御D (Control D)

名称 : CTRLD
変位 : +$0A
リセット : $00
特質 : –

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
	ABW1,0							
アクセス種別	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット7,6 – ABW1,0 : 自動ボーレート窓幅** (Auto-baud Window Size)

これらのビットはLIN制限自動ボーレート動作使用時に2つの同期する装置間のボーレートの違いに対する許容値を制御します。許容値は毎回の2ビット間のボーレート採取数に基づきます。ボーレートが同じ時は各ビットが16回採取されるため、各ビット対間は32ボーレート採取でなければなりません。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	WDW0	WDW1	WDW2	WDW3
説明	32±6 (18%許容)	32±5 (15%許容)	32±7 (21%許容)	32±8 (25%許容)

24.5.12. DBGCTRL – ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ制御 (Debug Control)

名称 : DBGCTRL
変位 : +$0B
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
								DBGRUN
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ0 – DBGRUN : ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ時走行** (Debug Run)

値	0	1
説明	中断ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ動作で停止され事象を無視	中断ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ動作でCPU停止時に走行継続

24.5.13. EVCTRL – 事象制御 (IrDA Control Register)

名称 : EVCTRL
変位 : +$0C
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
								IREI
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ0 – IREI : IrDA事象入力許可** (IrDA Event Input Enable)

このﾋﾞｯﾄはIrDA事象入力が許可されるか否かを制御します。より多くの情報については「24.3.3.2.7. IRCOM動作形態」項をご覧ください。

値	0	1
説明	IrDA事象入力が禁止されます。	IrDA事象入力が許可されます。

24.5.14. TXPLCTRL – IRCOM送信ﾊﾟﾙｽ長制御 (IRCOM Transmitter Pulse Length Control Register)

名称 : TXPLCTRL
変位 : +$0D
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	TXPL7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – TXPL7~0 : 送信ﾊﾟﾙｽ長** (Transmitter Pulse Length)

この8ﾋﾞｯﾄ値は送信部に対するﾊﾟﾙｽ変調方式を設定します。このﾚｼﾞｽﾀの設定はUSARTによってIRCOM動作が選択される場合にだけ有効で、USART送信部が許可(TXEN)される前に構成設定されなければなりません。

値	説明
$00	3/16ﾎﾞｰﾚｰﾄ周期ﾊﾟﾙｽ変調が使われます。
$01～$FE	固定ﾊﾟﾙｽ長符号化が使われます。この8ﾋﾞｯﾄ値はﾊﾟﾙｽに対する周辺機能ｸﾛｯｸ周期数を設定します。ﾊﾟﾙｽの始めはﾎﾞｰﾚｰﾄ ｸﾛｯｸの上昇端で同期されます。
$FF	ﾊﾟﾙｽ符号化禁止。送受信の信号はIRCOM単位部を無変化で通過します。これは半二重USART、折り返し検査、事象ﾁｬﾈﾙからのUSART受信入力のような、IRCOM単位部を通す他の機能を許します。

24.5.15. RXPLCTRL – IRCOM受信ﾊﾟﾙｽ長制御 (IRCOM Receiver Pulse Length Control Register)

名称 ：RXPLCTRL
変位 ：+$0E
ﾘｾｯﾄ ：$00
特質 ：–

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
		RXPL6~0						
ｱｸｾｽ種別	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ6~0 – RXPL7~0：受信ﾊﾟﾙｽ長** (Receiver Pulse Length)

この7ﾋﾞｯﾄ値はIRCOM送受信部に対する濾波係数を設定します。このﾚｼﾞｽﾀの設定はUSARTによってIRCOM動作が選択される場合にだけ有効で、USART受信部が許可(RXEN)される前に構成設定されなければなりせん。

値	説明
$00	濾波が禁止されます。
$01～$7F	濾波が許可されます。RXPL+1の値は受け入れるべき受信したﾊﾟﾙｽに必要とされる採取数を表します。

25. SPI - 直列周辺インターフェース

25.1. 特徴

- 全二重、3線同期データ転送
- 主装置または従装置の動作
- LSB先行またはMSB先行のデータ転送
- 設定可能な7つのビット速度
- 転送の最後での割り込み要求フラグ
- 書き込み衝突フラグ保護
- アイドル休止動作からの起き上がり
- 倍速(CK/2)主装置SPI動作

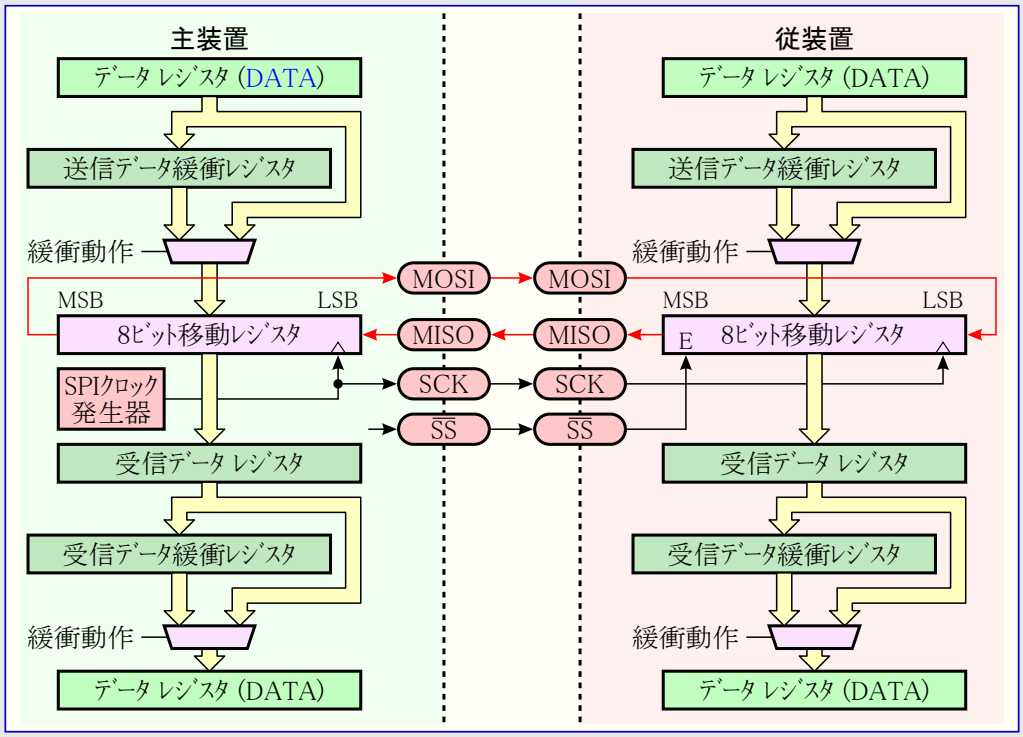
25.2. 概要

直列周辺インターフェース(SPI)は3または4つのピンを用いる高速同期データ転送インターフェースです。それはAVR®デバイスと周辺装置間、または様々なマイクロ コントローラ間での全二重通信を許します。SPI周辺機能は主装置または従装置のどちらかとして構成設定することができます。主装置が全てのデータ転送処理を始めて制御します。

SPIを持つ主装置と従装置のデバイス間の相互接続は構成図で示されます。このシステムは2つの移動レジスタと主装置クロック発生器から成ります。SPI主装置は望む従装置の従装置選択($\overline{SS}$)信号をLowに引くことによって通信周回を始めます。主装置と従装置は送るべきデータをそれらの各々の移動レジスタに用意して、主装置はデータを交換するためにSCK線上に必要とするクロック パルスを生成します。データは常に主装置出力従装置入力(MOSI)線で主装置から従装置へ、主装置入力従装置出力(MISO)線で従装置から主装置へ移動されます。

25.2.1. 構成図

図25-1. SPI構成図



SPIは同時にデータの移動出力と入力を行う8ビット移動レジスタ周辺を構築します。データ(DATA)レジスタは物理的なレジスタではありませんが、読み書きされる時に他のレジスタに割り当てられます。送信時のデータ(SPIn.DATA)レジスタは標準動作で移動レジスタに、緩衝動作で送信緩衝レジスタに書きます。受信時のデータ(SPIn.DATA)レジスタ読み込みは標準動作で受信データ レジスタを、緩衝動作で受信データ緩衝レジスタを読みます。

主装置動作ではSPIがSCKクロックを生成するクロック生成器を持ちます。従装置では受け取ったSCKクロックが同期化されて移動レジスタでデータの移動を起動するように採取されます。

25.2.2. 信号説明

表25-1. 主装置動作と従装置動作での信号

信号	形式		説明
	主装置動作	従装置動作	
MOSI	使用者定義 (注1)	入力	主装置出力従装置入力
MISO	入力	使用者定義 (注1,2)	主装置入力従装置出力
SCK	使用者定義 (注1)	入力	従装置ｸﾛｯｸ
$\overline{SS}$	使用者定義 (注1)	入力	従装置選択

注1: ﾋﾟﾝのﾃﾞｰﾀ方向が出力として構成設定される場合、ﾋﾟﾝのﾚﾍﾞﾙはSPIによって制御されます。

注2: SPIが従装置動作でMISOﾋﾟﾝのﾃﾞｰﾀ方向が出力として構成設定される場合、以下のように$\overline{SS}$ﾋﾟﾝがMISOﾋﾟﾝを制御します。

- $\overline{SS}$ﾋﾟﾝがLowに駆動されるなら、MISOﾋﾟﾝはSPIによって制御されます。
- $\overline{SS}$ﾋﾟﾝがHighに駆動されるなら、MISOﾋﾟﾝはHi-Zにされます。

SPI単位部が許可されると、MOSI、MISO、SCK、$\overline{SS}$ﾋﾟﾝのﾃﾞｰﾀ方向は**表25-1.**に従って上書きされます。

25.3. 機能的な説明

25.3.1. 初期化

以下のこれらの手順によってSPIを基本機能状態に初期化してください。

1. ﾎﾟｰﾄ周辺機能で$\overline{SS}$ﾋﾟﾝを構成設定してください。
2. 制御A(SPIn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの主/従装置選択(MASTER)ﾋﾞｯﾄを書くことによってSPI主装置/従装置動作を選んでください。
3. 主装置動作では、SPIn.CTRLAﾚｼﾞｽﾀで前置分周器(PRESC)ﾋﾞｯﾄとｸﾛｯｸ倍速(CLK2X)ﾋﾞｯﾄを書くことによってｸﾛｯｸ速度を選んでください。
4. 任意選択: 制御B(SPIn.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの動作形態(MODE)ﾋﾞｯﾄに書くことによって転送動作形態を選んでください。
5. 任意選択: SPIn.CTRLAﾚｼﾞｽﾀのﾃﾞｰﾀ順(DORD)ﾋﾞｯﾄを書いてください。
6. 任意選択: 制御B(SPIn.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀで緩衝動作許可(BUFEN)と緩衝動作受信待機(BUFWR)のﾋﾞｯﾄを書くことによって緩衝動作を構成設定してください。
7. 任意選択: 主装置動作での複数主装置支援を禁止するにはSPIn.CTRLBﾚｼﾞｽﾀの従装置選択禁止(SSD)ﾋﾞｯﾄに'1'を書いてください。
8. SPIn.CTRLAﾚｼﾞｽﾀの許可(ENABLE)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによってSPIを許可してください。

25.3.2. 動作

25.3.2.1. 主装置動作

SPIが主装置動作に構成設定されると、ﾃﾞｰﾀ(SPIn.DATA)ﾚｼﾞｽﾀへの書き込みが新しい転送を開始します。SPI主装置は下で説明されるように2つの動作形態、標準と緩衝で動作することができます。

25.3.2.1.1. 標準動作

標準動作で、ｼｽﾃﾑは送信方向で単一緩衝され、受信方向で2重緩衝されます。これは次のようにﾃﾞｰﾀ処理に影響します。

1. 送られるべき次のﾊﾞｲﾄは転送全体が完了される前にﾃﾞｰﾀ(SPIn.DATA)ﾚｼﾞｽﾀに書くことができません。早すぎる書き込みは送出されるﾃﾞｰﾀの不正を引き起こし、割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(SPIn.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀの書き込み衝突(WRCOL)ﾌﾗｸﾞが設定(1)されます。
2. 受信したﾊﾞｲﾄは伝送が完了した後、直ちに受信ﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀに書かれます。
3. 受信ﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀは次の伝送が緩衝される、またはﾃﾞｰﾀが失われる前に読まれなければなりません。このﾚｼﾞｽﾀはSPIn.DATAを読むことによって読まれます。
4. 送信緩衝ﾚｼﾞｽﾀと受信ﾃﾞｰﾀ緩衝ﾚｼﾞｽﾀは標準動作で使われません。

転送完了後、割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(SPIn.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀで割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(IF)が設定(1)されます。これはこの割り込みと全体割り込みが許可されている場合に実行されるべき対応する割り込みを引き起こします。割り込み制御(SPIn.INTCTRL)ﾚｼﾞｽﾀの割り込み許可(IE)ﾋﾞｯﾄが割り込みを許可します。

25.3.2.1.2. 緩衝動作

緩衝動作は制御B(SPIn.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの緩衝動作許可(BUFEN)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって許可されます。SPIn.CTRLBの緩衝動作受信待機(BUFWR)ﾋﾞｯﾄは主装置動作に影響を及ぼしません。緩衝動作のｼｽﾃﾑは送信方向で2重緩衝、受信方向で3重緩衝されます。これは次のようにﾃﾞｰﾀ処理に影響します。

1. 新しいﾊﾞｲﾄは割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(SPIn.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀのﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀ空割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(DREIF)が設定(1)されている限り、ﾃﾞｰﾀ(SPIn.DATA)ﾚｼﾞｽﾀに書くことができます。最初の書き込みは直ちに送信され、後続する書き込みは送信ﾃﾞｰﾀ緩衝ﾚｼﾞｽﾀへ行きます。
2. 受信したﾊﾞｲﾄは伝送が完了した後、直ちに受信ﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀと受信ﾃﾞｰﾀ緩衝ﾚｼﾞｽﾀで構成される2つの記録の受信先入れ先出し(RX FIFO)待ち行列に置かれます。
3. RX FIFOから読むのにﾃﾞｰﾀ(SPIn.DATA)ﾚｼﾞｽﾀが使われます。どのﾃﾞｰﾀ損失も避けるため、RX FIFOは最低毎回の第2転送毎に読まれなければなりません。

移動ﾚｼﾞｽﾀと送信ﾃﾞｰﾀ緩衝ﾚｼﾞｽﾀの両方が空になる場合、割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(SPIn.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀの転送完了割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(TXCIF)が設定(1)されます。これはこの割り込みと全体割り込みが許可されている場合に実行されるべき対応する割り込みを引き起こします。割り込み制御(SPIn.INTCTRL)ﾚｼﾞｽﾀの割り込み許可(IE)ﾋﾞｯﾄが転送完了割り込みを許可します。

25.3.2.1.3. 主装置動作での$\overline{SS}$ﾋﾟﾝの機能 – 複数主装置支援

主装置動作ではSPIが$\overline{SS}$ﾋﾟﾝをどう使うのかを制御B(SPIn.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの従装置選択禁止(SSD)ﾋﾞｯﾄが制御します。

- SPIn.CTRLBnのSSDが'0'なら、SPIは主装置動作から従装置動作への遷移に$\overline{SS}$ﾋﾟﾝを使うことができます。これは同じSPIﾊﾞｽで複数SPI主装置を許します。
- SPIn.CTRLBnのSSDが'0'で$\overline{SS}$ﾋﾟﾝが出力ﾋﾟﾝとして構成設定される場合、そのﾋﾟﾝは通常の入出力として、または他の周辺機能単位部によって使うことができ、SPIｼｽﾃﾑに影響を及ぼしません。
- SPIn.CTRLBnのSSDが'1'なら、SPIは$\overline{SS}$ﾋﾟﾝを使いません。通常の入出力として、または他の周辺機能単位部によって使うことができます。

SPIn.CTRLBnのSSDﾋﾞｯﾄが'0'で$\overline{SS}$が入力ﾋﾟﾝとして構成設定される場合、$\overline{SS}$ﾋﾟﾝは主装置SPI動作を保証するためにHighを保たれなければなりません。Lowﾚﾍﾞﾙは別の主装置がﾊﾞｽの制御を取ることを試みていると解釈されます。これはSPIを従装置に切り替えてSPIのﾊｰﾄﾞｳｪｱが以下の活動を実行します。

1. 制御A(SPIn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの主/従装置選択(MASTER)ﾋﾞｯﾄが解除(0)され、SPIｼｽﾃﾑは従装置になります。SPIﾋﾟﾝの方向は**表25-2.**の条件を満たす時に切り替えられます。
2. 割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(SPIn.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀの割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(IF)ﾋﾞｯﾄが設定(1)されます。割り込みが許可されて全体割り込みが許可されているなら、その割り込みﾙｰﾁﾝが実行されます。

表25-2. SPIn.CTRLBのSSDが'0'の時の$\overline{SS}$ﾋﾟﾝ機能の概要

$\overline{SS}$構成設定	$\overline{SS}$ﾋﾟﾝ ﾚﾍﾞﾙ	説明
入力	High	主装置有効(選択)
	Low	主装置無効、従装置動作へ切り替え
出力	High	主装置有効(選択)
	Low	

注: ﾃﾞﾊﾞｲｽが主装置動作で、2つの送信の間に$\overline{SS}$ﾋﾟﾝがHighに留まることを保証できない場合、新しいﾊﾞｲﾄが書かれる前にSPIn.CTRLAﾚｼﾞｽﾀの主/従装置選択(MASTER)ﾋﾞｯﾄが調べられなければなりません。$\overline{SS}$線のLowﾚﾍﾞﾙによってMASTERﾋﾞｯﾄが解除(0)されてしまった後、SPI主装置動作を再許可するには応用によって設定(1)されなければなりません。

25.3.2.2. 従装置動作

従装置動作で、SPI周辺機能は主装置からSPIｸﾛｯｸと従装置選択を受け取ります。従装置動作は3つの動作形態、1つの標準動作と緩衝動作用の2つの構成設定を支援します。従装置動作で、制御論理回路はSCKﾋﾟﾝでやって来る信号を採取します。

25.3.2.2.1. 標準動作

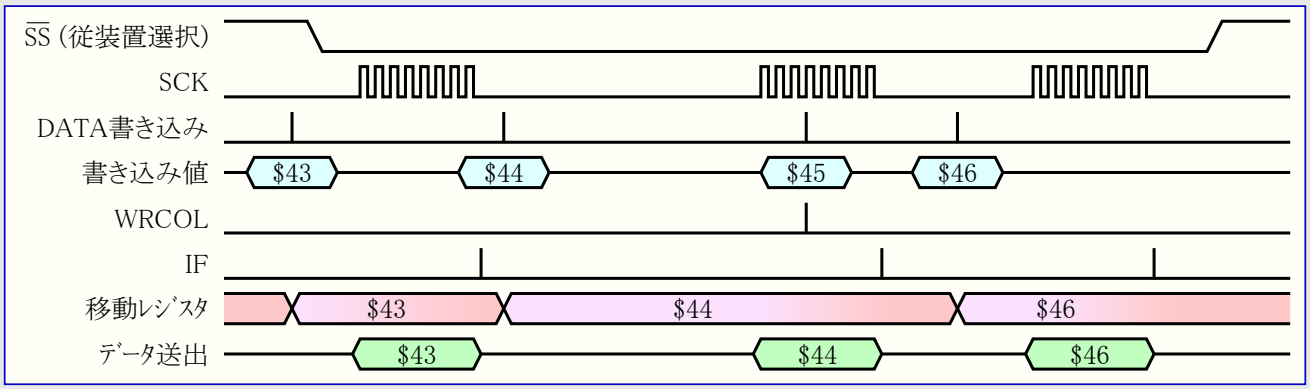
標準動作で、SPI周辺機能は$\overline{SS}$ﾋﾟﾝがHighに駆動される限りｱｲﾄﾞﾙに留まります。この状態ではｿﾌﾄｳｪｱがﾃﾞｰﾀ(SPIn.DATA)ﾚｼﾞｽﾀの内容を更新するかもしれませんが、$\overline{SS}$ﾋﾟﾝがLowに駆動されるまで、ﾃﾞｰﾀはSCKﾋﾟﾝでやって来るｸﾛｯｸ ﾊﾟﾙｽによって移動されません。$\overline{SS}$ﾋﾟﾝがLowに駆動された場合、従装置は最初のSCKｸﾛｯｸ ﾊﾟﾙｽでﾃﾞｰﾀの移動を開始します。1ﾊﾞｲﾄが完全に移動されると、割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(SPIn.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀのSPI割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(IF)が設定(1)されます。

使用者応用は到着ﾃﾞｰﾀを読む前にDATAﾚｼﾞｽﾀに送る新しいﾃﾞｰﾀの配置を続けるかもしれません。送るべき新しいﾊﾞｲﾄは(直前の)転送全体が完了されるのに先立ってDATAに書くことができません。早すぎる書き込みは無視され、ﾊｰﾄﾞｳｪｱがSPIn.INTFLAGSﾚｼﾞｽﾀの書き込み衝突(WRCOL)ﾌﾗｸﾞを設定(1)します。

$\overline{SS}$ﾋﾟﾝがHighに駆動されると、SPI論理回路は停止され、SPI従装置は新しいどのﾃﾞｰﾀも受け取りません。移動ﾚｼﾞｽﾀ内のどの部分的に受信したﾊﾟｹｯﾄも失われます。

図25-2.は標準動作での送信手順を示します。値$45がDATAﾚｼﾞｽﾀに書かれますが、何故決して送信されないかに注目してください。

図25-2. 標準動作(緩衝動作不許可)でのSPIﾀｲﾐﾝｸﾞ構成図



上図は3つの転送と、SPIが転送で多忙の間でのDATAﾚｼﾞｽﾀへの1つの書き込みを示します。この書き込みは無視され、SPIn.INTFLAGSﾚｼﾞｽﾀの書き込み衝突(WRCOL)ﾌﾗｸﾞが設定(1)されます。

25.3.2.2.2. 緩衝動作

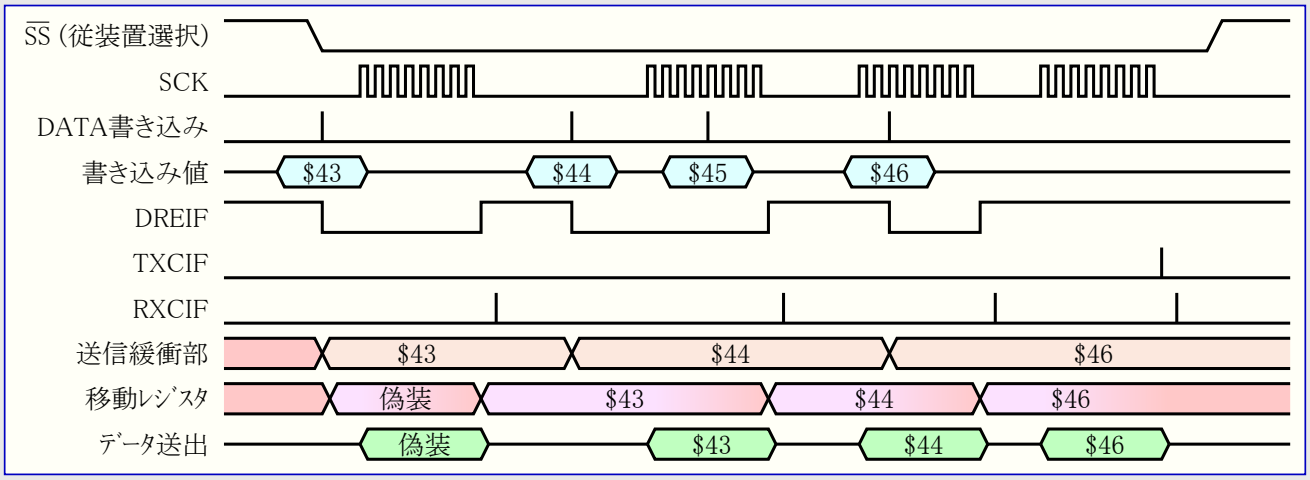
ﾃﾞｰﾀ衝突を避けるため、SPI周辺機能は制御B(SPIn.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの緩衝動作許可(BUFEN)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって緩衝動作に構成設定することができます。この動作では2つの受信緩衝部と1つの送信緩衝部を持ちます。双方は独立した割り込み要求ﾌﾗｸﾞの送信完了と受信完了を持ちます。図25-1.は追加の緩衝部を示します。緩衝動作が許可される時に2つの異なる方法で動くことができます。制御B(SPIn.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの緩衝動作受信待機(BUFWR)ﾋﾞｯﾄは緩衝動作がどう動くかを制御します。ﾀｲﾐﾝｸﾞ構成図を含みそれらがどう動くかの詳細が下で記述されます。

注: 緩衝動作で従装置として動作し、SPIｸﾛｯｸが最大周波数に近いと、従装置は連続転送間の最初の採取端に対して時間内にﾃﾞｰﾀを準備できないかもしれません。詳細については「電気的特性」の「SPI」項を参照してください。

緩衝動作受信待機(BUFWR)=0での従装置緩衝動作

従装置動作で、SPIn.CTRLBﾚｼﾞｽﾀの緩衝動作受信待機(BUFWR)ﾋﾞｯﾄが'0'を書かれると、使用者ﾃﾞｰﾀの送信を開始する前に偽装ﾊﾞｲﾄが送られます。図25-3.はこの構成設定での送信手順を示します。値$45がﾃﾞｰﾀ(SPIn.DATA)ﾚｼﾞｽﾀに書かれますが、何故決して送信されないかに注目してください。

図25-3. '0'を書かれたSPIn.CTRLBのBUFWRを持つ緩衝動作でのSPIﾀｲﾐﾝｸﾞ構成図



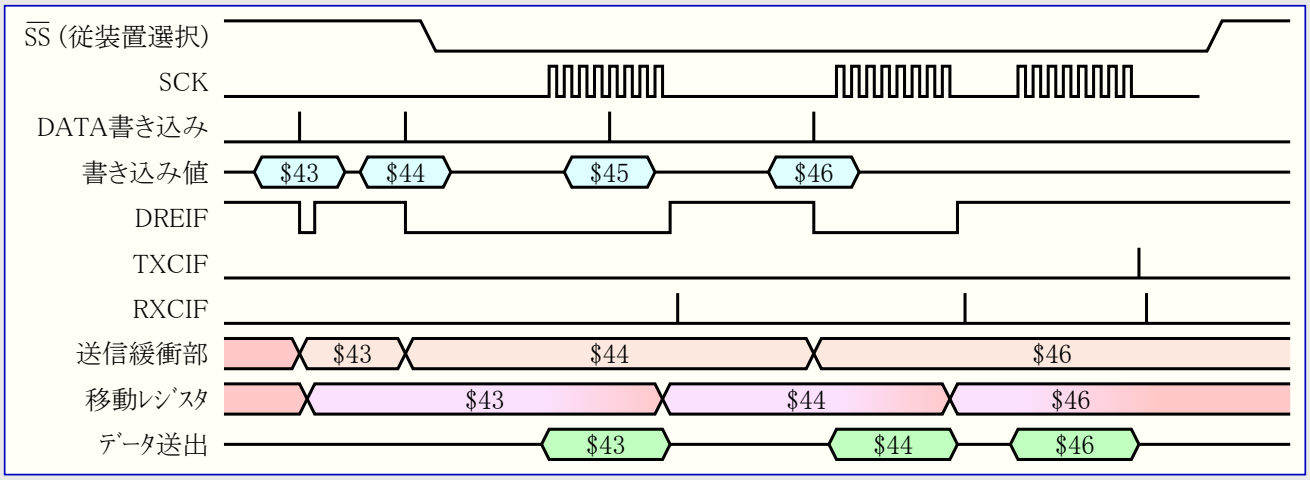
SPIn.CTRLBﾚｼﾞｽﾀの緩衝動作受信待機(BUFWR)ﾋﾞｯﾄが'0'を書かれると、ﾃﾞｰﾀ(SPIn.DATA)ﾚｼﾞｽﾀへの全ての書き込みが送信ﾃﾞｰﾀ緩衝ﾚｼﾞｽﾀへ行きます。上の図は$43が直ちに移動ﾚｼﾞｽﾀへ送られずにﾃﾞｰﾀ(SPIn.DATA)ﾚｼﾞｽﾀに書かれ、故に最初に送られるﾊﾞｲﾄが偽装ﾊﾞｲﾄであることを示します。偽装ﾊﾞｲﾄの値はその時の移動ﾚｼﾞｽﾀにあった値に等しい値です。最初の偽装転送が完了された後、移動ﾚｼﾞｽﾀに値$43が転送されます。その後に$44がﾃﾞｰﾀ(SPIn.DATA)ﾚｼﾞｽﾀへ書かれて送信ﾃﾞｰﾀ緩衝ﾚｼﾞｽﾀへ行きます。新しい転送が開始され、$43が送られます。値$45がﾃﾞｰﾀ(SPIn.DATA)ﾚｼﾞｽﾀに書かれますが、送信ﾃﾞｰﾀ緩衝ﾚｼﾞｽﾀが$44を含み既に満杯で、SPIn.INTFLAGSﾚｼﾞｽﾀのﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀ空割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(DREIF)が'0'のため、送信ﾃﾞｰﾀ緩衝ﾚｼﾞｽﾀは更新されません。値$45は失われます。転送(完了)後、値$44が移動ﾚｼﾞｽﾀに移動されます。次の転送の間、$46転送がﾃﾞｰﾀ(SPIn.DATA)ﾚｼﾞｽﾀに書かれ、$44が送られます。転送完了後、$46が移動ﾚｼﾞｽﾀに複写されて次の転送で送り出されます。

SPIn.INTFLAGSﾚｼﾞｽﾀのﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀ空割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(DREIF)は送信ﾃﾞｰﾀ緩衝ﾚｼﾞｽﾀが書かれる毎に'0'になり、送信ﾃﾞｰﾀ緩衝ﾚｼﾞｽﾀ内の直前の値が移動ﾚｼﾞｽﾀに複写される時の転送後に'1'になります。SPIn.INTFLAGSﾚｼﾞｽﾀの受信完了割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(RXCIF)はDREIFﾌﾗｸﾞが'1'になった1周期後に設定(1)されます。転送完了割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(TXCIF)は移動ﾚｼﾞｽﾀと送信ﾃﾞｰﾀ緩衝ﾚｼﾞｽﾀで両方の値が送られてしまった時に受信完了割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(RXCIF)が設定(1)された1周期後に設定(1)されます。

緩衝動作受信待機(BUFWR)=1での従装置緩衝動作

従装置動作で、SPIn.CTRLBﾚｼﾞｽﾀの緩衝動作受信待機(BUFWR)ﾋﾞｯﾄが'1'を書かれると、使用者ﾃﾞｰﾀの送信はSSﾋﾟﾝがLowに駆動されると直ぐに開始します。**図25-4.**はこの構成設定での送信手順を示します。値$45がﾃﾞｰﾀ(SPIn.DATA)ﾚｼﾞｽﾀに書かれますが、何故決して送信されないかに注目してください。

図25-4. '1'を書かれたSPIn.CTRLBのBUFWRを持つ緩衝動作でのSPIﾀｲﾐﾝｸﾞ構成図



ﾃﾞｰﾀ(SPIn.DATA)ﾚｼﾞｽﾀへの全ての書き込みは送信ﾃﾞｰﾀ緩衝ﾚｼﾞｽﾀへ行きます。上の図は値$43がﾃﾞｰﾀ(SPIn.DATA)ﾚｼﾞｽﾀに書かれ、SSﾋﾟﾝがHighのためにそれが次の周回で移動ﾚｼﾞｽﾀに複写されることを示します。次の書き込み($44)は送信ﾃﾞｰﾀ緩衝部に行きます。最初の転送の間に値$43が移動出力されます。上図で値$45がﾃﾞｰﾀ(SPIn.DATA)ﾚｼﾞｽﾀに書かれますが、SPIn.INTFLAGSﾚｼﾞｽﾀのﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀ空割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(DREIF)が'0'のため、送信ﾃﾞｰﾀ緩衝ﾚｼﾞｽﾀは更新されません。転送完了後、送信ﾃﾞｰﾀ緩衝ﾚｼﾞｽﾀから値$44が移動ﾚｼﾞｽﾀに複写されます。値$46が送信ﾃﾞｰﾀ緩衝ﾚｼﾞｽﾀに書かれます。次の2つの転送の間に$44と$46が移動出力されます。ﾌﾗｸﾞの動きは'0'に設定されたSPIn.CTRLBﾚｼﾞｽﾀの緩衝動作受信待機(BUFWR)ﾋﾞｯﾄでと同じです。

25.3.2.2.3. 従装置動作でのSSﾋﾟﾝの機能

従装置選択(SS)ﾋﾟﾝはSPIの操作で中心的な役割を演じます。SPI動作形態とこのﾋﾟﾝの構成設定に応じて、これは装置を有効または無効にするのに使うことができます。SSﾋﾟﾝはﾁｯﾌﾟ選択ﾋﾟﾝとして使われます。

従装置動作で、SS,MOSI,SCKは常に入力です。MISOﾋﾟﾝの動きはﾎﾟｰﾄ周辺機能でのﾋﾟﾝのﾃﾞｰﾀ方向構成設定とSSの値に依存します。SSﾋﾟﾝがLowに駆動されると、SPIは有効にされ、使用者がMISOﾋﾟﾝのﾃﾞｰﾀ方向を出力として構成設定した場合にMISOでﾃﾞｰﾀ出力をｸﾛｯｸ駆動するためのSCKﾊﾟﾙｽを受け取る責任があります。SSﾋﾟﾝがHighに駆動されると、SPIは無効にされ、やって来るﾃﾞｰﾀを受け取らないことを意味します。MISOﾋﾟﾝのﾃﾞｰﾀ方向が出力として構成設定される場合、MISOﾋﾟﾝはHi-Zにされます。**表25-3.**はSSﾋﾟﾝ機能の上書きを示します。

表25-3. SSﾋﾟﾝ機能の概要

SS構成設定	SSﾋﾟﾝ ﾚﾍﾞﾙ	説明	MISOﾋﾟﾝ動作	
			ﾎﾟｰﾄ方向=出力	ﾎﾟｰﾄ方向=入力
常に入力	High	従装置無効 (非選択)	Hi-Z	入力
	Low	従装置有効 (選択)	出力	入力

注: 従装置動作で、SPI状態機構はSSﾋﾟﾝがHighに駆動される時にﾘｾｯﾄされます。伝送中にSSﾋﾟﾝがHighに駆動される場合、SPIは直ちにﾃﾞｰﾀの送受信を停止し、受信と送信の両ﾃﾞｰﾀが失われたと見做されなければなりません。SSﾋﾟﾝが転送の開始と終わりを合図するのに使われるため、ﾊﾟｹｯﾄ/ﾊﾞｲﾄ同期を達成するのと主装置ｸﾛｯｸ発生器で同期された従装置ﾋﾞｯﾄ計数器を維持するのに有用です。

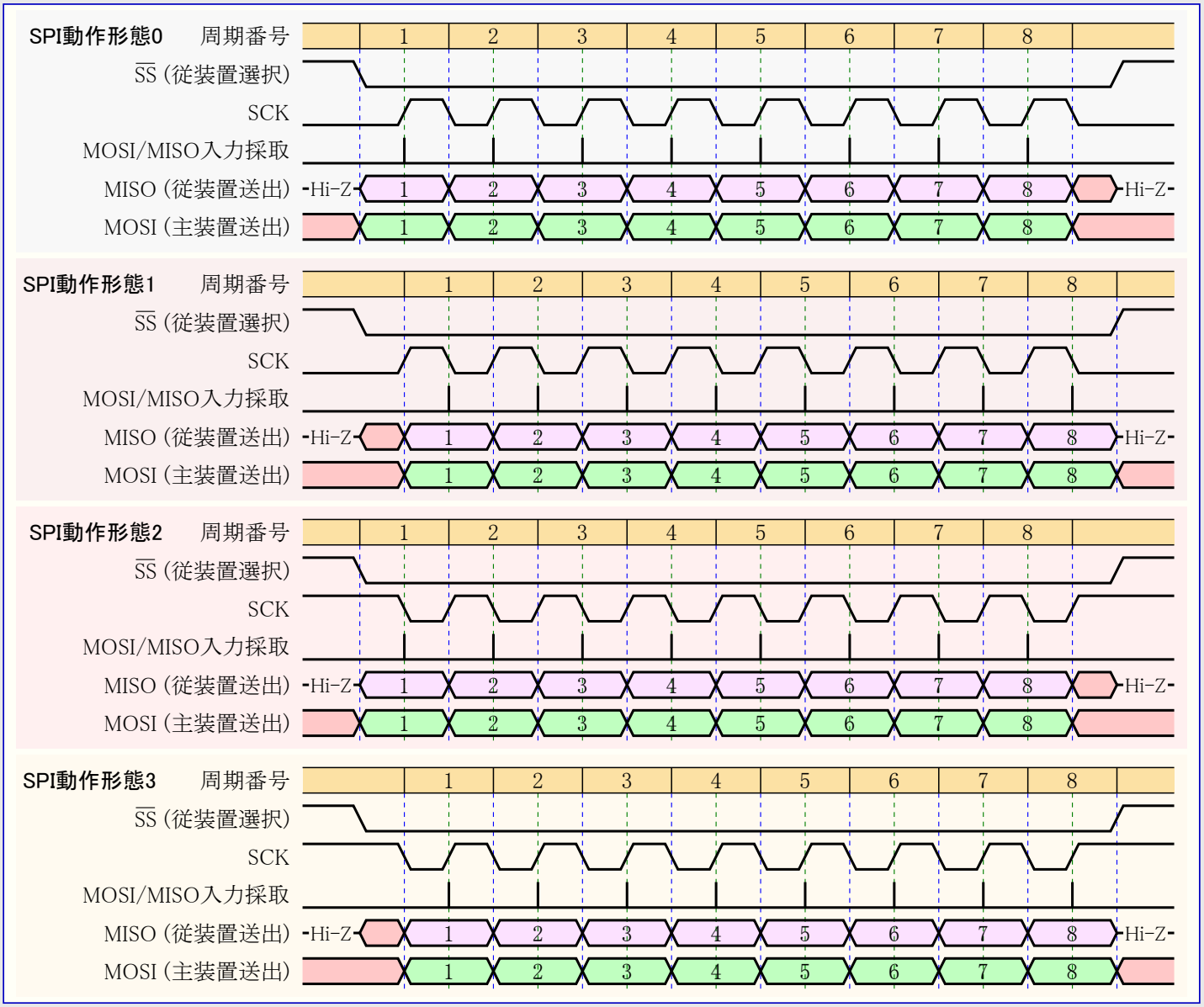
25.3.2.3. データ転送形態

直列データに関してSCKの位相と極性の4つの組み合わせがあります。望む組み合わせは制御B(SPIn.CTRLB)レジスタの動作形態(MODE)ビットに書くことによって選ばれます。

SPIデータ転送形式は以下で示されます。データ ビットはSCK信号の逆端で移動出力されてラッチされ、データ信号を安定にするための充分な時間を保証します。

先行端はクロック周期の最初のクロック端です。後行端はクロック周期の最終クロック端です。

図25-5. SPIデータ転送形態



25.3.2.4. 事象

SPIは以下の事象を生成することができます。

表25-4. SPIでの事象生成部

生成部名		説明	事象型	生成クロック領域	事象長
周辺機能	事象				
SPIn	SCK	SPI主装置クロック	レベル	CLK_PER	最小2 CLK_PER周期

SPIは事象使用部を持ちません。

事象型と事象システム構成設定に関するより多くの詳細については「EVSYS – 事象システム」章を参照してください。

25.3.2.5. 割り込み

表25-5. 利用可能な割り込みﾍﾞｸﾀと供給元

名称	ﾍﾞｸﾀ説明	条件	
		標準動作	緩衝動作
SPI	SPI割り込み	・IF　　：割り込み要求割り込み ・WRCOL：書き込み衝突割り込み	・SSI　：従装置選択起動割り込み ・DRE：ﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀ空割り込み ・TXC：転送完了割り込み ・RXC：受信完了割り込み

割り込み条件が起こると、周辺機能の割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(SPIn.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀで対応する割り込み要求ﾌﾗｸﾞが設定(1)されます。

割り込み元は周辺機能の割り込み制御(SPIn.INTCTRL)ﾚｼﾞｽﾀで対応する許可ﾋﾞｯﾄを書くことによって許可または禁止にされます。

割り込み要求は対応する割り込み元が許可され、割り込み要求ﾌﾗｸﾞが設定(1)される時に生成されます。割り込み要求は割り込み要求ﾌﾗｸﾞが解除(0)されるまで活性に留まります。割り込み要求ﾌﾗｸﾞを解除する方法の詳細についてはSPIn.INTFLAGSﾚｼﾞｽﾀをご覧ください。

25.4. レジスタ要約

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00	CTRLA	7～0		DORD	MASTER	CLK2X		PRESC1,0		ENABLE
+$01	CTRLB	7～0	BUFEN	BUFWR				SSD	MODE1,0	
+$02	INTCTRL	7～0	RXCIE	TXCIE	DREIE	SSIE				IE
+$03	INTFLAGS	7～0	IF	WRCOL						
			RXCIF	TXCIF	DREIF	SSIF				BUFOVF
+$04	DATA	7～0	DATA7~0							

25.5. ﾚｼﾞｽﾀ説明

25.5.1. CTRLA – 制御A (Control A)

名称 : CTRLA
変位 : +$00
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
		DORD	MASTER	CLK2X		PRESC1,0		ENABLE
ｱｸｾｽ種別	R	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ6 – DORD : ﾃﾞｰﾀ順** (Data Order)

値	0	1
説明	語のMSBが先に送信されます。	語のLSBが先に送信されます。

● **ﾋﾞｯﾄ5 – MASTER : 主/従装置選択** (Master/Slave Select)

このﾋﾞｯﾄは望む動作形態を選びます。

$\overline{SS}$が入力として構成設定され、このﾋﾞｯﾄが'1'の間にLowへ駆動される場合、このﾋﾞｯﾄが解除(0)され、割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(SPIn.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀの割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(IF)が設定(1)されます。使用者はSPI主装置動作を再び許可するためにMASTER='1'を再び書かなければなりません。

この動きは制御B(SPIn.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの従装置選択禁止(SSD)ﾋﾞｯﾄによって制御されます。

値	0	1
説明	SPI従装置動作選択	SPI主装置動作選択

● **ﾋﾞｯﾄ4 – CLK2X : ｸﾛｯｸ倍速** (Clock Double)

このﾋﾞｯﾄが'1'を書かれると、SPI速度(内部前置分周された後のSCK周波数)が主装置動作で2倍にされます。

値	0	1
説明	SPI速度(SCK周波数)は2倍にされません。	SPI速度(SCK周波数)は主装置動作で倍にされます。

● **ﾋﾞｯﾄ2,1 – PRESC1,0 : 前置分周器** (Prescaler)

このﾋﾞｯﾄ領域は主装置動作で構成設定されるSCK速度を制御します。これらのﾋﾞｯﾄは従装置動作で無効です。SCKと周辺機能ｸﾛｯｸ周波数(f_{CLK_PER})間の関連は下で示されます。

SPI前置分周器の出力はｸﾛｯｸ倍速(CLK2X)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって2倍にすることができます。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	DIV4	DIV16	DIV64	DIV128
説明	CLK_PER/4	CLK_PER/16	CLK_PER/64	CLK_PER/128

● **ﾋﾞｯﾄ0 – ENABLE : SPI許可** (SPI Enable)

値	0	1
説明	SPI禁止	SPI許可

25.5.2. CTRLB – 制御B (Control B)

名称 : CTRLB
変位 : +$01
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	BUFEN	BUFWR				SSD	MODE1,0	
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R	R	R	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7 – BUFEN : 緩衝動作許可** (Buffer Mode Enable)

このﾋﾞｯﾄに'1'を書くことが緩衝動作を許可します。これは2つの受信緩衝部と1つの送信緩衝部を許可します。両方とも送信完了と受信完了の独立した割り込み要求ﾌﾗｸﾞを持ちます。

● **ﾋﾞｯﾄ6 – BUFWR : 緩衝動作受信待機** (Buffer Mode Wait for Receive)

このﾋﾞｯﾄに'0'を書くと、最初に転送されるﾃﾞｰﾀは偽装採取です。

値	0	1
説明	ﾃﾞｰﾀが移動ﾚｼﾞｽﾀに複写される前に1つのSPI転送が完了されなければなりません。	SPIが許可され、$\overline{SS}$がHighの時にﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀへ書かれると、最初の書き込みは移動ﾚｼﾞｽﾀへ直接行きます。

● **ﾋﾞｯﾄ2 – SSD : 従装置選択禁止** (Slave Select Disable)

SPI主装置(制御A(SPIn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの主/従装置選択(MASTER)=1)として動く時にこのﾋﾞｯﾄが設定(1)される場合、$\overline{SS}$(のLow)は主装置動作を禁止しません。

値	0	1
説明	SPI主装置としての動作時、従装置選択線を許可	SPI主装置としての動作時、従装置選択線を禁止

● **ﾋﾞｯﾄ1,0 – MODE1,0 : 動作形態** (Mode)

これらのﾋﾞｯﾄは転送動作形態を選びます。直列ﾃﾞｰﾀに関してSCKの位相と極性の4つの組み合わせが下で示されます。これらのﾋﾞｯﾄはｸﾛｯｸ周期の先頭端(先行端)が上昇または下降のどちらか、ﾃﾞｰﾀの設定と採取が先行端または後行端のどちらで起こるかを決めます。先行端が上昇の時のSCK信号はｱｲﾄﾞﾙ時にLowで、先行端が下降の時のSCK信号はｱｲﾄﾞﾙ時にHighです。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	0	1	2	3
説明	先行端：上昇、入力採取 後行端：下降、出力設定	先行端：上昇、出力設定 後行端：下降、入力採取	先行端：下降、入力採取 後行端：上昇、出力設定	先行端：下降、出力設定 後行端：上昇、入力採取

25.5.3. INTCTRL – 割り込み制御 (Interrupt Control)

名称 : INTCTRL
変位 : +$02
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	RXCIE	TXCIE	DREIE	SSIE				IE
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7 – RXCIE : 受信完了割り込み許可** (Receive Complete Interrupt Enable)

緩衝動作ではこのﾋﾞｯﾄ(=1)が受信完了割り込みを許可します。許可した割り込みは割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(SPIn.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀの受信完了割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(RXCIF)が設定(1)される時に起動されます。非緩衝動作ではこのﾋﾞｯﾄが'0'です。

● **ﾋﾞｯﾄ6 – TXCIE : 転送完了割り込み許可** (Transter Complete Interrupt Enable)

緩衝動作ではこのﾋﾞｯﾄ(=1)が転送完了割り込みを許可します。許可した割り込みは割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(SPIn.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀの転送完了割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(TXCIF)が設定(1)される時に起動されます。非緩衝動作ではこのﾋﾞｯﾄが'0'です。

● **ﾋﾞｯﾄ5 – DREIE : ﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀ空割り込み許可** (Data Register Empty Interrupt Enable)

緩衝動作ではこのﾋﾞｯﾄ(=1)がﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀ空割り込みを許可します。許可した割り込みは割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(SPIn.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀのﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀ空割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(DREIF)が設定(1)される時に起動されます。非緩衝動作ではこのﾋﾞｯﾄが'0'です。

● **ﾋﾞｯﾄ4 – SSIE : 従装置選択割り込み許可** (Slave Select trigger Interrupt Enable)

緩衝動作ではこのﾋﾞｯﾄ(=1)が従装置選択割り込みを許可します。許可した割り込みは割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(SPIn.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀの従装置選択割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(SSIF)が設定(1)される時に起動されます。非緩衝動作ではこのﾋﾞｯﾄが'0'です。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – IE : 割り込み許可** (Interrupt Enable)

このﾋﾞｯﾄ(=1)はSPIが緩衝動作でない時のSPI割り込みを許可します。許可した割り込みは割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(SPIn.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀでRXCIF/IFが設定(1)される時に起動されます。

25.5.4. INTFLAGS – 割り込み要求ﾌﾗｸﾞ – 標準動作 (Interrupt Flags – Normal Mode)

名称 : INTFLAGS
変位 : +$03
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	IF	WRCOL						
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7 – IF : 割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (Interrupt Flag)

このﾌﾗｸﾞは直列転送が完了して1ﾊﾞｲﾄがﾃﾞｰﾀ(SPIn.DATA)ﾚｼﾞｽﾀで完全に移動入出力された時に設定(1)されます。SPIが主装置動作の時に$\overline{SS}$が入力として構成設定されてLowに駆動される場合、これもこのﾌﾗｸﾞを設定(1)します。IFはそれに'1'を書くことによって解除(0)されます。代わりに、IFはIFが設定(1)の時に最初にSPIn.INTFLAGSﾚｼﾞｽﾀを読み、その後にSPIn. DATAﾚｼﾞｽﾀをｱｸｾｽすることによって解除(0)することができます。

● **ﾋﾞｯﾄ6 – WRCOL : 書き込み衝突ﾌﾗｸﾞ** (Write Collision Flag)

WRCOLﾌﾗｸﾞはﾊﾞｲﾄが完全に送り出される前にﾃﾞｰﾀ(SPIn.DATA)ﾚｼﾞｽﾀが書かれた場合に設定(1)されます。このﾌﾗｸﾞはWRCOLが設定(1)の時に最初にSPIn.INTFLAGSﾚｼﾞｽﾀを読み、SPIn.DATAﾚｼﾞｽﾀをｱｸｾｽすることによって解除(0)されます。

25.5.5. INTFLAGS – 割り込み要求ﾌﾗｸﾞ – 緩衝動作 (Interrupt Flags – Buffer Mode)

名称 : INTFLAGS
変位 : +$03
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	RXCIF	TXCIF	DREIF	SSIF				BUFOVF
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7 – RXCIF : 受信完了割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (Receive Complete Interrupt Flag)

このﾌﾗｸﾞは受信ﾃﾞｰﾀ緩衝ﾚｼﾞｽﾀに未読ﾃﾞｰﾀがある時に設定(1)され、受信ﾃﾞｰﾀ緩衝ﾚｼﾞｽﾀが空(即ち、どの未読ﾃﾞｰﾀも含まない)時に解除(0)されます。

割り込み駆動ﾃﾞｰﾀ受信が使われると、受信完了割り込みﾙｰﾁﾝはRXCIFを解除(0)するためにﾃﾞｰﾀ(SPIn.DATA)ﾚｼﾞｽﾀから受信したﾃﾞｰﾀを読まなければなりません。そうしなければ、現在の割り込みから戻った直後に新しい割り込みが起きます。このﾌﾗｸﾞはこのﾋﾞｯﾄ位置へ'1'を書くことによっても解除(0)することができます。

● **ﾋﾞｯﾄ6 – TXCIF : 転送完了割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (Transfer Complete Interrupt Flag)

このﾌﾗｸﾞは送信移動ﾚｼﾞｽﾀ内の全ﾃﾞｰﾀが移動出力されてしまい、送信緩衝(SPIn.DATA)ﾚｼﾞｽﾀに新しいﾃﾞｰﾀがない時に設定(1)されます。このﾌﾗｸﾞはこのﾋﾞｯﾄ位置へ'1'を書くことによって解除(0)されます。

● **ﾋﾞｯﾄ5 – DREIF : ﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀ空割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (Data Register Empty Interrupt Flag)

このﾌﾗｸﾞは送信ﾃﾞｰﾀ緩衝ﾚｼﾞｽﾀが新しいﾃﾞｰﾀを受け取る準備が整っているかどうかを示します。このﾌﾗｸﾞは送信緩衝部が空の時に'1'で、送信緩衝部が未だ移動ﾚｼﾞｽﾀに移動されてしまっていない送信されるべきﾃﾞｰﾀを含む時に'0'です。DREIFは送信部が準備可なことを示すためにﾘｾｯﾄ後に解除(0)されます。

DREIFはDATAﾚｼﾞｽﾀ書き込みによって解除(0)されます。割り込み駆動ﾃﾞｰﾀ送信が使われると、ﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀ空割り込みﾙｰﾁﾝはDREIFを解除(0)するためにDATAﾚｼﾞｽﾀに新しいﾃﾞｰﾀを書くか、またはﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀ空割り込みを禁止するかのどちらかを行わなければなりません。そうしなければ、現在の割り込みから戻った直後に新しい割り込みが起きます。

● **ﾋﾞｯﾄ4 – SSIF : 従装置選択割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (Slave Select Trigger Interrupt Flag)

このﾌﾗｸﾞはSPIが主装置動作で$\overline{SS}$ﾋﾟﾝが外部的にLowへ引かれ、故にSPIが今や従装置動作で動くことを示します。このﾌﾗｸﾞは従装置選択禁止(SSD)が'1'でない場合にだけ設定(1)されます。このﾌﾗｸﾞはこのﾋﾞｯﾄ位置へ'1'を書くことによって解除(0)されます。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – BUFOVF : 緩衝部溢れﾌﾗｸﾞ** (Buffer Overflow)

このﾌﾗｸﾞは受信ﾃﾞｰﾀ緩衝部満杯状態のためのﾃﾞｰﾀ消失を示します。このﾌﾗｸﾞは緩衝部溢れ状態が検出された場合に設定(1)されます。緩衝部溢れは受信緩衝部が満杯(2ﾊﾞｲﾄ)で移動ﾚｼﾞｽﾀで3つ目のﾊﾞｲﾄが受信される時に起きます。送信ﾃﾞｰﾀがなければ、緩衝部溢れは新しい直列転送の開始前に設定(1)されません。このﾌﾗｸﾞはDATAﾚｼﾞｽﾀが読まれる時か、またはこのﾋﾞｯﾄ位置に'1'を書くことによって解除(0)されます。

25.5.6. DATA – ﾃﾞｰﾀ (Data)

名称 : DATA
変位 : +$04
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	DATA7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – DATA7~0 : ﾃﾞｰﾀ** (SPI Data)

DATAﾚｼﾞｽﾀはﾃﾞｰﾀの送受信に使われます。このﾚｼﾞｽﾀへの書き込みは主装置動作の時にﾃﾞｰﾀ送信を開始し、従装置動作では送るﾃﾞｰﾀを準備します。このﾚｼﾞｽﾀに書かれたﾊﾞｲﾄは処理が開始された時にSPI出力線へ移動出力されます。

SPIn.DATAﾚｼﾞｽﾀは物理的なﾚｼﾞｽﾀではありません。構成設定された動作形態に応じて、下で記述されるように他のﾚｼﾞｽﾀに割り当てられます。

- 標準動作:
  - DATAﾚｼﾞｽﾀ書き込みは移動ﾚｼﾞｽﾀを書きます。
  - DATAﾚｼﾞｽﾀからの読み込みは受信ﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀから読みます。
- 緩衝動作:
  - DATAﾚｼﾞｽﾀ書き込みは送信ﾃﾞｰﾀ緩衝ﾚｼﾞｽﾀを書きます。
  - DATAﾚｼﾞｽﾀからの読み込みは受信ﾃﾞｰﾀ緩衝ﾚｼﾞｽﾀから読みます。その後に受信ﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀの内容が受信ﾃﾞｰﾀ緩衝ﾚｼﾞｽﾀに移動されます。

26. TWI – 2線インターフェース

26.1. 特徴

- 双方向、2線通信インターフェース
- Phillips社I²C適合 (注)
  - 標準動作
  - 高速動作
  - 高速動作+
- システム管理バス(SMBus)2.0適合
  - 開始条件/再送開始条件とデータ ビット間での調停を支援
  - アドレス解決規約(ARP)に対する支援を許す従装置調停
  - 構成設定可能なハードウェアでのSMBus階層1制限時間
- 独立した主装置と従装置の動作
  - 完全な調停支援での単一または複数の主装置バス動作
- 従装置アドレス一致に対するハードウェア支援
  - 7ビットと一斉呼び出しのアドレス認識
  - ソフトウェアと共同で10ビット アドレス指定を支援
  - アドレス範囲遮蔽または第2アドレス一致に対する支援
  - 無制限数のアドレスに対する任意選択のソフトウェア アドレス認証(無差別動作)
- バス雑音消去用入力濾波器
- 簡便動作支援

26.2. 概要

2線インターフェース(TWI)は直列データ(SDA)線と直列クロック(SCL)線を持つ双方向2線通信インターフェース(バス)です。

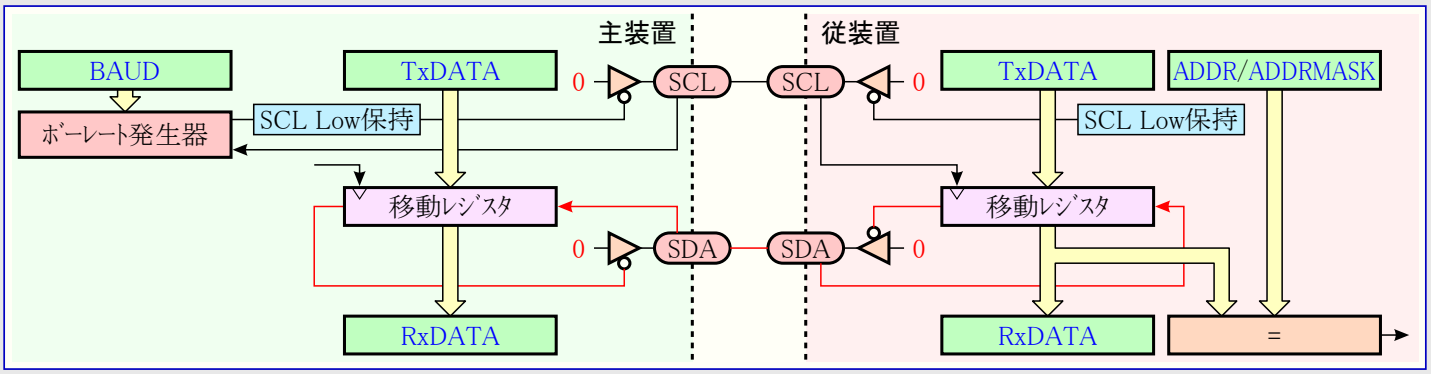
TWIバスは1つまたは複数の従装置を1つまたは複数の主装置に接続します。バスに接続されたどの装置も主装置、従装置、または両方として働くことができます。主装置はボーレート発生器(BRG)を使ってSCLを生成し、1つの従装置をアドレス指定してデータを送るまたは受け取るのどちらを望むかを告げることによってデータ処理を始めます。BRGは100kHzから1MHzまでの標準動作(Sm)と高速動作(Fm、Fm+)バス周波数を生成することができます。

TWIは開始条件、停止条件、バス衝突、バス異常を検出します。協調損失、異常、衝突、クロック保持も検出され、主装置と従装置の両動作で利用可能な独立した状態フラグで示されます。

TWIは複数主装置のバス動作と調停を支援します。調停の仕組みは複数の主装置が同時にデータを送信しようとする場合を処理します。TWIは自動起動操作ができ、故にソフトウェアの複雑さを減らすことができる簡便動作も支援します。TWIはデータ交換なしに主装置が従装置をアドレス指定することができる迅速指令動作を支援します。

26.2.1. 構成図

図26-1. TWI構成図



26.2.2. 信号説明

信号	形式	説明
SCL	デジタル入出力	直列クロック線
SDA	デジタル入出力	直列データ線

注: I2C規格は用語"Master"と"Slave"を使います。この文書で使った等価なMicrochip用語は各々、"Host"と"Client"です。(訳注: 本書は常識と元規格に従って"主装置"と"従装置"を使います。

26.3. 機能的な説明

26.3.1. 一般的なTWIﾊﾞｽの概念

TWIは以下から成る簡素な双方向2線通信ﾊﾞｽを提供します。

- ﾊﾟｹｯﾄ転送用の直列ﾃﾞｰﾀ(SDA)線
- ﾊﾞｽ ｸﾛｯｸ用の直列ｸﾛｯｸ(SCL)線

2つの線は開放ｺﾚｸﾀ(ﾄﾞﾚｲﾝ)線(ﾜｲﾔｰﾄﾞAND)です。

TWIﾊﾞｽ形態は直列ﾊﾞｽで複数装置を接続する簡単で効率的な方法です。ﾊﾞｽに接続された装置は主装置または従装置にできます。主装置だけがﾊﾞｽとﾊﾞｽ通信を制御できます。

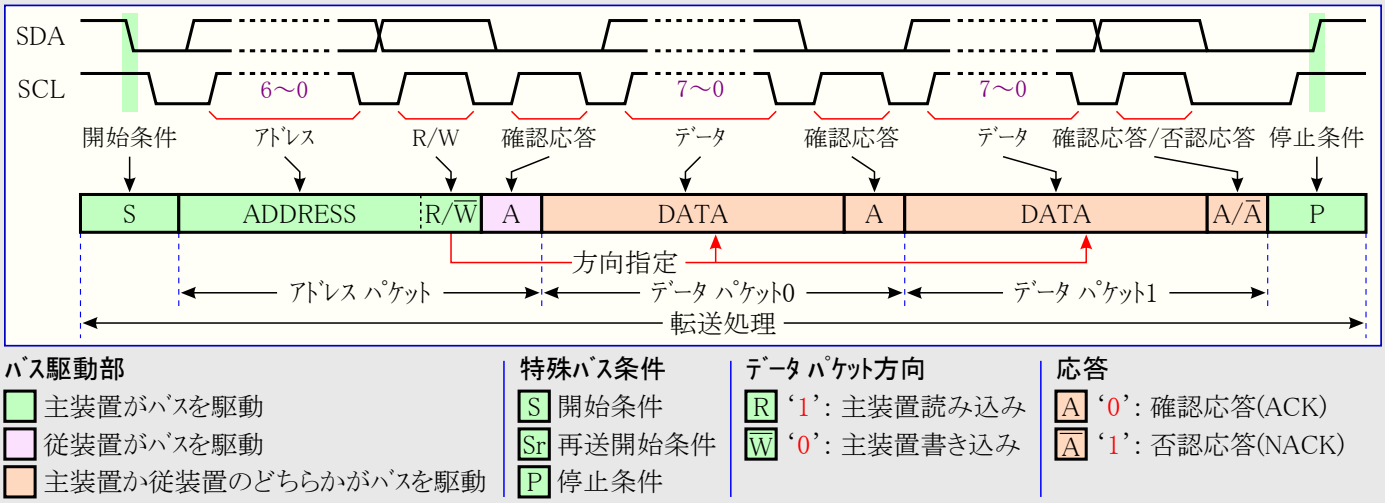
ﾊﾞｽに接続した各従装置に固有のｱﾄﾞﾚｽが割り当てられ、主装置は従装置を制御して処理を始めるのにこれを使います。複数の主装置を同じﾊﾞｽに接続することができ、複数主装置環境と呼ばれます。何時でも1つの主装置だけがﾊﾞｽを自身のものにできるので、主装置間でﾊﾞｽ所有権を解決するために調停機構が提供されます。

主装置はﾊﾞｽ上に開始条件(S)を発行することによって転送処理の開始を指示します。主装置は転送処理用のｸﾛｯｸ信号を提供します。7ﾋﾞｯﾄ従装置ｱﾄﾞﾚｽ(ADDRESS)と、主装置がﾃﾞｰﾀを読みまたは書きどちらをしたいのかを表す方向(R/$\overline{W}$)ﾋﾞｯﾄを持つｱﾄﾞﾚｽ ﾊﾟｹｯﾄがその後に送られます。

ｱﾄﾞﾚｽ指定されたI²C従装置はその後にｱﾄﾞﾚｽを確認応答(ACK)し、ﾃﾞｰﾀ ﾊﾟｹｯﾄ転送処理を始めることができます。毎回の9ﾋﾞｯﾄ ﾃﾞｰﾀ ﾊﾟｹｯﾄは8つのﾃﾞｰﾀ ﾋﾞｯﾄとそれに続き、受信側によってﾃﾞｰﾀが受け取られたか否かのどちらかを示す1ﾋﾞｯﾄ応答から成ります。

全てのﾃﾞｰﾀ ﾊﾟｹｯﾄ(DATA)転送後、主装置は転送処理を終わるためにﾊﾞｽ上で停止条件(P)を発行します。

図26-2. 7ﾋﾞｯﾄ ｱﾄﾞﾚｽ ﾊﾞｽに対する基本的なTWI転送処理構成形態



26.3.2. TWI基本動作

26.3.2.1. 初期化

使われるなら、TWI周辺機能を許可する前に以下のﾋﾞｯﾄを構成設定してください。

- 制御A(TWIn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのSDA保持時間(SDAHOLD)ﾋﾞｯﾄ領域
- 制御A(TWIn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの高速動作+(FMPEN)ﾋﾞｯﾄ

26.3.2.1.1. 主装置初期化

有効なTWIﾊﾞｽ ｸﾛｯｸ周波数になる値を主装置ﾎﾞｰﾚｰﾄ(TWIn.MBAUD)ﾚｼﾞｽﾀに書いてください。主装置制御A(TWIn.MCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのTWI主装置許可(ENABLE)ﾋﾞｯﾄに’1’を書くことがTWI主装置を開始します。ﾊﾞｽ状態をｱｲﾄﾞﾙ(IDLE)に強制するために主装置状態(TWIn.MSTATUS)ﾚｼﾞｽﾀのﾊﾞｽ状態(BUSSTATE)ﾋﾞｯﾄ領域が’01’に設定されなければなりません。

26.3.2.1.2. 従装置初期化

従装置を初期化するには以下のこれらに従ってください。

1. TWI従装置を許可する前に制御A(TWIn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのSDA準備時間(SDASETUP)ﾋﾞｯﾄを構成設定してください。
2. 従装置ｱﾄﾞﾚｽを従装置ｱﾄﾞﾚｽ(TWIn.SADDR)ﾚｼﾞｽﾀに書いてください。
3. TWI従装置を許可するため、従装置制御A(TWIn.SCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの従装置許可(ENABLE)ﾋﾞｯﾄに’1’を書いてください。

TWI従装置は主装置が開始条件を発行して従装置ｱﾄﾞﾚｽと一致するのを待ちます。

26.3.2.2. TWI主装置動作

TWI主装置は各ﾊﾞｲﾄ後の任意選択の割り込みを持つﾊﾞｲﾄ志向です。主装置の書き込みと読み込みの操作に対して独立した割り込み要求ﾌﾗｸﾞがあります。割り込み要求ﾌﾗｸﾞはﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ操作にも使うことができます。専用の状態ﾌﾗｸﾞが受信した(ACK)確認応答/(NACK)否認応答(RXACK)、ﾊﾞｽ異常(BUSERR)、調停敗退(ARBLOST)、ｸﾛｯｸ保持(CLKHOLD)、ﾊﾞｽ状態(BUSSTATE)を示します。

割り込み要求ﾌﾗｸﾞが'1'に設定されると、SCLはLowを強制され、応答または何れかのﾃﾞｰﾀを扱う時間を主装置に与え、殆どの場合でｿﾌﾄｳｪｱの介在を必要とするでしょう。割り込み要求ﾌﾗｸﾞの解除(0)がSCLを開放します。生成された割り込み数は殆どの条件を自動的に処理することによって最小に留められます。

26.3.2.2.1. ｸﾛｯｸ生成

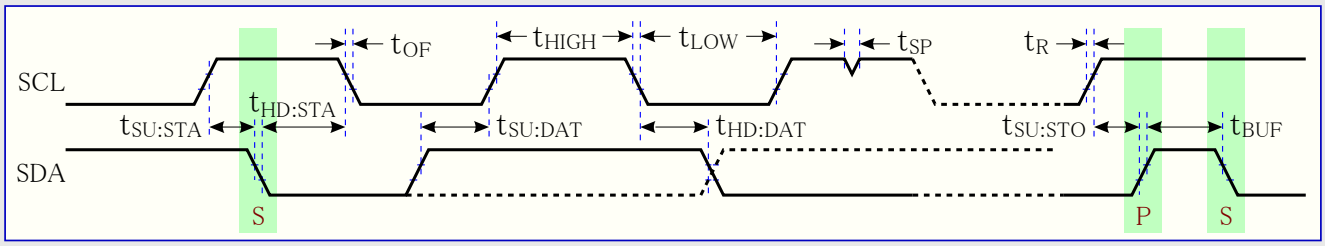
TWIは次のような異なる周波数制限を持ついくつかの送信動作形態を支援します。

- 100kHzまでの標準動作(Sm)
- 400kHzまでの高速動作(Fm)
- 1MHzまでの高速動作+(Fm+)

主装置ﾎﾞｰﾚｰﾄ(TWIn.MBAUD)ﾚｼﾞｽﾀは送信動作形態に応じてそれらの周波数制限以下のTWIﾊﾞｽ ｸﾛｯｸ周波数になる値を書かれなければなりません。

Low(t_{LOW})とHigh(t_{HIGH})の時間は主装置ﾎﾞｰﾚｰﾄ(TWIn.MBAUD)ﾚｼﾞｽﾀによって決められる一方で、上昇(t_R)と下降(t_{OF})の時間はﾊﾞｽ形態によって決められます。

図26-3. SCLﾀｲﾐﾝｸﾞ



- t_{LOW}はSCLｸﾛｯｸのLow期間です。
- t_{HIGH}はSCLｸﾛｯｸのHigh期間です。
- t_Rは内部ﾌﾟﾙｱｯﾌﾟに対するﾊﾞｽ ｲﾝﾋﾟｰﾀﾞﾝｽによって決められます。詳細については「電気的特性」を参照してください。
- t_{OF}はｵｰﾌﾟﾝ ﾄﾞﾚｲﾝ電流制限とﾊﾞｽ ｲﾝﾋﾟｰﾀﾞﾝｽによって決められます。詳細については「電気的特性」を参照してください。

SCLｸﾛｯｸの特性

SCL周波数は右式によって与えられます。

$$f_{SCL} = \frac{1}{t_{LOW} + t_{HIGH} + t_{OF} + t_R} \quad [\mathrm{Hz}]$$

SCLｸﾛｯｸは50/50のﾃﾞｭｰﾃｨ ｻｲｸﾙを持つように設計され、ﾃﾞｭｰﾃｨ ｻｲｸﾙのLow部分はt_{OF}とt_{LOW}から成ります。t_{HIGH}はSCLのHigh状態が検出されるまで始まりません。TWIn.MBAUDﾚｼﾞｽﾀのﾎﾞｰﾚｰﾄ(BAUD)ﾋﾞｯﾄ領域とSCL周波数は右式(**式1**)によって関連付けられます。

$$f_{SCL} = \frac{f_{CLK_PER}}{10 + 2 \times BAUD + f_{CLK_PER} \times t_R} \quad (1)$$

式1はBAUDを表すように変形(**式2**)することができます。

$$BAUD = \frac{f_{CLK_PER}}{2 \times f_{SCL}} - \left(5 + \frac{f_{CLK_PER} \times t_R}{2}\right) \quad (2)$$

BAUD値の計算

望む速度動作(Sm、Fm、Fm+)の仕様内での動作を保証するため、これらの手順に従ってください。

1. **式2**を使ってBAUDﾋﾞｯﾄ領域用の値を計算してください。
2. 手順1.からのBAUD値を使ってt_{LOW}を計算してください。

$$t_{LOW_Fm} = t_{LOW_Fm+} = \frac{BAUD + 6 + \min(SCLDUTY, BAUD)}{f_{CLK_PER}} - t_{OF} \quad (3.1)$$

$$t_{LOW_Sm} = \frac{BAUD + 6}{f_{CLK_PER}} - t_{OF} \quad (3.2)$$

3. **式3**からのt_{LOW}が望む動作形態で指定された最小(t_{LOW_Sm}=4700ns、t_{LOW_Fm}=1300ns、t_{LOW_Fm+}=500ns)を超えるか調べてください。
   - 計算されたt_{LOW}が限度を超える場合、**式2**からのBAUDを使ってください。
   - 限度に合わない場合、右の**式4**を使って新しいBAUD値を計算してください。ここでのt_{LOW_mode}は動作仕様からのt_{LOW_Sm}、t_{LOW_Fm}、t_{LOW_Fm+}のどれかです。

$$BAUD = f_{CLK_PER} \times (T_{LOW_mode} + t_{OF}) - 3 \quad (4)$$

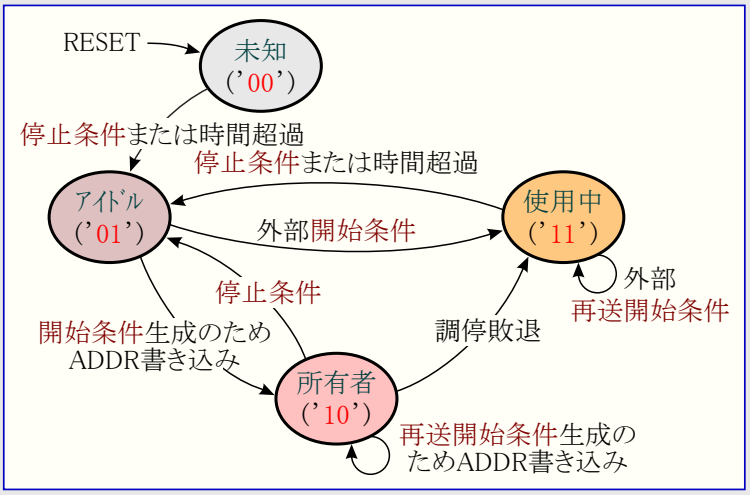
26.3.2.2.2. TWIﾊﾞｽ状態論理

ﾊﾞｽ状態論理回路は主装置動作が許可された時にTWIﾊﾞｽ上の動きを継続的に監視します。それはﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝを含む全ての休止動作形態で動作を続けます。

ﾊﾞｽ状態論理回路は開始条件と停止条件の検出器、衝突検出、不活性ﾊﾞｽ時間超過検出、ﾋﾞｯﾄ計数器を含みます。これらはﾊﾞｽ状態を決めるのに使われます。ｿﾌﾄｳｪｱは主装置状態(TWIn.MSTATUS)ﾚｼﾞｽﾀのﾊﾞｽ状態(BUSSTATE)ﾋﾞｯﾄ領域を読むことによって現在のﾊﾞｽ状態を得ることができます。

ﾊﾞｽ状態は未知、ｱｲﾄﾞﾙ、使用中、所有者になることができ、右で示される状態遷移図に従って決められます。

図26-4. ﾊﾞｽ状態遷移図



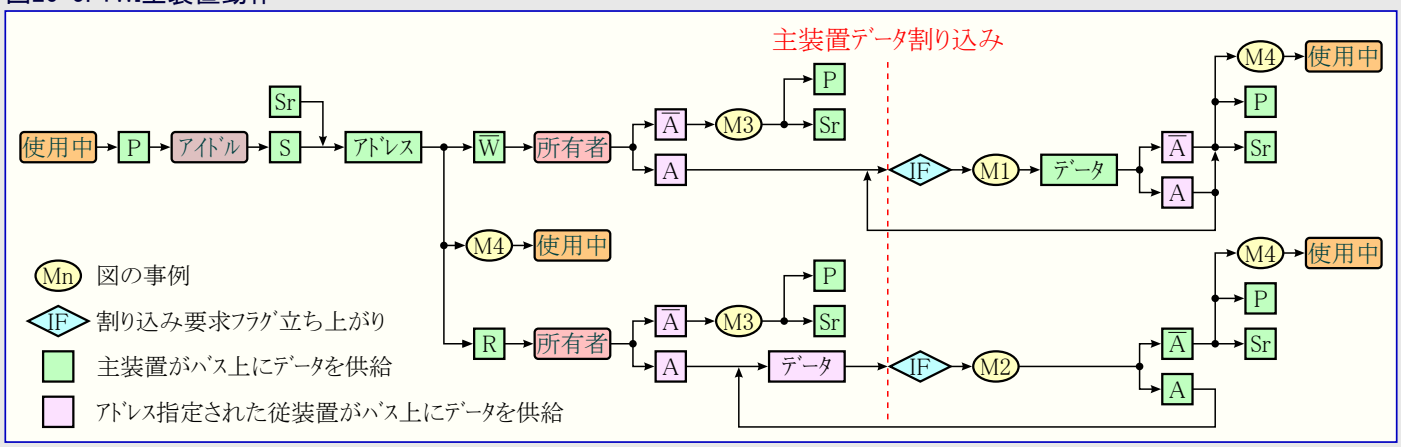
1. **未知**: ﾊﾞｽ状態機構はTWI主装置が許可される時に有効です。TWI主装置許可、ｼｽﾃﾑ ﾘｾｯﾄ実行、またはTWI主装置禁止後、ﾊﾞｽ状態は未知です。
2. **ｱｲﾄﾞﾙ**: ﾊﾞｽ状態(BUSSTATE)ﾋﾞｯﾄ領域に'01'を書くことによってﾊﾞｽ状態機構をｱｲﾄﾞﾙ状態に入ることを強制することができます。ﾊﾞｽ状態論理回路を他のどの状態にも強制することはできません。最初の停止条件が検出される時に応用ｿﾌﾄｳｪｱによって状態が設定されなければ、ﾊﾞｽ状態はｱｲﾄﾞﾙになります。主装置制御A(TWIn.MCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの主装置不活性ﾊﾞｽ時間制限(TIMEOUT)ﾋﾞｯﾄ領域が0以外の値に構成設定される場合、ﾊﾞｽ状態は時間超過の発生でｱｲﾄﾞﾙに変わります。
3. **使用中**: ﾊﾞｽがｱｲﾄﾞﾙの時に外部的に生成された開始条件が検出された場合、ﾊﾞｽ状態が使用中になります。ﾊﾞｽ状態は停止条件が検出されるか、または構成設定されている場合に制限時間超過が設定される時にｱｲﾄﾞﾙへ変わります。
4. **所有者**: ﾊﾞｽがｱｲﾄﾞﾙの時に内部的に開始条件が生成される場合、ﾊﾞｽ状態が所有者になります。妨害なしで完全な転送処理が実行された場合、主装置は停止条件を発行し、ﾊﾞｽ状態がｱｲﾄﾞﾙに戻ります。衝突が検出されて調停に敗れた場合、ﾊﾞｽ状態は停止条件が検出されるまで使用中になります。

26.3.2.2.3. ｱﾄﾞﾚｽ ﾊﾟｹｯﾄ送信

主装置は7ﾋﾞｯﾄ従装置ｱﾄﾞﾚｽとR/$\overline{W}$方向ﾋﾞｯﾄと共に主装置ｱﾄﾞﾚｽ(TWIn.MADDR)ﾚｼﾞｽﾀが書かれる時にﾊﾞｽ転送処理の実行を開始します。MADDRﾚｼﾞｽﾀの値がその後に主装置ﾃﾞｰﾀ(TWIn.MDATA)ﾚｼﾞｽﾀへ複写されます。ﾊﾞｽ状態が使用中の場合、TWI主装置は開始条件を発行する前にﾊﾞｽ状態がｱｲﾄﾞﾙになるまで待ちます。TWIは開始条件を発行し、移動ﾚｼﾞｽﾀがﾊﾞｽ上でﾊﾞｲﾄ送信動作を実行します。

調停とR/$\overline{W}$方向ﾋﾞｯﾄに依存して、ｱﾄﾞﾚｽ ﾊﾟｹｯﾄの送信後に4つの事例(M1～M4)の1つが起きます。

図26-5. TWI主装置動作



26.3.2.2.3.1. 事例M1 : ｱﾄﾞﾚｽ ﾊﾟｹｯﾄ送信完了 – 方向ﾋﾞｯﾄ=0

従装置がｱﾄﾞﾚｽ ﾊﾟｹｯﾄに対して確認応答(ACK)で応答する場合、TWIn.MSTATUSﾚｼﾞｽﾀで書き込み割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(WIF)が'1'に設定され、受信応答(RXACK)ﾌﾗｸﾞが'0'に設定され、ｸﾛｯｸ保持(CLKHOLD)ﾌﾗｸﾞが'1'に設定されます。WIF、RXACK、CLKHOLDのﾌﾗｸﾞは主装置状態(TWIn.MSTATUS)ﾚｼﾞｽﾀに配置されます。

この時点でｸﾛｯｸ保持が有効で、SCLにLowを強制し、ｸﾛｯｸ周波数全体を低下するようにｸﾛｯｸのLow期間を引き延ばし、ﾃﾞｰﾀを処理するのに必要とされる遅延を強制してﾊﾞｽでの更なる活動を防ぎます。

ソフトウェアは以下の準備をすることができます。

- 従装置へデータ パケット送信

26.3.2.2.3.2. 事例M2：アドレス パケット送信完了 – 方向ビット=1

従装置がアドレス パケットに対して確認応答(ACK)で応答する場合、受信応答(RXACK)フラグが'0'に設定され、この時点で従装置がバスを所有するため、従装置はどんな遅延もなしに主装置へのデータ送出を開始することができます。この時点でクロック保持が有効で、SCLにLowを強制します。

ソフトウェアは以下の準備をすることができます。

- 従装置から受け取ったデータ パケットの読み込み

26.3.2.2.3.3. 事例M3：アドレス パケット送信完了 – 従装置によるアドレス否認応答

従装置がアドレス パケットに応答しない場合、書き込み割り込み要求フラグ(WIF)と受信応答(RXACK)フラグが'1'に設定されます。この時点でクロック保持が有効で、SCLにLowを強制します。

確認応答(ACK)欠落はI²C従装置が他の作業で多忙か、または休止動作で応答できないことを示し得ます。

ソフトウェアは以下の活動の1つを取るための準備をすることができます。

- アドレス パケットの再送信
- 主装置制御B(TWIn.MCTRLB)レジスタの指令(MCMD)ビット領域で停止条件を発行することによって転送処理を完了、これが推奨される活動です。

26.3.2.2.3.4. 事例M4：調停敗退またはバス異常

調停で敗れた場合、主装置状態(TWIn.MSTATUS)レジスタで書き込み割り込み要求フラグ(WIF)と調停敗退(ARBLOST)のフラグが'1'に設定されます。SDAは禁止されてSCLが開放されます。バス状態が使用中に変わり、主装置はバス状態がアイドルに戻るまで、もはやバスでどの操作も実行することを許されません。

バス異常は調停敗退状態と同じように振舞います。この場合、WIFとARBLOSTのフラグに加えて、TWIn.MSTATUSレジスタでバス異常(BUSERR)フラグが'1'に設定されます。

ソフトウェアは以下の準備をすることができます。

- TWIn.MSTATUSレジスタのバス状態(BUSSTATE)ビット領域を読むことによってバス状態がアイドルに変わるまで操作を中止して待機

26.3.2.2.4. データ パケット送信

上の**事例M1**と仮定し、TWI主装置は主装置データ(TWIn.MDATA)レジスタへ書くことによってデータ送信を開始することができ、それは書き込み割り込み要求フラグ(WIF)も解除(0)します。データ転送の間、主装置は衝突と異常に関してバスを継続的に監視します。データ パケット転送完了後、WIFフラグが'1'に設定されます。

送信が成功して主装置が従装置からACKビットを受け取る場合、受信応答(RXACK)フラグが'1'に設定され、従装置が新しいデータ パケットを受け取る準備が整っていることを意味します。

ソフトウェアは以下の活動の1つを取るための準備をすることができます。

- 新しいデータ パケットの送信
- 新しいアドレス パケットの送信
- 主装置制御B(TWIn.MCTRLB)レジスタの指令(MCMD)ビット領域で停止条件を発行することによって転送処理を完了

送信が成功して主装置が従装置から否認応答(NACK)ビットを受け取る場合、RXACKフラグが'1'に設定され、従装置がもっとデータを受け取ることができないか、または必要でないことを意味します。

ソフトウェアは以下の活動の1つを取るための準備をすることができます。

- 新しいアドレス パケットの送信
- 主装置制御B(TWIn.MCTRLB)レジスタの指令(MCMD)ビット領域で停止条件を発行することによって転送処理を完了

受信応答(RXACK)フラグの状態はWIFフラグが'1'に設定され場合にだけ有効で、調停敗退(ARBLOST)とバス異常(BUSERR)のフラグは'0'に設定されます。

送信は衝突が検出される場合、不成功になり得ます。その後、主装置は調停に敗れ、調停敗退(ARBLOST)フラグが'1'に設定されバス状態が使用中に変わります。データ パケット転送中の調停敗退は上の**事例M4**と同じように扱われます。

WIF、ARBLOST、BUSERR、RXACKのフラグは全て主装置状態(TWIn.MSTATUS)レジスタに配置されます。

26.3.2.2.5. データ パケット受信

上の**事例M2**と仮定し、クロックが1バイト間開放され。従装置がバス上に1バイトのデータを出すのを許します。主装置は従装置から1バイトのデータを受け取り、クロック保持(CLKHOLD)フラグと共に読み込み割り込み要求フラグ(RIF)が'1'に設定されます。指令が主装置制御B(TWIn.MCTRLB)レジスタの指令(MCMD)ビット領域に書かれる時に、TWIn.MCTRLBレジスタの応答動作(ACKACT)ビットによって選ばれた活動が自動的にバス上で送られます。

ソフトウェアは以下の活動の1つを取るための準備をすることができます。

- 主装置制御B(TWIn.MCTRLB)レジスタの応答動作(ACKACT)ビットに'0'を書くことによって確認応答(ACK)で応答し、新しいデータパケットを受け取る準備
- ACKACTビットに'1'を書くことによって否認応答(NACK)で応答し、その後に新しいアドレス パケットを送信
- ACKACTビットに'1'を書くことによってNACKで応答し、その後にTWIn.MCTRLBレジスタの指令(MCMD)ビット領域で停止条件を発行することによって転送処理を完了

NACK応答はその送信中に調停が失われ得るため、成功裏に実行しないかもしれません。衝突が検出される場合、主装置は調停を失い、調停敗退(ARBLOST)フラグが'1'に設定され、バス状態が使用中に変わります。NACK送出時に調停が失われた場合、またはこの手順中にバス異常が起きた場合に主装置書き込み割り込み要求フラグ(WIF)が設定(1)されます。データ パケット転送中の調停敗退は前の**事例M4**のように扱われます。

RIF、CLKHOLD、ARBLOST、WIFのフラグは全て主装置状態(TWIn.MSTATUS)レジスタに配置されます。

注: RIFとWIFのフラグは相互排他で、同時に設定(1)され得ません。

26.3.2.3. TWI従装置動作

TWI従装置は各バイト後の任意選択の割り込みを持つバイト志向です。従装置データ用とアドレス/停止認識用に独立した割り込みフラグがあります。割り込みフラグはポーリング操作に使うこともできます。専用の状態フラグが受信した確認応答(ACK)/否認応答(NACK)、クロック保持、衝突、バス異常、R/$\overline{W}$方向を示します。

割り込み要求フラグが'1'に設定されると、SCLはLowを強制され、応答または何かのデータを扱う時間を従装置に与え、殆どの場合でソフトウェアの介在を必要とするでしょう。生成された割り込み数は殆どの条件の自動処理によって最小に留められます。

従装置制御A(TWIn.SCTRLA)レジスタの無差別動作許可(PMEN)ビットは受信した全てのアドレスに応答することを従装置に許すように構成設定することができます。

26.3.2.3.1. アドレス パケット受信

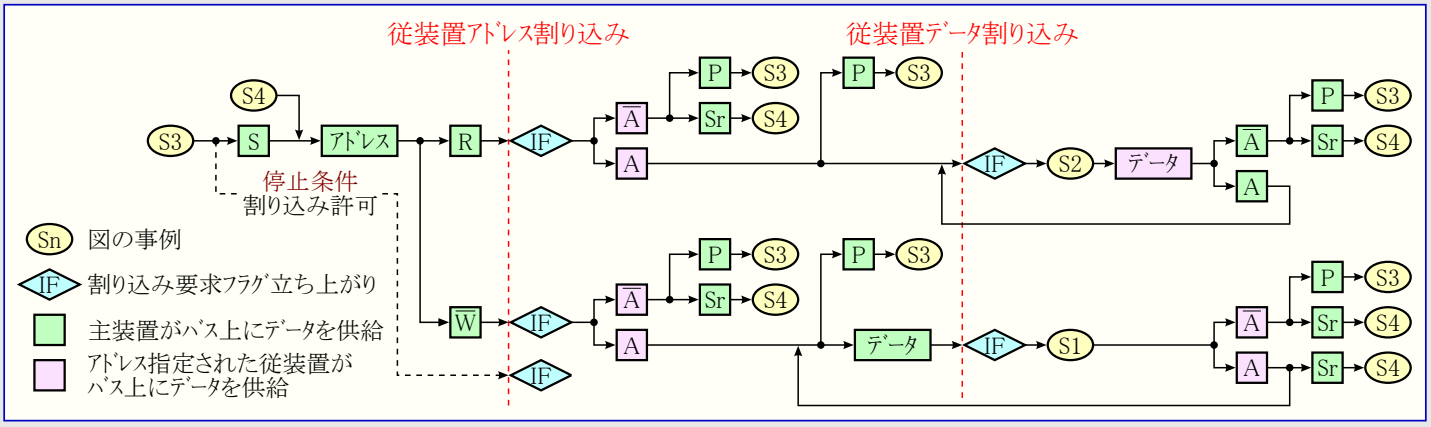
TWIが従装置として構成設定されると、検出されるべき開始条件を待ちます。これが起こると、継続してアドレス パケットが受信されてアドレス一致論理回路によって調べられます。従装置は正しいアドレスに確認応答(ACK)し、従装置データ(TWIn.SDATA)レジスタにアドレスを保存します。受信したアドレスが一致しなければ、従装置は応答やアドレスの保存をせず、新しい開始条件を待ちます。

開始条件が以下によって後続されると、従装置状態(TWIn.SSTATUS)レジスタの従装置アドレス/停止割り込み要求フラグ(APIF)が'1'に設定されます。

- 有効なアドレスが従装置アドレス(TWIn.SADDR)レジスタのアドレス(ADDR7～1)ビット領域に格納されたアドレスと一致
- 一斉呼び出しアドレス($00)で従装置アドレス(TWIn.SADDR)レジスタのアドレス(ADDR0)ビットが'1'に設定
- 従装置アドレス遮蔽(TWIn.SADDRMASK)レジスタでアドレス許可(ADDREN)ビットが'1'に設定され、有効なアドレスがアドレス遮蔽(ADDRMASK)ビット領域に格納されたアドレスと一致
- 従装置制御A(TWIn.SCTRLA)レジスタの無差別動作許可(PMEN)ビットが'1'に設定された場合の全てのアドレス

従装置状態(TWIn.SSTATUS)レジスタの読み/書き方向(DIR)ビットとバス状況に応じて、アドレス パケットの受信後に続いて4つの事例(S1～S4)の1つが起きます。

図26-6. TWI従装置動作



26.3.2.3.1.1. 事例S1 : アドレス パケット受け入れ – 方向ビット=0

アドレス パケット受信後に従装置によって確認応答(ACK)が送られ、従装置状態(TWIn.SSTATUS)レジスタの読み/書き方向(DIR)ビットが'0'に設定される場合、主装置が書き込み操作を指示します。

この時点でクロック保持が有効で、SCLにLowを強制し、クロック周波数全体を低下するようにクロックのLow期間を引き延ばし、データを処理するのに必要とされる遅延を強制してバスでの更なる活動を防ぎます。

ソフトウェアは以下の準備をすることができます。

- 主装置から受け取ったデータ パケットの読み込み

26.3.2.3.1.2. 事例S2：アドレス パケット受け入れ – 方向ビット=1

アドレス パケット受信後に従装置によって確認応答(ACK)が送られ、従装置状態(TWIn.SSTATUS)レジスタで読み/書き方向(DIR)ビットが'1'に設定される場合、主装置が読み込み操作を指示し、データ割り込み要求フラグ(DIF)が'1'に設定されます。

この時点でクロック保持が有効で、SCLにLowを強制します。

ソフトウェアは以下の準備をすることができます。

- 主装置へデータ パケット送信

26.3.2.3.1.3. 事例S3：停止条件受信

停止条件が受信されると、アドレス/停止条件フラグ(AP)が'0'に設定され、アドレス一致ではなく停止条件を示し、アドレス/停止割り込み要求フラグ(APIF)が有効(1)にされます。

APとAPIFのフラグは従装置状態(TWIn.SSTATUS)レジスタに配置されます。

ソフトウェアは以下の準備をすることができます。

- 新しいアドレス パケットがアドレス指定するまで待機

26.3.2.3.1.4. 事例S4：衝突

従装置がHighレベルのデータ ビットまたは否認応答(NACK)を送ることができない場合、従装置状態(TWIn.SSTATUS)レジスタの衝突(COLL)フラグが'1'に設定されます。従装置はSDAでLow値が移動出力されないことを除き、通常動作を始めます。従装置論理回路からのデータと応答の出力が禁止されます。クロック保持は開放されます。開始条件と再送開始条件は受け入れられます。

COLLビットはアドレス解決規約(ARP)が使われるシステムに対して意図されています。非ARP状況で検出した衝突は規約違反があってバス異常として扱われなければならないことを示します。

26.3.2.3.2. データ パケット受信

前の**事例S1**と仮定し、従装置はデータを受信する準備を整えなければなりません。データ パケットが受信されると、従装置状態(TWIn.SSTATUS)レジスタのデータ割り込み要求フラグ(DIF)が'1'に設定されます。指令が従装置制御B(TWIn.SCTRLB)レジスタの指令(SCMD)ビット領域に書かれる時に、TWIn.SCTRLBレジスタの応答動作(ACKACT)ビットによって選ばれた活動が自動的にバス上で送られます。

ソフトウェアは以下の活動の1つを取るための準備をすることができます。

- TWIn.SCTRLBレジスタのACKACTビットに'0'を書くことによって確認応答(ACK)で応答、従装置がもっとデータを受け取る準備が整っていることを示します。
- ACKACTビットに'1'を書くことによって否認応答(NACK)で応答、従装置がこれ以上データを受け取ることができず、主装置が停止条件または再送開始条件を発行しなければならないことを示します。

26.3.2.3.3. データ パケット送信

上の**事例S2**と仮定し、従装置は従装置データ(TWIn.SDATA)レジスタへ書くことによってデータ送信を開始することができます。データ パケット送信が完了されると、従装置状態(TWIn.SSTATUS)レジスタのデータ割り込み要求フラグ(DIF)が'1'に設定されます。

ソフトウェアは以下の活動の1つを取るための準備をすることができます。

- TWIn.SSTATUSレジスタの受信応答(RXACK)ビットを読むことによって主装置が確認応答(ACK)で応答したかを調べ、新しいデータ パケット送信を開始
- RXACKを読むことによって主装置が否認応答(NACK)で応答したかを調べ、データ パケット送信を停止。主装置はNACK後に停止条件または再送開始条件を送らなければなりません。

26.3.3. 付加機能

26.3.3.1. SMBus

TWIをSMBus環境で使う場合、主装置制御A(TWIn.MCTRLA)レジスタの不活性バス制限時間(TIMEOUT)ビット領域が構成設定されなければなりません。これがボーレート設定に依存するため、この制限時間を設定する前に主装置ボーレート(TWIn.MBAUD)レジスタを書くことが推奨されます。

SMBus環境に対して100kHzの周波数を使うことができます。標準動作(Sm)と高速動作(Fm)に対して動作周波数はスリューレート制限された出力を持つ一方で、高速動作+(Fm+)に対しては10倍の出力駆動能力を持ちます。

TWIは制御A(TWIn.CTRLA)レジスタのSDA保持時間(SDAHOLD)ビット領域で構成設定されるSMBus互換SDA保持時間も許します。

26.3.3.1.1. SMBus仕様への適合性

ハードウェア仕様制限

SMBus 2.0仕様の第2章は電力断の装置は接地への漏れ経路を提供してはならないと述べられています。このデバイスに於いてSCLとSDAに使われるパッドとVDD間に置かれたESDダイオードがあります。電力断の時にVDDが接地と等価と仮定すると、それらのESDダイオードが接地への経路を提供します。

ソフトウェアでの実装

SMBus 2.0仕様の以下の要素はハードウェアで実装されません。

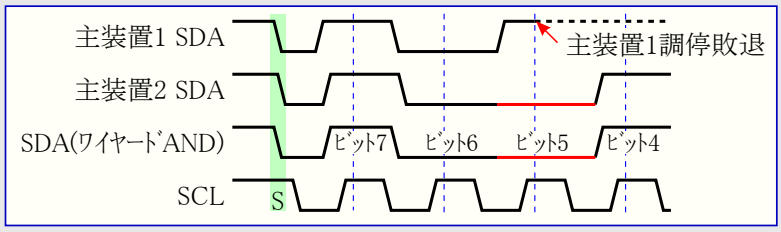
- SMBus 2.0仕様の表1は25～35msの最大クロックLow制限時間(Ttimeout)を与え、これは事象システムを使ってSCLピンをTCB周辺機能に接続することによって実装することができます。望む制限時間値と共に制限時間検査動作でTCBを構成設定してください。
- 第3層(網(Network)層)はパケット誤り検査(PEC:Packet Error Check)、アドレス解決規約(ARP:Address Resolution Protocol)などが特徴です。これらは必要とされる場合にソフトウェアで実装することができます。

26.3.3.2. 複数主装置

主装置はバスがアイドルなことを検出した場合にだけバス転送処理を開始することができます。複数の主装置がバス上にある場合、他の装置が同時に転送処理を始めようとするかもしれず、結果的に複数の主装置がバスを所有することになります。TWIはSDAでHighレベルのデータ ビットを送信することができず、主装置状態(TWIn.MSTATUS)レジスタのバス状態(BUSSTATE)ビット領域が使用中に変わる場合に主装置がバスの制御を失うような調停の仕組みを使うことによってこの問題を解決します。調停で敗れた主装置はバス所有権の再取得を試みる前にバスがアイドルになるまで待たなければなりません。

(図で)両装置は開始条件を発行することができますが、主装置1は主装置2がLowレベルを送信している間にHighレベル(ビット5)の送信を試みる時、調停に敗れます。

図26-7. TWI調停



26.3.3.3. 簡便動作

TWIインターフェースは応用コードを簡単化してI^2C規約を守るのに必要とされる使用者関係処理を最小にする簡便動作を持ちます。

TWI主装置に対し、簡便動作は主装置データ(TWIn.MDATA)レジスタが読まれると直ぐに確認応答(ACK)活動を自動的に送ります。この機能は主装置制御B(TWIn.MCTRLB)レジスタの応答動作(ACKACT)ビットが確認応答(ACK)に設定(=0)される時にだけ有効です。TWI主装置はACKACTが否認応答(NACK)に設定(=1)される場合にデータ レジスタ読み込み後に否認応答(NACK)ビットを生成しません。この機能は主装置制御A(TWIn.MCTRLA)レジスタの簡便動作許可(SMEN)ビットが'1'に設定される時に許可されます。

TWI従装置に対し、簡便動作は従装置データ(TWIn.SDATA)レジスタが読まれると直ぐに確認応答(ACK)活動を自動的に送ります。簡便動作はTWInSDATAレジスタが読み書きされた場合に従装置状態(TWIn.SSTATUS)レジスタのデータ割り込み要求フラグ(DIF)を自動的に'0'に設定します。この機能は従装置制御A(TWIn.SCTRLA)レジスタの簡便動作許可(SMEN)ビットが'1'に設定される時に許可されます。

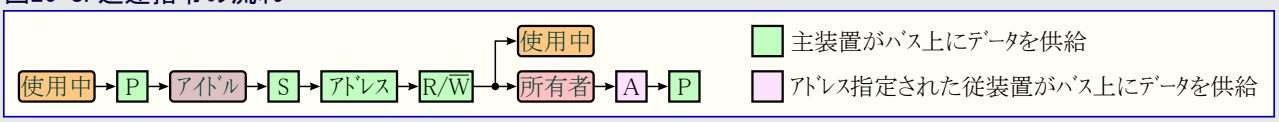
26.3.3.4. 迅速指令動作

迅速動作でのアドレス パケットのR/$\overline{W}$ビットが指令を示します。この動作は主装置制御A(TWIn.MCTRLA)レジスタの迅速指令許可(QCEN)ビットに'1'を書くことによって許可されます。データの送受信はありません。

迅速指令はSMBus仕様で、R/$\overline{W}$ビットを装置機能のON/OFF切り替え、または低電力待機動作の許可/禁止に使います。この動作は自動起動操作を許してソフトウェアの複雑さ減らすことができます。

主装置が従装置から確認応答(ACK)を受け取った後、R/$\overline{W}$ビットの値に応じて主装置読み割り込み要求フラグ(RIF)または主装置書き割り込み要求フラグ(WIF)のどちらかが設定(1)されます。迅速指令発行後にRIFまたはWIFのフラグが設定(1)されると、TWIは主装置制御B(TWIn.MCTRLB)レジスタの指令(MCMD)ビット領域を書くことによって停止(停止条件)指令を受け入れます。最後の受信応答(RXACK)フラグと共にRIFとWIFのフラグは全て主装置状態(TWIn.MSTATUS)レジスタに配置されます。

図26-8. 迅速指令の流れ



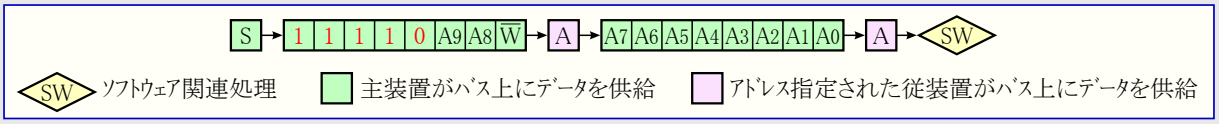
26.3.3.5. 10ビット アドレス

転送処理が読みか書きかに関わらず、主装置はR/$\overline{W}$方向ビットを'0'に設定して10ビット アドレスを送ることによって開始されなければなりません。

従装置アドレス一致論理回路は7ビット アドレスと一斉呼び出しアドレスの認識を支援するだけです。主装置がTWI従装置をアドレス指定したかを決めるため、従装置アドレス一致論理回路によって従装置アドレス(TWIn.SADDR)レジスタが使われます。

TWI従装置アドレス一致論理回路は10ビット アドレスの最初のバイトの認識を支援するだけで、第2バイトはソフトェアで処理されなければなりません。10ビット アドレスの最初のバイトは従装置アドレス(TWIn.SADDR)レジスタの上位5ビットが'11110'の場合に認識されます。従って、最初のバイトは5つの指示ビット、10ビット アドレスの上位2ビット(MSb)、R/$\overline{W}$方向ビットから成ります。それに続く主装置からの下位側バイト(LSB)はデータ パケットの形式で来ます。

図26-9. 10ﾋﾞｯﾄ ｱﾄﾞﾚｽ転送処理



26.3.4. 割り込み

表26-1. 利用可能な割り込みﾍﾞｸﾀと供給元

名称	ﾍﾞｸﾀ説明	条件
Slave	TWI従装置割り込み	・DIF　：TWIn.SSTATUSのﾃﾞｰﾀ割り込み要求ﾌﾗｸﾞを'1'に設定 ・APIF ：TWIn.SSTATUSのｱﾄﾞﾚｽ/停止割り込み要求ﾌﾗｸﾞを'1'に設定
Master	TWI主装置割り込み	・RIF　：TWIn.MSTATUSの読み込み割り込み要求ﾌﾗｸﾞを'1'に設定 ・WIF　：TWIn.MSTATUSの書き込み割り込み要求ﾌﾗｸﾞを'1'に設定

割り込み条件が起こると、主装置状態(TWIn.MSTATUS)ﾚｼﾞｽﾀまたは従装置状態(TWIn.SSTATUS)ﾚｼﾞｽﾀで対応する割り込み要求ﾌﾗｸﾞが設定(1)されます。

いくつかの割り込み要求条件が割り込みﾍﾞｸﾀによって支援される時に、割り込み要求は割り込み制御器に対して1つの結合された割り込み要求へ共に論理和(OR)されます。使用者はどの割り込み条件が存在するかを決めるのにTWIn.MSTATUSまたはTWIn.SSTATUSのﾚｼﾞｽﾀから割り込み要求ﾌﾗｸﾞを読まなければなりません。

26.3.5. 休止形態動作

ﾊﾞｽ状態論理回路とｱﾄﾞﾚｽ認識ﾊｰﾄﾞｳｪｱは全ての休止動作形態で動作を続けます。TWI従装置が休止動作で開始条件に続いて従装置ｱﾄﾞﾚｽが検出された場合、主ｸﾛｯｸが利用可能になるまでの起き上がり期間の間、ｸﾛｯｸ伸長が有効です。TWI主装置は全ての休止動作で動作を停止します。二元動作が有効な時は、開始条件がTWI従装置によって受信された時にだけTWI周辺機能が起き上がります。

26.3.6. ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ操作

走行時ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞの間、TWIはそれの通常動作を続けます。ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ動作でのCPU停止はTWIの通常動作を停止します。TWIはﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ制御(TWIn.DBGCTRL)ﾚｼﾞｽﾀのﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ時走行(DBGRUN)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって停止されたCPUでの動作を強制することができます。ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ動作でCPUが停止され、DBGRUNﾋﾞｯﾄが'1'の時に、主装置ﾃﾞｰﾀ(TWIn.MDATA)ﾚｼﾞｽﾀと従装置ﾃﾞｰﾀ(TWIn.SDATA)ﾚｼﾞｽﾀの読み書きは決してﾊﾞｽ操作を起動したり、送信を引き起こしてﾌﾗｸﾞを解除(0)しません。TWIが割り込みや同様のものを通してCPUによって定期的な処理を必要とするように構成設定される場合、停止されたﾃﾞﾊﾞｯｸﾞの間に不正な動作やﾃﾞｰﾀ損失になるかもしれません。

26.4. レジスタ要約

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00	CTRLA	7～0				SDASETUP	SDAHOLD1,0		FMPEN	
+$01	予約									
+$02	DBGCTRL	7～0								DBGRUN
+$03	MCTRLA	7～0	RIEN	WIEN		QCEN	TIMEOUT1,0		SMEN	ENABLE
+$04	MCTRLB	7～0					FLUSH	ACKACT	MCMD1,0	
+$05	MSTATUS	7～0	RIF	WIF	CLKHOLD	RXACK	ARBLOST	BUSERR	BUSSTATE1,0	
+$06	MBAUD	7～0	BAUD7~0							
+$07	MADDR	7～0	ADDR7~0							
+$08	MDATA	7～0	DATA7~0							
+$09	SCTRLA	7～0	DIEN	APIEN	PIEN			PMEN	SMEN	ENABLE
+$0A	SCTRLB	7～0						ACKACT	SCMD1,0	
+$0B	SSTATUS	7～0	DIF	APIF	CLKHOLD	RXACK	COLL	BUSERR	DIR	AP
+$0C	SADDR	7～0	ADDR7~0							
+$0D	SDATA	7～0	DATA7~0							
+$0E	SADDRMASK	7～0	ADDRMASK6~0							ADDREN

26.5. ﾚｼﾞｽﾀ説明

26.5.1. CTRLA – 制御A (Control A)

名称 : CTRLA
変位 : +$00
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
				SDASETUP	SDAHOLD1,0		FMPEN	
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ4 – SDASETUP : SDA準備時間** (SDA Setup Time)

このﾋﾞｯﾄはSDA出力信号での充分な準備時間を保証するためにSCLが伸長されるｸﾛｯｸ数を制御します。このﾋﾞｯﾄは従装置動作で動作する時に使われます。

値	0	1
名称	4CYC	8CYC
説明	SDA準備時間は4ｸﾛｯｸ周期です。	SDA準備時間は8ｸﾛｯｸ周期です。

● **ﾋﾞｯﾄ3,2 – SDAHOLD1,0 : SDA保持時間** (SDA Hold Time)

このﾋﾞｯﾄ領域はTWIに対するSDA保持時間を選びます。詳細については「電気的特性」章をご覧ください。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	OFF	50NS	300NS	500NS
説明	保持時間OFF	短保持時間	代表的条件下の SMBus 2.0仕様に合致	全方面に渡って SMBus 2.0仕様に合致

● **ﾋﾞｯﾄ1 – FMPEN : 高速動作+許可** (Fast Mode Plus Enable)

このﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みはTWI既定構成設定でのTWIに対して1MHzﾊﾞｽ速度(高速動作+、FM+)を選びます。

値	0	1
名称	OFF	ON
説明	標準動作または高速動作で動作	高速動作+(Fm+)で動作

26.5.2. DBGCTRL – ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ制御 (Debug Control)

名称 : DBGCTRL
変位 : +$02
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
								DBGRUN
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ0 – DBGRUN : ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ時走行** (Debug Run)

詳細については「ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ操作」項を参照してください。

値	0	1
説明	TWIはﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ動作中断で停止し、事象を無視	TWIはCPU停止中のﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ動作中断で走行継続

26.5.3. MCTRLA – 主装置制御A (Host Control A)

名称 : MCTRLA
変位 : +$03
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	RIEN	WIEN		QCEN	TIMEOUT1,0		SMEN	ENABLE
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7 – RIEN : 読み込み割り込み許可** (Read Interrupt Enable)

TWI主装置読み込み割り込みはこのﾋﾞｯﾄとｽﾃｰﾀｽ ﾚｼﾞｽﾀ(CPU.SREG)の全体割り込み許可(I)ﾋﾞｯﾄが'1'に設定される場合にだけ生成されます。

このﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みは主装置状態(TWIn.MSTATUS)ﾚｼﾞｽﾀの主装置読み込み割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(RIF)での割り込みを許可します。RIFﾌﾗｸﾞは主装置読み込み割り込みが起きた時に'1'に設定されます。

● **ﾋﾞｯﾄ6 – WIEN : 書き込み割り込み許可** (Write Interrupt Enable)

TWI主装置書き込み割り込みはこのﾋﾞｯﾄとｽﾃｰﾀｽ ﾚｼﾞｽﾀ(CPU.SREG)の全体割り込み許可(I)ﾋﾞｯﾄが'1'に設定される場合にだけ生成されます。

このﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みは主装置状態(TWIn.MSTATUS)ﾚｼﾞｽﾀの主装置書き込み割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(WIF)での割り込みを許可します。WIFﾌﾗｸﾞは主装置書き込み割り込みが起きた時に'1'に設定されます。

● **ﾋﾞｯﾄ4 – QCEN : 迅速指令許可** (Quick Command Enable)

このﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みが迅速指令動作を許可します。迅速指令が許可されて従装置がｱﾄﾞﾚｽに応答する場合、R/Wﾋﾞｯﾄの値に応じて対応する読み込み割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(RIF)または書き込み割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(WIF)が設定(1)されます

ｿﾌﾄｳｪｱは主装置制御B(TWIn.MCTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの指令(MCMD)ﾋﾞｯﾄ領域に(STOPを)書くことで停止条件を発行せねばなりません。

● **ﾋﾞｯﾄ3,2 – TIMEOUT1,0 : 不活性ﾊﾞｽ制限時間** (Inactive Bus Timeout)

このﾋﾞｯﾄ領域に0以外の値を設定することが不活性ﾊﾞｽ制限時間監視を許可します。ﾊﾞｽがTIMEOUT設定よりも長い間不活性の場合、ﾊﾞｽ状態論理回路はｱｲﾄﾞﾙ状態に移行します。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	DISABLED	50US	100US	200US
説明	ﾊﾞｽ制限時間禁止 : I^2C	50µs : SMBus	100µs	200µs

● **ﾋﾞｯﾄ1 – SMEN : 簡便動作許可** (Smart Mode Enable)

このﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みが主装置簡便動作を許可します。簡便動作が許可されると、主装置ﾃﾞｰﾀ(TWIn.MDATA)ﾚｼﾞｽﾀ読み込み直後に主装置制御B(TWIn.MCTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの応答動作(ACKACT)ﾋﾞｯﾄに存在する値が送られます。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – ENABLE : 主装置許可** (Enable TWI Host)

このﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みがTWIを主装置として許可します。

26.5.4. MCTRLB – 主装置制御B (Host Control B)

名称 : MCTRLB
変位 : +$04
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
					FLUSH	ACKACT	MCMD1,0	
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7 – FLUSH : 解消** (Flush)

このﾋﾞｯﾄは主装置の内部状態を解消してﾊﾞｽ状態をｱｲﾄﾞﾙに変えます。TWIは主装置ｱﾄﾞﾚｽ(TWIn.MADDR)ﾚｼﾞｽﾀに先立って主装置ﾃﾞｰﾀ(TWIn.MDATA)ﾚｼﾞｽﾀが書かれる場合に無効なﾃﾞｰﾀを送信します。解消後の主装置ｱﾄﾞﾚｽ(TWIn.MADDR)と主装置ﾃﾞｰﾀ(TWIn.MDATA)への書き込みはﾊｰﾄﾞｳｪｱがSCLﾊﾞｽ空きを検出すると直ぐに処理を開始させます。

このﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みは主装置を禁止する1ｸﾛｯｸ周期間の瞬発(ｽﾄﾛｰﾌﾞ)信号を生成し、その後に主装置を再許可します。このﾋﾞｯﾄへの'0'書き込みは無効です。

● ﾋﾞｯﾄ2 – ACKACT : 応答動作 (Acknowledge Action)

ACKACT(注)ﾋﾞｯﾄはﾊﾞｽ状態とｿﾌﾄｳｪｱ相互作用によって定義された或る条件下の主装置での動きを表します。主装置制御A(TWIn.MCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの簡便動作許可(SMEN)ﾋﾞｯﾄが(1)に設定される場合、応答動作は主装置ﾃﾞｰﾀ(TWIn.MDATA)ﾚｼﾞｽﾀが読まれる時に実行されます。さもなければ指令が主装置制御B(TWIn.MCTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの指令(MCMD)ﾋﾞｯﾄ領域に書かれなければなりません。

主装置ﾃﾞｰﾀ(TWIn.MDATA)ﾚｼﾞｽﾀが書かれる時は主装置がﾃﾞｰﾀを送っているため、応答動作は実行されません。

値	0	1
名称	ACK	NACK
説明	確認応答(ACK)送出	否認応答(NACK)送出

● ﾋﾞｯﾄ1,0 – MCMD1,0 : 指令 (Command)

MCMD(注)ﾋﾞｯﾄ領域は瞬発(ｽﾄﾛｰﾌﾞ)信号です。このﾋﾞｯﾄ領域は常に'0'として読みます。

このﾋﾞｯﾄ領域への書き込みは下表によって定義されるような主装置動作を起動します。

表26-2. 指令設定

MCMD1,0	群構成設定	ﾃﾞｰﾀ方向	説明
0 0	NOACT	×	(予約)
0 1	REPSTART	×	再送開始条件が後続する応答動作を実行
1 0	RECVTRANS	$\overline{W}$	ﾊﾞｲﾄ書き込み操作が後続する応答動作(活動なし)を実行 (注)
		R	ﾊﾞｲﾄ読み込み操作が後続する応答動作を実行
1 1	STOP	×	停止条件発行が後続する応答動作を実行

注: 主装置書き込み操作に対して、TWIは主装置ﾃﾞｰﾀ(TWIn.MDATA)ﾚｼﾞｽﾀに書かれる新しいﾃﾞｰﾀを待ちます。

注: ACKACTﾋﾞｯﾄとMCMDﾋﾞｯﾄ領域は同時に書くことができます。

26.5.5. MSTATUS – 主装置状態 (Host Status)

名称 : MSTATUS
変位 : +$05
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

正常なTWI操作はこのﾚｼﾞｽﾀが純粋に読み込み専用ﾚｼﾞｽﾀと見做されることが必要とされます。状態ﾌﾗｸﾞの何れかの解除(0)は主装置送信ｱﾄﾞﾚｽ(TWIn.MADDR)ﾚｼﾞｽﾀ、主装置ﾃﾞｰﾀ(TWIn.MDATA)ﾚｼﾞｽﾀ、主装置制御B(TWIn.MCTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの指令(MCMD)ﾋﾞｯﾄをｱｸｾｽすることによって間接的に行われます。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	RIF	WIF	CLKHOLD	RXACK	ARBLOST	BUSERR	BUSSTATE1,0	
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● ﾋﾞｯﾄ7 – RIF : 読み込み割り込み要求ﾌﾗｸﾞ (Read Interrupt Flag)

このﾌﾗｸﾞは主装置ﾊﾞｲﾄ読み込み動作が完了された時に'1'に設定されます。

RIFﾌﾗｸﾞは主装置読み込み割り込みを生成することができます。主装置制御A(TWIn.MCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの読み込み割り込み許可(RIEN)ﾋﾞｯﾄの記述でより多くの情報を見つけてください。

このﾌﾗｸﾞは他のいくつかのTWIﾚｼﾞｽﾀがｱｸｾｽされる時に自動的に解除(0)します。RIFﾌﾗｸﾞを解除(0)するのに以下の方法のどれをも使うことができます。

- これへの'1'書き込み
- 主装置ｱﾄﾞﾚｽ(TWIn.MADDR)ﾚｼﾞｽﾀへの書き込み
- 主装置ﾃﾞｰﾀ(TWIn.MDATA)ﾚｼﾞｽﾀの読み書き
- 主装置制御B(TWIn.MCTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの指令(MCMD)ﾋﾞｯﾄへの書き込み

● ﾋﾞｯﾄ6 – WIF : 書き込み割り込み要求ﾌﾗｸﾞ (Write Interrupt Flag)

このﾌﾗｸﾞはどのﾊﾞｽ異常の発生や調停敗退状況とも無関係に主装置のｱﾄﾞﾚｽ送信またはﾊﾞｲﾄの書き込みが完了された時に'1'に設定されます。

WIFﾌﾗｸﾞは主装置書き込み割り込みを生成することができます。主装置制御A(TWIn.MCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの書き込み割り込み許可(WIEN)ﾋﾞｯﾄの記述でより多くの情報を見つけてください。

このﾌﾗｸﾞはRIFﾌﾗｸﾞに対して上で記述された方法のどれかを使って解除(0)することができます。

● **ﾋﾞｯﾄ5 – CLKHOLD : ｸﾛｯｸ保持** (Clock Hold)

このﾋﾞｯﾄが'1'として読まれると、それは主装置がTWIｸﾛｯｸ(SCL)を現在Lowに保持してTWIｸﾛｯｸ周期を引き延ばしていることを示します。

このﾌﾗｸﾞはRIFﾌﾗｸﾞに対して前で記述された方法のどれかを使って解除(0)することができます。

● **ﾋﾞｯﾄ4 – RXACK : 受信応答** (Received Acknowledge)

このﾋﾞｯﾄが'0'として読まれると、それは従装置からの最新応答ﾋﾞｯﾄが確認応答(ACK)で従装置がより多くのﾃﾞｰﾀの準備が整っていることを示します。

このﾋﾞｯﾄが'1'として読まれると、それは従装置からの最新応答ﾋﾞｯﾄが否認応答(NACK)で従装置がより多くのﾃﾞｰﾀの受信ができないかまたは必要でないことを示します。

● **ﾋﾞｯﾄ3 – ARBLOST : 調停敗退** (Arbitration Lost)

このﾋﾞｯﾄが'1'として読まれると、それは主装置が調停で敗れたことを示します。これは以下の場合の1つで起き得ます。

- Highﾃﾞｰﾀ ﾋﾞｯﾄを送信している間
- 否認応答(NACK)を送信している間
- 開始条件(S)を発行している間
- 再送開始条件(Sr)を発行している間

このﾌﾗｸﾞはRIFﾌﾗｸﾞに対して記述される方法の1つを選ぶことによって解除(0)することができます。

● **ﾋﾞｯﾄ2 – BUSERR : ﾊﾞｽ異常** (Bus Error)

BUSERRﾌﾗｸﾞは不正なﾊﾞｽ状態が起きたことを示します。不正なﾊﾞｽ操作はTWIﾊﾞｽ線で規約違反の開始条件(S)、再送開始条件(Sr)、停止条件(P)が検出された場合に検知されます。開始条件直後に続く停止条件が規約違反の一例です。

BUSERRﾌﾗｸﾞは以下の方法の1つを選ぶことによって解除(0)することができます。

- これへの'1'書き込み
- 主装置ｱﾄﾞﾚｽ(TWIn.MADDR)ﾚｼﾞｽﾀへの書き込み

TWIﾊﾞｽ異常検出部はTWI主装置回路の一部です。ﾊﾞｽ異常が検出されるには、TWI主装置が許可(主装置制御A(TWIn.MCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのTWI主装置許可(ENABLE)ﾋﾞｯﾄが'1'に)されて、主ｸﾛｯｸ周波数がSCL周波数の最低4倍でなければなりません。

● **ﾋﾞｯﾄ1,0 – BUSSTATE1,0 : ﾊﾞｽ状態ﾌﾗｸﾞ** (Bus State)

このﾋﾞｯﾄ領域は現在のTWIﾊﾞｽ状態を示します。このﾋﾞｯﾄ領域への'01'書き込みはﾊﾞｽ状態をｱｲﾄﾞﾙに強制します。他の全ての値は無視されます。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	UNKNOWN	IDLE	OWNER	BUSY
説明	未知のﾊﾞｽ状態 (未知)	ｱｲﾄﾞﾙのﾊﾞｽ状態 (ｱｲﾄﾞﾙ)	このTWIがﾊﾞｽを制御 (所有者)	多忙なﾊﾞｽ状態 (使用中)

26.5.6. MBAUD – 主装置ﾎﾞｰﾚｰﾄ (Host Baud Rate)

名称 : MBAUD
変位 : +$06
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	BAUD7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – BAUD7~0 : ﾎﾞｰﾚｰﾄ** (Baud Rate)

このﾋﾞｯﾄ領域はSCLのHighとLowの時間を得るのに使われます。主装置が禁止されている間に書かれなければなりません。主装置は主装置制御A(TWIn.MCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのTWI主装置許可(ENABLE)ﾋﾞｯﾄに'0'を書くことによって禁止されます。

SCLの周波数を計算する方法のより多くの情報については「ｸﾛｯｸ生成」項を参照してください。

26.5.7. MADDR – 主装置ｱﾄﾞﾚｽ (Host Address)

名称 : MADDR
変位 : +$07
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	ADDR7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – ADDR7~0 : ｱﾄﾞﾚｽ** (Address)

このﾚｼﾞｽﾀは外部従装置のｱﾄﾞﾚｽを含みます。このﾋﾞｯﾄ領域が書かれると、TWIは開始条件を発行し、移動ﾚｼﾞｽﾀがﾊﾞｽ状態に応じてﾊﾞｽ上でﾊﾞｲﾄ送信動作を実行します。

このﾚｼﾞｽﾀは、読み込みｱｸｾｽがﾊﾞｽ規約に関連するどれかの操作を実行するために主装置論理回路を起動しないため、進行中のﾊﾞｽ活動での妨害を除いて何時でも読むことができます。

主装置制御論理回路は読み書き(R/$\overline{W}$)方向ﾋﾞｯﾄとしてこのﾚｼﾞｽﾀのﾋﾞｯﾄ0を使います。

26.5.8. MDATA – 主装置ﾃﾞｰﾀ (Host Data)

名称 : MDATA
変位 : +$08
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	DATA7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – DATA7~0 : ﾃﾞｰﾀ** (Data)

このﾋﾞｯﾄ領域はﾊﾞｽでのﾃﾞｰﾀ移動出力(送信)とﾊﾞｽから受け取るﾃﾞｰﾀの移動入力(受信)に使われる主装置の物理的な移動ﾚｼﾞｽﾀへの直接ｱｸｾｽを提供します。直接ｱｸｾｽはﾊﾞｲﾄ送信中にMDATAﾚｼﾞｽﾀをｱｸｾｽすることができないことを意味します。

有効なﾃﾞｰﾀの読み込みまたは送信されるべきﾃﾞｰﾀの書き込みはｸﾛｯｸ保持(CLKHOLD)ﾋﾞｯﾄが'1'として読まれる時、または割り込み発生時にだけ成功することができます。

MDATAﾚｼﾞｽﾀへの書き込みは主装置にﾊﾞｽでのﾊﾞｲﾄ送信動作の実行を命じ、直後に従装置からの応答ﾋﾞｯﾄを受け取ります。これは主装置制御B(TWIn.MCTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの応答動作(ACKACT)ﾋﾞｯﾄと無関係です。書き込み操作は主装置書き込み割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(WIF)が'1'に設定されるのに先立って調停に勝つか負けるかに関わらず実行されます。

主装置制御A(TWIn.MCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの簡便動作許可(SMEN)ﾋﾞｯﾄが'1'に設定され場合、MDATAﾚｼﾞｽﾀへの読み込みｱｸｾｽは主装置に応答動作の実行を命じます。これは主装置制御B(TWIn.MCTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの応答動作(ACKACT)ﾋﾞｯﾄの設定に依存します。

注: ・WIFとRIFのﾌﾗｸﾞはACKACTが'1'に設定されている間にMDATAﾚｼﾞｽﾀが読まれる場合、自動的に解除(0)されます。
・調停敗退(ARBLOST)とﾊﾞｽ異常(BUSERR)のﾌﾗｸﾞは無変化のままです。
・WIF、RIF、ARBLOST、BUSERRのﾌﾗｸﾞはCLKHOLDﾋﾞｯﾄと共に全て主装置状態(TWIn.MSTATUS)ﾚｼﾞｽﾀに配置されます。

26.5.9. SCTRLA – 従装置制御A (Client Control A)

名称 : SCTRLA
変位 : +$09
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	DIEN	APIEN	PIEN			PMEN	SMEN	ENABLE
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R	R	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7 – DIEN : ﾃﾞｰﾀ割り込み許可** (Data Interrupt Enable)

このﾋﾞｯﾄに'1'を書くことは従装置状態(TWIn.SSTATUS)ﾚｼﾞｽﾀのﾃﾞｰﾀ割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(DIF)での割り込みを許可します。

TWI従装置ﾃﾞｰﾀ割り込みは、このﾋﾞｯﾄ、DIFﾌﾗｸﾞ、ｽﾃｰﾀｽ ﾚｼﾞｽﾀ(CPU.SREG)の全体割り込み許可(I)ﾋﾞｯﾄが全て'1'の場合にだけ生成されます。

● **ﾋﾞｯﾄ6 – APIEN : ｱﾄﾞﾚｽ/停止条件割り込み許可** (Address or Stop Interrupt Enable)

このﾋﾞｯﾄに'1'を書くことは従装置状態(TWIn.SSTATUS)ﾚｼﾞｽﾀのｱﾄﾞﾚｽ/停止条件割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(APIF)での割り込みを許可します。

TWI従装置ｱﾄﾞﾚｽ/停止条件割り込みは、このﾋﾞｯﾄ、APIFﾌﾗｸﾞ、ｽﾃｰﾀｽ ﾚｼﾞｽﾀ(CPU.SREG)の全体割り込み許可(I)ﾋﾞｯﾄが全て'1'の場合にだけ生成されます。

注: ・従装置停止条件割り込みは割り込みﾌﾗｸﾞとﾍﾞｸﾀを従装置ｱﾄﾞﾚｽ割り込みと共有します。
・従装置制御A(TWIn.SCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの停止条件割り込み許可(PIEN)ﾋﾞｯﾄは停止条件でAPIFが設定されるために'1'を書かれなければなりません。
・割り込み発生時、TWI従装置状態(TWIn.SSTATUS)ﾚｼﾞｽﾀのｱﾄﾞﾚｽ/停止条件(AP)ﾋﾞｯﾄはｱﾄﾞﾚｽ一致か停止条件かのどちらが割り込みを起こしたかを決めます。

● **ﾋﾞｯﾄ5 – PIEN : 停止条件割り込み許可** (Stop Interrupt Enable)

このﾋﾞｯﾄに'1'を書くことは停止条件発生時にTWI従装置状態(TWIn.SSTATUS)ﾚｼﾞｽﾀのｱﾄﾞﾚｽ/停止条件割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(APIF)が設定(1)されることを許します。主ｸﾛｯｸ周波数はこの機能を使うためにSCL周波数の最低4倍でなければなりません。

● **ﾋﾞｯﾄ2 – PMEN : 無差別動作許可** (Permissive Mode Enable)

このﾋﾞｯﾄが'1'を書かれるなら、従装置ｱﾄﾞﾚｽ一致論理回路は全ての受信ｱﾄﾞﾚｽに応答します。

このﾋﾞｯﾄが'0'を書かれるなら、ｱﾄﾞﾚｽ一致論理回路はどのｱﾄﾞﾚｽを従装置のｱﾄﾞﾚｽとして認識するかを決めるのに従装置ｱﾄﾞﾚｽ(TWIn.SADDR)ﾚｼﾞｽﾀを使います。

● **ﾋﾞｯﾄ1 – SMEN : 簡便動作許可** (Smart Mode Enable)

このﾋﾞｯﾄに'1'を書くことが従装置簡便動作を許可します。簡便動作が許可されると、従装置制御B(TWIn.SCTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの指令(SCMD)ﾋﾞｯﾄ領域への書き込みによる指令発行または従装置ﾃﾞｰﾀ(TWIn.SDATA)ﾚｼﾞｽﾀのｱｸｾｽは割り込みをﾘｾｯﾄして動作を続けます。簡便動作が禁止される場合、従装置は続けるのに先立って常に新しい従装置指令を待ちます。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – ENABLE : 従装置許可** (Enable TWI Client)

このﾋﾞｯﾄに'1'を書くことがTWI従装置を許可します。

26.5.10. SCTRLB – 従装置制御B (Client Control B)

名称 : SCTRLB
変位 : +$0A
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
						ACKACT	SCMD1,0	
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ2 – ACKACT : 応答動作** (Acknowledge Action)

ACKACT(注)ﾋﾞｯﾄはﾊﾞｽ規約状態とｿﾌﾄｳｪｱ相互作用によって定義される或る条件下でのTWI従装置の動きを示します。従装置制御A(TWIn.SCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの簡便動作許可(SMEN)ﾋﾞｯﾄが'1'に設定される場合、応答動作は従装置ﾃﾞｰﾀ(TWIn.SDATA)ﾚｼﾞｽﾀが読まれる時に実行されます、さもなければ従装置制御B(TWIn.SCTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの指令(SCMD)ﾋﾞｯﾄ領域に指令が書かれなければなりません。

従装置ﾃﾞｰﾀ(TWIn.SDATA)ﾚｼﾞｽﾀが書かれる時は従装置がﾃﾞｰﾀを送っているため、応答動作は実行されません。

値	0	1
名称	ACK	NACK
説明	確認応答(ACK)送出	否認応答(NACK)送出

● **ﾋﾞｯﾄ1,0 – SCMD1,0 : 指令** (Command)

SCMD(注)ﾋﾞｯﾄ領域は瞬発(ｽﾄﾛｰﾌﾞ)信号です。このﾋﾞｯﾄ領域は常に'0'として読みます。

このﾋﾞｯﾄ領域への書き込みは次表によって定義されるような従装置動作を起動します。

注: ACKACTﾋﾞｯﾄとSCMDﾋﾞｯﾄ領域は同時に書くことができます。ACKACTは指令が起動されるのに先立って更新されます。

表26-3. 指令設定

SCMD1,0	群構成設定	DIR(方向)	説明	
0 0	NOACT	×	活動なし	
0 1	–	×	(予約)	
1 0	COMPTRANS	$\overline{W}$	何れかの開始条件/再送開始条件(S/Sr)待機に先行する応答動作を実行	転送処理完了に使用
		R	何れかの開始条件/再送開始条件(S/Sr)待機	
1 1	RESPONSE	$\overline{W}$	次ﾊﾞｲﾄの受信に先行する応答動作を実行	
		R	ｱﾄﾞﾚｽ割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(APIF)に対する応答で使用: 従装置ﾃﾞｰﾀ割り込み(DIF)に先行する応答動作を実行	
			ﾃﾞｰﾀ割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(DIF)に対する応答で使用: 応答動作が後続するﾊﾞｲﾄ読み取り操作を実行	

26.5.11. SSTATUS – 従装置状態 (Client Status)

名称 : SSTATUS
変位 : +$0B
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	DIF	APIF	CLKHOLD	RXACK	COLL	BUSERR	DIR	AP
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R	R	R/W	R/W	R	R
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7 – DIF : ﾃﾞｰﾀ割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (Data Interrupt Flag)

このﾌﾗｸﾞはﾊﾞｽ異常なしで従装置のﾊﾞｲﾄ送信またはﾊﾞｲﾄ受信の操作が完了された時に'1'に設定されます。このﾌﾗｸﾞは衝突検出の場合での不成功転送処理で'1'に設定され得ます。衝突(COLL)ﾋﾞｯﾄの記述でより多くの情報を見つけてください。

DIFﾌﾗｸﾞは従装置ﾃﾞｰﾀ割り込みを生成することができます。従装置制御A(TWIn.SCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのﾃﾞｰﾀ割り込み許可(DIEN)ﾋﾞｯﾄの記述でより多くの情報を見つけてください。

このﾌﾗｸﾞは他のいくつかのTWIﾚｼﾞｽﾀがｱｸｾｽされる時に自動的に解除(0)します。以下の方法のどれもDIFﾌﾗｸﾞを解除(0)するのに使うことができます。

- 従装置ﾃﾞｰﾀ(TWIn.SDATA)ﾚｼﾞｽﾀへの読み書き
- 従装置制御B(TWIn.SCTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの指令(SCMD)ﾋﾞｯﾄ領域への書き込み

● **ﾋﾞｯﾄ6 – APIF : ｱﾄﾞﾚｽ/停止条件割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (Address or Stop Interrupt Flag)

このﾌﾗｸﾞは従装置ｱﾄﾞﾚｽが受信された時、または停止条件によって'1'に設定されます。

APIFﾌﾗｸﾞは従装置ｱﾄﾞﾚｽ/停止条件割り込みを生成することができます。従装置制御A(TWIn.SCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのｱﾄﾞﾚｽ/停止条件割り込み許可(APIEN)ﾋﾞｯﾄの記述でより多くの情報を見つけてください。

このﾌﾗｸﾞはDIFﾌﾗｸﾞに対して記述される方法のどれを使っても解除(0)することができます。

● **ﾋﾞｯﾄ5 – CLKHOLD : ｸﾛｯｸ保持** (Clock Hold)

このﾋﾞｯﾄが'1'として読まれると、それは従装置がTWIｸﾛｯｸ(SCL)を現在Lowに保持してTWIｸﾛｯｸ周期を引き延ばしていることを示します。

このﾋﾞｯﾄはｱﾄﾞﾚｽ(APIF)またはﾃﾞｰﾀ(DIF)の割り込みが起こる時に'1'に設定されます。対応する割り込みのﾘｾｯﾄが間接的にこのﾋﾞｯﾄを'0'に設定します。

● **ﾋﾞｯﾄ4 – RXACK : 受信応答** (Received Acknowledge)

このﾋﾞｯﾄが'0'として読まれると、それは主装置からの最新応答ﾋﾞｯﾄが確認応答(ACK)だったことを示します。

このﾋﾞｯﾄが'1'として読まれると、それは主装置からの最新応答ﾋﾞｯﾄが否認応答(NACK)だったことを示します。

● **ﾋﾞｯﾄ3 – COLL : 衝突** (Collision)

このﾋﾞｯﾄが'1'として読まれると、それは従装置が以下の1つを行うことができなかったことを示します。

- SDAでのHighﾋﾞｯﾄ送信。不成功転送処理の内部完了のため、その最後でﾃﾞｰﾀ割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(DIF)が'1'に設定されます。
- 否認応答(NACK)ﾋﾞｯﾄ送信。従装置ｱﾄﾞﾚｽ一致が既に起こされたために衝突が起き、結果としてｱﾄﾞﾚｽ/停止条件割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(APIF)が'1'に設定されます。

このﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みはCOLLﾌﾗｸﾞを解除(0)します。このﾌﾗｸﾞは何れかの開始条件(S)または再送開始条件(Sr)が検出される場合に自動的に解除(0)されます。

注: APIFとDIFのﾌﾗｸﾞは衝突を調べるのに使われ得る処理部の割り込みしか生成することができません。

● **ﾋﾞｯﾄ2 – BUSERR : ﾊﾞｽ異常** (Bus Error)

BUSERRﾌﾗｸﾞは不正なﾊﾞｽ状態が起きたことを示します。不正なﾊﾞｽ操作はTWIﾊﾞｽ線で規約違反の開始条件(S)、再送開始条件(Sr)、停止条件(P)が検出された場合に検知されます。開始条件直後に続く停止条件が規約違反の一例です。

BUSERRﾌﾗｸﾞは以下の方法の1つを選ぶことによって解除(0)することができます。

- これへの'1'書き込み
- 主装置ｱﾄﾞﾚｽ(TWIn.MADDR)ﾚｼﾞｽﾀへの書き込み

TWIﾊﾞｽ異常検出部はTWI主装置回路の一部です。ﾊﾞｽ異常が検出されるには、TWI主装置が許可(主装置制御A(TWIn.MCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのTWI主装置許可(ENABLE)ﾋﾞｯﾄが'1'に)されて、主ｸﾛｯｸ周波数がSCL周波数の最低4倍でなければなりません。

● **ﾋﾞｯﾄ1 – DIR : 読み/書き方向** (Rwad/Write Direction)

このﾋﾞｯﾄは現在のTWIﾊﾞｽ方向を示します。DIRﾋﾞｯﾄはTWI主装置から受信した最後のｱﾄﾞﾚｽ ﾊﾟｹｯﾄからの方向ﾋﾞｯﾄ値を反映します。

このﾋﾞｯﾄが'1'として読まれると、それは主装置読み込み操作が進行中です。

このﾋﾞｯﾄが'0'として読まれると、それは主装置書き込み操作が進行中です。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – AP : ｱﾄﾞﾚｽ/停止条件** (Address or Stop)

TWI従装置状態(TWIn.SSTATUS)ﾚｼﾞｽﾀのTWI従装置ｱﾄﾞﾚｽ/停止条件割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(APIF)が'1'に設定されると、このﾋﾞｯﾄは割り込みがｱﾄﾞﾚｽ検出のためかそれとも停止条件のためかを決めます。

値	0	1
名称	STOP	ADR
説明	停止条件がAPIFﾌﾗｸﾞでの割り込みを生成	ｱﾄﾞﾚｽ検出がAPIFﾌﾗｸﾞでの割り込みを生成

26.5.12. SADDR – 従装置ｱﾄﾞﾚｽ (Client Address)

名称 : SADDR
変位 : +$0C
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	ADDR7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – ADDR7~0 : ｱﾄﾞﾚｽ** (Address)

従装置ｱﾄﾞﾚｽ(TWIn.ADDR)ﾚｼﾞｽﾀはTWI主装置がTWI従装置をｱﾄﾞﾚｽ指定したかを判断する従装置ｱﾄﾞﾚｽ一致論理回路によって使われます。ｱﾄﾞﾚｽ ﾊﾟｹｯﾄが受信された場合、従装置状態(TWIn.SSTATUS)ﾚｼﾞｽﾀのｱﾄﾞﾚｽ/停止条件割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(APIF)とｱﾄﾞﾚｽ/停止条件(AP)ﾋﾞｯﾄが'1'に設定されます。

TWIn.SADDRﾚｼﾞｽﾀの上位7ﾋﾞｯﾄ(ADDR7～1)は基本従装置ｱﾄﾞﾚｽを表します。

TWIn.SADDRﾚｼﾞｽﾀの最下位ﾋﾞｯﾄ(ADDR0)はI²C規約の一斉呼び出しｱﾄﾞﾚｽ($00)の認識に使われます。この機能はこのﾋﾞｯﾄが'1'に設定される時に許可されます。

26.5.13. SDATA – 従装置ﾃﾞｰﾀ (Client Data)

名称 : SDATA
変位 : +$0D
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	DATA7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – DATA7~0 : ﾃﾞｰﾀ** (Data)

このﾋﾞｯﾄ領域は従装置ﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀへのｱｸｾｽを提供します。

有効なﾃﾞｰﾀの読み込みまたは送信されるべきﾃﾞｰﾀの書き込みは従装置によってSCLがLowに保持される時(即ち、CLKHOLDﾋﾞｯﾄが'1'に設定される時)にだけ達成することができます。割り込みの使用または割り込み要求ﾌﾗｸﾞの監視によってｿﾌﾄｳｪｱが現在の規約状態の経緯を保つ場合、SDATAﾚｼﾞｽﾀをｱｸｾｽするのに先だって、ｿﾌﾄｳｪｱで従装置状態(TWIn.SSTATUS)ﾚｼﾞｽﾀのｸﾛｯｸ保持(CLKHOLD)ﾋﾞｯﾄを調べることは不要です。

従装置制御A(TWIn.SCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの簡便動作許可(SMEN)ﾋﾞｯﾄが'1'に設定される場合、ｸﾛｯｸ保持が有効の時のSDATAﾚｼﾞｽﾀ読み込みは従装置にﾊﾞｽ操作を自動起動して応答動作を実行することを命じます。これは従装置制御B(TWIn.SCTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの応答動作(ACKACT)ﾋﾞｯﾄの設定に依存します。

26.5.14. SADDRMASK – 従装置ｱﾄﾞﾚｽ遮蔽 (Client Address Mask)

名称 : SADDRMASK
変位 : +$0E
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	ADDRMASK6~0							ADDREN
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~1 – ADDRMASK6~0 : ｱﾄﾞﾚｽ遮蔽** (Address Mask)

ADDRMASKﾋﾞｯﾄ領域はｱﾄﾞﾚｽ許可(ADDREN)ﾋﾞｯﾄに依存して第2ｱﾄﾞﾚｽ一致またはｱﾄﾞﾚｽ遮蔽のﾚｼﾞｽﾀとして働きます。

ADDRENﾋﾞｯﾄが'0'を書かれる場合、ADDRMASKﾋﾞｯﾄ領域は7ﾋﾞｯﾄ従装置ｱﾄﾞﾚｽ遮蔽値を設定することができます。従装置ｱﾄﾞﾚｽ遮蔽(TWIn.SADDRMASK)ﾚｼﾞｽﾀ内の各ﾋﾞｯﾄはTWI従装置ｱﾄﾞﾚｽ(TWIn.SADDR)ﾚｼﾞｽﾀ内の対応するｱﾄﾞﾚｽ ﾋﾞｯﾄを遮蔽(禁止)することができます。この遮蔽のﾋﾞｯﾄが'1'を書かれるなら、ｱﾄﾞﾚｽ一致論理回路は着信ｱﾄﾞﾚｽ ﾋﾞｯﾄと従装置ｱﾄﾞﾚｽ(TWIn.SADDR)ﾚｼﾞｽﾀ内の対応するﾋﾞｯﾄ間の比較を無視します。換言すると、遮蔽されたﾋﾞｯﾄは常に一致し、ｱﾄﾞﾚｽの範囲の認識を可能にします。

ADDRENが'1'を書かれる場合、従装置ｱﾄﾞﾚｽ遮蔽(TWIn.SADDRMASK)ﾚｼﾞｽﾀは従装置ｱﾄﾞﾚｽ(TWIn.SADDR)ﾚｼﾞｽﾀに加えて第2従装置ｱﾄﾞﾚｽを設定することができます。この動作では従装置が2つの独自のｱﾄﾞﾚｽ、従装置ｱﾄﾞﾚｽ(TWIn.SADDR)ﾚｼﾞｽﾀでの1つと従装置ｱﾄﾞﾚｽ遮蔽(TWIn.SADDRMASK)ﾚｼﾞｽﾀでの別の1つを持ちます。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – ADDREN : ｱﾄﾞﾚｽ許可** (Address Mask Enable)

このﾋﾞｯﾄが'0'を書かれる場合、TWIn.SADDRMASKﾚｼﾞｽﾀはTWIn.SADDRﾚｼﾞｽﾀに対する遮蔽として働きます。

このﾋﾞｯﾄが'1'を書かれる場合、従装置ｱﾄﾞﾚｽ一致論理回路は従装置のTWIn.SADDRとTWIn.SADDRMASKのﾚｼﾞｽﾀでの2つの独自のｱﾄﾞﾚｽに応答します。

27. CRCSCAN – 巡回冗長検査ﾒﾓﾘ走査

27.1. 特徴

- CRC-16-CCITT
- 全ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ、応用ｺｰﾄﾞと/またはﾌﾞｰﾄ領域の検査
- 選択可能な不成功でのNMI起動
- 使用者構成設定可能な内部ﾘｾｯﾄ初期化中の検査

27.2. 概要

巡回冗長検査(CRC)はNVM(ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ全体、ﾌﾞｰﾄ領域のみ、ﾌﾞｰﾄ領域と応用ｺｰﾄﾞ領域の両方)からﾊﾞｲﾄのﾃﾞｰﾀの流れを取ってﾁｪｯｸｻﾑを生成します。CRC周辺機能(CRCSCAN)はﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ﾒﾓﾘ内の異常を検出するのに使うことができます。

調べる領域の最終位置は比較のために予め計算された正しい16ﾋﾞｯﾄ ﾁｪｯｸｻﾑ値を含まなければなりません。CRCSCANによって計算されたﾁｪｯｸｻﾑと予め計算されたﾁｪｯｸｻﾑが一致する場合、状態(OK)ﾋﾞｯﾄが設定(1)されます。それらが一致しない場合、状態(CRCSCAN.STATUS)ﾚｼﾞｽﾀは失敗したことを示します。使用者はﾁｪｯｸｻﾑが一致しない場合にCRCSCANに遮蔽不可割り込み(NMI)を生成させるように選ぶことができます。

任意長のﾃﾞｰﾀ塊に適用されるnﾋﾞｯﾄCRCは長さでnﾋﾞｯﾄまでのどんな単一改変(連続誤り)も検出します。より長い連続誤りについては$1-2^{-n}$分の1が検出されます。

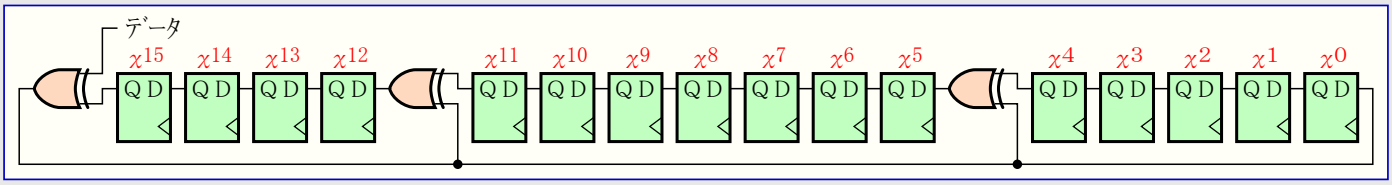
CRC生成部はCRC-16-CCITT)を支援します。

多項式:

- CRC-16-CCITT : $X^{16}+X^{12}+X^{5}+1$

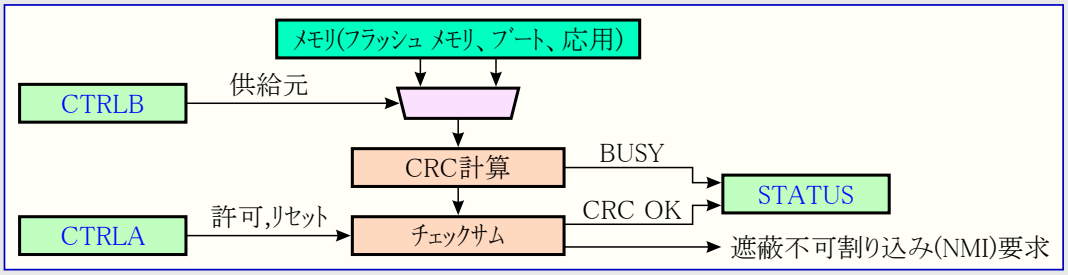
CRCは検査に対して構成設定された領域の内容をﾊﾞｲﾄ0から始めてﾊﾞｲﾄ単位で読み、ﾊﾞｲﾄ毎に新しいﾁｪｯｸｻﾑを生成します。ﾊﾞｲﾄは最上位ﾋﾞｯﾄから始めて下で描かれるような移動ﾚｼﾞｽﾀを通して送られます。領域の最後のﾊﾞｲﾄが正しいﾁｪｯｸｻﾑを含む場合、CRCは(検査に)合格します。ﾁｪｯｸｻﾑがどう配置されるかについては「27.3.2.1. ﾁｪｯｸｻﾑ」をご覧ください。ﾁｪｯｸｻﾑ ﾚｼﾞｽﾀの初期値は$FFFFです。

図27-1. CRC実装説明



27.2.1. 構成図

図27-2. 巡回冗長検査構成図



27.3. 機能的な説明

27.3.1. 初期化

ｿﾌﾄｳｪｱ(またはﾃﾞﾊﾞｯｶﾞ経由)でCRCを許可するには、

1. 望む供給元設定を選ぶために制御B(CRCSCAN.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの供給元(SRC)ﾋﾞｯﾄ領域を書いてください。
2. 制御A(CRCSCAN.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの許可(ENABLE)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによってCRCSCANを許可してください。
3. CRCは3周期後に開始します。CPUはこれらの3周期の間も実行を続けます。

CRCSCANはﾃﾞﾊﾞｲｽがﾘｾｯﾄを去る前にｺｰﾄﾞ ﾒﾓﾘ走査を実行するように構成設定することができます。この検査が失敗の場合、CPUは通常のｺｰﾄﾞ実行を許されません。この機能はｼｽﾃﾑ構成設定0(FUSE.SYSCFG0)ﾋｭｰｽﾞのCRC供給元(CRCSRC)領域によって許可されて制御されます。より多くの情報については「ﾋｭｰｽﾞ」項をご覧ください。

この機能が許可された場合、成功したCRC検査は以下の結果を持ちます。

- 通常ｺｰﾄﾞ実行開始
- CRCSCAN.CTRLAﾚｼﾞｽﾀのENABLEﾋﾞｯﾄが'1'です。
- CRCSCAN.CTRLBﾚｼﾞｽﾀのSRCﾋﾞｯﾄ領域は検査した領域を反映します。
- 状態(CRCSCAN.STATUS)ﾚｼﾞｽﾀのCRC OK(OK)ﾌﾗｸﾞが'1'です。

この機能が許可された場合、不成功のCRC検査は以下の結果を持ちます。

- 通常ｺｰﾄﾞ実行は開始せず、CPUはｺｰﾄﾞ実行を停止します。
- CRCSCAN.CTRLAﾚｼﾞｽﾀのENABLEﾋﾞｯﾄが'1'です。
- CRCSCAN.CTRLBﾚｼﾞｽﾀのSRCﾋﾞｯﾄ領域は検査した領域を反映します。
- 状態(CRCSCAN.STATUS)ﾚｼﾞｽﾀのOKﾌﾗｸﾞが'0'です。
- この状況はﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ ｲﾝﾀｰﾌｪｰｽを用いて観察することができるかもしれません。

27.3.2. 動作

CRCが優先動作で動いている時は、CRC周辺機能がﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘへのｱｸｾｽ優先権を持ち、完了されるまでCPUを停止します。

優先動作で、またはCRC単位部が始動から走査を行うように設定される時に、CRCは第3主ｸﾛｯｸ周期毎に新しい語(16ﾋﾞｯﾄ)を取得します。

27.3.2.1. ﾁｪｯｸｻﾑ

検査される領域の最後の位置に予め計算されたﾁｪｯｸｻﾑが存在しなければなりません。ﾌﾞｰﾄ(BOOT)領域が検査されるべきなら、ﾁｪｯｸｻﾑはﾌﾞｰﾄ領域の最後の(2)ﾊﾞｲﾄに保存されなければならず、応用(APPLICATION)とﾌﾗｯｼｭ全体に対しても同様です。表27-1.は各種領域に対してﾁｪｯｸｻﾑがどう格納されなければならないかを明確に示します。また、どの領域を検査するかを構成設定する方法については制御B(CRCSCAN.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀ記述を、ﾌﾞｰﾄの最後(BOOTEND)と応用の最後(APPEND)のﾋｭｰｽﾞを構成設定する方法についてはﾃﾞﾊﾞｲｽのﾋｭｰｽﾞ記述をご覧ください。

表27-1. ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ内に予め計算された16ﾋﾞｯﾄ ﾁｪｯｸｻﾑを配置する方法

検査する領域	ﾁｪｯｸｻﾑ上位ﾊﾞｲﾄ(ﾋﾞｯﾄ15～8)	ﾁｪｯｸｻﾑ下位ﾊﾞｲﾄ(ﾋﾞｯﾄ7～0)
ﾌﾞｰﾄ領域 (BOOT)	FUSE_BOOTEND×256-2	FUSE_BOOTEND×256-1
ﾌﾞｰﾄ領域(BOOT)と応用領域(APLICATION)	FUSE_APPEND×256-2	FUSE_APPEND×256-1
全ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ	FLASHEND-1	FLASHEND

27.3.3. 割り込み

表27-2. 利用可能な割り込みﾍﾞｸﾀと供給元

名称	ﾍﾞｸﾀ説明	条件
NMI	遮蔽不可割り込み	CRC誤り

割り込み条件が起こると、状態(CRCSCAN.STATUS)ﾚｼﾞｽﾀのCRC OK(OK)ﾌﾗｸﾞが'0'に解除されます。

遮蔽不可割り込み(NMI)は制御A(CRCSCAN.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの対応する許可(NMIEN)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって許可されますが、ｼｽﾃﾑ ﾘｾｯﾄでだけ禁止することができます。NMIはCRCSCAN.STATUSﾚｼﾞｽﾀのOKﾌﾗｸﾞが解除(0)され、NMIENﾋﾞｯﾄが'1'の時に生成されます。NMI要求はｼｽﾃﾑ ﾘｾｯﾄまで活性に留まり、禁止することができません。

NMIは例え割り込みが全体的に許可されなくても起動することができます。

27.3.4. 休止形態動作

CRCSCANは全ての休止動作で停止されます。全てのCPU休止動作に於いて、CRCSCAN周辺機能は停止され、CPUが起き上がる時に動作を再開します。

CRCSCANは制御A(CRCSCAN.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのCRCSCAN許可(ENABLE)ﾋﾞｯﾄ書き込み後3周期で動作を開始します。これらの3周期の間に休止動作へ移行することが可能です。この場合、

1. CRCSCANはCPUが起き上がるまで開始しません。
2. CRCSCANが終了された後に何れかの割り込み処理部を実行します。

27.3.5. ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ操作

ﾃﾞﾊﾞｯｶﾞが周辺機能やﾒﾓﾘ位置を読み書きする時は必ずCRCSCAN周辺機能が禁止されます。

ﾃﾞﾊﾞｯｶﾞがﾃﾞﾊﾞｲｽをｱｸｾｽする時にCRCSCANが多忙の場合、CRCSCANはﾃﾞﾊﾞｯｶﾞが内部ﾚｼﾞｽﾀをｱｸｾｽする時、またはﾃﾞﾊﾞｯｶﾞ切断時に進行中の動作を再始動します。

状態(CRCSCAN.STATUS)ﾚｼﾞｽﾀの多忙(BUSY)ﾋﾞｯﾄはﾃﾞﾊﾞｯｶﾞがこれを禁止にさせた時にCRCSCANが多忙だった場合に'1'を読みますが、ﾃﾞﾊﾞｯｶﾞがこれの禁止を保つ限りどの領域も能動的に検査しません。CRCSCANを禁止することなくﾃﾞﾊﾞｯｶﾞによって読むことができる同期したCRC状態ﾋﾞｯﾄがﾃﾞﾊﾞｯｶﾞの内部ﾚｼﾞｽﾀ空間にあります。ﾃﾞﾊﾞｯｶﾞの内部CRC状態ﾋﾞｯﾄ読み込みはCRCSCANが許可されることを確実にします。

ﾃﾞﾊﾞｯｶﾞから直接CRCSCAN.STATUSﾚｼﾞｽﾀ書き込みが可能なら、

- CRCSCAN.STATUSﾚｼﾞｽﾀ内のBUSYﾋﾞｯﾄ
  - BUSYﾋﾞｯﾄに'0'を書くことは(ﾃﾞﾊﾞｯｶﾞがそれを許す時にその動作を再始動しないように)進行中のCRC動作を止めます。
  - BUSYﾋﾞｯﾄに'1'を書くことは制御B(CRCSCAN.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの設定で単一検査をCRCに始めさせますが、ﾃﾞﾊﾞｯｶﾞがそれを許すまで動きません。

CRCSCAN.STATUSﾚｼﾞｽﾀのBUSYﾋﾞｯﾄが'1'である限り、制御A(CRCSCAN.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの遮蔽不可割り込み許可(NMIEN)ﾋﾞｯﾄとCRCSCAN.CTRLBﾚｼﾞｽﾀは変えることができません。

- CRCSCAN.STATUSﾚｼﾞｽﾀ内のOKﾋﾞｯﾄ
  - OKﾋﾞｯﾄに'0'を書くことはCRCSCAN.CTRLAﾚｼﾞｽﾀのNMIENﾋﾞｯﾄが'1'の場合に遮蔽不可割り込み(NMI)を起動することができます。NMIが起動された場合、CRCSCANへの書き込みが全く許されません。
  - OKﾋﾞｯﾄに'1'を書くことはCRCSCAN.STATUSﾚｼﾞｽﾀのBUSYﾋﾞｯﾄが'0'の時にOKﾋﾞｯﾄを'1'として読ませます。

ﾃﾞﾊﾞｯｶﾞからCRCSCAN.CTRLAとCRCSCAN.CTRLBのﾚｼﾞｽﾀ書き込みはCPUからの書き込みと同様に扱われます。

27.4. レジスタ要約

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00	CTRLA	7～0	RESET						NMIEN	ENABLE
+$01	CTRLB	7～0			MODE1,0				SRC1,0	
+$02	STATUS	7～0							OK	BUSY

27.5. レジスタ説明

27.5.1. CTRLA – 制御A (Control A)

名称 : CTRLA
変位 : +$00
リセット : $00
特質 : –

NMIが起動されてしまった場合、このレジスタは書き込み不可です。

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
	RESET						NMIEN	ENABLE
アクセス種別	R/W	R	R	R	R	R	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット7 – RESET : CRCSCANリセット** (Reset CRCSCAN)

このビットに'1'を書くことはCRCSCAN周辺機能をリセットします。CRCSCANの制御レジスタと状態レジスタ(CRCSCAN.CTRLA,CRCSCAN.CTRLB,CRCSCAN.STATUS)はRESETビットが'1'を書かれた後の1クロック周期で解除されます。

NMI起動許可(NMIEN)が'0'なら、このビットはCRCSCANが多忙(CRCSCAN.STATUSレジスタの多忙(BUSY)ビットが'1')と多忙でない(BUSYビットが'0')の両方の時に書き込み可能で、直ちに有効になります。

NMIENが'1'なら、このビットはCRCSCANが多忙でない(CRCSCAN.STATUSレジスタの多忙(BUSY)ビットが'0'の)時にだけ書き込み可能です。

RESETビットは瞬発(ストローブ)ビットです。

● **ビット1 – NMIEN : NMI起動許可** (Enable NMI Trigger)

このビットが'1'を書かれると、どのCRC不成功もNMIを起動します。

このビットはシステム リセットによってのみ解除(0)することができ、リセット(RESET)ビットへの書き込みによって解除(0)されません。

このビットはCRCSCANが多忙でない(CRCSCAN.STATUSレジスタの多忙(BUSY)ビットが'0'の)時に'1'へ書くことだけができます。

● **ビット0 – ENABLE : CRCSCAN許可** (Enable CRCSCAN)

このビットに'1'を書くことは現在の設定でCRCSCAN周辺機能を許可します。これはCRC検査が完了した後も'1'に留まりますが、再びこれに'1'を書くことが新しい検査を開始します。

このビットに'0'を書くことは無効です。

CPUに通常のコード実行を始めさせる前にフラッシュ メモリ領域を確認するため、MCU始動手順中に走査を走行するようにCRCSCANを構成設定することができます(「27.3.1. 初期化」項をご覧ください)。この機能が許可された場合、通常のコード実行が始まると、ENABLEビットは'1'として読みます。

CRCSCAN周辺機能が進行中の検査で多忙かどうかを知るには、状態(CRCSCAN.STATUS)レジスタの多忙(BUSY)ビットをポーリングしてください。

27.5.2. CTRLB – 制御B (Control B)

名称 : CTRLB
変位 : +$01
リセット : $00
特質 : –

CTRLBレジスタはCRCに関する動作形態と供給元の設定を含みます。これはCRCが多忙の時、またはNMIが起動されてしまった時に書き込み不可です。

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
			MODE1,0				SRC1,0	
アクセス種別	R	R	R/W	R/W	R	R	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット5,4 – MODE1,0 : 動作形態** (CRC Flash Access Mode)

CPUに通常のコード実行を始めさせる前にフラッシュ メモリ領域を確認するために、内部リセット初期化中にCRCを許可することができます(ヒューズの記述をご覧ください)。CRCが内部リセット初期化中に許可された場合、通常のコード実行が始まると、MODEビット領域は非0を読み出されます。コード実行下でCRCの正しい動作を保証するため、MODEビットに再び'00'を書いてください。

値	0 0	その他
名称	PRIORITY	–
説明	CRC単位部はフラッシュ メモリへの優先権で単一検査を走ります。CPUはCRC完了まで停止されます。	(予約)

● **ﾋﾞｯﾄ1,0 – SRC1,0 : CRC供給元** (CRC Source)

SRCﾋﾞｯﾄ領域はCRC単位部が検査するﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘの領域を選びます。領域の大きさを構成設定するにはﾋｭｰｽﾞ記述を参照してください。

CPUを開始させる前にﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ領域を確認するために、内部ﾘｾｯﾄ初期化中にCRCを許可することができます(「ﾋｭｰｽﾞ」項をご覧ください)。CRCが内部ﾘｾｯﾄ初期化中に許可された場合、通常のｺｰﾄﾞ実行が始まると、(構成設定に依存して)FLASH、BOOTAPP、BOOTとして読み出されます。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	FLASH	BOOTAPP	BOOT	–
説明	CRCはﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ全体(ﾌﾞｰﾄ、応用ｺｰﾄﾞ、応用ﾃﾞｰﾀの領域)で実行されます。	CRCはﾌﾗｯｼｭのﾌﾞｰﾄと応用ｺｰﾄﾞの領域で実行されます。	CRCはﾌﾗｯｼｭのﾌﾞｰﾄ領域で実行されます。	(予約)

27.5.3. STATUS – 状態 (Status)

名称 : STATUS
変位 : +$02
ﾘｾｯﾄ : $02
特質 : –

状態(STATUS)ﾚｼﾞｽﾀは多忙とOKの情報を含みます。これは書き込み不可で読み込みのみ可能です。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
							OK	BUSY
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	1	0

● **ﾋﾞｯﾄ1 – OK : CRC OK** (CRC OK)

このﾋﾞｯﾄが'1'として読まれると、直前のCRCは成功裏に完了しました。このﾋﾞｯﾄはCRC走査が走るのに先立って既定で'1'に設定されます。このﾋﾞｯﾄはCRC多忙(BUSY)が'0'でない限り有効ではありません。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – BUSY : CRC多忙** (CRC Busy)

このﾋﾞｯﾄが'1'として読まれると、CRCSCANは多忙です。単位部が多忙である限り、制御ﾚｼﾞｽﾀへのｱｸｾｽは制限されます。

28. CCL – 構成設定可能な注文論理回路

28.1. 特徴

- 汎用PCB設計用接続用論理回路(glue logic)
- 4つの設定可能な参照表(LUT)
- 組み合わせ論理回路機能：3入力までの機能の全ての論理式
- 逐次制御器論理回路機能
  - 門付きDﾌﾘｯﾌﾟﾌﾛｯﾌﾟ
  - JKﾌﾘｯﾌﾟﾌﾛｯﾌﾟ
  - 門付きDﾗｯﾁ
  - RSﾗｯﾁ
- 柔軟な参照表(LUT)入力選択
  - 入出力
  - 事象
  - 後続LUT出力
  - 内部周辺機能
    - ｱﾅﾛｸﾞ比較器
    - ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀ
    - USART
    - SPI
- ｼｽﾃﾑ ｸﾛｯｸまたは他の周辺機能によるｸﾛｯｸ駆動
- 入出力ﾋﾟﾝまたは事象ｼｽﾃﾑへ接続可能な出力
- 各LUT出力で利用可能な任意選択の同期化器、濾波器、端検出器
- 各LUT出力からの任意選択割り込み生成
  - 上昇端
  - 下降端
  - 両端

28.2. 概要

構成設定可能な注文論理回路(CCL:Configurable Custom Logic)はﾃﾞﾊﾞｲｽのﾋﾟﾝ、事象、他の内部周辺機能に接続することができる設定可能な論理回路周辺機能です。CCLはﾃﾞﾊﾞｲｽの周辺機能と外部ﾃﾞﾊﾞｲｽ間の'接続用論理回路(glue logic)'として扱うことができます。CCLは外部の論理回路部品の必要を無くすことができ、CPUと無関係に応用の最も時間が重要な部分を処理するためにｺｱから独立した周辺機能と組み合わせることによって実時間制限を克服することで設計者を手助けすることもできます。

CCL周辺機能はいくつかの参照表(LUT:LookUp Table)を提供します。各LUTは3つの入力、真理値表、同期部/濾波器、端検出器から成ります。各LUTは3つの入力を持つ使用者設定可能な論理式として出力を生成することができます。出力は組み合わせ的な論理回路を用いて入力から生成され、ｽﾊﾟｲｸを取り除くために濾波することができます。CCLはLUT出力での変化で割り込み要求を生成するように構成設定することができます。

隣接LUTは特定動作を実行するように結合することができます。逐次制御器は複雑な波形を生成するのに使うことができます。

28.2.1. 構成図

図28-1. CCL構成図

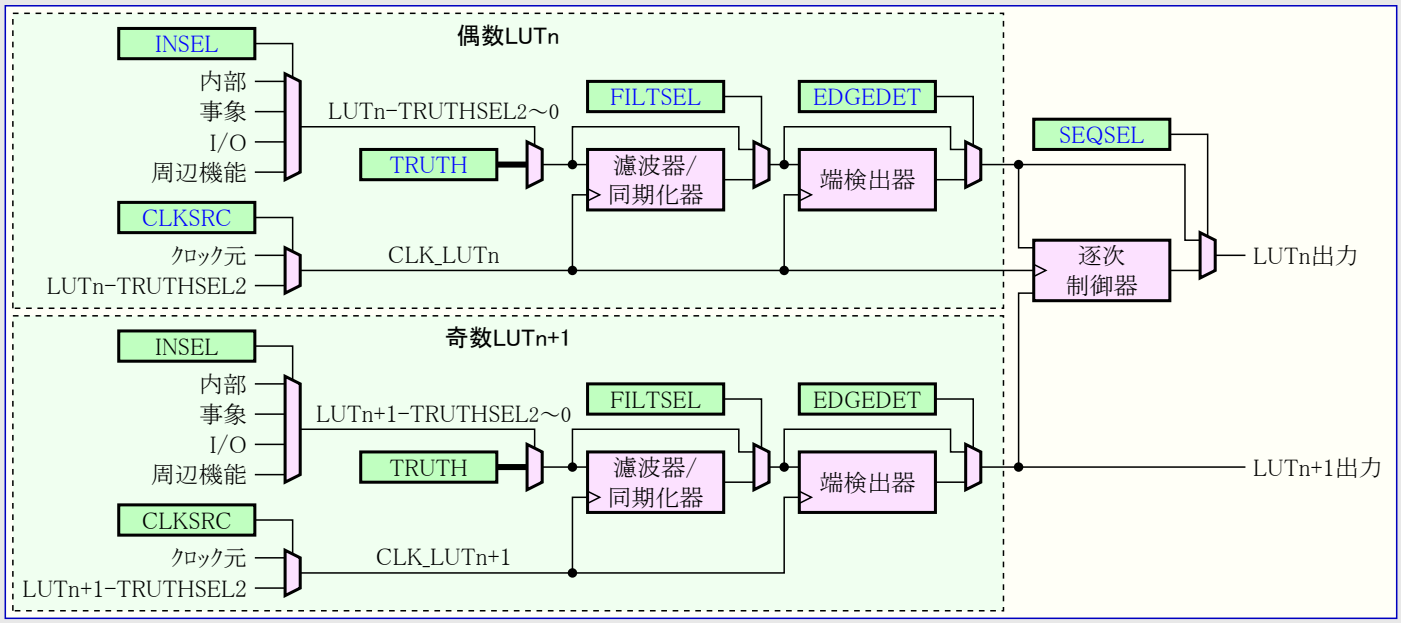


表28-1. 逐次制御器とLUTの接続

逐次制御器	偶数と奇数のLUT
SEQ0	LUT0とLUT1
SEQ1	LUT2とLUT3

28.2.2. 信号説明

信号	形式	説明
LUTn-OUT	ﾃﾞｼﾞﾀﾙ出力	参照表からの出力
LUTn-IN2～0	ﾃﾞｼﾞﾀﾙ入力	参照表への入力。LUTn-IN2はCLK_LUTnとして取り扱うことができます。

この周辺機能に対するﾋﾟﾝ割り当ての詳細については「入出力多重化と考察」を参照してください。1つの信号を様々なﾋﾟﾝに割り当てることができます。

28.2.2.1. CCL入力選択多重器

CCL LUTへの入力として以下の周辺機能出力が利用可能です。

値	入力元	INSEL03～0	INSEL13～0	INSEL23～0
0 0 0 0 ($0)	MASK	なし (遮蔽された入力)		
0 0 0 1 ($1)	FEEDBACK	LUTn (帰還入力)		
0 0 1 0 ($2)	LINK	LUTn+1 (連結)		
0 0 1 1 ($3)	EVENTA	事象入力元A		
0 1 0 0 ($4)	EVENTB	事象入力元B		
0 1 0 1 ($5)	IO	LUTn-IN0	LUTn-IN1	LUTn-IN2
0 1 1 0 ($6)	AC0	AC0のOUT		
0 1 1 1 ($7)	-	(予約)		
1 0 0 0 ($8)	USARTn (注1)	USART0のTXD	USART1のTXD	(予約)
1 0 0 1 ($9)	SPI0 (注2)	SPI0のMOSI	SPI0のMOSI	SPI0のSCK
1 0 1 0 ($A)	TCA0	TCA0のWO0	TCA0のWO1	TCA0のWO2
1 0 1 1 ($B)	-	(予約)		
1 1 0 0 ($C)	TCBn	TCB0のWO	TCB1のWO	(予約)
その他	-	(予約)		

注1: CCLへのUSART接続は非同期/同期USART主装置動作でだけ動きます。

注2: CCLへのSPI接続は主装置SPI動作でだけ動きます。

28.3. 機能的な説明

28.3.1. 動作

28.3.1.1. 許可保護される構成設定

LUTと逐次制御器の構成設定は許可保護され、対応する偶数LUTが禁止(LUTn制御A(CCL.LUTnCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのLUT許可(ENABLE)=0、n=0,2)される時にだけそれらを構成設定することができることを意味します。これは(再)構成設定下でCCLからの望まれない出力を抑えるための機構です。

以下のﾋﾞｯﾄとﾚｼﾞｽﾀが許可保護されます。

- 逐次制御器制御n(CCL.SEQCTRLn)ﾚｼﾞｽﾀの逐次制御器選択(SEQSELn)
- CCL.LUTnCTRLAﾚｼﾞｽﾀのENABLEﾋﾞｯﾄを除くLUTn制御x(CCL.LUTnCTRLx)ﾚｼﾞｽﾀ
- 真理値表n(CCL.TRUTHn)ﾚｼﾞｽﾀ

CCL.LUTnCTRLxﾚｼﾞｽﾀの許可保護されたﾋﾞｯﾄはCCL.LUTnCTRLAﾚｼﾞｽﾀのENABLEが'1'を書かれるのと同じ時に書くことができますが、ENABLEが'0'を書かれるのと同じ時ではありません。

許可保護はﾚｼﾞｽﾀ説明で許可保護された特質によって示されます。

28.3.1.2. 許可、禁止、ﾘｾｯﾄ

CCLは制御A(CCL.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの許可(ENABLE)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって許可されます。CCLはそのENABLEﾋﾞｯﾄに'0'を書くことによって禁止されます。

各LUTはLUT制御A(CCL.LUTnCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのLUT許可(ENABLE)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって許可されます。各LUTはCCL.LUTnCTRLAﾚｼﾞｽﾀのENABLEﾋﾞｯﾄに'0'を書くことによって禁止されます。

28.3.1.3. 真理値表論理回路

各LUTの真理値表は3つの入力(LUTn-TRUTHSEL2～0)までの関数として組み合わせ論理出力を生成することができます。1つのLUTを使ってどの3入力ﾌﾞｰﾙ論理関数の実現も可能です。

真理値表入力(LUTn-TRUTHSEL2～0)は以下のようにLUT制御ﾚｼﾞｽﾀの入力供給元選択ﾋﾞｯﾄ領域を書くことによって構成設定してください。

- LUTn制御B(CCL.LUTnCTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの入力0供給元選択(INSEL0)
- CCL.LUTnCTRLBﾚｼﾞｽﾀの入力1供給元選択(INSEL1)
- LUTn制御C(CCL.LUTnCTRLC)ﾚｼﾞｽﾀの入力2供給元選択(INSEL2)

入力(LUTn-TRUTHSEL2～0)ﾋﾞｯﾄの各組み合わせは下表で示されるように、真理値表(CCL.TRUTHn)ﾚｼﾞｽﾀ内の1ﾋﾞｯﾄに対応します。

図28-2. LUTの真理値表出力値選択

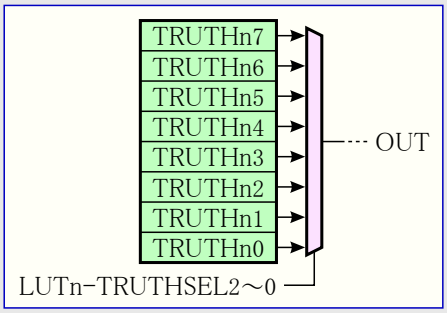


表28-2. LUTの真理値表

LUTn-TRUTHSEL2	0	0	0	0	1	1	1	1
LUTn-TRUTHSEL1	0	0	1	1	0	0	1	1
LUTn-TRUTHSEL0	0	1	0	1	0	1	0	1
OUT	TRUTHn0	TRUTHn1	TRUTHn2	TRUTHn3	TRUTHn4	TRUTHn5	TRUTHn6	TRUTHn7

重要: 論理関数が作成される時にOFFに(Lowに結合)される未使用入力を考慮してください。

例28-1. CCL.TRUTHn=$42に対するLUT出力

CCL.TRUTHnが$42に構成設定される場合、LUT出力は入力が'001'または'110'の時に'1'で、他のどの組み合わせの入力に対しても'0'です。

28.3.1.4. 真理値表入力選択

入力概要

入力は個別に以下のようにすることができます。

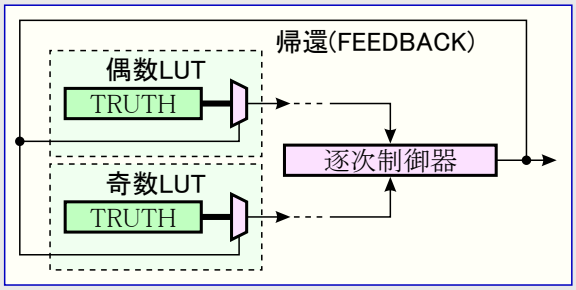
- OFF
- 周辺機能による駆動
- 事象ｼｽﾃﾑからの内部事象による駆動
- 入出力ﾋﾟﾝ入力による駆動
- 他のLUTによる駆動

内部帰還入力 (FEEDBACK)

逐次制御器からの出力はそれが接続される2つのLUTに対する入力元として使うことができます。

選択(LUTnCTRLxﾚｼﾞｽﾀのINSELy='0001'(FEEDBACK))されると、逐次制御器(SEQ)出力が対応するLUTに対する入力として使われます。

図28-3. 帰還入力選択



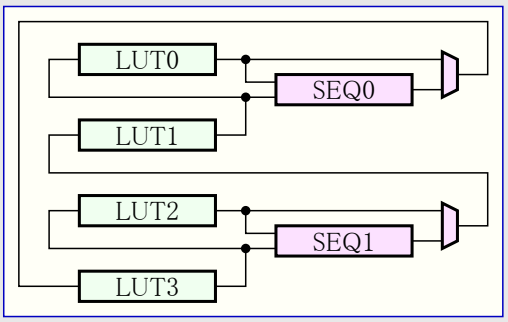
連結LUT (LINK)

LINK入力任意選択(INSELy='0010')選択時、次のLUTの直接出力がLUTの入力として使われます。一般的に、LUT[n+1]がLUT[n]の入力に連結されます。LUT0は最後のLUTの入力に連結されます。

例28-2. 4つのLUTを持つデバイスでの全LUT連結

- LUT1はLUT0用入力です。
- LUT2はLUT1用入力です。
- LUT3はLUT2用入力です。
- LUT0はLUT3用入力です(回り込み丸め)。

図28-4. 連結LUT入力選択



事象入力選択 (EVENTx)

事象システムからの事象はLUTn制御B/C(CCL.LUTnCTRLBとCCL.LUTnCTRLC)レジスタのINSELyビット群へ書くことによってLUTへの入力として使うことができます。

I/Oピン入力 (IO)

IO(INSELy='0101')任意選択選択時、LUT入力は対応するI/Oピンに接続されます。LUTn-INyピンが配置される場所についてのより多くの詳細に関しては「入出力多重化と考察」章を参照してください。

周辺機能

各LUTの3つの入力線での各種周辺機能はLUTn制御B/C(CCL.LUTnCTRLBとCCL.LUTnCTRLC)レジスタの入力選択y(INSELy)ビットへ書くことによって選ばれます。

28.3.1.5. 濾波器

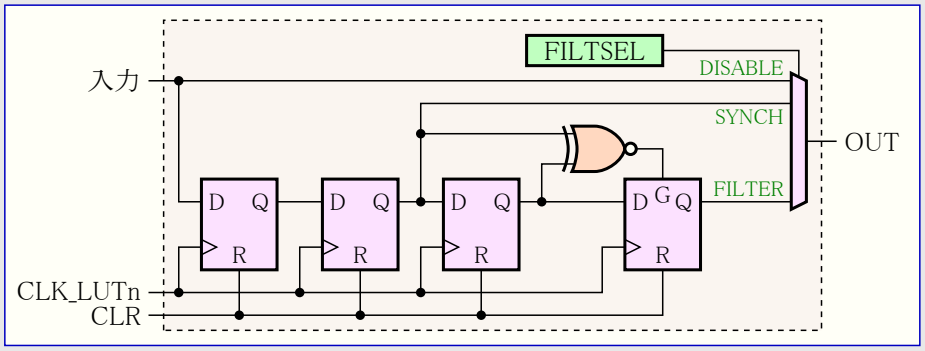
既定によって、LUT出力はLUT入力の組み合わせ関数です。これは入力が値を変える時にいくつかの短い不具合を起こし得ます。これらの不具合は応用の要求によって求められた場合に濾波器を通してクロック駆動することで取り除くことができます。

LUTn制御A(CCL.LUTnCTRLA)レジスタの濾波器選択(FILTSEL)ビットはデジタル濾波器任意選択を定義します。

FILTSEL='10'(FILTER)時、2つを超えるCLK_LUTn正端間を持続する入力だけが門付きフリップフロップを通って出力へ渡されます。この出力は4 CLK_LUTn正端によって遅らされます。

対応するLUTが禁止された後の1クロック周期後に全ての内部濾波器論理回路が解消されます。

図28-5. 濾波器



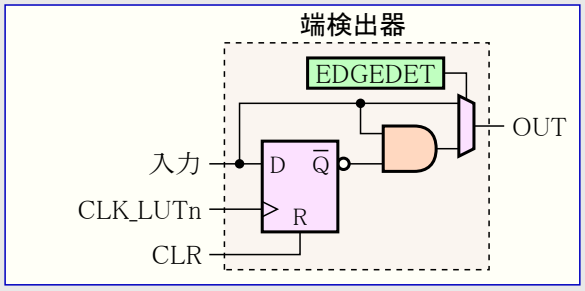
28.3.1.6. 端検出器

端検出器はそれの入力で上昇端を検出する時にパルスを生成するのに使うことができます。下降端を検出するため、反転する出力を提供するように真理値表(CCL.TRUTHnレジスタ)を設定することができます。

端検出器はLUTn制御A(CCL.LUTnCTRLA)レジスタの端検出(EDGEDET)ビットに'1'を書くことによって許可されます。予測不能な動きを避けるため、更に有効な濾波器任意選択が許可されなければなりません。

端検出はCCL.LUTnCTRLAレジスタのEDGEDETに'0'を書くことによって禁止されます。LUT禁止後、対応する内部端検出器論理回路は1クロック周期後に解消されます。

図28-6. 端検出器



28.3.1.7. 逐次制御器論理回路

各LUT対は逐次制御器に接続することができます。逐次制御器はDﾌﾘｯﾌﾟﾌﾛｯﾌﾟ、JKﾌﾘｯﾌﾟﾌﾛｯﾌﾟ、門付きDﾗｯﾁ、RSﾗｯﾁのどれかとして機能することができます。この機能は逐次制御器制御n(CCL.SEQCTRLn)ﾚｼﾞｽﾀの逐次制御器選択(SEQSELn)ﾋﾞｯﾄ群を書くことによって選ばれます。

逐次制御器は構成設定に依存して、LUT、濾波器、端検出器のどれかから入力を受け取ります。

逐次制御器は対応する偶数LUTと同じｸﾛｯｸ元によってｸﾛｯｸ駆動されます。このｸﾛｯｸ元はLUTn制御A(CCL.LUTnCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのｸﾛｯｸ元選択(CLKSRC)ﾋﾞｯﾄ群によって選ばれます。

ﾌﾘｯﾌﾟﾌﾛｯﾌﾟ出力(OUT)はｸﾛｯｸの上昇端で更新されます。偶数LUTが禁止されると、ﾗｯﾁは非同期に解消されます。ﾌﾘｯﾌﾟﾌﾛｯﾌﾟ ﾘｾｯﾄ信号(R)は1ｸﾛｯｸ周期間許可され続けます。

門付きDﾌﾘｯﾌﾟﾌﾛｯﾌﾟ (DFF)

D入力は偶数LUT出力によって駆動され、G入力は奇数LUT出力によって駆動されます。

図28-7. Dﾌﾘｯﾌﾟﾌﾛｯﾌﾟ

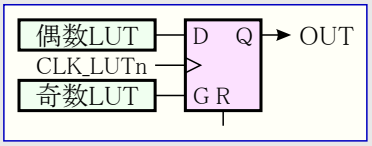


表28-3. DFF特性

R	G	D	OUT
1	x	x	解除(0)
0	1	1	設定(1)
0	1	0	解除(0)
0	0	x	状態保持(無変化)

JKDﾌﾘｯﾌﾟﾌﾛｯﾌﾟ (JK)

J入力は偶数LUT出力によって駆動され、K入力は奇数LUT出力によって駆動されます。

図28-8. JKﾌﾘｯﾌﾟﾌﾛｯﾌﾟ

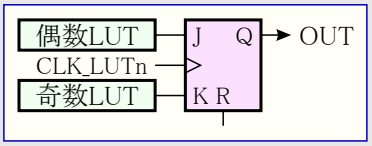


表28-4. JK特性

R	J	K	OUT
1	x	x	解除(0)
0	0	0	状態保持(無変化)
0	0	1	解除(0)
0	1	0	設定(1)
0	1	1	逆へ切り替え

門付きDﾗｯﾁ (DLATCH)

D入力は偶数LUT出力によって駆動され、G入力は奇数LUT出力によって駆動されます。

図28-9. Dﾗｯﾁ

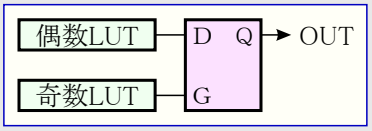


表28-5. Dﾗｯﾁ特性

G	D	OUT
0	x	状態保持(無変化)
1	0	解除(0)
1	1	設定(1)

RSﾗｯﾁ (RS)

S入力は偶数LUT出力によって駆動され、R入力は奇数LUT出力によって駆動されます。

図28-10. RSﾗｯﾁ

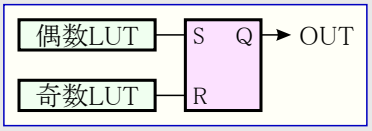


表28-6. RSﾗｯﾁ特性

S	R	OUT
0	0	状態保持(無変化)
0	1	解除(0)
1	0	設定(1)
1	1	禁止状態

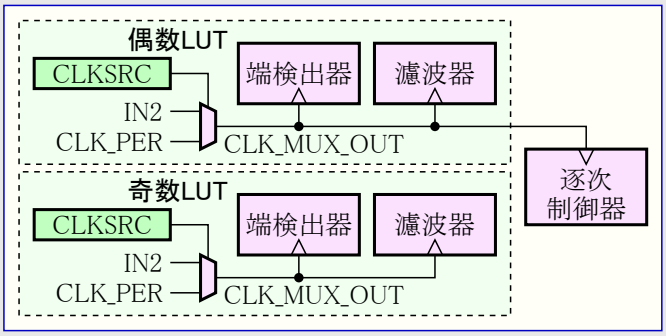
28.3.1.8. クロック元設定

濾波器、端検出器、逐次制御器は既定で周辺機能クロック(CLK_PER)によってクロック駆動されます。それらの区部をクロック(下図のCLK_LUTn)駆動するのに他のクロック入力を使うことも可能です。これはLUTn制御A(CCL.LUTnCTRLA)レジスタのクロック元選択(CLKSRC)ビットを書くことによって構成設定されます。

クロック元選択(CLKSRC)ビットが'001'を書かれると、対応する濾波器と端検出器をクロック(CLK_LUTn)駆動するのにLUTn-TRUTHSEL2が使われます。逐次制御器は対の偶数LUTのCLK_LUTnによってクロック駆動されます。CLKSRCビットが'001'を書かれると、真理値(TRUTH)表でLUTn-TRUTHSEL2はOFF(='0')として扱われます。

CCL周辺機能は周辺機能からの未定義出力を避けるためにクロック元を変更する間は禁止されなければなりません。

図28-11. クロック元設定



28.3.2. 割り込み

表28-7. 利用可能な割り込みベクタと供給元

名称	ベクタ説明	条件
CCL	CCL割り込み	CCL.INTCTRLnレジスタの割り込み動作形態(INTMODEn)ビットによって構成設定されたようにINTFLAGSのINTnが掲げられる。

割り込み条件が起こると、周辺機能の割り込み要求フラグ(CCL.INTFLAGS)レジスタで対応する割り込み要求フラグが設定(1)されます。

割り込み元は周辺機能の割り込み制御(CCL.INTCTRL0)レジスタで対応する許可ビットを書くことによって許可または禁止にされます。

割り込み要求は対応する割り込み元が許可され、割り込み要求フラグが設定(1)される時に生成されます。割り込み要求は割り込み要求フラグが解除(0)されるまで活性に留まります。割り込み要求フラグを解除する方法の詳細については周辺機能のINTFLAGSレジスタをご覧ください。

いくつかの割り込み要求条件が割り込みベクタによって支援される時に、割り込み要求は割り込み制御器に対して1つの結合された割り込み要求へ共に論理和(OR)されます。使用者はどの割り込み条件が存在するかを決めるために周辺機能のINTFLAGSレジスタを読まなければなりません。

28.3.3. 事象

CCLは下表で示される事象を生成することができます。

表28-8. CCLでの事象生成部

生成部名		説明	事象型	生成クロック領域	事象長
周辺機能	事象				
CCL	LUTn	LUT出力レベル	レベル	非同期	CCL構成設定に依存

CCLは入力事象での検出と活動のために下の事象使用部を持ちます。

表28-9. CCLでの事象使用部

使用部名		説明	入力検出	同期/非同期
周辺機能	入力			
CCL	LUTn	LUT入力xまたはクロック信号	検出なし	非同期

事象信号は同期化または入力検出の論理回路なしに直接LUTに渡されます。

各LUTに対して2つの事象使用部が利用可能です。それらはLUTnの制御Bと制御C(CCL.LUTnCTRLBまたはCCL.LUTnCTRLC)レジスタのINSELnビット群を書くことによってLUTn入力として選ぶことができます。

事象型とEVSYS構成設定に関するより多くの詳細については「EVSYS - 事象システム」章を参照してください。

28.3.4. 休止形態動作

制御A(CCL.CTRLA)レジスタのスタンバイ時走行(RUNSTDBY)ビットに'1'を書くことは選んだクロック元にスタンバイ休止動作で許可されることを許します。

RUNSTDBYビットが'0'の場合、周辺機能クロックはスタンバイ休止動作で禁止されます。濾波器、端検出器、または逐次制御器が許可される場合、スタンバイ休止動作でLUT出力は'0'を強制されます。アイドル休止動作では、RUNSTDBYビットと関係なく、真理値(TRUTH)表復号部は動作を続け、それによってLUT出力が更新されます。

LUTn制御A(CCL.LUTnCTRLA)レジスタのクロック元選択(CLKSRC)が'001'を書かれる場合、LUTn-TRUTHSEL2が常に濾波器、端検出器、逐次制御器をクロック駆動します。休止動作形態でのLUTn-TRUTHSEL2クロックの有効性は使う周辺機能の休止設定に依存します。

28.4. レジスタ要約

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00	CTRLA	7～0		RUNSTDBY						ENABLE
+$01	SEQCTRL0	7～0					SEQSEL03~0			
+$02	SEQCTRL1	7～0					SEQSEL13~0			
+$03 ～ +$04	予約									
+$05	INTCTRL0	7～0	INTMODE31,0		INTMODE21,0		INTMODE11,0		INTMODE01,0	
+$06	予約									
+$07	INTFLAGS	7～0					INT3	INT2	INT1	INT0
+$08	LUT0CTRLA	7～0	EDGEDET	OUTEN	FILTSEL1,0		CLKSRC2~0			ENABLE
+$09	LUT0CTRLB	7～0	INSEL13~0				INSEL03~0			
+$0A	LUT0CTRLC	7～0					INSEL23~0			
+$0B	TRUTH0	7～0	TRUTH07~0							
+$0C	LUT1CTRLA	7～0	EDGEDET	OUTEN	FILTSEL1,0		CLKSRC2~0			ENABLE
+$0D	LUT1CTRLB	7～0	INSEL13~0				INSEL03~0			
+$0E	LUT1CTRLC	7～0					INSEL23~0			
+$0F	TRUTH1	7～0	TRUTH17~0							
+$10	LUT2CTRLA	7～0	EDGEDET	OUTEN	FILTSEL1,0		CLKSRC2~0			ENABLE
+$11	LUT2CTRLB	7～0	INSEL13~0				INSEL03~0			
+$12	LUT2CTRLC	7～0					INSEL23~0			
+$13	TRUTH2	7～0	TRUTH27~0							
+$14	LUT3CTRLA	7～0	EDGEDET	OUTEN	FILTSEL1,0		CLKSRC2~0			ENABLE
+$15	LUT3CTRLB	7～0	INSEL13~0				INSEL03~0			
+$16	LUT3CTRLC	7～0					INSEL23~0			
+$17	TRUTH3	7～0	TRUTH37~0							

28.5. ﾚｼﾞｽﾀ説明

28.5.1. CTRLA – 制御A (Control A)

名称 : CTRLA
変位 : +$00
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
		RUNSTDBY						ENABLE
ｱｸｾｽ種別	R	R/W	R	R	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ6 – RUNSTDBY : ｽﾀﾝﾊﾞｲ時走行** (Run in Standby)

このﾋﾞｯﾄに'1'を書くことがこの周辺機能にｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作での走行を許可します。

値	0	1
説明	CCLはｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作で動きません。	CCLはｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作で動きます。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – ENABLE : 許可** (Enable)

値	0	1
説明	周辺機能禁止	周辺機能許可

28.5.2. SEQCTRLn – 逐次制御器制御n (Sequencer Control n)

名称 : SEQCTRL0 : SEQCTRL1
変位 : +$01 : +$02
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : 許可保護

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
					SEQSELn3~0			
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~4,3~0 – SEQSELn3~0 : 逐次制御器選択** (Sequencer Selection)

このﾋﾞｯﾄ群はLUT2nとLUT2n+1(SEQCTRL0がLUT0/1、SEQCTRL1がLUT2/3)に対する逐次制御器構成を選びます。

値	0 0 0	0 0 1	0 1 0	0 1 1	1 0 0	1 0 1	1 1 0	1 1 1
名称	DISABLE	DFF	JK	DLATCH	RS	–		
説明	逐次制御器禁止	Dﾌﾘｯﾌﾟﾌﾛｯﾌﾟ	JKﾌﾘｯﾌﾟﾌﾛｯﾌﾟ	Dﾗｯﾁ	RSﾗｯﾁ	(予約)		

28.5.3. INTCTRL0 – 割り込み制御0 (Interrupt Control 0)

名称 : INTCTRL0
変位 : +$05
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	INTMODE31,0		INTMODE21,0		INTMODE11,0		INTMODE01,0	
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7,6、5,4、3,2、1,0 – INTMODEn1,0 : 割り込み動作形態** (Interrupt Mode)

INTMODEnのﾋﾞｯﾄはLUTn-OUTに対する割り込み感知構成設定を選びます。次頁の表参照。

(訳注) 原書での28.5.2. SEQCTRL0と28.5.3. SEQCTRL1は28.5.2. SEQCTRLnとして纏めました。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	INTDISABLE	RISING	FALLING	BOTH
説明	割り込み禁止	上昇端感知	下降端感知	両端感知

28.5.4. INTFLAGS – 割り込み要求ﾌﾗｸﾞ (Interrupt Flags)

名称 : INTFLAGS
変位 : +$07
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
					INT3	INT2	INT1	INT0
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ3,2,1,0 – INTn : 割り込みn要求ﾌﾗｸﾞ** (Interrupt Flag)

INTnﾌﾗｸﾞはLUTnの出力が割り込み制御n(CCL.INTCTRL0)ﾚｼﾞｽﾀで定義されるような割り込み感知動作形態と一致する時に設定(1)されます。このﾌﾗｸﾞのﾋﾞｯﾄ位置への'1'書き込みがこのﾌﾗｸﾞを解除(0)します。

28.5.5. LUTnCTRLA – LUTn制御A (LUT n Control A)

名称 : LUT0CTRLA : LUT1CTRLA : LUT2CTRLA : LUT3CTRLA
変位 : +$08 : +$0C : +$10 : +$14
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : 許可保護

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	EDGEDET	OUTEN	FILTSEL1,0		CLKSRC2~0			ENABLE
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7 – EDGEDET : 端検出** (Edge Detection)

値	0	1
説明	端検出器禁止	端検出器許可

● **ﾋﾞｯﾄ6 – OUTEN : 出力許可** (Output Enable)

このﾋﾞｯﾄはLUTnOUTﾋﾟﾝへのLUT出力を許可します。'1'を書かれると、ﾎﾟｰﾄ制御器のﾋﾟﾝ構成設定が無効にされます。

値	0	1
説明	ﾋﾟﾝへの出力禁止	ﾋﾟﾝへの出力許可

● **ﾋﾞｯﾄ5,4 – FILTSEL1,0 : 濾波器選択** (Filter Selection)

これらのﾋﾞｯﾄはLUT出力濾波器任意選択を選びます。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	DISABLE	SYNCH	FILTER	–
説明	濾波器禁止	同期化器許可	濾波器許可	(予約)

● **ﾋﾞｯﾄ3~1 – CLKSRC2~0 : ｸﾛｯｸ元選択** (Clock Source Selection)

これらのﾋﾞｯﾄはLUT用のｸﾛｯｸ(CLK_LUTn)として使われる様々なｸﾛｯｸ元を選びます。
偶数LUTのCLK_LUTnはLUT対の逐次制御器をｸﾛｯｸ駆動するのに使われます。

値	0 0 0	0 0 1	1 0 0	1 0 1	1 1 0	その他
名称	CLKPER	IN2	OSC20M	OSCULP32K	OSCULP1K	–
説明 (LUT駆動ｸﾛｯｸ)	CLK_PER (周辺機能ｸﾛｯｸ)	LUTn-TRUTHSEL[2]	前置分周前の 16/20MHz 内部発振器	32.768kHz 内部発振器	1.024kHz (OSCULP32Kの DIV32後)	(予約)

● ﾋﾞｯﾄ0 – ENABLE : LUT許可 (LUT Enable)

値	0	1
説明	LUT禁止	LUT許可

28.5.6. LUTnCTRLB – LUTn制御B (LUT n Control B)

名称 : LUT0CTRLB : LUT1CTRLB : LUT2CTRLB : LUT3CTRLB
変位 : +$09 : +$0D : +$11 : +$15
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : 許可保護

注: ・CCLへのSPI接続は主装置SPI動作でだけ動きます。
・CCLへのUSART接続は以下の動作の1つの時にだけ動きます。
– 非同期USART
– 同期USART主装置

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	INSEL13~0				INSEL03~0			
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● ﾋﾞｯﾄ7~4 – INSEL13~0 : LUTn入力1供給元選択 (LUT n Input 1 Selection)

これらのﾋﾞｯﾄはLUTnの入力1(IN1)に対する供給元を選びます。

値	名称	説明	値	名称	説明
0000 ($0)	MASK	なし(入力遮蔽)	0111 ($7)	–	(予約)
0001 ($1)	FEEDBACK	LUTn出力(帰還入力)	1000 ($8)	USART1	USART1のTXD
0010 ($2)	LINK	LUTn+1出力(連結)	1001 ($9)	SPI0	SPI0のMOSI
0011 ($3)	EVENTA	事象入力元A	1010 ($A)	TCA0	TCA0のWO1
0100 ($4)	EVENTB	事象入力元B	1011 ($B)	–	(予約)
0101 ($5)	IO	LUTn-IN1	1100 ($C)	TCB1	TCB1のWO
0110 ($6)	AC0	AC0のOUT	その他	–	(予約)

● ﾋﾞｯﾄ3~0 – INSEL03~0 : LUTn入力0供給元選択 (LUT n Input 0 Selection)

これらのﾋﾞｯﾄはLUTnの入力0(IN0)に対する供給元を選びます。

値	名称	説明	値	名称	説明
0000 ($0)	MASK	なし(入力遮蔽)	0111 ($7)	–	(予約)
0001 ($1)	FEEDBACK	LUTn出力(帰還入力)	1000 ($8)	USART0	USART0のTXD
0010 ($2)	LINK	LUTn+1出力(連結)	1001 ($9)	SPI0	SPI0のMOSI
0011 ($3)	EVENTA	事象入力元A	1010 ($A)	TCA0	TCA0のWO0
0100 ($4)	EVENTB	事象入力元B	1011 ($B)	–	(予約)
0101 ($5)	IO	LUTn-IN0	1100 ($C)	TCB0	TCB0のWO
0110 ($6)	AC0	AC0のOUT	その他	–	(予約)

28.5.7. LUTnCTRLC – LUTn制御C (LUT n Control C)

名称 : LUT0CTRLC : LUT1CTRLC : LUT2CTRLC : LUT3CTRLC
変位 : +$0A : +$0E : +$12 : +$16
リセット : $00
特質 : 許可保護

注: ・CCLへのSPI接続は主装置SPI動作でだけ動きます。
・CCLへのUSART接続は以下の動作の1つの時にだけ動きます。
– 非同期USART
– 同期USART主装置

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
					INSEL23~0			
アクセス種別	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット3~0 – INSEL23~0 : LUTn入力2供給元選択** (LUT n Input 2 Selection)

これらのビットはLUTnの入力2(IN2)に対する供給元を選びます。

値	名称	説明	値	名称	説明
0000 ($0)	MASK	なし(入力遮蔽)	0110 ($6)	AC0	AC0のOUT
0001 ($1)	FEEDBACK	LUTn出力(帰還入力)	0111 ($7)	–	(予約)
0010 ($2)	LINK	LUTn+1出力(連結)	1000 ($8)	–	(予約)
0011 ($3)	EVENTA	事象入力元A	1001 ($9)	SPI0	SPI0のSCK
0100 ($4)	EVENTB	事象入力元B	1010 ($A)	TCA0	TCA0のWO2
0101 ($5)	IO	LUTn-IN2	その他	–	(予約)

28.5.8. TRUTHn – 真理値表n (TRUTHn)

名称 : TRUTH0 : TRUTH1 : TRUTH2 : TRUTH3
変位 : +$0B : +$0F : +$13 : +$17
リセット : $00
特質 : 許可保護

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
	TRUTHn7~0							
アクセス種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット7~0 – TRUTHn7~0 : 真理値表** (Truth n Table)

これらのビットはLUTn-TRUTHSEL2~0入力に従ってLUTnの出力を決めます。

ビット名	TRUTHn7		TRUTHn6		TRUTHn5		TRUTHn4		TRUTHn3		TRUTHn2		TRUTHn1		TRUTHn0	
値	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1
説明 (注)	1 1 1		1 1 0		1 0 1		1 0 0		0 1 1		0 1 0		0 0 1		0 0 0	

注: 入力が説明行の値の時にLUTnの出力が設定した値(値行の値(0または1))になります。

29. AC – ｱﾅﾛｸﾞ比較器

29.1. 特徴

- 選択可能な応答時間
- 選択可能なﾋｽﾃﾘｼｽ
- ﾋﾟﾝで利用可能なｱﾅﾛｸﾞ比較器出力
- 比較器出力反転利用可能
- 柔軟な入力選択
  - 最大4つの正入力ﾋﾟﾝ
  - 最大3つの負入力ﾋﾟﾝ
  - 内部基準電圧生成部(DACREF)
- 以下での割り込み生成
  - 上昇端
  - 下降端
  - 両端
- 事象生成
  - 比較器出力

29.2. 概要

ｱﾅﾛｸﾞ比較器(AC)は2つの入力の電圧水準を比較してその比較に基いたﾃﾞｼﾞﾀﾙ出力を与えます。ACは様々な異なる入力変化の組み合わせで割り込み要求や事象を生成するように構成設定することができます。

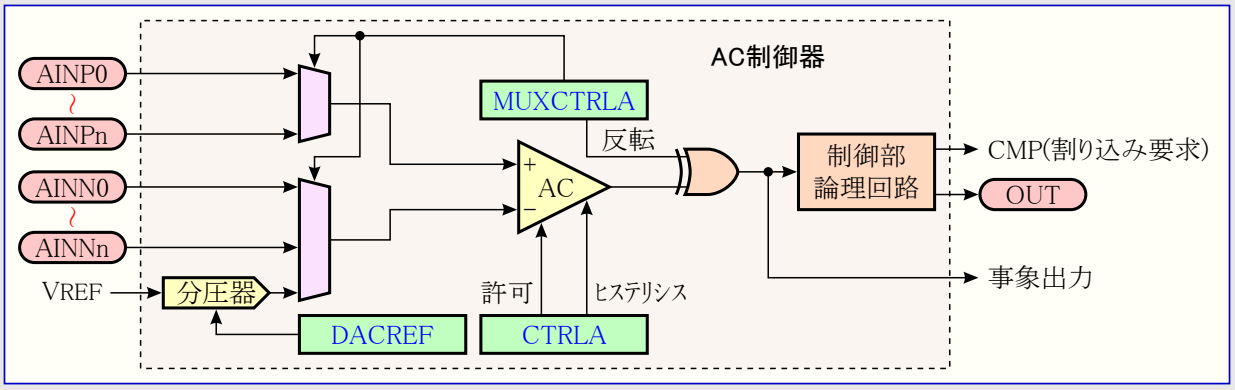
ACの動的な動きはﾋｽﾃﾘｼｽ機能によって調節することができます。ﾋｽﾃﾘｼｽは各応用に対する動作を最適化するために独自設定することができます。

入力選択はｱﾅﾛｸﾞ ﾎﾟｰﾄ ﾋﾟﾝと内部的に生成された入力を含みます。ｱﾅﾛｸﾞ比較器出力の状態は外部ﾃﾞﾊﾞｲｽによって使うためにﾋﾟﾝ上に出力することもできます。

ACは1つの正入力と1つの負入力を持ちます。比較器からのﾃﾞｼﾞﾀﾙ出力は正と負の入力電圧間の差が正の時に'1'で、さもなければ'0'です。

29.2.1. 構成図

図29-1. ｱﾅﾛｸﾞ比較器



29.2.2. 信号説明

信号	形式	説明
AINNn	ｱﾅﾛｸﾞ入力	負入力n
AINPn	ｱﾅﾛｸﾞ入力	正入力n
OUT	ﾃﾞｼﾞﾀﾙ出力	ACの比較器出力

29.3. 機能的な説明

29.3.1. 初期化

基本的な操作については以下のこれらの手順に従ってください。

- PORT周辺機能で望む入力ﾋﾟﾝを構成設定してください。
- 多重器制御A(ACn.MUXCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀで正と負の入力多重器選択(MUXPOSとMUXNEG)のﾋﾞｯﾄ領域を書くことによって正と負の入力元を選んでください。
- 任意選択：制御A(ACn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの出力ﾊﾟｯﾄﾞ許可(OUTEN)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって出力を許可してください。
- ACn.CTRLAﾚｼﾞｽﾀのAC許可(ENABLE)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによってACを許可してください。

AC許可後のAC始動時間の間、ACの出力は無効かもしれません。

ACそれ自体の始動時間は最大でも2.5µsです。内部参照基準が使われる場合、参照基準始動時間は通常AC始動時間よりも長くなります。

ACが禁止される時にﾋﾟﾝがHi-Zにされつつあるのを避けるため、OUTﾋﾟﾝはﾎﾟｰﾄのﾃﾞｰﾀ方向(PORTx.DIR)ﾚｼﾞｽﾀで出力として構成設定されなければなりません。

29.3.2. 動作

29.3.2.1. 入力ﾋｽﾃﾘｼｽ

入力ﾋｽﾃﾘｼｽの印加は雑音に悩んでいる入力信号がお互いに近い時に出力の定常的な切り替わりを防ぐのを助けます。

入力ﾋｽﾃﾘｼｽは禁止されるか、または3つのﾚﾍﾞﾙの1つを持つかのどれかにすることができます。ﾋｽﾃﾘｼｽは制御A(ACn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのﾋｽﾃﾘｼｽ動作選択(HYSMODE)ﾋﾞｯﾄ領域に書くことによって構成設定することができます。

29.3.2.2. 入力元

ACは1つの正と1つの負の入力を持ちます。入力はﾋﾟﾝと、基準電圧のような内部供給元にすることができます。

各入力は多重器制御A(ACn.MUXCTRLA)ﾚｼﾞｽﾀで正と負の入力多重器選択(MUXPOSとMUXNEG)のﾋﾞｯﾄ領域を書くことによって選ばれます。

29.3.2.2.1. ﾋﾟﾝ入力

ﾎﾟｰﾄ上の以下のｱﾅﾛｸﾞ入力ﾋﾟﾝをｱﾅﾛｸﾞ比較器への入力として選ぶことができます。

- AINN0
- AINN1
- AINN2
- AINP0
- AINP1
- AINP2
- AINP3

29.3.2.2.2. 内部入力

ACは以下の内部入力を持ちます。

- 内部基準電圧生成部(DACREF)

29.3.2.3. 電力動作

電力を気にする応用に対して、ACはより低い消費電力と増された伝搬遅延を持つ低電力動作を提供します。低電力動作は制御A(ACn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの低電力動作(LPMODE)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって選ばれます。

29.3.2.4. 信号比較と割り込み

ACの初期化成功後で望む特性の構成設定後、比較の結果は継続的に更新され、応用ｿﾌﾄｳｪｱ、事象ｼｽﾃﾑ、またはﾋﾟﾝに対して利用可能です。

ACは比較器割り込み(CMP)を生成することができ、交互に切り替わる比較器出力の上昇、下降、両端のどれかでこの割り込みを要求することができます。これは制御A(ACn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの割り込み動作(INTMODE)ﾋﾞｯﾄ領域に書くことによって構成設定されます。

割り込みは割り込み制御(ACn.INTCTRL)ﾚｼﾞｽﾀのｱﾅﾛｸﾞ比較器割り込み許可(CMP)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって許可されます。

29.3.3. 事象

ACは下表で記述される事象を生成することができます。

表29-1. ACでの事象生成部

生成部名		説明	事象型	生成ｸﾛｯｸ領域	事象長
周辺機能	事象				
ACn	OUT	比較器出力ﾚﾍﾞﾙ	ﾚﾍﾞﾙ	非同期	AC出力ﾚﾍﾞﾙで与えられる

ACは事象入力を持ちません。

29.3.4. 割り込み

表29-2. 利用可能な割り込みﾍﾞｸﾀと供給元

名称	ﾍﾞｸﾀ説明	条件
COMP	ｱﾅﾛｸﾞ比較器割り込み	AC出力は割り込み制御(ACn.INTCTRL)ﾚｼﾞｽﾀの割り込み動作(INTMODE)によって構成設定されるように切り替わります。

割り込み条件が起こると、状態(ACn.STATUS)ﾚｼﾞｽﾀで対応する割り込み要求ﾌﾗｸﾞが設定(1)されます。

割り込み元は周辺機能の割り込み制御(ACn.INTCTRL)ﾚｼﾞｽﾀで対応する許可ﾋﾞｯﾄを書くことによって許可または禁止にされます。

割り込み要求は対応する割り込み元が許可され、割り込み要求ﾌﾗｸﾞが設定(1)される時に生成されます。割り込み要求は割り込み要求ﾌﾗｸﾞが解除(0)されるまで活性に留まります。割り込み要求ﾌﾗｸﾞを解除する方法の詳細についてはACn.STATUSﾚｼﾞｽﾀをご覧ください。

29.3.5. 休止形態動作

ｱｲﾄﾞﾙ休止動作でACは通常として動作を続けます。

ｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作では、既定によってACが禁止されます。制御A(ACn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作時走行(RUNSTDBY)ﾋﾞｯﾄが'1'を書かれる場合、例えｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作でCLK_PERが走行しなくても、ACは事象、割り込み、それとﾊﾟｯﾄﾞでのAC出力で通常ように動作を続けます。

ﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝ休止動作では、ACとﾊﾟｯﾄﾞへの出力が禁止されます。

29.4. レジスタ要約

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00	CTRLA	7～0	RUNSTDBY	OUTEN	INTMODE1,0		LPMODE	HYSMODE1,0		ENABLE
+$01	予約									
+$02	MUXCTRLA	7～0	INVERT			MUXPOS1,0			MUXNEG1,0	
+$03	予約									
+$04	DACREF	7～0	DACREF7~0							
+$05	予約									
+$06	INTCTRL	7～0								CMP
+$07	STATUS	7～0				STATE				CMP

29.5. ﾚｼﾞｽﾀ説明

29.5.1. CTRLA – 制御A (Control A)

名称 : CTRLA
変位 : +$00
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	RUNSTDBY	OUTEN	INTMODE1,0		LPMODE	HYSMODE1,0		ENABLE
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7 – RUNSTDBY : ｽﾀﾝﾊﾞｲ動作時走行** (Run in Standby Mode)

このﾋﾞｯﾄに'1'を書くことはｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作でACに動作を続けることを許します。ｸﾛｯｸが停止されるため、割り込みと状態のﾌﾗｸﾞは更新されません。

値	0	1
説明	ｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作でACは停止されます。	ｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作でACは動作を続けます。

● **ﾋﾞｯﾄ6 – OUTEN : ｱﾅﾛｸﾞ比較器出力ﾊﾟｯﾄﾞ許可** (Analog Comparator Output Pad Enable)

このﾋﾞｯﾄに'1'を書くことはOUT信号をﾋﾟﾝで利用可能にします。

● **ﾋﾞｯﾄ5,4 – INTMODE1,0 : 割り込み動作** (Interrupt Modes)

これらのﾋﾞｯﾄへの書き込みはAC出力のどの端が割り込み要求を起動するかを選びます。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	BOTHEDGE	–	NEGEDGE	POSEDGE
説明	正負両端	(予約)	負端	正端

● **ﾋﾞｯﾄ3 – LPMODE : 低電力動作** (Low Power Mode)

このﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みは比較器を通る電流を減らします。これは消費電力を減らしますが、ACの応答時間を増します。

値	0	1
説明	低電力動作禁止	低電力動作許可

● **ﾋﾞｯﾄ2,1 – HYSMODE1,0 : ﾋｽﾃﾘｼｽ動作選択** (Hysteresys Mode Select)

これらのﾋﾞｯﾄを書くことはAC入力に対するﾋｽﾃﾘｼｽを選びます。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	NONE	SMALL	MEDIUM	LARGE
説明	ﾋｽﾃﾘｼｽなし	ﾋｽﾃﾘｼｽ小	ﾋｽﾃﾘｼｽ中	ﾋｽﾃﾘｼｽ大

● **ﾋﾞｯﾄ0 – ENABLE : AC許可** (Enable AC)

このﾋﾞｯﾄに'1'を書くことがACを許可します。

29.5.2. MUXCTRLA – 多重器制御A (Mux Control)

名称 : MUXCTRLA
変位 : +$02
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	INVERT			MUXPOS1,0			MUXNEG1,0	
ｱｸｾｽ種別	R/W	R	R	R/W	R/W	R	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7 – INVERT : AC出力反転** (Invert AC Output)

このﾋﾞｯﾄに'1'を書くことはACの出力の反転を許可します。この反転は他の周辺機能やｼｽﾃﾑの部分への入力信号としてAC出力を使う時に考慮されなければなりません。

● **ﾋﾞｯﾄ4,3 – MUXPOS1,0 : 正入力多重器選択** (Positive Input Mux Selection)

このﾋﾞｯﾄ領域を書くことはACの正入力への入力信号を選びます。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	AINP0	AINP1	AINP2	AINP3
説明	正入力ﾋﾟﾝ0	正入力ﾋﾟﾝ1	正入力ﾋﾟﾝ2	正入力ﾋﾟﾝ3

● **ﾋﾞｯﾄ1,0 – MUXNEG1,0 : 負入力多重器選択** (Negative Input Mux Selection)

このﾋﾞｯﾄ領域を書くことはACの負入力への入力信号を選びます。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	AINN0	AINN1	AINN2	DACREF
説明	負入力ﾋﾟﾝ0	負入力ﾋﾟﾝ1	負入力ﾋﾟﾝ2	内部基準電圧

29.5.3. DACREF – DAC基準電圧 (DAC Voltage Reference)

名称 : DACREF
変位 : +$04
ﾘｾｯﾄ : $FF
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	DACREF7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	1	1	1	1	1	1	1	1

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – DACREF7~0 : DACREFﾃﾞｰﾀ値** (DACREF Data Value)

これらのﾋﾞｯﾄは内部分圧器からの出力電圧を定義します。DAC基準電圧はDACREF値とVREF単位部で選ばれた参照基準電圧に依存し、次のように計算されます。

$$V_{DACREF} = \frac{DACREF}{256} \times V_{REF}$$

28.5.4. INTCTRL – 割り込み制御 (Interrupt Control)

名称 : INTCTRL
変位 : +$06
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
								CMP
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ0 – CMP : ｱﾅﾛｸﾞ比較器割り込み許可** (Analog Comparator Interrupt Enable)

このﾋﾞｯﾄに'1'を書くことがｱﾅﾛｸﾞ比較器割り込みを許可します。

29.5.5. STATUS – 状態 (Status)

名称 : STATUS
変位 : +$07
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
				STATE				CMP
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ4 – STATE : ｱﾅﾛｸﾞ比較器状態** (Analog Comparator State)

これはACからのOUT信号の現在の状態を示します。これはI/Oﾚｼﾞｽﾀで更新されるのに(3周期の)同期化遅延を持ちます。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – CMP : ｱﾅﾛｸﾞ比較器割り込み要求ﾌﾗｸﾞ** (Analog Comparator Interrupt Flag)

これはACに対する割り込み要求ﾌﾗｸﾞです。このﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みはこの割り込み要求ﾌﾗｸﾞを解除(0)します。

30. ADC – A/D変換器

30.1. 特徴

- 12ﾋﾞｯﾄ分解能
  - 過採取で最大17ﾋﾞｯﾄ
- 12ﾋﾞｯﾄ分解能で最大375kspsの変換速度
- 15個までの入力
- 差動とｼﾝｸﾞﾙ ｴﾝﾄﾞの変換
- 1倍～16倍の設定可能な利得増幅器(PGA:Programmable Gain Amplifier)
- -1100mV～VDD+100mVの入力電圧範囲
- 複数の内部ADC参照基準電圧
  - VDD
  - 1.024V
  - 2.048V
  - 2.500V
  - 4.096V
- 外部参照基準入力
- 単独と自由走行の変換
- 継続と集中の累積動作
- 1024変換までの累積
- 左または右に揃えられた結果
- 変換完了での割り込み
- 任意選択の事象起動変換
- 構成設定可能な窓比較器

30.2. 概要

A/D変換器(ADC)は12ﾋﾞｯﾄ分解能で最大375kspsの変換速度で設定可能な利得増幅器(PGA)を持つ12ﾋﾞｯﾄの差動とｼﾝｸﾞﾙ ｴﾝﾄﾞのADCです。ADCは多数のｼﾝｸﾞﾙ ｴﾝﾄﾞと差動の入力間の選択用ｱﾅﾛｸﾞ入力多重器に接続されます。ｼﾝｸﾞﾙ ｴﾝﾄﾞ変換ではADCが選んだ入力と0V(GND)間の電圧を測定します。差動変換ではADCが選んだ2つの入力間の電圧を測定します。ADC入力は内部(例えば、基準電圧)または外部ｱﾅﾛｸﾞ入力ﾋﾟﾝのどれかにすることができます。

ADC変換はｿﾌﾄｳｪｱによって、または他の周辺機能から事象を配線するのに事象ｼｽﾃﾑ(EVSYS)を使うことによって開始することができます。これは入力信号の周期的な採取、特別な条件でのADC変換の起動、ｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作でのADC変換の起動も可能にします。ﾃﾞｼﾞﾀﾙ窓比較機能は入力信号を監視するのに利用可能で、必要とされる最小のｿﾌﾄｳｪｱ介在で、採取が使用者定義された閾値未満または越え、または使用者定義された窓の内側または外側の場合にだけ割り込みを起動するように構成設定することができます。

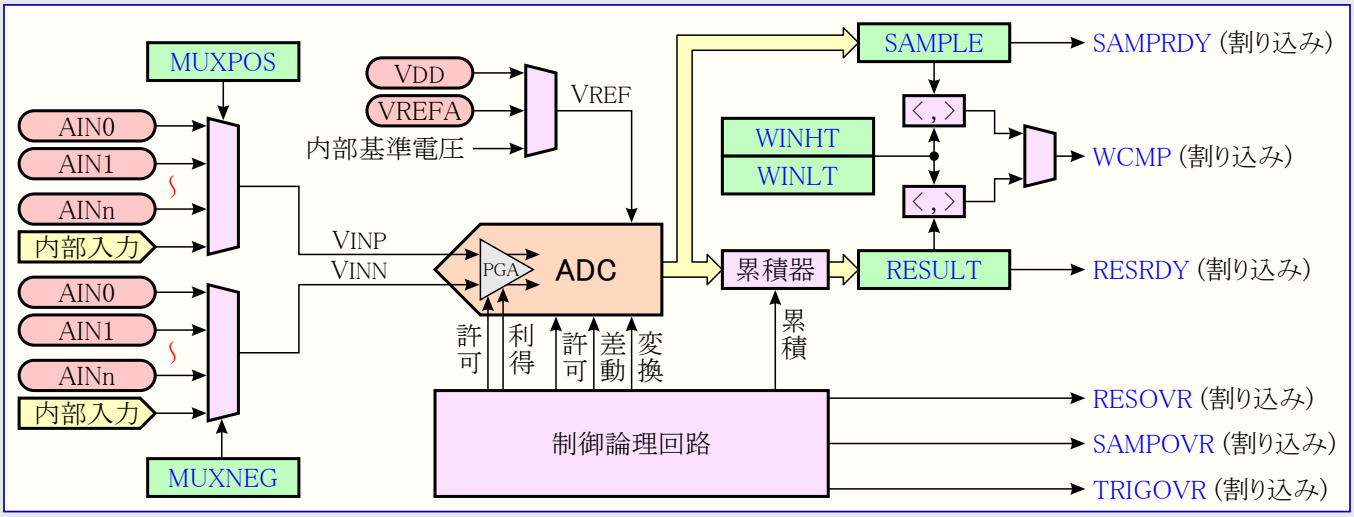
ADC入力信号は変換中にADCへの入力電圧が一定水準で保たれることを保証する採取/保持(S/H)回路を通して供給されます。

ADCは構成設定可能な変換結果数が単一ADC結果内に累積される集中での採取(採取累積)を支援します。

ADC電圧参照基準は内部または外部ｱﾅﾛｸﾞ参照基準(VREFA)ﾋﾟﾝからの供給のどちらにすることができます。

30.2.1. 構成図

図30-1. 構成図



30.2.2. 信号説明

信号	形式	説明
AINn～0	ｱﾅﾛｸﾞ入力	ｱﾅﾛｸﾞ入力ﾋﾟﾝ
VREFA	ｱﾅﾛｸﾞ入力	外部参照基準電圧ﾋﾟﾝ

30.3. 機能的な説明

30.3.1. 定義

- 変換: 選んだADC入力上のｱﾅﾛｸﾞ値がﾃﾞｼﾞﾀﾙ表現に変換される動作
- 採取(試料): 採取(ADCn.SAMPLE)ﾚｼﾞｽﾀに置かれた値、即ち、変換動作の結果 (**訳補**:一部で採取/保持(S/H)部の採取部分)
- 結果: 結果(ADCn.RES)ﾚｼﾞｽﾀに置かれた値。ADC構成設定に応じてこの値は単一採取または複数累積した採取の合計です。

30.3.2. 基本操作

基本動作でADC初期化して動かすには以下の手順が推奨されます。

1. 制御A(ADCn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのADC許可(ENABLE)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによってADCを許可してください。
2. 制御B(ADCn.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの前置分周器(PRESC)ﾋﾞｯﾄ領域を構成設定してください。
3. 制御C(ADCn.CTRLC)ﾚｼﾞｽﾀの時間基準(TIMEBASE)と参照基準選択(REFSEL)のﾋﾞｯﾄ領域を構成設定してください。
4. 制御E(ADCn.CTRLE)ﾚｼﾞｽﾀの採取持続時間(SAMPDUR)ﾋﾞｯﾄ領域を構成設定してください。
5. 任意選択: 制御F(ADCn.CTRLF)ﾚｼﾞｽﾀの採取累積数選択(SAMPNUM)ﾋﾞｯﾄ領域を書くことによって累積される採取数を構成設定してください。
6. 任意選択: 制御Fﾚｼﾞｽﾀの自由走行(FREERUN)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって自由走行動作を許可してください。
7. 正入力多重器(ADCn.MUXPOS)ﾚｼﾞｽﾀの正入力多重器(MUXPOS)ﾋﾞｯﾄ領域に書くことによって正入力を構成設定してください。
8. 任意選択: 負入力多重器(ADCn.MUXNEG)ﾚｼﾞｽﾀの負入力多重器(MUXNEG)ﾋﾞｯﾄ領域に書くことによって負入力を構成設定してください。
9. 任意選択: 指令(ADCn.COMMAND)ﾚｼﾞｽﾀの差動(DIFF)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって差動ADC変換を選んでください。
10. 指令ﾚｼﾞｽﾀの動作形態(MODE)ﾋﾞｯﾄ領域に書くことによってADCに対する動作形態を構成設定してください。
11. 指令ﾚｼﾞｽﾀの変換開始(START)ﾋﾞｯﾄ領域を書くことによってADC変換がどう始まるかを構成設定してください。IMMEDIATE指令が書かれた場合、直ちに変換が開始します。
12. 更新された結果(RESULT)ﾚｼﾞｽﾀを読む前に、割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(ADCn.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀの結果準備可(RESRDY)ﾋﾞｯﾄが'1'になるまで待ってください。

30.3.3. 動作

30.3.3.1. 動作形態

ADCは6つの異なる動作形態を支援すると共に各動作に対して差動とｼﾝｸﾞﾙ ｴﾝﾄﾞの変換が可能です。これは指令(ADCn.COMMAND)ﾚｼﾞｽﾀで構成設定されます。

動作形態は次のように3つの群に分けることができます。

- 単独動作 – 8または12ﾋﾞｯﾄ変換出力で起動毎に単一変換
- 継続累積動作 – n採取の累積で起動毎に1変換
- 集中累積動作 – 単一起動後に可能な限り速く累積したn採取での集中

継続と集中の動作は12ﾋﾞｯﾄ変換を利用し、累積結果の尺度調整有りまたはなしで構成設定することができます。累積する採取数は制御F(ADCn.CTRLF)ﾚｼﾞｽﾀの採取累積数選択(SAMPNUM)ﾋﾞｯﾄ領域によって制御されます。累積器は常に新しい継続または集中の累積が開始される時に0へﾘｾｯﾄされます。

下表は利用可能な動作形態の概要を示します。

表30-1. 動作形態

動作形態	指令 – MODE	起動毎の変換数	累積形式	結果更新
単独8ﾋﾞｯﾄ	0 (0 0 0)	1	利用不可	変換毎
単独12ﾋﾞｯﾄ	1 (0 0 1)			
継続累積	2 (0 1 0)		全体	SAMPNUM数変換後
尺度調整付き継続累積	3 (0 1 1)		尺度調整	
集中累積	4 (1 0 0)	SAMPNUM	全体	
尺度調整付き集中累積	5 (1 0 1)		尺度調整	

30.3.3.2. 変換起動

変換は指令(ADCn.COMMAND)ﾚｼﾞｽﾀの変換開始(START)ﾋﾞｯﾄ領域の構成設定に応じて以下の起動の1つによって開始されます。

- 指令ﾚｼﾞｽﾀのSTARTﾋﾞｯﾄ領域へのIMMEDIATE値書き込み
- 事象入力受け取り
- 入力多重器(正入力多重器(ADCn.MUXPOS)または負入力多重器(ADCn.MUXNEG))ﾚｼﾞｽﾀの1つへの書き込み

最初の変換を開始する前に制御F(ADCn.CTRLF)ﾚｼﾞｽﾀの自由走行(FREERUN)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって単独変換や集中累積を継続的に繰り返すことができます。このﾋﾞｯﾄは継続累積に対して無効です。

進行中の変換は指令ﾚｼﾞｽﾀのSTARTﾋﾞｯﾄ領域にSTOP値を書くことによって中断され、新しい変換を直ちに開始することができます。進行中の変換が終わる前に新しい変換を起動すると、割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(ADCn.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀの起動超過割り込み要求(TRIG OVR)ﾌﾗｸﾞが設定(1)され、その起動は無視されます。

割り込み要求ﾌﾗｸﾞ ﾚｼﾞｽﾀの結果準備可(RESRDY)と採取(試料)準備可(SAMPRDY)の割り込み要求ﾌﾗｸﾞは変換または累積が終了したかを示します。これらのﾌﾗｸﾞは割り込み制御(ADCn.INTCTRL)ﾚｼﾞｽﾀで許可されていれば対応する割り込みも起動します。

30.3.3.3. 出力形式

ADC変換からの出力は次式によって与えられます。

$$\text{ｼﾝｸﾞﾙ ｴﾝﾄﾞ12ﾋﾞｯﾄ変換} = \frac{\text{VINP}}{\text{VREF}} \times 4096 \in [0,4095]$$

$$\text{ｼﾝｸﾞﾙ ｴﾝﾄﾞ8ﾋﾞｯﾄ変換} = \frac{\text{VINP}}{\text{VREF}} \times 256 \in [0,255]$$

$$\text{差動12ﾋﾞｯﾄ変換} = \frac{(\text{VINP}-\text{VINN}) \times \text{利得}}{\text{VREF}} \times 2048 \in [-2048,2047]$$

$$\text{差動8ﾋﾞｯﾄ変換} = \frac{(\text{VINP}-\text{VINN}) \times \text{利得}}{\text{VREF}} \times 128 \in [-128,127]$$

ここでのVINPとVINNはADCへの正と負の入力で、VREFは選んだ電圧参照基準です。利得はPGAで構成設定されるように1倍から64倍の間で、PGAが使われない場合は1倍です。

ADCは採取(ADCn.SAMPLE)と結果(ADCn.RESULT)の2つのﾚｼﾞｽﾀを持ちます。16ﾋﾞｯﾄ採取ﾚｼﾞｽﾀは常に最新のADC変換出力(1採取)で更新されます。全ての累積動作は制御F(ADCn.CTRLF)ﾚｼﾞｽﾀの採取累積数選択(SAMPNUM)ﾋﾞｯﾄ領域によって構成設定される内部採取累積器で採取を累積します。採取累積器は支援される累積構成設定に対して溢れを避けるのに充分な幅で、累積された結果は集中動作または継続動作の累積の最後で自動的に32ﾋﾞｯﾄ結果ﾚｼﾞｽﾀに転送されます。単独変換動作では、結果ﾚｼﾞｽﾀが最新の採取で更新され、採取ﾚｼﾞｽﾀと同じです。

尺度調整を持つ動作形態は16採取を超える採取が累積される場合に累積された結果を16ﾋﾞｯﾄ分解能に制限するように選ぶことができます。尺度調整は集中動作と継続動作で最後の採取を累積した後、常に適用され、累積された結果をSAMPNUM-4ﾋﾞｯﾄ右移動することによって実行されます。

制御Fﾚｼﾞｽﾀの左揃え(LEFTADJ)ﾋﾞｯﾄはこれが支援される動作に於いて出力ﾃﾞｰﾀの左移動を許可します。許可される場合、これは結果と採取の両ﾚｼﾞｽﾀの出力を左移動します。

ｼﾝｸﾞﾙ ｴﾝﾄﾞ動作での採取に対するﾃﾞｰﾀ形式は$0000が0を表し、$0FFFが最大数(全尺)を表す符号なし数です。ｱﾅﾛｸﾞ入力がADCの参照基準よりも高い場合、12ﾋﾞｯﾄADC出力は$0FFFの最大値に等しくなります。同様に、入力が0V未満の場合、ADC出力は$0000です。差動動作について、ﾃﾞｰﾀ形式は符号拡張を持つ2の補数です。

以降の表は動作形態と左揃えによるｼﾝｸﾞﾙ ｴﾝﾄﾞと差動の変換に対する結果ﾚｼﾞｽﾀ出力形式を示します。

表30-2. RESULTﾚｼﾞｽﾀ – ｼﾝｸﾞﾙ ｴﾝﾄﾞ動作

MODE	LEFTADJ	RESULT31～24	RESULT23～16	RESULT15～12	RESULT11～8	RESULT7～0
0 0 0	x (注1)	$00				変換7～0
0 0 1	0	$00			変換11～0	
	1	$00		変換11～0 << 4		
0 1 0, 1 0 0	x (注1)	$00	累積23～0			
0 1 1, 1 0 1	0	$00		尺度調整した累積15～0		
	1	$00		尺度調整した累積15～0 (注2)		

注1: 左揃えは8ﾋﾞｯﾄ動作や尺度調整なし累積動作で利用できません。

注2: SAMPNUM<4の場合、ﾋﾞｯﾄ15が最上位ﾋﾞｯﾄになるように結果が4-SAMPNUMﾋﾞｯﾄ左移動されます。

表30-3. RESULTﾚｼﾞｽﾀ – 差動動作

MODE	LEFTADJ	RESULT31～24	RESULT23～16	RESULT15～12	RESULT11～8	RESULT7～0
0 0 0	x（注1）	符号拡張				符号付き変換7～0
0 0 1	0	符号拡張			符号付き変換11～0	
	1	符号拡張		符号付き変換11～0 << 4		
0 1 0, 1 0 0	x（注1）	符号拡張	符号付き累積23～0			
0 1 1, 1 0 1	0	符号拡張		尺度調整した符号付き累積15～0		
	1	符号拡張		尺度調整した符号付き累積15～0（注2）		

注1: 左揃えは8ﾋﾞｯﾄ動作や尺度調整なし累積動作で利用できません。

注2: SAMPNUM<4の場合、ﾋﾞｯﾄ15が最上位ﾋﾞｯﾄになるように結果が4-SAMPNUMﾋﾞｯﾄ左移動されます。

下表は動作形態、左揃え、差動またはｼﾝｸﾞﾙ ｴﾝﾄﾞの変換による採取ﾚｼﾞｽﾀ出力形式を示します。

表30-4. SAMPLEﾚｼﾞｽﾀ

MODE	LEFTADJ	DIFF	SAMPLE15～12	SAMPLE11～8	SAMPLE7～0
0 0 0	x	0	$00		変換7～0
		1	符号拡張		符号付き変換7～0
その他	0	0	$00	変換11～0	
		1	符号拡張	符号付き変換11～0	
	1	0	変換11～0 << 4		
		1	符号付き変換11～0 << 4		

30.3.3.4. ADCｸﾛｯｸ

ADCｸﾛｯｸ(CLK_ADC)は周辺機能ｸﾛｯｸ(CLK_PER)から下げられます。これは制御B(ADCn.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの前置分周器(PRESC)ﾋﾞｯﾄ領域によって構成設定することができます。PGA制御(ADCn.PGACTRL)ﾚｼﾞｽﾀのPGAﾊﾞｲｱｽ選択(PGABIASSEL)ﾋﾞｯﾄ領域はADCｸﾛｯｸ周波数に応じてPGA消費電力を減らすように構成設定することができます。

ADCとPGAの内部ﾀｲﾐﾝｸﾞのいくつかはCLK_ADCと無関係です。ADCｸﾛｯｸ周波数に関わらずに正しい内部ﾀｲﾐﾝｸﾞを保証するため、制御C(ADCn.CTRLC)ﾚｼﾞｽﾀの時間基準(TIMEBASE)ﾋﾞｯﾄ領域に(CLK_PER周期で与えられる)1µs時間基準が書かれなければなりません。

時間基準は最も近い整数値に丸められなければなりません。以下のｺｰﾄﾞ断片はceil関数を使ってこれがどう行われ得るかを示します。

```
#include <math.h>
#define CLK_PER 3333333ul                    // 20MHz/6=3.333333MHz
#define TIMEBASE_VALUE ((uint8_t) ceil(CLK_PER*0.000001))
```

30.3.3.5. 入力と参照基準の選択

ADCへの入力選択は正と負の入力多重器(ADCn.MUXPOSとADCn.MUXNEG)のﾚｼﾞｽﾀによって制御されます。ADCがｼﾝｸﾞﾙ ｴﾝﾄﾞ変換を走行している場合、MUXPOSだけが使われる一方で、差動変換では両方が使われます。

ADC用の参照基準電圧(VREF)はADCの変換範囲を制御します。VREFは制御C(ADCn.CTRLC)ﾚｼﾞｽﾀの参照基準選択(REFSEL)ﾋﾞｯﾄ領域に書くことによって選ぶことができます。VDDを除き、内部参照基準電圧は内部ﾊﾞﾝﾄﾞｷﾞｬｯﾌﾟ参照基準から生成されます。VDDは選んだﾊﾞﾝﾄﾞｷﾞｬｯﾌﾟ参照基準電圧よりも最低0.5V高くなければなりません。

入力と参照基準の選択は緩衝されません。変換進行中のそれらのどの変更も出力を不正にします。自由走行動作使用時の安全な入力または参照基準の変更のため、何れかの変更を行うのに先立って、自由走行動作を禁止して変換完了を待ってください。次の変換を始める前に再び自由走行動作を許可してください。

入力または参照基準の切り替え後、ADCは安定のための時間を必要とします。更なる詳細については「電気的特性」章を参照してください。

30.3.3.5.1. 設定可能な利得増幅器

設定可能な利得増幅器(PGA:Programmable Gain Amplifier)はADCへの入力信号を増幅するのに使うことができます。利用可能な範囲は1～16倍利得です。PGAは全ての動作形態で使うことができます。

既定構成設定ではPGAが禁止され、入力信号は変換段で直接、即ち、内部増幅器なしで採取されます。入力信号特性に応じて、信号を増幅するように内部PGA段を構成設定するのが望ましい場合があります。

内部PGAは特に外部増幅器との比較に於いて次のようないくつかの望まれる特性を持ちます。

- 少ない部品
- 必要とされる少ないﾋﾟﾝ数
- 入力多重化と共にﾌｧｰﾑｳｪｱ選択可能な利得が柔軟で機能豊富な応用を許可
- 応用がPGAをON/OFFする動作を必要とする時に非反転増幅が符号/論理構造を維持

変換段への直接入力に代わるPGA使用は考慮すべき次の影響を持ちます。

- 入力信号は増幅され、追加の増幅段(入力雑音、変位、利得誤差)の当然の有害反応と飽和の可能性があります。
- ADCがPGA採取を必要とするため、最大変換速度がより低くなります。
- 消費電力が僅かに増されます。
- 採取動作形態に応じて、変換の相対的なﾀｲﾐﾝｸﾞが変えられます。

PGAはPGA制御(ADCn.PGACTRL)ﾚｼﾞｽﾀでPGA許可(PGAEN)ﾋﾞｯﾄに'1'を書いて利得(GAIN)ﾋﾞｯﾄ領域を構成設定することによって許可されます。

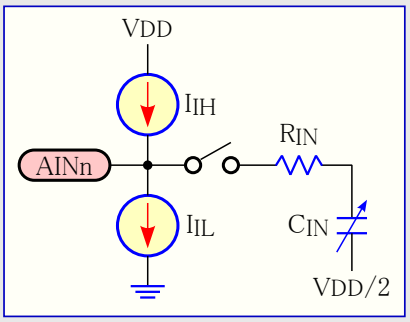
正と負の入力多重器(ADCn.MUXPOSとADCn.MUXNEG)のﾚｼﾞｽﾀの経由(VIA)ﾋﾞｯﾄ領域は入力信号がPGA経由で接続されるかどうかを決めます。VIAﾋﾞｯﾄは共有され、故にMUXPOSとMUXNEGのVIAﾋﾞｯﾄ領域に書かれた値は両ﾚｼﾞｽﾀで更新されます。従って、1つの入力にPGAを使って他方にPGAを使わないことはできません。

30.3.3.5.2. ｱﾅﾛｸﾞ入力回路

ｱﾅﾛｸﾞ入力回路が右図で図解されます。ｱﾅﾛｸﾞ入力(AINn)に接続されたｱﾅﾛｸﾞ源はﾋﾟﾝ容量と(I_HとI_Lで表現される)そのﾋﾟﾝ入力漏れに依存します。入力が選ばれると、その供給元は入力経路の(R_{IN}によって表される)結合抵抗を通して採取/保持ｺﾝﾃﾞﾝｻ(C_{IN})も駆動しなければなりません。ADCの入力特性の詳細については「電気的特性」章を参照してください。

高ｲﾝﾋﾟｰﾀﾞﾝｽを持つ供給元が使われる場合、採取時間を増すことができます。必要とされる採取時間はC_{IN}ｺﾝﾃﾞﾝｻを充電するのに供給元がどれ位の長さが必要かに依存し、制御E(ADCn.CTRLE)ﾚｼﾞｽﾀの採取持続時間(SAMPDUR)ﾋﾞｯﾄ領域を使って構成設定することができます。

図30-2. ｱﾅﾛｸﾞ入力回路



30.3.3.6. 変換ﾀｲﾐﾝｸﾞ

ADCのｱﾅﾛｸﾞ単位部のいくつかは変換間に禁止され、変換開始前に初期化する時間を必要とします。現在のADC構成設定によって使われる単位部だけが許可され、初期化が並列で動くため、制限する要素は最も遅い初期化時間を持つ単位部です。右表はｱﾅﾛｸﾞ単位部によって必要とされる各種初期化時間を示します。

表30-5. ADC初期化時間

ｱﾅﾛｸﾞ単位部	初期化時間
ADC	10µs（注）
PGA	20µs
内部参照基準の安定	60µs
内部温度感知器入力	35µs
内部DAC入力	35µs

注: CLK_PER<2MHzの場合、ADC初期化時間は20 CLK_PER周期です。

例: 入力として温度感知を選び、参照基準としてV_{DD}を使うと、35µsの初期化時間を与えます。1.024V内部参照基準での温度感知の使用は60µsの初期化時間になります。

ADCは制御A(ADCn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの低遅延(LOWLAT)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって低遅延動作に置くことができます。これは構成設定された単位部を継続的に許可し続け、変換開始での全ての初期化時間を効果的に取り去ります。初回にADCを許可する時と、初期化を必要とする入力または参照基準の使用に対するADC再構成設定の場合に、初期化時間は未だ上の表で示されるように必要とされます。状態(ADCn.STATUS)ﾚｼﾞｽﾀのADC多忙(ADCBUSY)ﾋﾞｯﾄは初期化が進行中かを調べるのに使うことができます。

PGAなしでのADCへの入力の採取期間は制御E(ADCn.CTRLE)ﾚｼﾞｽﾀの採取持続時間(SAMPDUR)ﾋﾞｯﾄ領域を通して(SAMPDUR+½)CLK_ADC周期として構成設定されます。入力信号特性は採取期間がどの位長くなければならないかに影響を及ぼします。

PGAが使われると、継続的に採取してADCがPGAを採取する時にだけ保持状態になります。このADC PGA採取持続時間(ADCPGASAMPDUR)はf_{CLK_ADC}に依存し、PGA制御(ADCn.PGACTRL)ﾚｼﾞｽﾀで構成設定されます。採取持続時間(SAMPDUR)は未だPGAへの入力の最小採取期間を(SAMPDUR+1)CLK_ADC周期として構成設定します。集中動作ではSAMPDURが≧12でなければならず、変換状態の長さによって制限されます。

継続と集中の累積動作は適切な入力信号と採取周波数を与えられると、5ﾋﾞｯﾄまでのより高い分解能を達成するための過採取に使うことができます。nﾋﾞｯﾄによる分解能増加は4^n採取の累積と2^nによる累積結果除算によって達成することができます。制御F(ADCn.CTRLF)ﾚｼﾞｽﾀの採取累積数(SAMPNUM)ﾋﾞｯﾄ領域は4^5=1024採取までに構成設定することができ、最大17ﾋﾞｯﾄ分解能になります。

次の2つの表はf_{CLK_ADC}と採取持続時間の可能な組み合わせの一部に対して計算された変換速度(f_{conv})を示します。より多くの詳細については以降の頁の関連ﾀｲﾐﾝｸﾞ図をご覧ください。

表30-6. f_{CLK_ADC}=5MHzとADCPGASAMPDUR=20に対する変換速度(f_{conv})例

SAMPDUR	PGA	f_{conv}(注)単一8ビット (sps)	f_{conv}(注)単一12ビット (sps)	f_{conv}集中累積 (sps)
2	OFF	384615	294118	312500
12		217391	185185	192308
48		84746	79365	80645
255		18797	18519	18587
2	ON	149254	133333	利用不可
12		114943	105263	147059
48		62893	59880	71429
255		17452	17212	18051

表30-7. f_{CLK_ADC}=333kHzとADCPGASAMPDUR=6に対する変換速度(f_{conv})例

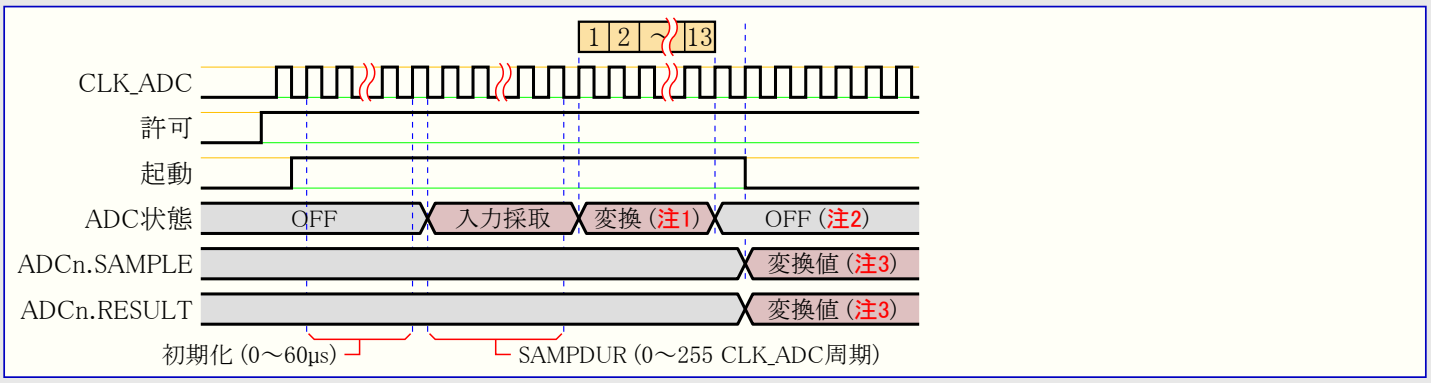
SAMPDUR	PGA	f_{conv}(注)単一8ビット (sps)	f_{conv}(注)単一12ビット (sps)	f_{conv}集中累積 (sps)
2	OFF	25641	19608	20833
12		14493	12346	12821
48		5650	5291	5376
255		1253	1235	1239
2	ON	17094	14184	利用不可
12		11299	9950	16667
48		5089	4796	5952
255		1223	1206	1267

注: 制御F(ADCn.CTRLF)ﾚｼﾞｽﾀで'1'に設定された自由走行(FREERUN)ﾋﾞｯﾄでの変換速度、新しい変換は結果がADCで利用可能になった後直ちに開始されます。

30.3.3.6.1. 単独変換

下図はPGAを使わずに単独の8または12ﾋﾞｯﾄ動作で動く時のADCに対するﾀｲﾐﾝｸﾞ図を示します。

図30-3. ﾀｲﾐﾝｸﾞ図 – 単独変換



注1: 単独8ﾋﾞｯﾄ動作では変換状態の長さが9 CLK_ADC周期です。他の全ての動作では13周期です。

注2: 制御A(ADCn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀで低遅延(LOWLAT)ﾋﾞｯﾄが'1'に設定される場合、ADC内のｱﾅﾛｸﾞ単位部は変換の最後でOFFに切り替わらず、次の変換の起動時の初期化時間をなくします。

注3: 変換が終わってから出力がﾚｼﾞｽﾀで利用可能になる時間は0.5 CLK_ADC周期と後続する1 CLK_MAIN周期です。最小前置分周で、これは合計で1 CLK_ADC周期になります。

単独結果に対する総変換時間(t_{conv})は次によってµsで計算されます。

$$t_{conv}\,(12ﾋﾞｯﾄ) = 初期化時間 + \frac{SAMPDUR + 15}{f_{CLK_ADC}}$$

$$t_{conv}\,(8ﾋﾞｯﾄ) = 初期化時間 + \frac{SAMPDUR + 11}{f_{CLK_ADC}}$$

制御F(ADCn.CTRLF)ﾚｼﾞｽﾀで自由走行(FREERUN)ﾋﾞｯﾄが'1'に設定される場合、新しい変換は結果(ADCn.RESULT)ﾚｼﾞｽﾀで結果が利用可能になる直後に開始されます。自由走行変換速度(f_{conv})は次によって計算されます。

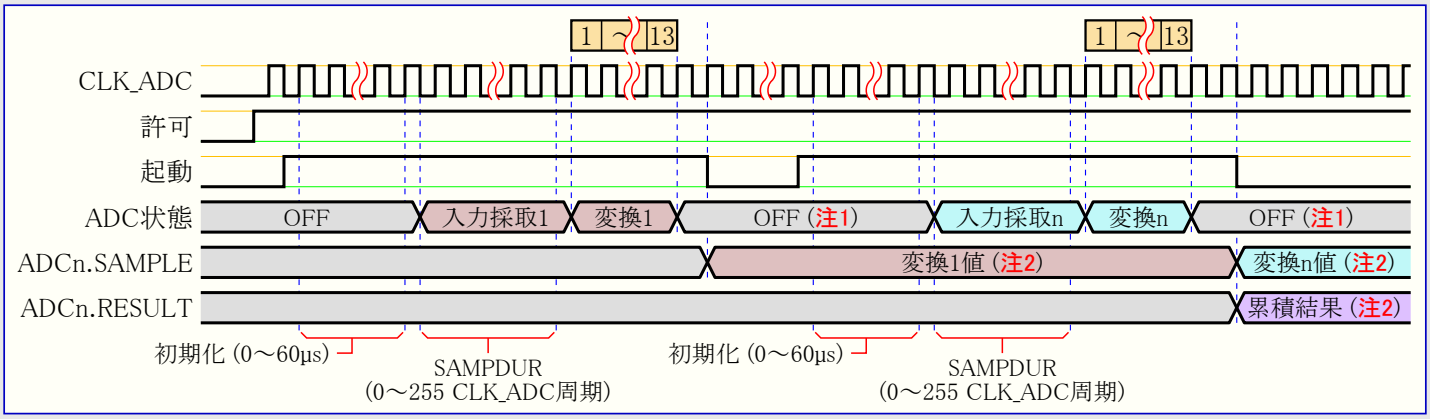
$$f_{conv}\,(12ﾋﾞｯﾄ) = \frac{f_{CLK_ADC}}{SAMPDUR + 15}$$

$$f_{conv}\,(8ﾋﾞｯﾄ) = \frac{f_{CLK_ADC}}{SAMPDUR + 11}$$

30.3.3.6.2. 継続累積

下図はPGAを使わずに継続累積動作で動く時のADCに対するﾀｲﾐﾝｸﾞ図を示します。

図30-4. ﾀｲﾐﾝｸﾞ図 – 継続累積 (訳補:2回累積(n=2)の例)



注1: 制御A(ADCn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀで低遅延(LOWLAT)ﾋﾞｯﾄが'1'に設定される場合、ADC内のｱﾅﾛｸﾞ単位部は変換の最後でOFFに切り替わらず、次の変換の起動時の初期化時間をなくします。

注2: 変換が終わってから出力がﾚｼﾞｽﾀで利用可能になる時間は0.5 CLK_ADC周期と後続する1 CLK_MAIN周期です。最後の変換と累積は追加のCLK_MAIN周期を必要とします。最小前置分周で、これは最終出力が利用可能になる前に合計で1.5 CLK_ADC周期になります。

累積する採取数は制御F(ADCn.CTRLF)ﾚｼﾞｽﾀの採取数(SAMPNUM)ﾋﾞｯﾄ領域によって設定されます。

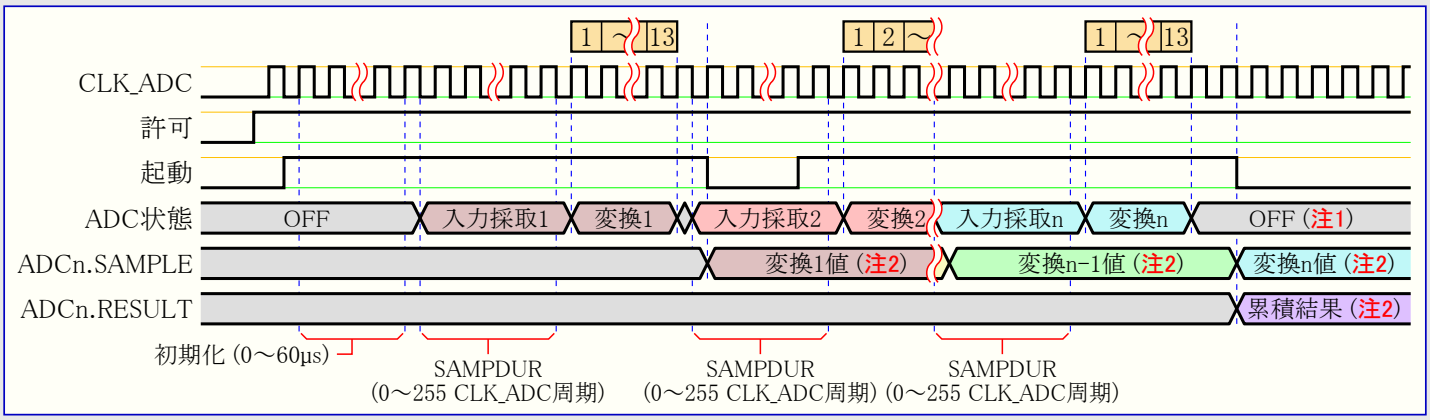
各独立した採取に対する総変換時間(t_{conv})は次によってµsで計算されます。

$$t_{conv} = \text{初期化時間} + \frac{\text{SAMPDUR} + 15}{f_{CLK_ADC}}$$

30.3.3.6.3. 集中累積

下図はPGAを使わずに集中累積動作で動く時のADCに対するﾀｲﾐﾝｸﾞ図を示します。

図30-5. ﾀｲﾐﾝｸﾞ図 – 集中累積



注1: 制御A(ADCn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀで低遅延(LOWLAT)ﾋﾞｯﾄが'1'に設定される場合、ADC内のｱﾅﾛｸﾞ単位部は変換の最後でOFFに切り替わらず、次の変換の起動時の初期化時間をなくします。

注2: 変換が終わってから出力がﾚｼﾞｽﾀで利用可能になる時間は0.5 CLK_ADC周期と後続する1 CLK_MAIN周期です。最後の変換と累積は追加のCLK_MAIN周期を必要とします。最小前置分周で、これは最終出力が利用可能になる前に合計で1.5 CLK_ADC周期になります。

累積する採取数は制御F(ADCn.CTRLF)ﾚｼﾞｽﾀの採取数(SAMPNUM)ﾋﾞｯﾄ領域によって設定されます。

集中累積に対する総変換時間(t_{conv})は次によってµsで計算されます。

$$t_{conv} = \text{初期化時間} + \frac{(\text{SAMPDUR} + 14) \times \text{SAMPNUM} + 1.5}{f_{CLK_ADC}}$$

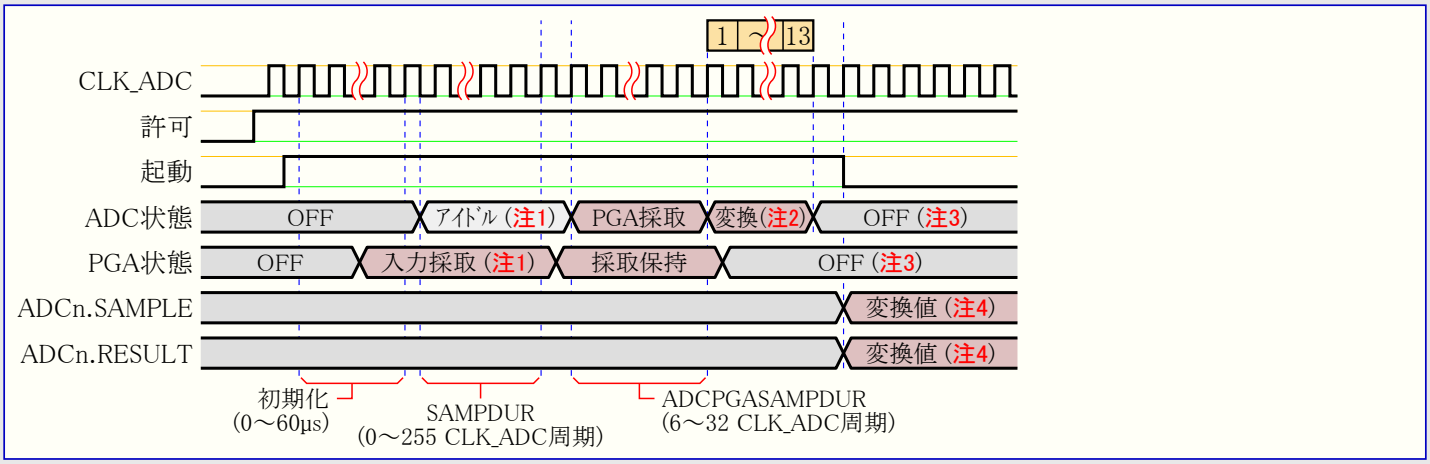
集中累積変換速度(f_{conv})は次によって計算されます。

$$f_{conv} = \frac{f_{CLK_ADC}}{\text{SAMPDUR} + 14}$$

30.3.3.6.4. PGAを含む単独累積

下図はPGAと共に単独8または12ﾋﾞｯﾄ動作で動く時のADCに対するﾀｲﾐﾝｸﾞ図を示します。

図30-6. ﾀｲﾐﾝｸﾞ図 – PGAを含む単独変換動作



注1: PGAは一旦PGA初期化が終わると、例えADC初期化が未だ進行中でも入力の採取を始めます。この場合、最初の採取時間は採取持続時間(SAMPDUR)によって構成設定されるよりも長くなります。

注2: 単独8ﾋﾞｯﾄ動作では変換状態の長さが9 CLK_ADC周期です。他の全ての動作では13周期です。

注3: 制御A(ADCn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀで低遅延(LOWLAT)ﾋﾞｯﾄが'1'に設定される場合、ADC内のｱﾅﾛｸﾞ単位部は変換の最後でOFFに切り替わらず、次の変換の起動時の初期化時間をなくします。PGAは新しいPGA採取が起きるまで入力採取状態に留まります。

注4: 変換が終わってから出力がﾚｼﾞｽﾀで利用可能になる時間は0.5 CLK_ADC周期と後続する1 CLK_MAIN周期です。最小前置分周で、これは合計で1 CLK_ADC周期になります。

単独結果に対する総変換時間($t$conv)は次によってµsで計算されます。

$$t\text{conv}\ (12\text{ﾋﾞｯﾄ}) = \text{初期化時間} + \frac{\text{SAMPDUR} + \text{ADCPGASAMPDUR} + 15.5}{f_{\text{CLK_ADC}}}$$

$$t\text{conv}\ (8\text{ﾋﾞｯﾄ}) = \text{初期化時間} + \frac{\text{SAMPDUR} + \text{ADCPGASAMPDUR} + 11.5}{f_{\text{CLK_ADC}}}$$

制御F(ADCn.CTRLF)ﾚｼﾞｽﾀで自由走行(FREERUN)ﾋﾞｯﾄが'1'に設定される場合、新しい変換は結果(ADCn.RESULT)ﾚｼﾞｽﾀで結果が利用可能になる直後に開始されます。自由走行変換速度($f$conv)は次によって計算されます。

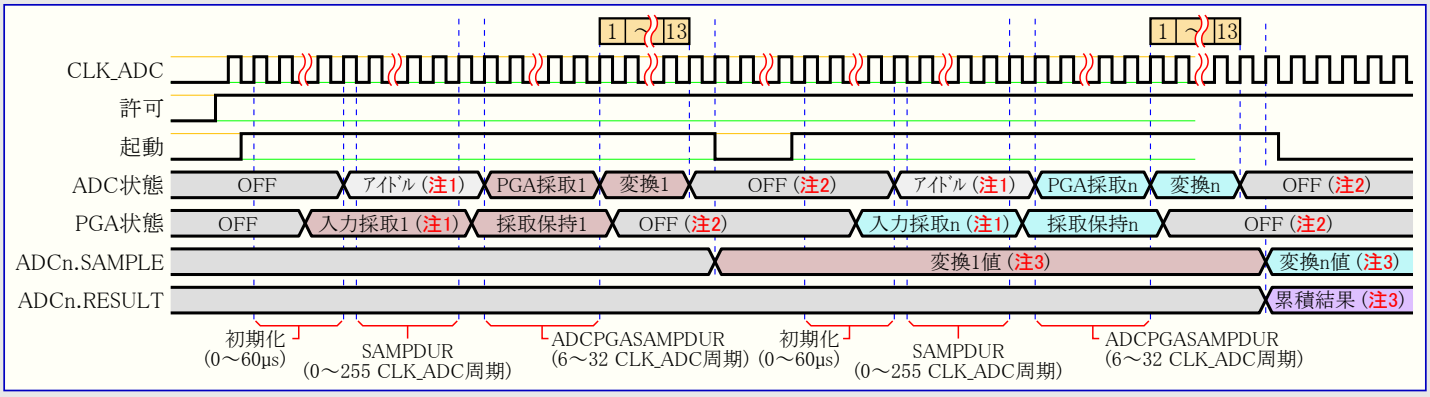
$$f\text{conv}\ (12\text{ﾋﾞｯﾄ}) = \frac{f_{\text{CLK_ADC}}}{\text{SAMPDUR} + \text{ADCPGASAMPDUR} + 15.5}$$

$$f\text{conv}\ (8\text{ﾋﾞｯﾄ}) = \frac{f_{\text{CLK_ADC}}}{\text{SAMPDUR} + \text{ADCPGASAMPDUR} + 11.5}$$

30.3.3.6.5. PGAを含む継続累積

下図はPGAと共に継続累積動作で動く時のADCに対するﾀｲﾐﾝｸﾞ図を示します。

図30-7. ﾀｲﾐﾝｸﾞ図 – PGAを含む継続累積 (訳補:2回累積(n=2)の例)



注1: PGAは一旦PGA初期化が終わると、例えADC初期化が未だ進行中でも入力の採取を始めます。この場合、最初の採取時間は採取持続時間(SAMPDUR)によって構成設定されるよりも長くなります。

注2と注3は次頁へ

注2: 制御A(ADCn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀで低遅延(LOWLAT)ﾋﾞｯﾄが'1'に設定される場合、ADC内のｱﾅﾛｸﾞ単位部は変換の最後でOFFに切り替わらず、次の変換の起動時の初期化時間をなくします。PGAは新しいPGA採取が起きるまで入力採取状態に留まります。

注3: 変換が終わってから出力がﾚｼﾞｽﾀで利用可能になる時間は0.5 CLK_ADC周期と後続する1 CLK_MAIN周期です。最後の変換と累積は追加のCLK_MAIN周期を必要とします。最小前置分周で、これは最終出力が利用可能になる前に合計で1.5 CLK_ ADC周期になります。

累積する採取数は制御F(ADCn.CTRLF)ﾚｼﾞｽﾀの採取数(SAMPNUM)ﾋﾞｯﾄ領域によって設定されます。

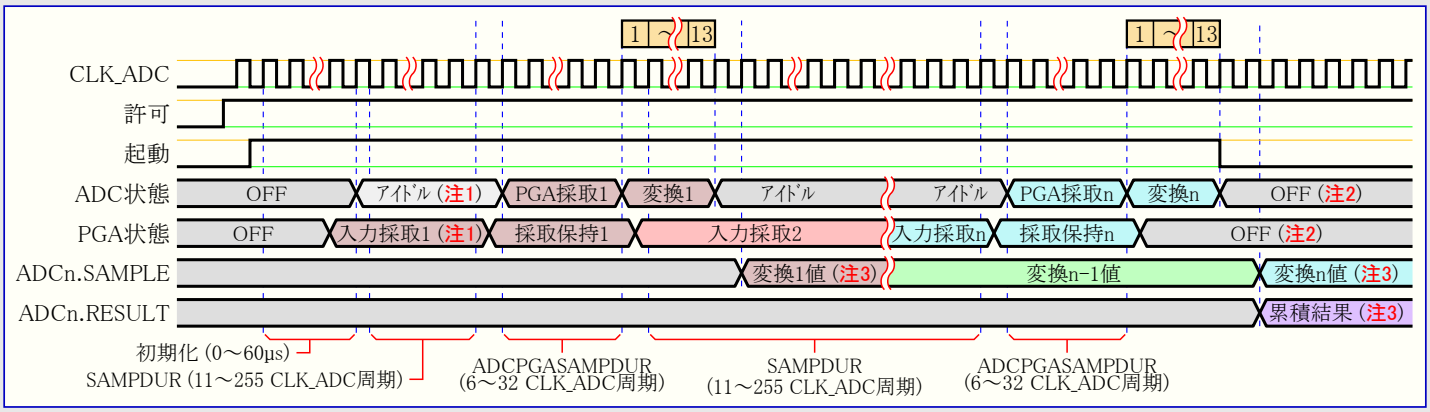
各独立した採取に対する総変換時間($t$conv)は次によってμsで計算されます。

$$t\text{conv} = \text{初期化時間} + \frac{\text{SAMPDUR} + \text{ADCPGASAMPDUR} + 15.5}{f_{\text{CLK_ADC}}}$$

30.3.3.6.6. PGAを含む集中累積

下図はPGAと共に集中累積動作で動く時のADCに対するﾀｲﾐﾝｸﾞ図を示します。

図30-8. ﾀｲﾐﾝｸﾞ図 – PGAを含む集中累積



注1: PGAは一旦PGA初期化が終わると、例えADC初期化が未だ進行中でも入力の採取を始めます。この場合、最初の採取時間は採取持続時間(SAMPDUR)によって構成設定されるよりも長くなります。

注2: 制御A(ADCn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀで低遅延(LOWLAT)ﾋﾞｯﾄが'1'に設定される場合、ADC内のｱﾅﾛｸﾞ単位部は変換の最後でOFFに切り替わらず、次の変換の起動時の初期化時間をなくします。PGAは新しいPGA採取が起きるまで入力採取状態に留まります。

注3: 変換が終わってから出力がﾚｼﾞｽﾀで利用可能になる時間は0.5 CLK_ADC周期と後続する1 CLK_MAIN周期です。最後の変換と累積は追加のCLK_MAIN周期を必要とします。最小前置分周で、これは最終出力が利用可能になる前に合計で1.5 CLK_ ADC周期になります。

累積する採取数は制御F(ADCn.CTRLF)ﾚｼﾞｽﾀの採取数(SAMPNUM)ﾋﾞｯﾄ領域によって設定されます。

PGAを含む集中累積についてはSAMPDURが≧11でなければなりません。総変換時間($t$conv)は次によってμsで計算されます。

$$t\text{conv} = \text{初期化時間} + \frac{(\text{SAMPDUR} + \text{ADCPGASAMPDUR} + 2) \times \text{SAMPNUM} + 14}{f_{\text{CLK_ADC}}}$$

集中変換速度(f_{conv})は次によって計算されます。

$$f_{\text{conv}} = \frac{f_{\text{CLK_ADC}}}{\text{SAMPDUR} + \text{ADCPGASAMPDUR} + 2}$$

30.3.3.7. 温度測定

ﾁｯﾌﾟ上の温度感知器が利用可能です。温度測定を行うには以下のこれらの手順に従ってください。

1. 制御C(ADCn.CTRLC)ﾚｼﾞｽﾀの参照基準選択(REFSEL)ﾋﾞｯﾄ領域を書くことによって参照基準電圧を内部1.024Vに構成設定してください。
2. 正入力多重器(ADCn.MUXPOS)ﾚｼﾞｽﾀで入力として温度感知器を選んでください。
3. 制御E(ADCn.CTRLE)ﾚｼﾞｽﾀの採取持続時間(SAMPDUR)ﾋﾞｯﾄ領域に32μs×$f_{\text{CLK_ADC}}$以上(訳補:脚注参照)の値を書くことによってADC採取持続時間を構成設定してください。
4. 12ﾋﾞｯﾄ ｼﾝｸﾞﾙ ｴﾝﾄﾞ変換を走らせて温度感知器出力電圧を採取してください。
5. 次に記述されるように測定結果を処理してください。

(訳補) SAMPDURがCLK_ADC周期数で設定するため、32μs以上になるCLK_ADC周期数の意味です。

測定した電圧は温度に対して直線的関係を持ちます。製法変化のため、温度感知器出力電圧は同じ温度に於いて個別ﾃﾞﾊﾞｲｽ間で変わります。製造検査の間に測定された個別補償係数は識票列で次のように格納されます。

- SIGROW.TEMPSENSE0は温度感知器の利得/傾斜補正です。
- SIGROW.TEMPSENSE1は温度感知器の変位(ｵﾌｾｯﾄ)補正です。

もっと正確な結果を達成するため、温度感知器測定の結果はﾃﾞﾊﾞｲｽ製造または使用者校正からの補償値を用いて応用ｿﾌﾄｳｪｱで処理されなければなりません。更なる詳細については「電気的特性」章を参照してください。

次式は(ｹﾙﾋﾞﾝでの)温度を与えます。

$$T = \frac{(\text{ADC結果} - \text{変位補正}) \times \text{利得補正}}{256}$$

識票列からの補償値を使う時は応用ｺｰﾄﾞで以下のこれらの手順に従うことが推奨されます。

```
int8_t sigrow_offset = SIGROW.TEMPSENSE1;      // 識票列から符号付変位(ｵﾌｾｯﾄ)読み込み
uint8_t sigrow_gain = SIGROW.TEMPSENSE0;       // 識票列から符号なし利得/傾斜読み込み
uint16_t adc_reading = ADC0.RESULT >> 2;       // 1.024V内部参照基準でのADC結果の上位10ﾋﾞｯﾄ

uint32_t temp = adc_reading - sigrow_offset;
temp *= sigrow_gain;                           // 結果(10ﾋﾞｯﾄ×8ﾋﾞｯﾄ)は16ﾋﾞｯﾄ変数を溢れるかもしれません。
temp += 0x80;                                  // 次の除算で正しい丸めを得るために256/2を加算
temp >>= 8;                                    // 処理されたｹﾙﾋﾞﾝでの温度を得るために結果を256で除算
uint16_t temperature_in_K = temp;
```

30.3.3.8. 窓比較器

ADCは変換または累積の出力が或る閾値越えと/または未満の時に割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(ADCn.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀの窓比較器割り込み要求(WCMP)ﾌﾗｸﾞを立てることができます。利用可能な動作形態は次のとおりです。

- 結果が閾値超え
- 結果が閾値未満
- 結果が窓の内側(下側閾値以上で上側閾値以下)
- 結果が窓の外側(下側閾値未満または上側閾値越えのどちらか)

閾値は窓比較器下側/上側閾値(ADCn.WINLTとADCn.WINHT)ﾚｼﾞｽﾀに書くことによって設定されます。使う窓動作は制御D(ADCn.CTRLD)ﾚｼﾞｽﾀの窓比較器動作(WINCM)ﾋﾞｯﾄ領域によって選ばれます。

制御D(ADCn.CTRLD)ﾚｼﾞｽﾀの窓動作元(WINSRC)ﾋﾞｯﾄは比較が結果(ADCn.RESULT)ﾚｼﾞｽﾀの下位16ﾋﾞｯﾄまたは採取(ADCn.SAMPLE)ﾚｼﾞｽﾀのどちらで行われるかを選びます。WCMPﾌﾗｸﾞに対して割り込み要求が許可される場合、WINSRCはRESRDYまたはSAMPRDYのどちらの割り込みﾍﾞｸﾀを要求するか選びます。

複数採取累積時、窓比較元が結果ﾚｼﾞｽﾀの場合、結果と閾値間の比較は最後の変換完了後に起きます。供給元が採取ﾚｼﾞｽﾀの場合、比較は毎回の変換後に起きます。

ADCが既に動くように構成設定されるとの仮定で、窓比較器を使うには以下のこれらの手順に従ってください。

1. 窓比較器下側/上側閾値(ADCn.WINLTとADCn.WINHT)ﾚｼﾞｽﾀを書くことによって必要とされる閾値を設定してください。
2. 任意選択: 割り込み制御(ADCn.INTCTRL)ﾚｼﾞｽﾀの窓比較器割り込み許可(WCMP)ﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって割り込み要求を許可してください。
3. 制御D(ADCn.CTRLD)ﾚｼﾞｽﾀでWINSRCﾋﾞｯﾄへとWINCMﾋﾞｯﾄ領域に0以外の値を書くことによって窓比較器を許可してください。

累積採取時、窓比較器閾値は各採取ではなく累積された値に対して適用されます。結果の左揃えを使うことが採取数と無関係な比較値にします。

30.3.4. 事象

ADCは以下の事象を生成することができます。

表30-8. ADC事象生成部

生成部名		説明	事象型	生成ｸﾛｯｸ領域	事象長
周辺機能	事象				
ADCn	RES	結果準備可	ﾊﾟﾙｽ	CLK_PER	1 CLK_PER周期
	SAMP	採取準備可			
	WCMP	窓比較一致			

事象を生成する条件は割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(ADCn.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀで対応するﾌﾗｸﾞを掲げるそれらと同じです。

ADCは入力事象を検出して働くための1つの事象使用部を持ちます。下表は事象使用部と関連する機能を記述します。

表30-9. ADC事象使用部と利用可能な事象活動

使用部名		説明	入力検出	同期/非同期
周辺機能	入力			
ADCn	START	事象でADC開始	端	非同期

START事象活動は指令(ADCn.COMMAND)ﾚｼﾞｽﾀの変換開始(START)ﾋﾞｯﾄ領域にEVENT_TRIGGER設定が書かれる場合に起動することができます。

30.3.5. 割り込み

表30-10. 利用可能な割り込みﾍﾞｸﾀと供給元

名前	ﾍﾞｸﾀ説明	割り込み要求ﾌﾗｸﾞ	条件
ERROR	異常割り込み	TRIGOVR	別のものが進行中に新しい変換が起動される。
		SAMPOVR	新しい変換がADCn.SAMPLEで未読試料を上書き
		RESOVR	新しい変換または累積がADCn.RESULTで未読結果を上書き
SAMPRDY	採取準備可割り込み	SAMPRDY	ADCn.SAMPLEで試料が利用可能
		WCMP	ADCn.CTRLDのWINSRCとWINCMによって定義されたとおりの時
RESRDY	結果準備可割り込み	RESRDY	ADCn.RESULTで結果が利用可能
		WCMP	ADCn.CTRLDのWINSRCとWINCMによって定義されたとおりの時

割り込み条件が起こると、割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(ADCn.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀで対応する割り込み要求ﾌﾗｸﾞが設定(1)されます。

割り込み元は割り込み制御(ADCn.INTCTRL)ﾚｼﾞｽﾀで対応する許可ﾋﾞｯﾄに書くことによって許可または禁止されます。

割り込み要求は対応する割り込み元が許可され、割り込み要求ﾌﾗｸﾞが設定(1)される時に生成されます。割り込み要求は割り込み要求ﾌﾗｸﾞが解除(0)されるまで活性(1)に留まります。割り込み要求ﾌﾗｸﾞを解除(0)する方法の詳細についてはADCn.INTFLAGSﾚｼﾞｽﾀをご覧ください。

30.3.6. 休止形態動作

ADCはｱｲﾄﾞﾙ/ｽﾀﾝﾊﾞｲの休止動作へ行く前に変換を終えます。ADCは指令(ADCn.COMMAND)ﾚｼﾞｽﾀの変換開始(START)ﾋﾞｯﾄ領域が事象起動での変換開始に構成設定されていれば、ｱｲﾄﾞﾙ休止動作で変換を開始することができます。これは制御A(ADCn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのｽﾀﾝﾊﾞｲ時走行(RUNSTDBY)ﾋﾞｯﾄが設定(1)される場合にｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作でも可能です。

制御Aﾚｼﾞｽﾀで低遅延(LOWLAT)とRUNSTDBYの両ﾋﾞｯﾄが設定(1)される場合、休止中の消費電力増加を犠牲にして、より速く変換を開始するためにｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作中に必要とされる全ての単位部をONに保ちます。

ｼｽﾃﾑがﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝ休止動作に入ると、ADCは進行中の変換を中断して直ちに休止動作に入ります。ﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝ休止動作に移行するのに先立って変換が完了しているのを確実にしてください。

30.3.7. ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ操作

ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ制御(ADCn.DBGCTRL)ﾚｼﾞｽﾀのﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ時走行(DBGRUN)ﾋﾞｯﾄが'1'を書かれる場合、ADCはCPUがﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ動作で停止される時に動作を続けます。

CPUが停止する時にDBGRUNが'0'の場合、ADCが停止するまでに進行中の変換が終わります。

30.4. レジスタ要約

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00	CTRLA	7～0	RUNSTDBY		LOWLAT					ENABLE
+$01	CTRLB	7～0					PRESC3~0			
+$02	CTRLC	7～0	TIMEBASE4~0					REFSEL2~0		
+$03	CTRLD	7～0					WINSRC	WINCM2~0		
+$04	INTCTRL	7～0			TRIGOVR	SAMPOVR	RESOVR	WCMP	SAMPRDY	RESRDY
+$05	INTFLAGS	7～0			TRIGOVR	SAMPOVR	RESOVR	WCMP	SAMPRDY	RESRDY
+$06	STATUS	7～0								ADCBUSY
+$07	DBGCTRL	7～0								DBGRUN
+$08	CTRLE	7～0	SAMPDUR7~0							
+$09	CTRLF	7～0			FREERUN	LEFTADJ	SAMPNUM3~0			
+$0A	COMMAND	7～0	DIFF		MODE2~0			START2~0		
+$0B	PGACTRL	7～0	GAIN2~0			PGABIASEL1,0		ADCPGASAMPDUR1,0		PGAEN
+$0C	MUXPOS	7～0	VIA1,0		MUXPOS5~0					
+$0D	MUXNEG	7～0	VIA1,0		MUXNEG5~0					
+$0E ～ +$0F	予約									
+$10	RESULT	7～0	RESULT7~0							
+$11		15～8	RESULT15~8							
+$12		23～16	RESULT23~16							
+$13		31～24	RESULT31~24							
+$14	SAMPLE	7～0	SAMPLE7~0							
+$15		15～8	SAMPLE15~8							
+$16 ～ +$17	予約									
+$18	TEMP0	7～0	TEMP7~0							
+$19	TEMP1	7～0	TEMP7~0							
+$1A	TEMP2	7～0	TEMP7~0							
+$1B	予約									
+$1C	WINLT	7～0	WINLT7~0							
+$1D		15～8	WINLT15~8							
+$1E	WINHT	7～0	WINHT7~0							
+$1F		15～8	WINHT15~8							

30.5. ﾚｼﾞｽﾀ説明

30.5.1. CTRLA – 制御A (Control A)

名称 : CTRLA
変位 : +$00
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	RUNSTDBY		LOWLAT					ENABLE
ｱｸｾｽ種別	R/W	R	R/W	R	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7 – RUNSTDBY : ｽﾀﾝﾊﾞｲ時走行** (Run in Standby)

このﾋﾞｯﾄはｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作でADCが動くか否かを制御します。

値	0	1
説明	ADCはｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作で動きません。進行中の変換はADCが休止動作に入る前に終わります。	ADCはｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作で動きます。ADCが変換実行を起動されると、主ｸﾛｯｸが要求されます。

● **ﾋﾞｯﾄ5 – LOWLAT : 低遅延** (Low Latency)

このﾋﾞｯﾄはADCによって必要とされるｱﾅﾛｸﾞ単位部が継続的に許可されるかそれとも必要とされる時にだけかを制御します。

値	0	1
説明	ADCは変換を開始する時にだけ必要とされるｱﾅﾛｸﾞ単位部を許可し、これはADCの消費電力全体を減らし、ADC変換開始時の初期化時間を増します。	ｱﾅﾛｸﾞ単位部はそれらがADCへの入力として選ばれる時に許可に留まります。この選択の使用はADCの初期化時間を最小にします。 注: LOWLATはADCが変換していない時に許可されたｸﾛｯｸ元を維持せず、故にLOWLATが設定(1)されても、ｸﾛｯｸ始動遅延を経験するかもしれません。遅延を避けるため、ｸﾛｯｸ元が常に許可されるのを確実にしてください。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – ENABLE : ADC許可** (ADC Enable)

このﾋﾞｯﾄはADCが許可されるか否かを制御します。

値	0	1
説明	ADCは禁止されます。	ADCは許可されます。

30.5.2. CTRLB – 制御B (Control B)

名称 : CTRLB
変位 : +$01
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
					PRESC3~0			
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ3~0 – PRESC3~0 : 前置分周器** (Prescaler)

このﾋﾞｯﾄ領域は周辺機能ｸﾛｯｸ(CLK_PER)からADCｸﾛｯｸ(CLK_ADC)への分周係数を制御します。

値	0 0 0 0	0 0 0 1	0 0 1 0	0 0 1 1	0 1 0 0	0 1 0 1	0 1 1 0	0 1 1 1
名称	DIV2	DIV4	DIV6	DIV8	DIV10	DIV12	DIV14	DIV16
説明	CLK_PER/2	CLK_PER/4	CLK_PER/6	CLK_PER/8	CLK_PER/10	CLK_PER/12	CLK_PER/14	CLK_PER/16
値	1 0 0 0	1 0 0 1	1 0 1 0	1 0 1 1	1 1 0 0	1 1 0 1	1 1 1 0	1 1 1 1
名称	DIV20	DIV24	DIV28	DIV32	DIV40	DIV48	DIV56	DIV64
説明	CLK_PER/20	CLK_PER/24	CLK_PER/28	CLK_PER/32	CLK_PER/40	CLK_PER/48	CLK_PER/56	CLK_PER/64

30.5.3. CTRLC – 制御C (Control C)

名称 : CTRLC
変位 : +$02
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	TIMEBASE4~0					REFSEL2~0		
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~3 – TIMEBASE4~0 : 時間基準** (Timebase)

このﾋﾞｯﾄ領域は1µsと等しいかより大きい期間を得るためのCLK_PER周期数を制御します。これは入力参照基準やPGA利得設定の変更間の保護時間のような変換を開始する前にADCでの内部遅延ﾀｲﾐﾝｸﾞに使われます。

● **ﾋﾞｯﾄ2~0 – REFSEL2~0 : 参照基準選択** (Reference Selection)

このﾋﾞｯﾄ領域はADCに対する参照基準電圧を制御します。内部参照基準の1つへの変更は60µs初期化時間を必要とします。

値	0 0 0	0 0 1	0 1 0	0 1 1	1 0 0	1 0 1	1 1 0	1 1 1
名称	VDD	–	VREFA	–	1024MV	2048MV	2500MV	4096MV
説明	VDD	(予約)	外部VREFA参照基準	(予約)	内部1.024V参照基準	内部2.048V参照基準	内部2.500V参照基準	内部4.096V参照基準

注: 内部参照基準はVDD-0.5Vよりも低い場合にだけ使うことができます。

30.5.4. CTRLD – 制御D (Control D)

名称 : CTRLD
変位 : +$03
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
					WINSRC	WINCM2~0		
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ3 – WINSRC : 窓動作供給元** (Window Mode Source)

このﾋﾞｯﾄは窓比較器によってどの供給元が使われるかを制御します。

値	0	1
名称	RESULT	SAMPLE
説明	窓比較器供給元としてADCn.RESULT15～0が使われます。	窓比較器供給元としてADCn.SAMPLE15～0が使われます。

● **ﾋﾞｯﾄ2~0 – WINCM2~0 : 窓比較器動作** (Window Comparator Mode)

このﾋﾞｯﾄ領域は窓比較器を許可するかどうかとどの閾値が割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(ADCn.INTFLAGS)ﾚｼﾞｽﾀの窓比較器割り込み要求(WCMP)ﾌﾗｸﾞを設定(1)するかを制御します。

下表に於いて"出力"は窓動作供給元(WINSRC)によって選ばれた結果または採取です。WINLTとWINHTは各々、16ﾋﾞｯﾄ下側閾値と16ﾋﾞｯﾄ上側閾値です。

値	0 0 0	0 0 1	0 1 0	0 1 1	1 0 0	その他
名称	NONE	BELOW	ABOVE	INSIDE	OUTSIDE	–
説明	窓比較器禁止	出力<WINLT	出力>WINHT	WINLT≦出力≦WINHT	出力<WINLTまたは出力>WINHT	(予約)

30.5.5. INTCTRL – 割り込み制御 (Interrupt Control)

名称 : INTCTRL
変位 : +$04
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
			TRIGOVR	SAMPOVR	RESOVR	WCMP	SAMPRDY	RESRDY
ｱｸｾｽ種別	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ5 – TRIGOVR : 起動超過割り込み許可** (Ttigger Overrun Interrupt Enable)
このﾋﾞｯﾄは起動超過に対する割り込みが許可されるか否かを制御します。

値	0	1
説明	起動超過割り込みが禁止されます。	起動超過割り込みが許可されます。

● **ﾋﾞｯﾄ4 – SAMPOVR : 採取上書き割り込み許可** (Sample Overwrite Interrupt Enable)
このﾋﾞｯﾄは採取上書きに対する割り込みが許可されるか否かを制御します。

値	0	1
説明	採取上書き割り込みが禁止されます。	採取上書き割り込みが許可されます。

● **ﾋﾞｯﾄ3 – RESOVR : 結果上書き割り込み許可** (Result Overwrite Interrupt Enable)
このﾋﾞｯﾄは結果上書きに対する割り込みが許可されるか否かを制御します。

値	0	1
説明	結果上書き割り込みが禁止されます。	結果上書き割り込みが許可されます。

● **ﾋﾞｯﾄ2 – WCMP : 窓比較器割り込み許可** (Window Comparator Interrupt Enable)
このﾋﾞｯﾄは窓比較器に対する割り込みが許可されるか否かを制御します。

値	0	1
説明	窓比較器割り込みが禁止されます。	窓比較器割り込みが許可されます。

● **ﾋﾞｯﾄ1 – SAMPRDY : 採取準備可割り込み許可** (Sample Ready Interrupt Enable)
このﾋﾞｯﾄは採取準備可割り込みが許可されるか否かを制御します。

値	0	1
説明	採取準備可割り込みが禁止されます。	採取準備可割り込みが許可されます。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – RESRDY : 結果準備可割り込み許可** (Result Ready Interrupt Enable)
このﾋﾞｯﾄは結果準備可割り込みが許可されるか否かを制御します。

値	0	1
説明	結果準備可割り込みが禁止されます。	結果準備可割り込みが許可されます。

30.5.6. INTFLAGS – 割り込み要求ﾌﾗｸﾞ (Interrupt Flags)

名称 : INTFLAGS
変位 : +$05
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
			TRIGOVR	SAMPOVR	RESOVR	WCMP	SAMPRDY	RESRDY
ｱｸｾｽ種別	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● ﾋﾞｯﾄ5 – TRIGOVR : 起動超過割り込み要求ﾌﾗｸﾞ (Ttigger Overrun Interrupt Flag)

これに'1'を書くことによってこのﾌﾗｸﾞを解除(0)してください。このﾌﾗｸﾞは変換が進行中に開始起動を受け取った時に設定(1)されます。このﾋﾞｯﾄへの'0'書き込みは無効です。このﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みは起動超過割り込み要求ﾌﾗｸﾞを解除(0)します。

● ﾋﾞｯﾄ4 – SAMPOVR : 採取上書き割り込み要求ﾌﾗｸﾞ (Sample Overwrite Interrupt Flag)

これに'1'を書くことによってこのﾌﾗｸﾞを解除(0)してください。このﾌﾗｸﾞは採取(ADCn.SAMPLE)ﾚｼﾞｽﾀで未読採取(試料)が上書きされる時に設定(1)されます。このﾋﾞｯﾄへの'0'書き込みは無効です。このﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みは採取上書き割り込み要求ﾌﾗｸﾞを解除(0)します。

● ﾋﾞｯﾄ3 – RESOVR : 結果上書き割り込み要求ﾌﾗｸﾞ (Result Overwrite Interrupt Flag)

これに'1'を書くことによってこのﾌﾗｸﾞを解除(0)してください。このﾌﾗｸﾞは結果(ADCn.RESULT)ﾚｼﾞｽﾀで未読採取(試料)が上書きされる時に設定(1)されます。このﾋﾞｯﾄへの'0'書き込みは無効です。このﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みは結果上書き割り込み要求ﾌﾗｸﾞを解除(0)します。

● ﾋﾞｯﾄ2 – WCMP : 窓比較器割り込み要求ﾌﾗｸﾞ (Window Comparator Interrupt Flag)

これに'1'を書くことによってこのﾌﾗｸﾞを解除(0)してください。このﾌﾗｸﾞは変換または累積が完了し、閾値が制御D(ADCn.CTRLD)ﾚｼﾞｽﾀの窓動作供給元(WINSRC)と窓比較器動作(WINCM)によって設定される、選んだ窓比較器の供給元と動作に一致する時に設定(1)されます。このﾋﾞｯﾄへの'0'書き込みは無効です。このﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みは窓比較器割り込み要求ﾌﾗｸﾞを解除(0)します。

● ﾋﾞｯﾄ1 – SAMPRDY : 採取準備可割り込み要求ﾌﾗｸﾞ (Sample Ready Interrupt Flag)

これに'1'を書くこと、または採取(ADCn.SAMPLE)ﾚｼﾞｽﾀを読むことによってこのﾌﾗｸﾞを解除(0)してください。このﾌﾗｸﾞは変換が完了して新しい採取(試料)の準備が整った時に設定(1)されます。このﾋﾞｯﾄへの'0'書き込みは無効です。このﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みは採取準備可割り込み要求ﾌﾗｸﾞを解除(0)します。

● ﾋﾞｯﾄ0 – RESRDY : 結果準備可割り込み要求ﾌﾗｸﾞ (Result Ready Interrupt Flag)

これに'1'を書くこと、または結果(ADCn.RESULT)ﾚｼﾞｽﾀを読むことによってこのﾌﾗｸﾞを解除(0)してください。このﾌﾗｸﾞは変換または累積が完了して新しい結果の準備が整った時に設定(1)されます。このﾋﾞｯﾄへの'0'書き込みは無効です。このﾋﾞｯﾄへの'1'書き込みは結果準備可割り込み要求ﾌﾗｸﾞを解除(0)します。

30.5.7. STATUS – 状態 (Status)

名称 : STATUS
変位 : +$06
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
								ADCBUSY
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● ﾋﾞｯﾄ0 – ADCBUSY : ADC多忙 (ADC Busy)

このﾋﾞｯﾄはADC変換が完了し、構成設定変更に関連する安定時間が終えられた時に解除(0)します。このﾋﾞｯﾄはADCが変換を行っている、または構成設定変更に関連する安定時間を待っている時にに設定(1)されます。

30.5.8. DBGCTRL – ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ制御 (Debug Control)

名称 : DBGCTRL
変位 : +$07
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
								DBGRUN
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● ﾋﾞｯﾄ0 – DBGRUN : ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ時走行 (Debug Run)

このﾋﾞｯﾄはﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ動作でCPUが停止される時にADCが動作を続けるか否かを制御します。

値	0	1
説明	ADCはCPUが停止される時のﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ動作で動作を続けません。進行中の変換や集中累積はADCが止まる前に終わります。	ADCはCPUが停止される時のﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ動作で動作を続けます。

30.5.9. CTRLE – 制御E (Control E)

名称 : CTRLE
変位 : +$08
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	SAMPDUR7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – SAMPDUR7~0 : 採取持続時間** (Sample Duration)

このﾋﾞｯﾄ領域はADCｸﾛｯｸ(CLK_ADC)周期数で入力採取持続時間を制御します。PGAなしでの採取持続時間は(SAMPDUR+½)CLK_ADC周期です。

PGAを使う場合、入力採取持続時間は(SAMPDUR+1)CLK_ADC周期で、同時にPGA制御(ADCn.PGACTRL)ﾚｼﾞｽﾀのADC PGA採取持続時間(ADCPGASAMPDUR)ﾋﾞｯﾄ領域がADCがどの位の長さPGAを採取するかを制御します。

30.5.10. CTRLF – 制御F (Control F)

名称 : CTRLF
変位 : +$09
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
			FREERUN	LEFTADJ	SAMPNUM3~0			
ｱｸｾｽ種別	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ5 – FREERUN : 自由走行** (Free Running)

このﾋﾞｯﾄはADC自由走行動作が許可されるか否かを制御します。

継続累積動作は自由走行動作を支援しません。

値	0	1
名称	DISABLE	ENABLE
説明	ADC自由走行動作が禁止されます。	ADC自由走行動作が許可されます。直前の変換または累積が完了すると直ぐに新しい変換が開始します。

● **ﾋﾞｯﾄ4 – LEFTADJ : 左揃え** (Left Adjust)

このﾋﾞｯﾄはADC出力が左揃えされるか否かを制御します。

値	0	1
名称	DISABLE	ENABLE
説明	ADC出力左揃えが禁止されます。	ADC出力左揃えが許可されます。

● **ﾋﾞｯﾄ3~0 – SAMPNUM3~0 : 採取累積数選択** (Sample Accumulation Number Select)

このﾋﾞｯﾄ領域は自動的に結果(ADCn.RESULT)ﾚｼﾞｽﾀに累積される連続するADC採取数を制御します。ADC採取(ADCn.SAMPLE)ﾚｼﾞｽﾀで最新の採取が利用可能です。

値	0000	0001	0010	0011	0100
名称	NONE	ACC2	ACC4	ACC8	ACC16
説明	累積なし、変換結果毎に単一採取	2採取累積	4採取累積	8採取累積	16採取累積

値	0101	0110	0111	1000	1001	1010	その他
名称	ACC32	ACC64	ACC128	ACC256	ACC512	ACC1024	–
説明	32採取累積	64採取累積	128採取累積	256採取累積	512採取累積	1024採取累積	(予約)

30.5.11. COMMAND – 指令 (Command)

名称 : COMMAND
変位 : +$0A
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	DIFF	MODE2~0				START2~0		
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7 – DIFF : 差動** (Differential)

このﾋﾞｯﾄはADC変換がｼﾝｸﾞﾙ ｴﾝﾄﾞまたは差動のどちらかを制御します。

値	0	1
説明	符号なしｼﾝｸﾞﾙ ｴﾝﾄﾞ変換。正入力多重器(ADCn.MUXPOS)ﾚｼﾞｽﾀだけが使われます。	符号付き差動変換。正入力多重器(ADCn.MUXPOS)と負入力多重器(ADCn.MUXNEG)の両ﾚｼﾞｽﾀが使われます。

● **ﾋﾞｯﾄ6~4 – MODE2~0 : 動作形態** (Mode)

このﾋﾞｯﾄ領域はADCに対する変換動作を制御します。累積動作の1つから単独動作への切り替えは累積器をﾘｾｯﾄします。

値	名称	説明
0 0 0	SINGLE_8BIT	8ﾋﾞｯﾄ分解能での単独変換
0 0 1	SINGLE_12BIT	12ﾋﾞｯﾄ分解能での単独変換
0 1 0	SERIES	継続累積、毎回の12ﾋﾞｯﾄ変換に対して独立した起動
0 1 1	SERIES_SCALING	継続累積と尺度調整、毎回の12ﾋﾞｯﾄ変換に対して独立した起動
1 0 0	BURST	集中累積。1回の起動が一続きで採取数(SAMPNUM)回の12ﾋﾞｯﾄ変換を実行
1 0 1	BURST_SCALING	集中累積と尺度調整。1回の起動が一続きで採取数(SAMPNUM)回の12ﾋﾞｯﾄ変換を実行
その他	–	(予約)

● **ﾋﾞｯﾄ2~0 – START2~0 : 変換開始** (Start Conversion)

このﾋﾞｯﾄ領域はADC変換を開始または停止するか、またはADC変換をどう開始するかを制御します。

値	名称	説明
0 0 0	STOP	進行中の変換を停止
0 0 1	IMMEDIATE	直ちに変換開始。これは自由走行動作が許可されていない限り、変換終了時にSTOPに戻します。
0 1 0	MUXPOS_WRITE	正入力多重器(MUXPOS)ﾚｼﾞｽﾀ書き込み終了時に開始
0 1 1	MUXNEG_WRITE	負入力多重器(MUXNEG)ﾚｼﾞｽﾀ書き込み終了時に開始
1 0 0	EVENT_TRIGGER	事象がADCによって受け取られる時に開始
その他	–	(予約)

注: 制御A(ADCn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのADC許可(ENABLE)ﾋﾞｯﾄが'0'なら、STARTﾋﾞｯﾄ領域にIMMEDIATEを書くと、自動的にSTOPを設定します。

30.5.12. PGACTRL – PGA制御 (PGA Control)

名称 : PGACTRL
変位 : +$0B
ﾘｾｯﾄ : $04
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	GAIN2~0			PGABIASSEL1,0		ADCPGASAMPDUR1,0		PGAEN
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	1	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~5 – GAIN2~0 : 利得** (Gain)

このﾋﾞｯﾄ領域はPGA利得設定を制御します。

値	0 0 0	0 0 1	0 1 0	0 1 1	1 0 0	1 0 1	1 1 0	1 1 1
名称	1X	2X	4X	8X	16X	–	–	–
説明	1倍利得	2倍利得	4倍利得	8倍利得	16倍利得	(予約)	(予約)	(予約)

● **ﾋﾞｯﾄ4,3 – PGABIASSEL1,0 : PGAﾊﾞｲｱｽ選択** (PGA Bias Select)

このﾋﾞｯﾄ領域はPGAへ供給されるﾊﾞｲｱｽ電流を制御します。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	1X	3_4X	1_2X	1_4X
説明	100%ﾊﾞｲｱｽ電流 f_{CLK_ADC}≦6MHzで使用可	75%ﾊﾞｲｱｽ電流 f_{CLK_ADC}≦4MHzで使用可	50%ﾊﾞｲｱｽ電流 f_{CLK_ADC}≦2.5MHzで使用可	25%ﾊﾞｲｱｽ電流 f_{CLK_ADC}≦1.25MHzで使用可

● **ﾋﾞｯﾄ2,1 – ADCPGASAMPDUR1,0 : ADC PGA採取持続時間** (ADC PGA Sample Duration)

このﾋﾞｯﾄ領域はPGAを採取するADC用採取持続時間を制御します。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
名称	6CLK	15CLK	20CLK	–
説明	6 CLK_ADC周期 f_{CLK_ADC}≦1.25MHzで使用可	15 CLK_ADC周期 f_{CLK_ADC}≦5MHzで使用可	20 CLK_ADC周期 f_{CLK_ADC}≦6MHzで使用可	(予約)

● **ﾋﾞｯﾄ0 – PGAEN : PGA許可** (PGA Enable)

このﾋﾞｯﾄは窓比較器によってどの供給元が使われるかを制御します。入力多重器(ADCn.MUXPOSまたはADCn.MUXNEG)ﾚｼﾞｽﾀの経由(VIA)ﾋﾞｯﾄ領域によって選ばれた時にPGAが許可されるか否かを制御します。

値	0	1
説明	PGAが禁止されます。	PGAが許可されます。

注: 例えVIAﾋﾞｯﾄ領域によって選ばれていなくても、制御A(ADCn.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの低遅延(LOWLAT)とPGAENの両方が'1'の場合、PGAは継続的にONです。これはADCがPGAを使うように構成設定する場合に初期化時間をなくします。

30.5.13. MUXPOS – 正入力多重器 (Positive Input Multiplexer)

名称 : MUXPOS
変位 : +$0C
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	VIA1,0		MUXPOS5~0					
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7,6 – VIA1,0 : 経由** (Via PGA)

このﾋﾞｯﾄ領域はｱﾅﾛｸﾞ入力がどうADCに接続されるかを制御します。

値	0 0	0 1	その他
名称	DIRECT	PGA	–
説明	ADCへ直接接続される入力	PGA経由でADCへ接続される入力	(予約)

注: MUXPOSとMUXNEGのVIAﾋﾞｯﾄ領域は共有され、故に2つのﾚｼﾞｽﾀの1つのVIAﾋﾞｯﾄ領域に書かれた値は両方で更新されます。従って、PGAを使う一方の入力とPGAを使わない他方を持つことはできません。

● **ﾋﾞｯﾄ5~0 – MUXPOS5~0 : 正入力多重器** (Positive Input Multiplexer)

このﾋﾞｯﾄ領域はどのｱﾅﾛｸﾞ入力がADC/PGAの正入力に接続されるかを制御します。この設定の変更は幾らかの安定時間を必要とします。更なる詳細については「電気的特性」章を参照してください。

値	$00	$01～$0F	$30	$31	$32	$33	その他
名称	DEFAULT	AIN1～AIN15	GND	VDDDIV10	TEMPSENSE	DACREF0	–
説明	内部接地	ADC入力1～15ﾋﾟﾝ	内部接地	VDD/10	温度感知器	AC0からのDACREF	(予約)

30.5.14. MUXNEG – 負入力多重器 (Negative Input Multiplexer)

名称 : MUXNEG
変位 : +$0D
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	VIA1,0		MUXNEG5~0					
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7,6 – VIA1,0 : 経由** (Via PGA)

このﾋﾞｯﾄ領域はｱﾅﾛｸﾞ入力がどうADCに接続されるかを制御します。

値	0 0	0 1	その他
名称	DIRECT	PGA	–
説明	ADCへ直接接続される入力	PGA経由でADCへ接続される入力	(予約)

注: MUXPOSとMUXNEGのVIAﾋﾞｯﾄ領域は共有され、故に2つのﾚｼﾞｽﾀの1つのVIAﾋﾞｯﾄ領域に書かれた値は両方で更新されます。従って、PGAを使う一方の入力とPGAを使わない他方を持つことはできません。

● **ﾋﾞｯﾄ5~0 – MUXNEG5~0 : 負入力多重器** (Negative Input Multiplexer)

このﾋﾞｯﾄ領域はどのｱﾅﾛｸﾞ入力がADC/PGAの負入力に接続されるかを制御します。この設定の変更は幾らかの安定時間を必要とします。更なる詳細については「電気的特性」章を参照してください。

値	$00	$01～$07	$30	$31	$33	その他
名称	DEFAULT	AIN1～AIN7	GND	VDDDIV10	DACREF0	–
説明	内部接地	ADC入力1～7ﾋﾟﾝ	内部接地	VDD/10	AC0からのDACREF	(予約)

30.5.15. RESULT – 結果 (Result)

名称 : RESULT (RESULT3,RESULT2,RESULT1,RESULT0)
変位 : +$10
ﾘｾｯﾄ : $00000000
特質 : –

ADCn.RESULT0～ADCn.RESULT3のﾚｼﾞｽﾀは32ﾋﾞｯﾄ値のADCn.RESULTを表します。最下位ﾊﾞｲﾄ(ﾋﾞｯﾄ7～0、接尾辞0)は変位原点でｱｸｾｽできます。n高いﾊﾞｲﾄ(ﾋﾞｯﾄ31～8)は変位+nでｱｸｾｽすることができます。

このﾚｼﾞｽﾀからの出力の詳細については「出力形式」項を参照してください。

ﾋﾞｯﾄ	31	30	29	28	27	26	25	24
	RESULT31~24							
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

ﾋﾞｯﾄ	23	22	21	20	19	18	17	16
	RESULT23~16							
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

ﾋﾞｯﾄ	15	14	13	12	11	10	9	8
	RESULT15~8							
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	RESULT7~0							
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ31~24 – RESULT31~24 : 結果ﾊﾞｲﾄ3** (Result byte 3)

このﾋﾞｯﾄ領域はADCn.RESULTﾚｼﾞｽﾀの最上位ﾊﾞｲﾄを構成します。

● **ﾋﾞｯﾄ23~16 – RESULT23~16 : 結果ﾊﾞｲﾄ2** (Result byte 2)

このﾋﾞｯﾄ領域はADCn.RESULTﾚｼﾞｽﾀの第3ﾊﾞｲﾄを構成します。

● **ﾋﾞｯﾄ15~8 – RESULT15~8 : 結果ﾊﾞｲﾄ1** (Result byte 1)

このﾋﾞｯﾄ領域はADCn.RESULTﾚｼﾞｽﾀの第2ﾊﾞｲﾄを構成します。

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – RESULT7~0 : 結果ﾊﾞｲﾄ0** (Result byte 0)

このﾋﾞｯﾄ領域はADCn.RESULTﾚｼﾞｽﾀの最下位ﾊﾞｲﾄを構成します。

30.5.16. SAMPLE – 採取 (Sample)

名称 : SAMPLE (SAMPLEH,SAMPLEL)
変位 : +$14
ﾘｾｯﾄ : $0000
特質 : –

ADCn.SAMPLEHとADCn.SAMPLELのﾚｼﾞｽﾀ対は16ﾋﾞｯﾄ値のADCn.SAMPLEを表します。下位ﾊﾞｲﾄ(ﾋﾞｯﾄ7～0、接尾辞L)は変位原点でｱｸｾｽできます。上位ﾊﾞｲﾄ(ﾋﾞｯﾄ15～8、接尾辞H)は変位+1でｱｸｾｽすることができます。

このﾚｼﾞｽﾀからの出力の詳細については「出力形式」項を参照してください。

ﾋﾞｯﾄ	15	14	13	12	11	10	9	8
	SAMPLE15~8							
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	SAMPLE7~0							
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ15~8 – SAMPLE15~8 : 採取上位ﾊﾞｲﾄ** (Sample high byte)

このﾋﾞｯﾄ領域はこの16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀの上位ﾊﾞｲﾄを構成します。

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – SAMPLE7~0 : 採取下位ﾊﾞｲﾄ** (Sample low byte)

このﾋﾞｯﾄ領域はこの16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀのの下位ﾊﾞｲﾄを構成します。

30.5.17. TEMPn – 一時n (Temporary n)

名称 : TEMP0 : TEMP1 : TEMP2
変位 : +$18 : +$19 : +$1A
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

一時ﾚｼﾞｽﾀはこの周辺機能の16ﾋﾞｯﾄと32ﾋﾞｯﾄのﾚｼﾞｽﾀへの単一周期ｱｸｾｽのためにCPUによって使われます。このﾚｼﾞｽﾀはこの周辺機能の全ての16ﾋﾞｯﾄと32ﾋﾞｯﾄのﾚｼﾞｽﾀに対して共通で、ｿﾌﾄｳｪｱによって読み書きすることができます。16ﾋﾞｯﾄと32ﾋﾞｯﾄのﾚｼﾞｽﾀの読み書きのより多くの詳細については「ﾒﾓﾘ」章の「16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀのｱｸｾｽ」と「32ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀのｱｸｾｽ」を参照してください。

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
	TEMP7~0							
ｱｸｾｽ種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ7~0 – TEMP7~0 : 一時値** (Temporary)

16ﾋﾞｯﾄと32ﾋﾞｯﾄのﾚｼﾞｽﾀに対する読み書き用の一時的なﾋﾞｯﾄ領域。

30.5.18. WINLT – 窓比較器下側閾値 (Window Comparator Low Threshold)

名称 : WINLT (WINLTH,WINLTL)
変位 : +$1C
リセット : $0000
特質 : –

このレジスタはADCの結果または採取(ADCn.RESULTまたはADCn.SAMPLE)のレジスタを監視するデジタル比較器用の16ビット下側閾値です。データ形式は変換動作形態と左揃え設定に従わなければなりません。

ADCn.WINLTHとADCn.WINLTLのレジスタ対は16ビット値のADCn.WINLTを表します。下位バイト(ビット7～0、接尾辞L)は変位原点でアクセスできます。上位バイト(ビット15～8、接尾辞H)は変位+1でアクセスすることができます。

累積動作でADC結果レジスタ監視時、窓比較器閾値は全ての累積と任意選択の尺度調整が済んだ後の結果に対して適用されます。

ビット	15	14	13	12	11	10	9	8
	WINLT15~8							
アクセス種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
	WINLT7~0							
アクセス種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

- **ビット15~8 – WINLT15~8 : 窓比較器下側閾値上位バイト** (Window Comparator Low Threshold high byte)

このビット領域は16ビット レジスタの上位バイトを保持します。

- **ビット7~0 – WINLT7~0 : 窓比較器下側閾値下位バイト** (Window Comparator Low Threshold low byte)

このビット領域は16ビット レジスタの下位バイトを保持します。

30.5.19. WINHT – 窓比較器上側閾値 (Window Comparator High Threshold)

名称 : WINHT (WINHTH,WINHTL)
変位 : +$14
リセット : $0000
特質 : –

このレジスタはADCの結果または採取(ADCn.RESULTまたはADCn.SAMPLE)のレジスタを監視するデジタル比較器用の16ビット上側閾値です。データ形式は変換動作形態と左揃え設定に従わなければなりません。

ADCn.WINHTHとADCn.WINHTLのレジスタ対は16ビット値のADCn.WINHTを表します。下位バイト(ビット7～0、接尾辞L)は変位原点でアクセスできます。上位バイト(ビット15～8、接尾辞H)は変位+1でアクセスすることができます。

累積動作でADC結果レジスタ監視時、窓比較器閾値は全ての累積と任意選択の尺度調整が済んだ後の結果に対して適用されます。

ビット	15	14	13	12	11	10	9	8
	WINHT15~8							
アクセス種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
	WINHT7~0							
アクセス種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

- **ビット15~8 – WINHT15~8 : 窓比較器上側閾値上位バイト** (Window Comparator High Threshold high byte)

このビット領域は16ビット レジスタの上位バイトを保持します。

- **ビット7~0 – WINHT7~0 : 窓比較器上側閾値下位バイト** (Window Comparator High Threshold low byte)

このビット領域は16ビット レジスタの下位バイトを保持します。

31. UPDI - 統一ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ/ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ ｲﾝﾀｰﾌｪｰｽ

31.1. 特徴

- 外部ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞとﾁｯﾌﾟ上ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ(OCD)用UPDI単線ｲﾝﾀｰﾌｪｰｽ
  - 高電圧またはﾋｭｰｽﾞによるﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ許可
  - ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞに対してﾃﾞﾊﾞｲｽのRESETﾋﾟﾝを使用
  - 操作中に汎用入出力(GPIO)ﾋﾟﾝ占有なし
  - 書き込み器に対する非同期半二重UART規約
- ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ
  - 組み込み誤り検出と誤り識票生成
  - より速いﾌﾟﾛｸﾞﾐﾝｸﾞのための応答生成無効
- ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ
  - ﾃﾞﾊﾞｲｽのｱﾄﾞﾚｽ空間(NVM,RAM,I/O)に対するﾒﾓﾘ割り当てｱｸｾｽ
  - ﾃﾞﾊﾞｲｽのｸﾛｯｸ周波数での制限なし
  - 制限なしの使用者ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ中断点(ﾌﾞﾚｰｸﾎﾟｲﾝﾄ)
  - 2つのﾊｰﾄﾞｳｪｱ中断点
  - 高度なOCD機能に対する支援
    - ｺｰﾄﾞ鑑定のためのCPUﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ｶｳﾝﾀ(PC)、ｽﾀｯｸ ﾎﾟｲﾝﾀ(SP)、ｽﾃｰﾀｽ ﾚｼﾞｽﾀ(SREG)の走行時読み出し
    - CRCでの中断/停止状況の検出と合図
    - 実行、停止、ﾘｾｯﾄのﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ命令用ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの流れ制御
  - ｼｽﾃﾑ ﾚｼﾞｽﾀのｱｸｾｽなしでの非干渉走行時ﾁｯﾌﾟ監視
  - 施錠されたﾃﾞﾊﾞｲｽでのﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘのCRC検査結果を読むためのｲﾝﾀｰﾌｪｰｽ

31.2. 概要

統一ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ/ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ ｲﾝﾀｰﾌｪｰｽ(UPDI)は外部書き込み器とﾃﾞﾊﾞｲｽのOCD用の専用ｲﾝﾀｰﾌｪｰｽです。

UPDIは不揮発性ﾒﾓﾘ(NVM)空間のﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ、EEPROM、ﾋｭｰｽﾞ、施錠ﾋﾞｯﾄ、そして使用者列のﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞを支援します。いくつかのﾒﾓﾘ割り当てﾚｼﾞｽﾀは許可された正しいｱｸｾｽ特権(鍵、施錠ﾋﾞｯﾄ)でだけ、そしてOCD停止動作または特定のﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ動作でだけｱｸｾｽ可能です。これらの動作はUPDIに正しい鍵を送ることによって解錠されます。NVM制御器経由のﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞとNVM制御器指令の実行については「NVMCTRL - 不揮発性ﾒﾓﾘ制御器」章をご覧ください。

UPDIは3つの分離された規約層、UPDI物理(PHY)層、UPDIﾃﾞｰﾀ ﾘﾝｸ(DL)層、UPDIｱｸｾｽ(ACC)層に分割されます。既定PHY層は接続された書き込み器/ﾃﾞﾊﾞｯｶﾞに対してUPDIﾋﾟﾝ線を渡る双方向UART通信を扱い、単線通信動作で到着ﾃﾞｰﾀ ﾌﾚｰﾑでのﾃﾞｰﾀ再生とｸﾛｯｸ再生を提供します。受け取った命令と対応するﾃﾞｰﾀはDL層によって処理され、復号された命令に基づいてACC層との通信の準備をします。ｼｽﾃﾑ ﾊﾞｽとﾒﾓﾘ割り当てﾚｼﾞｽﾀへのｱｸｾｽはACC層を通して許されます。

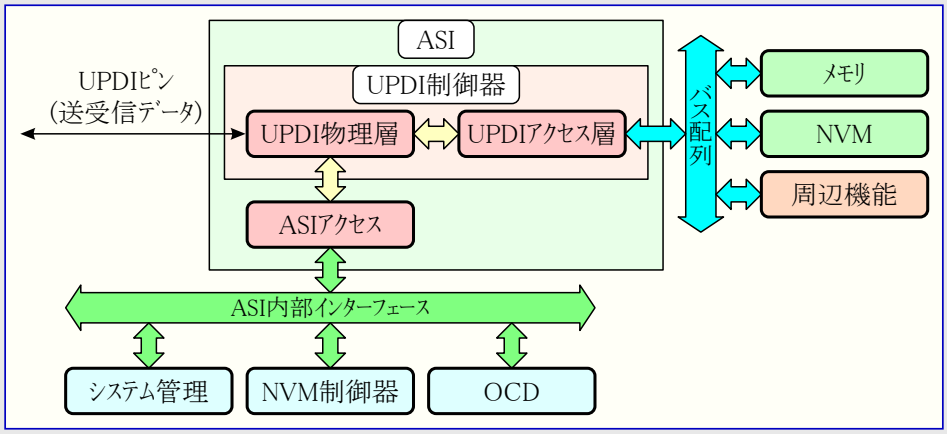
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞとﾃﾞﾊﾞｯｸﾞはﾃﾞｰﾀの受信と送信に$\overline{\text{RESET}}$ﾋﾟﾝを使う半二重ｲﾝﾀｰﾌｪｰｽに基づく単線UARTです。PHY層のｸﾛｯｸ駆動は専用内部発振器によって行われます。

ACC層はUPDIと接続されたﾊﾞｽ配列間のｲﾝﾀｰﾌｪｰｽです。この層はﾒﾓﾘ、NVM、周辺機能のようなｼｽﾃﾑ部へのﾒﾓﾘ割り当てｱｸｾｽを持つﾊﾞｽ配列に対してUPDI経由でのｱｸｾｽを許します。

非同期ｼｽﾃﾑ ｲﾝﾀｰﾌｪｰｽ(ASI:Asynchronous System Interface)はOCD、NVM、ｼｽﾃﾑ管理系で機能を選ぶための直接ｲﾝﾀｰﾌｪｰｽｱｸｾｽを提供し、これはﾊﾞｽ ｱｸｾｽを要求することなく、ｼｽﾃﾑ情報への直接ｱｸｾｽをﾃﾞﾊﾞｯｶﾞに与えます。

31.2.1. 構成図

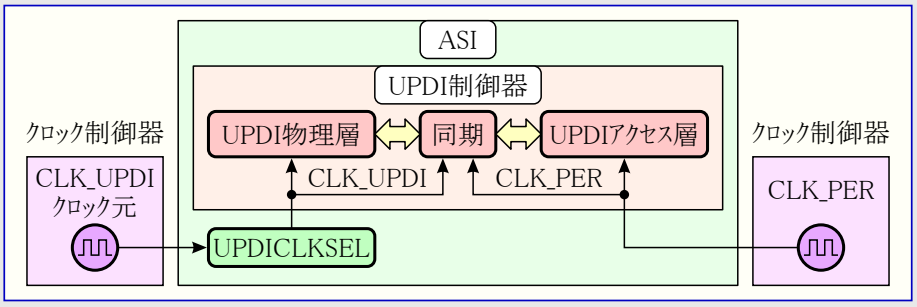
図31-1. UPDI構成図



31.2.2. クロック

PHY層とACC層は違うクロック領域で動くことができます。PHY層クロックは専用内部発振器から得られ、ACC層クロックは周辺機能クロックと同じです。PHY層とACC層間にはクロック領域間の正しい動作を保証する同期境界があります。UPDIクロック出力周波数はASIを通して選ばれ、UPDI許可またはリセット後の既定UPDIクロック始動周波数は4MHzです。UPDIクロック周波数はASI制御A(UPDI,ASI_CTRLA)レジスタのUPDIクロック分周器選択(UPDICLKSEL)ビット領域を書くことによって変更することができます。

図31-2. UPDIクロック領域



31.2.3. 物理層

PHY層は接続された書き込み器/デバッガとデバイス間の通信インターフェースです。PHY層の主な機能は次のように要約することができます。

- UPDIピンで非同期半二重UART通信を使い、UPDI単線動作を支援
- 内部ボーレート検出、UARTフレームでのクロックとデータの再生
- 異常検出(パリティ、クロック再生、フレーム、システム異常)
- 送信応答生成(ACK)
- 動作中の異常識票の生成
- 保護時間制御

31.2.4. I/O線と接続

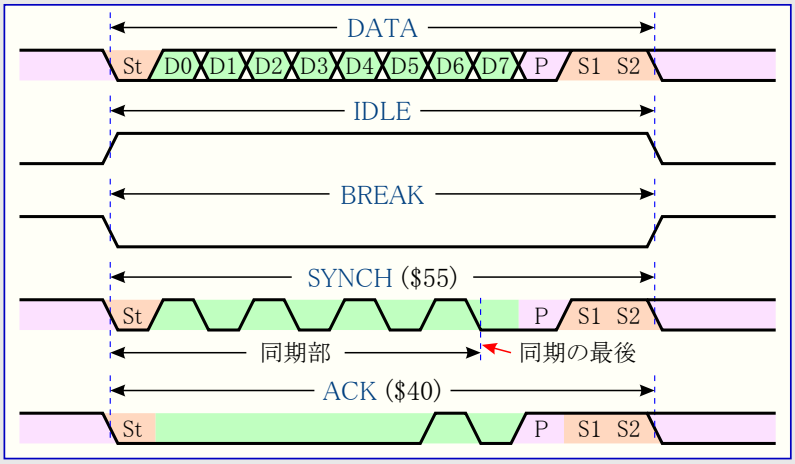
UPDIを操作するには、RESETピンがUPDI動作に設定されなければなりません。これは通常のI/Oピン用としてPORT I/Oピン構成設定を通してではなく、「RESETピンのヒューズ無効化でのUPDI許可」で記述されるようにシステム構成設定0(FUSE.SYSCFG0)ヒューズのRESETピン構成設定(RSTPINCFG)ビットを('01'に)設定することを通して、または「RESETピンの高電圧無効化でのUPDI許可」からのUPDI高電圧許可手順に従うことによって行われます。プルアップ許可、入力許可、出力許可の設定は活性の時にUPDIによって自動的に制御されます。

31.3. 機能的な説明

31.3.1. 動作の原理

UPDIを通す通信は固定フレーム形式、クロックとデータの再生に対する自動ボーレート検出を用いる標準USART通信に基づきます。データ フレームに加えて、通信のためにいくつかの制御フレーム(DATA、IDLE、BREAK、SYNCH、ACK)が重要です。

図31-3. 支援されるUPDIフレーム形式



フレーム	説明
DATA	DATAフレームは常にLowの1開始(St)ビット、8データ ビット、偶数パリティ用の1パリティ(P)ビット、常にHighの2停止(S1とS2)ビットから成ります。パリティ ビットまたは停止ビットが不正な値を持つ場合、誤りが検出されてUPDIによって合図されます。UPDIでのパリティ ビット検査は制御A(UPDI.CTRLA)レジスタのパリティ禁止(PARD)ビットに('1'を)書くことによって禁止することができ、その場合、デバッガからのパリティ生成は無視されます。
IDLE	これは最小12個のHighビットから成る特別なフレームです。これは送信線をアイドル(IDLE)状態で維持するのと同じです。
BREAK	最小12個のLowビットから成る特別なフレームです。UPDIを既定状態に戻してリセットするのに使われ、代表的に異常回復に使われます。
SYNCH	SYNCHフレームは到着する伝送に対してボーレートを設定するため、ボーレート生成部によって使われます。SYNCH文字は毎回の新しい命令の前とBREAKが成功裏に送信された後でUPDIによって常に期待されます。
ACK	ACKフレームはSTまたはSTSの命令が成功裏に同期境界を渡ってバス アクセスを得られた時に必ずUPDIから送信されます。デバッガによってACKが受信されると、次の送信を開始することができます。

31.3.1.1. UPDI UART

通信はデバッガ/書き込み器側から開始されます。毎回の送信はSYNCH文字で開始しなければならず、これはUPDIが送信ボーレートを再生して到着データ用にこの設定を格納するのに使うことができます。SYNCH文字によって設定されるボーレートは後続する命令とデータのバイトの受信と送信の両方に使われます。次のSYNCH文字が命令の流れで予期される時の詳細については「UPDI命令一式」項をご覧ください。

UPDIには書き込み可能なボーレート レジスタがなく、故にデータ バイトを採取する時のデータ再生にSYNCH文字から採取されたボーレートが使われます。

PHY層の送信ボーレートは選んだUPDIクロックに関連付けされ、ASI制御A(UPDI.ASI_CTRLA)レジスタのUPDIクロック分周器選択(UPDICLKSEL)ビット領域を書くことによって調整することができます。送受信のボーレートは自動ボーレートの精度内で常に同じです。

UPDIボーレート生成部は送信誤差を最小にするため、分数ボーレート計数を利用します。UPDIによって使われる固定フレーム形式での最大と推奨される受信部転送誤差限度は表31-2.で見ることができます。

表31-1. UPDICLKSEL設定に基づく推奨UARTボーレート

UPDICLKSEL1,0	最大推奨ボーレート	最小推奨ボーレート
0 1 (16MHz)	0.9 Mbps	300 bps
1 0 (8MHz)	450 kbps	150 bps
1 1 (4MHz) - 既定	225 kbps	75 bps

表31-2. 受信部ボーレート誤差

データ+パリティ ビット	R_{slow}(%)	R_{fast}(%)	最大総合許容誤差(%)	推奨最大受信許容誤差(%)
9	96.39	104.76	-3.61～+4.76	±1.5

31.3.1.2. BREAK文字

中断(BREAK)文字はUPDIの内部状態を既定設定にリセットするのに用いられます。これは通信異常のためにUPDIが異常状態に入った場合、またはデバッガとUPDI間の同期が失われた時に有用です。

全ての場合でBREAKがUPDIによって成功裏に受信されるのを保証するため、デバッガは2つの連続するBREAK文字を送らなければなりません。最初のBREAKはUPDIがアイドル状態の場合に検出され、(非常に低いボーレートで)UPDIが受信または送信している間にそれが送られた場合に検出されません。けれども、これは受信(RX)に対するフレーム異常または送信(TX)に対する衝突異常を引き起こし、進行中の操作を中止します。その後、UPDIは次のBREAKを成功裏に検出します。

BREAK受信で、ASI制御A(UPDI.ASI_CTRLA)レジスタのUPDI発振器設定が4MHzの既定UPDIクロック選択にリセットされます。これは表31-1.に従ってUPDIのボーレート範囲を変更します。

31.3.1.2.1. 単線動作でのBREAK

単線動作で、書き込み器/デバッガとUPDIは完全に同期が外れることがあり、UPDIがそれを検出できることを保証するためにBREAK文字の最悪長を必要とします。4MHz(250ns)の最低UPDIクロック速度と仮定し、16ビットに含まれ得る8ビットSYNCH様式値の最大長は、65535×250ns=16.4ms/バイト=16.4ms/8ビット=2.05ms/ビットです。

これは最低の前置分周器設定に対して2.05ms×12ビット≒24.6msの最悪BREAKフレーム持続時間を与えます。前置分周器設定が既知なら、BREAKフレームの時間は表31-3.からの値に従って緩和されます。

表31-3. 推奨中断(BREAK)文字持続時間

UPDICLKSEL1,0	推奨BREAK文字持続時間
0 1 (16MHz)	6.15 ms
1 0 (8MHz)	12.30 ms
1 1 (4MHz)	24.60 ms

31.3.1.3. SYNCH文字

同期(SYNCH)文字は8ﾋﾞｯﾄを持ち、通常のUPDIﾌﾚｰﾑ形式に従います。これは'$55'の固定値を持ちます。SYNCH文字は以下の2つの主な目的を持ちます。

1. 禁止後にUPDIに対する許可文字として働きます。
2. 後続する伝送用にﾎﾞｰﾚｰﾄを設定するため、ﾎﾞｰﾚｰﾄ生成部によって使われます。無効なSYNCH文字が送られた場合、次の伝送は正しく採取されません。

31.3.1.3.1. 単線動作でのSYNCH

SYNCH文字は各新規命令の前に使われます。REPEAT命令を使う時に、SYNCH文字はREPEAT後の最初の命令の前でだけ期待されます。

SYNCHは既知の文字で、各ﾋﾞｯﾄに対する交互切り替わりの特性を通して、8ﾋﾞｯﾄSYNCH様式を採取するのにどの位のUPDIｸﾛｯｸ周期が必要とされるかの測定をUPDIに許します。この採取を通して得られた情報は受信での非同期ｸﾛｯｸ再生と非同期ﾃﾞｰﾀ再生を提供するのと送信動作を行う時に接続された書き込み器のﾎﾞｰﾚｰﾄを保つのに使われます。

31.3.2. 操作

UPDIはUART通信が開始され得るのに先立って許可されなければなりません。

31.3.2.1. UPDI許可

UPDI用許可手順はﾃﾞﾊﾞｲｽと無関係で以下の項で記述されます。

31.3.2.1.1. 単線許可

UPDIﾋﾟﾝは内部ﾌﾟﾙｱｯﾌﾟ抵抗を持ち、200nsを超える間UPDIﾋﾟﾝをLowに駆動することにより、接続された書き込み器が始動手順を始めます。

負端遷移が(複数電圧ｼｽﾃﾑの場合に、高電圧領域に置かれた)端検出器にUPDIﾋﾟﾝのLow駆動を始めさせ、故に書き込み器が線を開放した時に要求したUPDI発振器の準備が整うまでLowに留まります。ｸﾛｯｸに対して期待される到来時間は精度、行き過ぎ、発振器校正の読み出しに関する発振器実装に依存します。複数電圧ｼｽﾃﾑについて、線は調整器が正しい水準になるまでLowに駆動され、ｼｽﾃﾑは選んだ発振器の準備が整って安定な状態で通電されます。書き込み器はﾋﾟﾝが再びHighに遷移する時を検出するためにそれを開放した後、最初にUPDIﾋﾟﾝをﾎﾟｰﾘﾝｸﾞしなければなりません。この遷移は端検出器がﾋﾟﾝ(ﾌﾟﾙｱｯﾌﾟ)を開放し、UPDIがSYNCH文字を受信することができることを意味します。SYNCH文字の成功裏の検出で、UPDIは許可され、最初の命令の受信に対して準備します。

伝送許可手順は次の図で示され、書き込み器と端検出器に対する駆動活動期間が含まれます。"UPDIﾋﾟﾝ"波形は常にﾋﾟﾝ値を示します。

端検出器駆動活動期間に対して与えられる遅延は代表的に16MHz発振器での256周期間の始動時間待ち+校正読み出しです。予測される始動時間の詳細については「電気的特性」章を参照してください。

注: 許可手順のSYNCHが最初の命令に対してﾎﾞｰﾚｰﾄ生成部を準備するため、最初の許可SYNCH後に発行される最初の命令は余分なSYNCHが不要です。

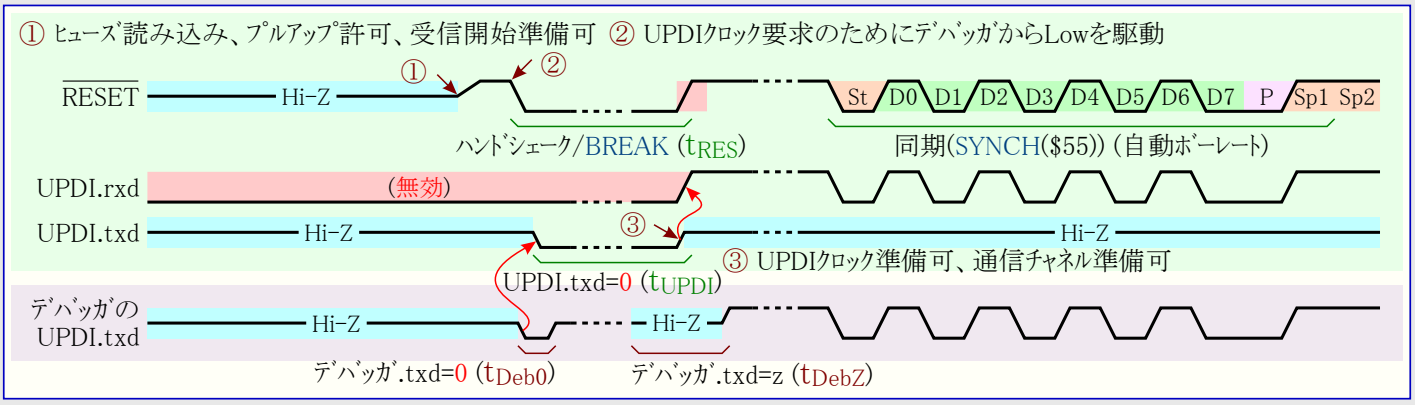
端検出器の予期せぬ起動が起きた場合に許可され続けるUPDIを避けるため、UPDIは自身を自動的に禁止してそれのｸﾛｯｸ要求を下げます。より多くの詳細については「31.3.2.2.1. 始動中の禁止」項をご覧ください。

31.3.2.1.2. $\overline{\text{RESET}}$ﾋﾟﾝのﾋｭｰｽﾞ無効化でのUPDI許可

ｼｽﾃﾑ構成設定0(FUSE.SYSCFG0)ﾋｭｰｽﾞのRESETﾋﾟﾝ構成設定(RSTPINCFG)ﾋﾞｯﾄが'01'の時に、RESETﾋﾟﾝは無効にされ、UPDIがこのﾋﾟﾝの制御を取ってﾌﾟﾙｱｯﾌﾟ付き入力として構成設定します。

ﾌﾟﾙｱｯﾌﾟが検出されると、図31-4.でように、ﾃﾞﾊﾞｯｶﾞは線をt_{Deb0}間Lowに駆動することによって許可手順を始めます。

図31-4. ﾋｭｰｽﾞによって許可されたUPDIﾊﾟｯﾄﾞでのUPDI許可手順



負端が検出されると、UPDIクロックが開始します。UPDIはクロックが安定するまで線をLowに駆動し続け、UPDIが使う準備が整います。t_{UPDI}の持続時間はUPDIが許可される時の発振器の状態に依存して変わります。この持続時間後、データ線がUPDIによって解放され、Highにプルアップされます。

線がHighであることをデバッガが検出すると、UPDI通信データ速度と同期するために最初の同期(SYNCH)文字($55)が送信されなければなりません。同期(SYNCH)文字の開始ビットが最大t_{DebZ}以内に送られなければ、UPDIは自身を禁止し、UPDI許可手順は再び開始されなければなりません。タイミング違反の場合、UPDIの予期せぬ許可を避けるため、UPDIが禁止されます。

同期(SYNCH)文字送信成功後、最初の命令フレームを送信することができます。

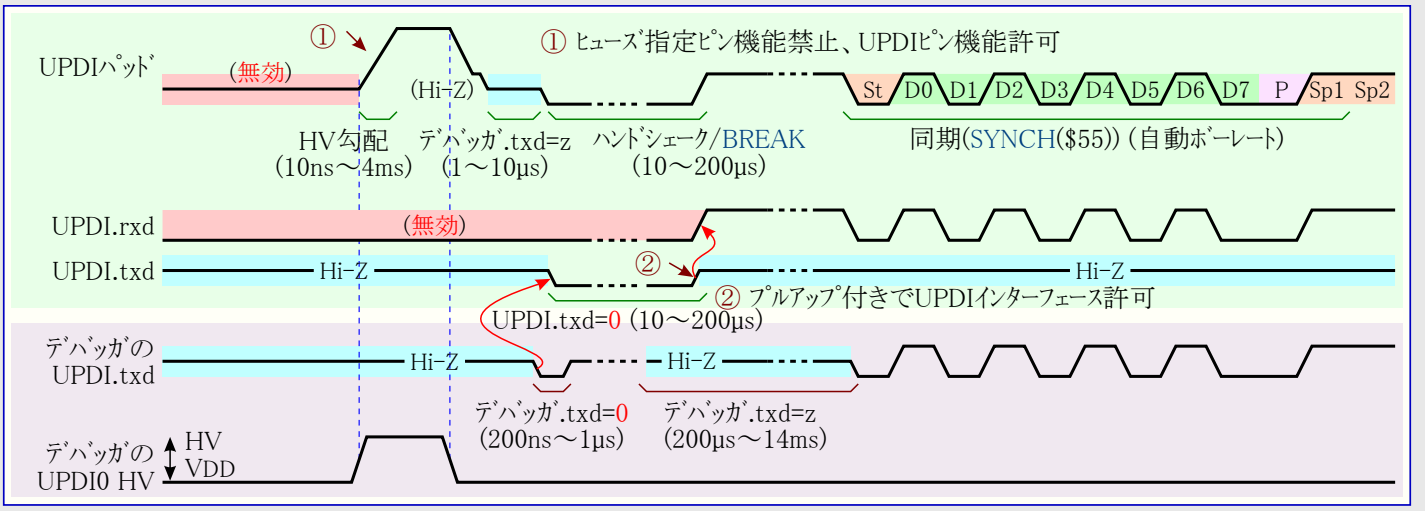
31.3.2.1.3. $\overline{\text{RESET}}$ピンの高電圧無効化でのUPDI許可

$\overline{\text{RESET}}$ピンの汎用入出力(GPIO)またはリセットの機能は高電圧(HV)プログラミングを使うことでUPDIによって無効にすることができます。$\overline{\text{RESET}}$ピンにHVパルスを印加すると、ピンの機能をUPDIに切り替えます。これはシステム構成設定0(FUSE.SYSCFG0)ヒューズの$\overline{\text{RESET}}$ピン構成設定(RSTPINCFG)と無関係です。ピン機能を無効化するには以下のこれらの手順に従ってください。

1. 推奨: HV許可手順を開始する前にデバイスをリセットしてください。
2. 図31-5.で記述されるようにHV信号を印加してください。
3. 書き込みを開始するため、最初の同期(SYNCH)文字後にKEY命令を使ってNVMPROG鍵を送ってください。施錠されたデバイスはCHIPERASE鍵だけを受け入れます。「チップ消去」項もご覧ください。
4. プログラミング終了後、STCS命令を使って制御B(UPDI.CTRLB)レジスタのUPDI禁止(UPDIDIS)ビットに'1'を書くことによってUPDIをリセットしてください。

電源投入中、$\overline{\text{RESET}}$信号はHVパルスが印加され得る前に開放されなければなりません。パルスの持続時間はHi-Zになる前に100µsから1msの範囲が推奨されます。HVパルスの上昇端印加時、UPDIはリセットになります。Hi-Z後、UPDIはデバッガによって$\overline{\text{RESET}}$ピンがLowに駆動されるまでリセットに留まります。これはUPDIリセットを開放し、「RESETピンのヒューズ無効化でのUPDI許可」での説明と同じ許可手順を始めます。

図31-5. 高電圧(HV)プログラミングよるUPDI許可手順



HVパルスによって許可されると、電源ONリセット(POR)は$\overline{\text{RESET}}$ピンでのUPDI構成設定を禁止して既定設定に復元するだけです。制御B(UPDI.CTRLB)レジスタのUPDI禁止(UPDIDIS)ビットを通してUPDI禁止指令を発行する場合、UPDIはリセットしてクロック要求が取り消されますが、$\overline{\text{RESET}}$ピンはUPDI構成設定に留まります。

注: 1. UPDIピンに加えられる外部保護が不充分な場合、ESDパルスがデバイスによってHV上書きとして解釈されてUPDIを許可し得ます。

2. UPDI HV活性化に対する実際の閾値電圧はVDDに依存します。より多くの詳細については「電気的特性」章をご覧ください。

31.3.2.1.4. 汎用入出力(GPIO)に対する出力許可計時器保護

システム構成設定0(FUSE.SYSCFG0)ヒューズの$\overline{\text{RESET}}$ピン構成設定(RSTPINCFG)ビットが'00'の時に、$\overline{\text{RESET}}$ピンは汎用入出力(GPIO)として構成設定されます。GPIOが出力を活動的に駆動するのとUPDI高電圧(HV)許可手順開始の間での潜在的な衝突を避けるため、GPIO出力駆動部はシステム リセット後に最小8.8ms間禁止されます。

HVプログラミング手順に入るのに先立って常に電源ONリセット(POR)を発行することが推奨されます。

31.3.2.2. UPDI禁止

31.3.2.2.1. 始動中の禁止

許可手順中、UPDIは無効な許可手順の場合に自身を禁止することができます。UPDIが電源管理に与えたどの要求もリセットしてUDPIを禁止状態に設定するために実装された2つの機構があります。新しい許可手順はその後にUPDIを許可することから始めなければなりません。

制限時間超過禁止

UPDIがそれのクロックを受け取った後に始動負端検出器がピンを開放する時、または複数電圧システムで調整器が安定でシステムが電力を持つ時、既定プルアップはPUDIピンをHighに駆動します。ピンがHighであることを書き込み器が検出せず、UPDIがピンを開放した後の4MHz UPDIクロックでの164ms内にSYNCH文字の送信を始めない場合、UPDIは自身を禁止します。

注: 始動発振周波数はデバイス依存です。UPDIは制限時間超過を発行するのに先立ってUPDIクロックで65536周期間計数します。

不正なSYNCH様式

不正なSYNCH様式は、SYNCH文字長がUPDIボーレート レジスタが含むことができる採取数よりも長い(溢れ)、または各ビットの採取長に対して扱うことができる最小分数計数よりも短い場合に検出されます。それらのどんな異常が検出された場合も、UPDIは自身を禁止します。

31.3.2.2.2. UPDI正常禁止

書き込み器切断後にUPDIからのどの特定操作も必要としないどのプログラミングまたはデバッグの作業も制御B(UPDI.CTRLB)レジスタのUPDI禁止(UPDIDIS)ビットに('1'を)書くことによって終了されなければならず、そこでUPDIはシステム リセットを発行して自身を禁止します。このリセットは直前の状態と無関係にCPUを走行状態に戻します。システムに対するUPDIクロック要求も下げて全てのUPDI鍵と設定もリセットします。

禁止操作が実行されない場合、UPDIと発振器の要求は許可に留まります。これは応用に対して消費電力増加を引き起こします。

31.3.2.3. UPDI通信異常処理

UPDIは異常の筋書きから回復する時にデバッガへ情報を提供する包括的な異常検出システムを含みます。この異常検出はパリティ誤り、衝突異常、フレーム異常のような物理転送異常から、アクセス制限時間超過異常のようなもっと上位の異常に至る検出から成ります。利用可能な異常識票の概要については状態B(UPDI.STATUSB)レジスタのUPDI異常識票(PESIG)ビット領域をご覧ください。

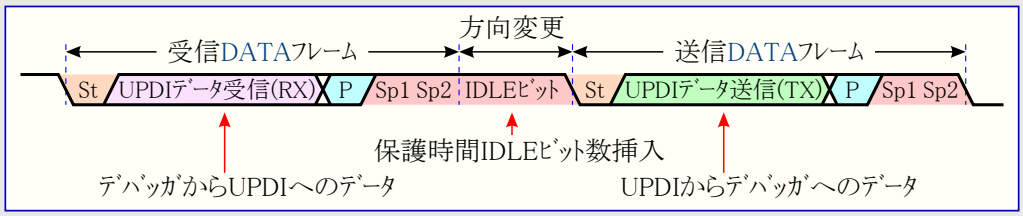
望まれないシステム通信を避けるため、UPDIは異常を検出する度、直ちに内部異常状態へ移行します。異常状態でUPDIはBREAK文字が受信される時を除き、全ての着信データ要求を無視します。異常状態から回復する時は常に以下の手続きが適用されなければなりません。

1. BREAK文字を送ってください。推奨されるBREAK文字の扱いについては「BREAK文字」をご覧ください。
2. 次のデータ転送に対して望むボーレートでSYNCH文字を送ってください。
3. 状態B(UPDI.STATUSB)レジスタのUPDI異常識票(PESIG)ビット領域を読んで発生した異常についての情報を得るために制御/状態取得(LDCS)命令を実行してください。
4. UPDIは今や異常状態から回復され、次のSYNCH文字と命令を受け取る準備が整います。

31.3.2.4. 方向変更

半二重UART動作に対して正しいタイミングを保証するため、UPDIはRX動作からTX動作へ方向を変更する時のタイミングを緩和するための組み込み保護時間機構を持ちます。保護時間は次の最初の応答バイトの開始ビットが送出される前に複数のアイドル(IDLE)ビットが挿入されることによって表されます。アイドル ビット数は制御A(UPDI.CTRLA)レジスタの保護時間値(GTVAL)ビット領域を通して構成設定することができます。各アイドル ビットの持続時間は現在の送信で使われるボーレートによって与えられます。

図31-6. アイドル(IDLE)ビット挿入によるUPDI方向変更



UPDI保護時間は接続されたデバッガがUPDIからのデータを待っている時に経験する最小アイドル時間です。最大アイドル時間は制限時間と同じです。送信前のアイドル時間は同期時間+データ バス アクセス時間が保護時間よりも長い時に意図した保護時間を超えるでしょう。

常にUPDI側で最小2保護時間ビットの挿入、デバッガ側で1保護時間周期挿入を使うことが推奨されます。

31.3.3. UPDI命令一式

UPDIを通す通信は小さな命令一式に基づきます。これらの命令はUPDIデータ リンク(DL)層の一部です。UPDIレジスタがメモリ割り当てシステム空間だけでなく、"ASIの制御と状態(CS)空間"と呼ばれる内部メモリ空間にも割り当てられるため、命令はUPDIレジスタをアクセスするのにも使われます。全ての命令はバイト命令で、通信に対するボーレートを決めるためにSYNCH文字が先行されなければなりません。送信に対するボーレート設定についての情報に関しては「UPDI UART」項をご覧ください。次図はUPDI命令一式の概要を与えます。

図31-7. UPDI命令一式概要

	指令				A量		D量	
LDS	0	0	0	0	0	x	0	x
STS	0	1	0	0	0	x	0	x
					PTR種別		A/D量	
LD	0	0	1	0	x	x	0	x
ST	0	1	1	0	x	x	0	x
					CSアドレス			
LDCS	1	0	0	0	x	x	x	x
STCS	1	1	0	0	x	x	x	x
							D量	
REPEAT	1	0	1	0	0	0	0	0
						SIB	K量	
KEY	1	1	1	0	0	x	0	x

指令			
0	0	0	LDS (直接アドレス指定データ取得)
0	0	1	LD (間接アドレス指定データ取得)
0	1	0	STS (直接アドレス指定データ設定)
0	1	1	ST (間接アドレス指定データ設定)
1	0	0	LDCS (LDS 制御/状態レジスタ)
1	0	1	REPEAT (繰り返し指定)
1	1	0	STCS (STS 制御/状態レジスタ)
1	1	1	KEY (作動鍵)

SIB (システム情報部選択)	
0	鍵受信
1	SIB送出

A量 (アドレス長)		
0	0	1バイト
0	1	2バイト (語) ≦64KBメモリ
1	0	3バイト ＞64KBメモリ
1	1	(予約)

D量 (データ長)		
0	0	1バイト
0	1	2バイト (語)
1	0	(予約)
1	1	(予約)

K量 (鍵長)		
0	0	64ビット (8バイト)
0	1	128ビット (16バイト)
1	0	(予約)
1	1	(予約)

PTR種別		
0	0	*(ptr) (ポインタ間接データ)
0	1	*(ptr++) (上記+ポインタ進行)
1	0	ptr (ポインタ レジスタ)
1	1	(予約)

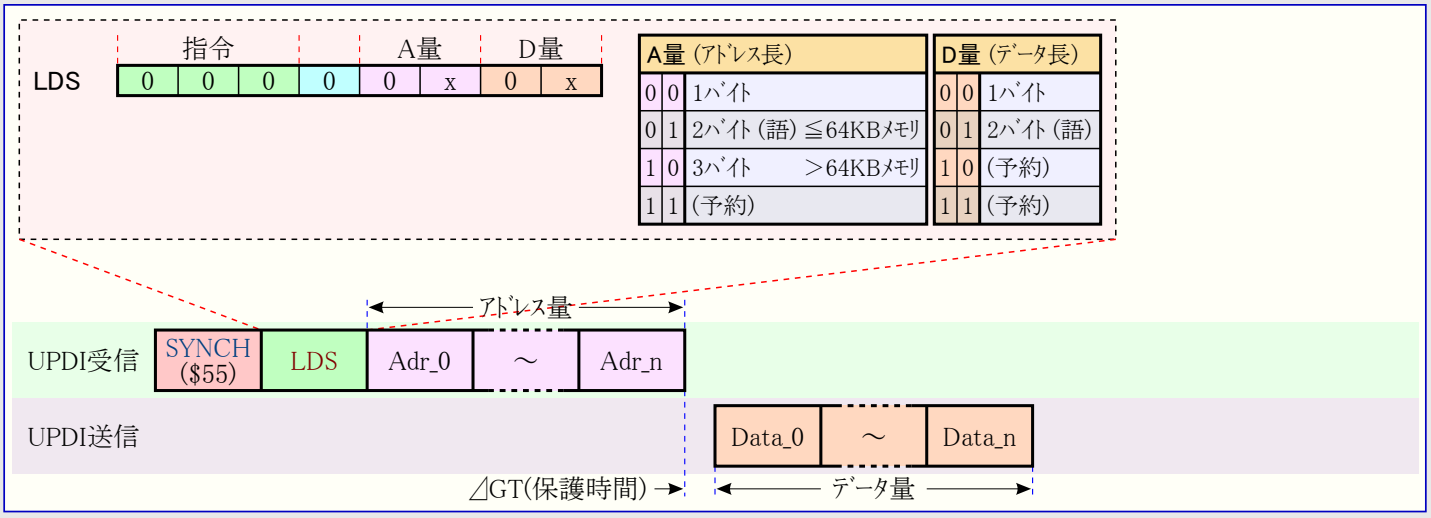
CSアドレス (制御/状態レジスタ)																			
0	0	0	0	STATUSA	0	1	0	0	(予約) (ASI)	1	0	0	0	ASI_RESET_REQ	1	1	0	0	ASI_CRC_STATUS
0	0	0	1	STATUSB	0	1	0	1	(予約) (ASI)	1	0	0	1	ASI_CTRLA	1	1	0	1	(予約)
0	0	1	0	CTRLA	0	1	1	0	(予約) (ASI)	1	0	1	0	ASI_SYS_CTRLA	1	1	1	0	(予約)
0	0	1	1	CTRLB	0	1	1	1	ASI_KEY_STATUS	1	0	1	1	ASI_SYS_STATUS	1	1	1	1	(予約)

31.3.3.1. LDS – 直接ｱﾄﾞﾚｽ指定を使うﾃﾞｰﾀ空間からのﾃﾞｰﾀ取得

LDS命令は直列読み出しのためにｼｽﾃﾑ ﾊﾞｽからPHY層移動ﾚｼﾞｽﾀ内へﾃﾞｰﾀを取得するのに使われます。LDS命令は直接ｱﾄﾞﾚｽ指定に基き、ｱﾄﾞﾚｽはﾃﾞｰﾀ転送を開始するために命令の引数として与えられなければなりません。ｱﾄﾞﾚｽとﾃﾞｰﾀに対して支援される最大の大きさは32ﾋﾞｯﾄです。LDS命令はREPERT命令と組み合わせた時に繰り返しﾒﾓﾘ ｱｸｾｽを支援します。

LDS命令発行後、A量領域によって示されるような望むｱﾄﾞﾚｽ ﾊﾞｲﾄ数、続いてD量領域によって選ばれる出力ﾃﾞｰﾀの大きさが送信さればければなりません。出力ﾃﾞｰﾀは指定された保護時間(GT)後に発行されます。REPERT命令と組み合わせると、繰り返しの反復毎にｱﾄﾞﾚｽが送られなければならず、毎回の出力ﾃﾞｰﾀ採取後に行われることを意味します。LDSでのREPERT使用時、直接ｱﾄﾞﾚｽ指定の規約を使うため、自動ｱﾄﾞﾚｽ進行はありません。

図31-8. LDS命令操作



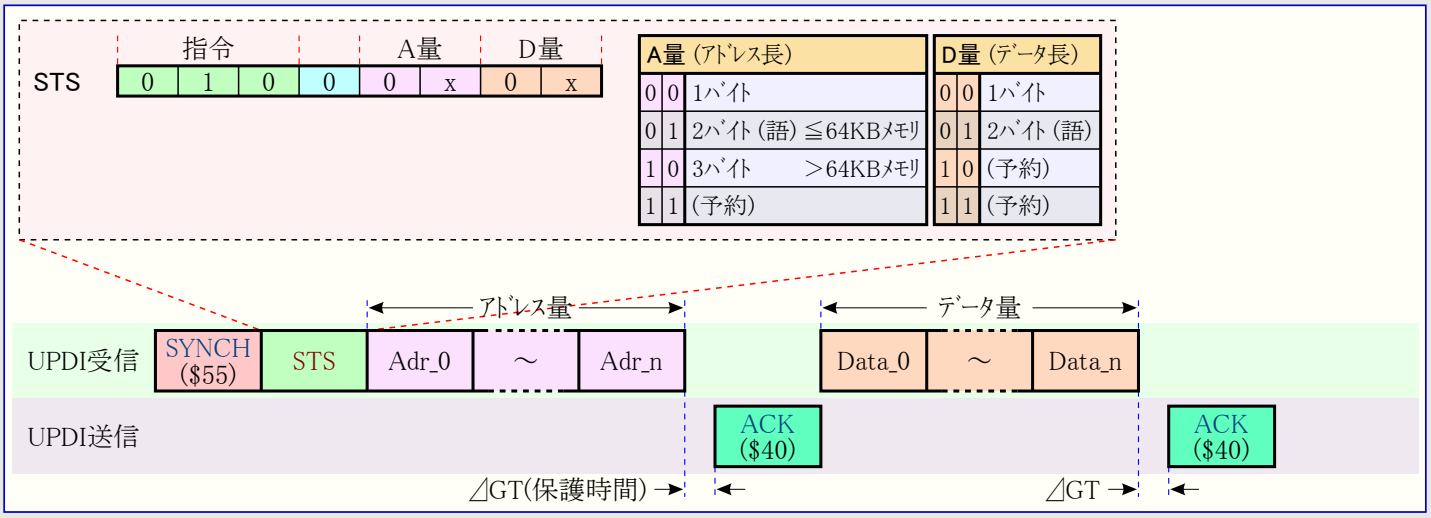
命令が復号され、復号された命令によって指示されるようにｱﾄﾞﾚｽ ﾊﾞｲﾄが受信されると、DL層は要求された全情報をACC層に同期し、これはﾊﾞｽ要求を処理してﾊﾞｽから緩衝されたﾃﾞｰﾀを再びDL層に戻して同期します。これはUPDIからのﾃﾞｰﾀ受信で考慮されなければならない同期化遅延を引き起こします。

31.3.3.2. STS – 直接ｱﾄﾞﾚｽ指定を使うﾃﾞｰﾀ空間へのﾃﾞｰﾀ格納

STS命令はPHY層へ直列に移動されたﾃﾞｰﾀをｼｽﾃﾑ ﾊﾞｽ ｱﾄﾞﾚｽ空間へ格納するのに使われます。STS命令は直接ｱﾄﾞﾚｽ指定に基づき、ｱﾄﾞﾚｽはﾃﾞｰﾀ転送を開始するための命令に対する被演算子として与えられなければなりません。ｱﾄﾞﾚｽは被演算子の最初の組でﾃﾞｰﾀが次の組です。ｱﾄﾞﾚｽとﾃﾞｰﾀの被演算子の大きさは図31-9.で提示される大きさ(量)領域で与えられます。ｱﾄﾞﾚｽとﾃﾞｰﾀの両方の最大の大きさは32ﾋﾞｯﾄです。

STS命令はREPERT命令と組み合わせた時に繰り返しﾒﾓﾘ ｱｸｾｽを支援します。

図31-9. STS命令操作



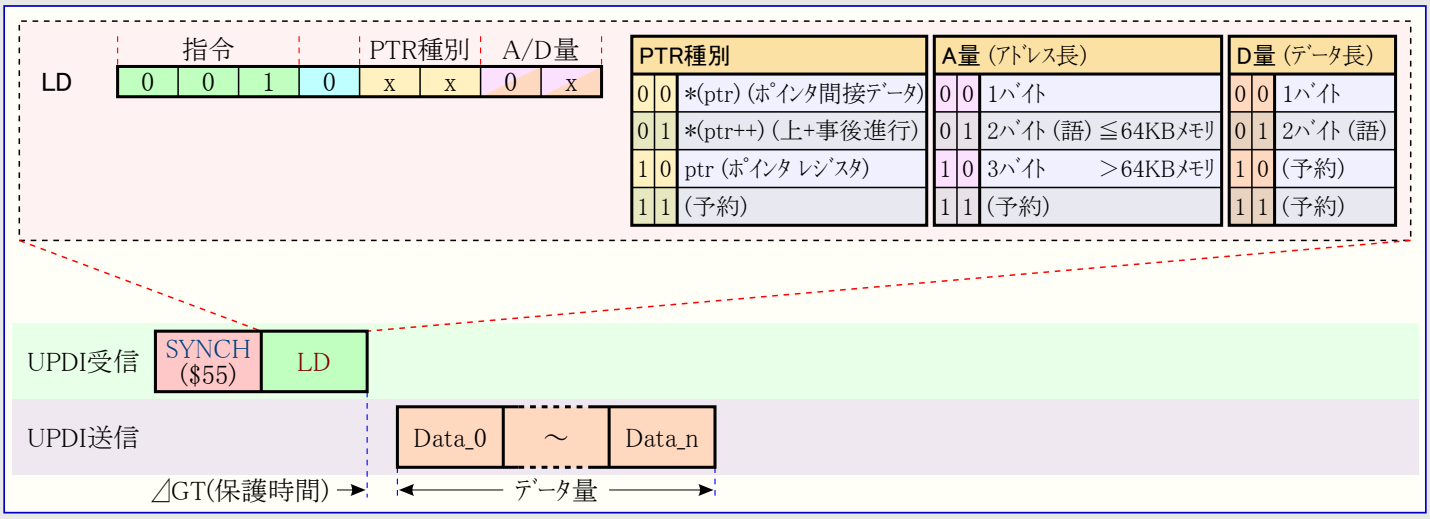
STS命令に関する転送規約は図31-9.で描かれ、以下のこの手順に従ってください。

1. ｱﾄﾞﾚｽを送られます。
2. 転送が成功した場合にUPDIから応答(ACK)が送り返されます。
3. STS命令で指定されるﾊﾞｲﾄ数が送られます。
4. ﾃﾞｰﾀが成功裏に送信されてしまった後に応答(ACK)が受信されます。

31.3.3.3. LD – 間接ｱﾄﾞﾚｽ指定を使うﾃﾞｰﾀ空間からのﾃﾞｰﾀ取得

LD命令は直列読み出しのためにﾃﾞｰﾀ空間からPHY層移動ﾚｼﾞｽﾀ内へﾃﾞｰﾀを取得するのに使われます。LD命令は間接ｱﾄﾞﾚｽ指定に基き、UPDIのｱﾄﾞﾚｽ ﾎﾟｲﾝﾀがﾃﾞｰﾀ空間読み込みｱｸｾｽに先立って書かれる必要があることを意味します。自動ﾎﾟｲﾝﾀ事後増加動作が支援され、LD命令がREPERT命令と共に使われる時に有用です。それはUPDIﾎﾟｲﾝﾀ ﾚｼﾞｽﾀからLDを行うことも可能です。ｱﾄﾞﾚｽとﾃﾞｰﾀの取得に対して支援される最大の大きさは32ﾋﾞｯﾄです。

図31-10. LD命令操作



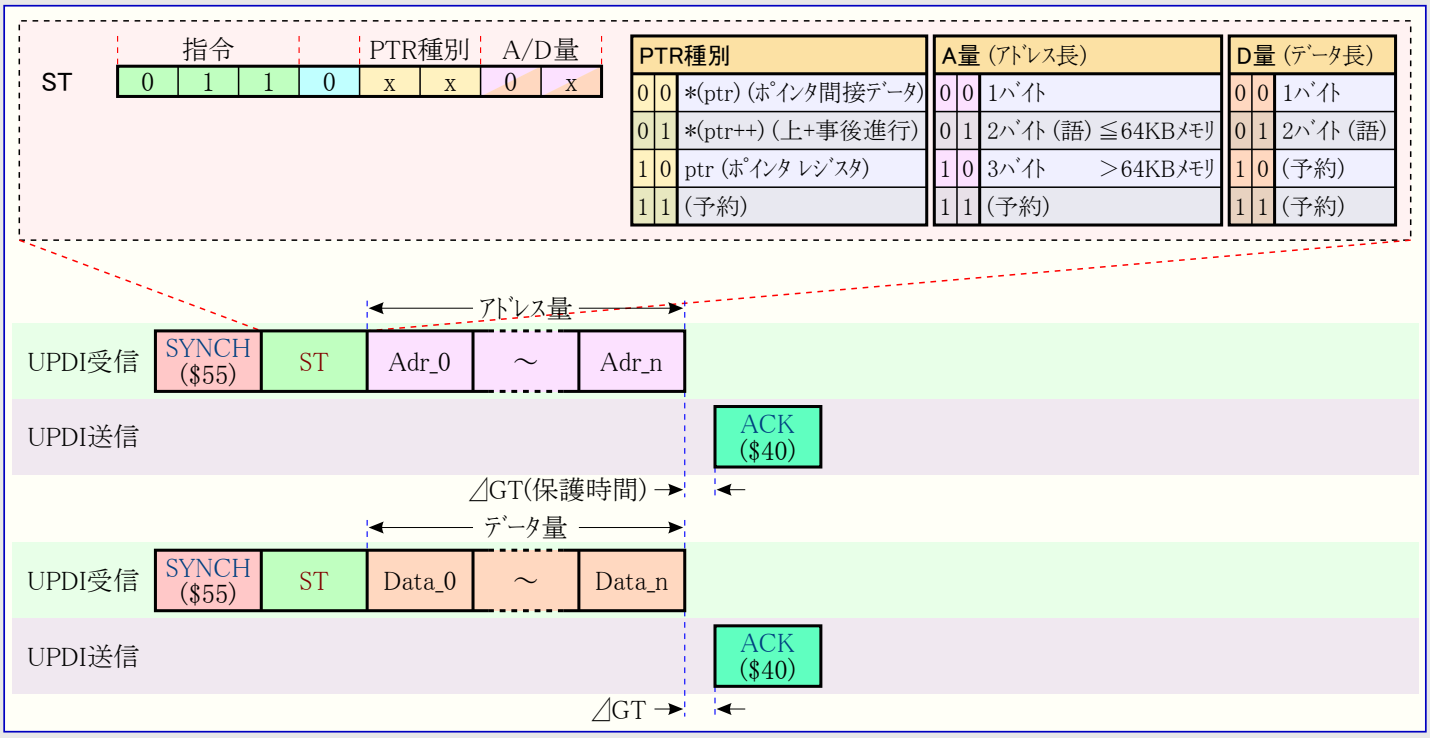
上図は保護時間区間後にﾃﾞｰﾀが受信される代表的なLD手順の例を示します。UPDIﾎﾟｲﾝﾀ ﾚｼﾞｽﾀからのﾃﾞｰﾀ取得は同じ転送処理規約に従います。

ﾃﾞｰﾀ空間からのLD命令に対し、ﾎﾟｲﾝﾀ ﾚｼﾞｽﾀはST命令を使うことによってUPDIﾎﾟｲﾝﾀ ﾚｼﾞｽﾀを設定しなければなりません。ﾎﾟｲﾝﾀ ﾚｼﾞｽﾀ書き込み成功でACKが受信された後、LD命令は望むﾃﾞｰﾀ量被演算子で設定しなければなりません。UPDIﾎﾟｲﾝﾀ ﾚｼﾞｽﾀに対する取得はLD命令で直接行われます。

31.3.3.4. ST – 間接ｱﾄﾞﾚｽ指定を使うﾃﾞｰﾀ空間へのﾃﾞｰﾀ格納

ST命令はUPDI PHY移動ﾚｼﾞｽﾀからのﾃﾞｰﾀをﾃﾞｰﾀ空間へ格納するのに使われます。ST命令はPHY層へ直列に移動されるﾃﾞｰﾀを格納するのに使われます。ST命令は間接ｱﾄﾞﾚｽ指定に基き、UPDIのｱﾄﾞﾚｽ ﾎﾟｲﾝﾀがﾃﾞｰﾀ空間に先立って書かれる必要があることを意味します。自動ﾎﾟｲﾝﾀ事後増加動作が支援され、ST命令がREPERT命令と共に使われる時に有用です。ST命令はﾎﾟｲﾝﾀ ﾚｼﾞｽﾀにUPDIｱﾄﾞﾚｽ ﾎﾟｲﾝﾀを格納するのにも使われます。ｱﾄﾞﾚｽとﾃﾞｰﾀを格納することに対して支援される最大の大きさは32ﾋﾞｯﾄです。

図31-11. ST命令操作



上図はUPDIﾎﾟｲﾝﾀ ﾚｼﾞｽﾀへのST命令と通常のﾃﾞｰﾀの格納の例を与えます。各命令の前に同期(SYNCH)文字が送られます。両方の場合でST命令が成功した場合にUPDIによって応答(ACK)が送り返されます。

UPDIﾎﾟｲﾝﾀ ﾚｼﾞｽﾀを書くには、以下の手順に従わなければなりません。

1. ST命令内のPTR種別領域を識別符'10'に設定してください。
2. ｱﾄﾞﾚｽ量(A量)領域を望むｱﾄﾞﾚｽ量(長)に設定してください。
3. ST命令発行後、A量のﾊﾞｲﾄ数のｱﾄﾞﾚｽ ﾃﾞｰﾀを送ってください。
4. ｱﾄﾞﾚｽ ﾚｼﾞｽﾀへの書き込み成功を意味するACK文字を待ってください。

ｱﾄﾞﾚｽ ﾚｼﾞｽﾀが書かれた後、ﾃﾞｰﾀ送出が同様に行われます。

1. UPDIﾎﾟｲﾝﾀ ﾚｼﾞｽﾀによって指定されるｱﾄﾞﾚｽに書くために、ST命令内のPTR種別領域を定義'00'に設定してください。PTR種別領域が'01'に設定されるなら、PUDIﾎﾟｲﾝﾀは書き込みが実行された後で命令のﾃﾞｰﾀ量(D量)領域に従って次のｱﾄﾞﾚｽへ自動的に更新されます。
2. 命令内のﾃﾞｰﾀ量(D量)領域を望むﾃﾞｰﾀ量(長)に設定してください。
3. ST命令送出後、D量のﾊﾞｲﾄ数のﾃﾞｰﾀを送ってください。
4. ﾊﾞｽ配列への書き込み成功を意味するACK文字を待ってください。

REPERT命令と共に使われる時は、ｱﾄﾞﾚｽ ﾚｼﾞｽﾀを書かれるべき塊の開始ｱﾄﾞﾚｽで設定して、各繰り返し周回に対してｱﾄﾞﾚｽを自動的に増加するためにﾎﾟｲﾝﾀ事後増加ﾚｼﾞｽﾀを使うことが推奨されます。REPERT命令使用時、各ACK受信後にﾃﾞｰﾀ量(D量)ﾊﾞｲﾄのﾃﾞｰﾀ ﾌﾚｰﾑを送ることができます。

31.3.3.5. LDCS – 制御/状態ﾚｼﾞｽﾀ空間からのﾃﾞｰﾀ取得

LDCS命令はDL層に置かれたUPDI制御/状態(CS)ﾚｼﾞｽﾀ空間からの直列読み出しﾃﾞｰﾀをPHY層移動ﾚｼﾞｽﾀに取得するのに使われます。LDCS命令はｱﾄﾞﾚｽが命令被演算子の一部である直接ｱﾄﾞﾚｽ指定に基づきます。LDCS命令はUPDI CSﾚｼﾞｽﾀ空間だけをｱｸｾｽすることができます。この命令はﾊﾞｲﾄ ｱｸｾｽだけを支援し、ﾃﾞｰﾀ量(長)は構成設定不可です。

図31-12. LDCS命令操作

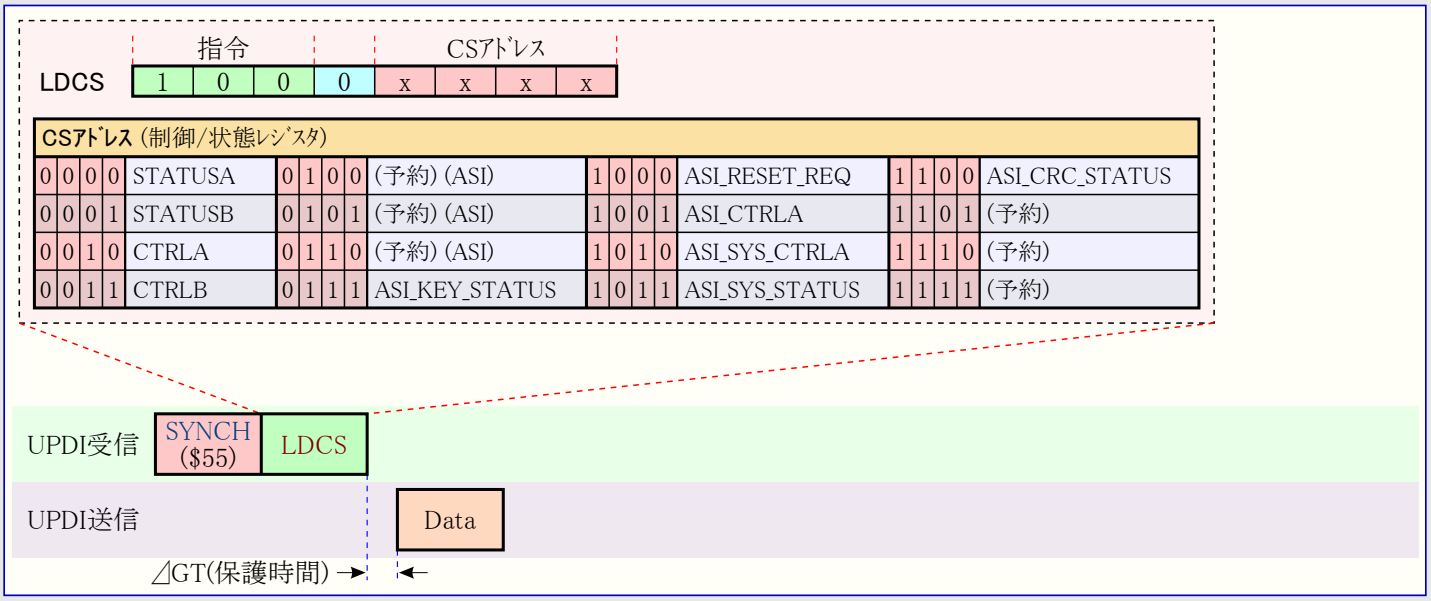


図31-12.はLDCSﾃﾞｰﾀ送信の代表的な例を示します。CS空間からのﾃﾞｰﾀ ﾊﾞｲﾄは保護時間が完了した後にUPDIから送信されます。

30.3.3.6. STCS – 制御/状態ﾚｼﾞｽﾀ空間へのﾃﾞｰﾀ格納

STCS命令はUPDI制御/状態(CS)ﾚｼﾞｽﾀ空間へﾃﾞｰﾀを格納するのに使われます。ﾃﾞｰﾀはPHY層移動ﾚｼﾞｽﾀに直列で移動され、選んだCSﾚｼﾞｽﾀに完全なﾊﾞｲﾄとして書かれます。STCS命令はｱﾄﾞﾚｽが命令被演算子の一部である直接ｱﾄﾞﾚｽ指定に基づきます。STCS命令は内部UPDIﾚｼﾞｽﾀ空間だけをｱｸｾｽすることができます。この命令はﾊﾞｲﾄ ｱｸｾｽだけを支援し、ﾃﾞｰﾀ量(長)は構成設定不可です。

図31-13. STCS命令操作

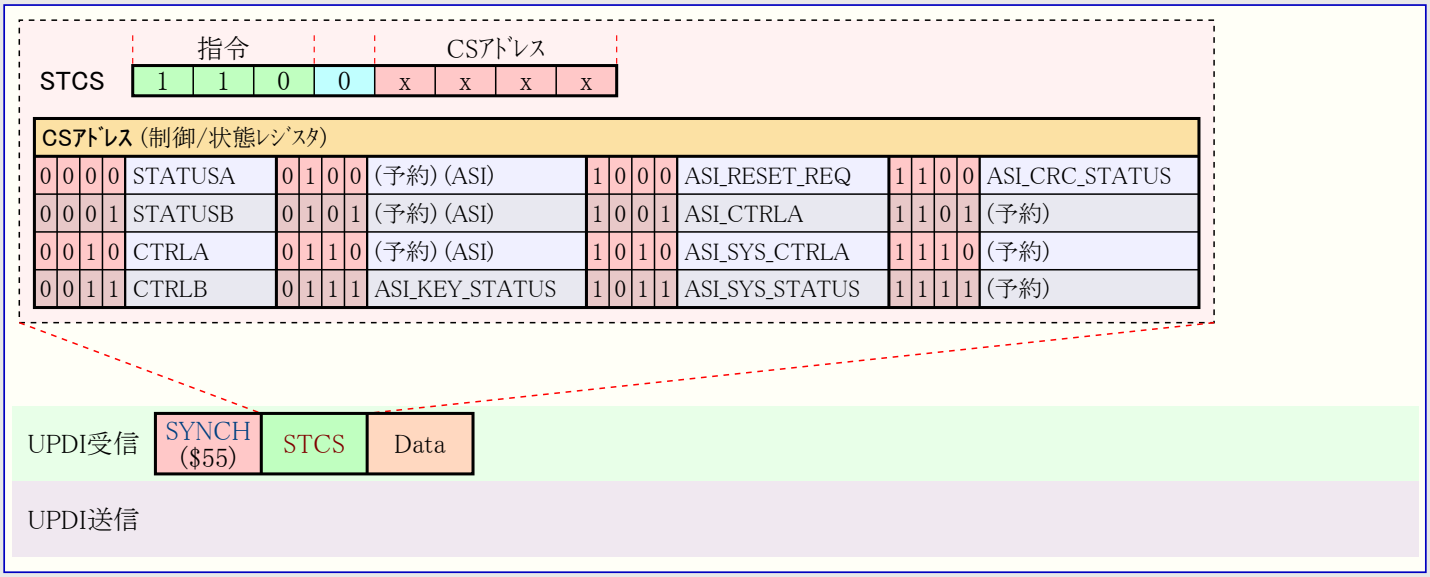


図31-13.はSYNCH文字と命令フレーム後に送信されるデータ フレームを示します。STCS命令は直ちにデータ バイトを続けることができます。CS空間からのデータ バイトは保護時間が完了した後にUPDIから送信されます。STとSTSと同様に、STCS命令から生成される応答はありません。

31.3.3.7. REPEAT – 命令繰り返し計数器設定

REPEAT命令はDL層でUPDI繰り返し計数器レジスタに繰り返し計数値を格納するのに使われます。命令がREPEATと共に使われると、REPEATが発行された後の最初の命令を除いて全ての命令でSYNCHと命令のフレームに対する規約付随作業を省略することができます。REPEATはメモリ命令(LD,ST,LDS,STS)に対して最も有用で、REPEAT命令自身を除き、全ての命令を繰り返すことができます。

データ量(D量)被演算子領域は繰り返し値の大きさを示します。256までの繰り返しだけが支援されます。REPEAT命令直後に設定される命令はRPT_0(の値)+1回発行されます。繰り返し計数器レジスタが'0'の場合、命令は1度だけ動きます。進行中の繰り返しはBREAK文字を送ることによってのみ中止することができます。

図31-14. REPEAT命令操作

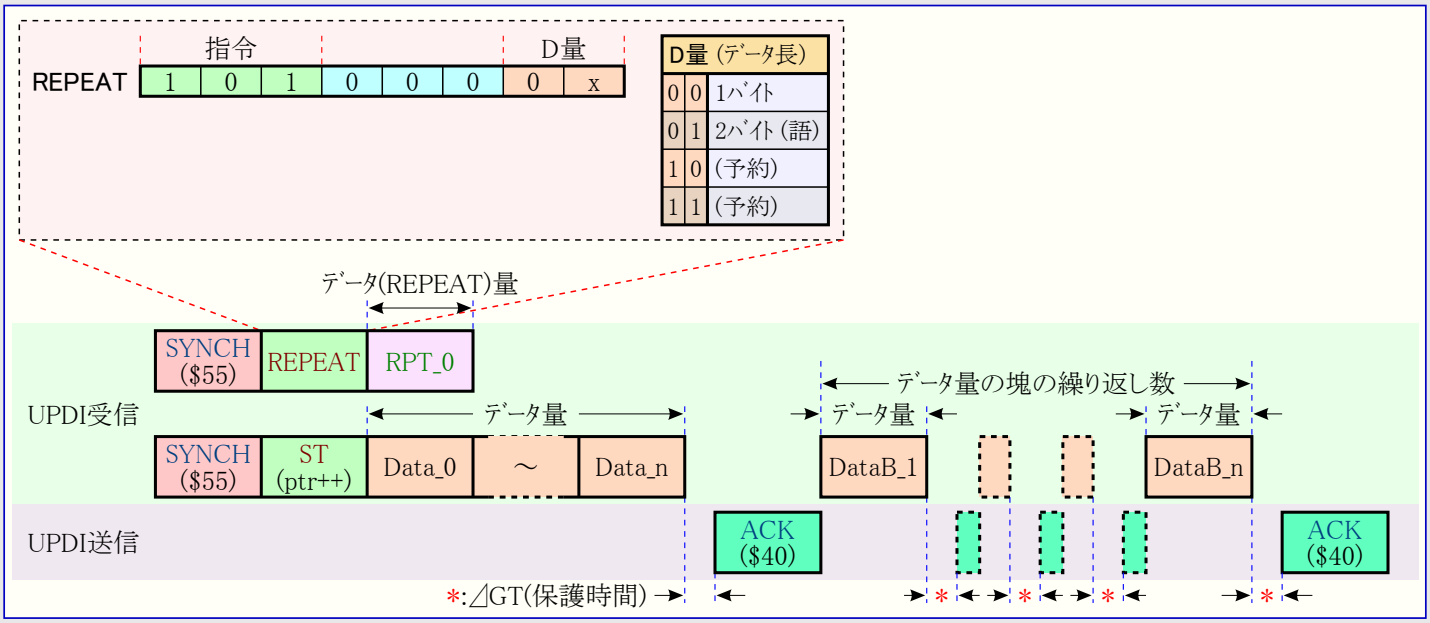
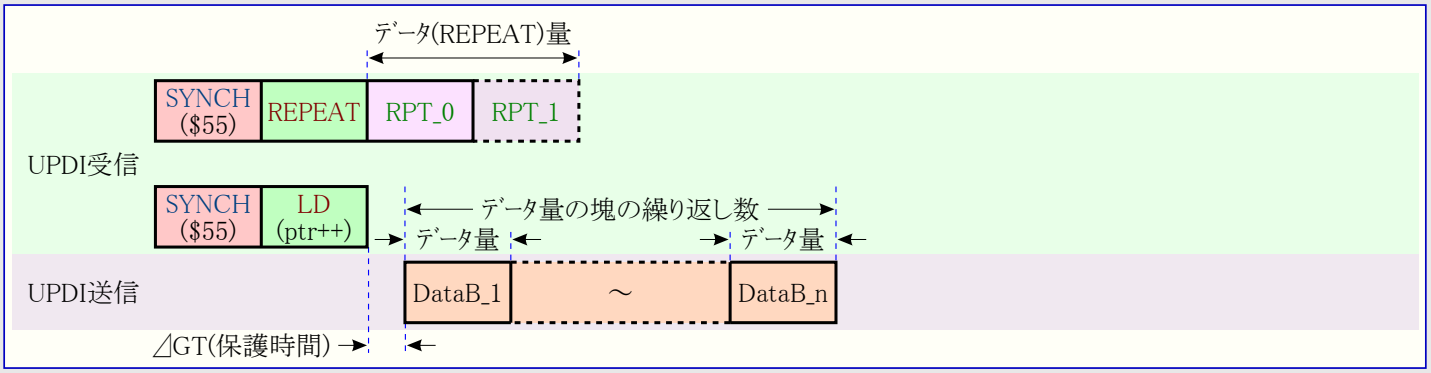


図31-14.はポインタ事後増加操作を用いるST命令での繰り返し操作の例を与えます。REPEAT命令がRPT_0=*n*で送られた後、最初のST命令はSYNCHと命令のフレームで発行される一方で、次からの*n*回のST命令はST被演算子のデータ量に従ってデータ バイトだけを送って応答(ACK)ハンドシェーク規約を維持することによって実行されます。

図31-15. LD命令と共に使われるREPEAT



LDに対して、データはLD命令後、継続的に出て来ます。最初のデータ塊での保護時間に注意してください。

間接アドレス指定(LD/ST)命令を使う場合、REPEATと組み合わされる時は常にポインタ事後増加任意選択を使うことが推奨されます。LD/ST命令は最初の(データ量によって決められるデータ バイト数の)データ塊の前にだけ必要です。さもなければ、繰り返される全てのアクセス操作で同じアドレスがアクセスされます。直接アドレス指定(LDS/STS)命令については、データが受け取られ(LDS)または送られ(STS)得るのに先立って、命令規約で指定されるようにアドレスが常に送信されなければなりません。

31.3.3.8. KEY – 活性化鍵設定またはシステム情報部送出

KEY命令はデバイスで保護された機能を実行するために開くUPDIへの鍵(KEY)バイト通信、またはシステム情報部(SIB:System Information Block)を書き込み器に提供するのに使われます。鍵(KEY)によって有効にされる機能の概要ついて「**表31-4. 鍵認証概要**」をご覧ください。KEY命令に対しては64ビット鍵(KEY)の大きさだけが支援されます。SIBに対して支援される最大量は128ビットです。

図31-16. KEY命令操作

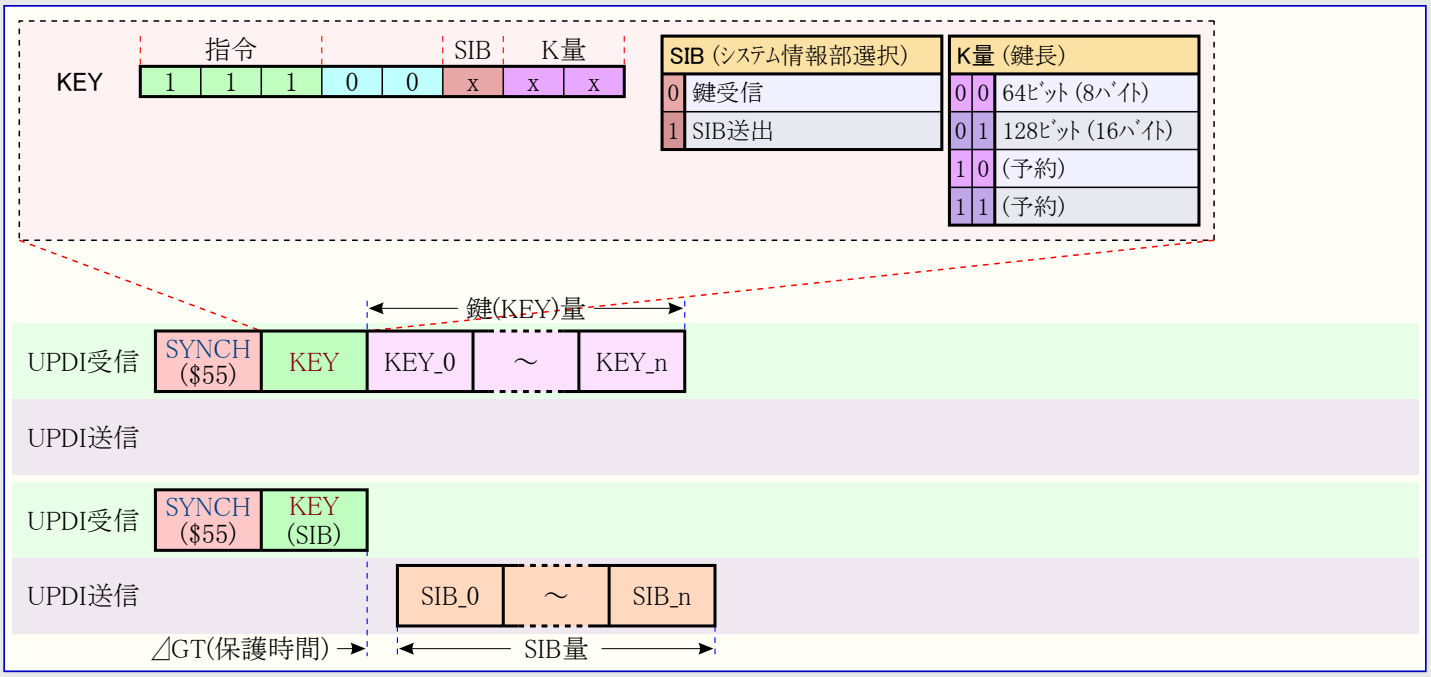


図31-16.は鍵(KEY)の送信とSIBの受信を示します。両方の場合で、被演算子のK量領域は送受信されるフレーム数を決めます。UPDIへの鍵(KEY)送出後に応答(ACK)は有りません。SIB要求時、現在の保護時間設定に従ってデータがUPDIから送信されます。

31.3.4. ブート間でのフラッシュ メモリのCRC検査

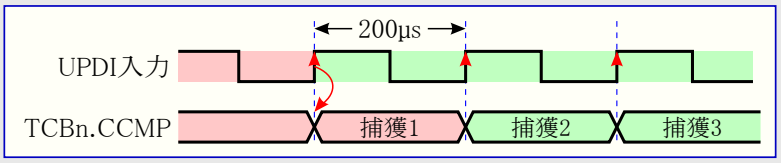
いくかのデバイスはブート処理の一部としてフラッシュ メモリ内容のCRC検査走行を支援します。この検査は例えデバイスが施錠されていても実行することができます。このCRC検査の結果はASI CRC状態(ASI_CRC_STATUS)レジスタで読むことができます。この機能のより多くの情報については「CRCSCAN」章を参照してください。

31.3.5. UPDIでのシステム クロック測定

入力捕獲機能を持つTCBへ接続されたUPDI事象を利用することにより、システム クロック周波数の正確な測定を得るのにUPDIを使うことが可能です。この機能のための推奨される構成の流れは以下の手順によって与えられます。

- 計時器動作(CNTMODE)='011'(計数捕獲周波数測定動作)設定でTCB制御B(TCBn.CTRLB)レジスタを構成設定してください。
- 事象割り込みを許可するためにTCB事象制御(TCBn.EVCTRL)レジスタで捕獲事象入力許可(CAPTEI)='1'を書いてください。TCBn.EVCTRLレジスタの事象端選択(EDGE)='0'を保ってください。
- UPDI SYNCH事象(生成部)をTCB(使用部)に配線するように事象システムを構成設定してください。
- UPDI事象を生成するのに使われる同期(SYNCH)文字については、各UPDI事象間で計時器によって捕獲される値でのもっと正確な測定を得るために10～50kbpsの範囲の低いボーレートを使うことが推奨されます。1つの特別なことは、捕獲が割り込みを起動するように構成設定される場合、最初の捕獲値は無視されなければなりません。入力事象に基づいて次に捕獲された値が測定に使われなければなりません。計時器に対して200µsの捕獲窓を与える10kbpsのUPDI同期(SYNCH)文字を使う例については図31-17.をご覧ください。
- TCB比較/捕獲(TCBn.CCMP)レジスタを読むことによって同期(SYNCH)文字直後の捕獲値を読み出すことが可能で、また、値は一旦捕獲が行われると、CPUによってメモリに書くこともできます。より多くの詳細については「TCB - 16ビット タイマ/カウンタB型」章を参照してください。

図31-17. UPDIシステム クロック測定事象



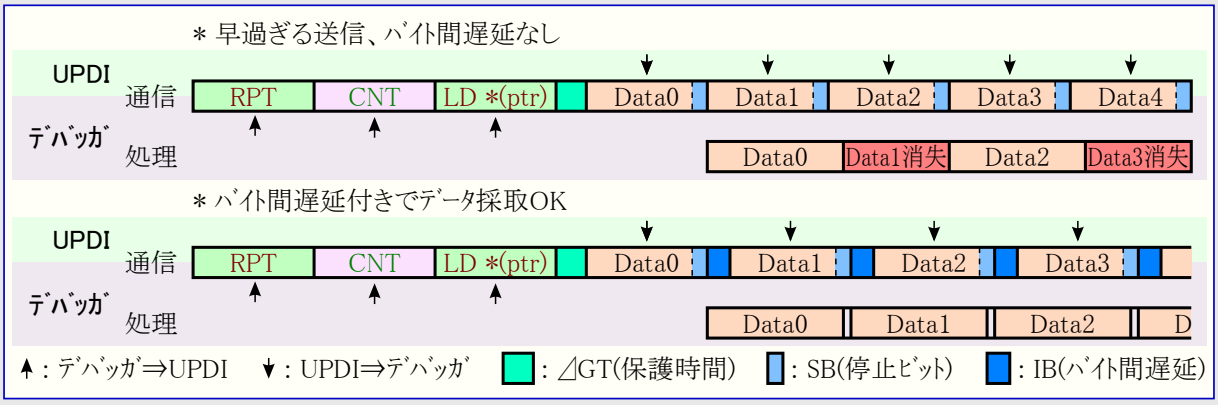
31.3.6. バイト間遅延

複数バイト転送(REPEATと組み合わせたLD)実行またはシステム情報部(SIB)読み出し時、出力データは継続的な流れで出て来ます。応用に依存して、受信側ではデータが早過ぎで送り出されるかもしれず、次の開始ビット到着の前に処理されるべきデータに対して充分な時間がないかもしれません。

バイト間遅延は複数バイト転送間に固定数のアイドル ビットを挿入することによって動きます。バイト間遅延を追加する理由は全てのデータが同じ方向で進んでいる時に挿入される保護時間がないからです。

バイト間遅延機能は制御A(UPDI.CTRLA)レジスタのバイト間遅延許可(IBDLY)ビットに'1'を書くことによって許可することができます。結果として、デバッガに対して採取時間を緩和するために各バイト間で2つの余分なアイドル ビットが挿入されます。

図31-18. LDとRPTでのバイト間遅延例



注: 1. ⊿GTは保護時間挿入を表します。
2. SBは停止ビット用です。
3. IBは挿入されたバイト間遅延です。
4. フレームの残りは命令とデータです。

31.3.7. システム情報部

システム情報部(SIB:System Information Block)は「31.3.3.8. KEY – 活性化鍵設定またはシステム情報部送出」からKEY命令に従ってSIBビットを設定(1)することによって何時でも読み出すことができます。SIBは施錠ビット設定に関わらず、常にデバッガのためにアクセス可能で、デバイスとデバッガ用のシステム要素についての情報提供の簡潔な形式を提供します。この情報はデバイスとの正しい通信チャネルを認識して準備することに於いて重要です。SIBの出力はASCII符号として解釈されます。K量領域は完全なSIBを読み出す時に16バイトに設定されなければならず、8バイトの大きさは系統IDだけを読み出すのに使うことができます。SIB形式記述とどのデータが異なる読み出し量で利用可能かについては図31-19.をご覧ください。

図31-19. システム情報部形式

K量 (バイト)		バイト	ビット	領域名
16	8			
○	○	6～0	55～0	系統ID
○	○	7	7～0	(予約)
○	×	10～8	23～0	NVM版番号
○	×	13～11	23～0	OCD版番号
○	×	14	7～0	(予約)
○	×	15	7～0	デバッグ発振周波数

31.3.8. 鍵保護されたインターフェースの許可

いくつかの内部インターフェースと機能へのアクセスはUPDI鍵機構によって保護されます。鍵を認証するには、「31.3.3.8. KEY – 活性化鍵設定またはシステム情報部送出」で記述されるように、KEY命令を用いることによって正しい鍵データが送信されなければなりません。表31-4.は利用可能な鍵と鍵有効で操作を行う時に必要とされる条件を記述します。

表31-4. 鍵認証概要

鍵名	説明	動作の必要条件	リセット
チップ消去	NVMチップ消去開始。施錠ビット解除	なし	UPDI禁止/UPDIリセット
NVMPROG	NVMプログラミング活性	施錠ビット解除。ASIシステム状態(ASI_SYS_STATUS)レジスタのNVMプログラミング開始(NVMPROG)を設定(1)。	プログラミング終了/UPDIリセット
使用者列書き込み	施錠されたデバイスで使用者列書き込み	施錠ビット設定。ASIシステム状態(ASI_SYS_STATUS)レジスタの使用者列プログラミング開始(UROWPROG)を設定(1)。	鍵状態ビット書き込み/UPDIリセット

表31-5.はインターフェースを活性にするために移動入力されなければならない利用可能な鍵符号の概要を与えます。

表31-5. 鍵認証符号

鍵名	鍵符号 (LSB先行で書かれています。)	大きさ
チップ消去	$4E564D4572617365	64ビット
NVMPROG	$4E564D50726F6720	
使用者列書き込み	$4E564D5573267465	

31.3.8.1. チップ消去

チップ消去を発行するには次の手順に従わなければなりません。

1. KEY命令を使うことによってチップ消去鍵を入力してください。チップ消去符号については「鍵認証符号」表をご覧ください。
2. KEY命令を使うことによってNVMプログラミング鍵を入力してください。NVMPROG識票については「鍵認証符号」表を御覧ください。これは新たに消去されたデバイスを(有効にされている場合の)CRC失敗から守ります。
3. チップ消去鍵状態(CHIPERASE)ビットとNVMプログラミング鍵状態(NVMPROG)ビットの両方が設定(1)されているのを確認するためにASI鍵状態(UPDI.ASI_KEY_STATUS)レジスタを読んでください。
4. ASIリセット要求(UPDI.ASI_RESET_REQ)レジスタのリセット要求(RESREQ)ビット領域に識票を書いてください。これはシステム リセットを発行します。
5. システム リセットを解除するためにUPDI/ASI_RESET_REQレジスタに$00を書いてください。
6. ASIシステム状態(UPDI.ASI_SYS_STATUS)レジスタのNVM施錠状態(LOCKSTATUS)ビットを読んでください。
7. チップ消去はUPDI.ASI_SYS_STATUSレジスタのLOCKSTATUSビットが'0'の時に終わります。LOCKSTATUSビットが'1'なら、手順5.に戻ってください。

チップ消去成功後、施錠ビットが解除され、UPDIはシステムに対して完全なアクセス(権)を持ちます。施錠ビットが解除されるまで、UPDIはシステム バスをアクセスすることができず、制御/状態(CS)空間操作だけを実行することができます。

⚠注意 チップ消去中、BODは制御A(BOD.CTRLA)レジスタの活動/アイドル時動作(ACTIVE)ビット領域に書くことによってONを強制され、BOD構成設定(FUSE.BODCFG)ヒューズのBOD基準(LVL)ビット領域と制御B(BOD.CTRLB)レジスタのBOD基準(LVL)ビット領域を使います。供給電圧(VDD)がその閾値基準未満の場合、デバイスはVDDが充分に増されるまで使用不能です。より多くの詳細については「BOD – 低電圧検出器」章をご覧ください。

31.3.8.2. NVMﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ

ﾃﾞﾊﾞｲｽが解錠されているなら、UPDIを用いてNVM制御器またはﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘに直接書くことが可能です。これはNVMﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ中にCPUが活性の場合に予測不能なｺｰﾄﾞ実行になるでしょう。これを避けるため、以下のNVMﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ手順が実行されなければなりません。

1. 「ﾁｯﾌﾟ消去」で記述されるようにﾁｯﾌﾟ消去手順に従ってください。ﾃﾞﾊﾞｲｽが既に解錠されているなら、この点(1.)を飛ばすことができます。
2. KEY命令を使うことによってNVMPROG鍵を入力してください。NVMPROG符号については**表31-5.**をご覧ください。
3. 任意選択: 鍵が認証されたかを知るためにASI鍵状態(UPDI.ASI_KEY_STATUS)ﾚｼﾞｽﾀのNVMﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ鍵状態(NVMPROG)ﾋﾞｯﾄを読んでください。
4. ASIﾘｾｯﾄ要求(UPDI.ASI_RESET_REQ)ﾚｼﾞｽﾀのﾘｾｯﾄ要求(RESREQ)ﾋﾞｯﾄ領域に識票を書いてください。これはｼｽﾃﾑ ﾘｾｯﾄを発行します。
5. ｼｽﾃﾑ ﾘｾｯﾄを解除するためにUPDI.ASI_RESET_REQﾚｼﾞｽﾀに$00を書いてください。
6. ASIｼｽﾃﾑ状態(UPDI.ASI_SYS_STATUS)ﾚｼﾞｽﾀのNVMﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ開始(NVMPROG)ﾋﾞｯﾄを読んでください。
7. NVMﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞはNVMPROGが'1'の時に開始することができます。NVMPROGが'0'なら、手順**6.**に戻ってください。
8. UPDIを通してNVMにﾃﾞｰﾀを書いてください。
9. UPDI.ASI_RESET_REQﾚｼﾞｽﾀのRESREQﾋﾞｯﾄ領域に識票を書いてください。これはｼｽﾃﾑ ﾘｾｯﾄを発行します。
10. ｼｽﾃﾑ ﾘｾｯﾄを解除するためにUPDI.ASI_RESET_REQﾚｼﾞｽﾀに$00を書いてください。
11. ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞは完了です。

31.3.8.3. 使用者列ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ

使用者列ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ機能は施錠されたﾃﾞﾊﾞｲｽで使用者列(USERROW)に新しい値を書くことを許します。許可されたこの機能で書き込むには、以下の手順に従わなければなりません。

1. KEY命令を使うことによって**表31-5.**で示される使用者列書き込み(UROWWRITE)鍵を入力してください。UROWWRITE符号については**表31-5.**をご覧ください。
2. 任意選択: 鍵が認証されたかを知るためにASI鍵状態(UPDI.ASI_KEY_STATUS)ﾚｼﾞｽﾀの使用者列書き込み鍵状態(UROWWRITE)ﾋﾞｯﾄを読んでください。
3. ASIﾘｾｯﾄ要求(UPDI.ASI_RESET_REQ)ﾚｼﾞｽﾀのﾘｾｯﾄ要求(RESREQ)ﾋﾞｯﾄ領域に識票を書いてください。これはｼｽﾃﾑ ﾘｾｯﾄを発行します。
4. ｼｽﾃﾑ ﾘｾｯﾄを解除するためにUPDI.ASI_RESET_REQﾚｼﾞｽﾀに$00を書いてください。
5. ASIｼｽﾃﾑ状態(UPDI.ASI_SYS_STATUS)ﾚｼﾞｽﾀの使用者列ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ開始(UROWPROG)ﾋﾞｯﾄを読んでください。
6. 使用者列ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞはUROWPROGが'1'の時に開始することができます。UROWPROGが'0'なら、手順**5.**に戻ってください。
7. 使用者列に書かれるﾃﾞｰﾀは最初にRAM内の緩衝部に書かれなければなりません。RAMの書き込み可能な領域は32ﾊﾞｲﾄで、SRAMの最初の32ﾊﾞｲﾄのｱﾄﾞﾚｽにだけ使用者列ﾃﾞｰﾀを書くことが可能です。このﾒﾓﾘ範囲外のｱﾄﾞﾚｽ指定は実行されない書き込みに終わります。書き込み手順の完了でﾃﾞｰﾀが使用者列ﾃﾞｰﾀに複写される時に、このﾃﾞｰﾀが使用者列空間と1対1で割り当てられます。
8. 全ての使用者列ﾃﾞｰﾀがSRAMに書かれると、ASIｼｽﾃﾑ制御A(UPDI.ASI_SYS_CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの使用者列書き込み終了(UROWWRITE_FINAL)ﾋﾞｯﾄに('1'を)書いてください。
9. UPDI.ASI_SYS_STATUSﾚｼﾞｽﾀのUROWPROGﾋﾞｯﾄを読んでください。
10. 使用者列ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞはUROWPROGが'0'の時に完了されます。UROWPROGが'1'なら、手順**9.**に戻ってください。
11. ASI鍵状態(UPDI.ASI_KEY_STATUS)ﾚｼﾞｽﾀの使用者列書き込み鍵状態(UROWWRITE)ﾋﾞｯﾄを書いてください。
12. ASIﾘｾｯﾄ要求(UPDI.ASI_RESET_REQ)ﾚｼﾞｽﾀのﾘｾｯﾄ要求(RESREQ)ﾋﾞｯﾄ領域に識票を書いてください。これはｼｽﾃﾑ ﾘｾｯﾄを発行します。
13. ｼｽﾃﾑ ﾘｾｯﾄを解除するためにUPDI.ASI_RESET_REQﾚｼﾞｽﾀに$00を書いてください。
14. 使用者列ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞは完了です。

この動作形態でSRAMからﾃﾞｰﾀを読み戻すことはできません。SRAMの最初の32ﾊﾞｲﾄへの書き込みだけが許されます。

31.3.9. 事象

UPDIは以下の事象を生成することができます。

表31-6. UPDIでの事象生成部

生成部名		説明	事象型	生成ｸﾛｯｸ領域	事象長
周辺機能	事象				
UPDI	SYNCH	同期(SYNC)文字	ﾚﾍﾞﾙ	CLK_UPDI	CLK_UPDIに同期した UPDIﾋﾟﾝ入力でのSYNC文字

この事象はSYNCH文字で検出される各正端に対してUPDIｸﾛｯｸで設定され、UPDIからこの事象を禁止することはできません。

UPDIに事象使用部はありません。

事象型と事象ｼｽﾃﾑ構成設定に関するより多くの詳細については「EVSYS – 事象ｼｽﾃﾑ」章を参照してください。

31.3.10. 休止形態動作

UPDI PHY層は全ての休止動作と無関係に動き、UPDIはﾃﾞﾊﾞｲｽの休止状態と無関係に接続したﾃﾞﾊﾞｯｶﾞに対して常にｱｸｾｽ可能です。ｼｽﾃﾑがｼｽﾃﾑ ｸﾛｯｸをOFFにする休止動作へ入る場合、UPDIはｼｽﾃﾑ ﾊﾞｽのｱｸｾｽ及びﾒﾓﾘと周辺機能の読み込みができません。許可されると、UPDIはUPDIが常にﾃﾞﾊﾞｲｽの残りとの接触を持つようにｼｽﾃﾑ ｸﾛｯｸを要求します。従って、UPDI PHY層ｸﾛｯｸは休止動作の設定によって影響を及ぼされません。ASIｼｽﾃﾑ状態(UPDI.ASI_SYS_STATUS)ﾚｼﾞｽﾀのｼｽﾃﾑ領域休止中(INSLEEP)ﾋﾞｯﾄを読むことにより、ｼｽﾃﾑ領域が休止動作かを監視することが可能です。

ASIｼｽﾃﾑ制御A(UPDI.ASI_SYS_CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのｼｽﾃﾑ ｸﾛｯｸ要求(CLKREQ)ﾋﾞｯﾄを書くことにより、休止動作へ行く時に停止することからｼｽﾃﾑ ｸﾛｯｸを守ることが可能です。このﾋﾞｯﾄが設定(1)される場合、ｼｽﾃﾑ休止動作状態が模倣され、例え最も深い休止動作でも、UPDIはｼｽﾃﾑ ﾊﾞｽをｱｸｾｽして周辺機能ﾚｼﾞｽﾀを読むことができます。

CLKREQﾋﾞｯﾄはUPDIが許可される時に既定で'1'で、これは既定操作が休止動作中にｼｽﾃﾑ ｸﾛｯｸをON状態に保つことを意味します。

31.4. レジスタ要約

変位	略称	ビット位置	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
+$00	STATUSA	7～0	UPDIREV3~0							
+$01	STATUSB	7～0						PESIG2~0		
+$02	CTRLA	7～0	IBDLY		PARD	DTD	RSD	GTVAL2~0		
+$03	CTRLB	7～0				NACKDIS	CCDETDIS	UPDIDIS		
+$04 ～ +$06	予約									
+$07	ASI_KEY_STATUS	7～0			UROWWRITE	NVMPROG	CHIPERASE			
+$08	ASI_RESET_REQ	7～0	RSTREQ7~0							
+$09	ASI_CTRLA	7～0							UPDICLKSEL1,0	
+$0A	ASI_SYS_CTRLA	7～0							UROWWRITE_FINAL	CLKREQ
+$0B	ASI_SYS_STATUS	7～0			RSTSYS	INSLEEP	NVMPROG	UROWPROG		LOCKSTATUS
+$0C	ASI_CRC_STATUS	7～0						CRC_STATUS2~0		

31.5. レジスタ説明

これらのレジスタは特別な命令でUPDIを通してだけ読み込み可能で、CPUを通して読み込み可能ではありません。

31.5.1. STATUSA – 状態A (Status A)

名称 : STATUSA
変位 : +$00
リセット : $40
特質 : –

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
	UPDIREV3~0							
アクセス種別	R	R	R	R	R	R	R	R
リセット値	0	1	0	0	0	0	0	0

● **ビット7~4 – UPDIREV3~0 : UPDI改訂** (UPDI Revision)

このビット領域は現在のUPDI実装の改訂(番号)を含みます。

31.5.2. STATUSB – 状態B (Status B)

名称 : STATUSB
変位 : +$01
リセット : $00
特質 : –

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
						PESIG2~0		
アクセス種別	R	R	R	R	R	R	R	R
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット2~0 – PESIG2~0 : UPDI異常識票** (UPDI Error Signature)

このビット領域はUPDI異常識票を記述し、内部UPDI異常状態発生時に設定されます。PESIGビット領域はデバッガからの読み込みで解消されます。

表31-7. 有効な異常識票

PESIG2~0	異常形式	異常説明
0 0 0	異常なし	検出された異常なし(既定)
0 0 1	パリティ誤り	パリティビットの不正な採取
0 1 0	フレーム異常	停止ビットの不正な採取
0 1 1	アクセス層制限時間超過異常	UPDIはアクセス層からデータや応答を得られないことが有り得ます。
1 0 0	クロック再生異常	開始ビットの不正な採取
1 0 1	–	(予約)
1 1 0	バス異常	アドレス異常またはアクセス優先権異常
1 1 1	競合異常	UPDIピンでの駆動競合を示します。

31.5.3. CTRLA – 制御A (Contorl A)

名称 : CTRLA
変位 : +$02
リセット : $00
特質 : –

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
	IBDLY		PARD	DTD	RSD	GTVAL2~0		
アクセス種別	R/W	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット7 – IBDLY : バイト間遅延許可** (Inter-Byte Delay Enable)

このビットへの'1'書き込みが複数バイトLD(S)命令を行う時にUPDIから送信される各データ バイト間に固定長のバイト間遅延を許可します。固定長は2つのアイドル ビットです。

● **ﾋﾞｯﾄ5 – PARD : ﾊﾟﾘﾃｨ禁止** (Parity Disable)

このﾋﾞｯﾄに'1'を書くことがﾊﾟﾘﾃｨ ﾋﾞｯﾄを無視することによってUPDIでのﾊﾟﾘﾃｨ検出を禁止します。この機能は試験中にだけ使うことが推奨されます。

● **ﾋﾞｯﾄ4 – DTD : 制限時間検出禁止** (Disable Time-Out Detection)

このﾋﾞｯﾄに'1'を書くことがPHY層での制限時間検出を禁止し、これは指定された時間(65536 UPDIｸﾛｯｸ周期)内にACC層からの応答を要求します。

● **ﾋﾞｯﾄ3 – RSD : 応答符号禁止** (Response Signature Disable)

このﾋﾞｯﾄに'1'を書くことがUPDIによって生成されるどの応答符号も禁止します。これはNVM空間に大きな塊のﾃﾞｰﾀを書く時に規約の付随処理を最小に減らします。ｼｽﾃﾑ ﾊﾞｽをｱｸｾｽする時にUPDIは遅れを経験するかもしれません。遅れが予測可能な場合、応答符号を禁止することができ、さもなければ、ﾃﾞｰﾀの消失が起こるかもしれません。

● **ﾋﾞｯﾄ2~0 – GTVAL2~0 : 保護時間値** (Guard Time Value)

このﾋﾞｯﾄ領域は転送方向が受信から送信に切り替わる時にUPDIによって使われる保護時間値を選びます。

値	000	001	010	011	100	101	110	111
説明 (保護時間:追加ﾋﾞｯﾄ周期数)	128(既定)	64	32	16	8	4	2	(予約)

31.5.4. CTRLB – 制御B (Contorl B)

名称 : CTRLB
変位 : +$03
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
				NACKDIS	CCDETDIS	UPDIDIS		
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R	R
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ4 – NACKDIS : NACK応答禁止** (Disable NACK Response)

このﾋﾞｯﾄに'1'を書くことがLD(S)またはST(S)操作進行中にｼｽﾃﾑ ﾘｾｯﾄが発行される時にUPDIによって送られるNACK符号を禁止します。

● **ﾋﾞｯﾄ3 – CCDETDIS : 衝突/競合検出禁止** (Collision and Contention Detection Disable)

このﾋﾞｯﾄに'1'を書くことが競合検出を禁止します。このﾋﾞｯﾄへ'0'を書くことが競合検出を許可します。

● **ﾋﾞｯﾄ2 – UPDIDIS : UPDI禁止** (UPDI Disable)

このﾋﾞｯﾄに'1'を書くことがUPDI PHYｲﾝﾀｰﾌｪｰｽを禁止します。UPDIからのｸﾛｯｸ要求は下げられ、UPDIはﾘｾｯﾄされます。UPDIが禁止されると、全てのUPDI PHY層構成設定と鍵がﾘｾｯﾄされます。

31.5.5. ASI_KEY_STATUS – ASI鍵状態 (ASI Key Status)

名称 : ASI_KEY_STATUS
変位 : +$07
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
			UROWWRITE	NVMPROG	CHIPERASE			
ｱｸｾｽ種別	R	R	R/W	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ5 – UROWWRITE : 使用者列書き込み鍵状態** (User Row Write Key Status)

このﾋﾞｯﾄは使用者列書き込み(UROWWRITE)鍵が成功裏に復号された場合に'1'に設定されます。このﾋﾞｯﾄはﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ作業を正しくﾘｾｯﾄするために使用者列書き込み手順の最後の部分として書かれなければなりません。

● **ﾋﾞｯﾄ4 – NVMPROG : NVMﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ鍵状態** (NVM Programming Key Status)

このﾋﾞｯﾄはNVMPROG鍵が成功裏に復号された場合に'1'に設定されます。このﾋﾞｯﾄはNVMﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ手順が開始される時に解除(0)され、ASIｼｽﾃﾑ状態(ASI_SYS_STATUS)ﾚｼﾞｽﾀのNVMﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ開始(NVMPROG)ﾋﾞｯﾄが設定(1)されます。

● **ﾋﾞｯﾄ3 – CHIPERASE : ﾁｯﾌﾟ消去鍵状態** (Chip Erase Key Status)

このﾋﾞｯﾄはﾁｯﾌﾟ消去(CHIPERASE)鍵が成功裏に復号された場合に'1'に設定されます。このﾋﾞｯﾄは「ﾁｯﾌﾟ消去」項で記述されるﾁｯﾌﾟ消去手順の一部として発行されるﾘｾｯﾄ要求によって解除(0)されます。

31.5.6. ASI_RESET_REQ – ASIリセット要求 (ASI Reset Request)

名称 : ASI_RESET_REQ
変位 : +$08
リセット : $00
特質 : –

このアドレスにリセット識票を書く時にシステムへリセットが合図されます。

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
	RSTREQ7~0							
アクセス種別	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット7~0 – RSTREQ7~0 : リセット要求** (Reset Request)

UPDIはこのレジスタからシステム リセットを発行する時にリセットされません。

値	$00	$59	その他
名称	RUN	RESET	–
説明	リセット条件解除	標準リセット	(予約)

31.5.7. ASI_CTRLA – ASI制御A (ASI Control A)

名称 : ASI_CTRLA
変位 : +$09
リセット : $03
特質 : –

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
							UPDICLKSEL1,0	
アクセス種別	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	1	1

● **ビット1,0 – UPDICLKSEL1,0 : UPDIクロック選択** (UPDI Clock Divider Select)

これらのビット書き込みはUPDIクロック出力周波数を選びます。リセット後の既定設定は4MHzで許可されます。他の何れかのクロック出力選択はBODが最高レベルの時にだけ推奨されます。他の全てのBOD設定に対しては、既定の4MHz選択が推奨されます。

値	0 0	0 1	1 0	1 1
説明	(予約)	16MHz UPDIクロック	8MHz UPDIクロック	4MHz UPDIクロック (既定)

31.5.8. ASI_SYS_CTRLA – ASIシステム制御A (ASI System Control A)

名称 : ASI_SYS_CTRLA
変位 : +$0A
リセット : $00
特質 : –

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
							UROWWRITE_FINAL	CLKREQ
アクセス種別	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W
リセット値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ビット1 – UROWWRITE_FINAL : 使用者列書き込み終了** (User Row Programming Done)

このビットは使用者列データがSRAMに書かれてしまった時に書かれなければなりません。このビットへの'1'書き込みはフラッシュ メモリへの使用者列データ書き込みの処理を開始します。

UPDIによって使用者列データがSRAMに書かれる前にこのビットが('1'を)書かれた場合、CPUは書かれるデータなしで進行します。

このビットは使用者列書き込み鍵が成功裏に復号された場合にだけ書き込み可能です。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – CLKREQ : ｼｽﾃﾑ ｸﾛｯｸ要求** (Request System Clock)

このﾋﾞｯﾄが'1'を書かれた場合、ASIはｼｽﾃﾑの休止動作と無関係にｼｽﾃﾑ ｸﾛｯｸを要求します。これはUPDIに対してｼｽﾃﾑが休止動作の場合でもｱｸｾｽ(ACC)層をｱｸｾｽすることを可能にします。

このﾋﾞｯﾄへの'0'書き込みはｸﾛｯｸ要求を降ろします。

このﾋﾞｯﾄはUPDIが禁止される時にﾘｾｯﾄされます。

このﾋﾞｯﾄはUPDIがどのﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ動作形態(ﾋｭｰｽﾞまたは高電圧)で許可された時でも既定によって設定(1)されます。

31.5.9. ASI_SYS_STATUS – ASIｼｽﾃﾑ状態 (ASI System Status)

名称 : ASI_SYS_STATUS
変位 : +$0B
ﾘｾｯﾄ : $01
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
			RSTSYS	INSLEEP	NVMPROG	UROWPROG		LOCKSTATUS
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	1

● **ﾋﾞｯﾄ5 – RSTSYS : ｼｽﾃﾑ ﾘｾｯﾄ活性** (System Reset Active)

このﾋﾞｯﾄが'1'に設定されると、ｼｽﾃﾑ領域で有効なﾘｾｯﾄがあります。このﾋﾞｯﾄが'0'に設定されると、ｼｽﾃﾑはﾘｾｯﾄ状態ではありません。

このﾋﾞｯﾄは読み込みで'0'に設定されます。

ASIﾘｾｯﾄ要求(UPDI.ASI_RESET_REQ)ﾚｼﾞｽﾀで保持されるﾘｾｯﾄもこのﾋﾞｯﾄに影響を及ぼします。

● **ﾋﾞｯﾄ4 – INSLEEP : ｼｽﾃﾑ領域休止中** (System Domain in Sleep)

このﾋﾞｯﾄが'1'に設定されると、ｼｽﾃﾑ領域はｱｲﾄﾞﾙまたはより深い休止動作です。このﾋﾞｯﾄが'0'に設定されると、ｼｽﾃﾑはどの休止動作でもありません。

● **ﾋﾞｯﾄ3 – NVMPROG : NVMﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ開始** (Start NVM Programming)

このﾋﾞｯﾄが'1'に設定されると、UPDIからNVMﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞを開始することができます。

UPDIが終了される時にｼｽﾃﾑはUPDIﾘｾｯﾄ要求(ASI_RESET_REQ)ﾚｼﾞｽﾀを通してﾘｾｯﾄされなければなりません。

● **ﾋﾞｯﾄ2 – UROWPROG : 使用者列ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ開始** (Start User Row Programming)

このﾋﾞｯﾄが'1'に設定されると、UPDIから使用者列ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞを開始することができます。

使用者列ﾃﾞｰﾀがRAMに書かれてしまうと、ASIｼｽﾃﾑ制御A(UPDI.ASI_SYS_CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの使用者列書き込み終了(UROWWRITE_FINAL)ﾋﾞｯﾄは('1'を)書かなければなりません。

● **ﾋﾞｯﾄ0 – LOCKSTATUS : NVM施錠状態** (NVM Lock Status)

このﾋﾞｯﾄが'1'に設定されると、ﾃﾞﾊﾞｲｽは施錠されています。ﾁｯﾌﾟ消去が行われて施錠ﾋﾞｯﾄが'0'に設定された場合、このﾋﾞｯﾄは'0'として読みます。

31.5.10. ASI_CRC_STATUS – ASI CRC状態 (ASI CRC Status)

名称 : ASI_CRC_STATUS
変位 : +$0C
ﾘｾｯﾄ : $00
特質 : –

ﾋﾞｯﾄ	7	6	5	4	3	2	1	0
						CRC_STATUS2~0		
ｱｸｾｽ種別	R	R	R	R	R	R	R	R
ﾘｾｯﾄ値	0	0	0	0	0	0	0	0

● **ﾋﾞｯﾄ2~0 – CRC_STATUS2~0 : CRC実行状況** (CRC Execution Status)

このﾋﾞｯﾄ領域はCRC換算の状態を示します。このﾋﾞｯﾄ領域は(どれか1つのﾋﾞｯﾄだけが'1'の)単一ﾋﾞｯﾄ活性符号化されます。

値	000	001	010	100	その他
説明	不許可	CRC許可、多忙	CRC許可、成功(OK)符号で終了	CRC許可、失敗(FAILED)符号で終了	(予約)

32. 命令一式要約

命令一式要約はwww/microchip.com/DS40002198に置かれた「AVR命令一式手引書」の一部として見つけることができます。このデータシートで文書化されたデバイスに関する詳細についてはAVRxtと呼ばれるCPU版を参照してください。

33. 電気的特性

33.1. お断り

代表値は別に指定がなければ、T=25℃とVDD=3Vで測定されます。全ての最小と最大の値は別に指定がなければ、動作温度と動作電圧に渡って有効です。

与えられた代表値は設計指針に対してだけ考慮されるべきで、これらの値周辺の実部品変動が予想されます。

33.2. 絶対最大定格

本項で一覧にされるこれらを超える負荷はﾃﾞﾊﾞｲｽに定常的な損傷を引き起こすかもしれません。これは負荷定格だけで、本仕様の動作部分で示されるこれらを超える他の条件やそれらでのﾃﾞﾊﾞｲｽの機能的な動作は含まれません。長時間絶対最大定格状態に晒すことはﾃﾞﾊﾞｲｽの信頼性に影響を及ぼすかもしれません。

表33-1. 絶対最大定格

ｼﾝﾎﾞﾙ	説明	条件	最小	最大	単位
VDD	電源電圧		-0.5	6	V
IVDD	VDDﾋﾟﾝへの電流	T=-40～85℃		200	mA
		T=85～125℃		100	
IGND	GNDﾋﾟﾝの電流出力	T=-40～85℃		200	
		T=85～125℃		100	
VRST	GNDに対するRESETﾋﾟﾝ電圧		-0.5	13	V
VPIN	GNDに対するﾋﾟﾝ電圧		-0.5	VDD+0.5	
IPIN	入出力ﾋﾟﾝ吸い込み/吐き出し電流		-40	40	mA
Ic1 (注)	RESETﾋﾟﾝを除く入出力ﾋﾟﾝ注入電流	Vpin＜GND-0.6Vまたは 5.5V＜Vpin≦6.1V、4.9V＜VDD≦5.5V	-1	1	
Ic2 (注)	RESETﾋﾟﾝを除く入出力ﾋﾟﾝ注入電流	Vpin＜GND-0.6VまたはVpin≦5.5V VDD≦4.9V	-15	15	
Ictot	RESETﾋﾟﾝを除く入出力ﾋﾟﾝ総注入電流		-45	45	
Tstorage	保存温度		-65	150	℃

注: - VpinがGND-0.6Vよりも低い場合、電流制限抵抗が必要とされます。負DC注入電流制限抵抗はR=(GND-0.6V-Vpin)/Icnとして計算されます。

- VpinがVDD+0.6Vよりも高い場合、電流制限抵抗が必要とされます。正DC注入電流制限抵抗はR=(Vpin-(VDD+0.6V))/Icnとして計算されます。

⚠注意 VRSTMAX=13V

RESETﾋﾟﾝを12V供給元に接続する時に行き過ぎ(過電圧)を避けるために注意が払われるべきです。ﾋﾟﾝを絶対最大定格を超える電圧に晒すことはﾋﾟﾝのESD保護回路を活性にし得て、それは電圧が概ね10V以下に持ってこられるまで活性に留まります。12V駆動部は(過電圧状態によって活動にされているなら、)活動状態でESD保護を保ち、同時にそれを通して電流を駆動し、潜在的にﾃﾞﾊﾞｲｽへ恒久的な損傷を引き起こし得ます。

33.3. 全般動作定格

ﾃﾞﾊﾞｲｽは有効であるべきﾃﾞﾊﾞｲｽの他の全ての電気的特性と代表特性のために、本項で一覧にされる定格内で動作しなければなりません。

表33-2. 全般動作条件

ｼﾝﾎﾞﾙ	説明	条件	最小	最大	単位
VDD	電源電圧	工業	1.8 (注1,2)	5.5	V
		VAO - 車載品質等級と拡張温度範囲	2.7 (注2,3)	5.5	
TA	動作温度範囲	工業	-40	85	℃
		拡張	-40	125	

注1: 動作は1.8VまたはBODが有効な時はBOD起動基準(VBOD)に至るまで保証されます。

注2: ﾁｯﾌﾟ消去の間、BODはONを強制されます。供給電圧(VDD)が構成設定したVBOD未満の場合、消去の試みは失敗するでしょう。

注3: 動作は2.7VまたはBODが有効な時はBOD起動基準(VBOD)に至るまで保証されます。

表33-3. 動作電圧と周波数

シンボル	説明	条件		最小	最大	単位
f_{CLK_CPU}	公称動作システム クロック周波数	TA=-40～85℃	VDD=1.8～2.7V (注1,4)	0	5	MHz
			VDD=2.7～4.5V (注2)	0	10	
			VDD=4.5～5.5V (注3)	0	20	
		TA=85～125℃	VDD=2.7～4.5V (注2)	0	8	
			VDD=4.5～5.5V (注3)	0	16	

注1: 動作はBODLEVEL0でのBOD起動基準(VBOD)に至るまで保証されます。
注2: 動作はBODLEVEL2でのBOD起動基準(VBOD)に至るまで保証されます。
注3: 動作はBODLEVEL7でのBOD起動基準(VBOD)に至るまで保証されます。
注4: これらの仕様は車載範囲部品(-VAO)に適用されません。

最高動作周波数はVDDに依存します。下図で示されるように、最高周波数対VDDは1.8<VDD<2.7Vと2.7<VDD<4.5V間で直線です。

図33-1. -40～85℃の最高周波数対VDD

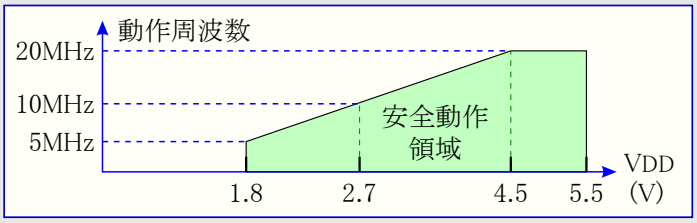
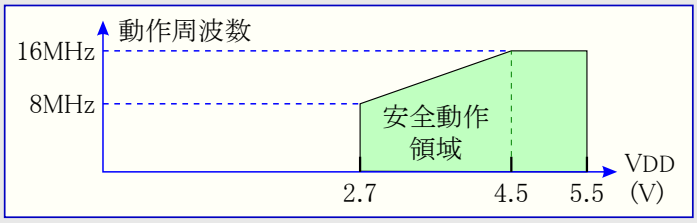


図33-2. 85～125℃の最高周波数対VDD



33.4. 電力の考察

℃での平均チップ接合部温度のTJは次式から得ることができます。

- **例1.** $T_J = T_A + (P_D \times \theta_{JA})$
- **例2.** $T_J = T_A + (P_D \times (\theta_{HEATSINK} + \theta_{JC}))$

ここで、

- θ_{JA} = 接合部/周囲間の外囲器熱抵抗(℃/W)、下表をご覧ください。
- θ_{JC} = 接合部/ケース間熱抵抗の外囲器熱抵抗(℃/W)、下表をご覧ください。
- $\theta_{HEATSINK}$ = 外部冷却装置の熱抵抗(℃/W)特性
- P_D = デバイス消費電力(W)
- T_A = 周囲温度(℃)

最初の式から、チップの推定寿命を得て、冷却装置が必要か否かを決めることができます。冷却装置がチップに取り付けられなければならない場合、℃での平均チップ接合部温度のTJの結果を計算するのに2つ目の式が使われなければなりません。

使用電力はシステム消費電力とI/O単位部消費電力を共に加算することによって計算することができます。容量性負荷でピンから引き出される電流は(1つのピンに対して)次のように推測することができます。

$$I_{CP} = V_{DD} \times C_{load} \times f_{SW}$$

ここでC_{load}=ピンの負荷容量、f_{SW}=I/Oピンの平均切り替え周波数です。

表33-4. 許容損失と接合部温度 対 温度

ピン数	外囲器形式	RθJA (℃/W)	RθJC (℃/W)
14	SOIC	58	26
	TSSOP	95	20
20	SOIC	44	21
	SSOP	60.6	25
	VQFN	79.7	36
24		60.6	25

33.5. 消費電力

動作条件:

- VDD=3V
- T=25℃
- 別の指定を除き、システム クロック元としてOSC20Mを使用
- 禁止された周辺機能、I/O駆動無しで測定されたシステム消費電力

表33-5. 活動、アイドル、パワーダウン、スタンバイ、リセットの動作での消費電力

動作	説明	条件		最小	代表	最大	単位
活動	活動動作消費電力	CLK_CPU=20MHz (OSC20M)	VDD=5V	–	9.1	–	mA
		CLK_CPU=10MHz (2分周OSC20M)	VDD=5V	–	4.9	–	
			VDD=3V	–	2.8	–	
		CLK_CPU=5MHz (4分周OSC20M)	VDD=5V	–	2.8	–	
			VDD=3V	–	1.6	–	
			VDD=2V	–	1.1	–	
		CLK_CPU=32.768kHz (OSCULP32K)	VDD=5V	–	18	–	µA
			VDD=3V	–	10	–	
			VDD=2V	–	7.2	–	
アイドル	アイドル動作消費電力	CLK_CPU=20MHz (OSC20M)	VDD=5V	–	2.4	3.6 (注)	mA
		CLK_CPU=10MHz (2分周OSC20M)	VDD=5V	–	1.4	2.1 (注)	
			VDD=3V	–	0.8	1.2 (注)	
		CLK_CPU=5MHz (4分周OSC20M)	VDD=5V	–	1.0	1.5 (注)	
			VDD=3V	–	0.6	0.9	
			VDD=2V	–	0.4	–	
		CLK_CPU=32.768kHz (OSCULP32K)	VDD=5V	–	4.8	15 (注)	
			VDD=3V	–	2.4	10 (注)	
			VDD=2V	–	1.5	–	
スタンバイ	スタンバイ動作消費電力	外部XOSC32Kからの1.024kHzでRTC走行 (C_L=7.5pF)		–	0.7	–	µA
		内部OSCULP32Kからの1.024kHzでRTC走行	T=25℃	–	0.7	2.0	
			T=85℃	–	–	6.0 (注)	
			T=125℃	–	–	8.0	
パワーダウン/スタンバイ	全ての周辺機能が停止される時のパワーダウンとスタンバイの消費電力は同じです。	全周辺機能停止	T=25℃	–	0.1	1.5	
			T=85℃	–	–	4.0 (注)	
			T=125℃	–	–	7.0	
リセット	リセット消費電力	リセット線プルダウン		–	100	–	

注: これらの値は特性付けに基づき、製造限度検査によって含まれません。

33.6. 起き上がり時間

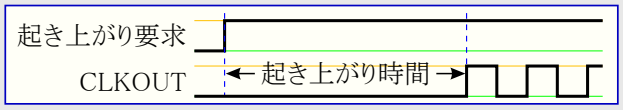
下表は様々なｼｽﾃﾑ ｸﾛｯｸ元で様々な休止動作からの起き上がり時間を示します。統一ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ/ﾃﾞﾊﾞｯｸﾞ ｲﾝﾀｰﾌｪｰｽ(UPDI)接続活動なしで0ms始動時間(SUT)設定でのﾘｾｯﾄからの始動時間も示します。

表33-6. 始動時間と起き上がり時間

ｼﾝﾎﾞﾙ	説明	ｸﾛｯｸ元	分周(PDIV)	f_{CLK_CPU}	VDD	最小	代表	最大	単位
tstartup	どれかのﾘｾｯﾄ元の開放からの始動時間。最初の命令の実行。(CRCSCANを除く)	全て	全て	全て	全て	-	200	-	µs
twakeup	ｱｲﾄﾞﾙからの起き上がり	OSC20M, FREQSEL='10'	1	20MHz	5V	-	1	-	µs
			2	10MHz	3V	-	2	-	µs
			4	5MHz	2V	-	4	-	µs
		OSC20M, FREQSEL='01'	1	16MHz	5V	-	1.2	-	µs
			2	8MHz	3V	-	2.4	-	µs
		OSCULP32K	1	32.768kHz	3V	-	700	-	µs
	ｸﾛｯｸ元が停止されている時のｽﾀﾝﾊﾞｲまたはﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝからの起き上がり	OSC20M, FREQSEL='10'	1	20MHz	5V	-	12	-	µs
			2	10MHz	3V	-	13	-	µs
			4	5MHz	2V	-	15	-	µs
		OSC20M, FREQSEL='01'	1	16MHz	5V	-	16	-	µs
			2	8MHz	3V	-	15	-	µs
		OSCULP32K	1	32.768kHz	3V	-	750	-	µs

注: 起き上がり時間は起き上がり要求が与えられてから周辺機能ｸﾛｯｸがｸﾛｯｸ出力(CLKOUT)ﾋﾟﾝで利用可能になるまでの時間です。ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ実行が開始される前に4ｸﾛｯｸ周期停止されるCPUを除き、全ての周辺機能と単位部が最初のｸﾛｯｸ周期から実行を開始します。

図33-3. 起き上がり時間定義



33.7. 周辺機能消費電力

下表は様々な動作形態で各種入出力周辺機能に対して追加消費電流を計算するのに使うことができます。
いくつかの周辺機能はｽﾀﾝﾊﾞｲで動作する時にｸﾛｯｸの許可を求めます。更なる情報については周辺機能章をご覧ください。
動作条件:

- VDD=3V
- T=25℃
- 別の指定を除き、ｼｽﾃﾑ ｸﾛｯｸ元としてOSC20Mを1MHzで使用
- 別の指定を除き、ｱｲﾄﾞﾙ休止動作に於いて

表33-7. 周辺機能消費電力

周辺機能	条件	代表(注1)	単位
BOD	継続動作	19	µA
	1kHzでの採取動作	1.2	
TCA	1MHzでの16ﾋﾞｯﾄ計数	13	
TCB	1MHzでの16ﾋﾞｯﾄ計数	7.4	
RTC	OSCULP32Kの32.768kHzでの16ﾋﾞｯﾄ計数	1.2	
WDT (OSCULP32Kを含む)		0.7	
OSC20M		130	
AC	低電力動作禁止 (注2)	92	
	低電力動作許可 (注2)	45	
ADC (注3)	CLK_ADC=1MHz、VREF=内部2.048V	380	
XOSC32K	C_L=7.5pF	0.5	
OSCULP32K		0.4	
USART	9600bpsで許可	13	
SPI (主装置)	100kHzで許可	2.1	
TWI (主装置)	100kHzで許可	24	
TWI (従装置)	100kHzで許可	17	
ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ	消去動作	1.5	mA
	書き込み動作	3.0	

注1: 単位部の消費電流のみです。ﾏｲｸﾛ ｺﾝﾄﾛｰﾗの内部総消費電力を計算するには、使われる全ての周辺機能とｸﾛｯｸ元の消費電力値が「電気的特性」内の「消費電力」項で与えられる基礎消費電力に加えられなければなりません。

注2: ｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作でのCPU

注3: 自由走行動作でADC活動での平均消費電力

33.8. BODとPORの特性

表33-8. 電源特性

ｼﾝﾎﾞﾙ	説明	条件	最小	代表	最大	単位
SRON	電源ON傾斜		-	-	100 (注1,2)	V/ms

注1: 設計の指針用のみ、製造で検査されません。

注2: 最大速度よりも速い傾斜は初期通電後に電圧水準を変える場合にﾃﾞﾊﾞｲｽのﾘｾｯﾄを起動し得ます。

表33-9. 電源ONﾘｾｯﾄ(POR)特性

ｼﾝﾎﾞﾙ	説明	条件	最小	代表	最大	単位
V_{POR}	VDD下降でのPOR閾値電圧	0.5V/msまたはより遅い VDD下降/上昇	0.8 (注)	-	1.6 (注)	V
	VDD上昇でのPOR閾値電圧		1.4 (注)	-	1.8	

注: 設計の指針用だけです。製造で検査されません。

表33-10. 低電圧検出(BOD)特性

シンボル	説明	条件	最小	代表	最大	単位
V_{BOD}	BOD起動レベル(下降/上昇)	BODLEVEL0	1.7	1.8	2.0	V
		BODLEVEL2	2.4	2.6	2.9	
		BODLEVEL7	3.9	4.3	4.5	
V_{HYS}	ヒステリシス	BODLEVEL0	–	25	–	mV
		BODLEVEL2	–	40	–	
		BODLEVEL7	–	80	–	
t_{BOD}	検出時間	継続動作	–	7	–	µs
		1kHzでの採取動作	–	1	–	ms
		125kHzでの採取動作	–	8	–	
$t_{startup}$	始動時間	許可から準備可までの時間	–	40	–	µs
V_{INT}	割り込みレベル0 (VLMLVL='00')	選ばれたBOD基準を超える%	–	4	–	%
	割り込みレベル1 (VLMLVL='01')		–	13	–	
	割り込みレベル2 (VLMLVL='10')		–	25	–	

33.9. 外部リセット特性

表33-11. 外部リセット特性

シンボル	説明	条件	最小	代表	最大	単位
V_{VIH_RST}	$\overline{RESET}$用High入力電圧		0.7×VDD	–	VDD+0.2	V
V_{VIL_RST}	$\overline{RESET}$用Low入力電圧		-0.2	–	0.3×VDD	
t_{MIN_RST}	$\overline{RESET}$ピン最小パルス幅		2.5 (注)	–	–	µs
R_{p_RST}	$\overline{RESET}$プルアップ抵抗	V_{Reset}=0V	20	35	50	kΩ

注: この要素は設計の指針用のみ、製造で検査されません。

33.10. 発振器とクロック

動作条件:

- 別の指定を除き、VDD=3V
- 速度仕様を超える発振器周波数はCPUクロックが常に仕様内であるように分周されなければなりません。

表33-12. 20MHz内部発振器(OSC20M)特性

シンボル	項目	条件		最小	代表	最大	単位
f_{OSC20M}	工場校正周波数	FREQSEL='01'	TA=25℃,VDD=3.0V		16		MHz
		FREQSEL='10'			20		
f_{CAL}	使用者校正範囲	OSC20M FREQSEL='01'		14.5	–	17.5	
		OSC20M FREQSEL='10'		18.5	–	21.5	
E_{TOTAL}	16MHzと20MHzの周波数選択での総誤差	目標周波数からの誤差	TA=25℃,VDD=3.0V	-1.5	–	1.5	%
			TA=0～70℃,VDD=1.8～3.6V	-2.0 (注)	–	2.0 (注)	
			全動作範囲	-3.5	–	3.5	
Δf_{OSC20M}	校正段階量			–	0.75	–	
D_{OSC20M}	デューティサイクル			–	50	–	
$t_{startup}$	始動時間	2%精度内		–	12	–	µs

注: これらの値は特性付けに基づき、製造限度検査によって含まれません。

表33-13. 32.768kHz内部発振器(OSCULP32K)特性

ｼﾝﾎﾞﾙ	項目	条件	最小	代表	最大	単位
$f_{OSCULP32K}$	工場校正周波数			32.768		kHz
	工場校正精度	TA=25℃,VDD=3.0V	-3	-	3	%
E_{TOTAL}	目標周波数からの総誤差	TA=0～70℃,VDD=1.8～3.6V	-10 (注)	-	10 (注)	%
		全動作範囲	-20	-	20	%
$D_{OSCULP32K}$	ﾃﾞｭｰﾃｨ ｻｲｸﾙ		-	50	-	%
$t_{startup}$	始動時間		-	250	-	µs

注: これらの値は特性付けに基づき、製造限度検査によって含まれません。

表34-14. 32.768kHz外部発振器(XOSC32K)特性

ｼﾝﾎﾞﾙ	項目	条件	最小	代表	最大	単位
f_{out}	周波数		-	32.768	-	kHz
$t_{startup}$	始動時間	C_L=7.5pF	-	300	-	ms
C_L (注)	ｸﾘｽﾀﾙ負荷容量		7.5	-	12.5	pF
ESR (注)	等価直列抵抗 (安全係数=3)	C_L=7.5pF	-	-	80	kΩ
		C_L=12.5pF	-	-	40	kΩ

注: この要素は設計の指針用だけです。製造で検査されません。

図33-4. 外部ｸﾛｯｸ波形特性

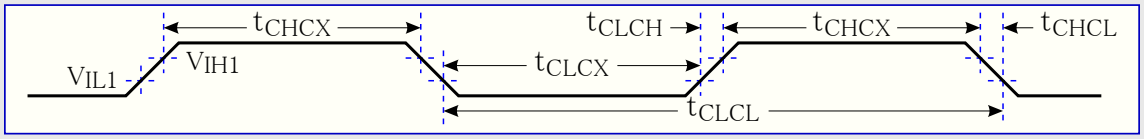


表33-15. 外部ｸﾛｯｸ特性

ｼﾝﾎﾞﾙ	項目	VDD=1.8～5.5V		VDD=2.7～5.5V		VDD=4.5～5.5V		単位
		最小	最大	最小	最大	最小	最大	
f_{CLCL}	ｸﾛｯｸ周波数	0	5.0	0	10.0	0	20.0	MHz
t_{CLCL}	ｸﾛｯｸ周期	200		100		50		ns
t_{CHCX}	Highﾚﾍﾞﾙ時間 (注)	80		40		20		ns
t_{CLCX}	Lowﾚﾍﾞﾙ時間 (注)	80		40		20		ns
t_{CLCH}	(最大周波数に対する)上昇時間 (注)		40		20		10	ns
t_{CHCL}	(最大周波数に対する)下降時間 (注)		40		20		10	ns
Δt_{CLCL}	隣接ｸﾛｯｸ周期間の変化率 (注)		20		20		20	%

注: これらの要素は設計の指針用だけです。製造で検査されません。

33.11. 入出力ﾋﾟﾝ特性

動作条件:

- TA=-40～125℃
- 別の指定を除き、VDD=1.8～5.5V

表33-16. 入出力ﾋﾟﾝ特性

ｼﾝﾎﾞﾙ	説明	条件	最小	代表	最大	単位
V_{IL}	Lowﾚﾍﾞﾙ入力電圧 ($\overline{\text{RESET}}$ﾋﾟﾝを除く)		-0.2	-	0.3×VDD	V
V_{IL2}	Lowﾚﾍﾞﾙ入力電圧 ($\overline{\text{RESET}}$ﾋﾟﾝ)		-0.2	-	0.3×VDD	
V_{IH}	Highﾚﾍﾞﾙ入力電圧 ($\overline{\text{RESET}}$ﾋﾟﾝを除く)		0.7×VDD	-	VDD+0.2	
V_{IH2}	Highﾚﾍﾞﾙ入力電圧 ($\overline{\text{RESET}}$ﾋﾟﾝ)		0.7×VDD	-	VDD+0.2	
V_{OL}	Lﾚﾍﾞﾙ出力電圧 (I/Oとしての$\overline{\text{RESET}}$ﾋﾟﾝを除く)	VDD=1.8V,IOL=1.5mA	-	-	0.36	
		VDD=3V,IOL=7.5mA	-	-	0.6	
		VDD=5V,IOL=15mA	-	-	1	
V_{OH}	Hﾚﾍﾞﾙ出力電圧 (I/Oとしての$\overline{\text{RESET}}$ﾋﾟﾝを除く)	VDD=1.8V,IOH=1.5mA	1.44	-	-	
		VDD=3V,IOH=7.5mA	2.4	-	-	
		VDD=5V,IOH=15mA	4	-	-	
V_{OL2}	Lﾚﾍﾞﾙ出力電圧 (I/Oとしての$\overline{\text{RESET}}$ﾋﾟﾝ)	VDD=1.8V,IOL=0.1mA	-	-	0.36	
		VDD=3V,IOL=0.25mA	-	-	0.6	
		VDD=5V,IOL=0.5mA	-	-	1	
V_{OH2}	Hﾚﾍﾞﾙ出力電圧 (I/Oとしての$\overline{\text{RESET}}$ﾋﾟﾝ)	VDD=1.8V,IOH=0.1mA	1.44	-	-	
		VDD=3V,IOH=0.25mA	2.4	-	-	
		VDD=5V,IOH=0.5mA	4	-	-	
I_{IH}/I_{IL}	I/Oﾋﾟﾝ入力漏れ電流 (I/Oとしての$\overline{\text{RESET}}$ﾋﾟﾝを除く)	VDD=5.5V,High入力	-	<0.05	-	µA
		VDD=5.5V,Low入力	-	<0.05	-	
I_{total}	ﾋﾟﾝ群毎の最大結合吸い込み電流 (注1)		-	-	100	mA
	ﾋﾟﾝ群毎の最大結合吐き出し電流 (注1)		-	-	100	
t_{RISE}	上昇時間	VDD=3V,負荷=20pF	-	2.5	-	ns
		VDD=5V,負荷=20pF	-	1.5	-	
t_{FALL}	下降時間	VDD=3V,負荷=20pF	-	2.0	-	
		VDD=5V,負荷=20pF	-	1.3	-	
C_{PIN}	別の指定を除くI/Oﾋﾟﾝ容量		-	4	-	pF
C_{PIN_TOSC}	TOSCﾋﾟﾝ容量 (注2)		-	5	-	
C_{PIN_TWI}	TWIﾋﾟﾝ容量 (注2)		-	12	-	
C_{PIN_AC}	ACﾋﾟﾝ容量 (注2)	PB0とPB1	-	12	-	
		他のACﾋﾟﾝ	-	4	-	
C_{PIN_VREFA}	ADC VREFAﾋﾟﾝ容量 (注2)		-	14	-	
R_P	ﾌﾟﾙｱｯﾌﾟ抵抗		20	35	60	kΩ

注1: ﾋﾟﾝ群x (Px7～0)。全ての入出力ﾎﾟｰﾄに対して結合した連続的な吸い込み/吐き出しの電流はこの限度を超えるべきではありません。

注2: この容量は例えその機能が使われない時にもこの機能を持つﾋﾟﾝに対して有効です。

33.12. USART

図33-5. 主装置SPI動作でのUSART – 主装置動作でのﾀｲﾐﾝｸﾞ必要条件

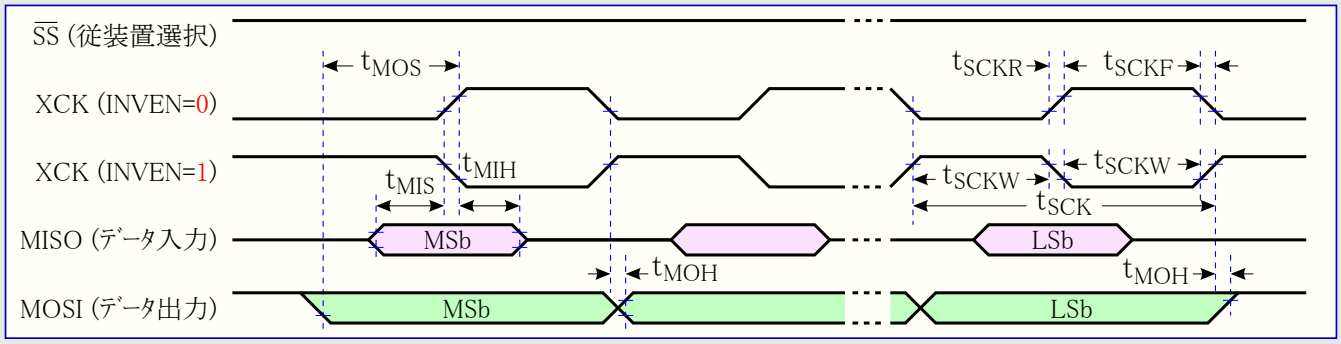


表33-17. 主装置SPI動作でのUSART – ﾀｲﾐﾝｸﾞ特性 (注)

ｼﾝﾎﾞﾙ	説明	条件	最小	代表	最大	単位
f_{SCK}	SCK周波数	主装置	–	–	10	MHz
t_{SCK}	SCK周期	主装置	100	–	–	ns
t_{SCKW}	SCK High/Low期間	主装置	–	0.5×t_{SCK}	–	ns
t_{SCKR}	SCK上昇時間	主装置	–	2.7	–	ns
t_{SCKF}	SCK下降時間	主装置	–	2.7	–	ns
t_{MIS}	入力ﾃﾞｰﾀ 準備時間	主装置	–	10	–	ns
t_{MIH}	入力ﾃﾞｰﾀ 保持時間	主装置	–	10	–	ns
t_{MOS}	SCK先行端対、出力ﾃﾞｰﾀ 準備時間	主装置	–	0.5×t_{SCK}	–	ns
t_{MOH}	SCKからの出力遅延時間	主装置	–	1.0	–	ns

注: これらの要素は設計の指針用のみ、製造で検査されません。

33.13. SPI

図33-6. SPI – 主装置動作でのﾀｲﾐﾝｸﾞ必要条件

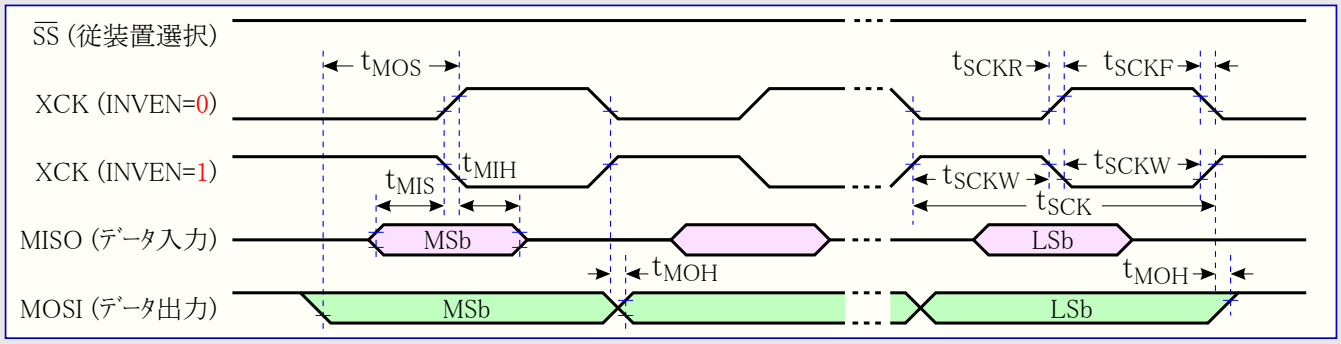


図33-7. SPI – 従装置動作でのﾀｲﾐﾝｸﾞ必要条件

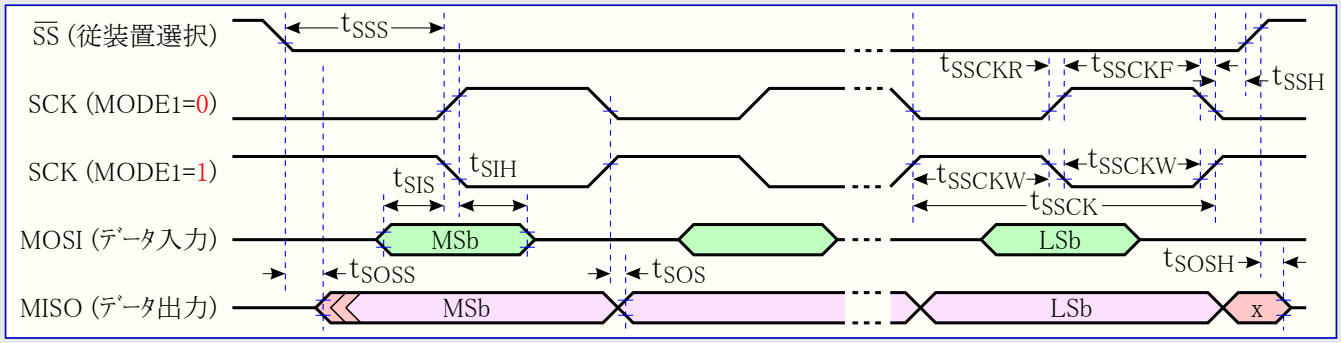


表33-18. SPI – ﾀｲﾐﾝｸﾞ特性 (注)

ｼﾝﾎﾞﾙ	説明	条件	最小	代表	最大	単位
f_{SCK}	SCKｸﾛｯｸ周波数	主装置	–	–	10	MHz
t_{SCK}	SCK周期	主装置	100	–	–	ns
t_{SCKW}	SCK High/Low期間	主装置	–	$0.5\times t_{SCK}$	–	ns
t_{SCKR}	SCK上昇時間	主装置	–	2.7	–	ns
t_{SCKF}	SCK下降時間	主装置	–	2.7	–	ns
t_{MIS}	入力ﾃﾞｰﾀ準備時間	主装置	–	10	–	ns
t_{MIH}	入力ﾃﾞｰﾀ保持時間	主装置	–	10	–	ns
t_{MOS}	SCK先行端対、出力ﾃﾞｰﾀ準備時間	主装置	–	$0.5\times t_{SCK}$	–	ns
t_{MOH}	SCKからの出力遅延時間	主装置	–	1.0	–	ns
f_{SSCK}	従装置SCKｸﾛｯｸ周波数	従装置	–	–	5	MHz
t_{SSCK}	従装置SCK周期	従装置	$6\times t_{CLK_PER}$	–	–	ns
t_{SSCKW}	SCK High/Low期間	従装置	$3\times t_{CLK_PER}$	–	–	ns
t_{SSCKR}	SCK上昇時間	従装置	–	–	1600	ns
t_{SSCKF}	SCK下降時間	従装置	–	–	1600	ns
t_{SIS}	入力ﾃﾞｰﾀ準備時間	従装置	0	–	–	ns
t_{SIH}	入力ﾃﾞｰﾀ保持時間	従装置	$3\times t_{CLK_PER}$	–	–	ns
t_{SSS}	SCK先行端に対するSS↓準備時間	従装置	–	t_{CLK_PER}	–	ns
t_{SSH}	SCK後行端からのSS Low保持時間	従装置	–	t_{CLK_PER}	–	ns
t_{SOS}	SCKからの出力遅延時間	従装置	–	8.0	–	ns
t_{SOH}	SCKからの出力保持時間	従装置	–	13	–	ns
t_{SOSS}	SS↓からの出力準備時間	従装置	–	11	–	ns
t_{SOSH}	SS↑からの出力保持時間	従装置	–	8.0	–	ns

注: これらの要素は設計の指針用のみ、製造で検査されません。

(訳注) 表33-18.のt_{SOH}は図33-7.で対応するｼﾝﾎﾞﾙ記載がありません。

33.14. TWI

図33-8. TWI – ﾀｲﾐﾝｸﾞ必要条件

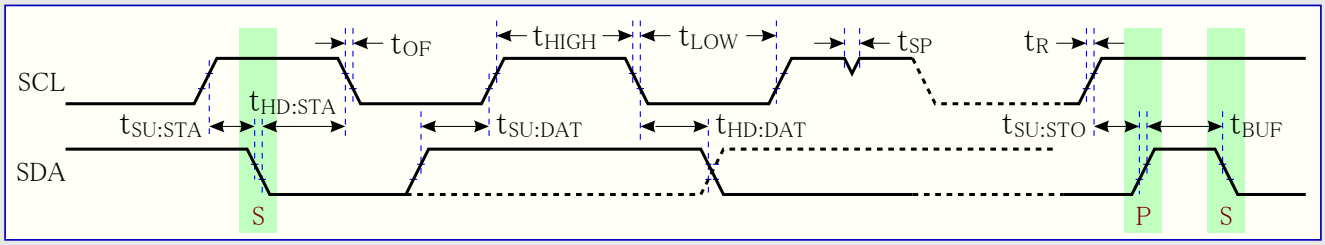


表33-19. TWI – ﾀｲﾐﾝｸﾞ特性 (注)

ｼﾝﾎﾞﾙ	説明	条件		最小	代表	最大	単位
f_{SCL}	SCLｸﾛｯｸ周波数	最大周波数は10MHzのｼｽﾃﾑ ｸﾛｯｸを必要とします。		0	–	1000	kHz
V_{IH}	Highﾚﾍﾞﾙ入力電圧			0.7×VDD	–	–	V
V_{IL}	Lowﾚﾍﾞﾙ入力電圧			–	–	0.3×VDD	V
V_{HYS}	ｼｭﾐｯﾄ ﾄﾘｶﾞ入力ﾋｽﾃﾘｼｽ電圧			0.1×VDD	–	0.4×VDD	V
V_{OL}	Lowﾚﾍﾞﾙ出力電圧	I_{OL}=20mA,高速動作+		–	–	0.2×VDD	V
		I_{OL}=3mA,標準動作,VDD＞2V		–	–	0.4	V
		I_{OL}=3mA,標準動作,VDD≦2V		–	–	0.2×VDD	V
I_{OL}	Lowﾚﾍﾞﾙ出力電流	V_{OL}=0.4V	f_{SCL}≦400kHz	3	–	–	mA
			f_{SCL}≦1MHz	20	–	–	mA
C_B	各ﾊﾞｽ線に対する容量性負荷	f_{SCL}≦100kHz		–	–	400	pF
		f_{SCL}≦400kHz		–	–	400	pF
		f_{SCL}≦1MHz		–	–	550	pF
t_R	SDAとSCL両方の出力上昇時間	f_{SCL}≦100kHz		–	–	1000	ns
		f_{SCL}≦400kHz		20	–	300	ns
		f_{SCL}≦1MHz		–	–	120	ns
t_{OF}	出力下降時間(V_{IHmin}→V_{ILmax})	10pF<ﾊﾞｽ線容量<400pF	f_{SCL}≦400kHz	20×(VDD/5.5V)	–	300	ns
			f_{SCL}≦1MHz	20×(VDD/5.5V)	–	120	ns
t_{SP}	入力濾波による尖頭雑音消去			0	–	50	ns
I_I	入力電流(ﾋﾟﾝ単位)	0.1×VDD＜V_I＜0.9×VDD		–	–	1	µA
C_I	ﾋﾟﾝ入力容量			–	–	10	pF
Rp	ﾌﾟﾙｱｯﾌﾟ抵抗値	f_{SCL}≦100kHz		(VDD−VOL(max))/IOL	–	1000ns/(0.8473×CB)	Ω
		f_{SCL}≦400kHz		–	–	300ns/(0.8473×CB)	Ω
		f_{SCL}≦1MHz				120ns/(0.8473×CB)	Ω
$t_{HD:STA}$	(再送)開始条件保持時間	f_{SCL}≦100kHz		4.0	–	–	µs
		f_{SCL}≦400kHz		0.6	–	–	µs
		f_{SCL}≦1MHz		0.26	–	–	µs
		開始条件		–	2.1	–	T_{SCL}
		再送開始条件		–	3.1	–	T_{SCL}
t_{LOW}	SCLｸﾛｯｸLowﾚﾍﾞﾙ時間	f_{SCL}≦100kHz		4.7	–	–	µs
		f_{SCL}≦400kHz		1.3	–	–	µs
		f_{SCL}≦1MHz		0.5	–	–	µs
t_{HIGH}	SCLｸﾛｯｸHighﾚﾍﾞﾙ時間	f_{SCL}≦100kHz		4.0	–	–	µs
		f_{SCL}≦400kHz		0.6	–	–	µs
		f_{SCL}≦1MHz		0.26	–	–	µs
$t_{SU:STA}$	再送開始条件準備時間	f_{SCL}≦100kHz		4.7	–	–	µs
		f_{SCL}≦400kHz		0.6	–	–	µs
		f_{SCL}≦1MHz		0.26	–	–	µs
		–		–	3	–	T_{SCL}
$t_{HD:DAT}$	ﾃﾞｰﾀ保持時間	f_{SCL}≦100kHz		0	–	3.45	µs
		f_{SCL}≦400kHz		0	–	0.9	µs
		f_{SCL}≦1MHz		0	–	0.45	µs
$t_{SU:DAT}$	ﾃﾞｰﾀ準備時間	f_{SCL}≦100kHz		250	–	–	ns
		f_{SCL}≦400kHz		100	–	–	ns
		f_{SCL}≦1MHz		50	–	–	ns
$t_{SU:STO}$	停止条件準備時間	f_{SCL}≦100kHz		4	–	–	µs
		f_{SCL}≦400kHz		0.6	–	–	µs
		f_{SCL}≦1MHz		0.26	–	–	µs
		–		–	2	–	T_{SCL}

次頁へ続く

表33-19 (続き). TWI – ﾀｲﾐﾝｸﾞ特性 (注)

ｼﾝﾎﾞﾙ	説明	条件	最小	代表	最大	単位
t_{BUF}	停止条件→開始条件間ﾊﾞｽ開放時間	f_{SCL}≦100kHz	4.7	–	–	µs
		f_{SCL}≦400kHz	1.3	–	–	
		f_{SCL}≦1MHz	0.5	–	–	
		–	–	2	–	T_{SCL}

注: これらのﾊﾟﾗﾒｰﾀは設計指針のためだけで製造に於いて検査されていません。

表33-20. SDA保持時間 (注1,2)

ｼﾝﾎﾞﾙ	説明	条件			最小	代表	最大	単位
$t_{HD:DAT}$	ﾃﾞｰﾀ保持時間	主装置 (注3)	f_{CLK_PER}=5MHz	SDAHOLD='00'	–	800	–	ns
				SDAHOLD='01'	830	850	950	
				SDAHOLD='02'	830	850	950	
				SDAHOLD='03'	830	850	1270	
			f_{CLK_PER}=10MHz	SDAHOLD='00'	–	400	–	
				SDAHOLD='01'	430	450	550	
				SDAHOLD='02'	430	450	580	
				SDAHOLD='03'	430	550	1270	
			f_{CLK_PER}=20MHz	SDAHOLD='00'	–	200	220	
				SDAHOLD='01'	230	250	350	
				SDAHOLD='02'	260	450	580	
				SDAHOLD='03'	380	600	1270	
		従装置 (注4)	全周波数	SDAHOLD='00'	90	150	220	
				SDAHOLD='01'	130	200	350	
				SDAHOLD='02'	260	400	580	
				SDAHOLD='03'	390	550	1270	

注1: これらの要素は設計指針用だけで、製造限度検査によって含まれません。

注2: SDAHOLDはSCL信号がLowとして検出された後のﾃﾞｰﾀ保持時間です。実際の保持時間は、従って、構成設定された保持時間よりも長くなります。

注3: 主装置動作について、ﾃﾞｰﾀ保持時間は以下の最大のものです。
- 4×t_{CLK_PER}+50ns(代表)
- SDAHOLD構成設定+SCL濾波遅延

注4: 従装置動作について、保持時間は以下によって与えられます。
- SDAHOLD構成設定+SCL濾波遅延

33.15. VREF

表33-21. 内部基準電圧特性 (注)

ｼﾝﾎﾞﾙ	説明	条件	最小	代表	最大	単位
t_{start}	始動時間		–	25	–	µs
V_{DD}	1V024に対する電源電圧範囲		1.8	–	5.5	V
	2V048に対する電源電圧範囲		2.6	–	5.5	
	2V500に対する電源電圧範囲		3.0	–	5.5	
	4V096に対する電源電圧範囲		4.6	–	5.5	

注: これらの要素は設計の指針用のみ、製造で検査されません。

表33-22. ADCの内部基準電圧特性 (注1)

ｼﾝﾎﾞﾙ (注2)	説明	条件	最小	代表	最大	単位
2V048	内部2.048V基準電圧	VDD=1.8～5.5V, T=0～85℃	-2.0	–	2.0	%
1V024,2V500,4V096	内部1.024/2.500/4.096V基準電圧		-3.0	–	3.0	
1V024,2V048, 2V500,4V096	内部1.024/2.048/2.500/4.096V基準電圧	VDD=1.8～5.5V, T=-40～125℃	-5.0	–	5.0	

注1: これらの値は特性付けに基づき、製造限度検査によって含まれません。

注2: ｼﾝﾎﾞﾙのxVxxxはADC制御C(ADCn.CTRLC)ﾚｼﾞｽﾀの基準選択選択(REFSEL)ﾋﾞｯﾄ領域の各々の値を参照します。

表33-23. ACの内部基準電圧特性 (注1)

ｼﾝﾎﾞﾙ (注2)	説明	条件	最小	代表	最大	単位
1V024,2V048, 2V500,4V096	内部1.024/2.048/2.500/4.096V 基準電圧	VDD=1.8～5.5V, T=-40～125℃	-4.5	-	4.5	%

注1: これらの値は特性付けに基づき、製造検査限度によって含まれません。

注2: ｼﾝﾎﾞﾙのxVxxxはVREF制御A(VREF.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀのｱﾅﾛｸﾞ比較器0基準選択(ACnREFSEL)ﾋﾞｯﾄ領域の各々の値を参照します。

33.16. ADC

動作条件:

- TA=-40～125℃
- 自由走行動作でのADCで採取持続時間(SAMPDUR)=$02に定義される採取速度
- 特記無き限り、VREF選択と採取速度の許された全ての組み合わせに対して適用
- 特記無き限り、PGAの許可有りとなしで特性は同じです。

表33-24. 電源、基準電圧、入力範囲

ｼﾝﾎﾞﾙ	説明	条件	最小	代表	最大	単位
VDD	供給電圧		1.8	-	5.5	V
VREF	基準電圧	REFSEL=内部基準電圧	1.024	-	VDD-0.5	V
		REFSEL=外部基準電圧(VREFA)	1	-	5.5	V
		REFSEL=VDD	1.8	-	5.5	V
CIN	入力容量	PGA禁止	-	8	-	pF
		PGA許可	-	7	-	pF
RIN	入力抵抗		-	14	-	kΩ
VIN	入力電圧範囲	ｼﾝｸﾞﾙ ｴﾝﾄﾞ動作	0	-	VREF	V
		差動動作	-0.1	-	VDD+0.1	V

表33-25. ｸﾛｯｸとﾀｲﾐﾝｸﾞの特性

ｼﾝﾎﾞﾙ	説明	条件		最小	代表	最大	単位
fCLK_ADC	変換速度	PGA禁止	REFSEL=内部参照基準	-	-	187	ksps
			REFSEL=外部参照基準	-	-	375	ksps
			REFSEL=VDD	-	-	375	ksps
		PGA許可	REFSEL=内部参照基準	-	-	107	ksps
			REFSEL=外部参照基準	-	-	181	ksps
			REFSEL=VDD	-	-	181	ksps
CLK_ADC	ADCｸﾛｯｸ周波数	REFSEL=内部参照基準		300	-	3000	kHz
		REFSEL=外部参照基準		300	-	6000	kHz
		REFSEL=VDD		300	-	6000	kHz
TS	採取時間	PGA禁止		0.5	-	255.5	CLK_ADC周期
		PGA許可		1	-	256	CLK_ADC周期

表33-26. 精度特性 - 外部参照基準 (注)

ｼﾝﾎﾞﾙ	説明	条件	最小	代表	最大	単位
Res	分解能		-	-	12	ﾋﾞｯﾄ
EINL	積分非直線性誤差	VDD=3.0V, VREF=2.048V, CLK_ADC=2.5MHz,差動動作	-2.0	0.5	2.0	LSb
EDNL	微分非直線性誤差		-0.9	0.8	1.4	LSb
EOFF	変位(ｵﾌｾｯﾄ)誤差		-28	1.5	28	LSb
EGAIN	利得誤差		-2.1	0.6	2.1	LSb
ET	総未調整誤差		-	5	21	LSb

注: これらの値は特性付けに基づき、製造限度検査によって含まれません。

表33-27. 精度特性 – 内部参照基準 (注)

ｼﾝﾎﾞﾙ	説明	条件	最小	代表	最大	単位
Res	分解能		–	–	12	ﾋﾞｯﾄ
E_{INL}	積分非直線性誤差	VDD=3.0V, V_{REF}=2.048V, CLK_ADC=2.5MHz,差動動作	-2.3	1	2.3	LSb
E_{DNL}	微分非直線性誤差		-0.9	1	1.6	
E_{OFF}	変位(ｵﾌｾｯﾄ)誤差		-28	1.5	28	
E_{GAIN}	利得誤差		-81	7	81	
E_T	総未調整誤差		–	10	42	

注: これらの値は特性付けに基づき、製造限度検査によって含まれません。

表33-28. PGA許可での精度特性

ｼﾝﾎﾞﾙ	説明	条件		最小	代表	最大	単位
N_{RMS}	入力雑音		PGA利得=1倍	–	32	–	µVRMS
			PGA利得=2倍	–	63	–	
			PGA利得=4倍	–	125	–	
			PGA利得=8倍	–	250	–	
			PGA利得=16倍	–	500	–	
E_{GAIN}	利得誤差	VDD=3.0V	PGA利得=1倍	-0.4	-0.2	0.4	%
			PGA利得=2倍	-0.5	-0.2	0.5	
			PGA利得=4倍	-0.7	-0.3	0.7	
			PGA利得=8倍	-1.2	-0.6	1.2	
			PGA利得=16倍	-1.7	-0.8	1.7	

注: これらの値は特性付けに基づき、製造限度検査によって含まれません。

33.17. TEMPSENSE

動作条件:

- VDD=3V
- 別の言及を除き、TA=25℃

表33-29. 温度感知器、精度特性

ｼﾝﾎﾞﾙ	説明	条件	最小	代表	最大	単位
VDD	供給電圧		1.8	–	5.5	V
T_{ACC}	感知器精度 (注1,2)	TA=25℃	–	+4.5	–	℃
T_{RES}	変換分解能	10ﾋﾞｯﾄ	–	0.55	–	
t_{CNV}	変換時間	1MHz ADCｸﾛｯｸ	–	13	–	µs

注1: これらの値は特性付けに基づき、製造限度検査によって含まれません。

注2: 温度に渡る特性は「代表特性」章で見つけることができます。

33.18. AC

表33-30. ｱﾅﾛｸﾞ比較器特性、低電力動作禁止

ｼﾝﾎﾞﾙ	説明	条件	最小	代表	最大	単位
V_{IN}	入力電圧		-0.2	–	VDD	V
V_{OFF}	入力変位(ｵﾌｾｯﾄ)電圧	0.7V<V_{IN}<(VDD-0.7V)	-20	2.0	20	mV
		V_{IN}=-0.2V～VDD	-40	5.0	40	
I_L	入力漏れ電流		–	5	–	nA
T_{START}	始動時間		–	1.3	–	µs
V_{HYS}	ﾋｽﾃﾘｼｽ	HYSMODE='00' (OFF)	–	0	–	mV
		HYSMODE='01'	–	10	–	
		HYSMODE='10'	–	30	–	
		HYSMODE='11'	–	55	–	
t_{PD}	伝搬遅延	VDD≧2.7V,25mV過駆動	–	50	–	ns

表33-31. ｱﾅﾛｸﾞ比較器特性、低電力動作許可

ｼﾝﾎﾞﾙ	説明	条件	最小	代表	最大	単位
V_{IN}	入力電圧		-0.2	-	VDD	V
V_{OFF}	入力変位(ｵﾌｾｯﾄ)電圧	0.7V<V_{IN}<(VDD-0.7V)	-30	2.5	30	mV
		V_{IN}=0V～VDD	-50	8.0	50	
I_L	入力漏れ電流		-	5	-	nA
T_{START}	始動時間		-	1.3	-	µs
V_{HYS}	ﾋｽﾃﾘｼｽ	HYSMODE='00' (OFF)	-	0	-	mV
		HYSMODE='01'	-	10	-	
		HYSMODE='10'	-	40	-	
		HYSMODE='11'	-	80	-	
t_{PD}	伝搬遅延	VDD≧2.7V,25mV過駆動	-	150	-	ns

33.19. UPDI

図33-9. UPI許可手順

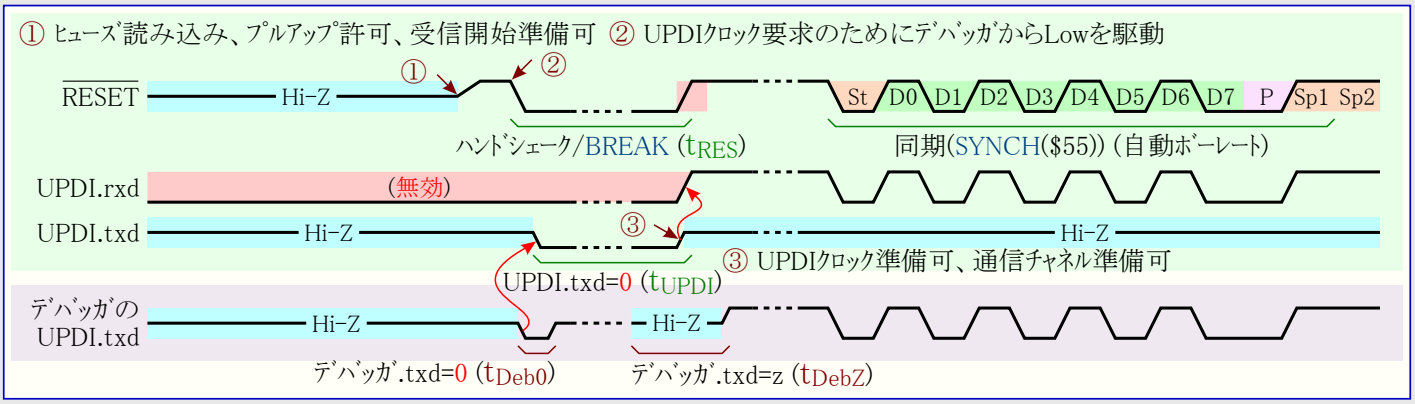


表33-32. UPDIﾀｲﾐﾝｸﾞ特性 (注)

ｼﾝﾎﾞﾙ	説明	最小	最大	単位
t_{RES}	$\overline{\text{RESET}}$でのﾊﾝﾄﾞｼｪｰｸ/BREAKの持続時間	10	200	µs
t_{UPDI}	UPDI.txd=0の持続時間	10	200	
t_{Deb0}	ﾃﾞﾊﾞｯｶﾞ.txd=0の持続時間	0.2	1	
t_{DebZ}	ﾃﾞﾊﾞｯｶﾞ.txd=z(Hi-Z)の持続時間	200	14000	

注: これらの要素は設計指針用だけで、製造限度検査によって含まれません。

表33-33. UPDI最大ﾋﾞｯﾄ速度対VDD (注)

ｼﾝﾎﾞﾙ	説明	条件		最大	単位
f_{UPDI}	UPDIﾎﾞｰﾚｰﾄ	TA=0～50℃	VDD1.8～5.5V	225	kbps
			VDD2.2～5.5V	450	
			VDD2.7～5.5V	900	

注: これらの要素は設計指針用だけで、製造限度検査によって含まれません。

33.20. ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ時間

ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘとEEPROMに対する代表的なﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ時間については次表をご覧ください。

表33-34. ﾒﾓﾘ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ仕様

ｼﾝﾎﾞﾙ	説明	最小	代表 (†)	最大	単位	条件
ﾃﾞｰﾀ用EEPROMﾒﾓﾘ仕様						
EEE(*)	ﾃﾞｰﾀEEPROMﾊﾞｲﾄ耐久性	100000	-	-	消去/書き回数	-40℃≦TA≦+105℃
tEE_RET	保持特性	-	40	-	年	TA=55℃
tEE_PBC	ﾍﾟｰｼﾞ緩衝部解消時間 (PBC)	-	7	-	CLK_{CPU}数	
tEE_EEER	EEPROM全体消去時間 (EEER)	-	4	-	ms	
tEE_WP	ﾍﾟｰｼﾞ書き込み時間 (WP)	-	2	-		
tEE_ER	ﾍﾟｰｼﾞ消去時間 (ER)	-	2	-		
tEE_ERWP	ﾍﾟｰｼﾞ消去/書き込み時間 (ERWP)	-	4	-		
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ用ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ仕様						
EFL(*)	ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ ｾﾙ耐久性	10000	-	-	消去/書き回数	-40℃≦TA≦+105℃
tFL_RET	保持特性	-	40	-	年	TA=55℃
VFL_UPDI	ﾁｯﾌﾟ消去操作用VDD	VBODLEVEL0 (注1)	-	VDDMAX	V	
tFL_PBC	ﾍﾟｰｼﾞ緩衝部解消時間 (PBC)	-	7	-	CLK_{CPU}数	
tFL_CHER	ﾁｯﾌﾟ消去時間 (CHER)	-	4	-	ms	
tFL_WP	ﾍﾟｰｼﾞ書き込み時間 (WP)	-	2	-		
tFL_ER	ﾍﾟｰｼﾞ消去時間 (ER)	-	2	-		
tFL_ERWP	ﾍﾟｰｼﾞ消去/書き込み時間 (ERWP)	-	4	-		
tFL_UPDI	UPDIでのﾁｯﾌﾟ消去時間	-	40	-		

†: “代表”列のﾃﾞｰﾀは別の定めがない限り、TA=25℃とVDD=3.0Vです。これらの要素は設計指針用だけで検査されません。

*: これらの要素は特性付けされますが、製造で検査されません。

注1: ﾁｯﾌﾟ消去の間、BODLEVEL0で構成設定された低電圧検出器(BOD)がONを強制されます。VDD供給電圧がBODLEVEL0に対するVBOD未満の場合、消去の試みは失敗するでしょう。

34. 代表特性

34.1. 消費電力 (訳注:原書での本項はTBDですが、本書では参考用にATtiny1624/1626/1627の図を記載しています。)

34.1.1. 活動動作消費電流

図34-1. 活動動作消費電流 対 周波数 (1MHz～20MHz) T=25℃ (EXTCLK)

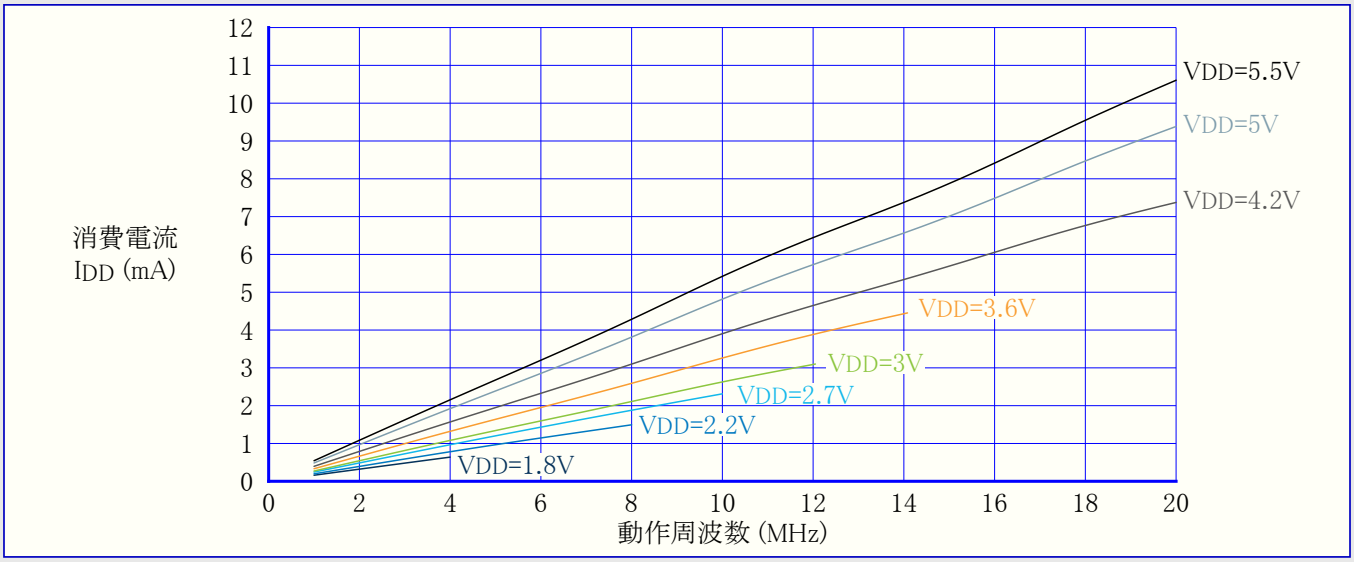


図34-2. 活動動作消費電流 対 周波数 (100kHz～1MHz) T=25℃ (EXTCLK)

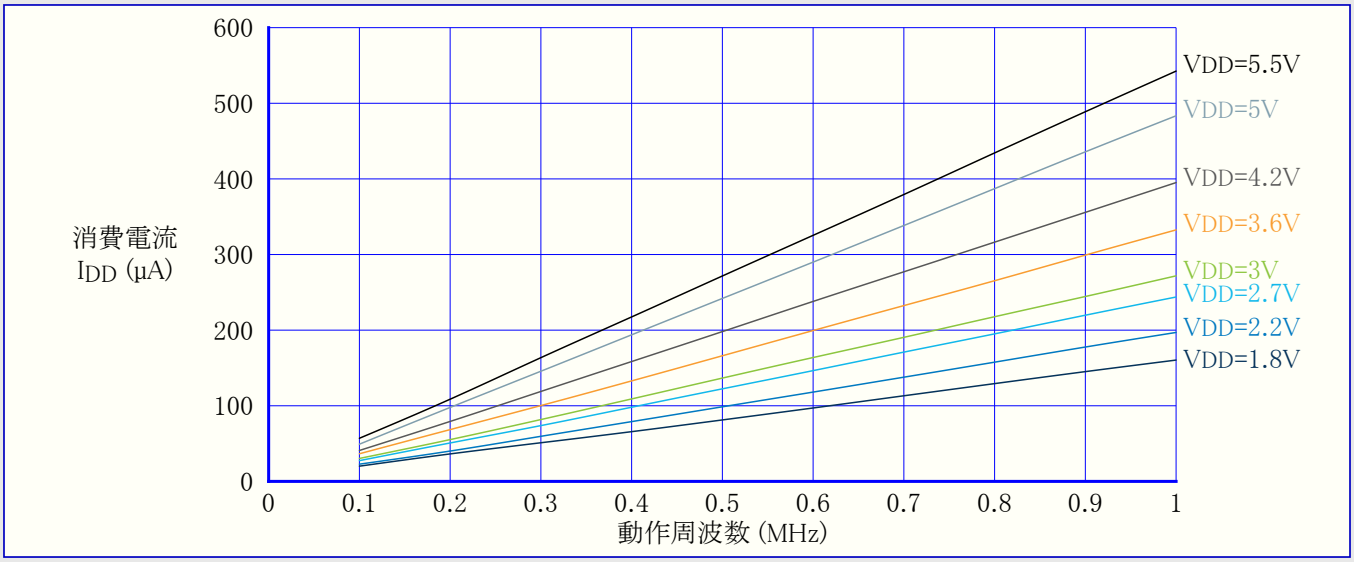


図34-3. 活動動作消費電流 対 温度 (OSC20M, *f*=20MHz)

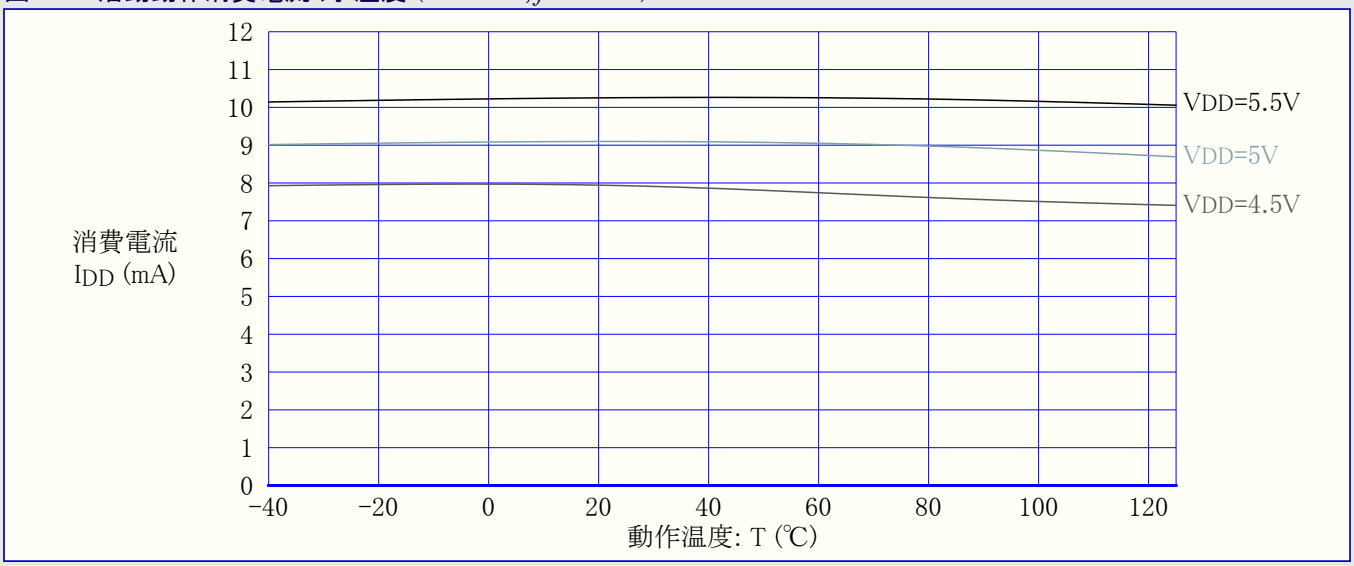


図34-4. 活動動作消費電流 対 温度 (OSC20M, *f*=16MHz)

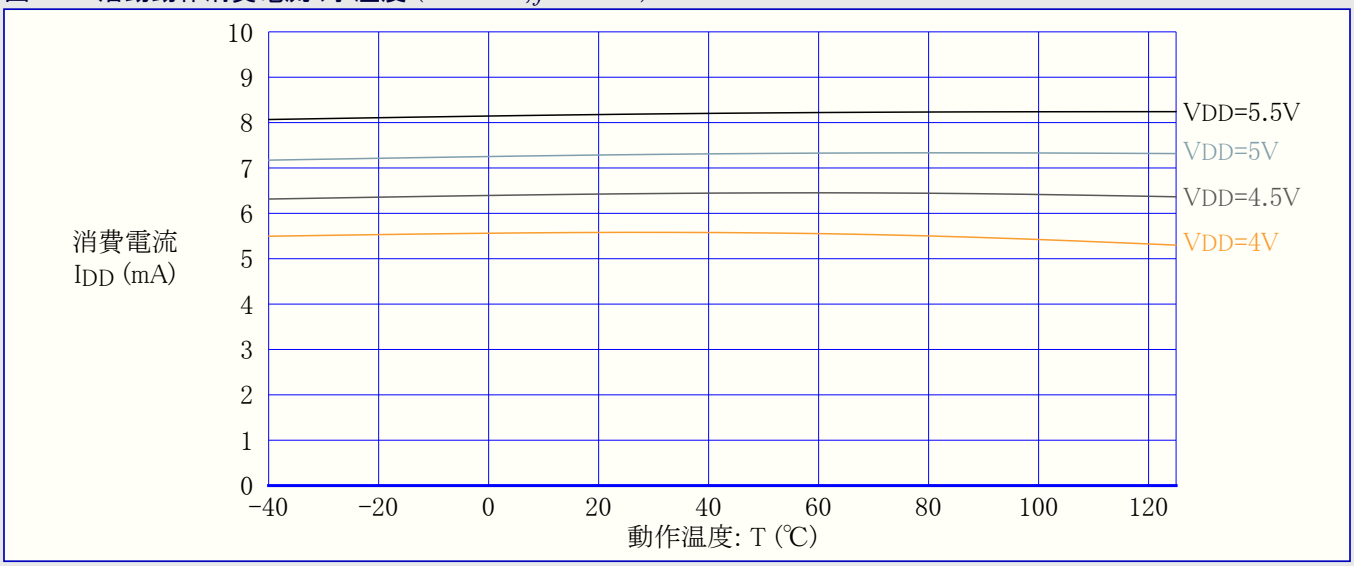


図34-5. 活動動作消費電流 対 動作電圧 (OSC20M, *f*=1.25～20MHz) T=25℃

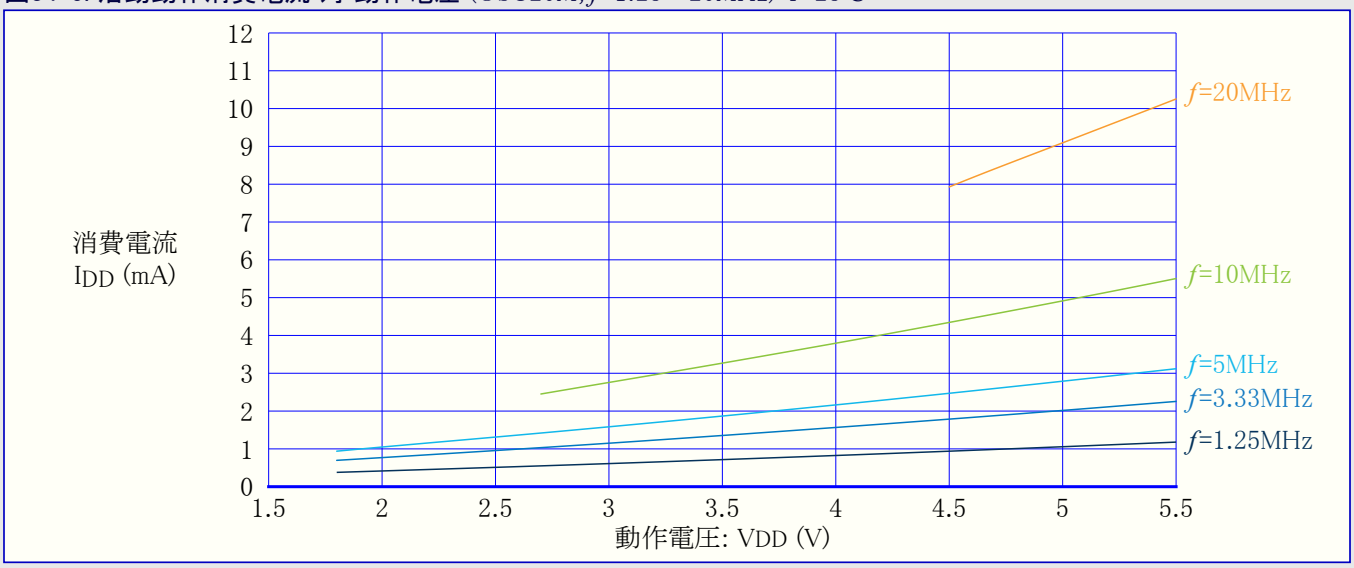


図34-6. 活動動作消費電流 対 動作電圧 (OSC20M, *f*=1～16MHz) T=25℃

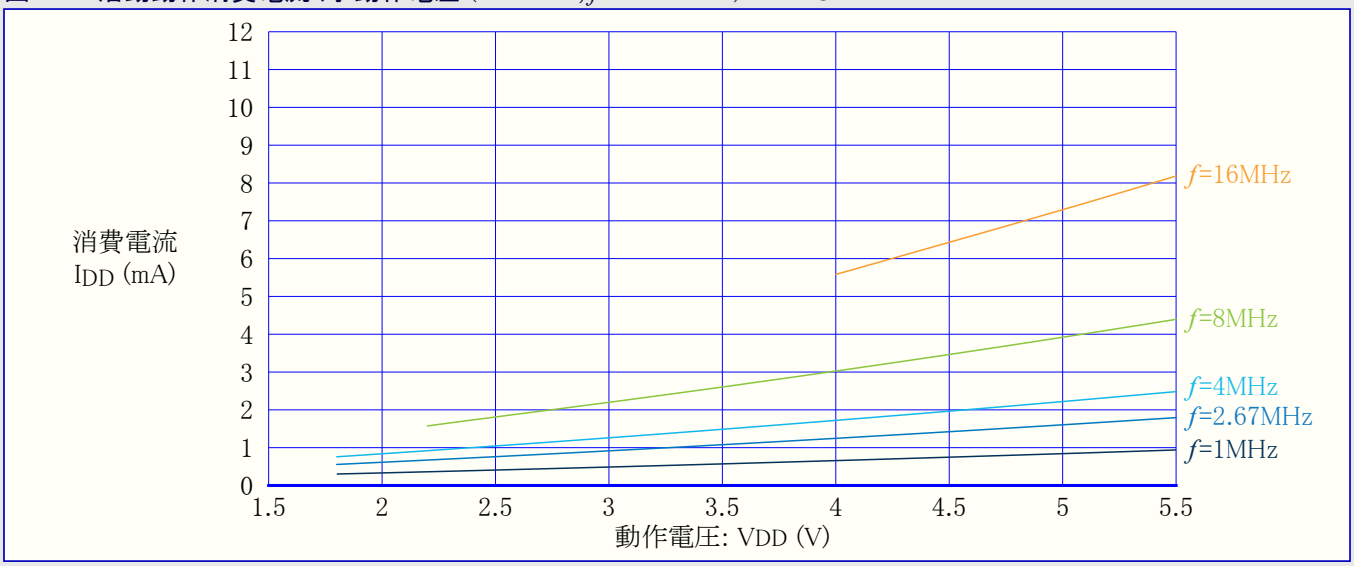
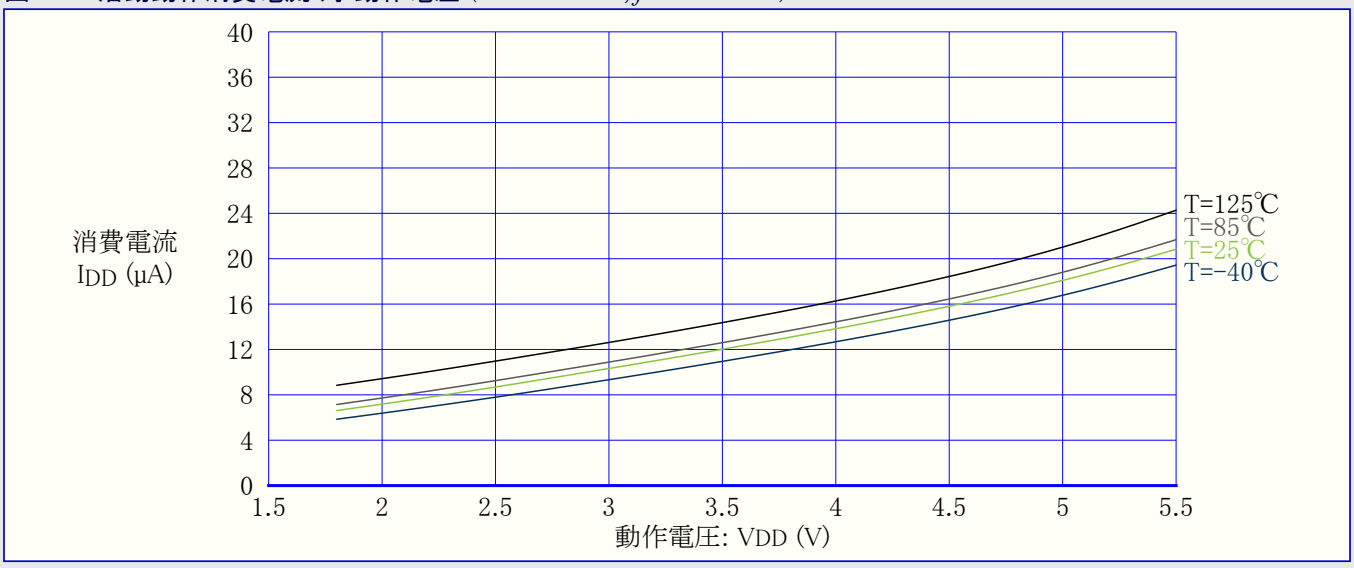


図34-7. 活動動作消費電流 対 動作電圧 (OSCULP32K, *f*=32.768kHz)



34.1.2. ｱｲﾄﾞﾙ動作消費電流

図34-8. ｱｲﾄﾞﾙ動作消費電流 対 周波数 (1MHz～20MHz) T=25℃ (EXTLCK)

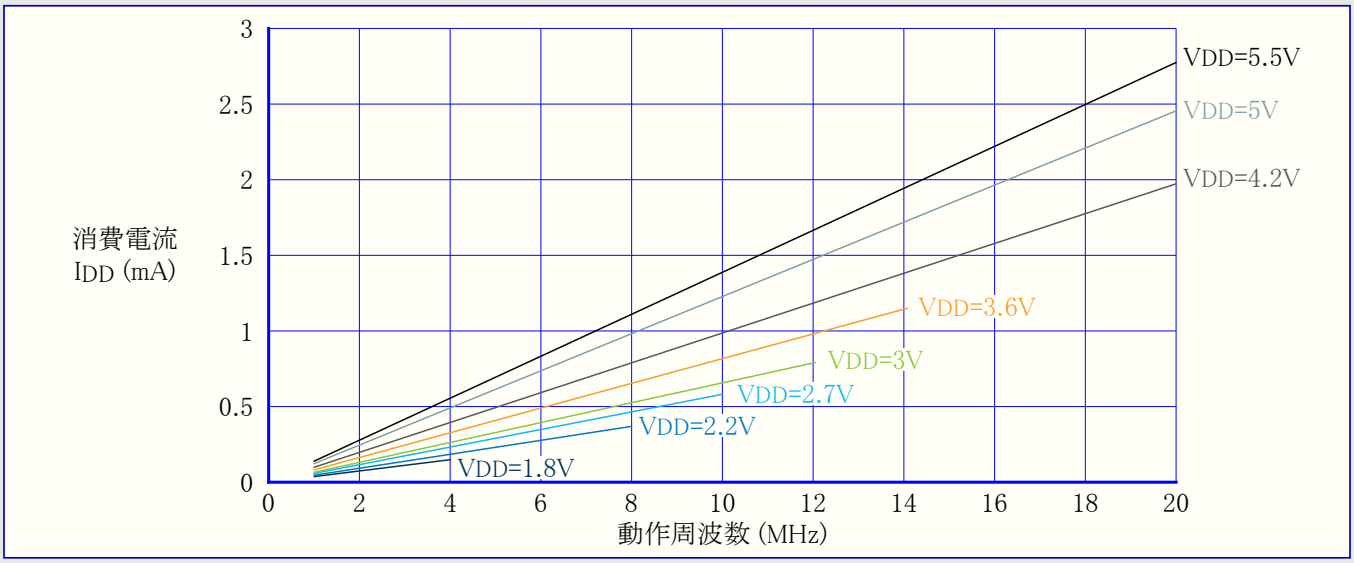


図34-9. ｱｲﾄﾞﾙ動作消費電流 対 周波数 (100kHz～1MHz) T=25℃ (EXTLCK)

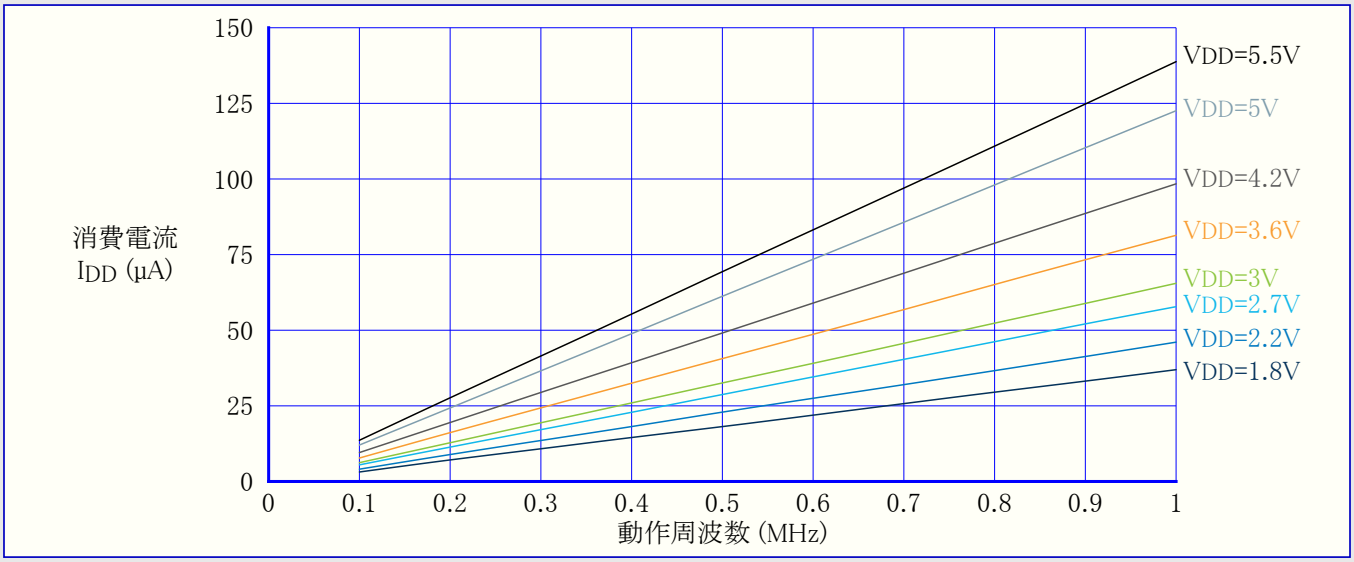


図34-10. ｱｲﾄﾞﾙ動作消費電流 対 温度 (OSC20M, *f*=20MHz)

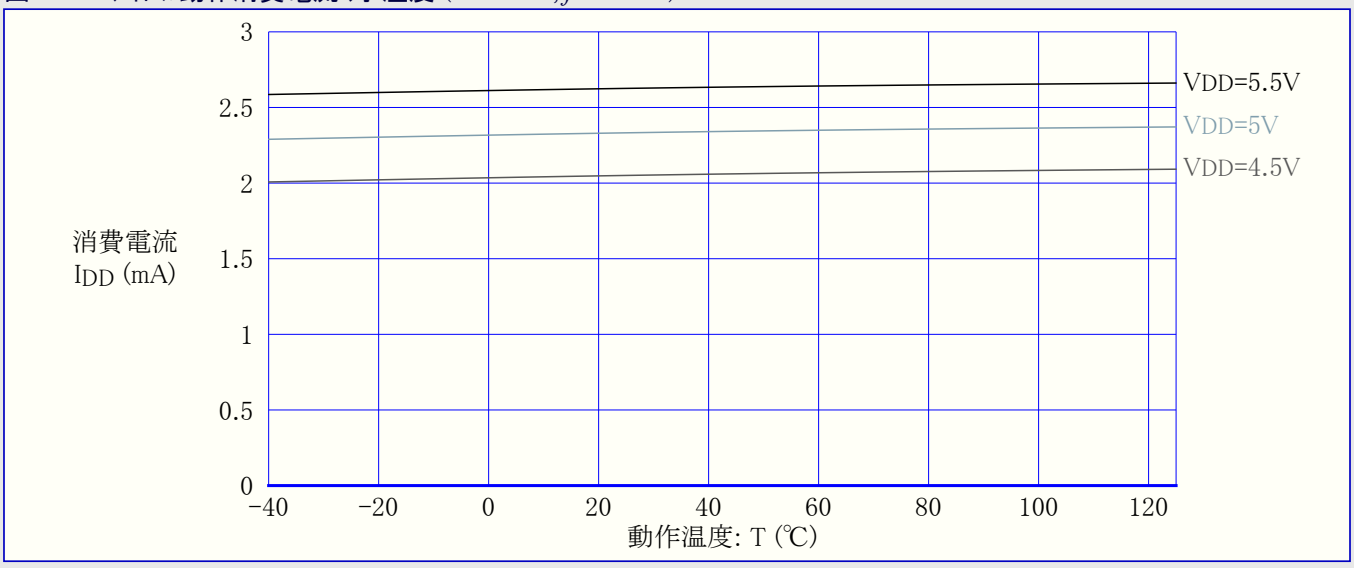


図34-11. ｱｲﾄﾞﾙ動作消費電流 対 温度 (OSC20M, *f*=16MHz)

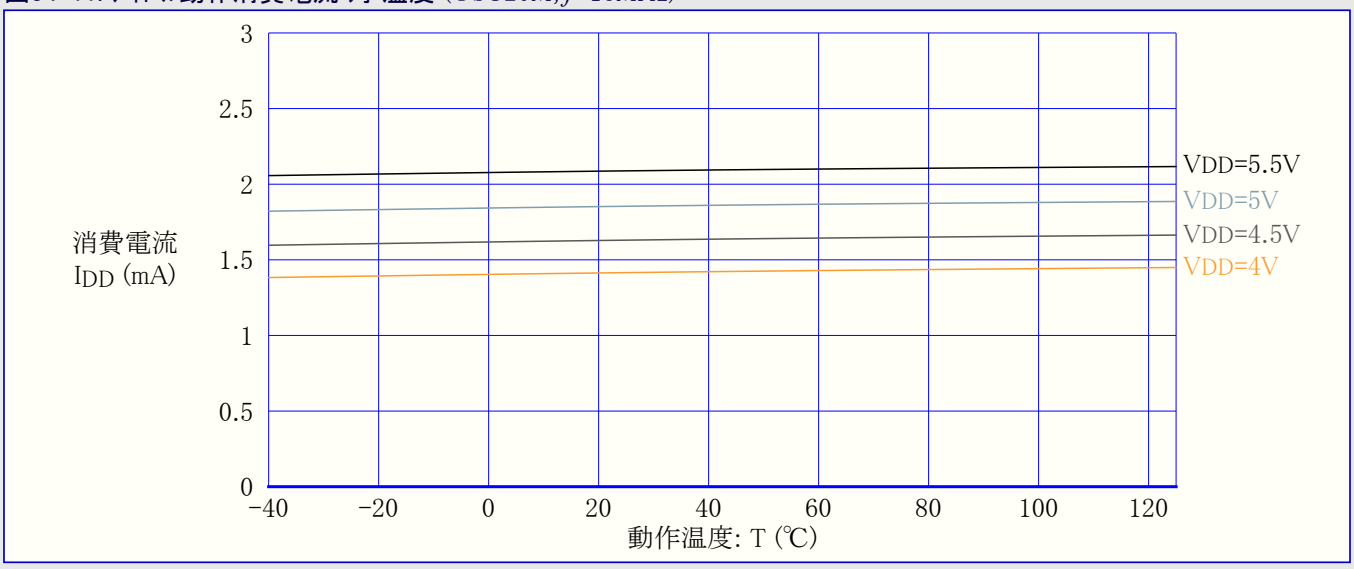


図34-12. ｱｲﾄﾞﾙ動作消費電流 対 動作電圧 (OSC20M, *f*=1.25～20MHz) T=25℃

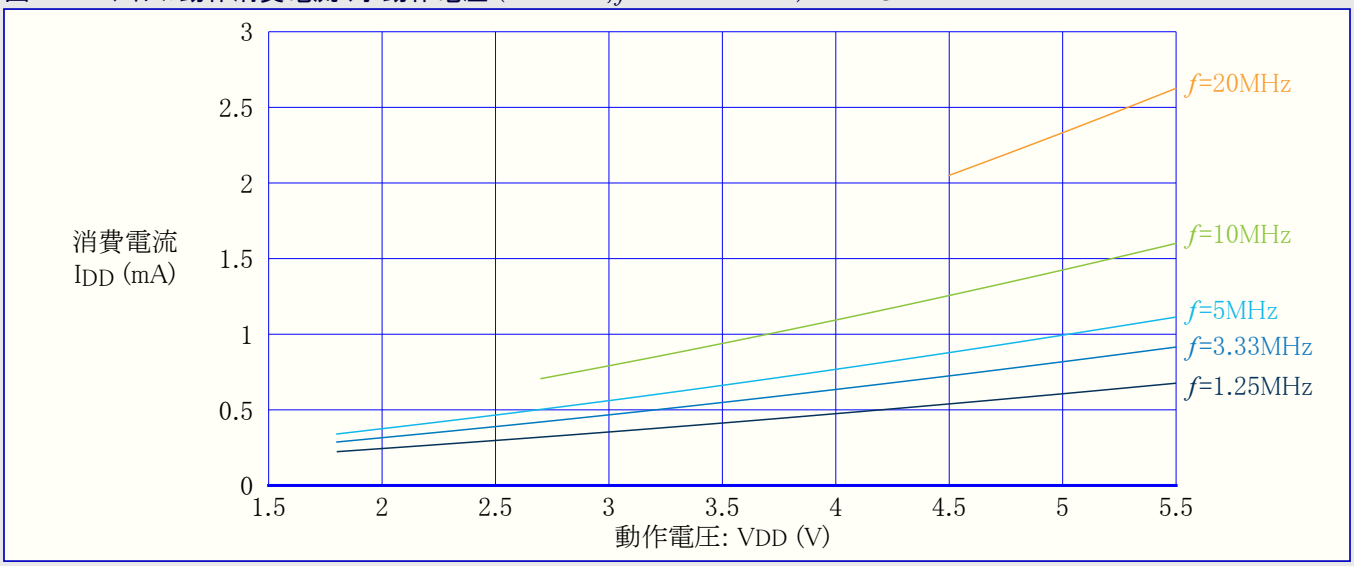


図34-13. ｱｲﾄﾞﾙ動作消費電流 対 動作電圧 (OSC20M, *f*=1～16MHz) T=25℃

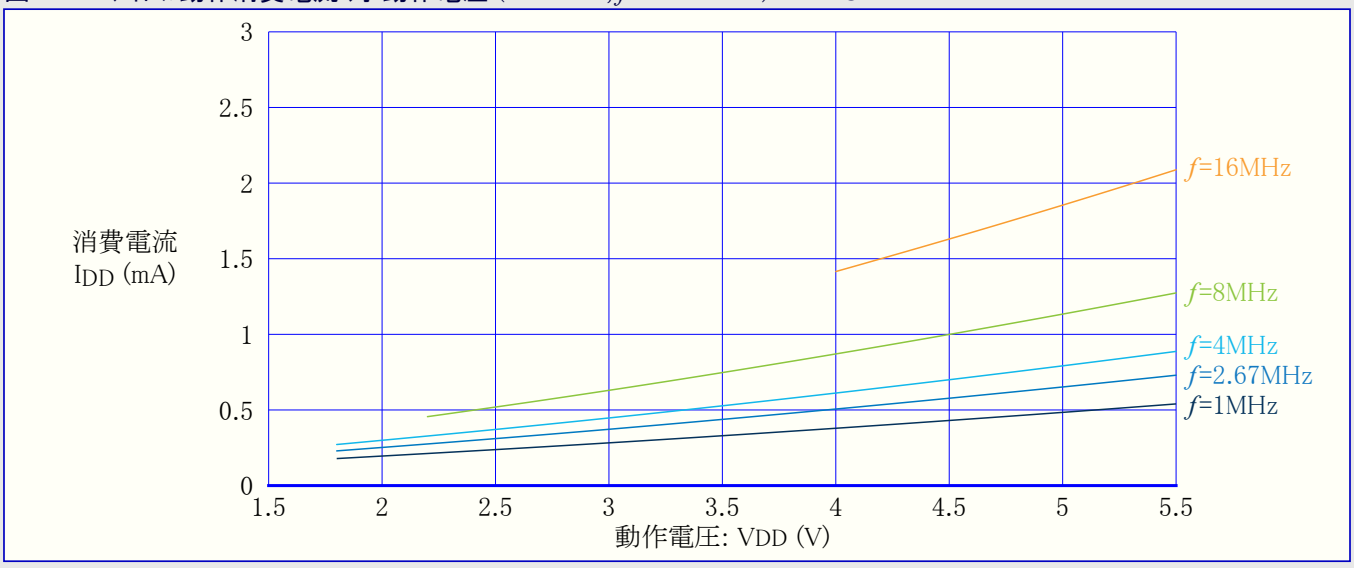
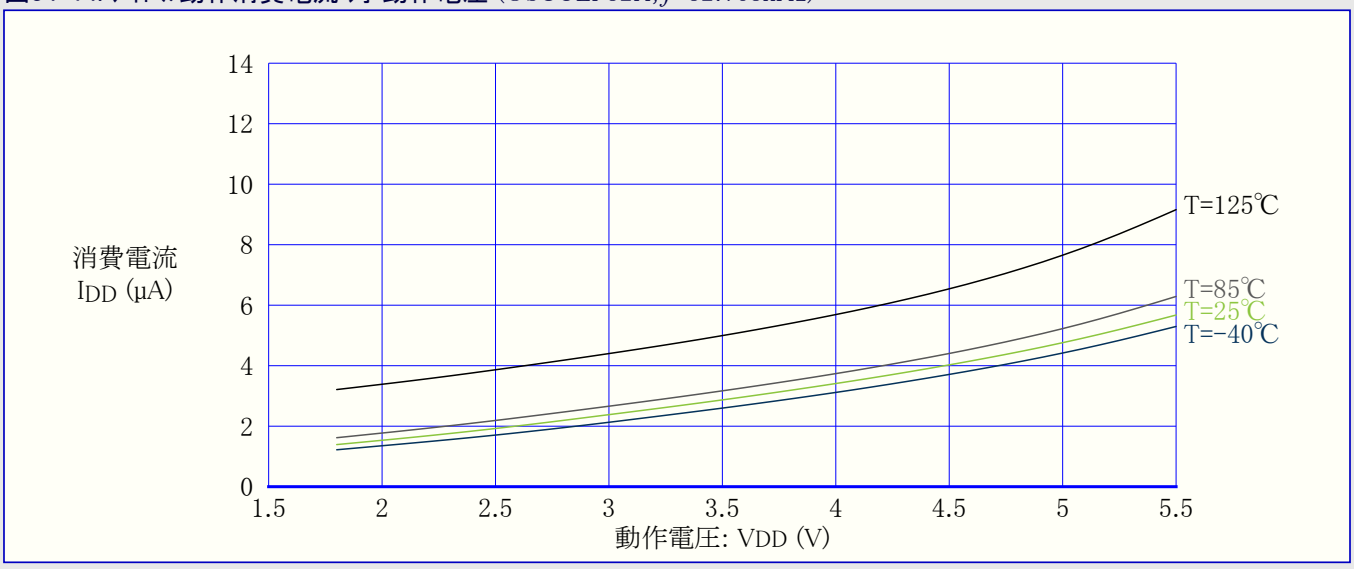


図34-14. ｱｲﾄﾞﾙ動作消費電流 対 動作電圧 (OSCULP32K, *f*=32.768kHz)



34.1.3. スタンバイ動作消費電流

図34-15. スタンバイ動作消費電流 対 動作電圧 (外部32.768kHz用発振器でRTC走行)

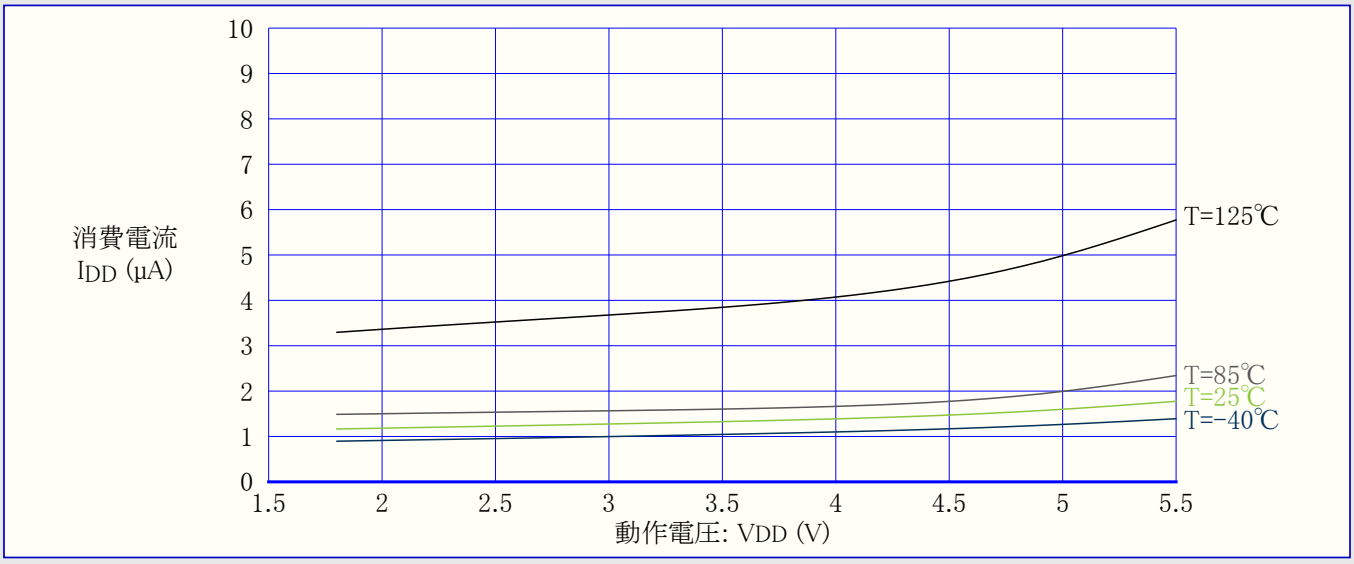


図34-16. スタンバイ動作消費電流 対 動作電圧 (内部OSCULP32KでRTC走行)

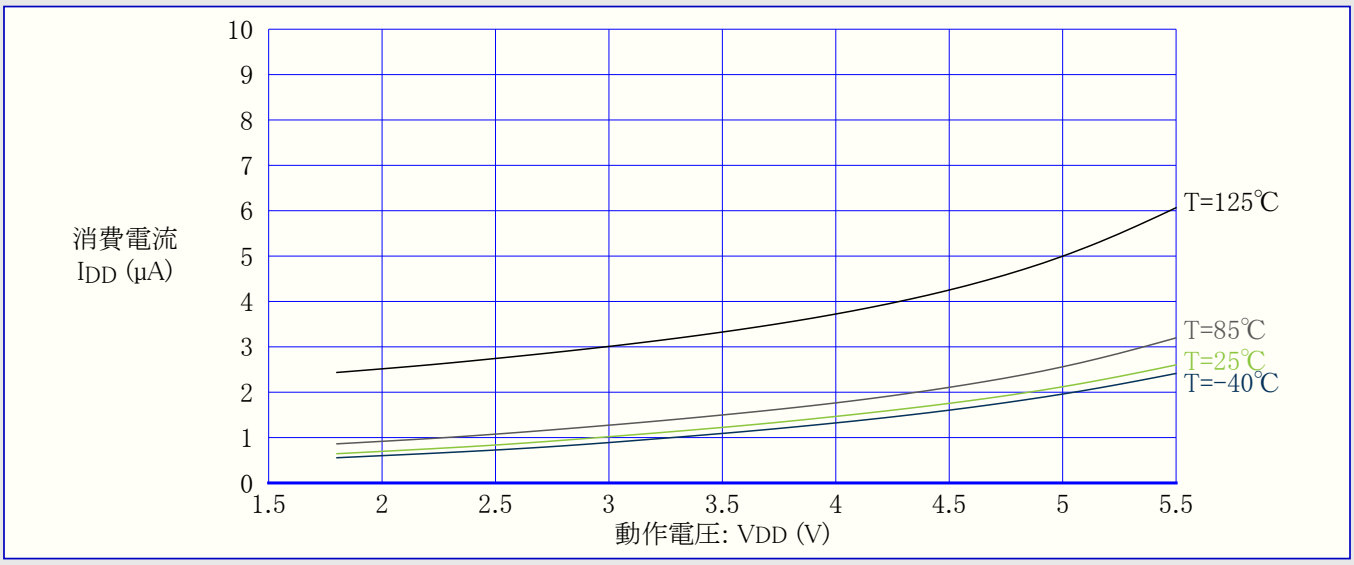


図34-17. スタンバイ動作消費電流 対 動作電圧 (1kHzで採取動作BOD走行)

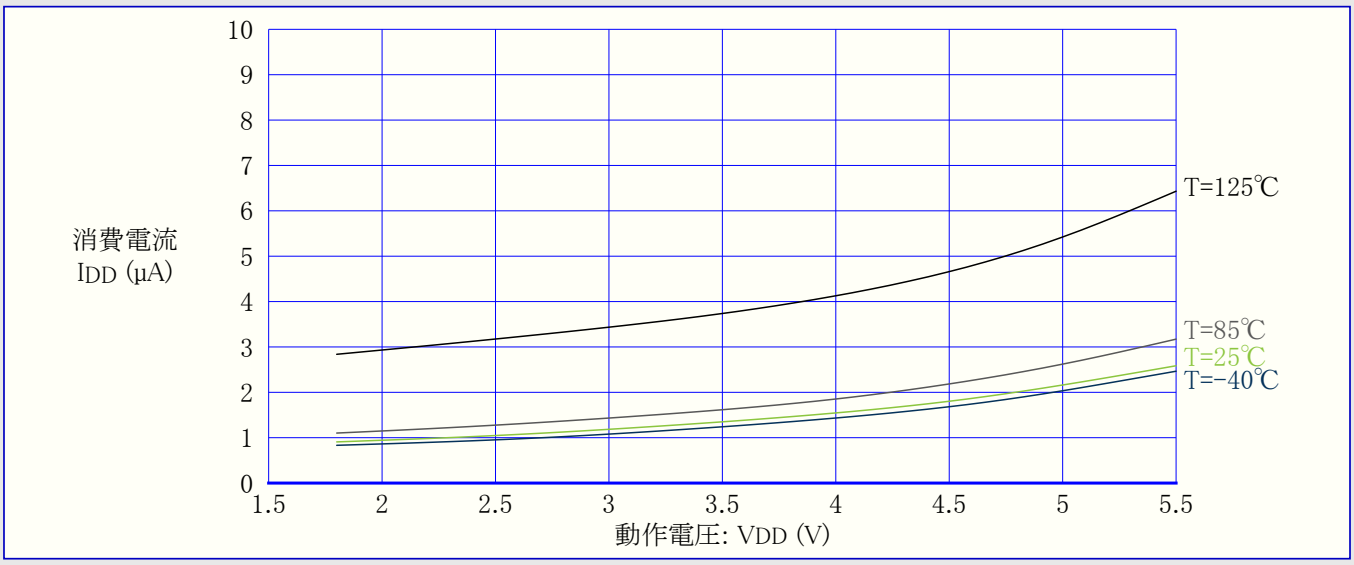
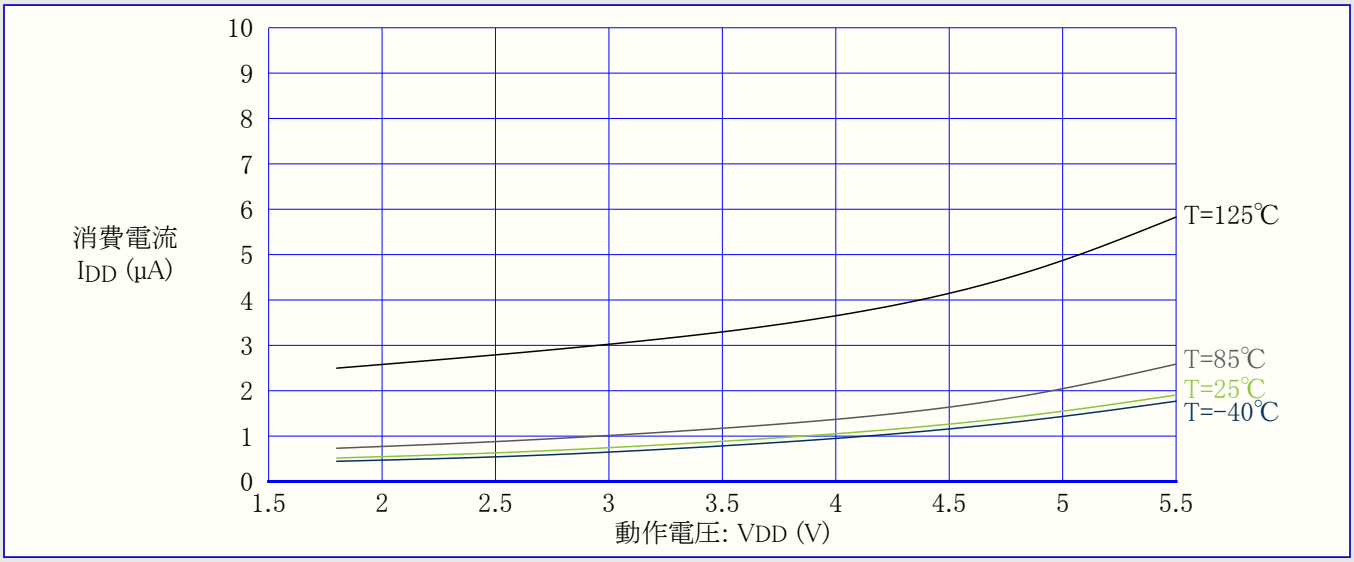


図34-18. ｽﾀﾝﾊﾞｲ動作消費電流 対 動作電圧 (125kHzで採取動作BOD走行)



34.1.4. ﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝ動作消費電流

図34-19. ﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝ動作消費電流 対 温度 (全機能禁止)

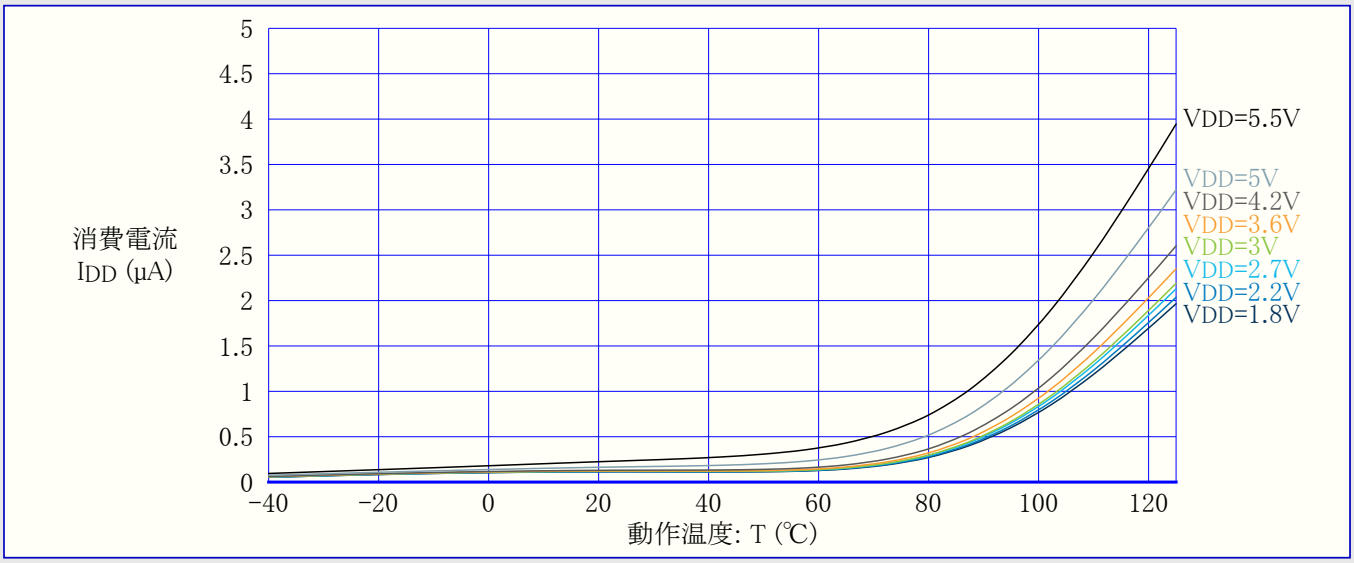
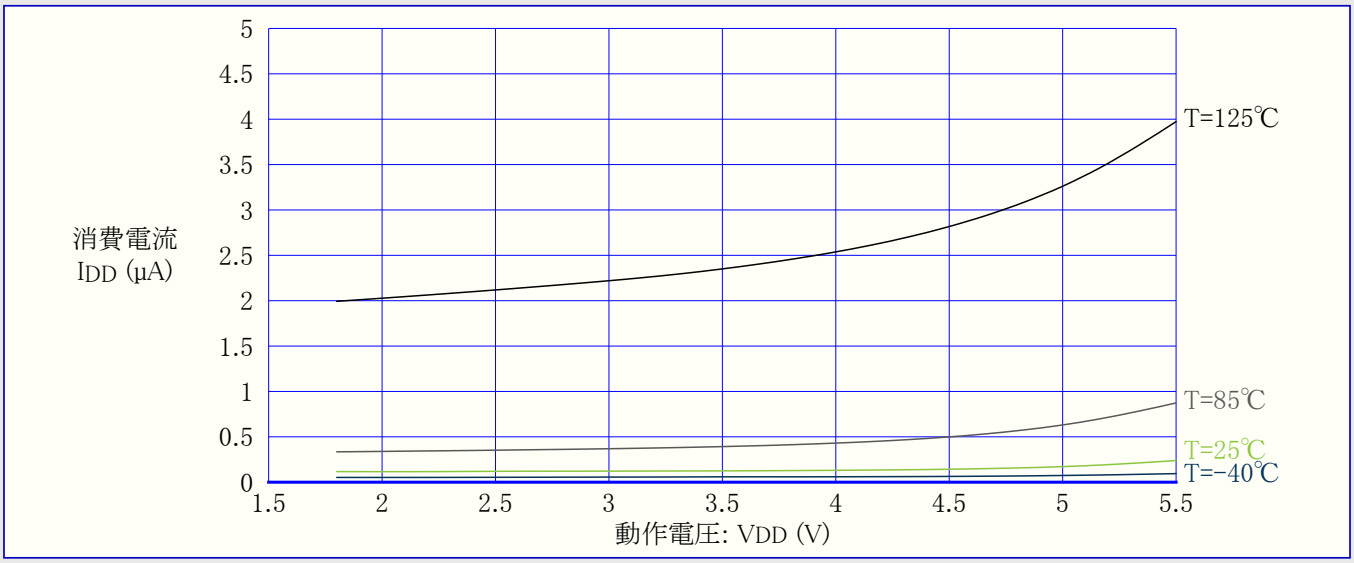
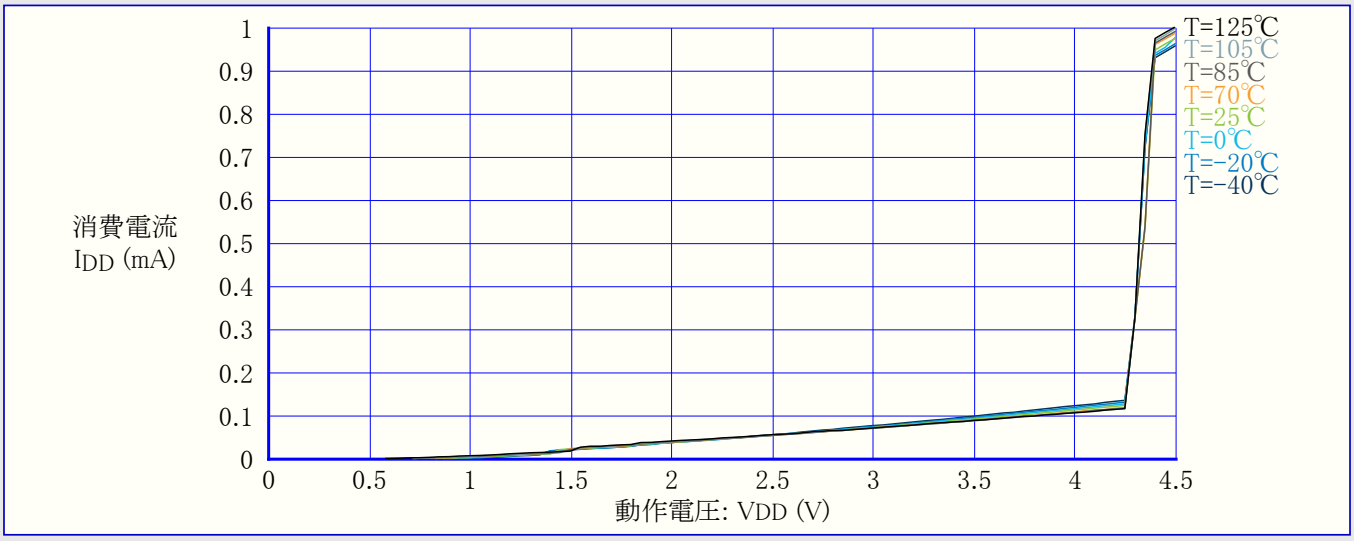


図34-20. ﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝ動作消費電流 対 動作電圧 (全機能禁止)



34.1.5. 電源ON消費電流

図34-21. 電源ON消費電流 対 動作電圧 (4.3V基準で許可されたBOD)



34.2. GPIO (汎用入出力)

34.2.1. GPIO入力特性

図34-22. I/Oピン入力ヒステリシス電圧 対 動作電圧

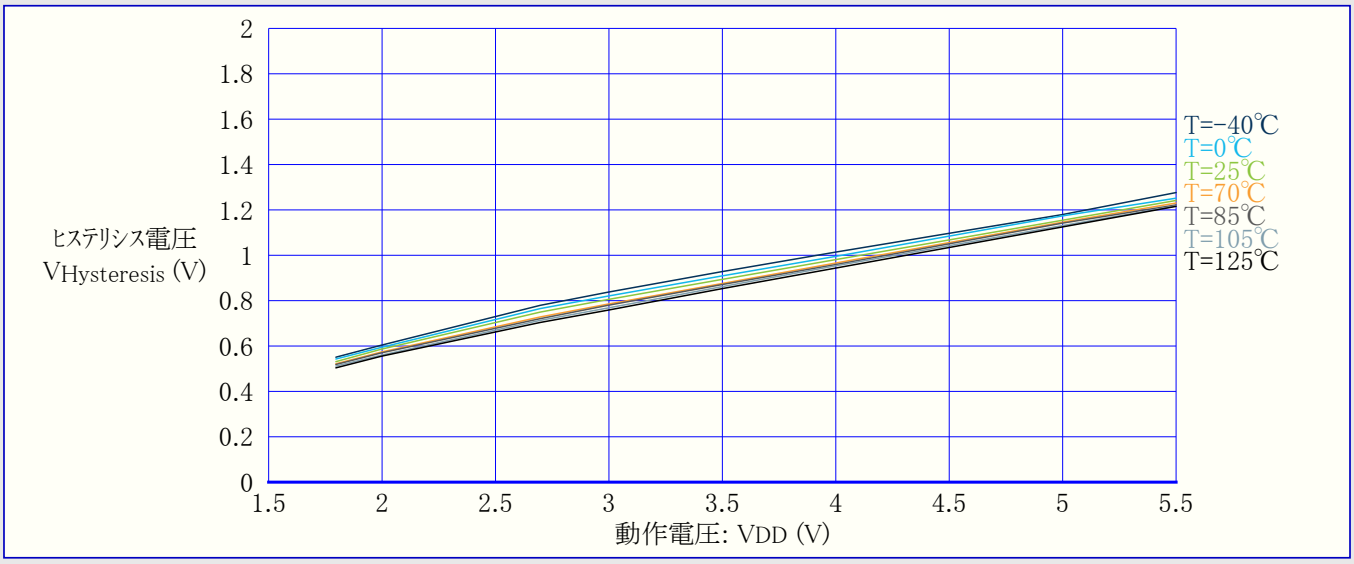


図34-23. I/Oピン入力閾値(スレッショールド)電圧 対 動作電圧 (T=25℃)

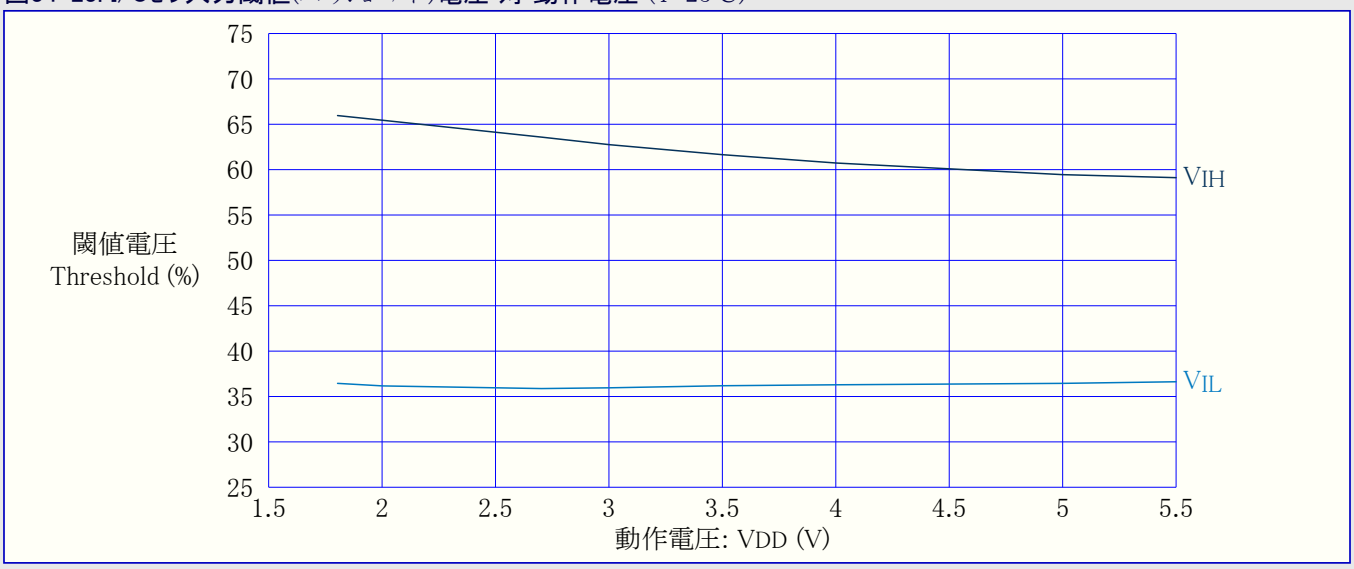


図34-24. I/Oピン入力閾値(スレッショールド)電圧 対 動作電圧 (VIH,1読み値)

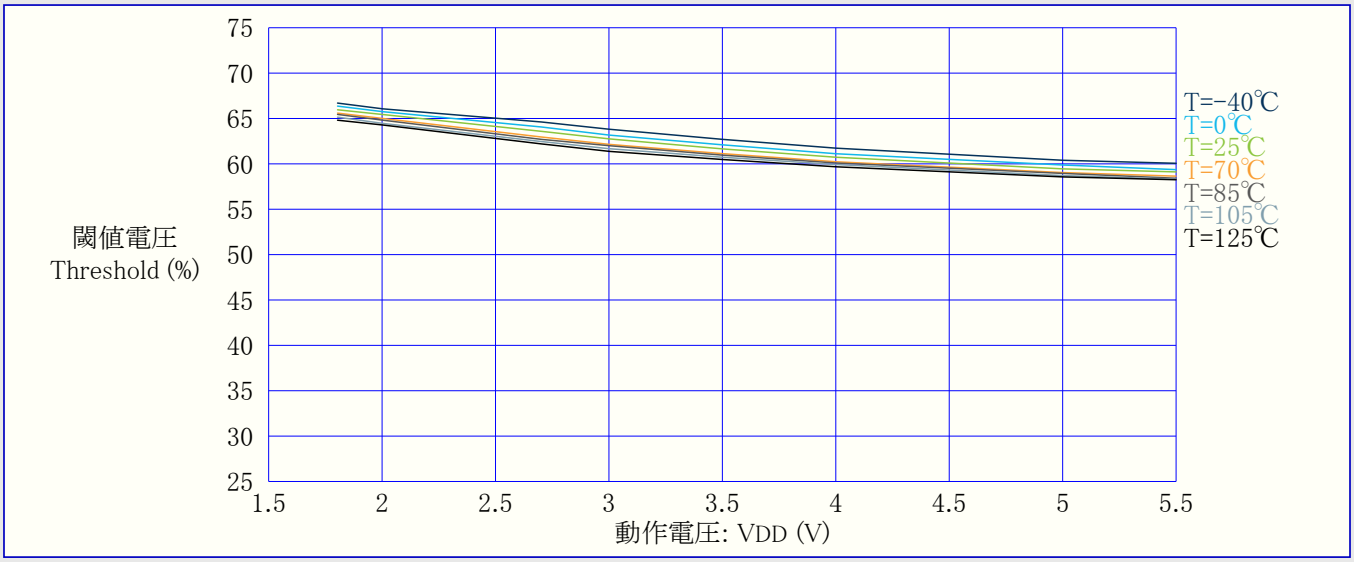
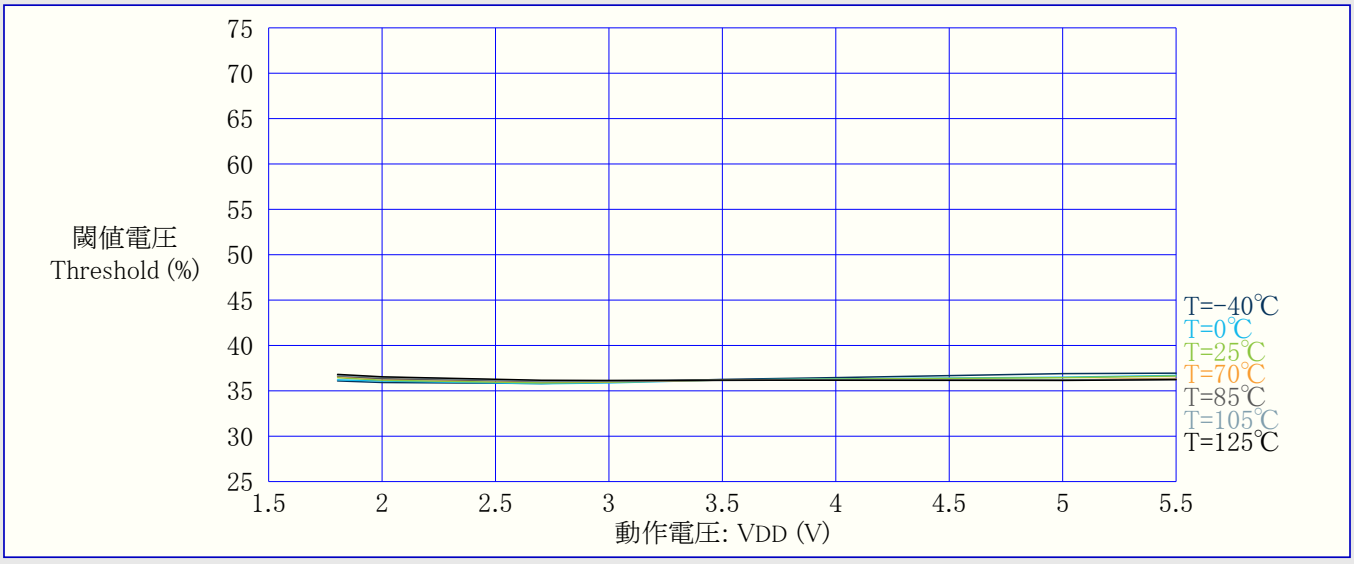


図34-25. I/Oピン入力閾値(スレッショールド)電圧 対 動作電圧 (VIL,0読み値)



34.2.2. GPIO出力特性

図34-26. I/Oピン出力電圧 対 吸い込み電流 (VDD=1.8V)

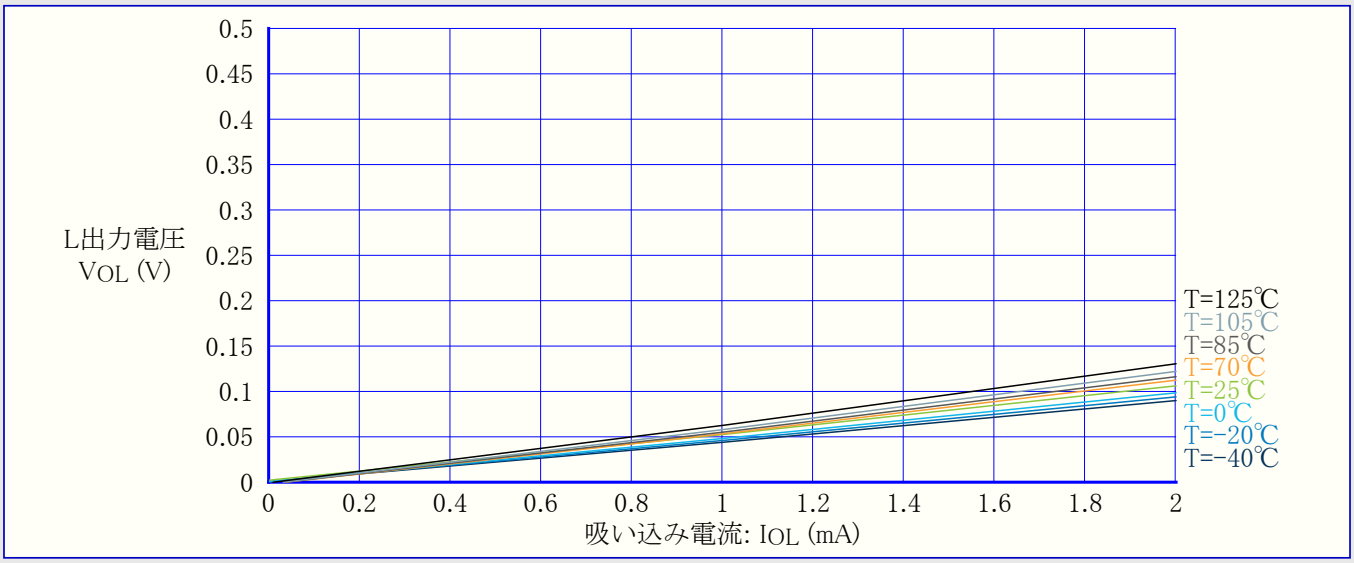


図34-27. I/Oピン出力電圧 対 吸い込み電流 (VDD=3V)

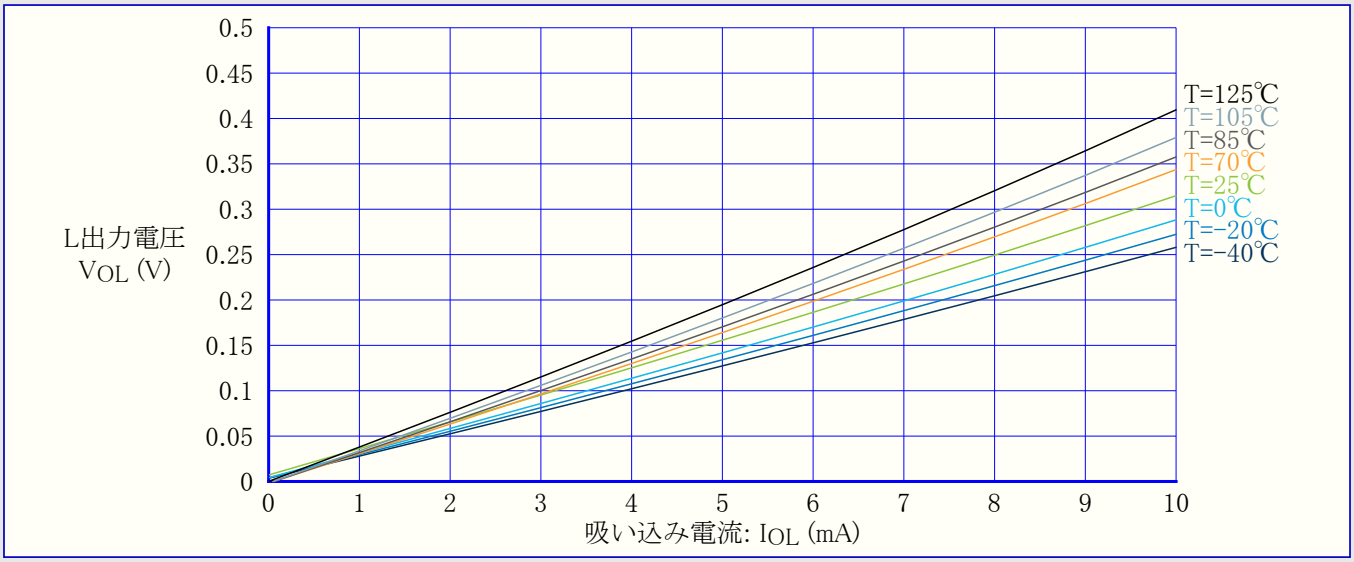


図34-28. I/Oピン出力電圧 対 吸い込み電流 (VDD=5V)

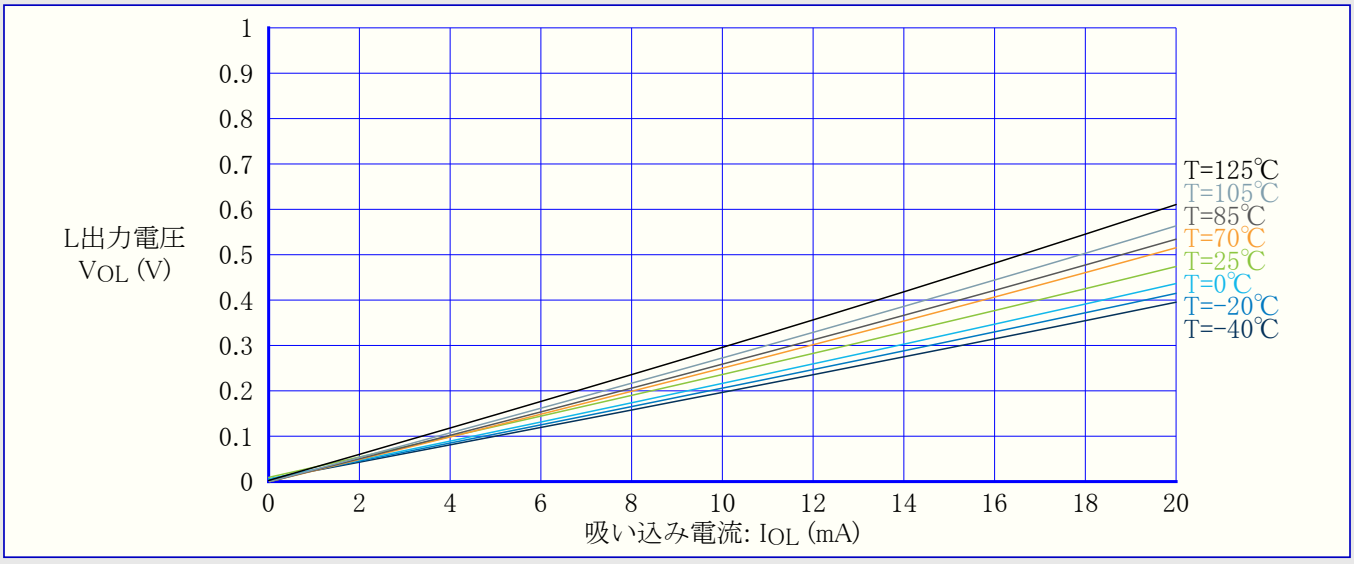


図34-29. I/Oピン出力電圧 対 吸い込み電流 (T=25℃)

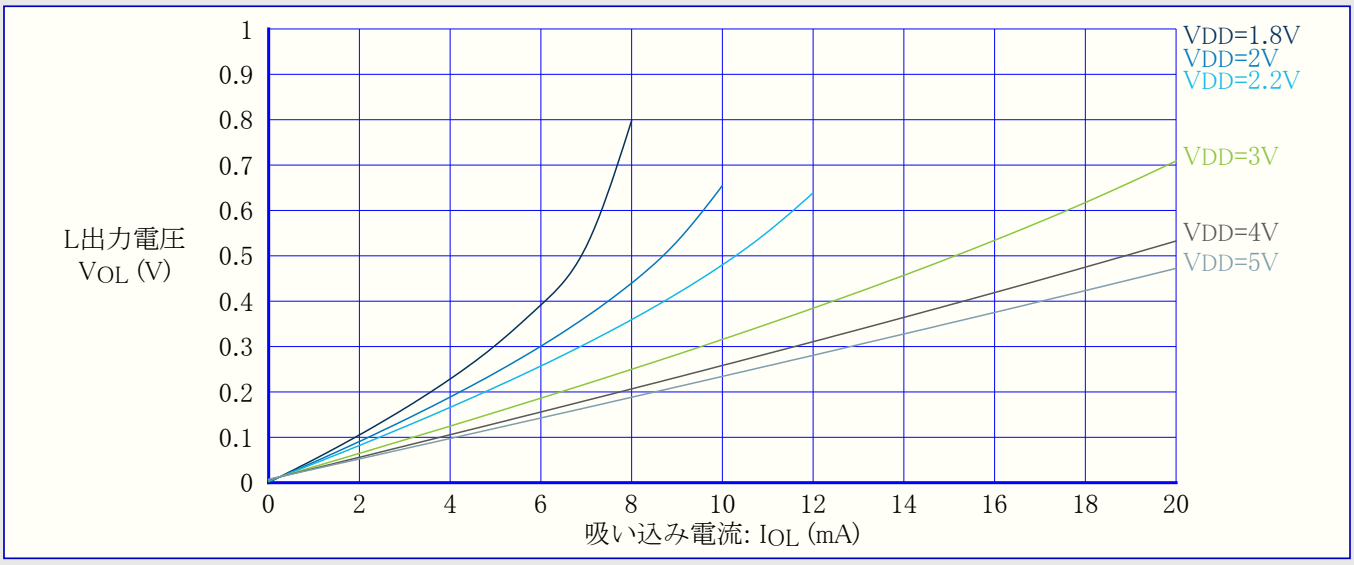


図34-30. I/Oﾋﾟﾝ出力電圧 対 吐き出し電流 (VDD=1.8V)

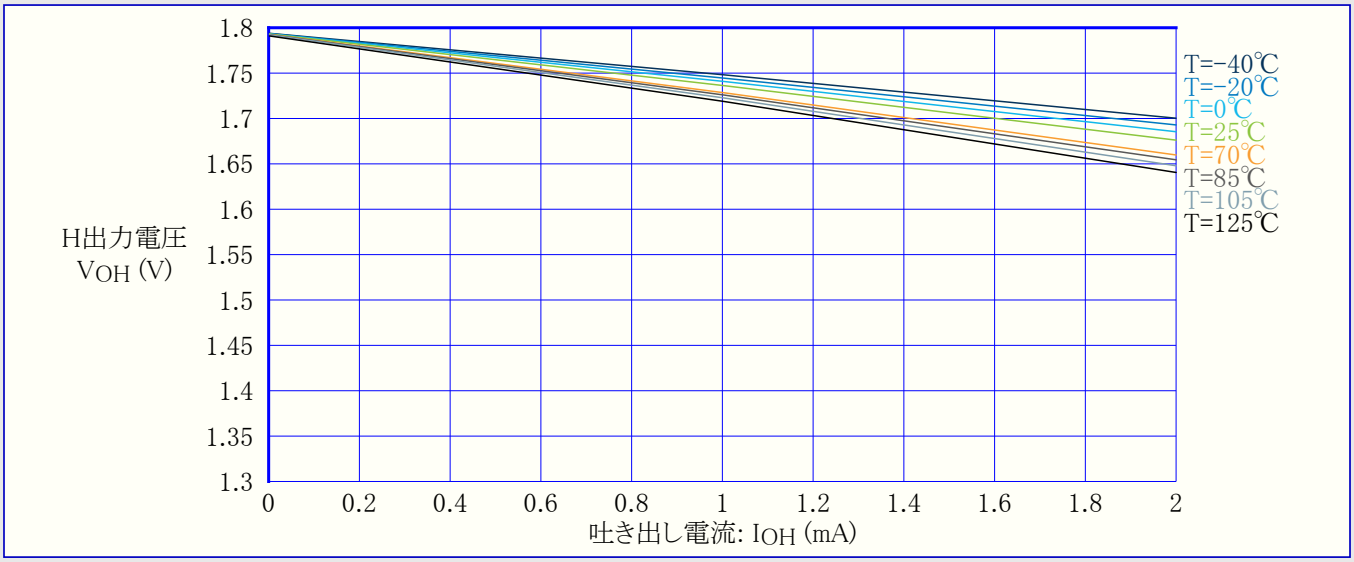


図34-31. I/Oﾋﾟﾝ出力電圧 対 吐き出し電流 (VDD=3V)

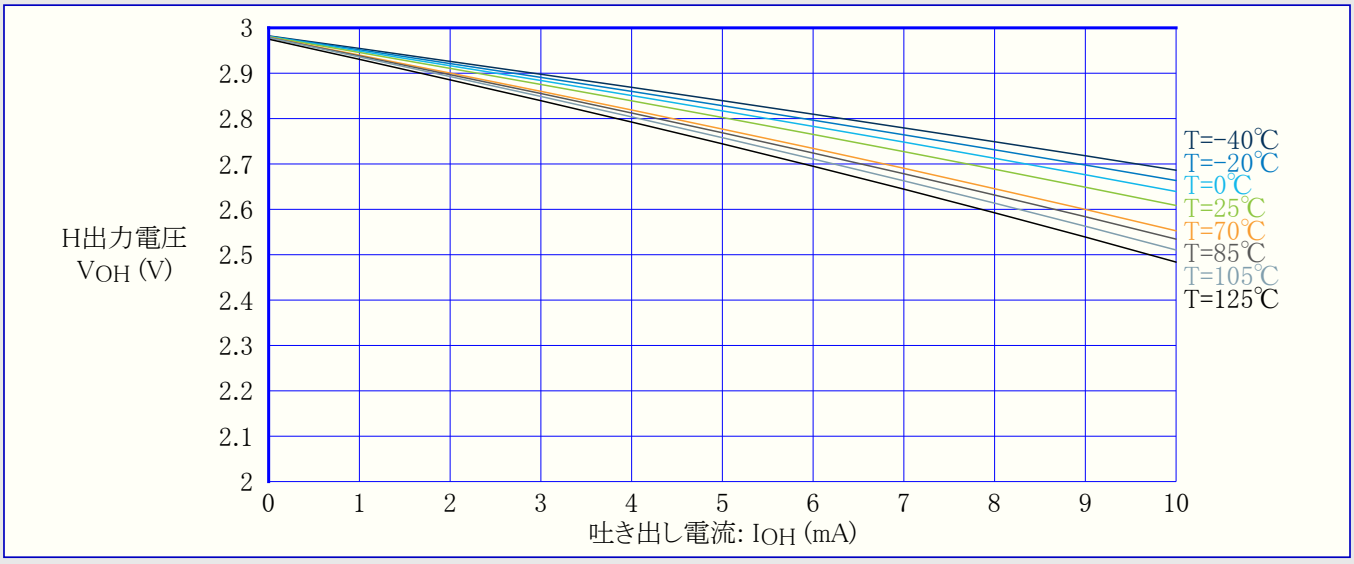


図34-32. I/Oﾋﾟﾝ出力電圧 対 吐き出し電流 (VDD=5V)

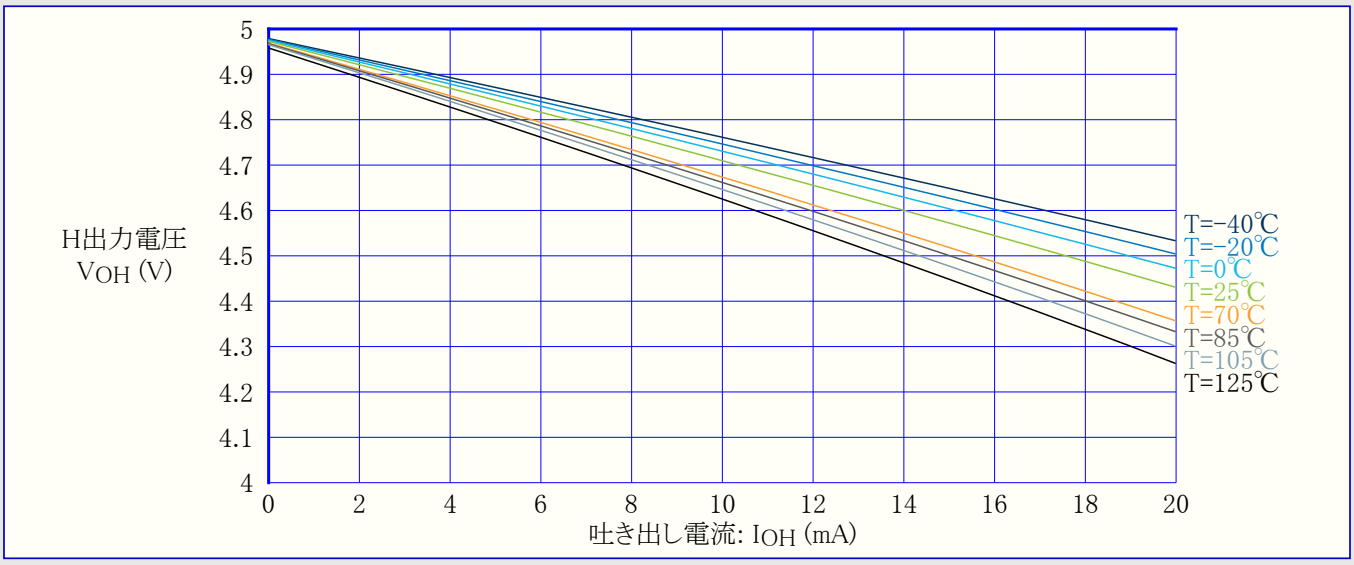
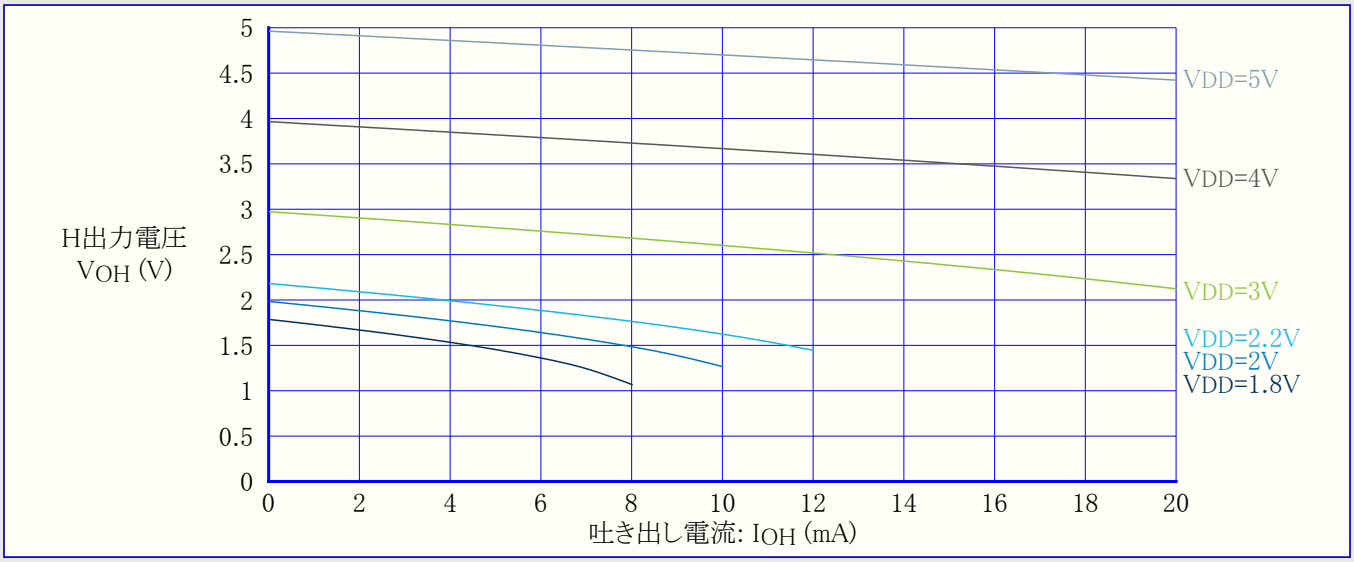


図34-33. I/Oﾋﾟﾝ出力電圧 対 吐き出し電流 (T=25℃)



34.2.3. GPIOﾌﾟﾙｱｯﾌﾟ特性

図34-34. I/Oﾋﾟﾝ ﾌﾟﾙｱｯﾌﾟ抵抗電流 対 入力電圧 (VDD=1.8V)

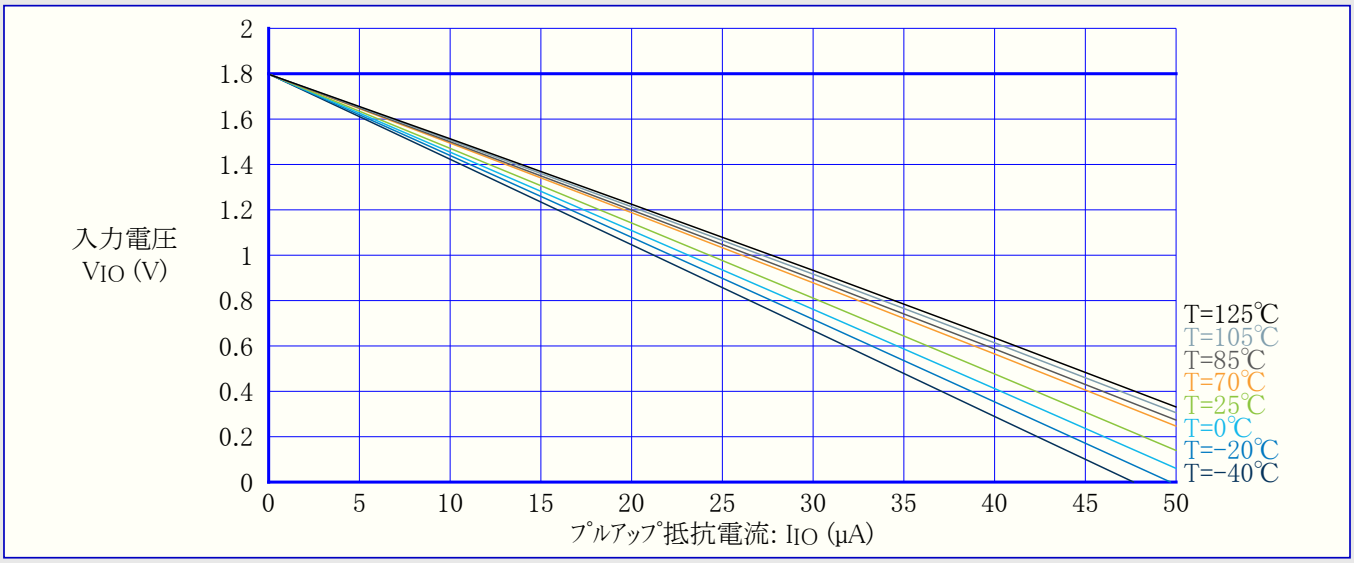


図34-35. I/Oﾋﾟﾝ ﾌﾟﾙｱｯﾌﾟ抵抗電流 対 入力電圧 (VDD=3V)

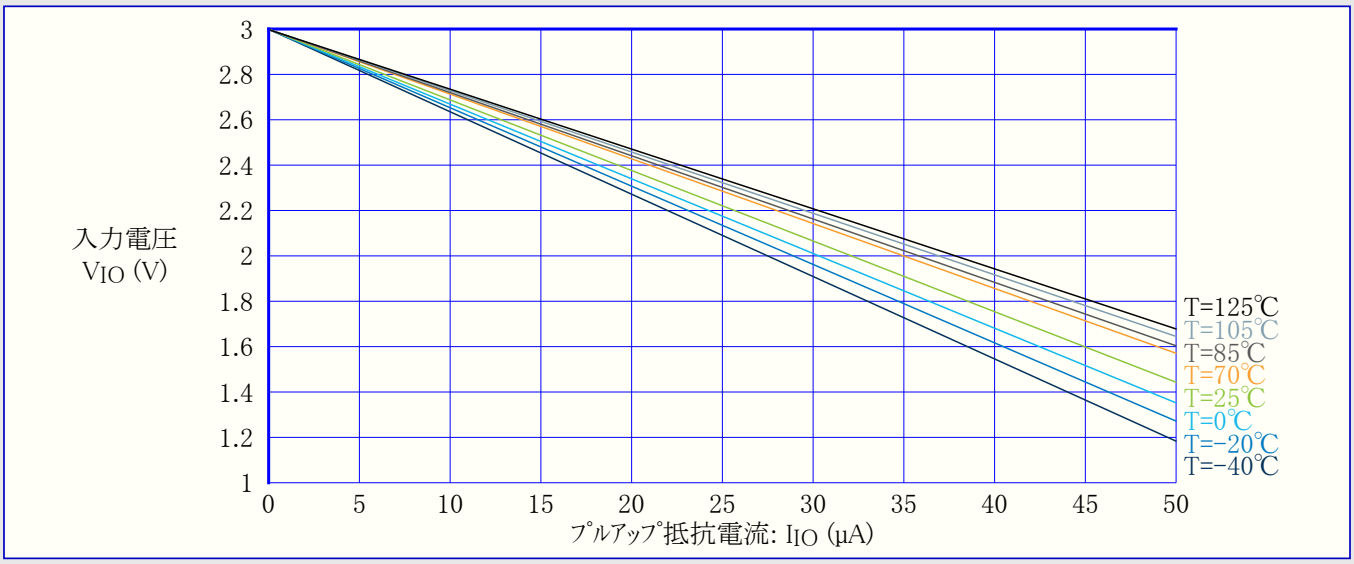
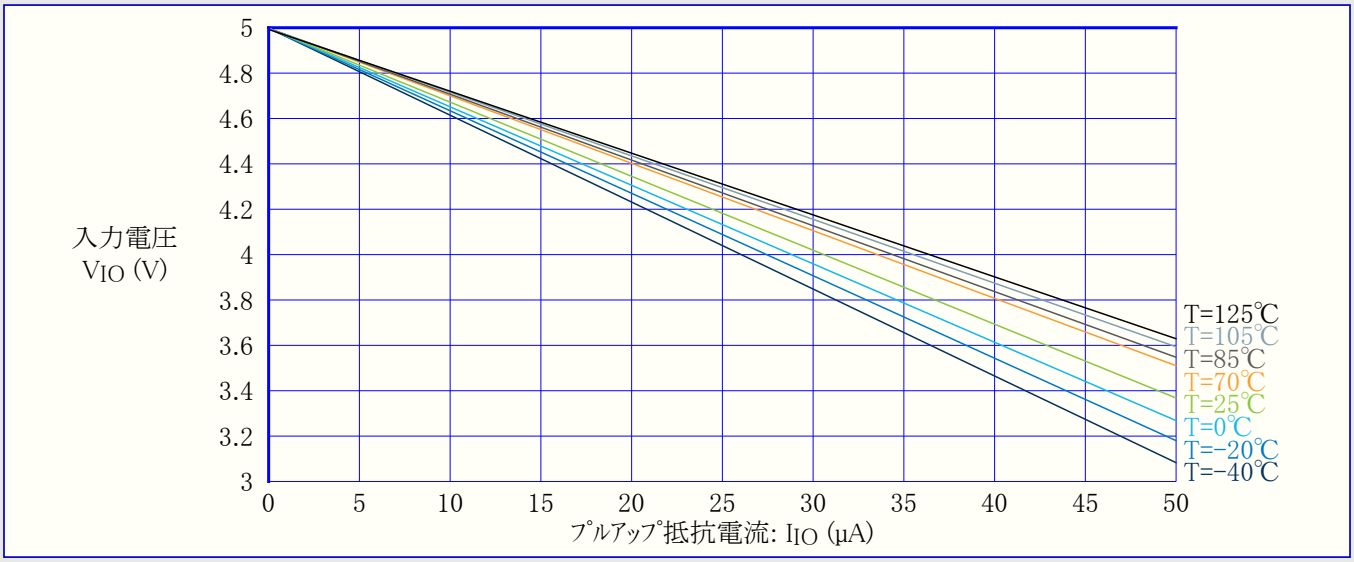


図34-36. I/Oピン プルアップ抵抗電流 対 入力電圧 (VDD=5V)



34.3. VREF特性 (訳注:原書での本項はTBDですが、本書では参考用にATtiny1624/1626/1627の図を記載しています。)

図34-37. VREF精度 対 動作温度 (VDD=5V, 内部参照基準)

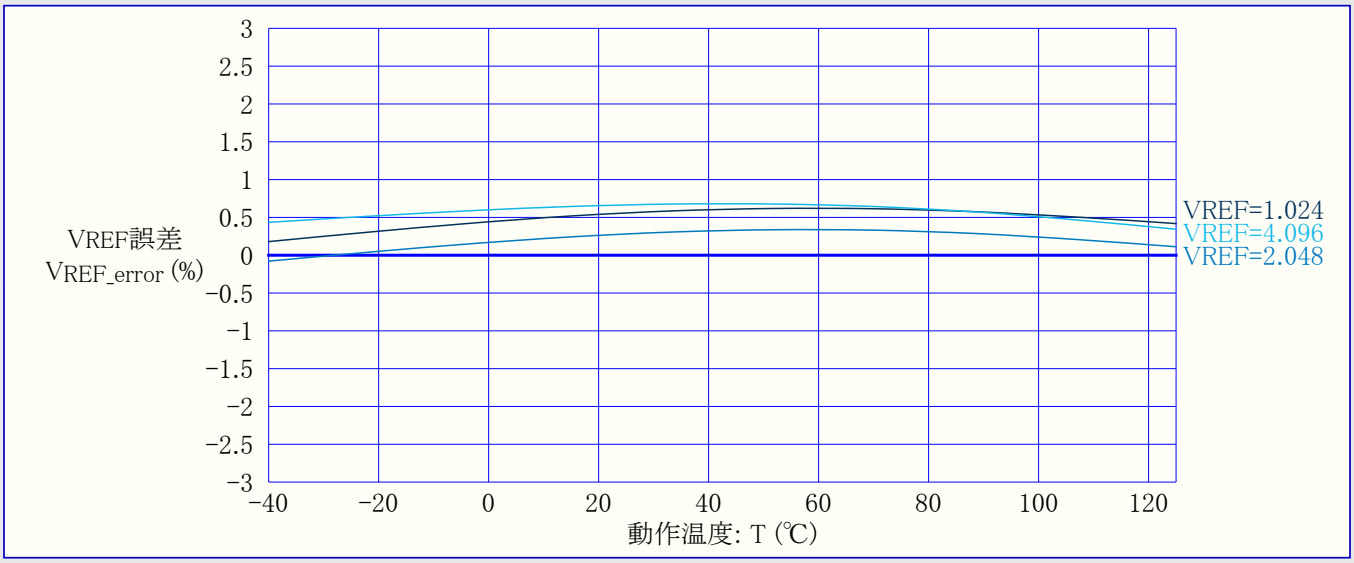
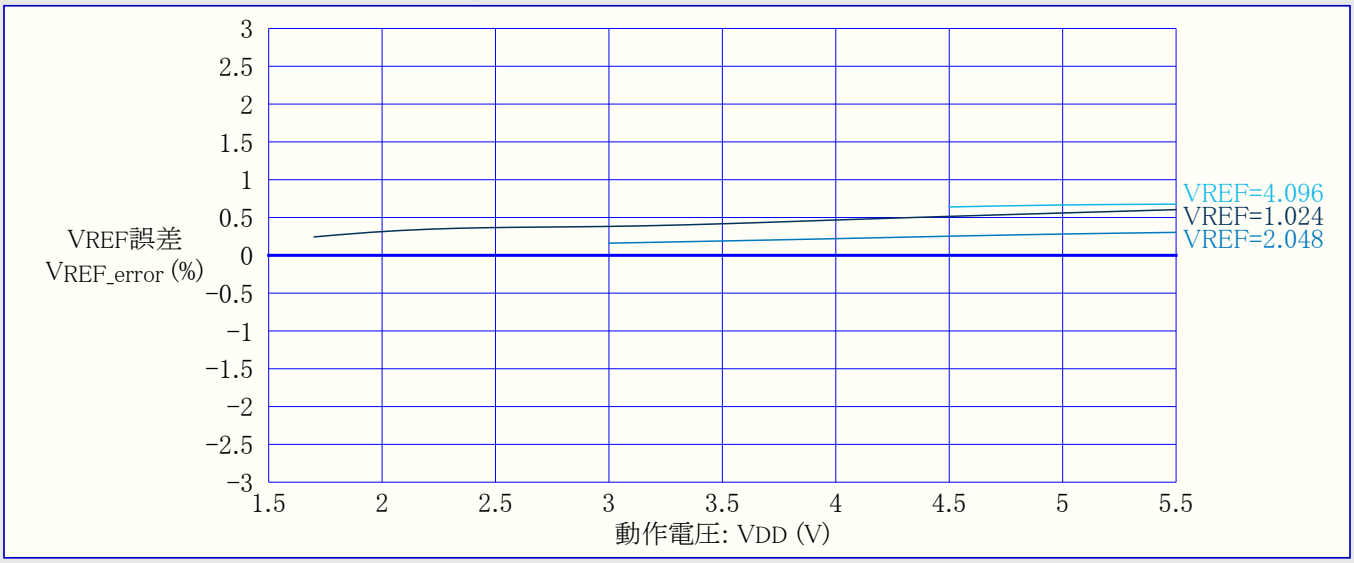


図34-38. VREF精度 対 動作電圧 (T=25℃, 内部参照基準)



34.4. BOD特性

34.4.1. BOD電流 対 動作電圧

図34-39. 低電圧検出器(BOD)電流 対 動作温度 (継続動作許可)

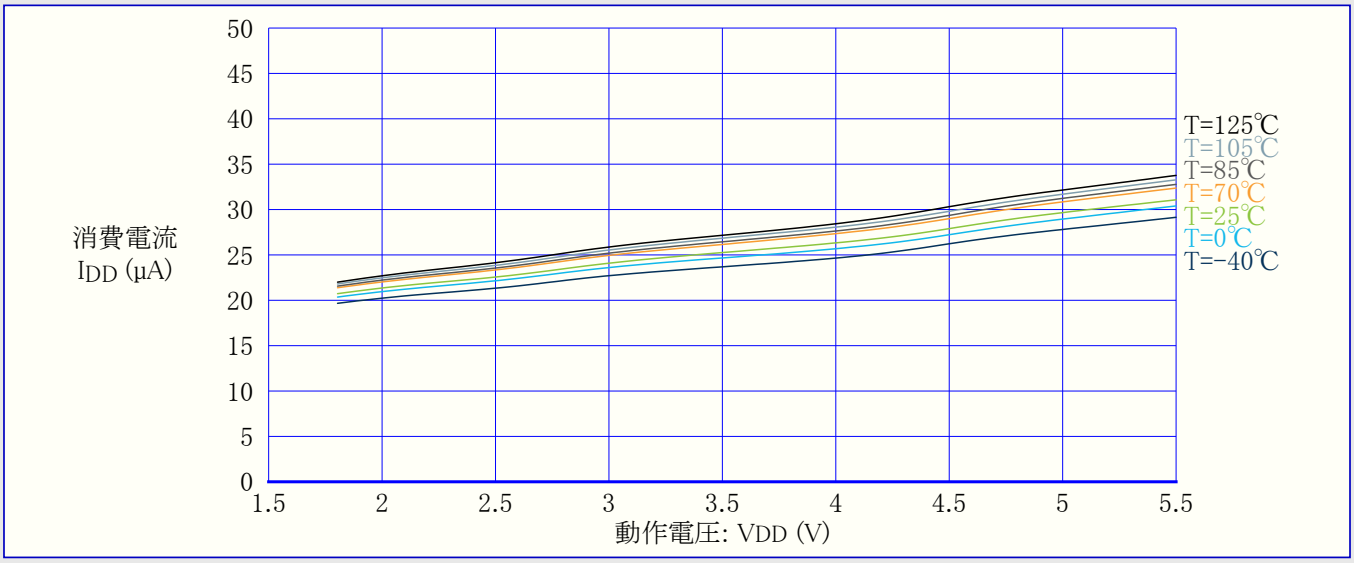


図34-40. 低電圧検出器(BOD)電流 対 動作温度 (125Hzでの採取動作)

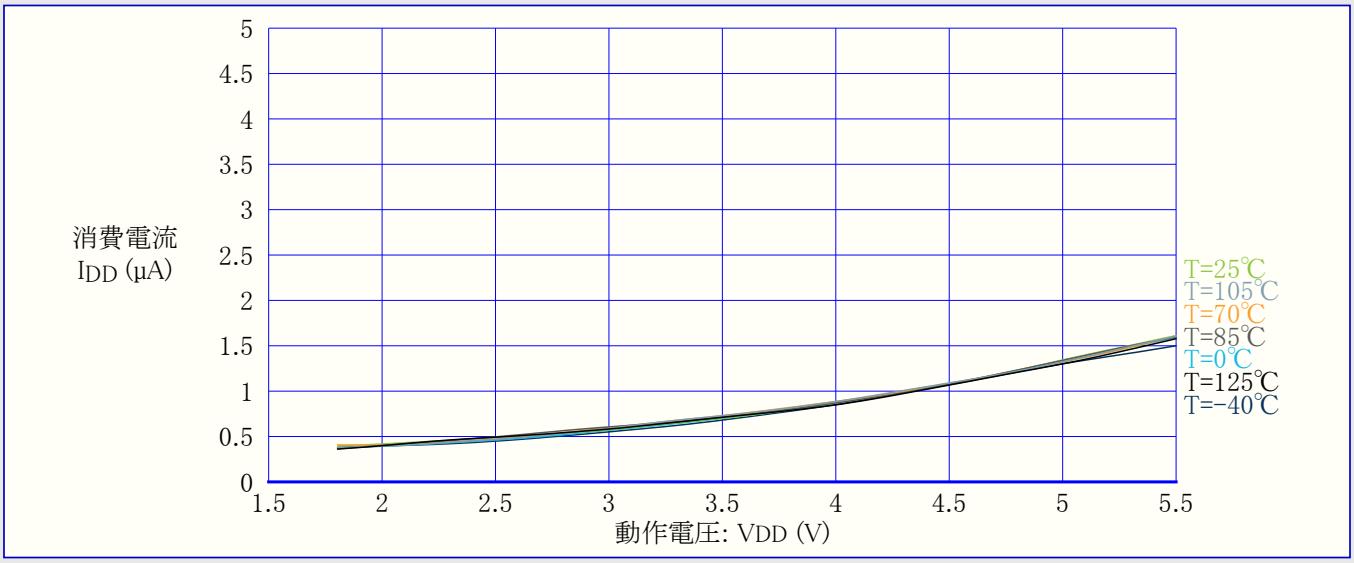
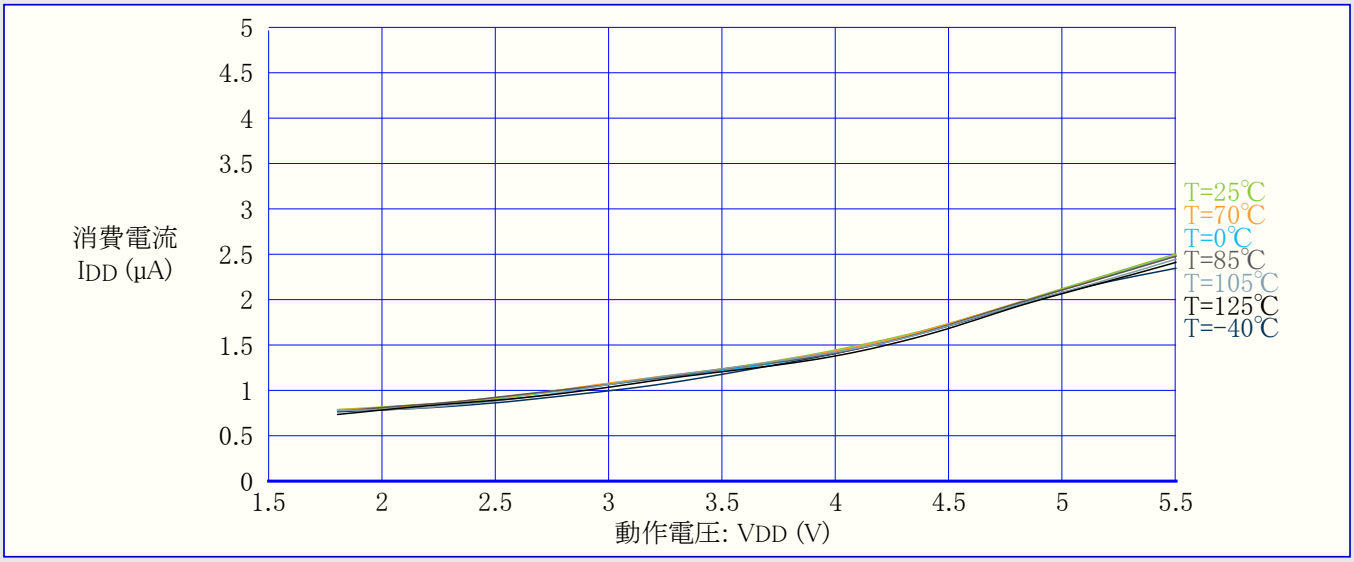


図34-41. 低電圧検出器(BOD)電流 対 動作温度 (1kHzでの採取動作)



34.4.2. BOD閾値 対 動作温度

図34-42. 低電圧検出器(BOD)閾値 対 動作温度 (BOD基準1.8V)

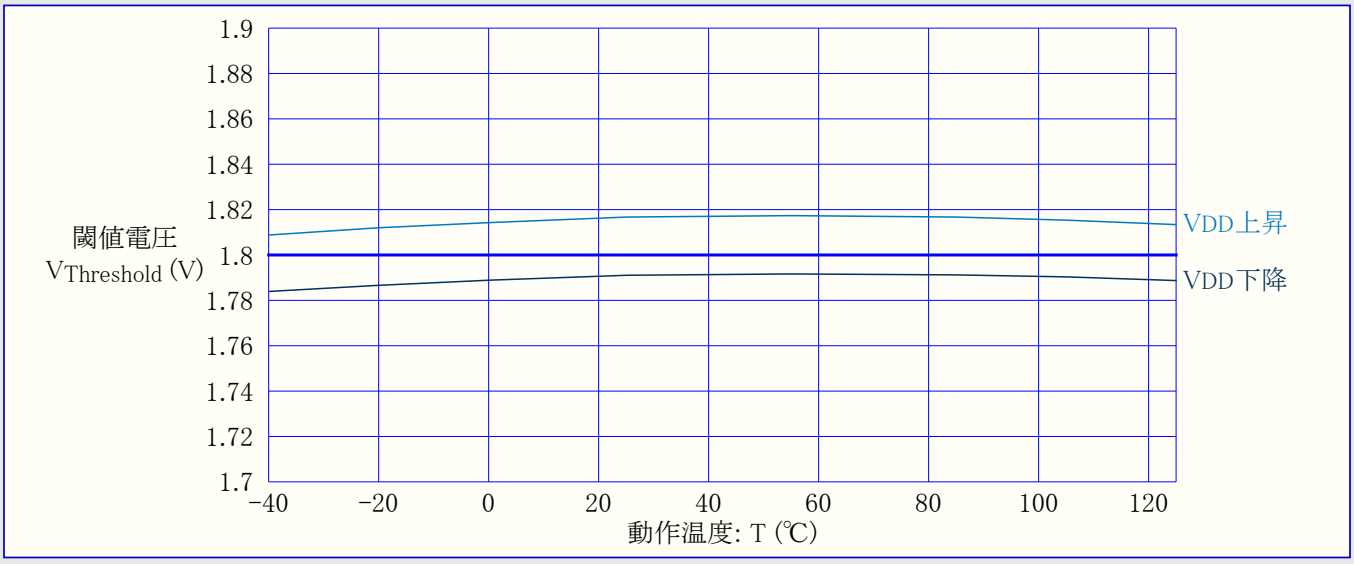


図34-43. 低電圧検出器(BOD)閾値 対 動作温度 (BOD基準2.6V)

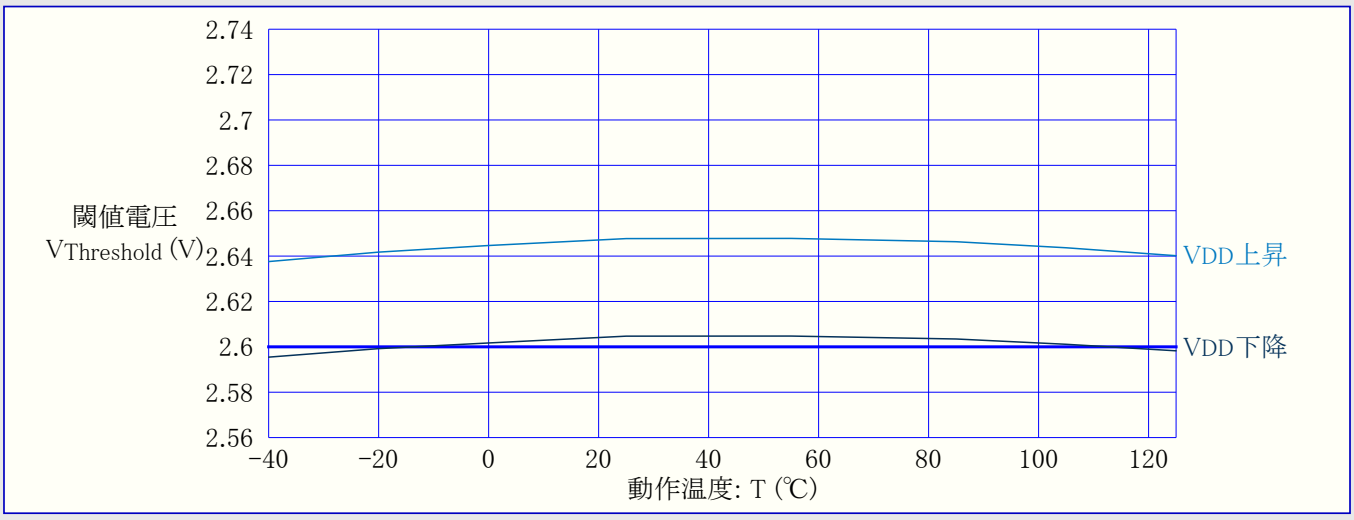
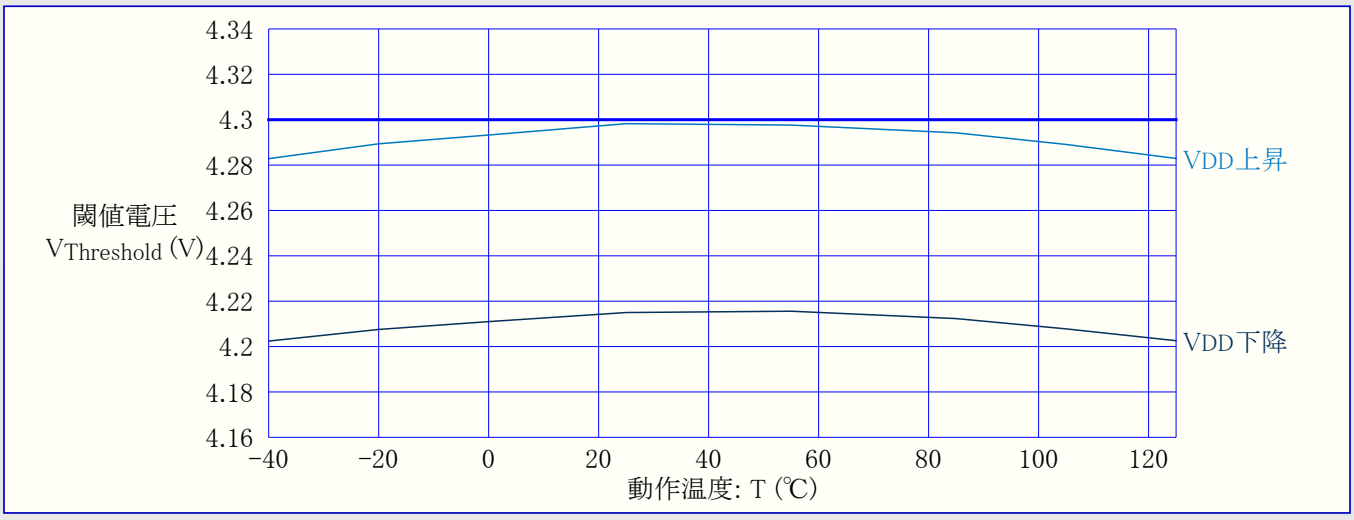


図34-44. 低電圧検出器(BOD)閾値 対 動作温度 (BOD基準4.3V)



34.5. ADC特性 (訳注:原書での本項はTBDですが、本書では参考用にATtiny1624/1626/1627の図を記載しています。)

34.5.1. 絶対精度

図34-45. 絶対精度 対 動作温度 (VDD=5V, f_{ADC}=145ksps, 差動動作, REFSEL=外部参照基準)

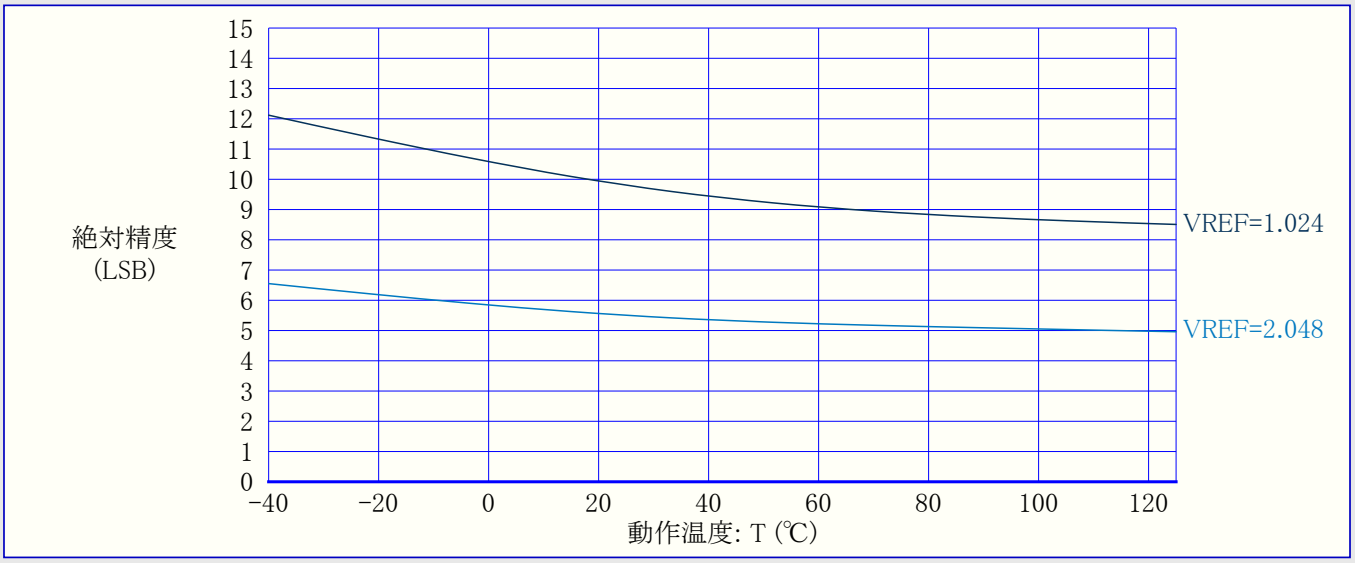


図34-46. 絶対精度 対 動作温度 (VDD=5V, f_{ADC}=145ksps, 差動動作, REFSEL=内部参照基準)

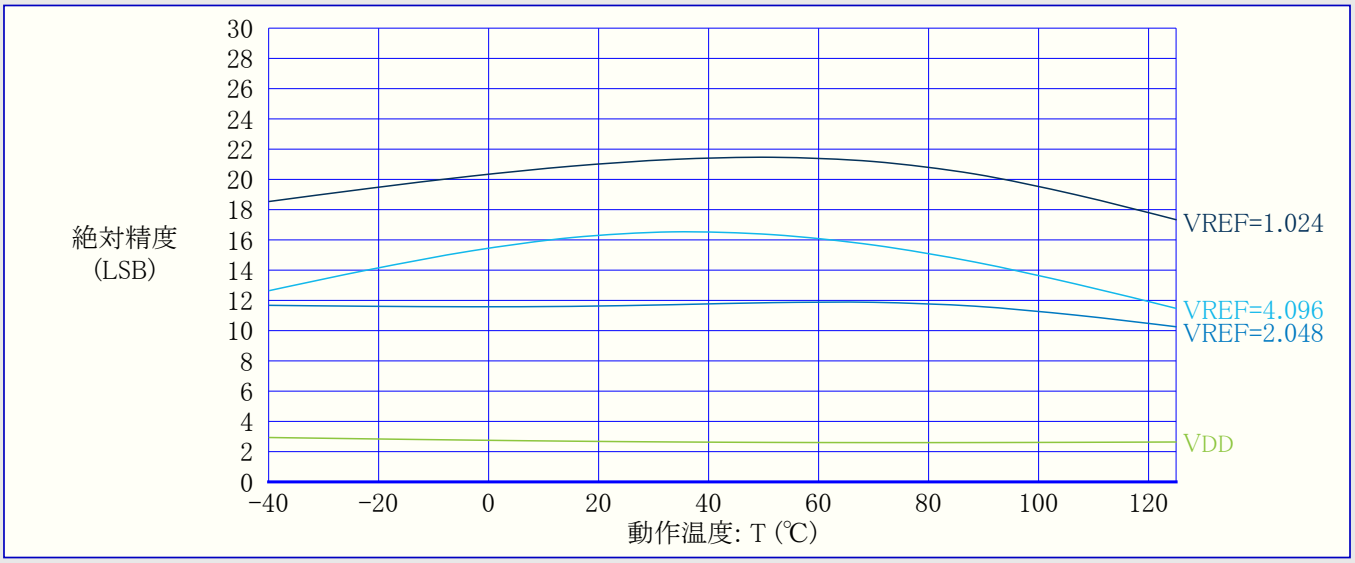


図34-47. 絶対精度 対 動作電圧 (f_{ADC}=145ksps, T=25℃, 差動動作, REFSEL=外部参照基準)

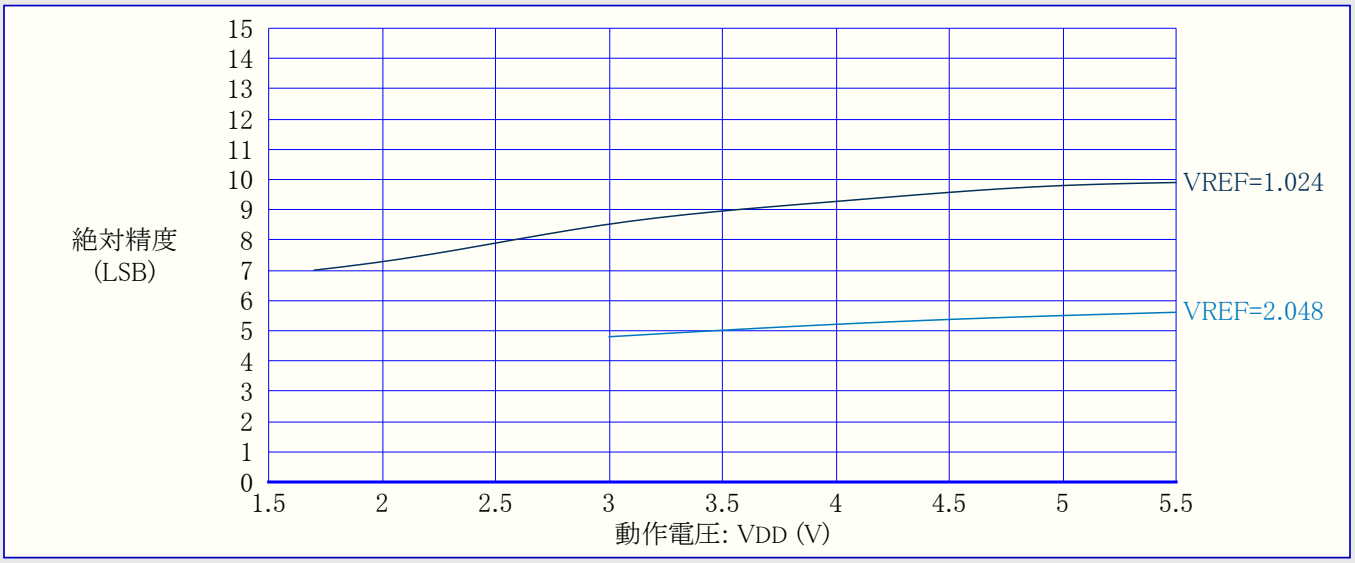
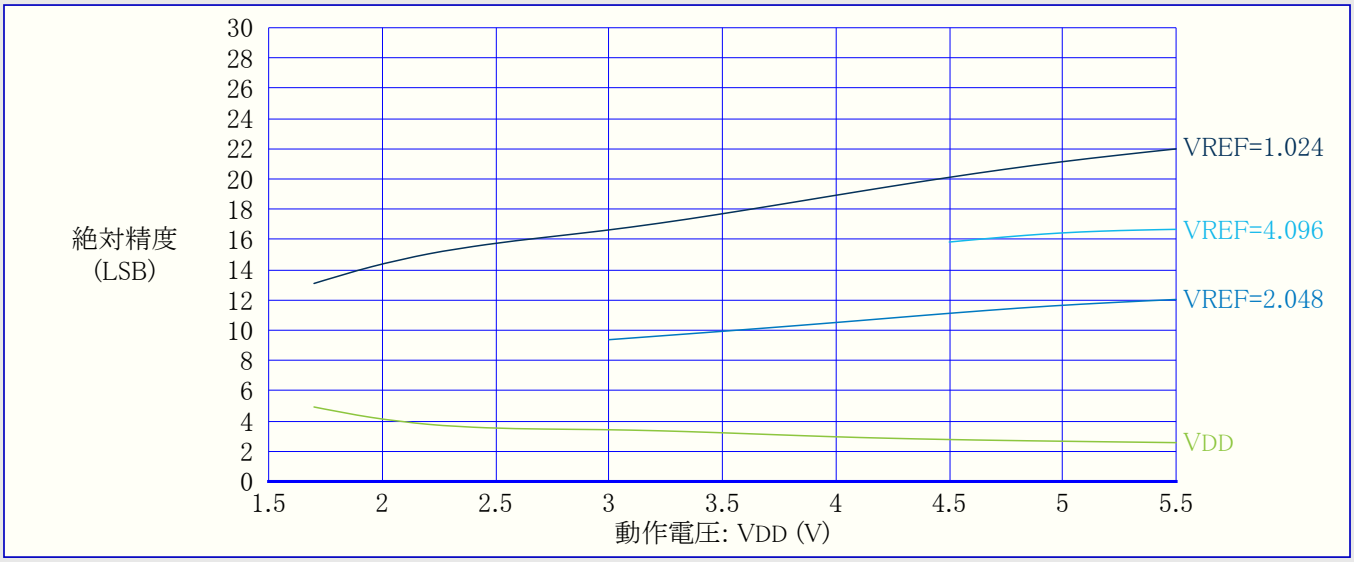


図34-48. 絶対精度 対 動作電圧 (f_{ADC}=145ksps, T=25℃, 差動動作, REFSEL=内部参照基準)



34.5.2. 微分性誤差 (DNL)

図34-49. 微分性誤差(DNL) 対 符号 (VDD=5V, f_{ADC}=145ksps, T=25℃, 差動動作, 外部2.048V参照基準)

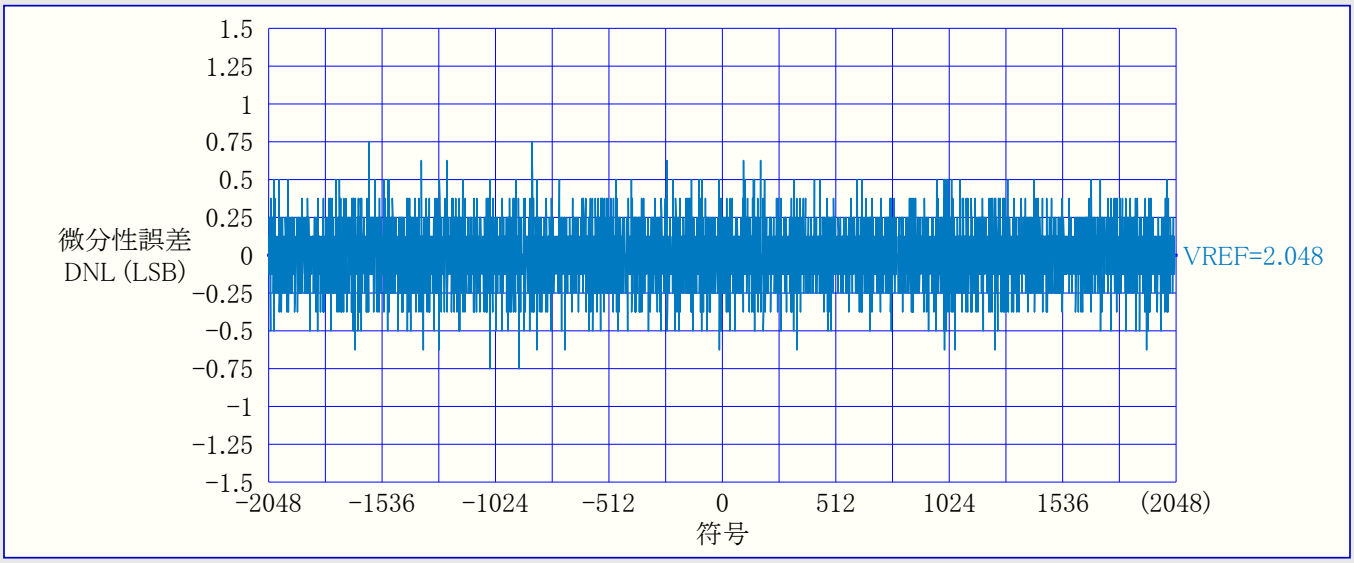


図34-50. 微分性誤差(DNL) 対 動作温度 (VDD=5V, f_{ADC}=145ksps, 差動動作, REFSEL=外部参照基準)

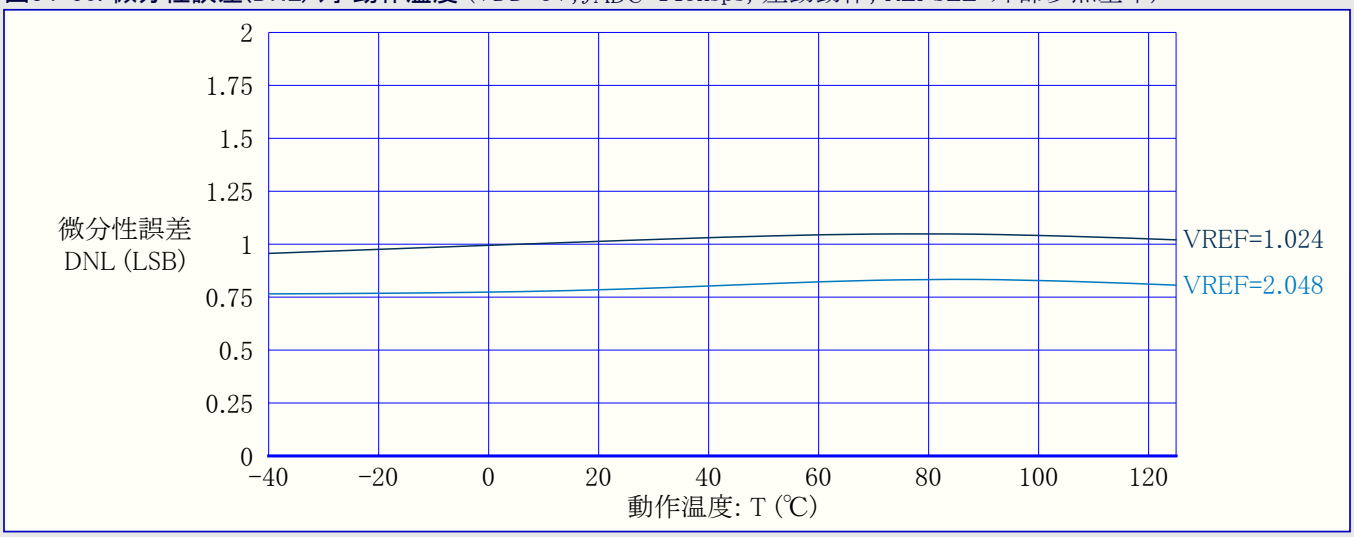


図34-51. 微分性誤差(DNL) 対 動作温度 (VDD=5V, f_{ADC}=145ksps, 差動動作, REFSEL=内部参照基準)

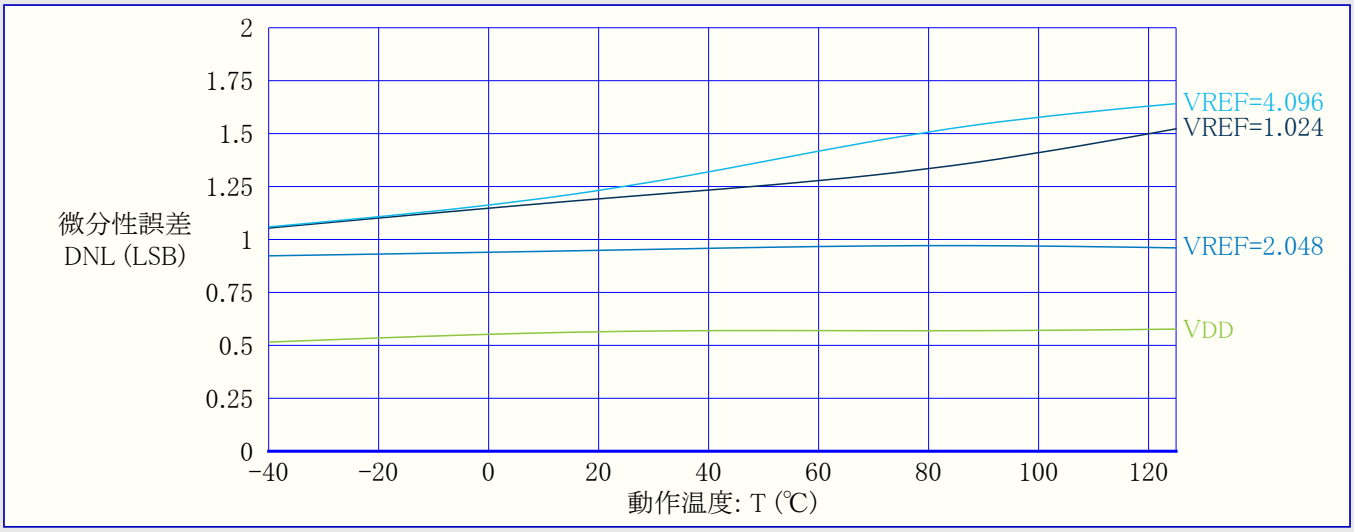


図34-52. 微分性誤差(DNL) 対 動作電圧 (f_{ADC}=145ksps, T=25℃, 差動動作, REFSEL=外部参照基準)

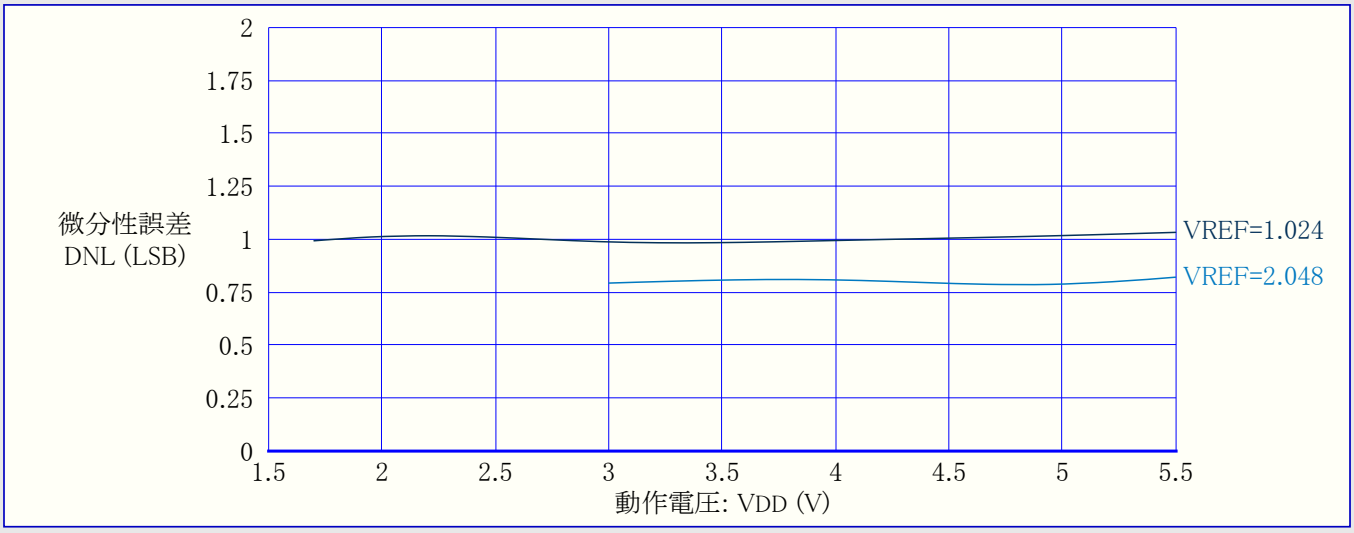
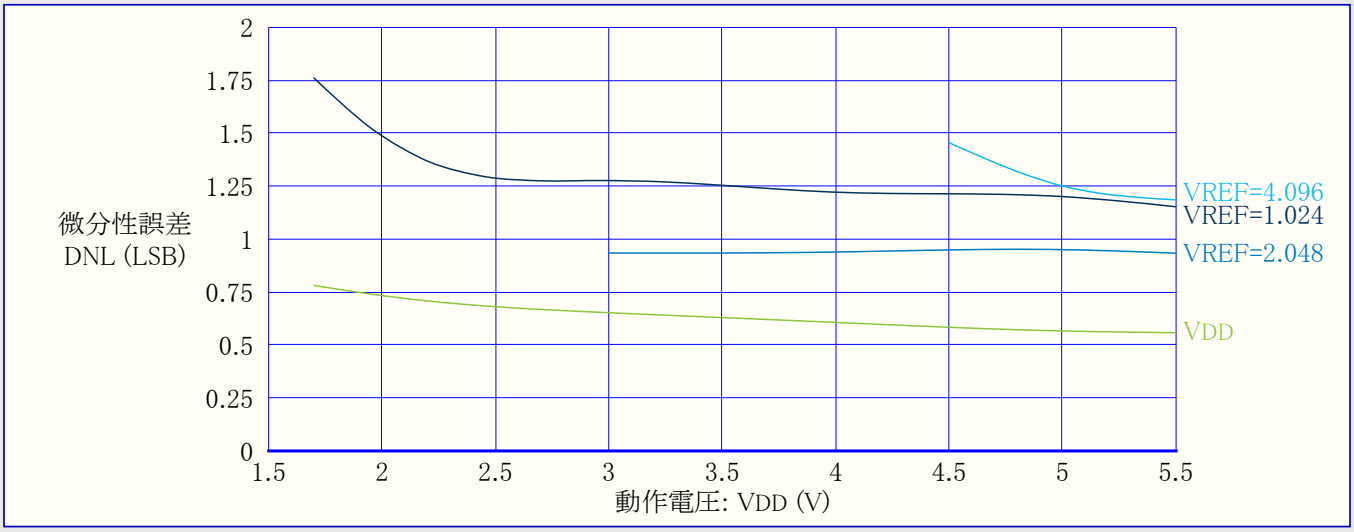


図34-53. 微分性誤差(DNL) 対 動作電圧 (f_{ADC}=145ksps, T=25℃, 差動動作, REFSEL=内部参照基準)



34.5.3. 利得誤差

図34-54. 利得誤差 対 動作温度 (VDD=5V, f_{ADC}=145ksps, 差動動作, REFSEL=外部参照基準)

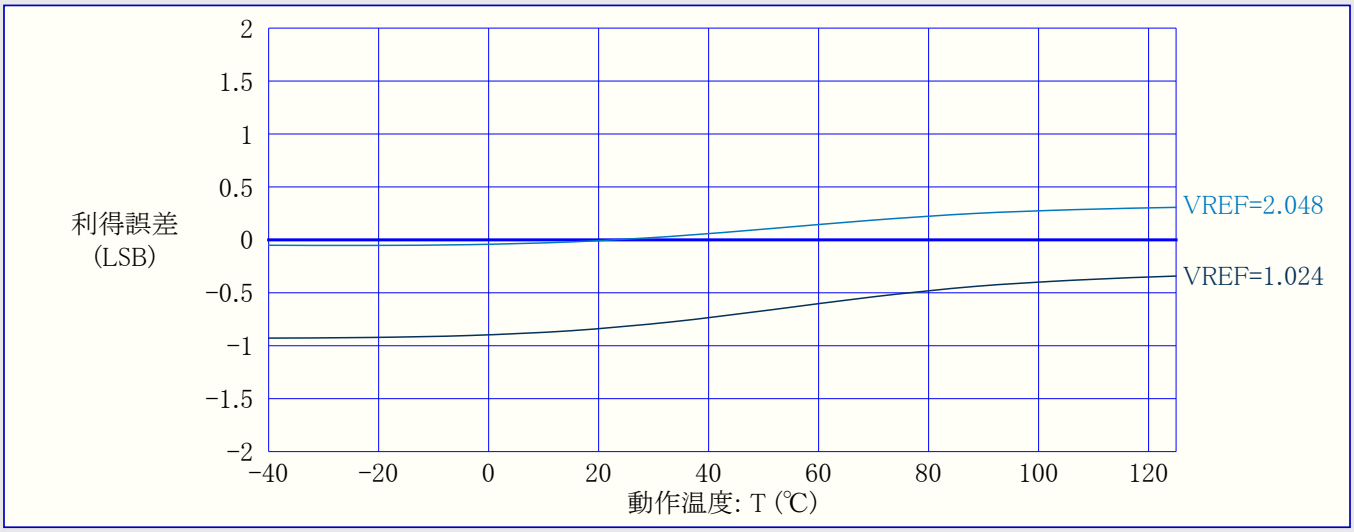


図34-55. 利得誤差 対 動作温度 (VDD=5V, f_{ADC}=145ksps, 差動動作, REFSEL=内部参照基準)

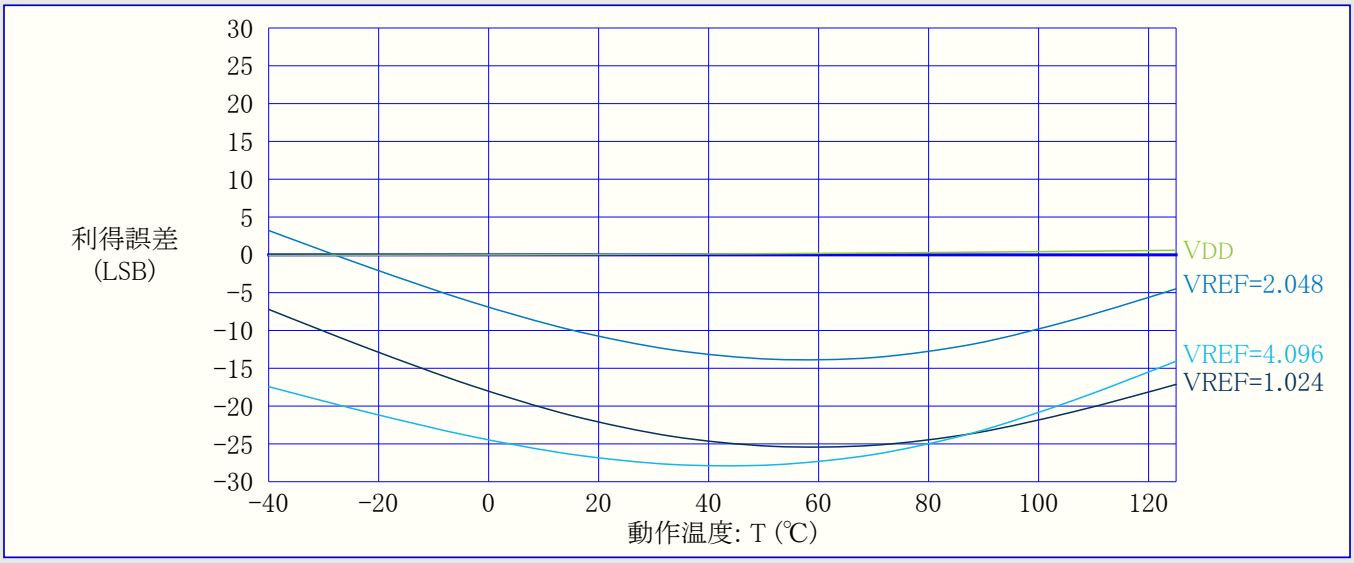


図34-56. 利得誤差 対 動作電圧 (f_{ADC}=145ksps, T=25℃, 差動動作, REFSEL=外部参照基準)

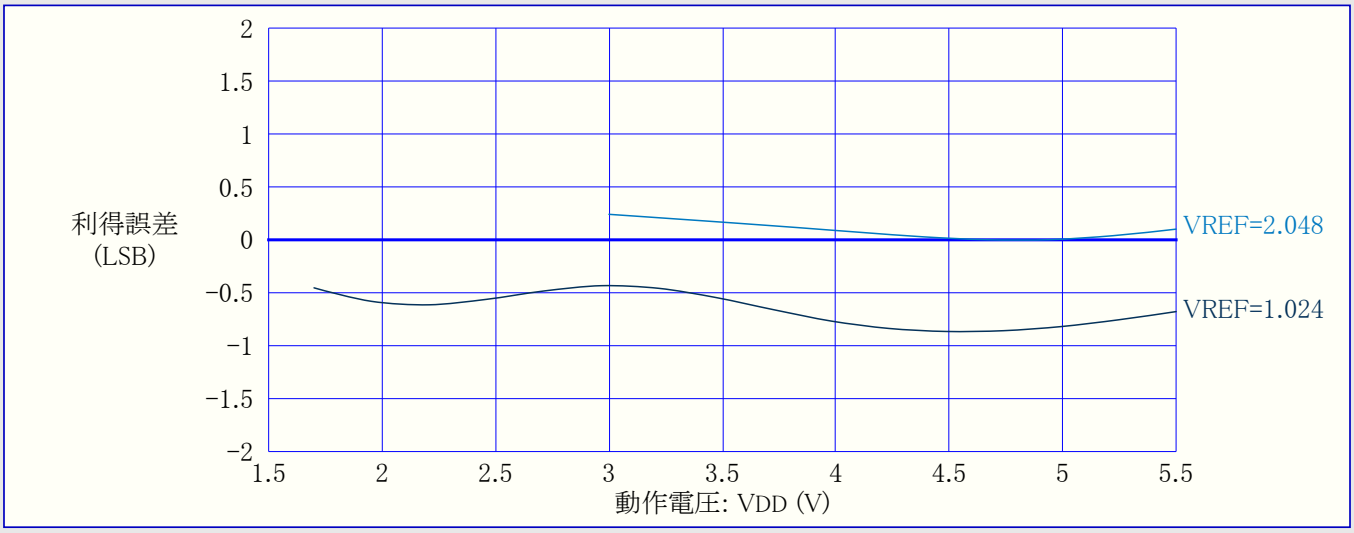
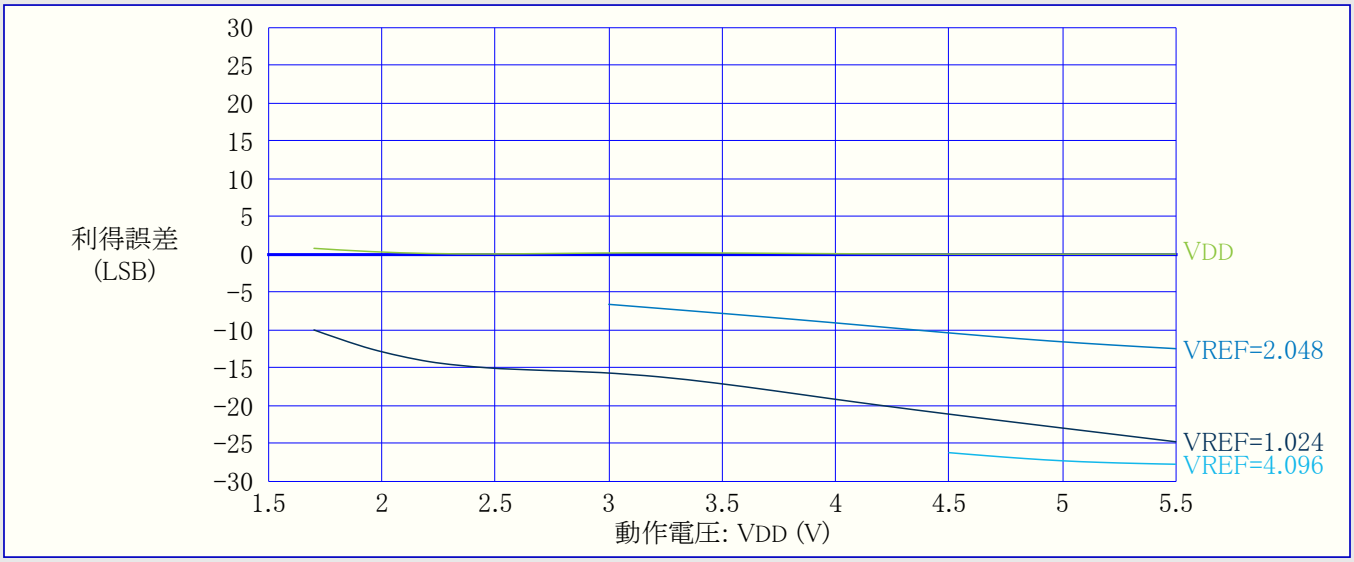


図34-57. 利得誤差 対 動作電圧 (f_{ADC}=145ksps, T=25℃, 差動動作, REFSEL=内部参照基準)



34.5.4. 積分性誤差 (INL)

図34-58. 積分性誤差(INL) 対 符号 (VDD=5V, f_{ADC}=145ksps, T=25℃, 差動動作, 外部2.048V参照基準)

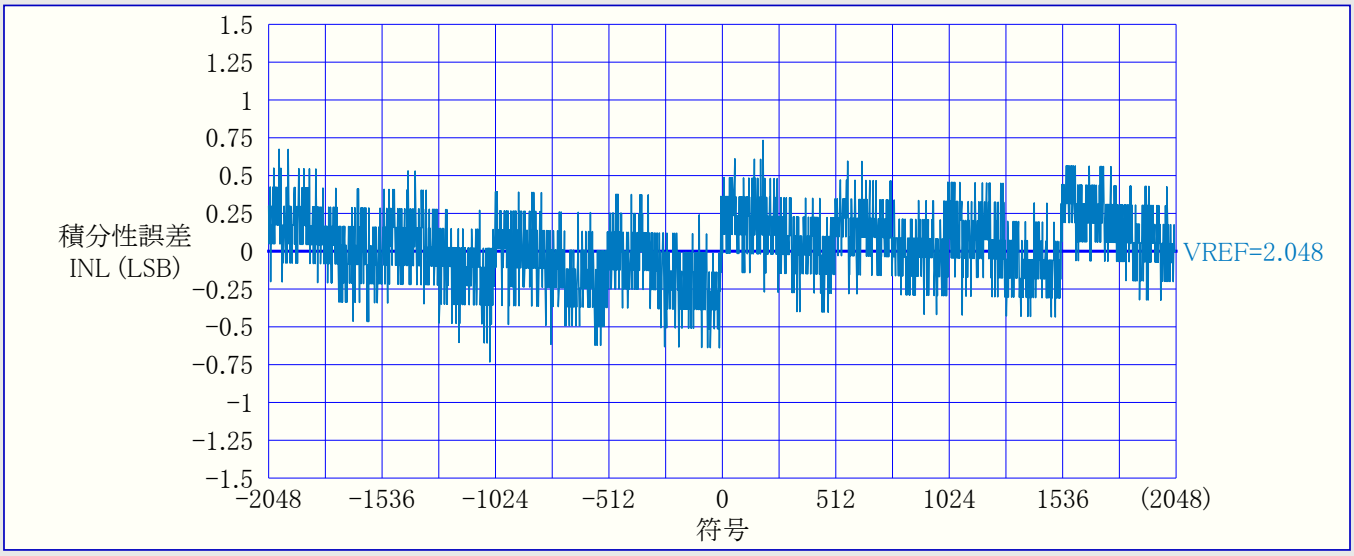


図34-59. 積分性誤差(INL) 対 動作温度 (VDD=5V, f_{ADC}=145ksps, 差動動作, REFSEL=外部参照基準)

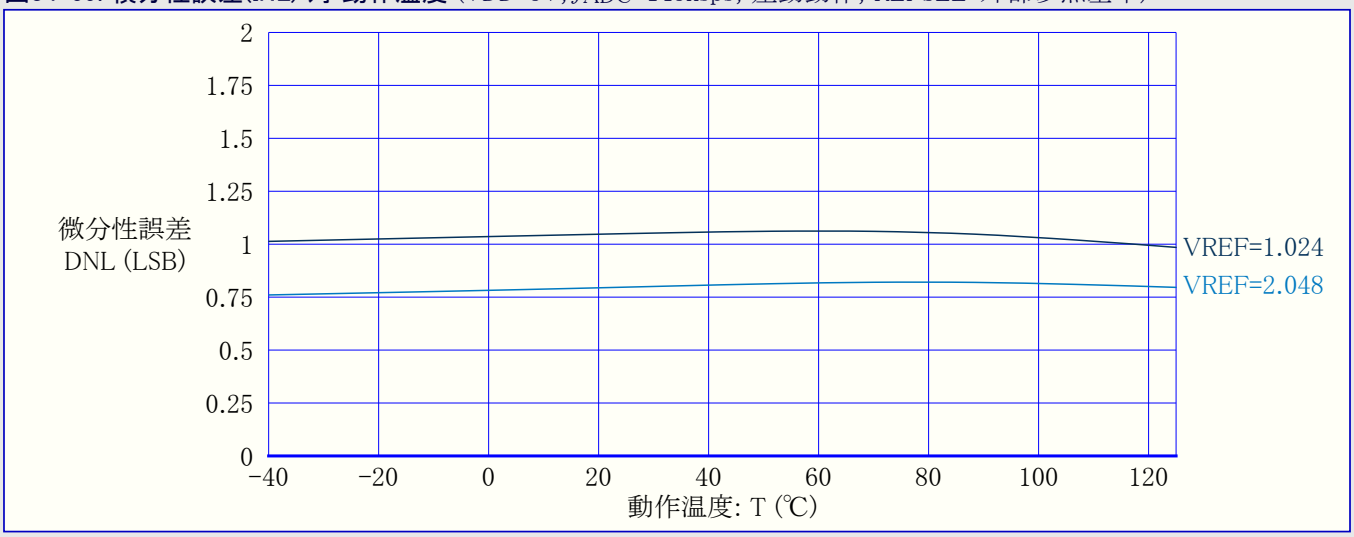


図34-60. 積分性誤差(INL) 対 動作温度 (VDD=5V, f_{ADC}=145ksps, 差動動作, REFSEL=内部参照基準)

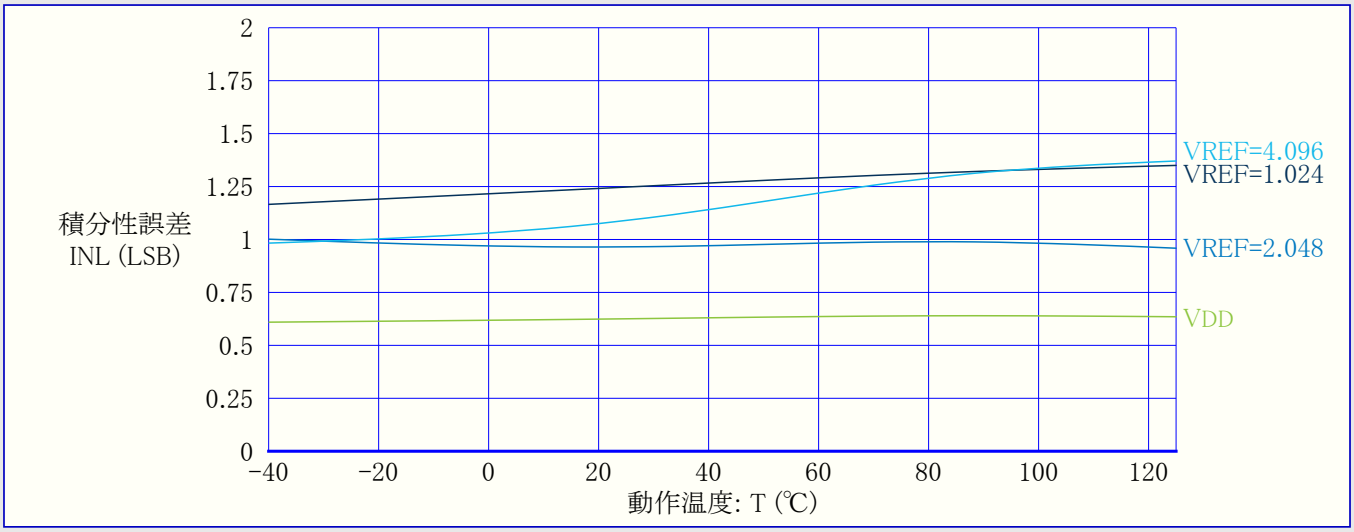


図34-61. 積分性誤差(INL) 対 動作電圧 (f_{ADC}=145ksps, T=25℃, 差動動作, REFSEL=外部参照基準)

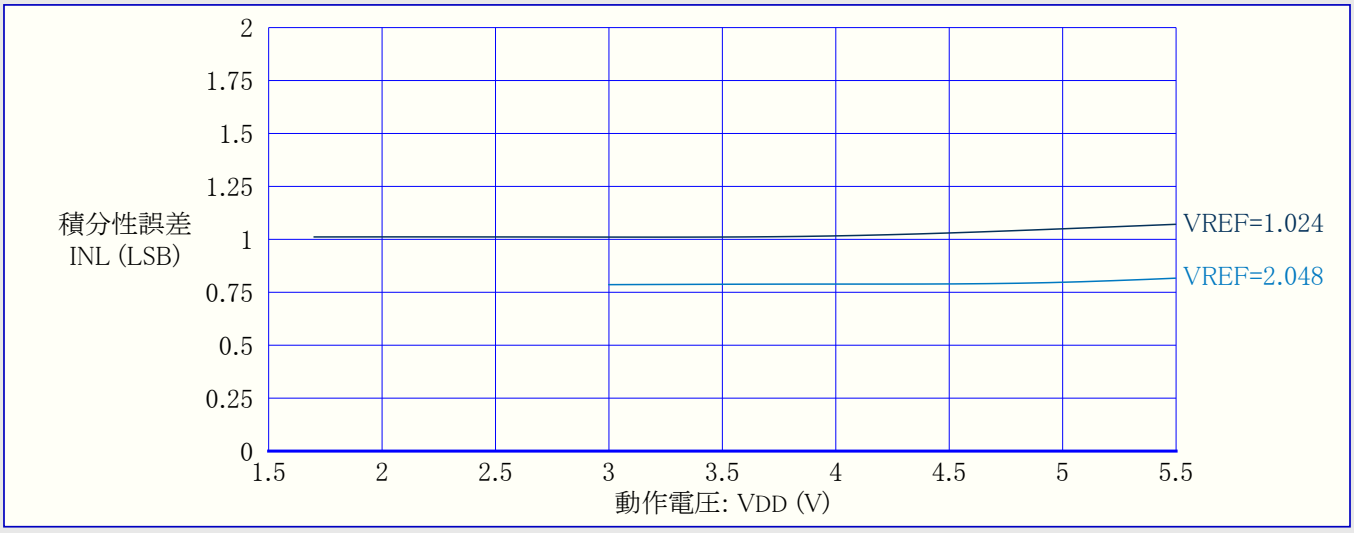
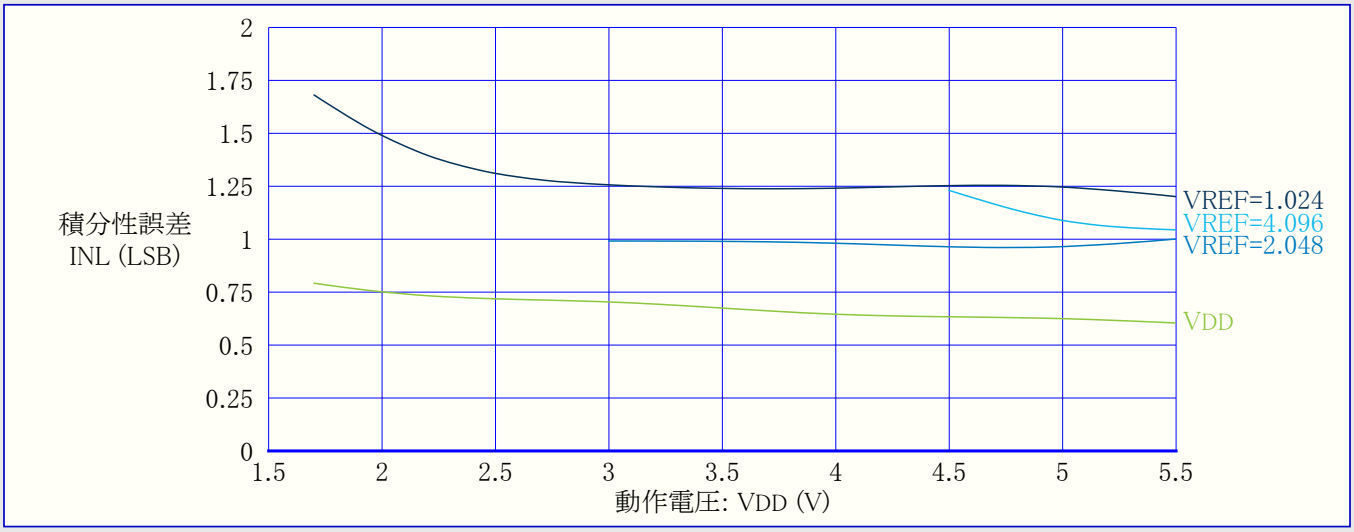


図34-62. 積分性誤差(INL) 対 動作電圧 (f_{ADC}=145ksps, T=25℃, 差動動作, REFSEL=内部参照基準)



34.5.5. 変位(オフセット)誤差

図34-63. 変位(オフセット)誤差 対 動作温度 (VDD=5V, f_{ADC}=145ksps, 差動動作, REFSEL=外部参照基準)

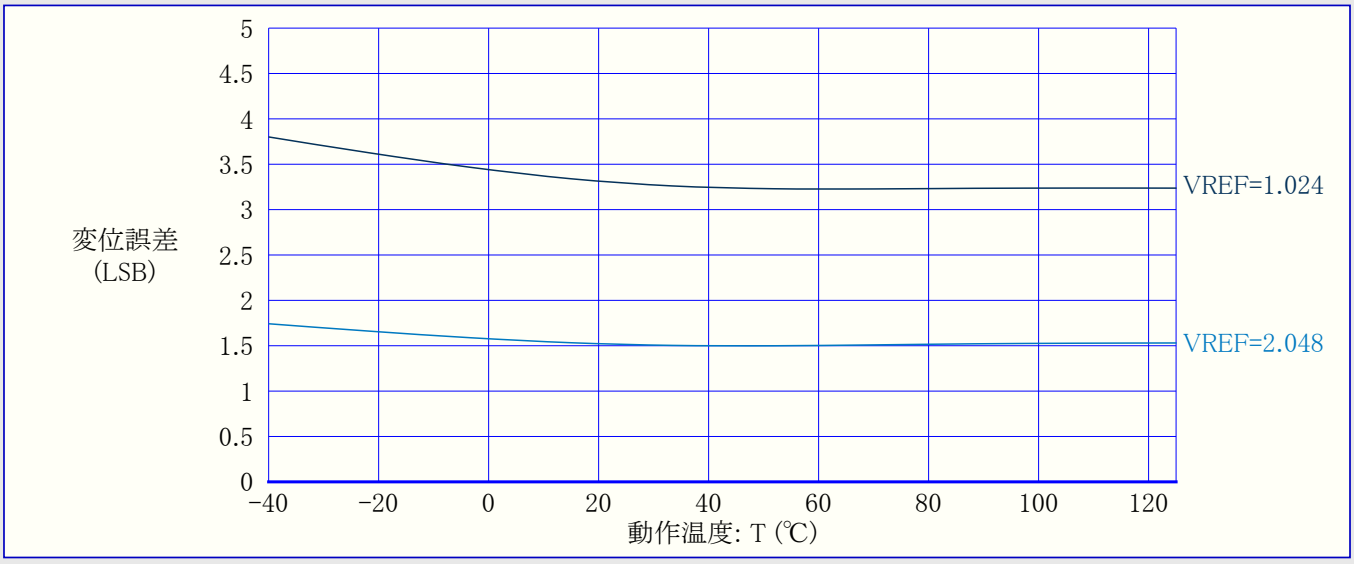


図34-64. 変位(オフセット)誤差 対 動作温度 (VDD=5V, f_{ADC}=145ksps, 差動動作, REFSEL=内部参照基準)

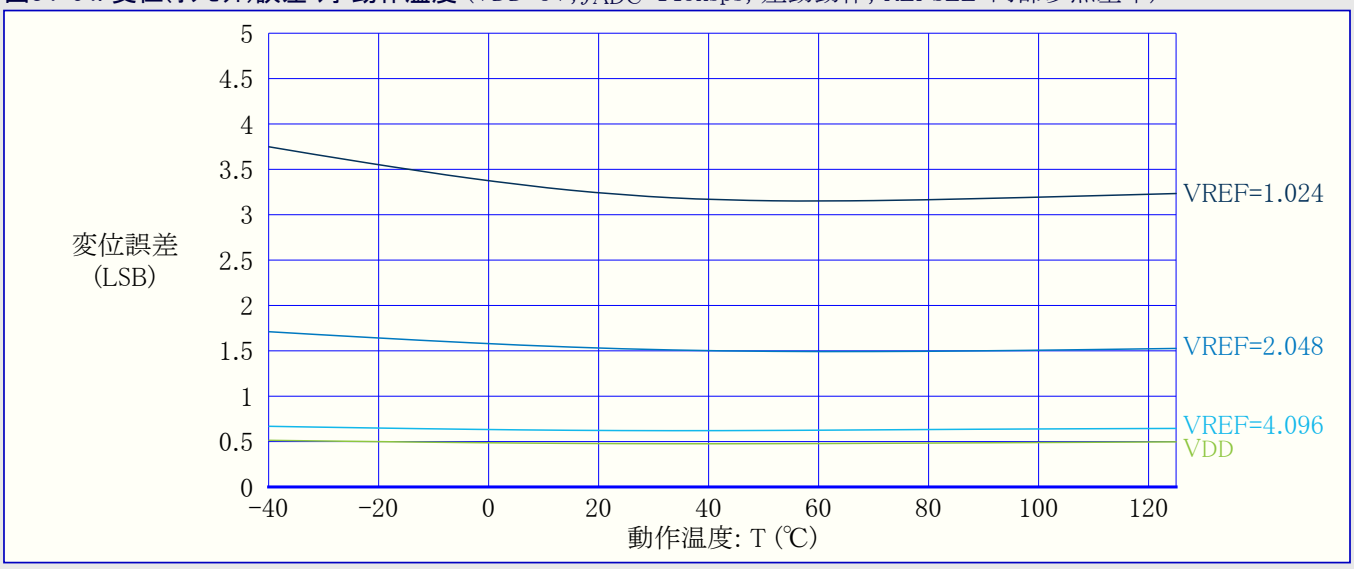


図34-65. 変位(オフセット)誤差 対 動作電圧 (f_{ADC}=145ksps, T=25℃, 差動動作, REFSEL=外部参照基準)

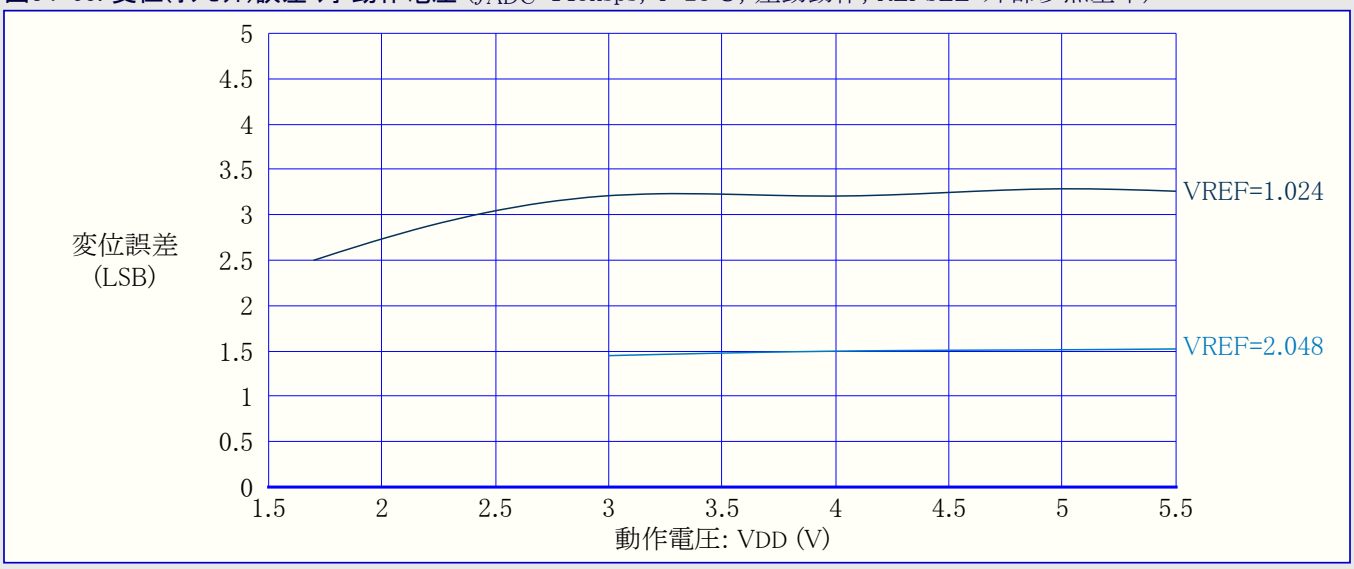
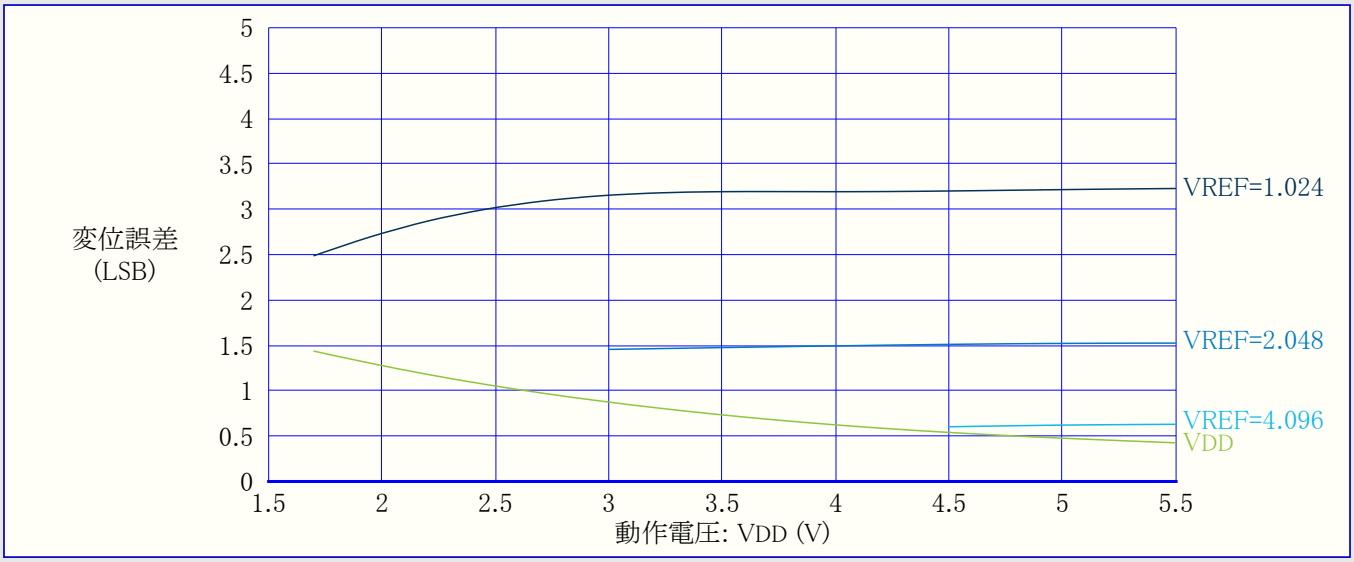


図34-66. 変位(オフセット)誤差 対 動作電圧 (f_{ADC}=145ksps, T=25℃, 差動動作, REFSEL=内部参照基準)



34.5.6. PGA特性

図34-67. 利得誤差 対 動作温度 (VDD=3V, VCM=最小)

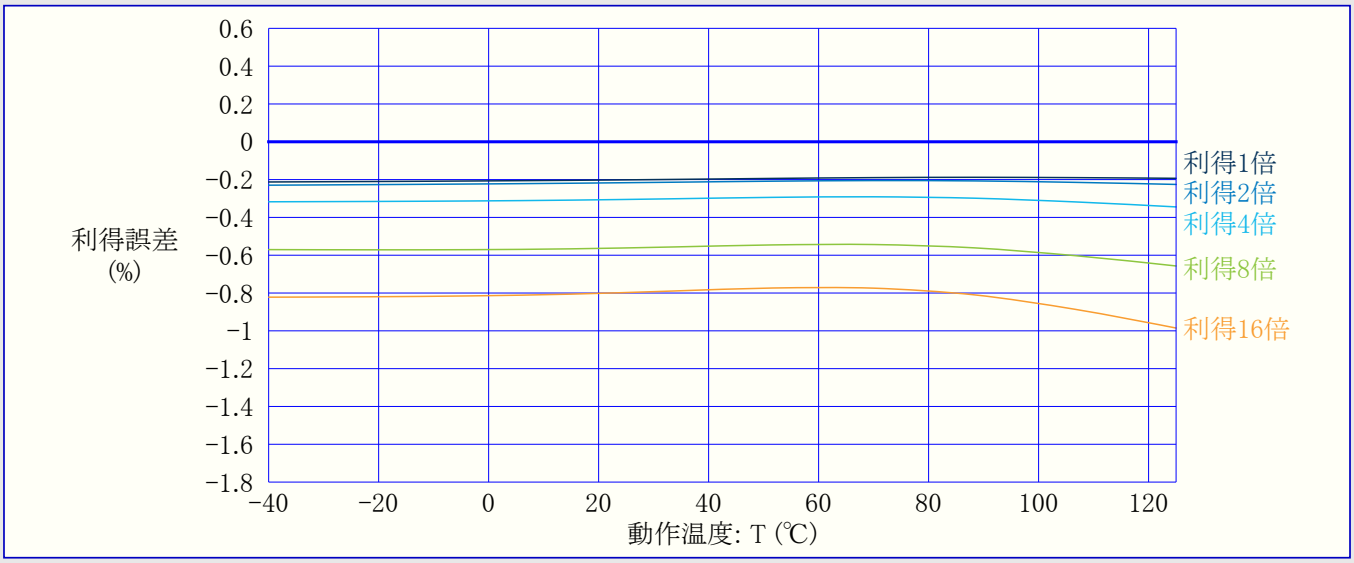


図34-68. 利得誤差 対 動作電圧 (T=25℃, VCM=最小)

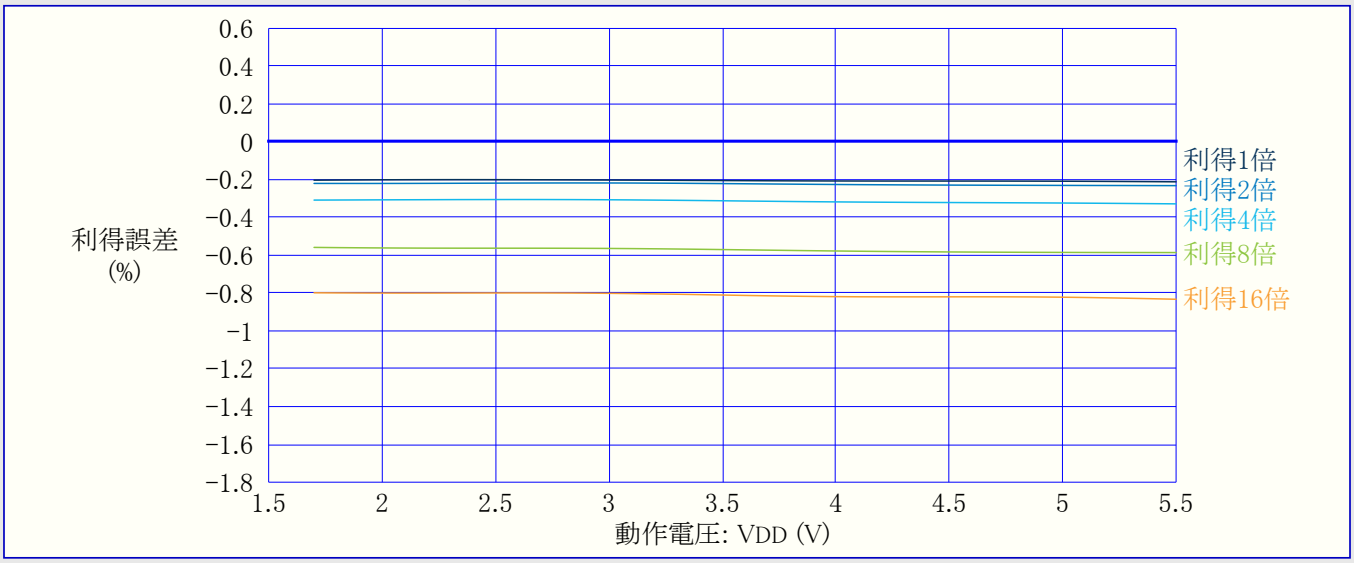


図34-69. 利得変位(オフセット)誤差 対 動作温度 (VDD=3V, VCM=最小)

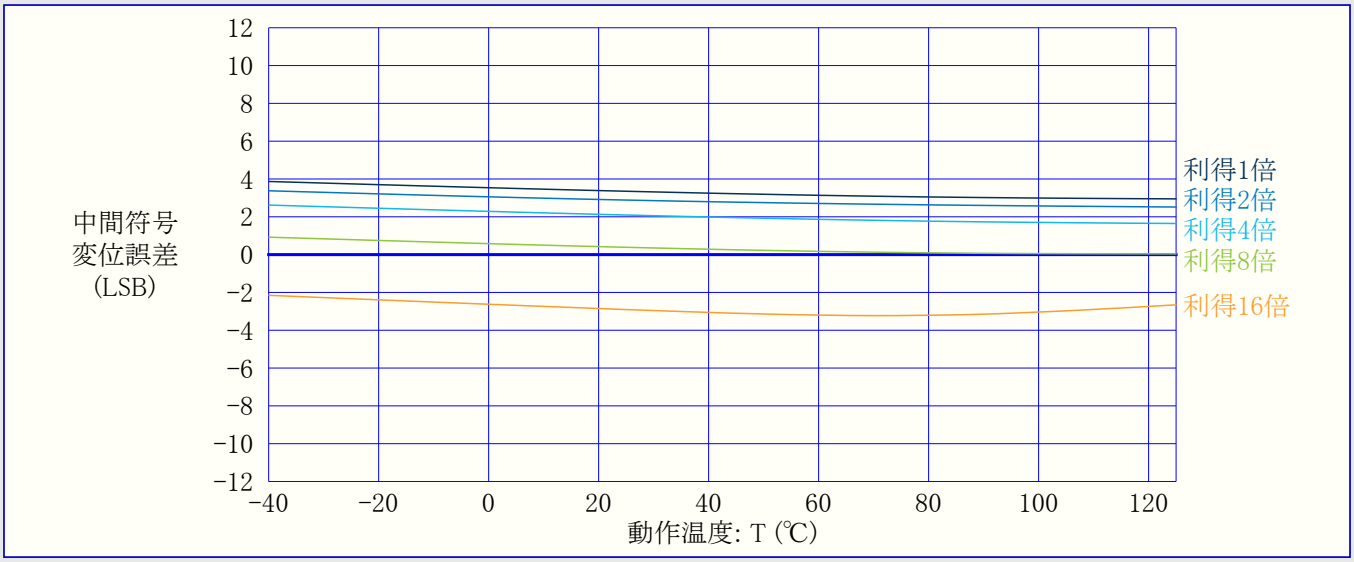
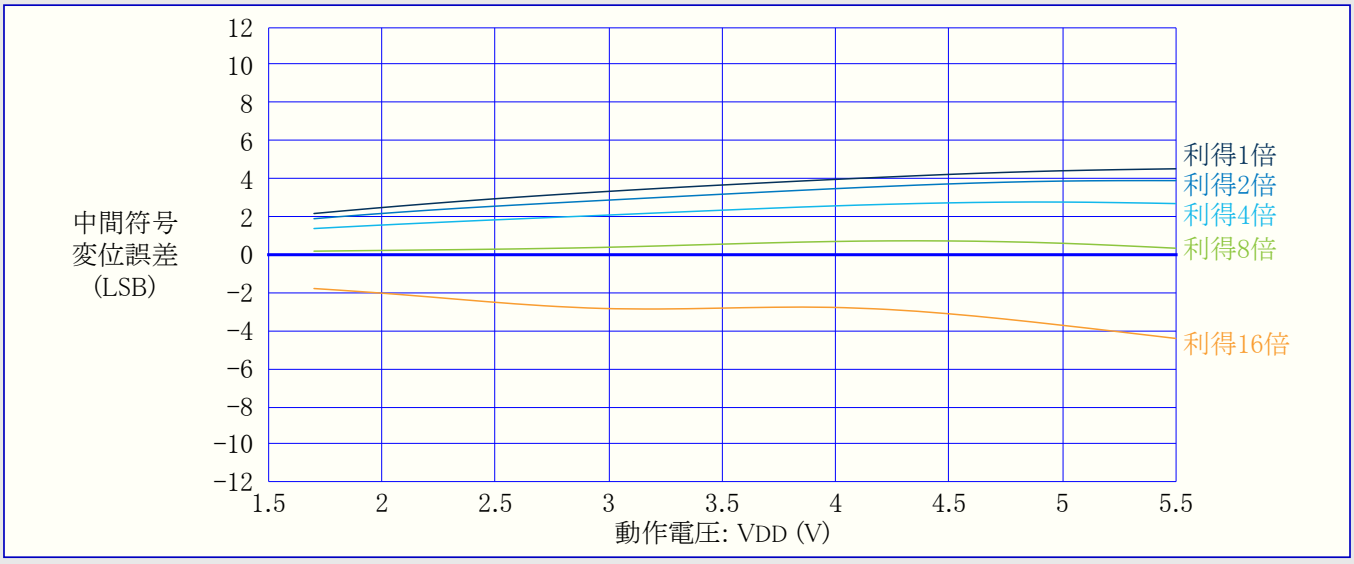
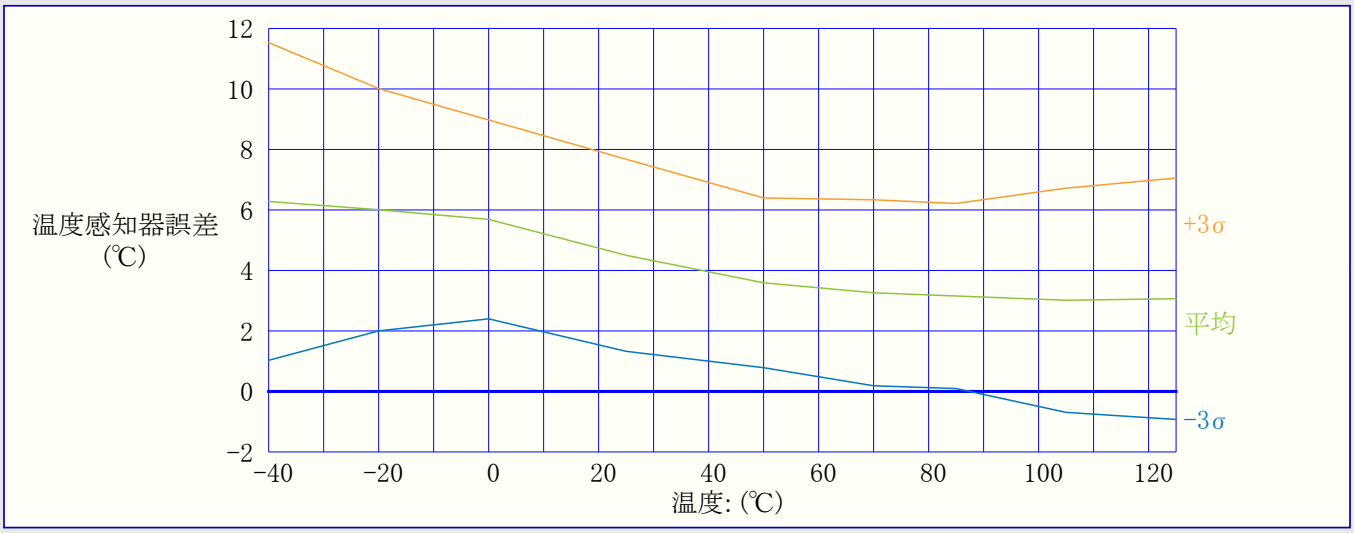


図34-70. 利得変位(オフセット)誤差 対 動作電圧 (T=25℃, VCM=最小)



34.6. TMPSENSE特性 (訳注:原書での本項はTBDですが、本書では参考用にATtiny1624/1626/1627の図を記載しています。)

図34-71. 温度感知器誤差 対 温度 (±3σ)



34.7. AC特性 (訳注:原書での本項はTBDですが、本書では参考用にATtiny1624/1626/1627の図を記載しています。)

ヒステリシス 対 VCMとHYSMODE

図34-72. ヒステリシス電圧 対 同相入力電圧とHYSMODE (VDD=5V, T=25℃, 低電力動作禁止)

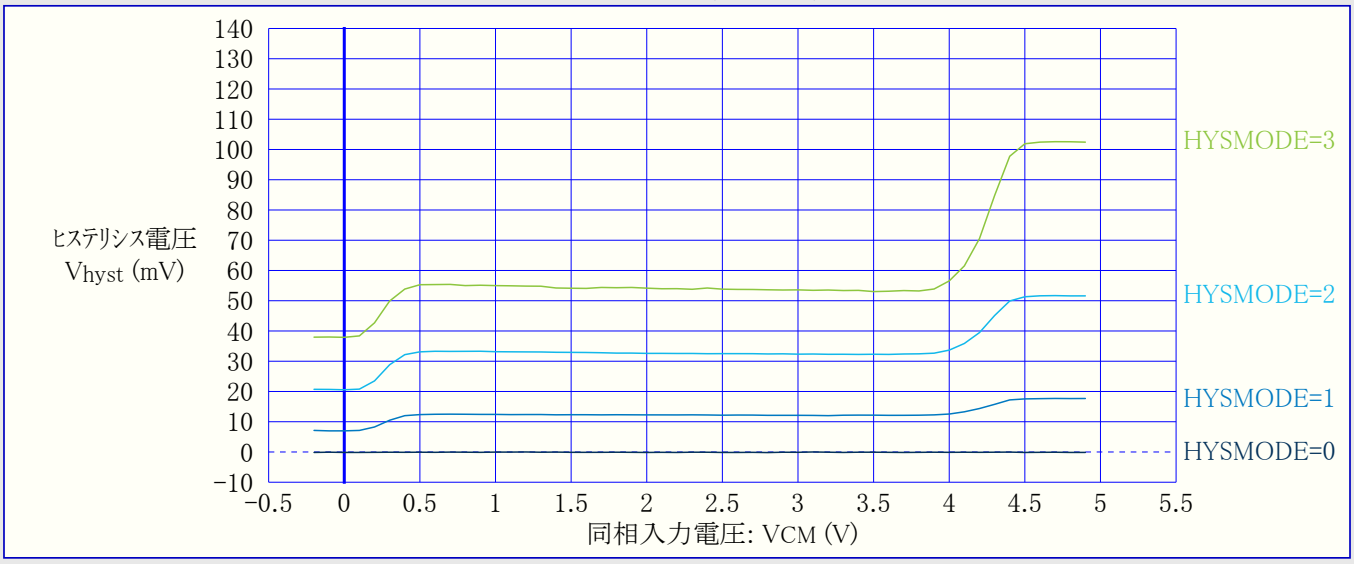
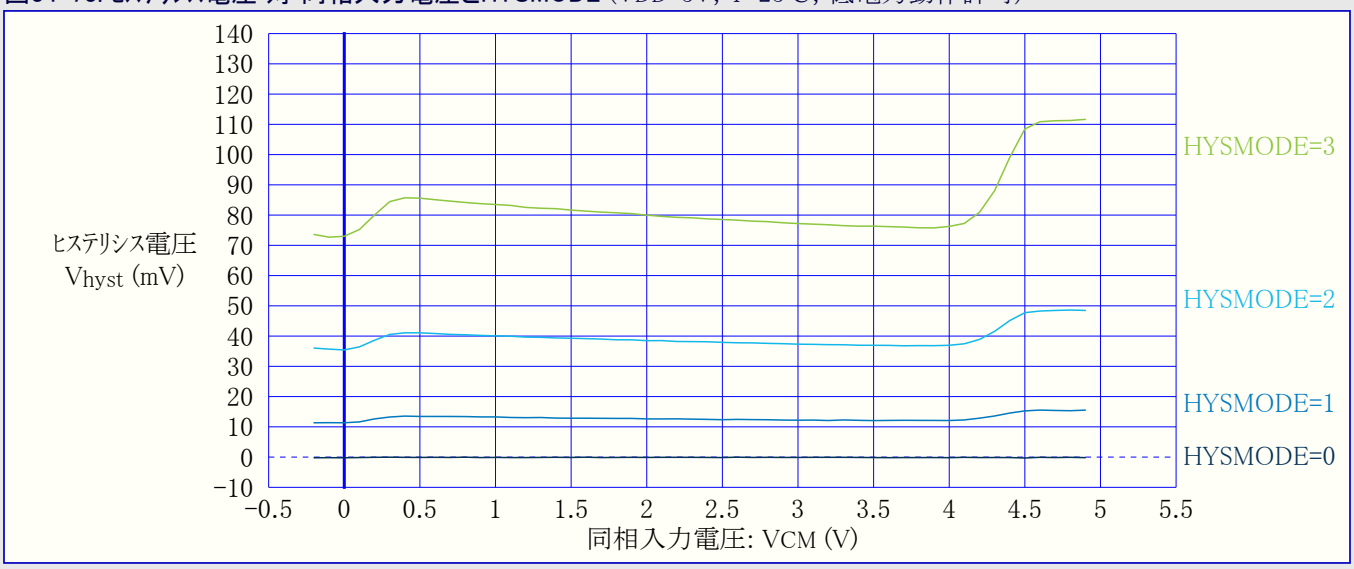


図34-73. ヒステリシス電圧 対 同相入力電圧とHYSMODE (VDD=5V, T=25℃, 低電力動作許可)



ヒステリシス 対 VCMと温度

図34-74. ヒステリシス電圧 対 同相入力電圧と温度 (VDD=5V, HYSMODE=1, 低電力動作禁止)

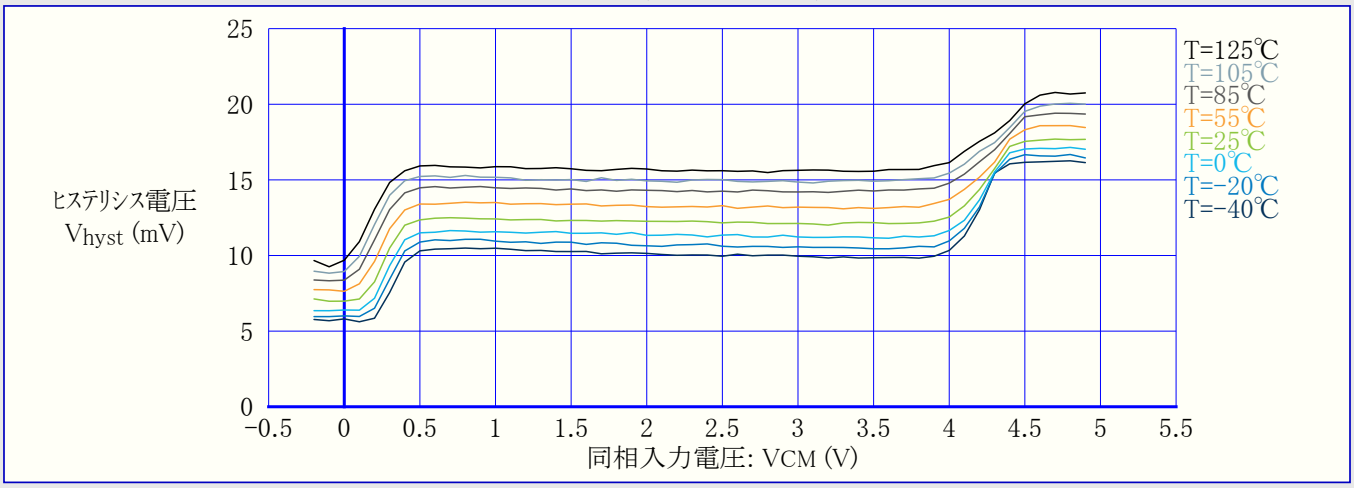


図34-75. ヒステリシス電圧 対 同相入力電圧と温度 (VDD=5V, HYSMODE=1, 低電力動作許可)

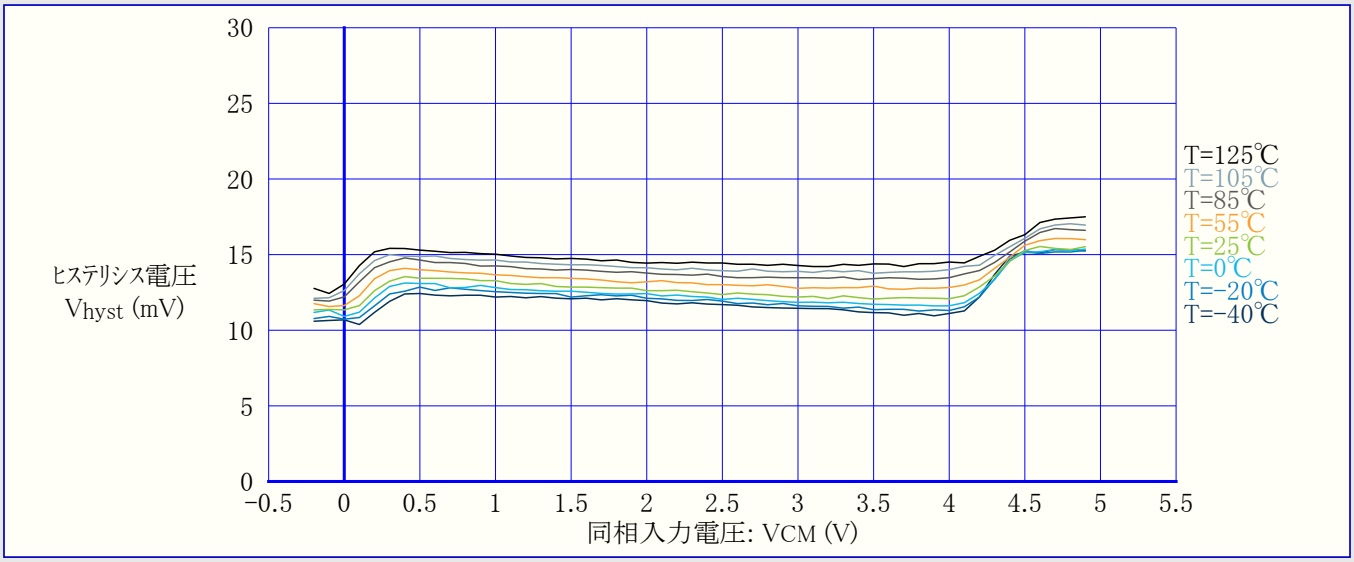


図34-76. ヒステリシス電圧 対 同相入力電圧と温度 (VDD=5V, HYSMODE=2, 低電力動作禁止)

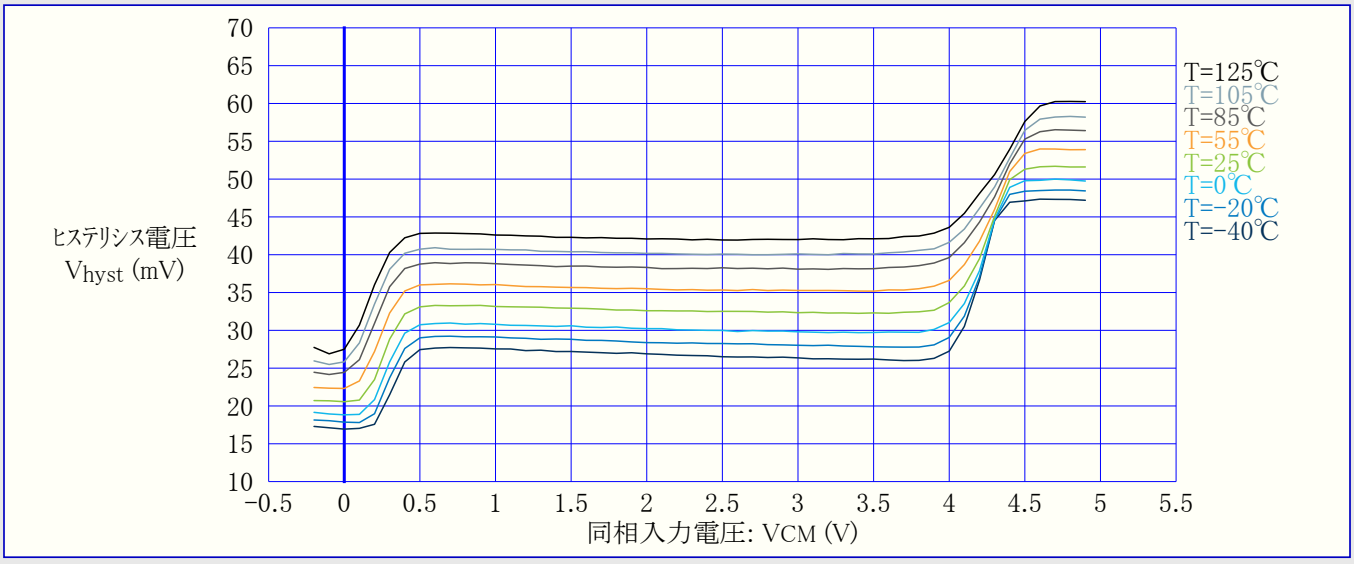


図34-77. ヒステリシス電圧 対 同相入力電圧と温度 (VDD=5V, HYSMODE=2, 低電力動作許可)

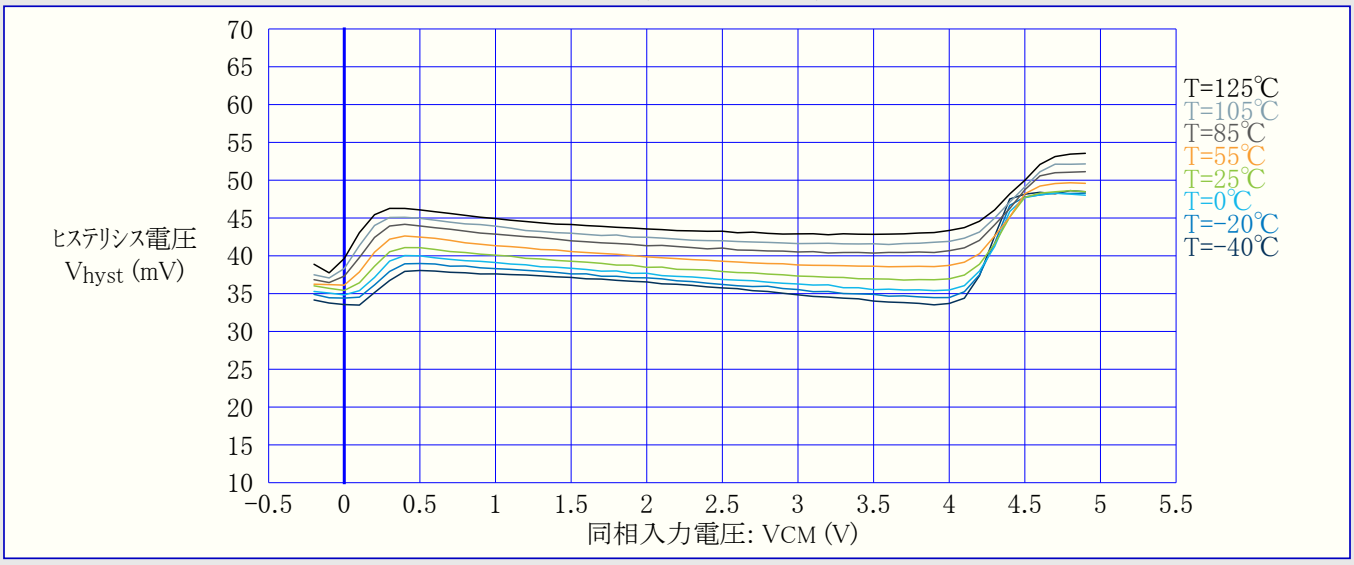


図34-78. ヒステリシス電圧 対 同相入力電圧と温度 (VDD=5V, HYSMODE=3, 低電力動作禁止)

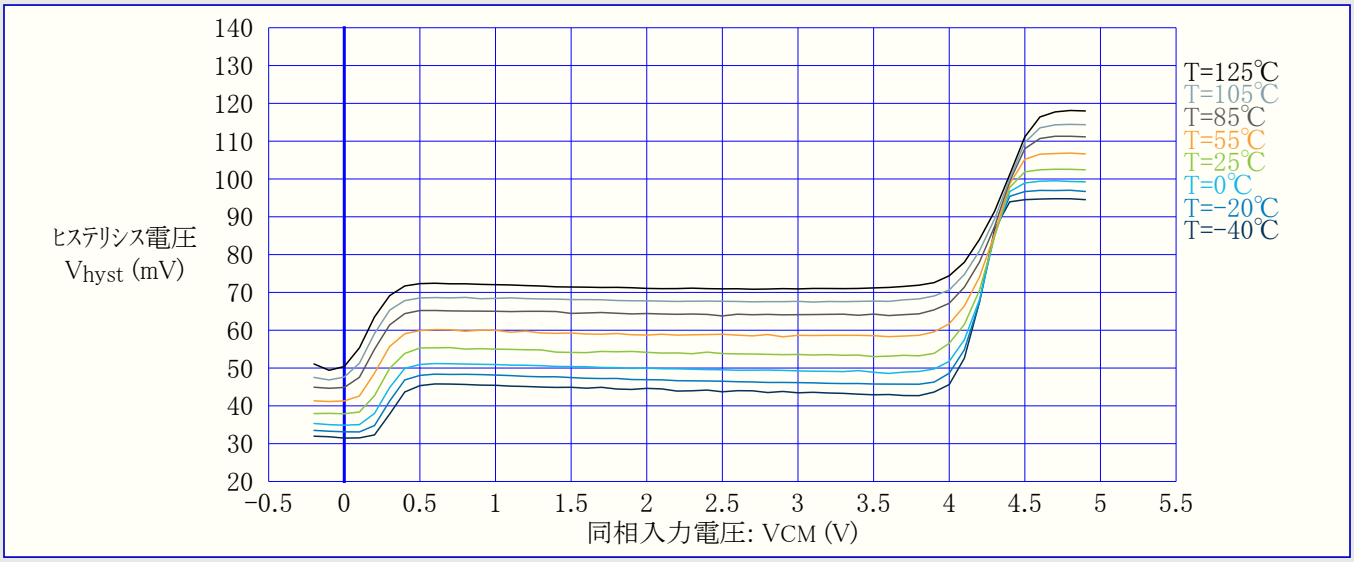
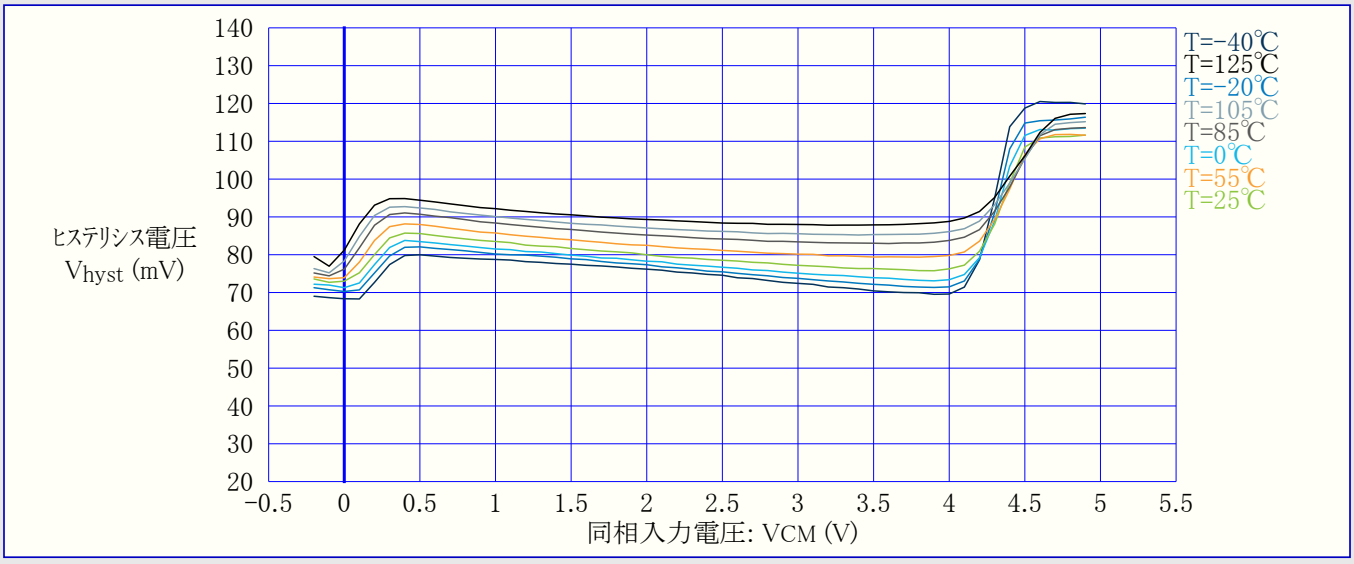


図34-79. ヒステリシス電圧 対 同相入力電圧と温度 (VDD=5V, HYSMODE=3, 低電力動作許可)



変位(オフセット) 対 同相入力電圧

図34-80. 変位(オフセット)電圧 対 同相入力電圧とHYSMODE (VDD=5V, T=25℃, 低電力動作禁止)

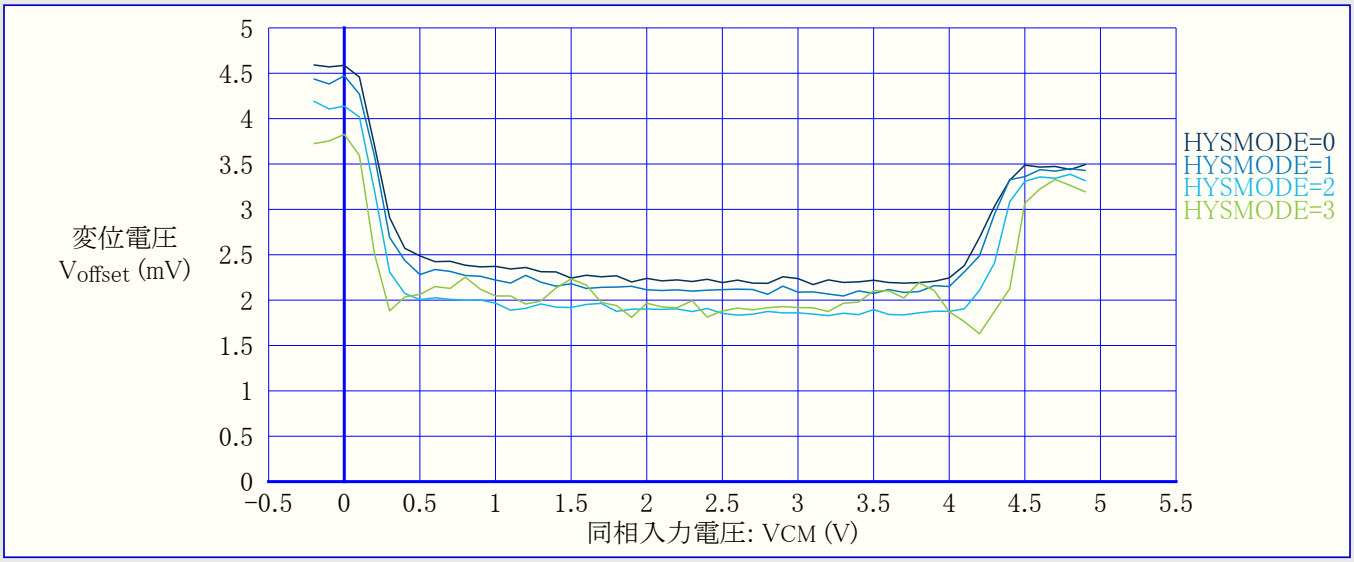


図34-81. 変位(オフセット)電圧 対 同相入力電圧とHYSMODE (VDD=5V, T=25℃, 低電力動作許可)

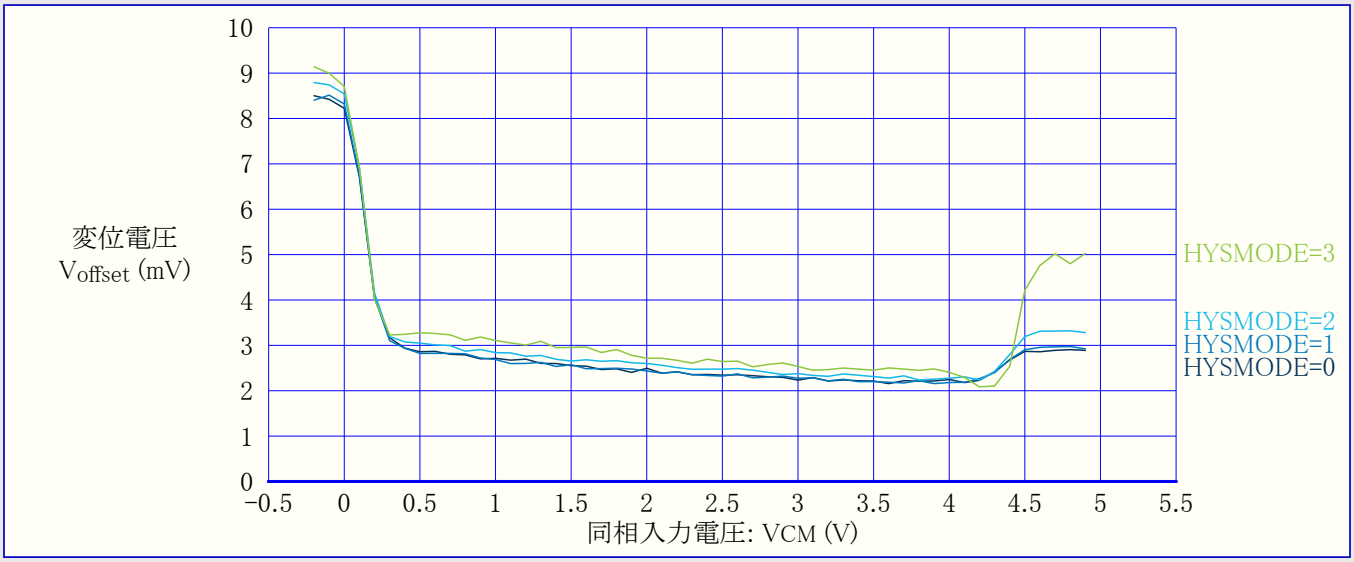


図34-82. 変位(オフセット)電圧 対 同相入力電圧と温度 (VDD=5V, HYSMODE=1, 低電力動作禁止)

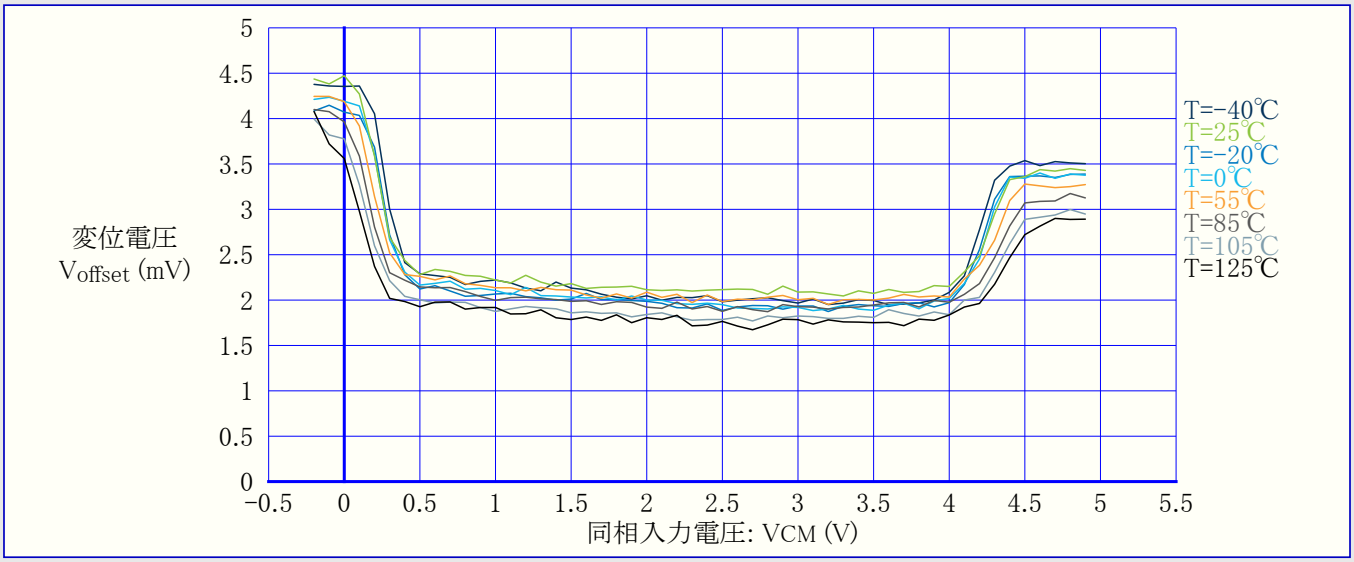
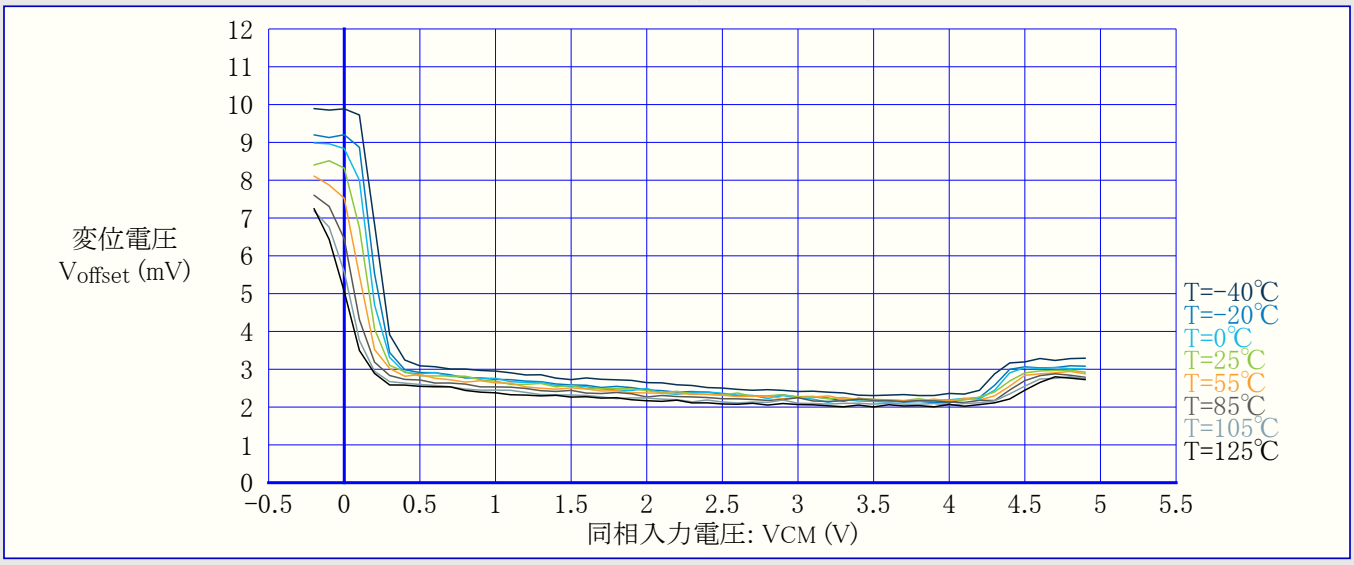


図34-83. 変位(オフセット)電圧 対 同相入力電圧と温度 (VDD=5V, HYSMODE=1, 低電力動作許可)



34.8. OSC20M特性

図34-84. OSC20M内部発振器 : 校正段階変量 対 校正値 (VDD=3V)

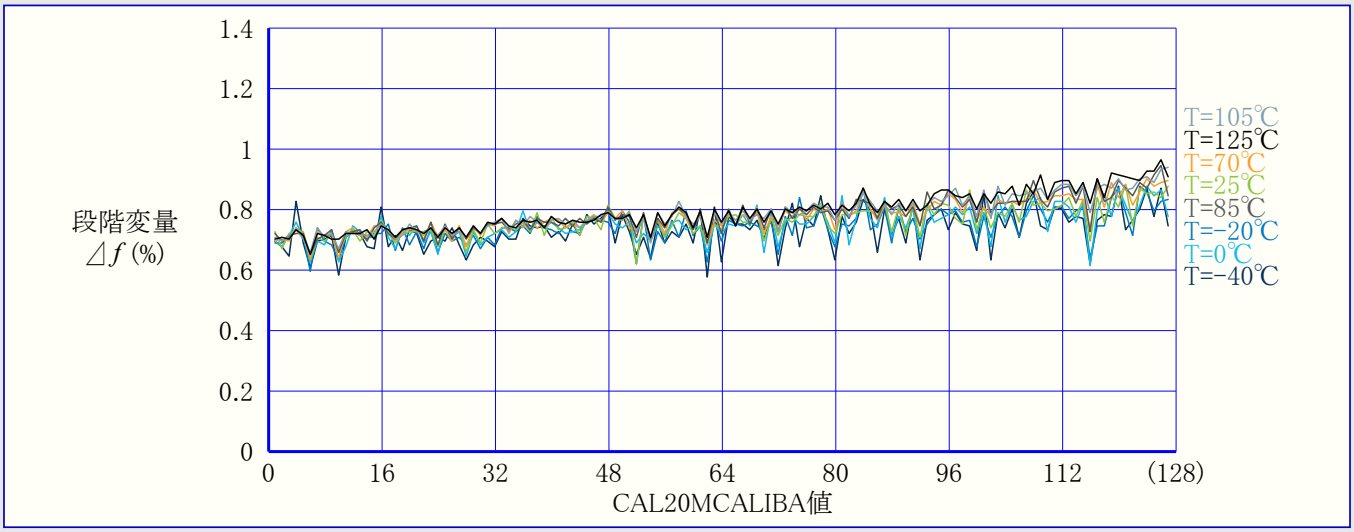


図34-85. OSC20M内部発振器 : 周波数 対 校正値 (VDD=3V)

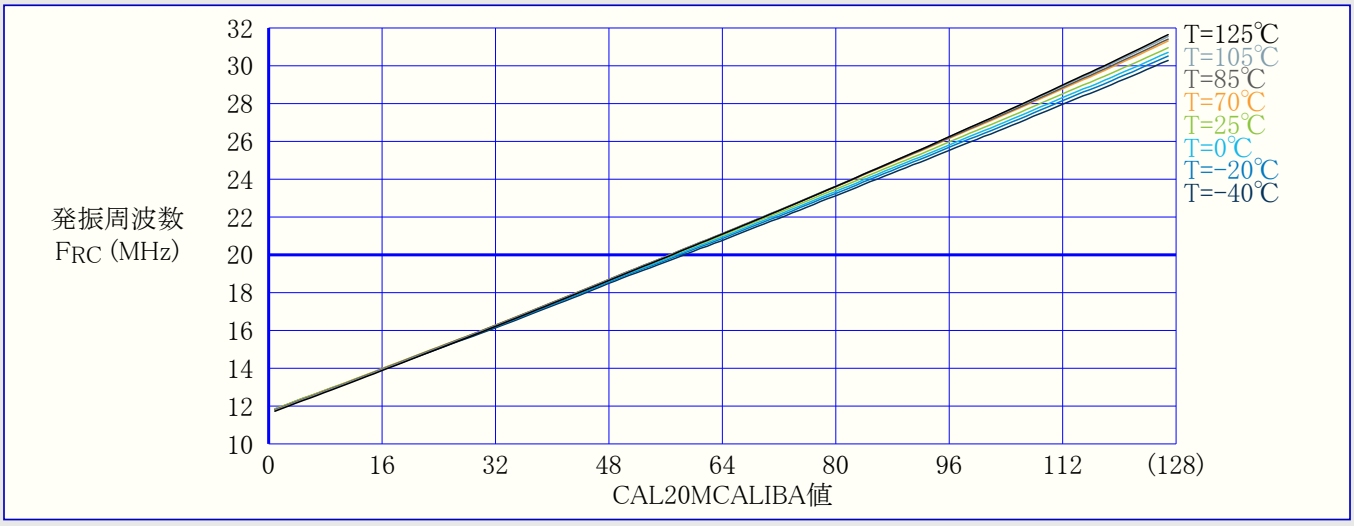


図34-86. OSC20M内部発振器 : 周波数 対 動作温度

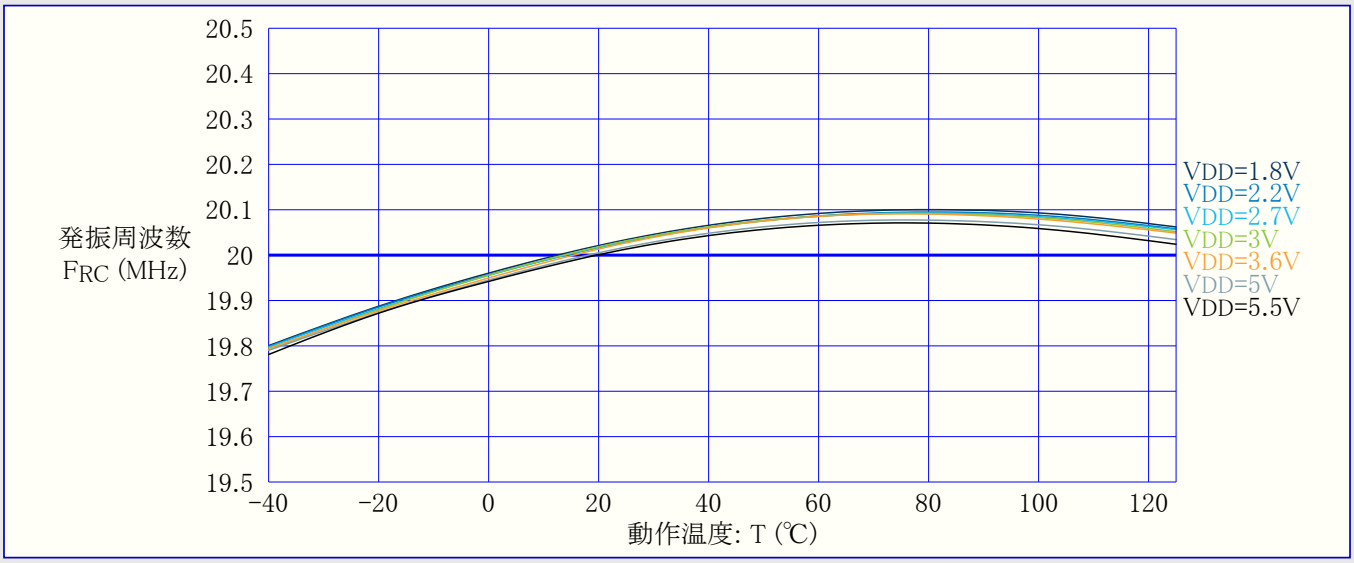
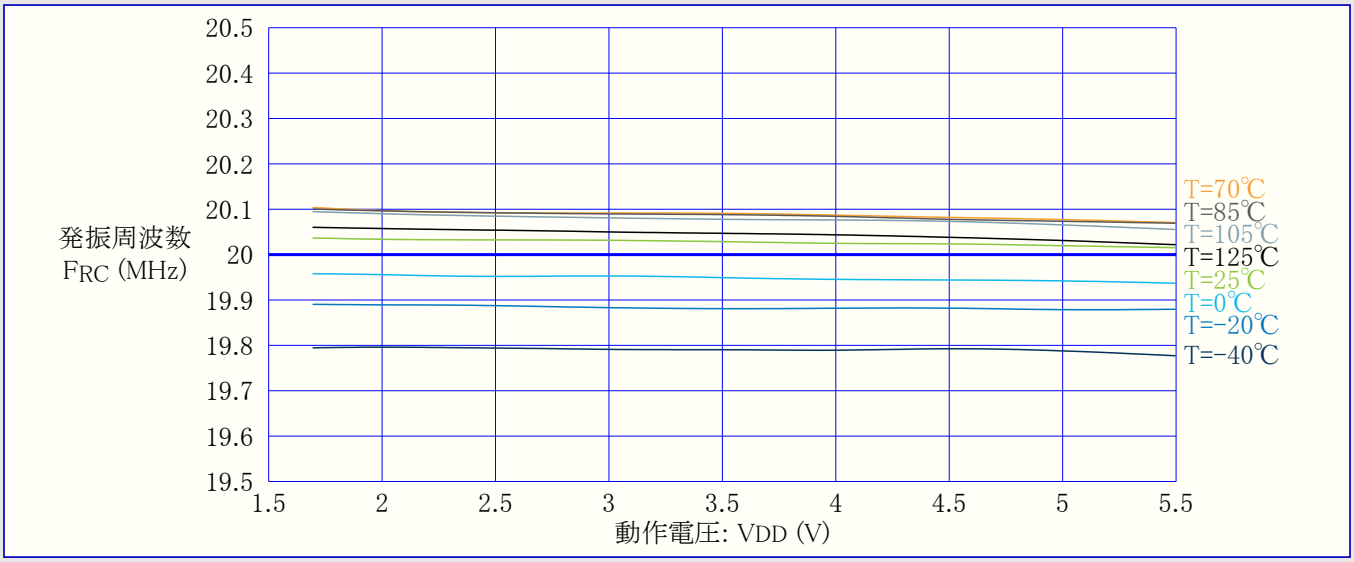


図34-87. OSC20M内部発振器 : 周波数 対 動作電圧



34.9. OSCULP32K特性

図34-88. OSCULP32K内部発振器 : 周波数 対 動作温度

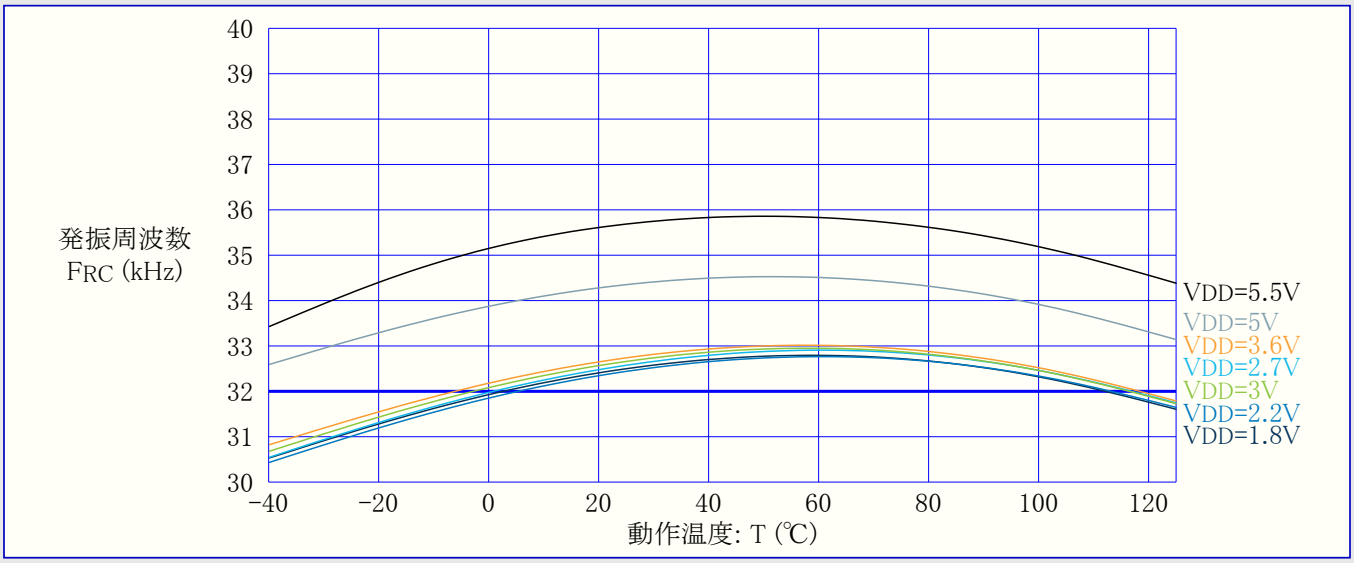
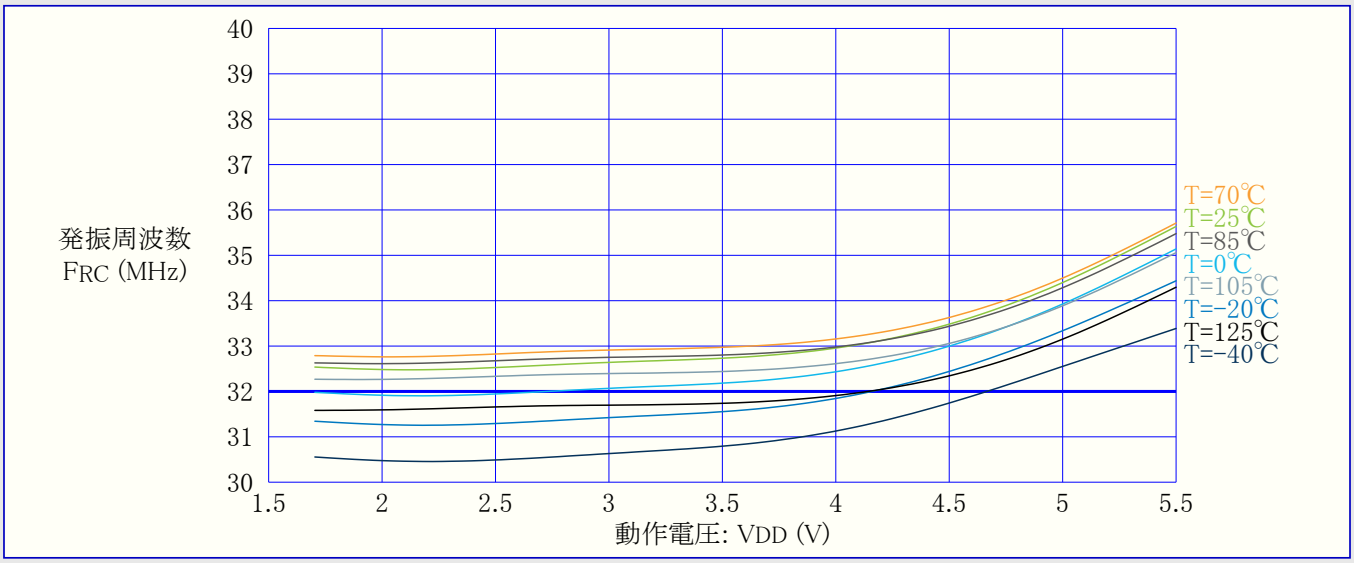


図34-89. OSCULP32K内部発振器 : 周波数 対 動作電圧



35. 注文情報

利用可能な注文任意選択は以下によって見つけることができます。

- 以下の製品頁ﾘﾝｸの1つでのｸﾘｯｸ
  - ATtiny3227製品頁
  - ATtiny3226製品頁
  - ATtiny3224製品頁
- microchipdirect.comで製品名による検索
- 最寄りの販売代理店へのお問い合わせ

注: 車載級注文符号(VAO接尾辞)は要請によって設定され、下表で一覧にされません。各々の製品頁に存在しないVAO注文符号を要請するには最寄りのMicrochip営業担当者にお問い合わせください。

表35-1. 入手可能な製品番号

注文符号 (注1)	ﾌﾗｯｼｭ/SRAM	ﾋﾟﾝ数	外囲器形式 (注2)	供給電圧	温度範囲	搬送形式
ATtiny3224-SSF	32KB/3KB	14	SOIC	1.8～5.5V	-40℃～125℃	ﾁｭｰﾌﾞ
ATtiny3224-SSFR						ﾃｰﾌﾟ&ﾘｰﾙ
ATtiny3224-SSU					-40℃～85℃	ﾁｭｰﾌﾞ
ATtiny3224-SSUR						ﾃｰﾌﾟ&ﾘｰﾙ
ATtiny3224-XF			TSSOP		-40℃～125℃	ﾁｭｰﾌﾞ
ATtiny3224-XFR						ﾃｰﾌﾟ&ﾘｰﾙ
ATtiny3224-XU					-40℃～85℃	ﾁｭｰﾌﾞ
ATtiny3224-XUR						ﾃｰﾌﾟ&ﾘｰﾙ
ATtiny3226-MF		20	VQFN		-40℃～125℃	ﾄﾚｲ
ATtiny3226-MFR						ﾃｰﾌﾟ&ﾘｰﾙ
ATtiny3226-MU					-40℃～85℃	ﾄﾚｲ
ATtiny3226-MUR						ﾃｰﾌﾟ&ﾘｰﾙ
ATtiny3226-SF			SOIC		-40℃～125℃	ﾁｭｰﾌﾞ
ATtiny3226-SFR						ﾃｰﾌﾟ&ﾘｰﾙ
ATtiny3226-SU					-40℃～85℃	ﾁｭｰﾌﾞ
ATtiny3226-SUR						ﾃｰﾌﾟ&ﾘｰﾙ
ATtiny3226-XF			SSOP		-40℃～125℃	ﾁｭｰﾌﾞ
ATtiny3226-XFR						ﾃｰﾌﾟ&ﾘｰﾙ
ATtiny3226-XU					-40℃～85℃	ﾁｭｰﾌﾞ
ATtiny3226-XUR						ﾃｰﾌﾟ&ﾘｰﾙ
ATtiny3227-MF		24	VQFN		-40℃～125℃	ﾄﾚｲ
ATtiny3227-MFR						ﾃｰﾌﾟ&ﾘｰﾙ
ATtiny3227-MU					-40℃～85℃	ﾄﾚｲ
ATtiny3227-MUR						ﾃｰﾌﾟ&ﾘｰﾙ

注1: 有害物質使用制限に関する欧州指令(RoHS指令)適合の鉛ﾌﾘｰ製品。またﾊﾛｹﾞﾝ化合物ﾌﾘｰで完全に安全。

注2: 外囲器外形図は「36. 外囲器図」章で見つけることができます。

製品識別システム

注文する、または例えば、価格や納品の情報を得るには工場または一覧にされた販売代理店にお問い合わせください。

AT tiny 3227 – MUR – VAO

- AVR®製品系統
- Kバイトでのフラッシュ メモリ量
- 系統番号
- ピン数：7=24ピン
  - 6=20ピン
  - 4=14ピン
- 変種添え字：VAO=車載品
  - :(なし)=標準品
- 搬送形式：R=テープ&リール
  - :(なし)=チューブまたはトレイ
- 温度範囲：U=-40～+85℃
  - :F=-40～+125℃
- 外囲器形式：M=VQFN
  - :S=SOIC300
  - :SS=SOIC150
  - :X=TSSOP,SSOP

注: テープとリールの識別子は目録部品番号記述でだけ現れます。注文目的にこの識別子を使ってください。テープとリール任意選択での外囲器入手可能性についてはMicrochip営業所で調べてください。

注: VAO変種は車載応用に対するAEC-Q100要件用に設計、製造、検査、認定されています。これらの製品は非VAO部品と違う外囲器を使うかもしれず、それらの電気的特性で追加の仕様を持ちます。

36. 外囲器図

36.1. オンライン外囲器図

最新の外囲器図については、

1. www.microchip.com/packagingへ行ってください。
2. 外囲器形式特定頁、例えばVQFNへ行ってください。
3. 最新の外囲器図を見つけるために図番号と型式を探してください。

表36-1. 図番号

ピン数	外囲器型式	図番号	型式
14	SOIC	C04-00065	SL
	TSSOP	C04-00087	ST
20	SOIC	C04-00094	SO
	SSOP	C04-00072	SS
	VQFN	C04-21380	REB
	VQFN (注)	C04-00476	2LX
24	VQFN	C04-21386	RLB
	VQFN (注)	C04-21483	U3B

注: この外囲器形式は濡れ性側面で、車載用(VAO)注文符号に対してだけ利用可能です。

36.2. 外囲器表示情報

凡例:	XX～X	お客様指定情報またはMicrochip部品番号
	Y	年符号 (暦年の最終桁)
	YY	年符号 (暦年の最後の2桁)
	WW	週符号 (1月第1週が'01'週です。)
	NNN	英数字追跡可能性符号
	e3	無光沢錫(Sn)用鉛なしJEDEC®指示子

注: 結果的に完全なMicrochip部品番号は1行で記すことができず、次の行に持ち越され、従ってお客様指定情報に利用可能な文字数を制限します。

36.2.1. 14ﾘｰﾄﾞSOIC

図36-1. 一般形

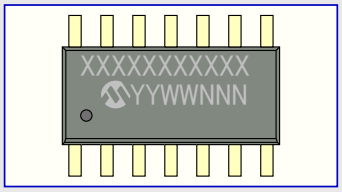
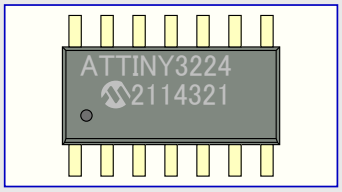


図36-2. 例



36.2.2. 14ﾘｰﾄﾞTSSOP

図36-3. 一般形

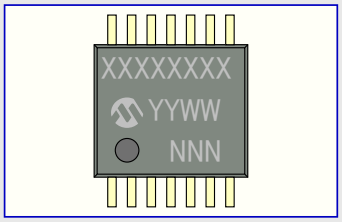
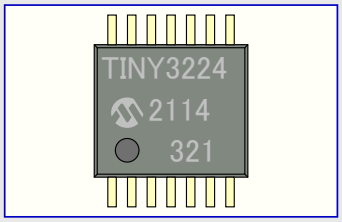


図36-4. 例



36.2.3. 20ﾘｰﾄﾞSOIC

図36-5. 一般形

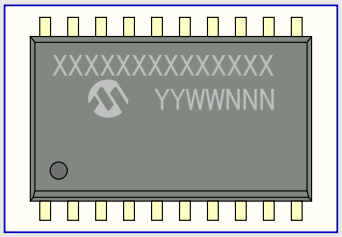
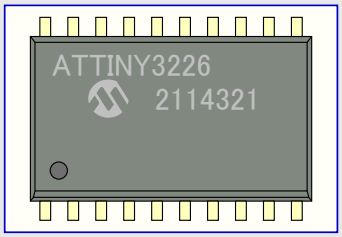


図36-6. 例



36.2.4. 20ﾘｰﾄﾞSSOP

図36-7. 一般形

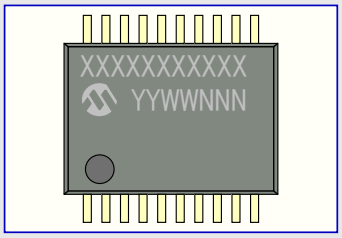
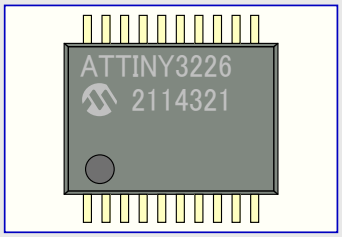


図36-8. 例



36.2.5. 20ﾊﾟｯﾄﾞVQFN

図36-9. 一般形

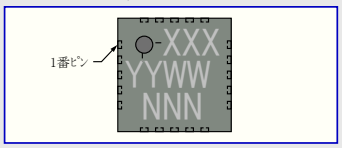
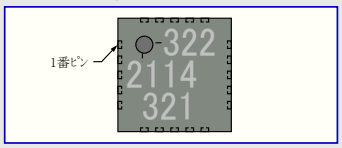


図36-10. 例



36.2.6. 20ﾊﾟｯﾄﾞVQFN濡れ性側面

図36-11. 一般形

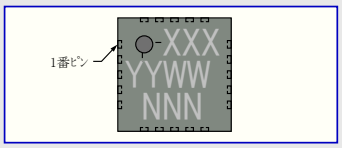
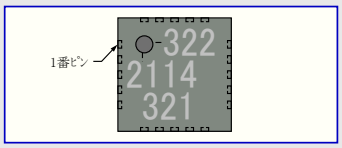


図36-12. 例



36.2.7. 24ﾊﾟｯﾄﾞVQFN

図36-13. 一般形

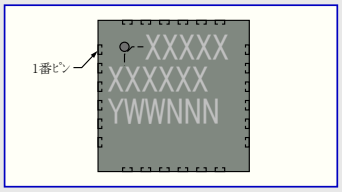
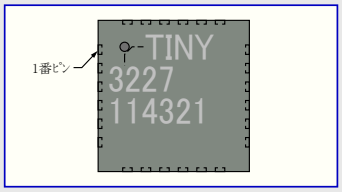


図36-14. 例



36.2.8. 24ﾊﾟｯﾄﾞVQFN濡れ性側面

図36-15. 一般形

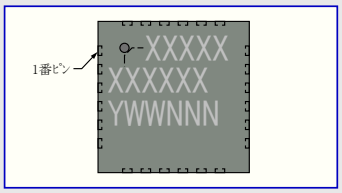
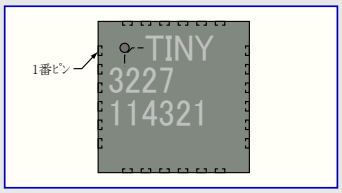


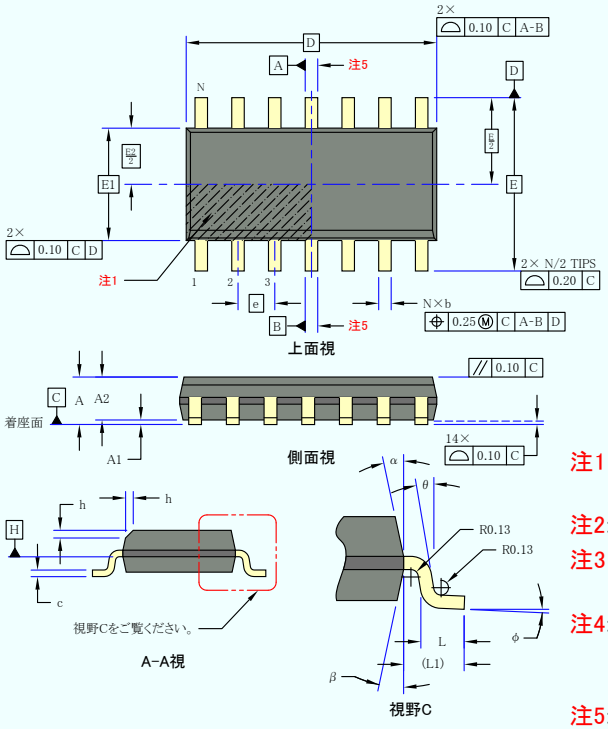
図36-16. 例

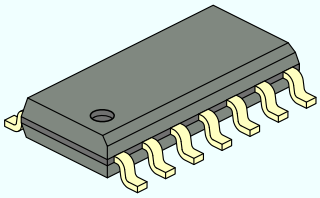


36.3. 14ﾘｰﾄﾞSOIC

14ﾘｰﾄﾞ ﾌﾟﾗｽﾃｨｯｸ小型外形(SL) – 狭幅3.90mm本体 [SOIC]

注: 最新の外囲器図についてはhttp://www.microchip.com/packagingに置かれたMicrochip外囲器仕様をご覧ください。





単位		mm		
寸法限度		最小	標準	最大
ﾋﾟﾝ数	N	14		
ﾋﾟﾝ間隔	e	1.27 BSC		
全高	A	–	–	1.75
嵩上げ §	A1	0.10	–	0.25
成形外包装厚	A2	1.25	–	–
全幅	E	6.00 BSC		
成形包装幅	E1	3.90 BSC		
全長	D	8.65 BSC		
面取り(任意選択)	h	0.25	–	0.50
足接触長	L	0.40	–	1.27
足全長	L1	1.04 REF		
ﾘｰﾄﾞ角	θ	0°	–	–
足角	φ	0°	–	8°
ﾘｰﾄﾞ幅	b	0.31	–	0.51
ﾘｰﾄﾞ厚	c	0.10	–	0.25
上抜き勾配	α	5°	–	15°
下抜き勾配	β	5°	–	15°

注1: 1番ﾋﾟﾝ視覚指標機能は変わるかもしれんませんが、斜線領域内に配置されなければなりません。

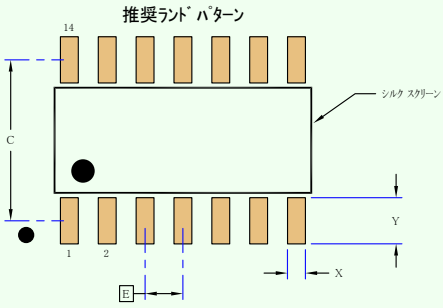
注2: § 重要特性

注3: D1とE1の寸法は成形の毛羽や突起を含みません。成形の毛羽や突起は片側に対して0.15mmを超えるべきではありません。

注4: ASME Y14.5Mによる寸法と公差
BSC：基本寸法。公差なしで示される理論的に正確な値。
REF：参照基準寸法。通常は公差なし、情報目的専用。

注5: 基準線AとBは基準線Hで決められます。

Microchip Technology作図番号C04-065-SL改訂D



単位		mm		
寸法限度		最小	標準	最大
接触子間隔	E	1.27 BSC		
接触ﾊﾟｯﾄﾞ空間	C	–	5.40	–
接触ﾊﾟｯﾄﾞ幅(×14)	X1	–	–	0.60
接触ﾊﾟｯﾄﾞ長(×14)	Y1	–	–	1.55

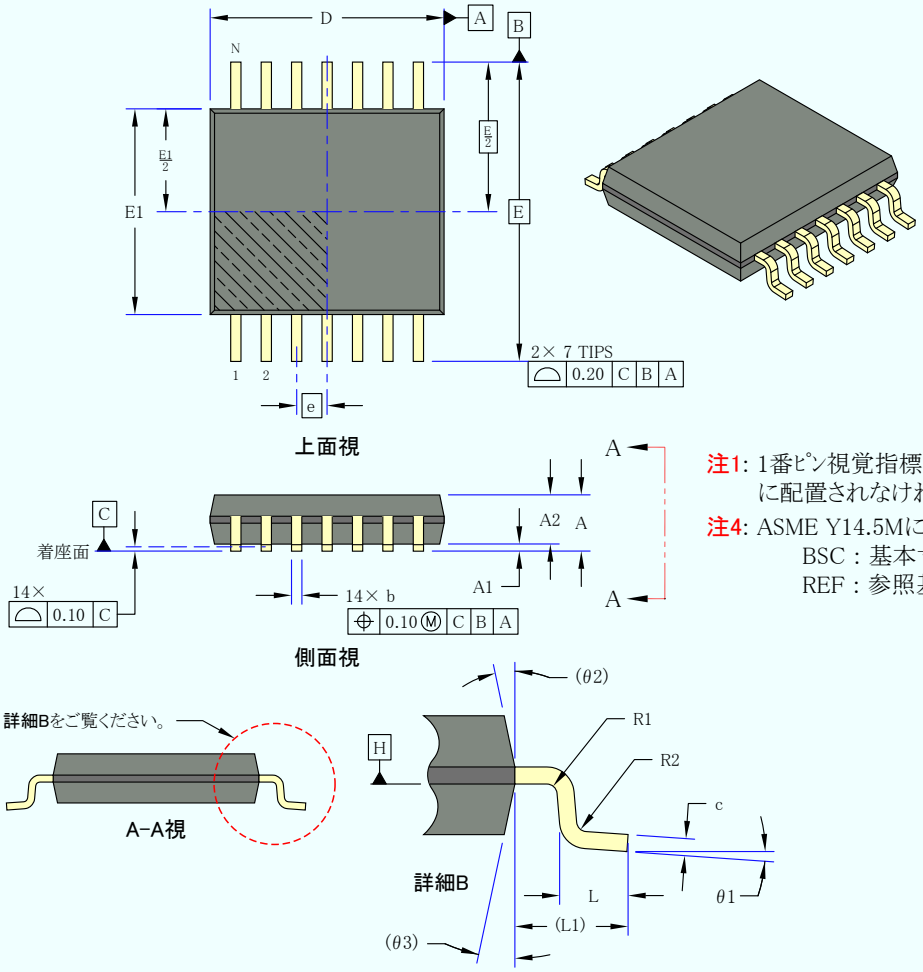
注1: ASME Y14.5Mによる寸法と公差
BSC：基本寸法。公差なしで示される理論的に正確な値。

Microchip Technology作図番号C04-2065-SL改訂D

36.4. 14ﾘｰﾄﾞTSSOP

14ﾘｰﾄﾞ 薄型縮小小型外形(ST) - 4.4mm本体 [TSSOP]

注: 最新の外囲器図についてはhttp://www.microchip.com/packagingに置かれたMicrochip外囲器仕様をご覧ください。

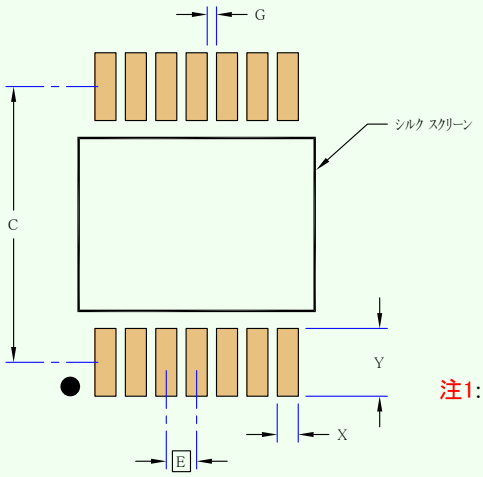


単位		mm		
寸法限度		最小	標準	最大
ﾋﾟﾝ数	N	14		
ﾋﾟﾝ間隔	e	0.65 BSC		
全高	A	-	-	1.20
嵩上げ	A1	0.05	-	0.15
成形外包装厚	A2	0.80	1.00	1.05
全長	D	4.90	5.00	5.10
全幅	E	6.40 BSC		
成形包装幅	E1	4.30	4.40	4.50
端子幅	b	0.19	-	0.30
端子厚	c	0.09	-	0.20
端子長	L	0.45	0.60	0.75
足全長	L1	1.00 REF		
ﾘｰﾄﾞ曲げ半径	R1	0.09	-	-
ﾘｰﾄﾞ曲げ半径	R2	0.09	-	-
足角度	θ1	0°	-	8°
型抜き角度	θ2	12° REF		
型抜き角度	θ3	12° REF		

注1: 1番ﾋﾟﾝ視覚指標機能は変わるかもしれんませんが、斜線領域内に配置されなければなりません。

注4: ASME Y14.5Mによる寸法と公差
BSC：基本寸法。公差なしで示される理論的に正確な値。
REF：参照基準寸法。通常は公差なし、情報目的専用。

Microchip Technology作図番号C04-087改訂F



推奨ﾗﾝﾄﾞ ﾊﾟﾀｰﾝ

単位		mm		
寸法限度		最小	標準	最大
接触子間隔	E	0.65 BSC		
接触ﾊﾟｯﾄﾞ空間	C	-	5.90	-
接触ﾊﾟｯﾄﾞ幅(×14)	X	-	-	0.45
接触ﾊﾟｯﾄﾞ長(×14)	Y	-	-	1.45
接触ﾊﾟｯﾄﾞ間(×12)	G	0.20	-	-

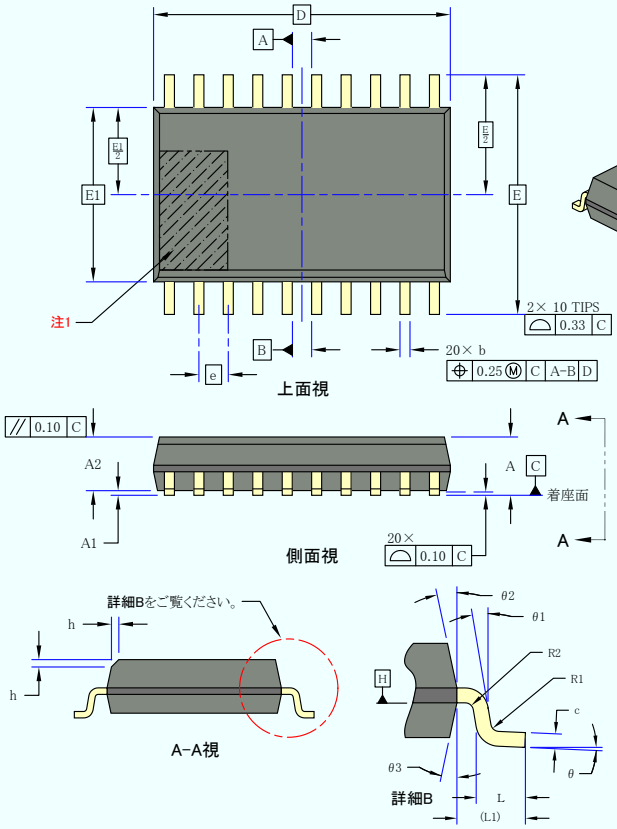
注1: ASME Y14.5Mによる寸法と公差
BSC：基本寸法。公差なしで示される理論的に正確な値。

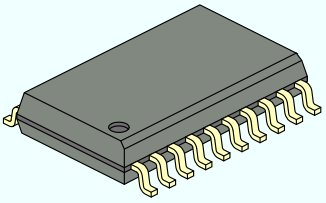
Microchip Technology作図番号C04-2087改訂F

36.5. 20ﾘｰﾄﾞSOIC

20ﾘｰﾄﾞ ﾌﾟﾗｽﾃｨｯｸ小型外形(SO) – 広幅7.50mm本体 [SOIC]

注: 最新の外囲器図についてはhttp://www.microchip.com/packagingに置かれたMicrochip外囲器仕様をご覧ください。





単位		mm		
寸法限度		最小	標準	最大
ﾋﾟﾝ数	N	20		
ﾋﾟﾝ間隔	e	1.27 BSC		
全高	A	–	–	2.65
嵩上げ §	A1	0.10	–	0.30
成形外包装厚	A2	2.05	–	–
全長	D	12.80 BSC		
全幅	E	10.30 BSC		
成形包装幅	E1	7.50 BSC		
端子幅	b	0.31	–	0.51
端子厚	c	0.25	–	0.75
角面取り	h	0.25	–	0.75
端子長	L	0.40	0.65	1.27
足全長	L1	1.40 REF		
ﾘｰﾄﾞ曲げ半径	R1	0.07	–	–
ﾘｰﾄﾞ曲げ半径	R2	0.07	–	–
足角度	θ	0°	–	8°
ﾘｰﾄﾞ角度	θ1	0°	–	–
型抜き角度	θ2	5°	–	15°
型抜き角度	θ3	5°	–	15°

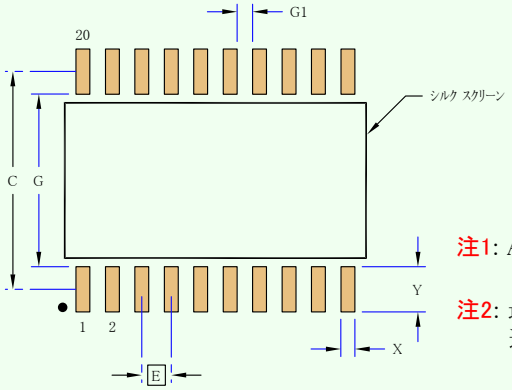
注1: 1番ﾋﾟﾝ視覚指標機能は変わるかもしれんませんが、斜線領域内に配置されなければなりません。

注2: ASME Y14.5Mによる寸法と公差
BSC：基本寸法。公差なしで示される理論的に正確な値。
REF：参照基準寸法。通常は公差なし、情報目的専用。

注3: Dの寸法は成形の毛羽、突起や煽りﾊﾞﾘを含まず、片側に対して0.15mmを超えるべきではありません。E1の寸法はﾘｰﾄﾞ相互の毛羽や突起を含まず、片側に対して0.25mmを超えるべきではありません。

注4: § 重要特性

Microchip Technology作図C04-094改訂E



推奨ﾗﾝﾄﾞ ﾊﾟﾀｰﾝ

単位		mm		
寸法限度		最小	標準	最大
接触子間隔	E	1.27 BSC		
接触ﾊﾟｯﾄﾞ空間	C	–	9.40	–
接触ﾊﾟｯﾄﾞ幅(×20)	X	–	–	0.60
接触ﾊﾟｯﾄﾞ長(×20)	Y	–	–	1.95
接触ﾊﾟｯﾄﾞ間	G	0.67	–	–
接触ﾊﾟｯﾄﾞ間(×18)	G1	7.45	–	–

注1: ASME Y14.5Mによる寸法と公差
BSC：基本寸法。公差なしで示される理論的に正確な値。

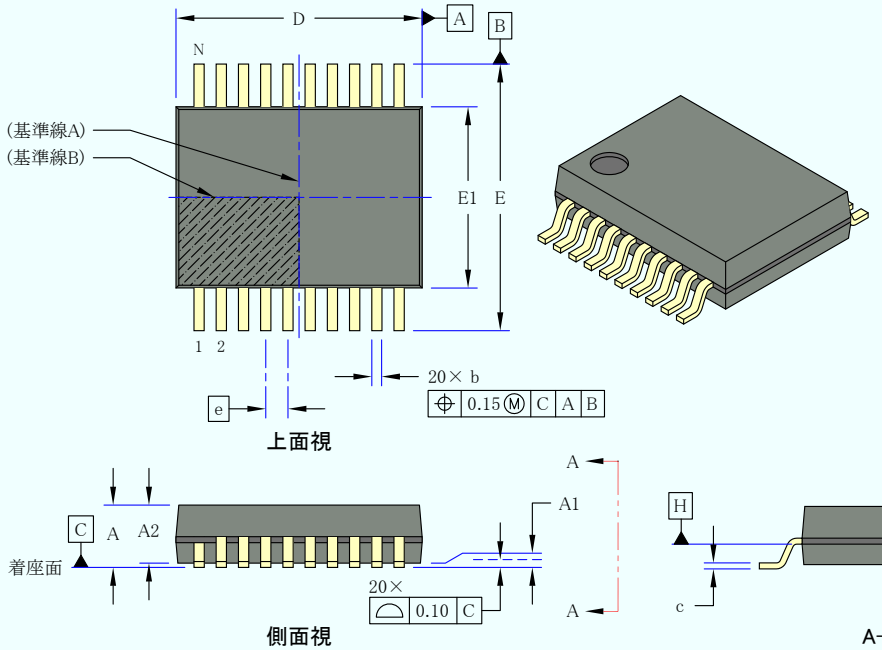
注2: 最善の半田結果に関して使われる場合に放熱ﾋﾞｱはﾘﾌﾛｰ処理中に半田欠損を避けるために満たされる、またはﾃﾝﾃｨﾝｸﾞされるべきです。

Microchip Technology作図C04-2094改訂E

36.6. 20ﾘｰﾄﾞSSOP

20ﾘｰﾄﾞ ﾌﾟﾗｽﾃｨｯｸ縮小小型外形(SS) – 5.30mm本体 [SSOP]

注: 最新の外囲器図についてはhttp://www.microchip.com/packagingに置かれたMicrochip外囲器仕様をご覧ください。



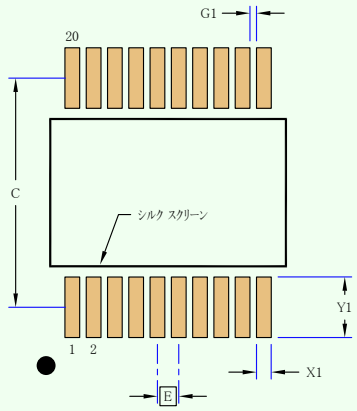
寸法限度	単位	mm 最小	標準	最大
ﾋﾟﾝ数	N	20		
ﾋﾟﾝ間隔	e	0.65 BSC		
全高	A	–	–	2.00
嵩上げ	A1	0.05	–	–
成形外包装厚	A2	1.65	1.75	1.85
全幅	E	7.40	7.80	8.20
成形包装幅	E1	5.00	5.30	5.60
全長	D	6.90	7.20	7.50
足接触長	L	0.55	0.75	0.95
足全長	L1	1.25 REF		
ﾘｰﾄﾞ厚	c	0.09	–	0.25
足角度	ϕ	0°	4°	8°
ﾘｰﾄﾞ幅	b	0.22	–	0.38

注1: 1番ﾋﾟﾝ視覚指標機能は変わるかもしれんませんが、斜線領域内に配置されなければなりません。

注2: D1とE1の寸法は成形の毛羽や突起を含みません。成形の毛羽や突起は片側に対して0.20mmを超えるべきではありません。

注3: ASME Y14.5Mによる寸法と公差
BSC：基本寸法。公差なしで示される理論的に正確な値。
REF：参照基準寸法。通常は公差なし、情報目的専用。

Microchip Technology作図C04-072改訂C



推奨ﾗﾝﾄﾞ ﾊﾟﾀｰﾝ

寸法限度	単位	mm 最小	標準	最大
接触子間隔	E	0.65 BSC		
接触ﾊﾟｯﾄﾞ空間	C	–	7.00	–
接触ﾊﾟｯﾄﾞ幅(×20)	X1	–	–	0.45
接触ﾊﾟｯﾄﾞ長(×20)	Y1	–	–	1.85
接触ﾊﾟｯﾄﾞ間(×18)	G1	0.20	–	–

注1: ASME Y14.5Mによる寸法と公差
BSC：基本寸法。公差なしで示される理論的に正確な値。

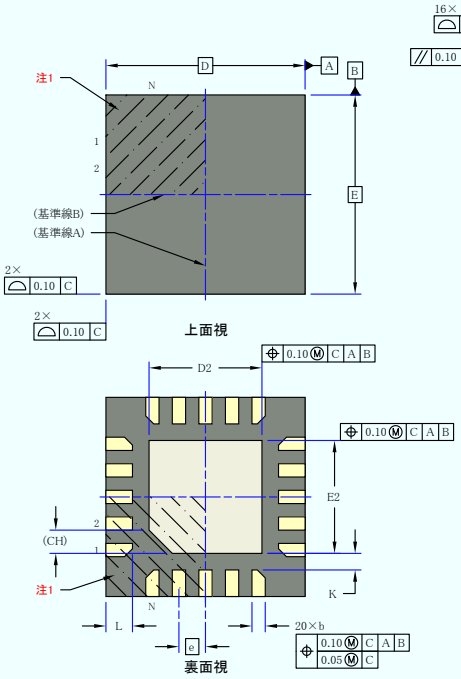
注2: 最良の半田付け結果のため、使うなら、放熱ﾋﾟｱはﾘﾌﾛｰ処理中の半田損失を避けるためにﾍﾟｰｽﾄ塗またはﾃﾝﾃｨﾝｸﾞされるべきです。

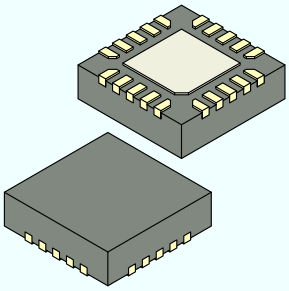
Microchip Technology作図番号C04-2072改訂C

36.7. 20ﾊﾟｯﾄﾞVQFN

20ﾊﾟｯﾄﾞ極薄ﾌﾟﾗｽﾃｨｯｸ4方向平板ﾘｰﾄﾞなし外囲器(REB) – 3×3mm本体 [VQFN] 1.7mm露出ﾊﾟｯﾄﾞ付き (Atmel伝承全般外囲器符号ZCJ)

注: 最新の外囲器図についてはhttp://www.microchip.com/packagingに置かれたMicrochip外囲器仕様をご覧ください。





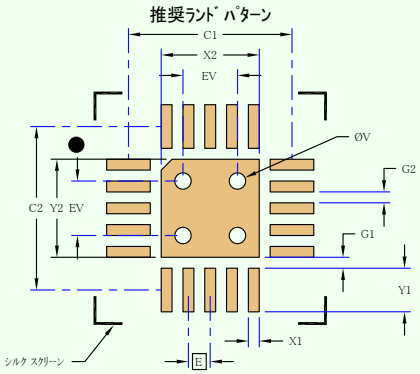
単位		mm		
寸法限度		最小	標準	最大
ﾋﾟﾝ数	N	20		
ﾋﾟﾝ間隔	e	0.40 BSC		
全高	A	0.80	0.85	0.90
嵩上げ §	A1	0.00	0.035	0.05
成形外包装厚	A3	0.203 REF		
全長	D	3.00 BSC		
露出ﾊﾟｯﾄﾞ長	D2	1.60	1.70	1.80
全幅	E	3.00 BSC		
露出ﾊﾟｯﾄﾞ幅	E2	1.60	1.70	1.80
端子幅	b	0.15	0.20	0.25
端子長	L	0.35	0.40	0.45
端子～露出ﾊﾟｯﾄﾞ間	K	0.20	–	–
1番ﾋﾟﾝ指標面取り	CH	0.35 REF		

注1: 1番ﾋﾟﾝ視覚指標機能は変わるかもしれんませんが、斜線領域内に配置されなければなりません。

注2: 外囲器は切断分離されています。

注3: ASME Y14.5Mによる寸法と公差
BSC：基本寸法。公差なしで示される理論的に正確な値。
REF：参照基準寸法。通常は公差なし、情報目的専用。

Microchip Technology作図C04-21380改訂A



単位		mm		
寸法限度		最小	標準	最大
接触子間隔	E	0.40 BSC		
任意選択中央ﾊﾟｯﾄﾞ幅	X2	–	–	1.80
任意選択中央ﾊﾟｯﾄﾞ長	Y2	–	–	1.80
接触ﾊﾟｯﾄﾞ間隔	C1	–	3.00	–
接触ﾊﾟｯﾄﾞ間隔	C2	–	3.00	–
接触ﾊﾟｯﾄﾞ幅(×20)	X1	–	–	0.20
接触ﾊﾟｯﾄﾞ長(×16)	Y1	–	–	0.80
接触ﾊﾟｯﾄﾞ～中央ﾊﾟｯﾄﾞ(×20)	G1	0.20	–	–
接触ﾊﾟｯﾄﾞ～接触ﾊﾟｯﾄﾞ(×16)	G2	0.20	–	–
放熱ﾋﾞｱ直径	ØV	–	0.30	–
放熱ﾋﾞｱ間隔	EV	–	1.00	–

注1: ASME Y14.5Mによる寸法と公差
BSC：基本寸法。公差なしで示される理論的に正確な値。

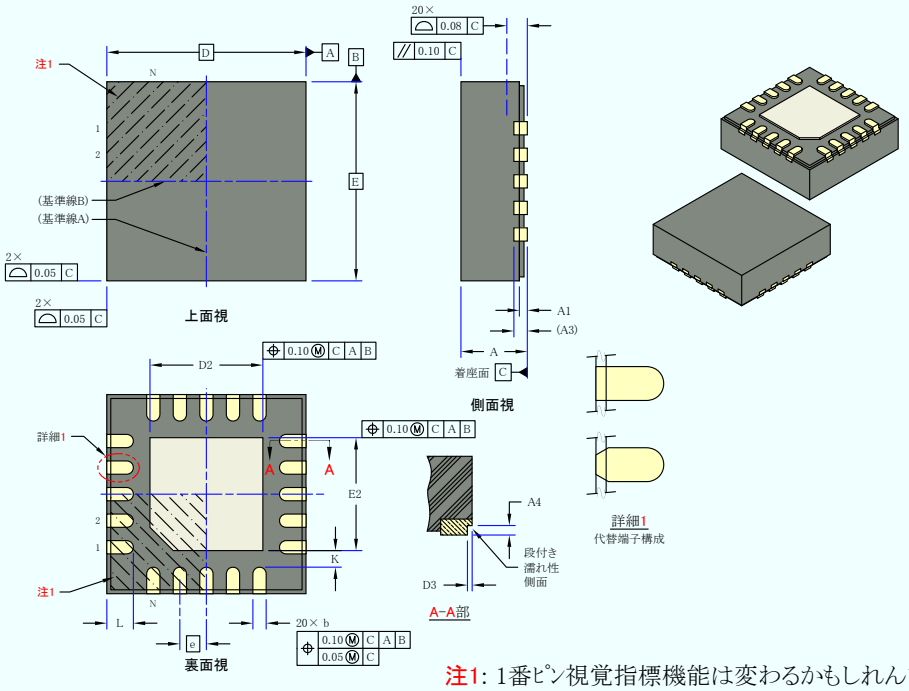
注2: 最善の半田結果に関して使われる場合に放熱ﾋﾞｱはﾘﾌﾛｰ処理中に半田欠損を避けるために満たされる、またはﾃﾝﾃｨﾝｸﾞされるべきです。

Microchip Technology作図C04-23380改訂A

36.8. 20ﾊﾟｯﾄﾞVQFN 濡れ性側面

20ﾊﾟｯﾄﾞ極薄ﾌﾟﾗｽﾃｨｯｸ4方向平板ﾘｰﾄﾞなし外囲器(2LX) – 3×3mm本体 [VQFN] 1.7mm露出ﾊﾟｯﾄﾞと段付き濡れ性側面付き

注: 最新の外囲器図についてはhttp://www.microchip.com/packagingに置かれたMicrochip外囲器仕様をご覧ください。



	単位	mm		
	寸法限度	最小	標準	最大
端子数	N	20		
ﾘｰﾄﾞ間隔	e	0.40 BSC		
全高	A	0.80	0.90	1.00
嵩上げ	A1	0.00	0.02	0.05
端子厚	A3	0.203 REF		
全長	D	3.00 BSC		
露出ﾊﾟｯﾄﾞ長	D2	1.60	1.70	1.80
全幅	E	3.00 BSC		
露出ﾊﾟｯﾄﾞ幅	E2	1.00	1.70	1.80
端子幅	b	0.15	0.20	0.25
端子長	L	0.35	0.40	0.45
端子から露出ﾊﾟｯﾄﾞ	K	0.20	–	–
濡れ性側面段長	D3	–	–	0.085
濡れ性側面段高	A4	0.10	–	0.19

上のD3とA4の寸法は11月1日後に発売された全ての新製品と2019年1月1日後に出荷された全ての製品に適用し、下のD3とA4の寸法に取って代わります。

どの外囲器に対しても物理的な変更は行われず、この更新は既存供給者での概観と公差の変種を整合するためです。

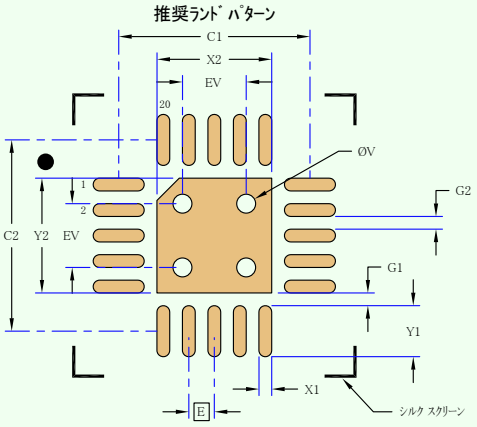
濡れ性側面段長	D3	0.035	0.06	0.085
濡れ性側面段高	A4	0.10	–	0.19

注1: 1番ﾋﾟﾝ視覚指標機能は変わるかもしれんませんが、斜線領域内に配置されなければなりません。

注2: 外囲器は切断分離されています。

注3: ASME Y14.5Mによる寸法と公差
BSC：基本寸法。公差なしで示される理論的に正確な値。
REF：参照基準寸法。通常は公差なし、情報目的専用。

Microchip Technology作図C04-476-2LX改訂C



	単位	mm		
	寸法限度	最小	標準	最大
接触子間隔	E	0.40 BSC		
任意選択中央ﾊﾟｯﾄﾞ幅	X2	–	–	1.80
任意選択中央ﾊﾟｯﾄﾞ長	Y2	–	–	1.80
接触ﾊﾟｯﾄﾞ間隔	C1	–	3.00	–
接触ﾊﾟｯﾄﾞ間隔	C2	–	3.00	–
接触ﾊﾟｯﾄﾞ幅(×20)	X1	–	–	0.20
接触ﾊﾟｯﾄﾞ長(×16)	Y1	–	–	0.80
接触ﾊﾟｯﾄﾞ～中央ﾊﾟｯﾄﾞ(×20)	G1	0.20	–	–
接触ﾊﾟｯﾄﾞ～接触ﾊﾟｯﾄﾞ(×16)	G2	0.20	–	–
放熱ﾋﾞｱ直径	ØV	–	0.30	–
放熱ﾋﾞｱ間隔	EV	–	1.00	–

注1: ASME Y14.5Mによる寸法と公差
BSC：基本寸法。公差なしで示される理論的に正確な値。

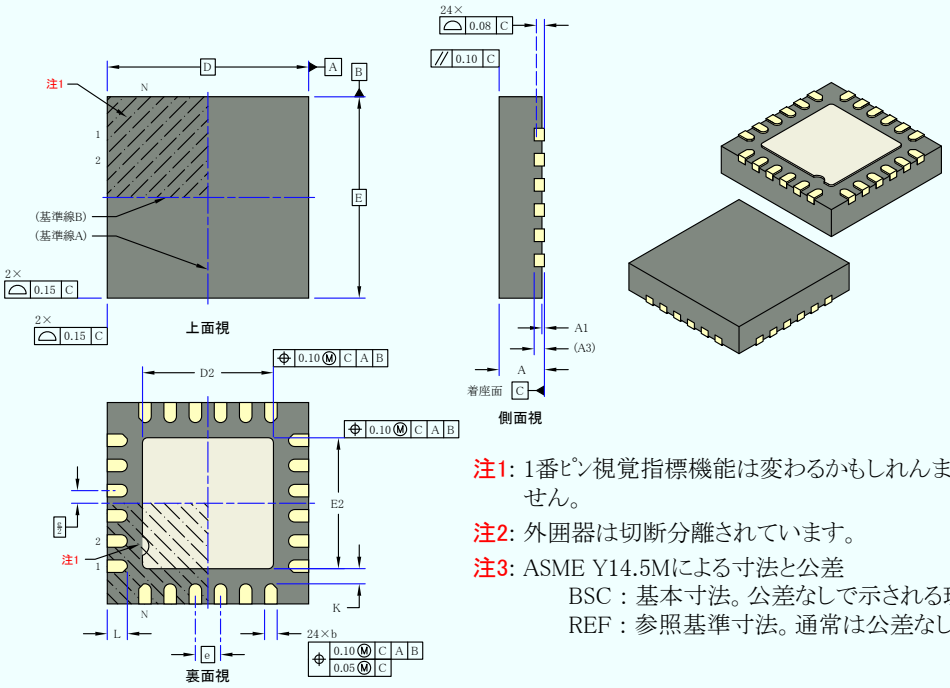
注2: 最善の半田結果に関して使われる場合に放熱ﾋﾞｱはﾘﾌﾛｰ処理中に半田欠損を避けるために満たされる、またはﾃﾝﾃｨﾝｸﾞされるべきです。

Microchip Technology作図C04-2476-2LX改訂C

36.9. 24ﾊﾟｯﾄﾞVQFN

24ﾊﾟｯﾄﾞ極薄ﾌﾟﾗｽﾃｨｯｸ4方向平板ﾘｰﾄﾞなし外囲器(RLB) – 4×4mm本体 [VQFN] (Atmel伝承全般外囲器符号ZHA)

注: 最新の外囲器図についてはhttp://www.microchip.com/packagingに置かれたMicrochip外囲器仕様をご覧ください。



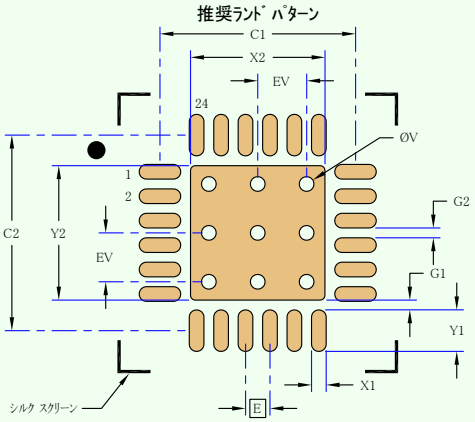
単位		mm		
寸法限度		最小	標準	最大
ﾋﾟﾝ数	N	24		
ﾋﾟﾝ間隔	e	0.50 BSC		
全高	A	0.80	0.85	0.90
嵩上げ §	A1	0.00	–	0.05
成形外包装厚	A3	0.203 REF		
全長	D	4.00 BSC		
露出ﾊﾟｯﾄﾞ長	D2	2.45	2.60	2.75
全幅	E	4.00 BSC		
露出ﾊﾟｯﾄﾞ幅	E2	2.45	2.60	2.75
端子幅	b	0.18	0.25	0.30
端子長	L	0.35	0.40	0.45
端子～露出ﾊﾟｯﾄﾞ間	K	0.20	–	–

注1: 1番ﾋﾟﾝ視覚指標機能は変わるかもしれんませんが、斜線領域内に配置されなければなりません。

注2: 外囲器は切断分離されています。

注3: ASME Y14.5Mによる寸法と公差
BSC：基本寸法。公差なしで示される理論的に正確な値。
REF：参照基準寸法。通常は公差なし、情報目的専用。

Microchip Technology作図C04-21386改訂A



単位		mm		
寸法限度		最小	標準	最大
接触子間隔	E	0.50 BSC		
任意選択中央ﾊﾟｯﾄﾞ幅	X2	–	–	2.75
任意選択中央ﾊﾟｯﾄﾞ長	Y2	–	–	2.75
接触ﾊﾟｯﾄﾞ間隔	C1	–	4.00	–
接触ﾊﾟｯﾄﾞ間隔	C2	–	4.00	–
接触ﾊﾟｯﾄﾞ幅(×20)	X1	–	–	0.30
接触ﾊﾟｯﾄﾞ長(×16)	Y1	–	–	0.85
接触ﾊﾟｯﾄﾞ～中央ﾊﾟｯﾄﾞ(×20)	G1	0.20	–	–
接触ﾊﾟｯﾄﾞ～接触ﾊﾟｯﾄﾞ(×16)	G2	0.20	–	–
放熱ﾋﾞｱ直径	ØV	–	0.30	–
放熱ﾋﾞｱ間隔	EV	–	1.00	–

注1: ASME Y14.5Mによる寸法と公差
BSC：基本寸法。公差なしで示される理論的に正確な値。

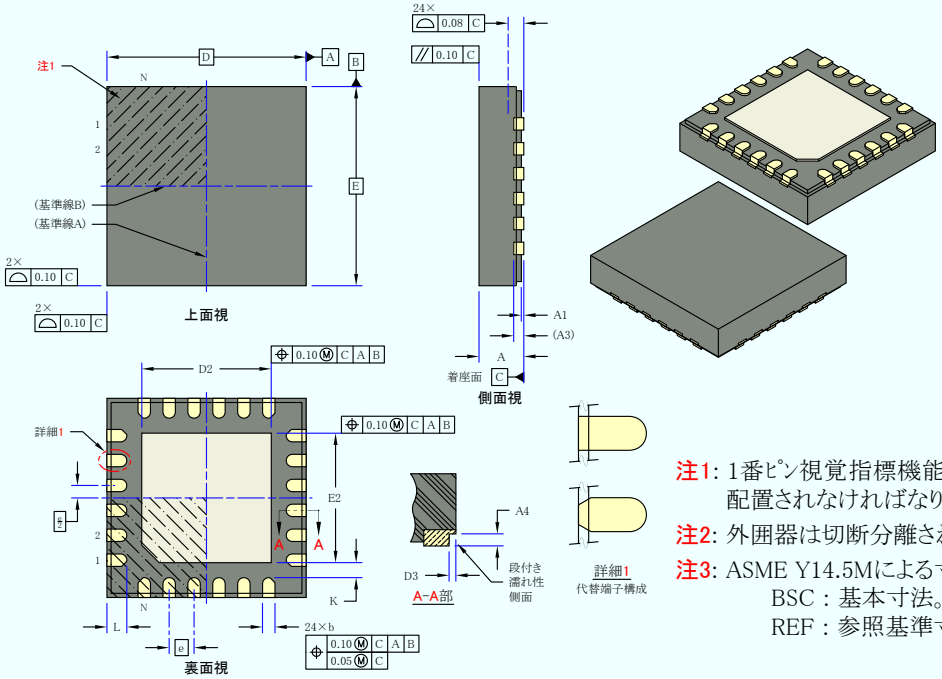
注2: 最善の半田結果に関して使われる場合に放熱ﾋﾞｱはﾘﾌﾛｰ処理中に半田欠損を避けるために満たされる、またはﾃﾝﾃｨﾝｸﾞされるべきです。

Microchip Technology作図C04-23386改訂A

36.10. 24ﾊﾟｯﾄﾞVQFN 濡れ性側面

24ﾊﾟｯﾄﾞ極薄ﾌﾟﾗｽﾃｨｯｸ4方向平板ﾘｰﾄﾞなし外囲器(RLB) – 4×4mm本体 [VQFN] (Atmel伝承全般外囲器符号ZHA)

注: 最新の外囲器図についてはhttp://www.microchip.com/packagingに置かれたMicrochip外囲器仕様をご覧ください。



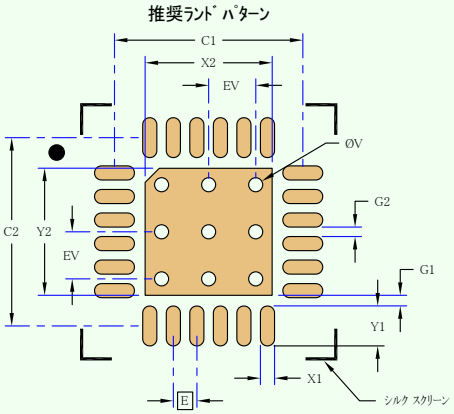
単位		mm		
寸法限度		最小	標準	最大
端子数	N	24		
ﾘｰﾄﾞ間隔	e	0.50 BSC		
全高	A	0.80	0.85	0.90
嵩上げ	A1	0.00	0.035	0.05
端子厚	A3	0.203 REF		
全長	D	4.00 BSC		
露出ﾊﾟｯﾄﾞ長	D2	2.50	2.60	2.70
全幅	E	4.00 BSC		
露出ﾊﾟｯﾄﾞ幅	E2	2.50	2.60	2.70
端子幅	b	0.20	0.25	0.30
端子長	L	0.35	0.40	0.45
端子から露出ﾊﾟｯﾄﾞ	K	0.20	–	–
濡れ性側面段長	D3	–	–	0.085
濡れ性側面段高	A4	0.10	–	0.19

注1: 1番ﾋﾟﾝ視覚指標機能は変わるかもしれんませんが、斜線領域内に配置されなければなりません。

注2: 外囲器は切断分離されています。

注3: ASME Y14.5Mによる寸法と公差
BSC：基本寸法。公差なしで示される理論的に正確な値。
REF：参照基準寸法。通常は公差なし、情報目的専用。

Microchip Technology作図C04-21483改訂A



単位		mm		
寸法限度		最小	標準	最大
接触子間隔	E	0.50 BSC		
任意選択中央ﾊﾟｯﾄﾞ幅	X2	–	–	2.70
任意選択中央ﾊﾟｯﾄﾞ長	Y2	–	–	2.70
接触ﾊﾟｯﾄﾞ間隔	C1	–	4.00	–
接触ﾊﾟｯﾄﾞ間隔	C2	–	4.00	–
接触ﾊﾟｯﾄﾞ幅(×20)	X1	–	–	0.30
接触ﾊﾟｯﾄﾞ長(×16)	Y1	–	–	0.85
接触ﾊﾟｯﾄﾞ～中央ﾊﾟｯﾄﾞ(×20)	G1	0.23	–	–
接触ﾊﾟｯﾄﾞ～接触ﾊﾟｯﾄﾞ(×16)	G2	0.20	–	–
放熱ﾋﾞｱ直径	ØV	–	0.30	–
放熱ﾋﾞｱ間隔	EV	–	1.00	–

注1: ASME Y14.5Mによる寸法と公差
BSC：基本寸法。公差なしで示される理論的に正確な値。

注2: 最善の半田結果に関して使われる場合に放熱ﾋﾞｱはﾘﾌﾛｰ処理中に半田欠損を避けるために満たされる、またはﾃﾝﾃｨﾝｸﾞされるべきです。

Microchip Technology作図C04-23483改訂A

37. 障害情報

障害情報はATtiny3224/3226/3227ｼﾘｺﾝ障害とﾃﾞｰﾀｼｰﾄ説明(www.microchip.com/DS40002342)で見つけることができます。
(訳注) 本書では上記文書の内容も含みます。

37.1. ｼﾘｺﾝ問題要約

凡例

- 障害は適用されません。
× 障害が適用されます。

周辺機能	簡単な説明	ｼﾘｺﾝ改訂の有効性				
	改訂	A				
ﾃﾞﾊﾞｲｽ	37.2.1. IDDﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝ消費電流	×				
	37.2.2. 校正値の自動設定を妨げるFUSE.OSCCFGのOSCLOCKﾋｭｰｽﾞの'1'書き込み	×				
	37.2.3. 特定ｱﾄﾞﾚｽ空間への連続書き込みの場合に失われる書き込み操作	×				
ADC	37.3.1. ADC構成設定変更前に設定しなければならない低遅延動作	×				
	37.3.2. 低遅延動作以外で動かないPGA初期化遅延	×				
	37.3.3. 低遅延動作と自由走行動作に対して休止動作で活動に留まるADC	×				
CCL	37.4.1. 単一LUT構成変更にCCLの禁止が必要	×				
CRCSCAN	37.5.1. 機能しないﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘの一部でのCRC走査実行	×				
NVMCTRL	37.6.1. NVMCTRL.CTRLAﾚｼﾞｽﾀの不正なﾘｾｯﾄ値	×				
TCA	37.7.1. NORMALとFRQの動作で計数方向をﾘｾｯﾄする再始動	×				
TCB	37.8.1. 8ﾋﾞｯﾄPWM動作で16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀとして機能するCCMPとCNTのﾚｼﾞｽﾀ	×				
USART	37.9.1. 活動動作で意図せず許可され得るﾌﾚｰﾑ開始検出	×				
	37.9.2. 矛盾する同期領域検出後に機能しない受信部	×				

37.2. デバイス

37.2.1. IDDパワーダウン消費電流

(2020年第45週に製造された)日付符号2045またはより古いものについて、IDDパワーダウン漏れは1.5µAの目標最大値を超える可能性があります。

対策/対処:

ありません。

影響を及ぼされるシリコン改訂

改訂	A																									
影響	×																									

37.2.2. 校正値の自動設定を妨げるFUSE.OSCCFGのOSCLOCKヒューズの'1'書き込み

発振器構成設定(FUSE.OSCCFG)の発振器施錠(OSCLOCK)ヒューズの'1'書き込みは識票列からの自動校正値設定を妨げます。デバイスは未校正のOSC20M発振器で動きます。

対策/対処:

発振器校正値を施錠するのにOSCLOCKを使わないでください。発振器校正値はOSC20M発振器が主クロック元として使われる時に主クロック施錠(CLKCTRL.MCLKLOCK)の施錠許可(LOCKEN)に'1'を書くことによって施錠することができます。

影響を及ぼされるシリコン改訂

改訂	A																									
影響	×																									

37.2.3. 特定アドレス空間への連続書き込みの場合に失われる書き込み操作

アドレス≧64へのST/STD/STS命令に続く、アドレス<64へのST/STD命令または休止制御器の制御A(SLPCTRL.CTRLA)レジスタへの書き込みのどちらでも最後の書き込みを失います。

対策/対処:

書き込み操作の消失を避けるため、アドレス空間に応じて以下の対策の1つを使ってください。

- アドレス<64への書き込み前にNOP命令を挿入するか、またはST/STDの代わりにOUT命令を使ってください。
- SLPCTRL.CTRLAレジスタへの書き込み前にNOP命令を挿入してください。

影響を及ぼされるシリコン改訂

改訂	A																									
影響	×																									

37.3. ADC - A/D変換器

37.3.1. ADC構成設定変更前に設定しなければならない低遅延動作

ADCで低遅延動作を使う場合、制御A(ADCn.CTRLA)レジスタの低遅延(LOWLAT)ビットの前に構成設定した初期化遅延は開始しません。これは初期化時間が終わる前の変換開始になるかもしれず、不正な結果を与えます。

対策/対処:

ADCの他のどのレジスタをも構成設定する前にADC初期化の初めで制御A(ADCn.CTRLA)レジスタの低遅延(LOWLAT)ビットを許可してください。

影響を及ぼされるシリコン改訂

改訂	A																									
影響	×																									

37.3.2. 低遅延動作以外で動かないPGA初期化遅延

PGAに対する初期化遅延は低遅延(LOWLAT)ビットが'0'の時に始まりません。これはPGAが最も遅い初期化時間を持つ単位部の時に不正な変換を引き起こすかもしれません。内部参照基準使用時、これはより遅い初期化時間のため、問題になりません。

対策/対処:

制御A(CTRLA)レジスタの低遅延(LOWLAT)ビットを'1'に設定することによってADCを低遅延動作に設定してください。

影響を及ぼされるシリコン改訂

改訂	A																									
影響	×																									

37.3.3. 低遅延動作と自由走行動作に対して休止動作で活動に留まるADC

低遅延(制御A(ADCn.CTRLA)のLOWLAT)ﾋﾞｯﾄが'1'の場合、ADCはﾃﾞﾊﾞｲｽがﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝまたはｽﾀﾝﾊﾞｲの休止動作へ移行する時に活動に留まります。自由走行(制御F(ADCn.CTRLF)のFREERUN)ﾋﾞｯﾄが'1'の場合、ADCは例えｽﾀﾝﾊﾞｲ時走行(ADCn.CTRLAのRUNSTDBY)ﾋﾞｯﾄが'0'でもｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作で動作し続けます。両方の場合で、ﾃﾞﾊﾞｲｽがﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝまたはｽﾀﾝﾊﾞｲの休止動作へ移行すると、割り込みが起動しません。

対策/対処:

ありません。

影響を及ぼされるｼﾘｺﾝ改訂

改訂	A																									
影響	×																									

37.4. CCL – 構成設定可能な注文論理回路

37.4.1. 単一LUT構成変更にCCLの禁止が必要

LUTを再構成設定するには最初にCCL周辺機能が禁止(制御A(CCL.CTRLA)ﾚｼﾞｽﾀの許可(ENABLE)に'0'書き込み)されなければなりません。ENABLEへの'0'書き込みは全てのLUTを禁止し、再構成設定下でないLUTに影響を及ぼします。

対策/対処:

ありません。

影響を及ぼされるｼﾘｺﾝ改訂

改訂	A																									
影響	×																									

37.5. CRCSCAN – 巡回冗長検査ﾒﾓﾘ走査

37.5.1. 機能しないﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘの一部でのCRC走査実行

- ﾌﾞｰﾄの大きさ(FUSE.BOOTSIZE)が$00以外の場合、ﾌﾞｰﾄ領域でのCRC走査実行は動きません。
- ｺｰﾄﾞの大きさ(FUSE.CODESIZE)が$00以外の場合、ﾌﾞｰﾄ領域と応用領域でのCRC走査実行は動きません。
- ﾌﾗｯｼｭ ﾒﾓﾘ全体でのCRC走査実行は動きます。

対策/対処:

ありません。

影響を及ぼされるｼﾘｺﾝ改訂

改訂	A																									
影響	×																									

37.6. NVMCTRL – 不揮発性ﾒﾓﾘ制御器

37.6.1. NVMCTRL.CTRLAﾚｼﾞｽﾀの不正なﾘｾｯﾄ値

或る場合に制御A(NVMCTRL.CTRLA)のﾘｾｯﾄ値が'$00'でありません。予約ﾋﾞｯﾄでさえﾘｾｯﾄ後に'1'として読むことが有り得ます。

対策/対処:

初期値を無視してください。

影響を及ぼされるｼﾘｺﾝ改訂

改訂	A																									
影響	×																									

37.7. TCA – 16ﾋﾞｯﾄ ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀA型

37.7.1. NORMALとFRQの動作で計数方向をﾘｾｯﾄする再始動

TCAが標準(NORMAL)または周波数(FRQ)の動作(制御B(TCAn.CTRLB)の波形生成動作(WGMODE)が'000'または'001')に構成設定されると、強制再始動(RESTART)指令や再始動事象は方向を既定にﾘｾｯﾄします。既定は上昇計数です。

対策/対処:

ありません。

影響を及ぼされるｼﾘｺﾝ改訂

改訂	A																									
影響	×																									

37.8. TCB – 16ﾋﾞｯﾄ ﾀｲﾏ/ｶｳﾝﾀB型

37.8.1. 8ﾋﾞｯﾄPWM動作で16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀとして機能するCCMPとCNTのﾚｼﾞｽﾀ

TCBが8ﾋﾞｯﾄPWM動作(制御B(TCBn.CTRLB)の計時器動作(CNTMODE)が'111')で動く時に、計数(CNT)と比較/捕獲(CCMP)のﾚｼﾞｽﾀに対する下位と上位のﾊﾞｲﾄは読み書きに関して16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀとして機能します。これらは独立して読み書きすることができません。

対策/対処:

16ﾋﾞｯﾄ ﾚｼﾞｽﾀ ｱｸｾｽを使ってください。更なる情報についてはﾃﾞｰﾀｼｰﾄを参照してください。

影響を及ぼされるｼﾘｺﾝ改訂

改訂	E																									
影響	×																									

37.9. USART – 万能同期/非同期送受信器

37.9.1. 活動動作で意図せず許可され得るﾌﾚｰﾑ開始検出

ﾌﾚｰﾑ開始検出機能はﾃﾞｰﾀ受信でｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作から起こすためにUSARTを許可します。ﾌﾚｰﾑ開始検出器はﾃﾞﾊﾞｲｽが活動動作で制御B(USARTn.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀのﾌﾚｰﾑ開始検出許可(SFDEN)ﾋﾞｯﾄが設定(1)される時に意図せず起動され得ます。新しいﾃﾞｰﾀを受信している間に受信ﾃﾞｰﾀ(RXDATA)ﾚｼﾞｽﾀが読まれる場合、状態(USARTn.STATUS)ﾚｼﾞｽﾀの受信完了割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(RXCIF)が解除(0)されます。これはﾌﾚｰﾑ開始検出器を起動して後続する下降端を誤って開始ﾋﾞｯﾄとして検出します。ﾌﾚｰﾑ開始検出器が開始条件を検出すると、ﾌﾚｰﾑ受信が再始動され、不正な受信ﾃﾞｰﾀに帰着します。活動動作時にUSART受信開始割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(RXSIF)は常に'0'であることに注意してください。割り込みは起動されません。

対策/対処:

ﾃﾞﾊﾞｲｽが活動動作の時はUSART制御B(USARTn.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀのﾌﾚｰﾑ開始検出許可(SFDEN)ﾋﾞｯﾄに'0'を書くことによってﾌﾚｰﾑ開始検出器を禁止してください。ｽﾀﾝﾊﾞｲ休止動作へ遷移する前にこのﾋﾞｯﾄに'1'を書くことによって再びそれを許可してください。この対策はﾌﾚｰﾑ開始検出を再許可する時に新しくやって来るﾌﾚｰﾑを防ぐ規約に依存します。新しいﾌﾚｰﾑが既にやって来ている間でのﾌﾚｰﾑ開始検出再許可は不正な受信ﾃﾞｰﾀに帰着します。

影響を及ぼされるｼﾘｺﾝ改訂

改訂	A																									
影響	×																									

37.9.2. 矛盾する同期領域検出後に機能しない受信部

USART受信部は状態(USARTn.STATUS)ﾚｼﾞｽﾀで矛盾同期領域割り込み要求ﾌﾗｸﾞ(ISFIF)が設定(1)されると、機能しなくなります。

ISFIF割り込み要求ﾌﾗｸﾞは制御B(USARTn.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの受信動作(RXMODE)ﾋﾞｯﾄ領域が標準自動ﾎﾞｰﾚｰﾄ動作(GENAUTO)またはLIN制限自動ﾎﾞｰﾚｰﾄ動作(LINAUTO)に構成設定され、受信した同期ﾌﾚｰﾑがﾃﾞｰﾀｼｰﾄで記述されたような条件に準拠していない時に設定(1)されます。このﾌﾗｸﾞの解除'0'はUSART受信部を再許可しません。

対策/対処:

ISFIF割り込み要求ﾌﾗｸﾞが設定'1'された時は制御B(USARTn.CTRLB)ﾚｼﾞｽﾀの受信許可(RXEN)ﾋﾞｯﾄへ最初に'0'その後に'1'を書くことによってUSART受信部を禁止して再許可してください。

影響を及ぼされるｼﾘｺﾝ改訂

改訂	A																									
影響	×																									

38. データシート改訂履歴

注: データシートの改訂はダイ改訂とデバイス変種(注文番号の最後の文字)と無関係です。

38.1. 改訂A - 2021年9月

章	変更
文書	暫定データシートの初版公開

38.2. 改訂B - 2021年12月

章	変更
文書全体	・データシート状況を"完全"に変更:「代表特性」拡充 ・文書全体を通して編集上の更新
CPUINT	情報追加: フラッシュ メモリ全体がBOOT領域として構成設定される時にCTRLAレジスタのIVSELビットは無視されます。
PORT	ポート制御(PORTCTRL)レジスタのスリューレート制限許可(SLR)ビット追加 (訳注:既に存在)
USART	事象制御(EVCTRL)レジスタのIrDA事象入力許可(IREI)ビットの記述を修正
TWI	CTRLA.SDASETUPは従装置動作で最小準備時間を保証するためのクロック保持時間選択に使われます。
ADC	PGA初期化時間は20µsです。
電気的特性	・表33-5.: 代表値変更と最小/最大の値を追加 ・表33-6.: 完成 ・表33-7.: ADC更新 ・表33-12.: 注を追加 ・表33-13.: 注を追加 ・表33-22.: シンボル列更新 ・表33-23.:値一式を減少と更新 ・ADCの表33-26.: 値更新 ・ADCの表33-27.: 値更新 ・ADCの表33-28.: 値更新 ・TEMPSENSEの表33-29.: 精度値更新 ・33-18. AC: 全ての表で代表値追加と最小/最大の値を追加
代表特性	図を追加

Microchipｳｪﾌﾞ ｻｲﾄ

Microchipはwww.microchip.com/で当社のｳｪﾌﾞ ｻｲﾄ経由でのｵﾝﾗｲﾝ支援を提供します。このｳｪﾌﾞ ｻｲﾄはお客様がﾌｧｲﾙや情報を容易に利用可能にするのに使われます。利用可能な情報のいくつかは以下を含みます。

- **製品支援** – ﾃﾞｰﾀｼｰﾄと障害情報、応用記述と試供ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ、設計資源、使用者の手引きとﾊｰﾄﾞｳｪｱ支援資料、最新ｿﾌﾄｳｪｱ配布と保管されたｿﾌﾄｳｪｱ
- **全般的な技術支援** – 良くある質問(FAQ)、技術支援要求、ｵﾝﾗｲﾝ検討ｸﾞﾙｰﾌﾟ、Microchip設計協力課程会員一覧
- **Microchipの事業** – 製品選択器と注文の手引き、最新Microchip報道発表、ｾﾐﾅｰとｲﾍﾞﾝﾄの一覧、Microchip営業所の一覧、代理店と代表する工場

製品変更通知ｻｰﾋﾞｽ

Microchipの製品変更通知ｻｰﾋﾞｽはMicrochip製品を最新に保つのに役立ちます。加入者は指定した製品系統や興味のある開発ﾂｰﾙに関連する変更、更新、改訂、障害情報がある場合に必ず電子ﾒｰﾙ通知を受け取ります。

登録するにはwww.microchip.com/pcnへ行って登録指示に従ってください。

お客様支援

Microchip製品の使用者は以下のいくつかのﾁｬﾈﾙを通して支援を受け取ることができます。

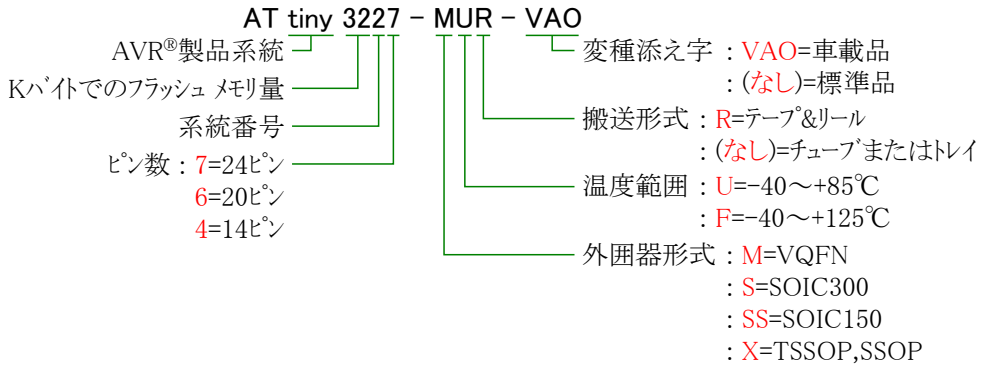
- 代理店または販売会社
- 最寄りの営業所
- 組み込み解決技術者(ESE:Embedded Solutions Engineer)
- 技術支援

お客様は支援に関してこれらの代理店、販売会社、またはESEに連絡を取るべきです。最寄りの営業所もお客様の手助けに利用できます。営業所と位置の一覧はこの資料の後ろに含まれます。

技術支援はwww.microchip.com/supportでのｳｪﾌﾞ ｻｲﾄを通して利用できます。

製品識別ｼｽﾃﾑ

注文する、または例えば、価格や納品の情報を得るには工場または一覧にされた販売代理店にお問い合わせください。



注: ﾃｰﾌﾟとﾘｰﾙの識別子は目録部品番号記述でだけ現れます。注文目的にはこの識別子を使ってください。ﾃｰﾌﾟとﾘｰﾙ任意選択での外囲器入手可能性についてはMicrochip営業所で調べてください。

注: VAO変種は車載応用に対するAEC-Q100要件によって設計、製造、検査、認定されています。これらの製品は非VAO部品と違う外囲器を使うかもしれず、それらの電気的特性で追加仕様を持ちます。

Microchipﾃﾞﾊﾞｲｽ ｺｰﾄﾞ保護機能

Microchip製品での以下のｺｰﾄﾞ保護機能の詳細に注意してください。

- Microchip製品はそれら特定のMicrochipﾃﾞｰﾀｼｰﾄに含まれる仕様に合致します。
- Microchipは動作仕様内で意図した方法と通常条件下で使われる時に、その製品系統が安全であると考えます。
- Microchipはその知的所有権を尊重し、積極的に保護します。Microchip製品のｺｰﾄﾞ保護機能を侵害する試みは固く禁じられ、ﾃﾞｼﾞﾀﾙ ﾐﾚﾆｱﾑ著作権法に違反するかもしれません。
- Microchipや他のどの半導体製造業者もそれのｺｰﾄﾞの安全を保証することはできません。ｺｰﾄﾞ保護は製品が”破ることができない”ことを当社が保証すると言うことを意味しません。ｺｰﾄﾞ保護は常に進化しています。Microchipは当社製品のｺｰﾄﾞ保護機能を継続的に改善することを約束します。

法的通知

この刊行物と契約での情報は設計、試験、応用とのMicrochip製品の統合を含め、Microchip製品でだけ使えます。他の何れの方法でのこの情報の使用はこれらの条件に違反します。ﾃﾞﾊﾞｲｽ応用などに関する情報は皆さまの便宜のためにだけ提供され、更新によって取り換えられるかもしれません。皆さまの応用が皆さまの仕様に合致するのを保証するのは皆さまの責任です。追加支援については最寄りのMicrochip営業所にお問い合わせ頂くか、www.microchip.com/en-us/support/design-help/client-support-services で追加支援を得てください。

この情報はMicrochipによって「現状そのまま」で提供されます。Microchipは非侵害、商品性、特定目的に対する適合性の何れの黙示的保証やその条件、品質、性能に関する保証を含め、明示的にも黙示的にもその情報に関連して書面または表記された書面または黙示の如何なる表明や保証もしません。

如何なる場合においても、Microchipは情報またはその使用に関連するあらゆる種類の間接的、特別的、懲罰的、偶発的または結果的な損失、損害、費用または経費に対して責任を負わないものとします。法律で認められている最大限の範囲で、情報またはその使用に関連する全ての請求に対するMicrochipの全責任は、もしあれば、情報のためにMicrochipへ直接支払った料金を超えないものとします。生命維持や安全応用でのMicrochipﾃﾞﾊﾞｲｽの使用は完全に購入者の危険性で、購入者はそのような使用に起因する全ての損害、請求、訴訟、費用からMicrochipを擁護し、補償し、免責にすることに同意します。他に言及されない限り、Microchipのどの知的財産権下でも暗黙的または違う方法で許認可は譲渡されません。

商標

Microchipの名前とﾛｺﾞ、Mcicrochipﾛｺﾞ、Adaptec、AnyRate、AVR、AVRﾛｺﾞ、AVR Freaks、BesTime、BitCloud、CryptoMemory、CryptoRF、dsPIC、flexPWR、HELDO、IGLOO、JukeBlox、KeeLoq、Kleer、LANCheck、LinkMD、maXStylus、maXTouch、MediaLB、megaAVR、Microsemi、Microsemiﾛｺﾞ、MOST、MOSTﾛｺﾞ、MPLAB、OptoLyzer、PIC、picoPower、PICSTART、PIC32ﾛｺﾞ、PolarFire、Prochip Designer、QTouch、SAM-BA、SenGenuity、SpyNIC、SST、SSTﾛｺﾞ、Super Flash、Symmetricom、SyncServer、Tachyon、TimeSource、tinyAVR、UNI/O、Vectron、XMEGAは米国と他の国に於けるMicrochip Technology Incor poratedの登録商標です。

AgileSwitch、APT、ClockWorks、The Embedded Control Solutions Company、EtherSynch、Flashtec、Hyper Speed Control、Hyper Light Load、IntelliMOS、Libero、motorBench、mTouch、Powermite 3、Precision Edge、ProASIC、ProASIC Plus、ProASIC Plusﾛｺﾞ、Quiet-Wire、SmartFusion、SyncWorld、Temux、TimeCesium、TimeHub、TimePictra、TimeProvider、TrueTime、WinPath、ZLは米国に於けるMicrochip Technology Incorporatedの登録商標です。

Adjacent Key Suppression、AKS、Analog-for-the-Digital Age、Any Capacitor、AnyIn、AnyOut、Augmented Switching、BlueSky、BodyCom、CodeGuard、CryptoAuthentication、CryptoAutomotive、CryptoCompanion、CryptoController、dsPICDEM、dsPICDEM.net、Dynamic Average Matching、DAM、ECAN、Espresso T1S、EtherGREEN、GridTime、IdealBridge、In-Circuit Serial Programming、ICSP、INICnet、Intelligent Paralleling、Inter-Chip Connectivity、JitterBlocker、Knob-on-Display、maxCrypto、maxView、memBrain、Mindi、MiWi、MPASM、MPF、MPLAB Certifiedﾛｺﾞ、MPLIB、MPLINK、MultiTRAK、NetDetach、NVM Express、NVMe、Omniscient Code Generation、PICDEM、PICDEM.net、PICkit、PICtail、PowerSmart、PureSilicon、QMatrix、REAL ICE、Ripple Blocker、RTAX、RTG4、SAM-ICE、Serial Quad I/O、simpleMAP、SimpliPHY、SmartBuffer、SmartHLS、SMART-I.S.、storClad、SQI、SuperSwitcher、SuperSwitcher II、Switchtec、SynchroPHY、Total Endu rance、TSHARC、USBCheck、VariSense、VectorBlox、VeriPHY、ViewSpan、WiperLock、XpressConnect、ZENAは米国と他の国に於けるMicrochip Technology Incorporatedの商標です。

SQTPは米国に於けるMicrochip Technology Incorporatedの役務標章です。

Adaptecﾛｺﾞ、Frequency on Demand、Silicon Storage Technology、Symmcom、Trusted Timeは他の国に於けるMicrochip Technology Inc.の登録商標です。

GestICは他の国に於けるMicrochip Technology Inc.の子会社であるMicrochip Technology Germany II GmbH & Co. KGの登録商標です。

ここで言及した以外の全ての商標はそれら各々の会社の所有物です。

© 2021年、Microchip Technology Incorporatedとその子会社、不許複製

品質管理ｼｽﾃﾑ

Microchipの品質管理ｼｽﾃﾑに関する情報についてはwww.microchip.com/qualityを訪ねてください。

日本語© *HERO* 2024.

本ﾃﾞｰﾀｼｰﾄはMicrochipのATtiny3224/3226/3227英語版ﾃﾞｰﾀｼｰﾄ(DS40002345B-2021年12月)の翻訳日本語版です。日本語では不自然となる重複する形容表現は省略されている場合があります。日本語では難解となる表現は大幅に意訳されている部分もあります。必要に応じて一部加筆されています。頁割の変更により、原本より頁数が少なくなっています。

汎用入出力ﾎﾟｰﾄの出力ﾃﾞｰﾀ ﾚｼﾞｽﾀとﾋﾟﾝ入力は、対応関係からの理解の容易さから出力ﾚｼﾞｽﾀと入力ﾚｼﾞｽﾀで統一表現されています。一部の用語がより適切と思われる名称に変更されています。必要と思われる部分には( )内に英語表記や略称などを残す形で表記しています。

青字の部分はﾘﾝｸとなっています。一般的に赤字の0,1は論理0,1を表します。その他の赤字は重要な部分を表します。

原書に対して若干構成が異なるため、一部の節/項番号が異なります。

世界的な販売とサービス

米国	亜細亜/太平洋	亜細亜/太平洋	欧州
本社 2355 West Chandler Blvd. Chandler, AZ 85224-6199 Tel: 480-792-7200 Fax: 480-792-7277 技術支援: www.microchip.com/support ｳｪﾌﾞ ｱﾄﾞﾚｽ: www.microchip.com **ｱﾄﾗﾝﾀ** Duluth, GA Tel: 678-957-9614 Fax: 678-957-1455 **ｵｰｽﾁﾝ** TX Tel: 512-257-3370 **ﾎﾞｽﾄﾝ** Westborough, MA Tel: 774-760-0087 Fax: 774-760-0088 **ｼｶｺﾞ** Itasca, IL Tel: 630-285-0071 Fax: 630-285-0075 **ﾀﾞﾗｽ** Addison, TX Tel: 972-818-7423 Fax: 972-818-2924 **ﾃﾞﾄﾛｲﾄ** Novi, MI Tel: 248-848-4000 **ﾋｭｰｽﾄﾝ** TX Tel: 281-894-5983 **ｲﾝﾃﾞｱﾅﾎﾟﾘｽ** Noblesville, IN Tel: 317-773-8323 Fax: 317-773-5453 Tel: 317-536-2380 **ﾛｻﾝｾﾞﾙｽ** Mission Viejo, CA Tel: 949-462-9523 Fax: 949-462-9608 Tel: 951-273-7800 **ﾛｰﾘｰ** NC Tel: 919-844-7510 **ﾆｭｰﾖｰｸ** NY Tel: 631-435-6000 **ｻﾝﾎｾ** CA Tel: 408-735-9110 Tel: 408-436-4270 **ｶﾅﾀﾞ - ﾄﾛﾝﾄ** Tel: 905-695-1980 Fax: 905-695-2078	**ｵｰｽﾄﾗﾘｱ - ｼﾄﾞﾆｰ** Tel: 61-2-9868-6733 **中国 - 北京** Tel: 86-10-8569-7000 **中国 - 成都** Tel: 86-28-8665-5511 **中国 - 重慶** Tel: 86-23-8980-9588 **中国 - 東莞** Tel: 86-769-8702-9880 **中国 - 広州** Tel: 86-20-8755-8029 **中国 - 杭州** Tel: 86-571-8792-8115 **中国 - 香港特別行政区** Tel: 852-2943-5100 **中国 - 南京** Tel: 86-25-8473-2460 **中国 - 青島** Tel: 86-532-8502-7355 **中国 - 上海** Tel: 86-21-3326-8000 **中国 - 瀋陽** Tel: 86-24-2334-2829 **中国 - 深圳** Tel: 86-755-8864-2200 **中国 - 蘇州** Tel: 86-186-6233-1526 **中国 - 武漢** Tel: 86-27-5980-5300 **中国 - 西安** Tel: 86-29-8833-7252 **中国 - 厦門** Tel: 86-592-2388138 **中国 - 珠海** Tel: 86-756-3210040	**ｲﾝﾄﾞ - ﾊﾝｶﾞﾛｰﾙ** Tel: 91-80-3090-4444 **ｲﾝﾄﾞ - ﾆｭｰﾃﾞﾘｰ** Tel: 91-11-4160-8631 **ｲﾝﾄﾞ - ﾌﾟﾈｰ** Tel: 91-20-4121-0141 **日本 - 大阪** Tel: 81-6-6152-7160 **日本 - 東京** Tel: 81-3-6880-3770 **韓国 - 大邱** Tel: 82-53-744-4301 **韓国 - ｿｳﾙ** Tel: 82-2-554-7200 **ﾏﾚｰｼｱ - ｸｱﾗﾙﾝﾌﾟｰﾙ** Tel: 60-3-7651-7906 **ﾏﾚｰｼｱ - ﾍﾟﾅﾝ** Tel: 60-4-227-8870 **ﾌｨﾘﾋﾟﾝ - ﾏﾆﾗ** Tel: 63-2-634-9065 **ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ** Tel: 65-6334-8870 **台湾 - 新竹** Tel: 886-3-577-8366 **台湾 - 高雄** Tel: 886-7-213-7830 **台湾 - 台北** Tel: 886-2-2508-8600 **ﾀｲ - ﾊﾞﾝｺｸ** Tel: 66-2-694-1351 **ﾍﾞﾄﾅﾑ - ﾎｰﾁﾐﾝ** Tel: 84-28-5448-2100	**ｵｰｽﾄﾘｱ - ｳﾞｪﾙｽ** Tel: 43-7242-2244-39 Fax: 43-7242-2244-393 **ﾃﾞﾝﾏｰｸ - ｺﾍﾟﾝﾊｰｹﾞﾝ** Tel: 45-4485-5910 Fax: 45-4485-2829 **ﾌｨﾝﾗﾝﾄﾞ - ｴｽﾎﾟｰ** Tel: 358-9-4520-820 **ﾌﾗﾝｽ - ﾊﾟﾘ** Tel: 33-1-69-53-63-20 Fax: 33-1-69-30-90-79 **ﾄﾞｲﾂ - ｶﾞﾙﾋﾝｸﾞ** Tel: 49-8931-9700 **ﾄﾞｲﾂ - ﾊｰﾝ** Tel: 49-2129-3766400 **ﾄﾞｲﾂ - ﾊｲﾙﾌﾞﾛﾝ** Tel: 49-7131-72400 **ﾄﾞｲﾂ - ｶｰﾙｽﾙｰｴ** Tel: 49-721-625370 **ﾄﾞｲﾂ - ﾐｭﾝﾍﾝ** Tel: 49-89-627-144-0 Fax: 49-89-627-144-44 **ﾄﾞｲﾂ - ﾛｰｾﾞﾝﾊｲﾑ** Tel: 49-8031-354-560 **ｲｽﾗｴﾙ - ﾗｰﾅﾅ** Tel: 972-9-744-7705 **ｲﾀﾘｱ - ﾐﾗﾉ** Tel: 39-0331-742611 Fax: 39-0331-466781 **ｲﾀﾘｱ - ﾊﾟﾄﾞﾊﾞ** Tel: 39-049-7625286 **ｵﾗﾝﾀﾞ - ﾃﾞﾙｰﾈﾝ** Tel: 31-416-690399 Fax: 31-416-690340 **ﾉﾙｳｪｰ - ﾄﾛﾝﾊｲﾑ** Tel: 47-72884388 **ﾎﾟｰﾗﾝﾄﾞ - ﾜﾙｼｬﾜ** Tel: 48-22-3325737 **ﾙｰﾏﾆｱ - ﾌﾞｶﾚｽﾄ** Tel: 40-21-407-87-50 **ｽﾍﾟｲﾝ - ﾏﾄﾞﾘｰﾄﾞ** Tel: 34-91-708-08-90 Fax: 34-91-708-08-91 **ｽｳｪｰﾃﾞﾝ - ｲｪｰﾃﾎﾞﾘ** Tel: 46-31-704-60-40 **ｽｳｪｰﾃﾞﾝ - ｽﾄｯｸﾎﾙﾑ** Tel: 46-8-5090-4654 **ｲｷﾞﾘｽ - ｳｫｰｷﾝｶﾞﾑ** Tel: 44-118-921-5800 Fax: 44-118-921-5820